

青森県埋蔵文化財調査報告書第93集

# 売場遺跡発掘調査報告書

(第1次調査、第2次調査)

昭和59年度

青森県教育委員会

## 売場遺跡発掘調査報告書正誤表

### 1・2次

頁	行	誤	正
15	7	滞状	带状
15	20	滞状	带状
20	18	14C	<sup>14</sup> C
20	26	14C	<sup>14</sup> C
139	9		文末に（坂本洋一）を加える
266	14	（7～11・18）	（7～11）
267	2	（20～22）	（18～22）
286	図212	16番の実測図を上下逆にする	
353	24	番号18の分類の項の「Ⅱ」を削除	
514		（磨敲凹石類4）	（石皿類）

### 3・4次

頁	行	誤	正
165	15	表材	素材
166	27	礫石	礫岩
184	表石斧13	砂岩凝灰岩	砂質凝灰岩
308	17	ピットのの	ピットの
345	1	次の表	第97表
345	11	下の表	第98・99表
347	26	（加藤・鶴丸：1980）	（加藤・鶴丸：1980 P.104）
354	14	第 図	第222図
354	16	第 図	第223図
363	第226図	Ⅲ b類ス2分布図	Ⅲ b類ス分布図
366	第106表(2)	角度A	角度A>B
366	第106表(2)	49%	49個
368	4	親指母指球	親指と母指球
368	8	4指	5指
373	7	第 図	第228図
376	36行目の次に 加藤晋平・鶴丸俊 1980『図録石器の基礎知識Ⅱ 先土器(下)』		

青森県埋蔵文化財調査報告書第93集

# 売場遺跡発掘調査報告書

(第1次調査、第2次調査)

昭和59年度

青森県教育委員会





# 序

本報告書は、一般国道45号八戸北バイパスの建設に伴い、路線内に所在する売場遺跡・大タルミ遺跡の記録保存のため、売場遺跡は昭和54年・55年・57年・59年の4次にわたる発掘調査と、大タルミ遺跡は昭和56年の試掘調査及び57年の発掘調査の結果をまとめたものであります。

これらの本調査で、多量の土器、石器とともに、縄文時代や平安時代の集落跡が発見されましたが、特に、売場遺跡から検出された縄文時代の集落跡は、早期から前期にかけて連続的に営まれた遺跡としては東北地方でも初めての例であるなど大きな成果を収めることができました。

本報告書が、今後の埋蔵文化財の保護と研究にいささかでも役立てば幸いと存じます。

ここに、調査の実施及び本報告書の作成に当たって種々御指導、御協力をいただいた調査員をはじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

昭和60年3月

青森県教育委員会

教育長 **本 間 茂 夫**



# 例 言

1. 本報告書は、昭和54・55・56・57・59年度に実施した八戸市大字河原木字見立山に所在する売場遺跡、八戸市大字河原木字大タルミに所在する大タルミ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書は2分冊からなり、前編には昭和54・55年度に実施した売場遺跡第1次、第2次調査分を、後編には昭和57・59年度に実施した売場遺跡第3次、第4次調査分と昭和56・57年後に実施した大タルミ遺跡調査分を掲載した。
3. 執筆者の氏名は、依頼原稿については文頭に、他は文末に記した。
4. 前編の記述ならびに挿図は、原則として次の基準にしたがった。また、後編については別に基準を設けた。
  - (1) 遺構名については、検出順に番号を付した。第1次調査では1桁及び2桁の、また、第2次調査では200番台の番号である。調査時の名称を使用したので欠番もある。
  - (2) 出土遺物には、それぞれ観察表を付し、出土地区、層位、特徴を記した。
  - (3) 挿図縮尺は、原則として次のとおりとした。

住居跡…… $1/60$ 、 $1/80$ 、竪穴、土壇…… $1/20$ 、溝状ピット…… $1/60$

土器実測図…… $1/2.5$ 、 $1/3$ 、土器・土製品拓影図…… $1/2$ 、 $1/2.5$ 、 $1/3$  石器…… $1/1.5$ 、 $1/2$ 、 $1/3$
  - (4) 遺物写真は、原則として次のとおりとした。

土器…… $1/2$ 、 $1/3$  石器…… $1/1.5$ 、 $1/2$ 、 $1/3$  土製品…… $1/2$
5. 縄文原体については『日本先史土器の縄紋』（山内：1979）に依拠した。
6. 石器の石質鑑定については、青森県立八戸高等学校教諭松山力氏に依頼した。
7. 発掘調査及び本報告書作成にあたって、次の機関並びに諸氏から御協力、御教示を得た。

（敬称略、順不同）

八戸市教育委員会、八戸市下長農業協同組合、八戸市市川農業協同組合、岩手県立博物館、財団法人岩手県埋蔵文化財センター、宮城県教育委員会、北海道教育委員会、横須賀市立博物館、盛岡市教育委員会、財団法人福島県文化センター、財団法人いわき市教育文化事業団、財団法人東京都埋蔵文化財センター、秋田県教育委員会、今井富士雄、藤沼邦彦、伊藤玄三、林 謙作、名久井文明、熊谷常正、中村五郎、小井川一夫、馬目順一、原川雄二、山内幹夫、芳賀英一、鈴鹿良一、石岡憲雄、安孫子昭二、館野 孝、工藤利彦、瀬川裕一郎、八木光則、千田和文
8. 注及び引用、参考文献は後編の巻末に一括して付した。





売場遺跡全景



売場遺跡4号住居跡（赤御堂式期）



# 目 次

序	
例 言	
第 章 調 査 概 要 .....	2
第 1 節 調査に至る経過 .....	2
第 2 節 調査要項 .....	2
第 3 節 調査の方法と調査経過 .....	9
(1) 第 1 次、第 2 次調査の方法 .....	9
(2) 第 1 次調査の経過 .....	10
(3) 第 2 次調査の経過 .....	11
第 章 遺 跡 の 概 要 .....	13
第 1 節 遺跡の位置と周辺の遺跡 .....	13
第 2 節 地 形 と 地 質 .....	15
第 3 節 基 本 層 序 .....	23
第 章 縄文時代の遺構と遺物 .....	27
第 1 節 検出遺構と遺構内出土遺物 .....	27
(1) 住居跡と出土遺物 .....	27
(2) 竪穴遺構と出土遺物 .....	124
(3) 集 石 遺 構 .....	134
(4) 焼 土 遺 構 .....	136
第 2 節 遺構外出土遺物 .....	139
(1) 土器の垂直分布 .....	139
(2) 土 器 .....	140
(3) 石 器 .....	258
(4) 有孔土製品と円盤状土製品 .....	374
第 章 平安時代の遺構と出土遺物 .....	377
第 1 節 住居跡と出土遺物 .....	377
第 2 節 土壌と出土遺物 .....	386
第 章 溝状ピットと出土遺物 .....	400
第 章 ま と め .....	441





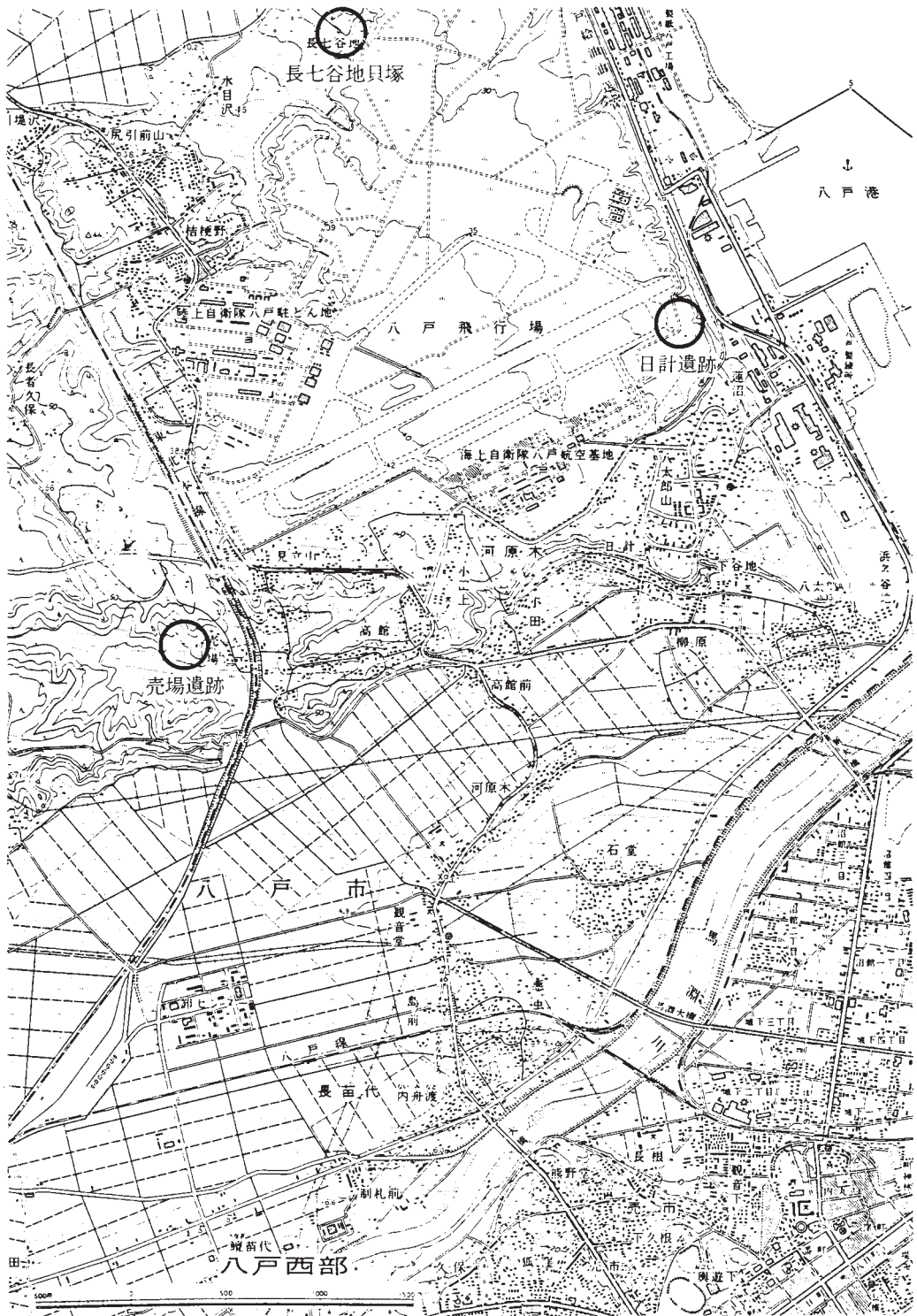


図1 売場遺跡とその周辺の遺跡

# 第 章 調 査 概 要

## 第 1 節 調 査 に 至 る 経 過

八戸北バイパス建設は、国道45号の八戸市高館付近の交通緩和をはかって計画されたもので昭和49年に、建設に先立ち埋蔵文化財の分布調査を実施した。その際、確認された遺跡は、売場遺跡、大クルマ遺跡、和野前山遺跡である。

売場遺跡は、3遺跡のうち、最も八戸市街地寄りに所在し、縄文時代の早期の遺跡と推定されているものである。

売場遺跡の発掘調査については、建設省青森工事事務所と当教育委員会が協議の結果、路線予定地内の一部3,000㎡を最初に実施することになり、昭和53年10月に発掘調査計画が確定、昭和54年3月、青森工事事務所長から正式に調査依頼があり、昭和54年6月14日から同年10月31日までおよそ5か月間にわたる発掘調査（第1次調査）を開始した。

翌55年度には、54年の調査区域の北側隣接部分1,000㎡を調査（第2次調査）その後、委託者側の用地買収等の事情により昭和57年度に、更に北側部分7,000㎡の調査（第3次調査）を実施した。

昭和59年度に、付替道路部分552㎡の調査（第4次調査）を実施し、売場遺跡の発掘調査を完了、調査報告書は、第1次～第4次を一括し刊行することになった。

## 第 2 節 調 査 要 項

### 1. 第 1 次 発 掘 調 査 要 項

#### (1) 調 査 目 的

一般国道45号八戸北バイパス建設に伴い、一部消滅のおそれのある売場遺跡を発掘調査し、埋蔵文化財の記録保存を図るとともにその活用に資する。

#### (2) 調 査 期 間

昭和54年6月14日から昭和54年10月31日まで

#### (3) 遺 跡 名 及 び 所 在 地

売場遺跡 八戸市大字河原木字見立山6番56号外

#### (4) 調 査 面 積

3,000㎡

(5) 調査依頼者

建設省東北地方建設局青森工事事務所

(6) 調査受託者

青森県教育委員会

(7) 調査担当者

青森県教育庁文化課

(8) 調査協力機関

八戸市教育委員会、三八教育事務所

(9) 調査参加者

ア. 調査協力員

吉田 月二郎	八戸市教育委員会教育長
小井田 幸哉	青森県文化財保護審議会委員
栗村 知弘	八戸市教育委員会社会教育課文化係長

イ. 調査指導員

今井 富士雄	青森県文化財保護審議会委員
村越 潔	弘前大学教育学部教授 青森県文化財保護審議会委員

ウ. 調査員

松山 力	青森県立八戸高等学校教諭
橋本 正信	青森県立三戸高等学校教諭
新戸部 隆	青森県立八戸高等学校教諭
中田 隆也	八戸市立湊中学校教諭

エ. 調査補助員

内海 和男
松川 静児
須藤 節子
佐藤 玲子

オ. 文化課

文化課長	若松 澄夫
副参事	北山 峰一郎 (昭和59年3月31日退職)
課長補佐	岩崎 雄幸 (現・青森県自治研修所総務課長)
総括主幹兼 庶務班長	小平 善一

埋蔵文化財  
第二班長 山 田 洋 一 (現・青森県埋蔵文化財調査センター調査第二  
課長)

主 事 三 浦 圭 介 (現・青森県埋蔵文化財調査センター主査)

" 大 湯 卓 二 (現・青森県立郷土館研究員)

臨時職員 高 坂 一 夫 (昭和57年3月30日退職)

## 2. 第2次発掘調査要項

### (1) 調査期間

昭和55年5月6日から昭和55年7月5日まで

### (2) 遺跡名及び所在地

売場遺跡 八戸市大字河原木字見立山6番55号外

### (3) 調査面積

1,000m<sup>2</sup>

### (4) 調査依頼者

建設省東北地方建設局青森工事事務所

### (5) 調査受託者

青森県教育委員会

### (6) 調査担当者

青森県教育庁文化課

### (7) 調査協力機関

八戸市教育委員会、三八教育事務所

### (8) 調査参加者

#### ア. 調査協力員

吉 田 月 二 郎 八戸市教育委員会教育長  
(昭和56年10月10日退職)

小井田 幸 哉 青森県文化財保護審議会委員

栗 村 知 弘 八戸市教育委員会社会教育課文化係長  
(現・八戸市博物館副館長)

#### イ. 調査指導員

今 井 富 士 雄 青森県文化財保護審議会委員  
(昭和57年3月11日退職)

村 越 潔 弘前大学教育学部教授  
青森県文化財保護審議会委員

ウ. 調 査 員

松 山 力 青森県立八戸高等学校教諭  
新戸部 隆 ”

(昭和58年10月4日退職)

エ. 調 査 補 助 員

松 川 静 児  
竹 花 勉  
五十嵐 敬 昌  
金 今 宗 子  
内 山 文 子

オ. 文 化 課

文化課長 若 松 澄 夫 (現・文部省体育局学校給食課課長補佐)  
課長補佐 佐 藤 昭 栄 (現・青森県立郷土館総務課長)  
総括主幹兼  
庶務班長 小 平 善 一 (現・青森県教育庁総務課副参事)  
埋蔵文化財班  
班 長 山 道 紀 郎 (現・青森県教育庁文化課総括主幹兼文化班長)  
主 査 天 間 勝 也 (現・主任主査)  
” 成 田 誠 治 (現・青森県埋蔵文化財調査センター主任主査)  
主 事 坂 本 洋 一 (現・青森県埋蔵文化財調査センター主事)

3. 第3次発掘調査要項

(1) 調 査 期 間

昭和57年4月19日から昭和57年10月30日まで

(2) 遺跡名及び所在地

売場遺跡 八戸市大字河原木字簀子渡地内

(3) 調 査 面 積

7,000m<sup>2</sup>

(4) 調 査 依 頼 者

建設省東北地方建設局青森工事事務所

(5) 調 査 受 託 者

青森県教育委員会

(6) 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

(7) 調査協力機関

八戸市教育委員会、三八教育事務所

(8) 調査参加者

ア. 調査協力員

岩谷 喜代美 八戸市教育委員会教育長

イ. 調査指導員

小井田 幸哉 青森県文化財保護審議会委員

村越 潔 弘前大学教育学部教授  
青森県文化財保護審議会委員

ウ. 調査員

三辻 利一 奈良教育大学教授

木村 克彦 八戸工業大学講師

滝沢 幸長 私立光星学院高等学校教諭

松山 力 青森県立八戸高等学校教諭

橋本 正信 青森県立三戸高等学校教諭

中田 隆也 八戸市立湊中学校教諭

エ. 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 工藤 泰典

次長 古井 睦夫 (現・公立学校共済組合浅虫保養所帰帆荘支配人)

総務課長 森内 四郎 (現・青森県立五所川原東高等学校事務長)

調査第二課長 山田 洋一

主査 三宅 徹也

主事 白鳥 文雄

調査補助員 中嶋 久彰

” 千葉 正人

” 鳴海 亘

” 佐藤 ゆかり

” 竹内 葉子

#### 4. 第4次発掘調査要項

(1) 調査期間

昭和59年4月16日から昭和59年5月15日まで

(2) 遺跡名及び所在地

売場遺跡 八戸市大字河原木字簀子渡地内

(3) 調査面積

552m<sup>2</sup>

(4) 調査依頼者

建設省東北地方建設局青森工事事務所

(5) 調査受託者

青森県教育委員会

(6) 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

(7) 調査協力機関

八戸市教育委員会、三八教育事務所

(8) 調査参加者

ア. 調査協力員

岩谷 喜代美 八戸市教育委員会教育長

イ. 調査指導員

小井田 幸哉 青森県文化財保護審議会委員

村越 潔 弘前大学教育学部教授  
青森県文化財保護審議会委員

ウ. 調査員

木村 克彦 八戸工業大学助教授

滝沢 幸長 八戸市文化財審議委員会委員

松山 力 青森県立八戸高等学校教諭

橋本 正信 青森県立八戸南高等学校教諭

中田 隆也 八戸市立根城中学校教諭

エ. 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 工藤 泰典

次 長 須藤 昭二

総務課長 館浦 善清

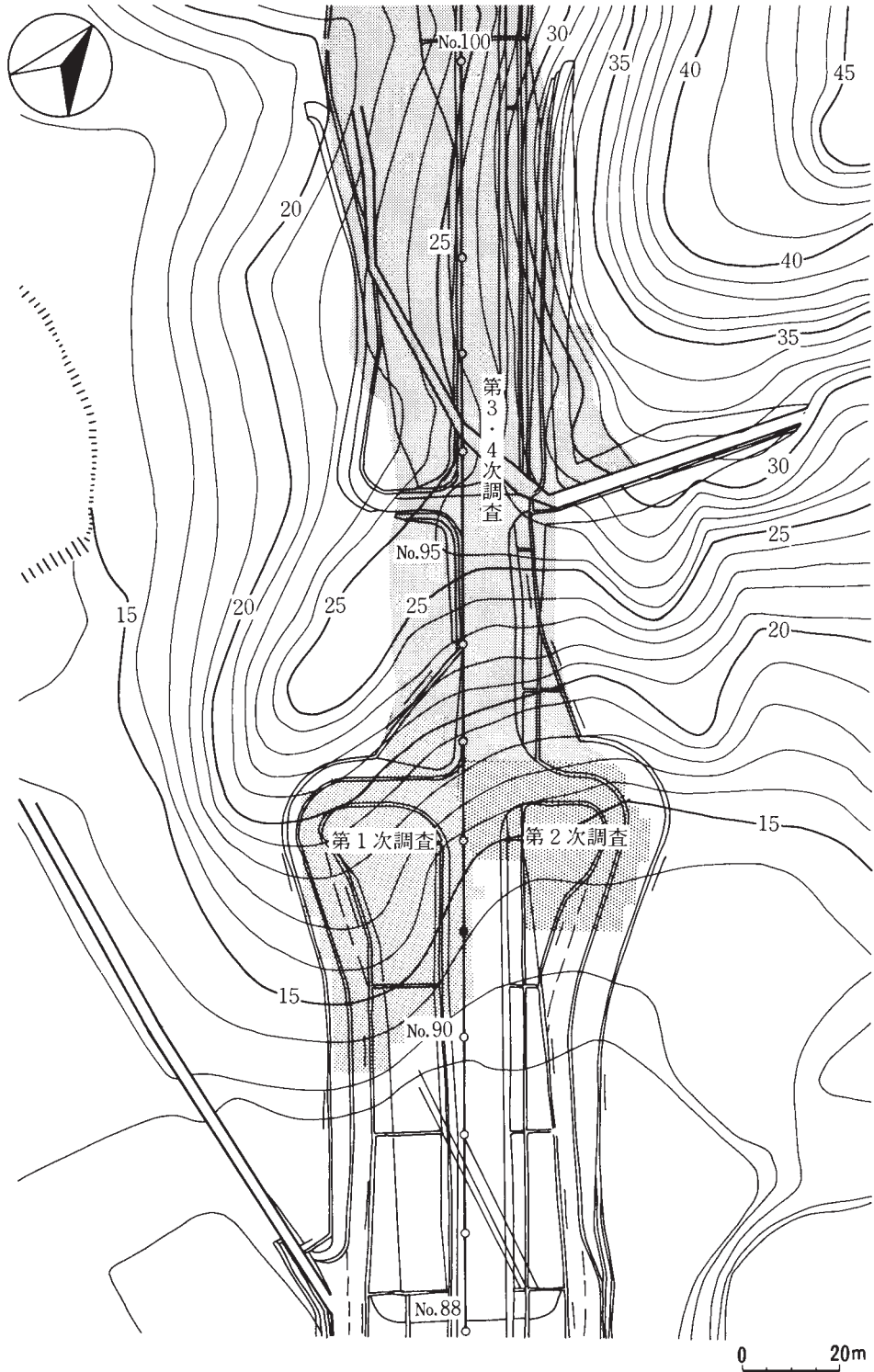


図2 売場遺跡の調査範囲と地形



調査第二課長	山田洋一
主査	三宅徹也
主事	工藤大
調査補助員	佐藤隆司
”	福井一也
”	江戸康一
”	落合るみ子
”	高田登規子

### 第3節 調査の方法と調査経過

#### (1) 第1次、第2次調査の方法

##### 〔調査区の設定と粗掘〕

本遺跡の調査予定範囲は、路線中心杭 90から 103までの全長約250m、路線幅の平均約20mである。遺跡が立地する台地には起伏があるものの、予定路線がほぼ直線的であることから、中心杭 91と同 93を結ぶ線（東西線）と、92でこれと直交する線（南北線）をそれぞれ基軸とした。この軸線を基準にし、3 m単位の各グリッドを設定した。原点は中心杭 92である。

各軸線の呼称は原点をE A - 20とし、これを基点に南方向にD T・D S・D R・D Q……、北方向にE B・E C・E D・E E……、東方に20・19・18……、西方に21・22・23……とした。

また各グリッドの呼称は南東の交点名を用い「E A - 20区」等とした。

本遺跡はこれまで試掘調査が行われたことがないため、土層の状態や遺構の有無等について確認されていない。したがって、遺構の存在が最も予想される舌状台地の平坦面から粗掘りに入った。この際、地形の傾斜に沿って、5グリッドを1単位のトレンチとして表土及び 層・層の無遺物層まで一括して粗掘りするとともに、遺物、遺構の包含状態を確認しながら作業を進めた。この作業中に出土した遺物については、グリッド単位で一括して採取した。

また、不鮮明ながらも落ち込みが確認されたり、遺物の集中する地点については極力土層観察用のベルトを残すように努めた。

その結果、第1次調査ではD J～E O - 9～27までのグリッドを、また、第2次調査では第1次調査で掘り残したD T～E B - 20～27を粗掘りした。

##### 〔遺構の検出と呼称〕

遺構の掘り上げは、住居跡及びやや大型の土壌については4分法、小型の土壌及び溝状ピツ

トについては2分法を原則とした。しかし、地山との判別が困難な場合や、遺構の重複がある場合には、必要に応じて随時土層観察用のベルトを設けて掘り進めた。また、この方法はDR～EA-14～24区に広がる遺物包含層（捨場）の精査にも準用した。

遺構内の出土遺物は、各層単位に平面図（一部分布図）を作成し取り上げたが、出土層位が不明瞭なものは「堆積土内一括」とした。各遺構の呼称については、落ち込みを確認した時点で、確認順に番号を付した。しかし、精査途中で名称と異なる性格のものや、遺構とならないことが判明した時点で、遺構の名称を変更した。

また、遺構番号については第1次調査のものは1桁及び2桁、第2次調査のものは3桁台とした。

### 【記 録】

遺構の実測図を作成するにあたっては遣り方測量を基本とした。住居跡・土壌・溝状ピットの平面図及び断面図はともに縮尺 $1/20$ を原則としたが、微細図を必要とする場合等では $1/10$ 、 $1/5$ の縮尺で作図したものもある。

遺物の平面分布図は、各遺構内、遺構外を問わず $1/20$ の縮尺とした。同時に出土層位と標高も台帳に記入した。

写真撮影は小型カメラによって必要に応じ随時行った。この際、同一アングルでモノクローム、カラーリバーサルの両者を用いた。

#### (2) 第1次の調査経過（昭和54年度）

6月12日に、調査用器材を現地に運搬し、プレハブ・仮設トイレを建設した。

6月13日には、八戸市下長農業協同組合の会議室において、関係各機関、調査指導員、調査員、文化課職員による発掘調査打合せ会議を開催し、調査にあたっての留意点や調査方法等について検討した。

6月14日には、発掘調査作業員に対し調査の日程と作業中の留意事項を説明し、その後、遺跡調査のための環境整備作業を行った。この作業には約2日を費やした。

この間、調査員及び調査補助員はグリッド設定を行った。

これらの作業の後、遺物包含層の位置や範囲を把握するために5グリッドを1単位としたトレンチを随所に設け、その結果、調査予定地のほぼ全域に物見台式・ムシリ式・赤御堂式・早稲田5類・長七谷地 群土器等が分布することを確認した。

7月中旬には舌状台地上で、平安時代の竪穴住居跡とそれに付随する土壌が検出された。

7月下旬には、平安時代の各遺構の精査に入った。また、この作業の過程でその周辺の平坦面から赤御堂式・早稲田5類・長七谷地 群期の各住居跡が確認され始めた。

縄文時代早期から前期初頭にかけてのこれらの住居跡の精査は、竪穴内堆積土が地山の層

と酷似する色調であること、また、遺構の重複が激しいなどで困難を極めた。

この間、8月上旬には当遺跡において青森県内の小・中・高校の教職員や、市町村の文化財担当職員を対象にした発掘技術者講習会が開催された。

9月上旬には舌状台地の北斜面（DR～EA-13～24区）に、ムシリ式期・赤御堂式期・長七谷地群期の土器・石器を多量に含む遺物包含層（捨場）が形成されていることが明らかになった。

この包含層の処理には、約2か月間を費やした。

この間、調査区域内の随所で溝状ピットが検出された。この溝状ピットの大多数は層（中掘浮石層）の上層からの切り込みで、一部は平安時代以後のものであることも確認できた。

調査も後半に入った10月上旬には、明年度の第2次調査の予定地である調査区EF～EN-15～27の各グリッドの粗掘り作業と遺構確認作業を行った。

10月末日には危険防止のため、溝状ピットを埋め戻し、更に、第2次調査で精査する予定の各遺構をシートで覆って、第1次調査の全作業を終了した。（三浦 圭介）

### （3）第2次調査の経過（昭和55年度）

第2次調査は、EA～EFラインの区域と、第1次調査の際掘り下げの途中で、残りの調査は翌年度に継続することになったEFライン以北の区域が調査対象地区であった。そこで、EF以北の精査を、EA～EFの粗掘りと並行することにした。

5月6日～9日 第1次調査で、縄文時代の遺物包含層まで掘り下げたEF以北の遺物の取り上げから調査が始まった。縄文時代早期の土器（赤御堂式・ムシリ式）・石器がほぼ全面に散在していた。遺物取り上げ後、更に、縄文時代の住居跡と思われる円形の落ち込みや、幅20cm、長さ2m位の溝状の落ち込み10数基及び焼土などを確認した。EA～EF地区の粗掘りは地表下約20cmまで掘り下げ、表土から土師器片が出土したが、縄文土器の包含層までは達しなかった。

5月10日 EA～EF地区の粗掘り（層・表土）が終了した。EF以北では赤御堂式とムシリ式の土器片が同一レベルで散在していた。また、遺物の出土状態及びEA-20のセクション写真を撮影した。

5月12日～13日 EA-EF地区層以下の粗掘りや、EF以北の遺物取り上げを続行した。EL-23及びEH-26グリッドの層下部で遺物がまとまって出土したが、住居跡の可能性があったので遺物は取り上げなかった。後に住居跡と確認し、これを201、202号住居跡とした。

5月14日～17日 201、202号住居跡の精査を行い、遺物を取り上げた後、床面や北側の壁面を確認した。

5月19日～24日 住居跡の覆土セクションの注記をした後、平面図を作成。また、202号住

居跡の南側に203号住居跡を確認し、直ちに精査を行った。

5月26日～31日 203号住居跡の西側、E H - 25グリッドで204号住居跡を確認し、更に西側に205号住居跡を確認、これらを精査した。205号住居跡東側の壁は斜面下方のため残っていないが、他の壁は比較的よく残っていた。また、柱穴が壁沿いに等間隔で検出された。

6月2日～7日 E A～E F間の粗掘りが層まで達し、斜面の上方で遺物が多く出土した。また、住居跡以外の遺構精査も順調に進行した。

6月9日～14日 206号住居跡を確認し精査した。また、202号竪穴、206号焼土の図面作成及び写真撮影を行った。

6月16日～21日 E A～E F間で4回目の遺物取り上げを行ったが、これまでと比較して縄文系の土器は少なくなり、沈線文系土器が多く出土するようになった。E C - 25グリッドで焼土を確認し、また、土器が密集したところがあり、落ち込みもみられた。

6月23日～30日 E A～E F間で5回目の遺物取り上げと竪穴遺構の精査及び写真撮影を行った。当遺跡は東南に傾斜し、更に小沢があるため降雨のたびに遺構が水浸しになり、排水に相当の時間を要した。

6月30日～7月8日 207～209号住居跡の精査。写真撮影とE B - 25～E B - 27グリッドのセクション実測、写真撮影及び残っていた溝状ピット・竪穴遺構等の精査を行い、全調査を終了した。  
(天間 勝也)

# 第 章 遺 跡 の 概 要

## 第 1 節 遺跡の位置と周辺の遺跡

売場遺跡は、高館段丘東側突端部の標高15～22mの緩斜面上に立地する。この位置は、太平洋の現汀線（八戸港）から約5km内陸部に入った地点である。眼下は馬淵川によって形成された沖積平野で、標高は12mである。したがって、遺跡を構成する台地の高位面とは比高差が約10mである。

本遺跡の周辺には、図1に示したように縄文時代早期～前期初頭の遺跡が多い。なかでも日計遺跡、長七谷地貝塚、赤御堂遺跡、白浜遺跡、小船渡平遺跡は東北地方北部の土器型式の標式遺跡として知られている。これらの標式遺跡は本遺跡出土の土器群とも密接な関連を有するのでそれぞれを概観し、各遺跡の一覧を付しておく。

日計遺跡は縄文時代早期初頭の日計式押型文土器の標式遺跡で、本遺跡の東方2.5kmの地点に位置する。

長七谷地貝塚は本遺跡の北方3.5kmに位置し、江坂輝弥氏による調査（昭和33年）以後、青森県教育委員会（昭和52年、53年）、八戸市教育委員会（昭和55年、56年）による発掘調査、試掘調査が数度にわたり行われた。この結果、縄文時代早期後半から同前期初頭の各土器期を主体とする貝塚を伴う大規模な集落遺跡であることが確認された。特に、各型式期で地点を異にする貝塚や集落が検出されたこともさることながら、売場遺跡にも直接関係する長七谷地群土器（青森県教委：1980）長七谷地群土器（八戸市教委：1982）の提示は、早期末葉から前期初頭にかけての土器編年上、大きな成果であった。長七谷地貝塚は、昭和56年、国史跡に指定された。

赤御堂貝塚は、本遺跡の北北東約10kmに位置する。昭和30年、同31年の調査で当時としてはほとんど類例のない縄文早期の住居跡が検出され、同遺跡から出土した内外面とも縄文、あるいは内面条痕、外面縄文の尖底土器に「赤御堂式」の型式名が付された。

白浜遺跡、小船渡平遺跡は、本遺跡から約6km東方の太平洋岸に位置する。沈線貝殻文土器群を代表する白浜式、小船渡平式の各標式遺跡ではあるが、実体は未だ不明な部分が多い。

（三浦 圭介）

売場遺跡周辺の縄文時代早期の主な遺跡

遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	主な土器型式	文献名
日計遺跡	03027	八戸市河原木日計	包含地	日計式	「八戸市日計遺跡調査報告」笹津備洋（三田史学第33巻第1号）
長七谷地貝塚	03028	八戸市市川町字長七谷地	貝塚 集落	赤御堂式 長七谷地Ⅲ群	「長七谷地貝塚」県埋蔵文化財調査報告書第57集 「長七谷地遺跡発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集
赤御堂貝塚	03023	八戸市十日市字赤御堂	貝塚	赤御堂式	「三戸郡大館村十日市赤御堂貝塚調査略報」江坂輝弥（奥南史苑第2号）県文化財保護協会八戸市部発行
白浜遺跡	03006	八戸市鮫町字姥懐	散布地	白浜式	「各地域の縄文土器—東北」江坂輝弥（日本考古学考座3）
小船渡平遺跡	03010	八戸市鮫町字先祖ヶ久保	散布地	小船渡式	
和野前山遺跡	03055	八戸市市川町字和野前山16	集落	早稲田5類	「和野前山遺跡」県埋蔵文化財調査報告書第82集

## 第2節 地形と地質

松山 力

### 1. 周辺地域の地形と遺跡の立地

青森県東部の上北地方南部を東へ流れて太平洋に達する奥入瀬川（相坂川）と、岩手県境を越え北東方へ下って太平洋に注ぐ馬淵川の下流とはさまれた地域は、おもに、脊梁山脈の東側斜面に続く丘陵・段丘群で占められている。丘陵・段丘群は、東北東～北東方へ流れる諸河川によっていくつかに分断され、いずれも東北東～北東方へ、高度をすだいに減じながら、並行して滞状にのびている。

売場遺跡は、これら丘陵・段丘群のうち、五戸川と浅水川の間を東北東方にのびる、幅4km前後の丘陵・段丘群（これを天狗岱・高館台地と呼ぶことにする）の南側、その東端から西方へ3.5kmの付近に位置している。

五戸川と浅水川の間で丘陵・段丘群、つまり天狗岱・高館台地は、高位より低位へ、順に、天狗岱段丘・高館段丘・長七谷地段丘の3段に分けられる。（表1）それぞれの平坦面の最低海拔高度は、天狗岱段丘高位面（白銀平段丘面）が約80m、天狗岱段丘低位面（野場段丘面）が約60m、高館段丘面が約25m、長七谷地段丘面が約15mである。これらの段丘は、五戸町東部以東で平坦面がよく保存され、なかでも本遺跡のすぐ東を走る東北本線以東の高館段丘面は、ごくゆるやかにほぼ北方へ傾斜しているものの、平坦面はきわめてよく保存されている。

図3は、遺跡周辺地域の地形区分図である。段丘分布の特徴は、図でも明らかなように、より東により低位の段丘が分布するとともに、その北側はより高位の段丘の北東縁を鍵型に巻いて西南西方にのび、より北側により低位の段丘が、段丘群のつくる台地ののびる方向（西南西～東北東）に並行して滞状に連続することである。

天狗岱・高館台地の南東～東方には、階上岳北麓から北々西にのびる丘陵・段丘群（蒼前平台と呼ぶことにする）が、新井田川と太平洋岸にはさまれて鼻を突き出し、南方には馬淵川

表1 青森県南東部の段丘と被覆火山灰層下限

区 分 (中川 久夫:1961)		八 戸 付 近	被覆火山灰層下限
沖 積 地	I 平 野	海岸平野・河岸平野	
洪 積 段 丘	II 低 位 段 丘	田 面 木 段 丘	八 戸 火 山 灰 層
		長七谷地段丘(仮称)	高館火山灰層上部
		根 城 段 丘	高館火山灰層上・中部
	III 中 位 段 丘	高 館 段 丘	高館火山灰層下部
	IV 高 位 段 丘	天 狗 岱 段 丘	天 狗 岱 火 山 灰 層
V 最 高 位 段 丘	九 戸 段 丘		







前述のように、天狗岱・高館台地の東端（八太郎）から西方へ、約3.5km離れた売場遺跡は、西南西方から東北東にのびる天狗岱・高館台地の南縁（長苗代低地帯の北縁）へ向かって、台地を、西方から斜めに切り裂くように削って下る小谷の北側斜面にある。この小谷は、遺跡の西方約2kmの天狗岱（旧砂鉄鉱山）付近に谷頭をもち、遺跡の南東部の南で南東方に曲り、車北東から高館段丘を削って下る2つのごく小規模な谷を合わせて、遺跡の南東方600m余りのところで長苗代低地帯に出るが、遺跡の南での谷底低地の幅は約200mあり、小谷のわりには広い。小谷の出口には沼沢地が残っている。小谷と、天狗岱の南々東方の田端付近を通過して北東～東北東に続く長苗代低地帯北緯線との間は、小谷で切られた天狗岱・高館台地の一部が、西から東へ高度をおとしながら、小谷の出口に突き出す半島状のゆるやかに起伏する丘陵状地で、南側はおおむね急斜面、北側がやや緩い斜面となっており、おもに最大標高70m程度の天狗岱段丘に属するが、遺跡南方の東端部は高館段丘に相当する。

天狗岱から遺跡のすぐ南へ続く、前述の小谷の北側は、平坦面のよく残された天狗岱段丘と高館段丘が主体である。両段丘の境界は、遺跡のすぐ西から北々西方へ続き、2kmほどのところから急に西南西方へ屈曲して古場蔵の南部へ達し、さらに西南西方へ続いている。遺跡付近から北々西方へ続くこの境界線とその延長方向より西側では、両段丘面ともにゆるやかに北々西方に傾斜し、高館段丘の北縁に低位の長七谷地段丘が付随して市川低地帯に接している。天狗岱・高館両段丘の境界部における標高差は10m前後であるが、段丘崖に相当する部分の傾斜は比較的緩やかである。この境界線及びその北々西への延長方向と、古場蔵の西側をほぼ北

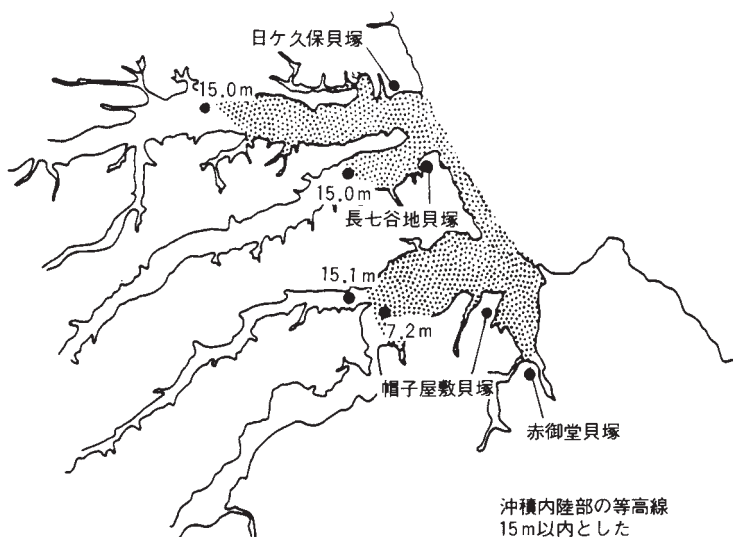


図4 縄文海進時の海域と貝塚

方へ市川低地帯に向け下る谷の間には、遺跡の西北西方 1 km 付近に谷頭をもつ、比較的 shallow な小谷が北々西にのびて 2 km ほどで市川低地帯に達している。この境界線及びその延長方向と、遺跡の東で屈曲してむついちかわ駅へ向かう東北本線との間の、南端部に遺跡をのせる幅 500 ~ 800m の帯状の地域は大部分が高館段丘であるが、南半部が丘陵状にゆるやかに起伏するのに対し、北半部は平坦面がよく残され、北端部は和野前山遺跡をのせる長七谷地段丘へ推移して、市川低地帯に接している。むついちかわ駅までの東北本線は、遺跡の北方に谷頭をもって高館段丘を刻みこみ、北々西方へ下る 2.5km 程度の谷の谷底部を通っている。

東北本線の東側の高館段丘は、平坦面がよく残されていて、全体としてはゆるやかに北方に傾斜し、北縁には、東北本線の西側と同様、長七谷地段丘が付随し、その一部に長七谷地貝塚が所を占めている。遺跡の東に東北本線をへだてて接する高館の南側から、台地末端部の八太郎までの高館段丘の段丘崖は 25 ~ 40m の急崖で、八太郎から太平洋岸にそって北々西に、直線的に続く段丘崖も同様の明瞭な急崖となっている。また、東北本線の西側でも台地の南縁は急崖となっているところが大部分で、縄文海進時には、これら一連の崖線まで海水が入りこみ、縄文人の絶好の漁労場を提供していたに違いない。

## 2 . 周辺地域の地質

八戸付近には、表 2 に示したような地層群・火成岩類が分布する。

本遺跡周辺地域には、そのうち、鮮新世の斗川層（鎮西、1958）相当層、洪積世の段丘堆積物、洪積世から沖積世にかけての火山灰層群、及び沖積地堆積物が分布している。

斗川層相当層は、本遺跡をその南側にのせる天狗岱・高館台地南縁にあたる浅水川沿いの豊崎地区から正法寺・笹ノ沢付近にかけての段丘崖と、遺跡のすぐ東方を北々西方に走る東北本線に沿う谷の谷壁や鉄道・宅地造成地などの切り割りに、断続して露出している。斗川層相当層は、第 3 紀（6500 万 ~ 180 万年前）鮮新世（500 万 ~ 180 万年前）の中頃に形成された浅海性の地層とみなされている。

天狗岱段丘には、斗川層相当層の上に不整合に、層厚数 m 以上の砂礫層と砂鉄質砂層がのっていて天狗岱砂礫層と呼ばれる。この中の砂鉄質砂層は、近年まで本遺跡の南方およそ 2 km 付近を中心に、東北砂鉄鋼業 K.K. 天狗岱鋳業所の手によってさかんに採掘（露天掘）されたが、現在は放置され、平坦な天狗岱段丘面中に、クレーター状の沼地として残されている。天狗岱砂礫層の上には、整合的に天狗岱火山灰層・高館火山灰層・八戸火山灰層などの褐色火山灰、いわゆるロームを主とする陸成の火山碎屑物層がのっている。

天狗岱火山灰層は、天狗岱付近でその厚さ約 4 m、暗赤褐色のしまった粘土質火山灰を主とし、3 ~ 4 層の粘土化した浮石層をはさんでいる。

表2 地質層序表

地質年代		層	序	
第四紀	沖積世	— 苫小牧火山灰層 —	沖積低地——泥・砂・礫など 台地部—— { 黒色土 { 火山灰 (浮石)	
		— 十和田 a 降下火山灰層 —		
		— 十和田 b 降下火山灰層 —		
		— 中 振 浮 石 層 —		
		— 南 部 浮 石 層 —		
	洪積世	— 二ノ倉火山灰層 —	火山灰・浮石・浮石流凝灰岩	
		( 田 面 木 段 丘 )		
		高 館 火 山 灰 層		粘土質褐色火山灰 (ローム)・浮石・浮石流 凝灰岩・浮石質凝灰岩
		長七谷地段丘堆積物		
		根城段丘堆積物		
高館段丘堆積物	河成礫 シルト・砂・砂礫			
鮮新世	天狗岱火山灰層	粘土質褐色火山灰 (ローム)・浮石 砂鉄質砂・砂礫		
	天狗岱段丘堆積物			
	斗川層相当層		シルト岩・砂岩・凝灰岩・礫岩	
第三紀	中新世	名久井岳安山岩類相当層	凝灰岩類・安山岩 シルト岩 (頁岩)・砂岩・礫岩	
	先第三紀	先 第 三 系	チャート・石灰岩・粘板岩・砂岩 輝緑凝灰岩・玢岩・花崗閃緑岩	

高館火山灰層は、厚さ 7 ~ 10m (八戸付近)、明褐色 ~ 黄褐色の粘土質火山灰を主とし、10 層余りの、それぞれ異なる層相をもつ、層厚数 ~ 数十cmの粘土化した浮石層と火山砂層あるいはスコリア層をはさんでいる。

高館段丘には、斗川層相当層の上に不整合に、層厚 5 ~ 10mの高館段丘特有の段丘堆積物 (高館砂礫層) がのっている。高館段丘堆積物は、礫質粗粒砂層や中礫を主とする砂礫層などで構成され、斜交葉理がよく発達している。なお、ところによっては塊状の中粒砂層となっている。これら段丘堆積物の上には一見整合的に高館火山灰層がのっている。

長七谷地段丘では、斗川層相当層の上に不整合に、礫層・凝灰岩層・砂泥層などの水成堆積物がのっているが、その厚さは少なくとも 5 m以上と推定される。その上には、高館火山灰層上部と、それより新しい八戸火山灰層などがのっている。

沖積地を除くすべての地形面を覆って分布する八戸火山灰層は、八戸付近で厚さ 2 m前後、西方に厚さを増し、南と北に薄くなる。下部は未風化部分で灰白色、風化部で明黄褐色 ~ 淡褐色の、粘土質または砂質の浮石質火山灰層と、固い粒径数mm ~ 数cmの固い浮石がくずれやすい状態で密集する浮石層との互層で、大池らはこれら各層を、下から ~ 層に分け区別している (1970) (表 3)。上部は褐色火山灰 (ローム) 層で、ふつう 20 ~ 50cm、ところによって 80cm

cm程度の厚さである。八戸火山灰層のうち下部の互層部分は、八戸降下浮石層または八戸浮石層と呼ばれ、いくつかの14C法による年代測定値からみて、およそ13000年前（旧石器時代末葉）頃に降下したものと考えられる。

八戸火山灰層上部の褐色火山灰層は、地表にむけてしだいに腐植土化し黒色土類に漸移する。八戸付近における黒色土層の厚さはふつつう数十cmであるが、ところによって2mをこすところもある。黒色土中には、下から南部浮石層・中撤浮石層・十和田b降下火山灰層・十和田a降下火山灰層などの火山噴出物がはさまれる。このうち、売場遺跡周辺地域には南部浮石層は分布していない。

中撤浮石層（大池ら・1966）は、アワズナと呼ばれ、上北地方から岩手県北部一帯の脊梁山脈より東側の地域に広く分布し、十和田湖直近地域を除けば、細礫・粗粒砂もしくは中粒砂程度の浮石粒が密集した、黄色～黄橙色の浮石砂層である。層厚は、十和田湖直近地域を除いて10～50cm程度で、東方で薄くなり、またちぎれて塊状に黒色土中に断続するようになる。中撤浮石層の降下年代については、最近まで14C年代測定値などから縄文時代中期後半と考えられてきたが、ここ数年における岩手県北以北各地の遺跡発掘調査結果から、縄文時代前期後半のある時期（円筒下層d式土器の時期かそれより少し前）と考えるのが妥当のようである。

十和田b降下火山灰層は、新郷村二ノ倉ダム付近では上下2層で構成され、下部は厚さ数cmの灰白色浮石層、上部は厚さ10cm余りのよくしまった青灰色砂質火山灰層（通称青バン）である。このうち、砂質火山灰層は、十和田湖中ノ湖付近を西限とし20km以内に分布が限られる。灰白色浮石層は、十和田湖に近いほど連続的に、離れたところほど断片的に分布する。十和田b降下火山灰層の直下に、縄文時代晩期のすべての型式の土器が存在する遺跡がいくつか発見され、14C法による年代測定では2000年前頃の値を示す例が多く、上位の腐植土の特徴や十和田a降下火山灰層の関係などからみて、続縄文時代（弥生時代）初頭頃に降下したもののようである。

十和田a降下火山灰層は、新郷村二ノ倉ダム付近で10cm程度の厚さの灰白色～淡灰黄色の細粒火山灰で、十和田湖より離れるにつれ薄くなり、またシルト～粘土質となる。大池昭二氏、あるいは町田洋氏らの研究（文献名は紙数の都合で略）また最近までの各地の調査結果から、十和田a降下火山灰層は、平安時代中期（10世紀）の降下によるものと考えられる。

表3 八戸火山灰層序表(八戸付近)

	層相	層厚(cm)	備考
Ⅶ	褐色火山灰	20～50	上部黒色土へ漸移
Ⅵ	浮石	10～30	粒径0.5～2cm程度の浮石
Ⅴ	粘土質砂質火山灰	20～40	よくしまる
Ⅳ	浮石	20～40	粒径0.5～5cm程度の固い浮石
Ⅲ	砂質火山灰	4～8	よくしまる
Ⅱ	浮石	3～6	粒径0.5～5cm程度の固い浮石
Ⅰ	粘土質砂質火山灰	30～60	中位に浮石層、その他数列の浮石列

表4 黒色土層層序表

年代	記号	土層	火山噴出物	備考			
歴史時代	I	暗褐色土層		耕作土・その他の表土 固い白色浮石粒が散らばる。			
	続縄文時代	II	灰黒色土層		十和田 a 火山灰層 十和田 b 火山灰層		
縄文時代		晩期 後期 中期	III 暗褐色土層		黒色土層の下半は中 掘浮石への漸移部で 暗黄褐色。		
	前期			IV 粘土質黒褐色土層 粘土質暗褐色土層 粘土質浮石質暗褐色土層		中掘浮石層	上部から下部への土 層の特徴変化は特定 の年代ごとの変化を 意味しない。 南部浮石の直上に浮 石がちらばる。
						南部浮石層	
	早期	粘土質黒褐色～暗褐色土層	二ノ倉火山灰層				
	中・旧 石器時代	V	褐色火山灰層 泥・砂・礫層 基盤岩の風化土層	八戸火山灰層 高館火山灰層 天狗岱火山灰層			

以上に述べてきた高館火山灰層のほとんど、それ以後の火山碎屑物のすべてが十和田火山に由来するが、十和田 a 降下火山灰層の上位には、起原を異にする降下火山灰層があり、町田洋氏ら（1981）によれば、これは朝鮮半島基部の火山、白頭山に由来する苫小牧火山灰層であるという。そのほかに三辻利一氏の蛍先X線分析をみると、もう一つの火山灰層の存在を思わせるものがある。これらの火山灰層は、十和田 a 降下火山灰層の降下より数十～200年後の降下とみられる。これらの産状は、十和田 a 降下火山灰層と類似している。

なお、八戸火山灰層以降の降下火山碎屑物と黒色土類（腐植土）及びその特徴を表4に、また、各降下火山碎屑物及びいくつかの遺跡に関する絶対年代測定値に基づく編年表（大池昭二、1978）を表5に示した。ただし、大池の編年表中、中掘浮石層の降下時期は、既述したように縄文時代前期後半のある時期に改められるべきものである。

表5 十和田火山完新世火山灰編年表 (大池昭二：1978)

編年	火山灰	<sup>14</sup> C年代・遺跡	
B. P. 1,000年	土師器時代	毛馬内浮石流 十和田-a ● 1280±90 (平山ら、1966)	
		くるみ館遺跡—平安中～末期 ●	
2,000	(弥生)	堀野遺跡—A. D. 810 (草間、1965) ●	
		十和田-b ● 1180±80 (大池ら、1974)	
3,000	繩	2200±100 (大池ら、1974) ●	
		泉山遺跡Ⅱ層—大洞A'式 ●	
4,000	中期	五戸町西張遺跡—十腰内1式 大湯ストーンサークル—3680±130 (渡辺、1966) {	
		中振浮石 ● 3920±140 (松井ら、1969)	
5,000	前期	泉山遺跡Ⅱ層—4440±140 青森県教委、1976) ●	
		泉山遺跡Ⅱ層下部—円筒上層d式 ● 4200±110 (八甲田湿原研究グループ、1969)	
6,000	文	6550±170 (松井ら、1969) ●	
		三戸町境ノ沢遺跡 ●	
7,000	時	● { 類家自然貝層 5280±100 (大池ら、1972) 日ヶ久保貝塚 5850±105 (大池ら、1972) 類家貝塚、長七谷地貝塚	
		三戸町館遺跡 ●	
8,000	代	● 8600±250 (大池ら、1970)	
		南部浮石 ● 三戸町寺ノ沢遺跡—田戸下層式	
9,000	期	● 三戸町赤坂遺跡	
		二ノ倉火山灰 ●	
10,000		←? ● 階上村角柄折遺跡—無文土器	
13,000	先繩文時代	(晩期旧石器時代)	
			八戸浮石流 ● 12,700±260 (大池、1964)
			八戸隆下浮石層 ● 埋没林—13,770±510 (大池ら、1977)
			● 長者久保遺跡

註1. 中振浮石の年代は本文でもふれているように、その後の調査によって縄文時代前期後半のある時期にさかのぼることが明らかにされている。

2. 階上村角柄折遺跡は春日信興氏によって蝙蝠遺跡と改められた。

### 第3節 基本層序

本遺跡の基本層序はE A - 20グリッドを基準とした。

層 黒色土 (7.5Y R<sup>2/4</sup>) 表土

砂質で粘性ほとんどなし。

層 黒色土 (7.5Y R<sup>1.7/4</sup>)

粘性に乏しく、微細粒の白色鉱物を含む。

乾燥した部分(乾燥面)では非常に細かい割れが目立ち、黒色の程度が強い。

粒径2 ~ 5mm程度の固い白色パミスが散らばる。

層 黒褐色土 (7.5Y R<sup>3/2</sup>)

粘性に乏しく砂質である。

下位、微細粒(粒径1 ~ 2mm)の黄色浮石を密に含む。特に下位の10cm程度に密集する(中撒浮石に相当する)。

上位から下位に移るのにつれて、黒褐色から暗褐色に変化する。

層 暗褐色土 (10Y R<sup>3/4</sup>)

粘性に富み、粘土質で粒径5 ~ 20mm程度の白色ないし茶褐色の浮石が散らばる。

その中でも1 ~ 3mm、10 ~ 15mm程度の浮石が多い(本層中に土器片その他の遺物が包含される)。早期後半 ~ 前期初頭。

層 褐色土 (10Y R<sup>7/6</sup>)

上位褐色土層中にも青灰色及び黄色浮石(粒径5 ~ 10mm)が散らばる。

この部分は 層への漸位部であり、八戸火山灰層上位の浮石質火山灰層に相当する。

層 明黄褐色 (10Y R<sup>7/6</sup>) の浮石粒(1mm以下)と黄褐色 (10Y R<sup>5/6</sup>) の浮石粒(2 ~ 5mm)と黒褐色砂(0.5mm)の集合体。

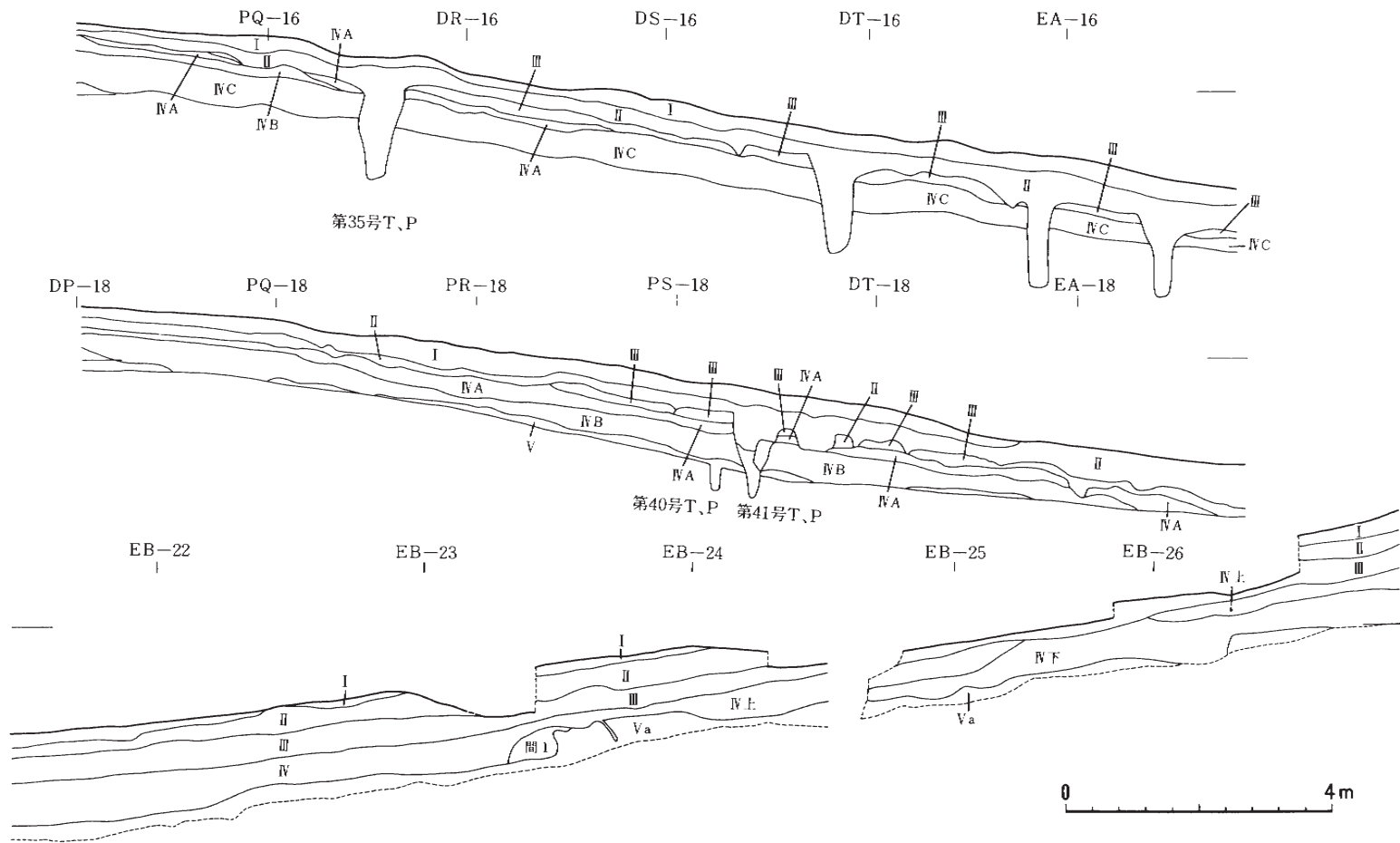
八戸火山灰

なお第 層は、30ライン以南では上下2層に分け、暗色ぎみの 上層と明るい 下層とした。また、地点により更に細分した。 ~ 層は、38ライン以南では分層できたがこれより北側では混然となっており、表土から八戸火山灰層上面( 層)まで30 ~ 40cmほどしかない。わずかに60 ~ 70ラインのE Aライン以西に 層がみられたにすぎない。またこの38ライン以北の地域は削平や盛土をされている部分も多かった。調査区の標高は16m ~ 34mである。

遺物は 層中に縄文時代早期後半から前期初頭のものが含まれ、この中でも ~ 群土器が下部に、 ~ 群土器が上部に含まれる傾向がみられた。 層の厚さは、38ライン以南では30cm ~ 100cmあった。土師器は ・ 層で出土した。(坂本 洋一)



图5 基本层序





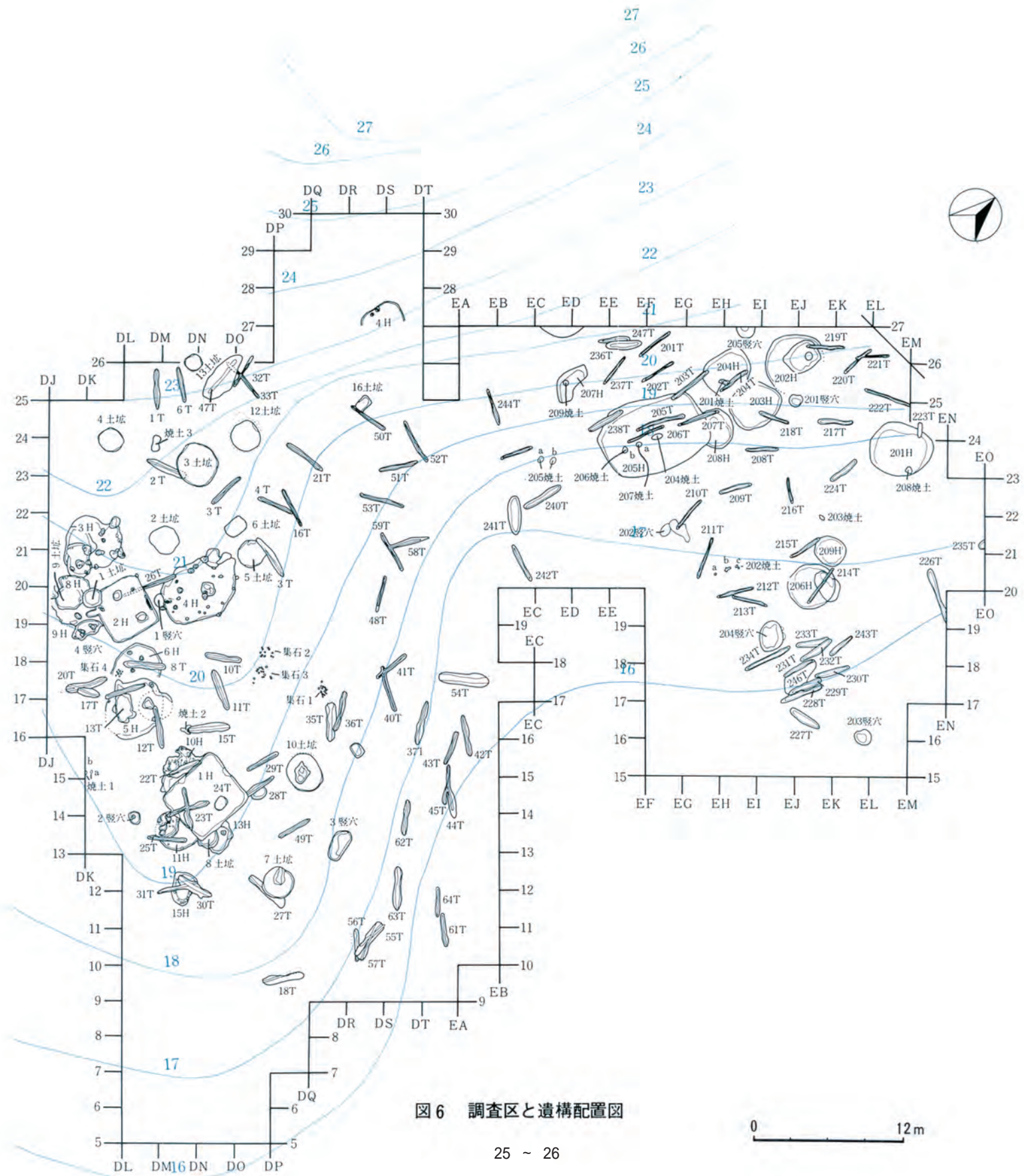


図6 調査区と遺構配置図

# 第 章 縄文時代の遺構と遺物

## 第 1 節 検出遺構と遺構内出土遺物

### (1) 住居跡と出土遺物

縄文時代の住居跡は、第 1 次調査分が 3 ~ 6 号、8 ~ 11 号、13・15 号の 10 軒（1・2・14 号は平安時代、7・12 は欠番）、第 2 次調査分が 201 ~ 209 号まで 9 軒、計 19 軒検出された。いずれも土層のしまりが悪く、水分を多量に含む層を掘り込んでいた。遺跡は傾斜地にあり、また、住居跡は溝状ピット、平安時代の住居跡・土壌等に切られているため、ほぼ全プランを調査できたのは 3・4・201・203・204・205・208・209 号の 8 軒だけである。

#### 3 号住居跡

**位置と確認** DJ - 20・21、DK - 20、21 グリッドの層下部で直径 4 m くらいの落ち込みを確認し、遺物も周辺より多く出土したので住居跡と確認した。

**平面形** プランを明確にできなかったが、部分的に検出した壁面から推定すると、およそ東西 4.5 m、南北 6 m の不整形円形を呈するものと思われる。

**覆土** 2 層に区分できた。1 層は基本層序層に似るが、焼土粒、炭化物を若干含む。2 層は 1 層とほぼ同様の土質であるが、ローム粒を多量に含む。厚さ 10 cm くらいの焼土ブロックを 2 箇所確認した。

**壁・床面** 西側の壁は比較的残存状態が良好で、厚さは約 40 cm である。約 45 度の傾斜で立ち上がる。東側の壁は斜面下方に位置するため確認できなかった。床面は地表面の傾斜に沿っていくぶん東側に傾いている。地山をそのまま床面としており、しまりが感じられない。出入口、炉跡は認められなかった。

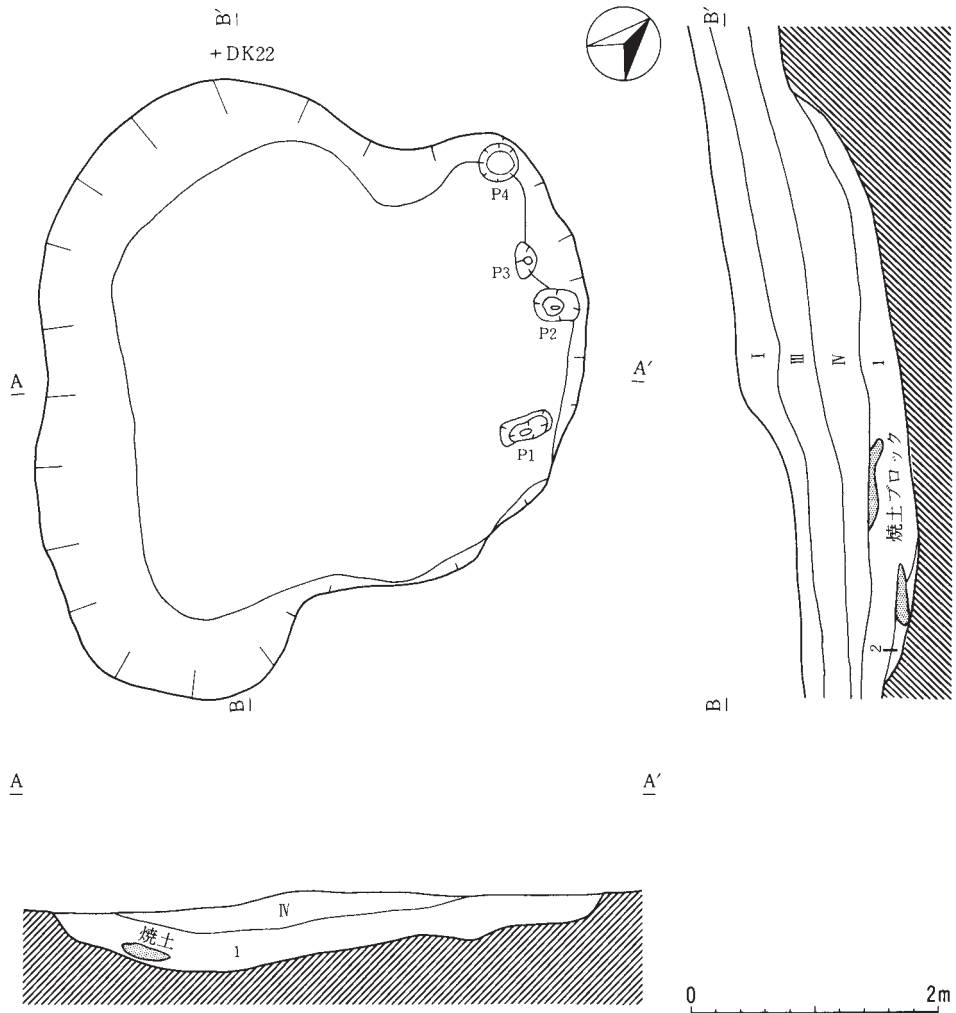
**ピット** 4 基確認した。位置からみて柱穴と考えられる。深さは 15 ~ 20 cm である。

表 6 3 号住居跡ピット一覧表

ピット 番 号	掘り方の規模			備 考	ピット 番 号	掘り方の規模			備 考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	45	20	21.5	柱 穴	3	30	18	20	柱 穴
2	37	27	17.5	〃	4	32	32	23	〃

**出土遺物と時期決定** 覆土 1 層から長七谷地群の土器が多量に出土し、物見台式の土器が少量混じっていた。2 層からは長七谷地群の土器だけ出土した。また、床面には長七谷地群の大形破片（図 9）が残されていた。この土器は 9 号竪穴遺構・2 号住居跡・9 号住居跡出土の破片と接合している。石器には石鏃、右ペラ、縦型石ヒ、石錘等がある。

以上のことから、この住居跡は長七谷地群期のものと言える。



- 1層…黒褐色土(10YR 5/2)  
 2～10mmの浮石をIV層よりも多量に含む。焼土粒、炭化物が若干混入する。
- 2層…褐色土(10YR 5/3)  
 1層と同様浮石、焼土粒子を含む。ローム粒が多量に混じる。
- 焼土ブロック…褐色土(7.5YR 5/3)  
 浮石を含む。全体的にしまりはないが、ブロック状にかたい所もみられる。

図7 3号住居跡

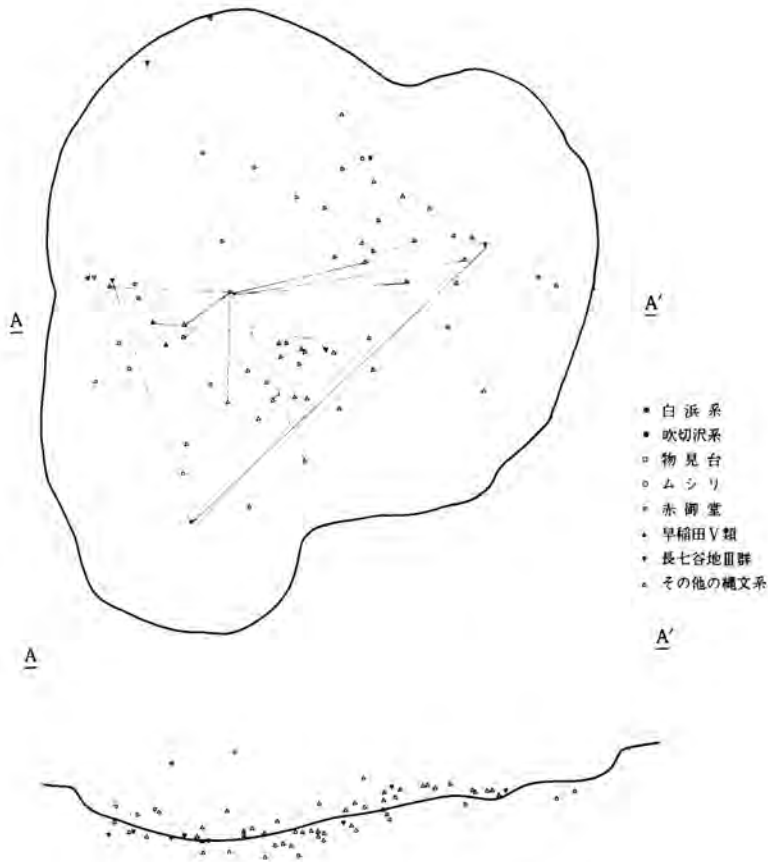


図8 3号住居跡遺物出土状況

#### 4号住居跡

位置と確認 DM - 19・20、DN - 19・20グリッドの 層で暗褐色の落ち込みを確認した。

平面形 およそ東西5m、南北7mの長楕円形を呈する。

重複 南西隅の一部は後に掘り込まれた26号溝状ピットに切られている。また、南側壁の一部を1号土壌が切っている。

覆土 厚さは約40cmで、5層に区分できた。これらは堆積状況から自然堆積と思われる。暗褐色の1層が大部分を占め、遺物の多くはこの層から出土した。下位へ下がるにつれ褐色の度合いが強くなる。

壁・床面 壁は一部を除いて確認できた。山手の西壁が最も深く約50cm、その他は20～40cmである。立ち上がりの角度は3号住居跡と同様約45度である。床面はおおむね平坦であるが

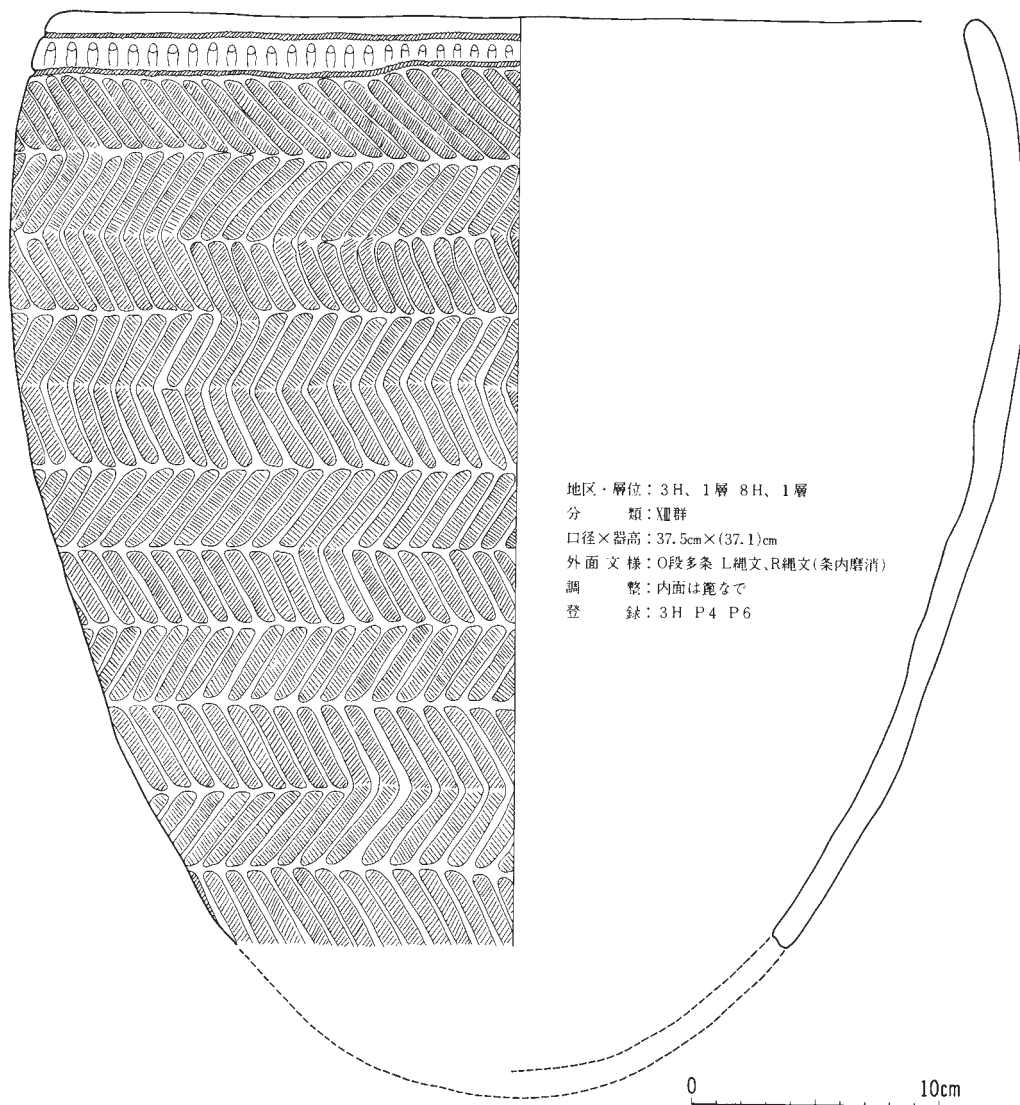
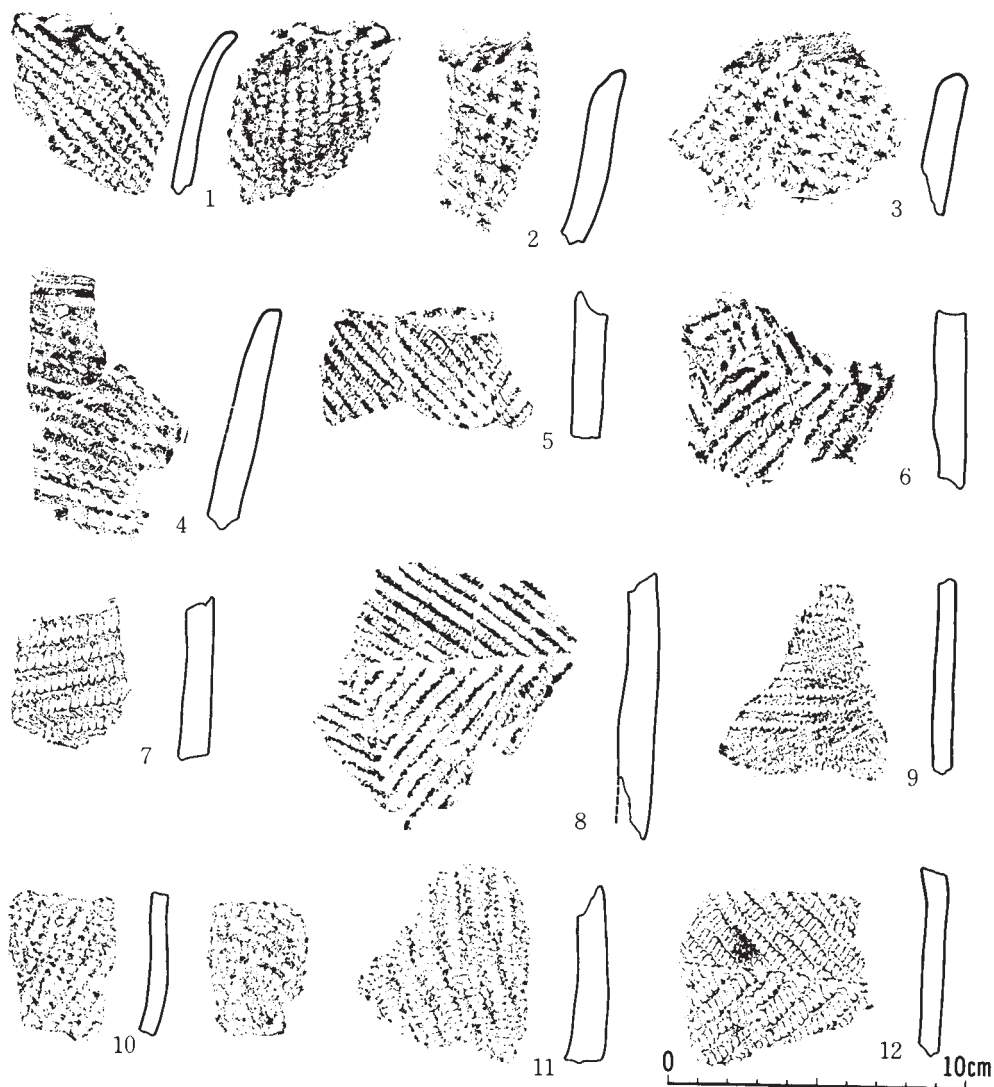


図9 3号住居跡出土遺物(1)

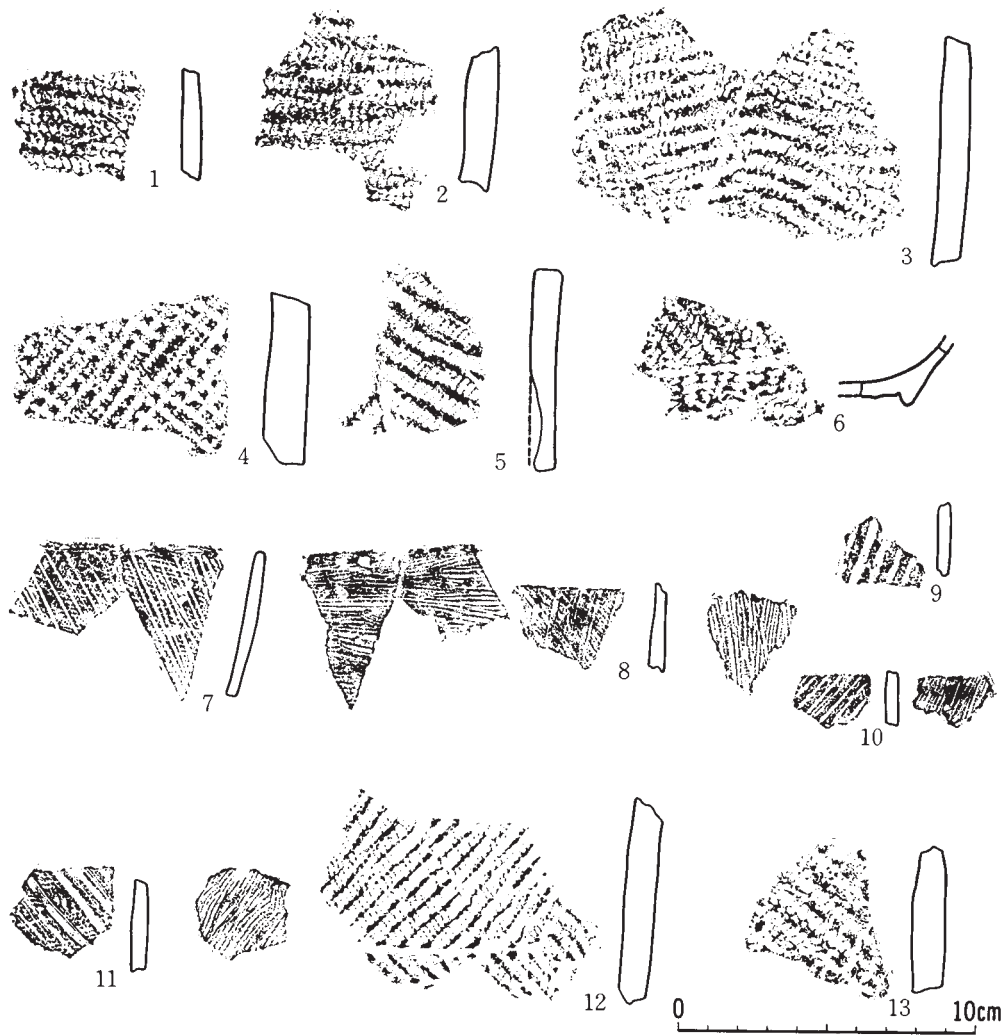




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	3H 1層	IX 群	口縁部	RL 縄文		縄文	3H P42
2	3H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR 縄文			3H P32
3	3H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR 縄文		篋まで	3H P29
4	3H 1層	X 群	口縁部	単軸絡条体回転文			3H P16
5	3H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL 縄文・LR 縄文			3H P 4
6	3H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL 縄文・LR 縄文		篋まで	3H P43
7	3H 1層	XII 群	胴部	LR 縄文			3H P37
8	3H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL 縄文・LR 縄文		篋まで	3H P11
9	3H 1層	IX 群	胴部	RL 縄文			3H P26
10	3H 1層	IX 群	胴部	LR 縄文		縄文	3H P40
11	3H 1層	X 群	胴部	○段多条LR 縄文			3H P56
12	3H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL 縄文・LR 縄文		篋まで	3H P55

図10 3号住居跡出土遺物(2)



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	3H 1層	Ⅸ群	胴部	RL繩文			3H P36
2	3H 1層	Ⅹ群	胴部	○段多条LR繩文			3H P26
3	3H 1層一括	Ⅹ群	胴部	○段多条LR繩文			3H P10
4	3H 1層	Ⅹ群	胴部	○段多条LR繩文			3H P1
5	3H 1層	Ⅹ群	胴部	○段多条RL繩文・LR繩文			3H P24
6	3H 1層	Ⅸ群	底部	RL繩文			3H P23
7	3H 1層	Ⅵ群	口縁部	沈線文		条痕	3H P42
8	3H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	3H P42
9	3H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	3H P23
10	3H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	3H P44
11	3H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	3H P42
12	3H 2層一括	Ⅹ群	胴部	○段多条LR繩文・RL繩文			3H P51
13	3H 2層	Ⅹ群	胴部	○段多条LR繩文			3H P3

図11 3号住居跡出土遺物(3)

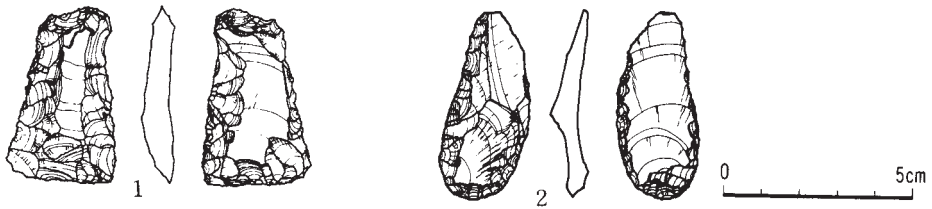


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1/2	205H 1/2層	XII群	胴部	○段多条LR縄文		篋なで	3H P31他 3H P67
3	205H 2層	XII群	胴部	○段多条LR縄文			3H P 58
4	205H 2層	XII群	胴部	○段多条LR縄文		篋なで	3H P 35
5	205H 2層	XII群	口縁部	○段多条LR縄文			3H P 59
6	205H 一括	XII群	口縁部	単軸絡条体回転文			3H P一括
7	205H 一括	XII群	胴部	○段多条LR縄文		篋なで	3H P一括
8	205H 一括	XII群	胴部	単軸絡条体回転文			3H P一括
9	205H 一括	XII群	口縁部	○段多条LR縄文		篋なで	3H P一括
10	205H 一括	VI群	胴部	沈線文		条痕	3H P一括

図12 3号住居跡出土遺物(4)



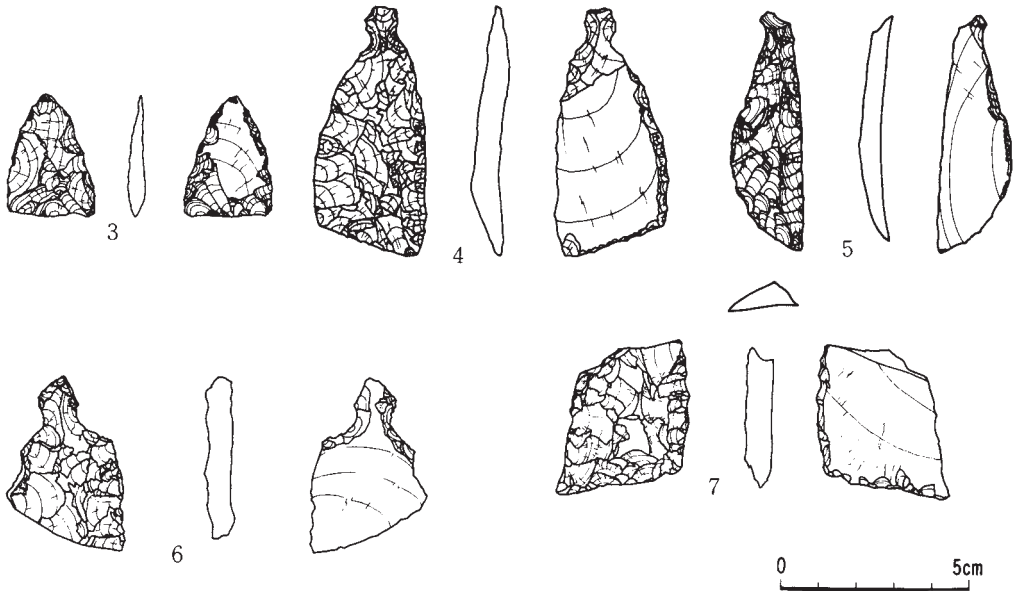


石 籠 観 察 表

番号	地 区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石 質	分 類	番 号
1	3H	47	29	9	12.5	碧 玉	Ⅱ a	

スクレーパー観察表

番号	分類名	出土地区	層 位	遺物番号	出 年 度	計 測 値(mm)			重量(g)	石 質
						長 さ	幅	厚 さ		
2	サイドスクレーパー	3H	Ⅳ下a層		80	20	24	7	4.7	頁



石 鏃 観 察 表

番号	地 区	層 位	大 き さ (mm)			重 さ (g)	石 質	分 類	長 幅 比
			長 さ	幅	厚 さ				
3	3H	2層	32	23	5	2.8	珪 頁	A 2	I

石 七 観 察 表

番号	地 区	層 位	計 測 値(mm)			重 量(g)	石 質	分 類
			長 さ	幅	厚 さ			
4	3H	2層	67	30	8	13.2	珪 頁	縦形石七
5	3H	1層	63	19	6	6.8	珪 頁	縦形石七
6	3H	2層	(46)	(31)	7	( 9.5)	珪 頁	石七損品
7	3H	1層	(41)	34	7	9.9	珪 頁	縦形石七

図13 3号住居跡出土遺物(5)

やや東側に傾きがみられ、レベルの差は20cm内外である。出入口、炉跡等は確認できなかった。

ピット 住居跡内に23箇所、住居跡外に2箇所のピットを確認した。これらのうち柱穴に用いたと思われるのはピット2・4・6・8・9・10・11・12・14・16・19・21・22・24である。床面からの深さは平均15.8cmで、これらを結びとほぼ長方形となる。住居跡の平面形から推測して本住居跡に伴うものと思われる。

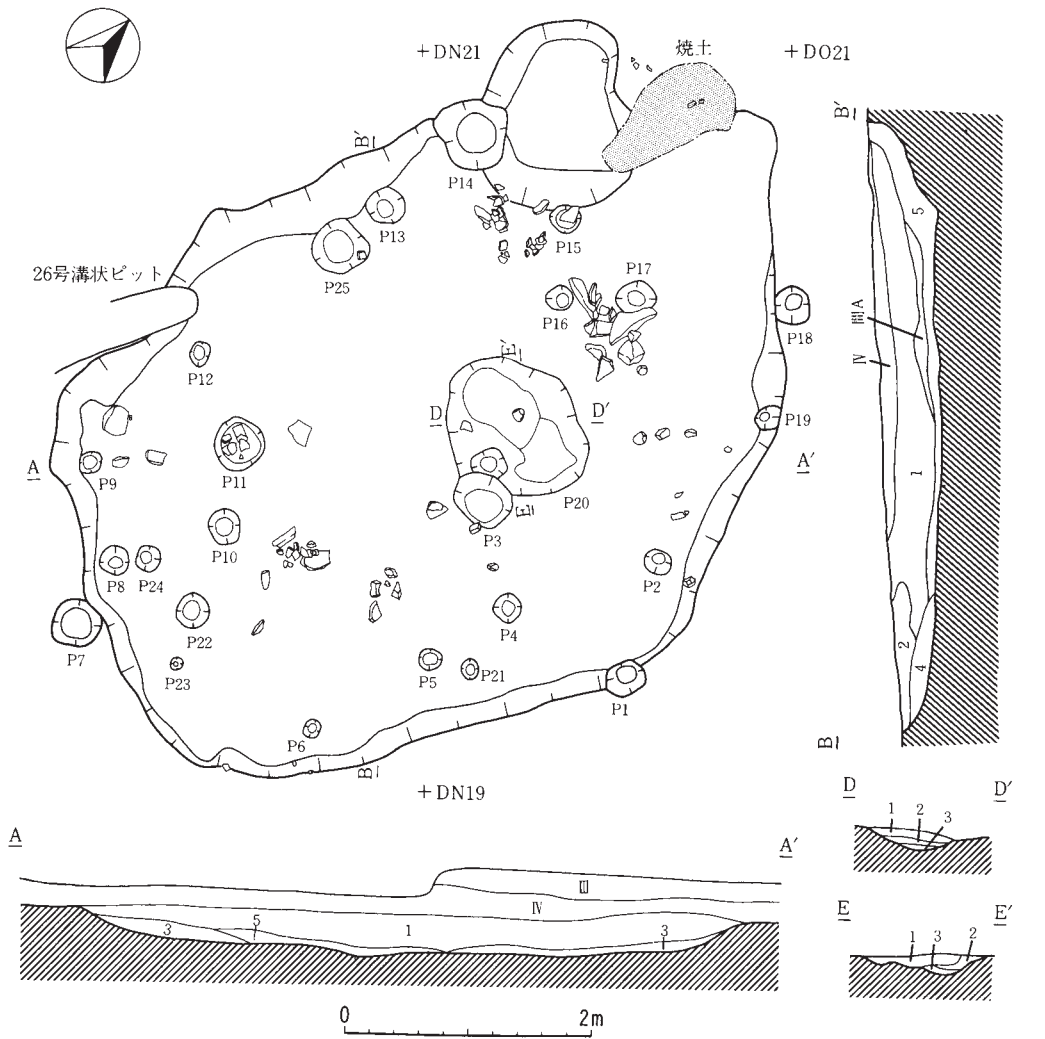
表7 4号住居跡ピット一覧表

ピット 番 号	掘り方の規模			備 考	ピット 番 号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	32	30	11.2		14	18	17	11.3	柱穴
2	21	20	21.4	柱穴	15	28	26	7.5	
3	112	110	14		16	20	19	7.3	柱穴
4	22	20	2.9	柱穴	17	30	28	29.1	
5	30	29	29.1		18	40	28	12.9	
6	34	27	14.8	柱穴	19	28	27	13.2	柱穴
7	23	20	22.2		20	10	9	9.8	
8	26	22	11	柱穴	21	16	15	18.9	柱穴
9	59	56	19.8	〃	22	20	18	20.7	〃
10	32	28	19	〃	23	18	15	5.8	
11	48	44	9.5	〃	24	24	23	26	柱穴
12	20	16	20.7	〃	25	47	44	25.2	
13	44	40	12.7						

その他 住居跡の北端で焼土を検出したが、位置からみて本住居跡に直接関係ないものと判断した。

出土遺物と時期決定 覆土は8層に分けられたが、そのうち大部分が1層であり、遺物の多くは1層から出土した。遺物のほとんどは赤御堂式で、ほかに早稲田 類や長七谷地 群がいくぶん混じる。復元できたのは赤御堂式の土器4点(図16の1~4)である。石器には石錘、石匕、敲石、すり石等がある。

以上のことから、この住居跡は赤御堂式期のものと言える。



- 1 層…暗褐色土(10YR 5/2)  
シルト質でしまりが強い。0.2~2cmの浮石が15%混入している。
- 2 層…褐色土(7.5YR 5/2)  
シルト質でしまり強い。0.2~1.5cmの浮石が5%混入している。
- 3 層…黄褐色土(10YR 5/3)  
シルト質でしまりややある。0.1~0.6cmの浮石が3%混入している。
- 4 層…褐色土(10YR 5/2)  
シルト質でしまりある。0.1~1.5cmの浮石が5%混入している。
- 5 層…黄褐色土(10YR 5/3)  
シルト質でしまりある。0.2~1.5cmの浮石が3%混入している。
- 間A層…暗褐色土(10YR 5/2)  
シルト質でしまり弱い。0.2~1.5cmの浮石が7%混入している。

- 4号住居跡 P20セクション**
- 1層…黒褐色土(7.5YR 5/1)  
かたくしまっている。1~2mmの浮石が混入している。
- 2層…暗褐色土(7.5YR 5/2)  
やわらかく、しまりが無い。  
1~2mmの浮石が混入しているが、1層程多くない。
- 3層…黄褐色土(10YR 5/3)  
やわらかく、しまりが無い。  
1mm程の粗砂が多少混入している。

図14 4号住居跡

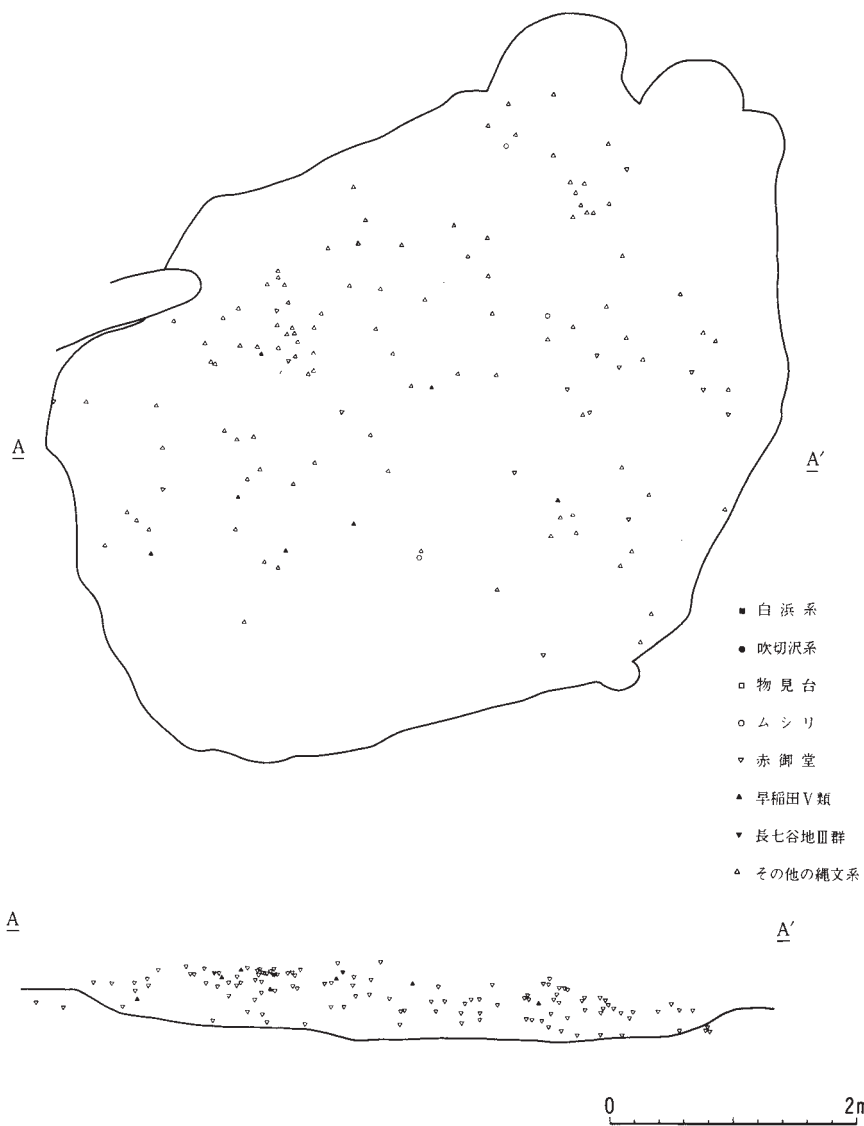


図15 4号住居跡遺物出土状況

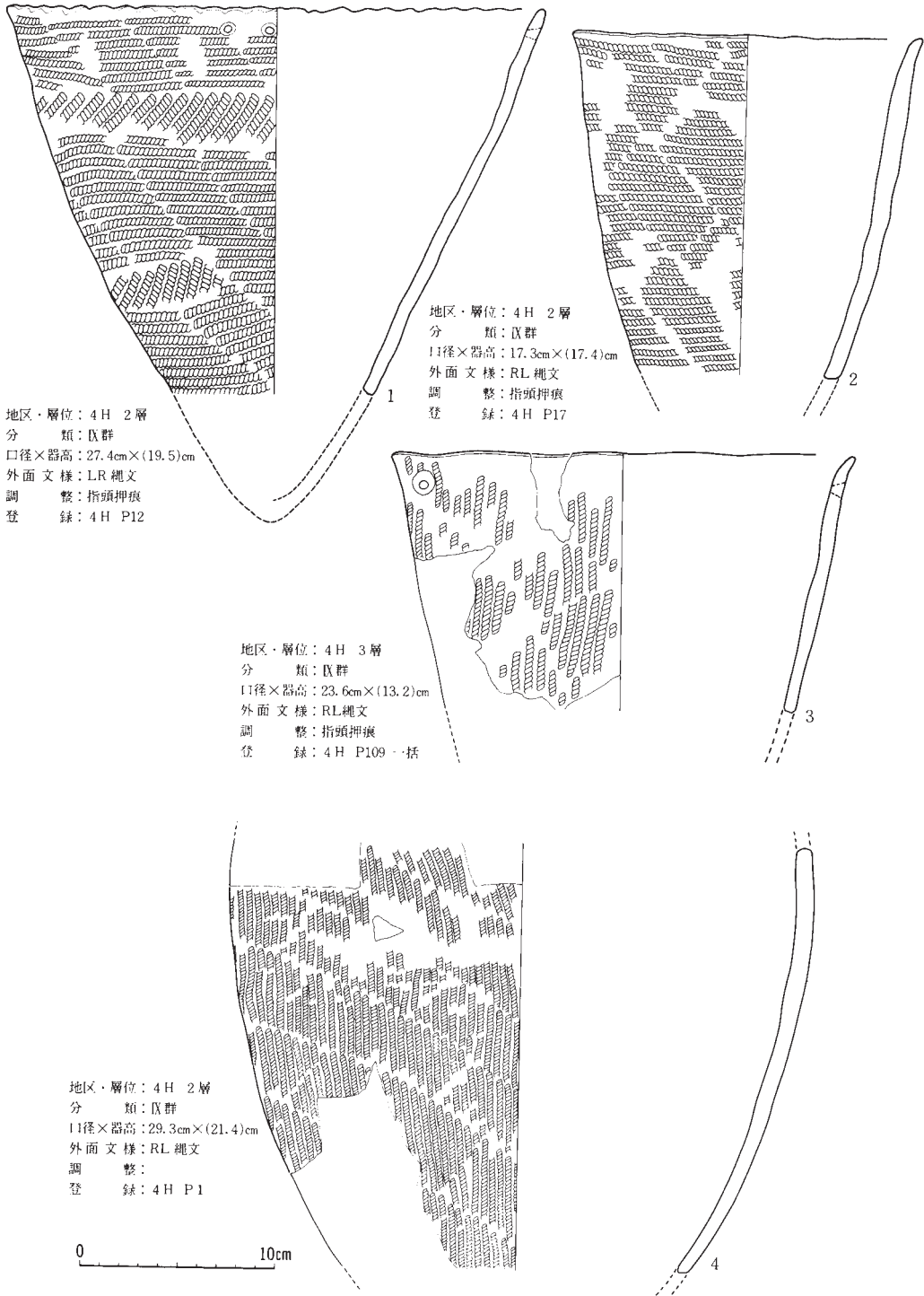
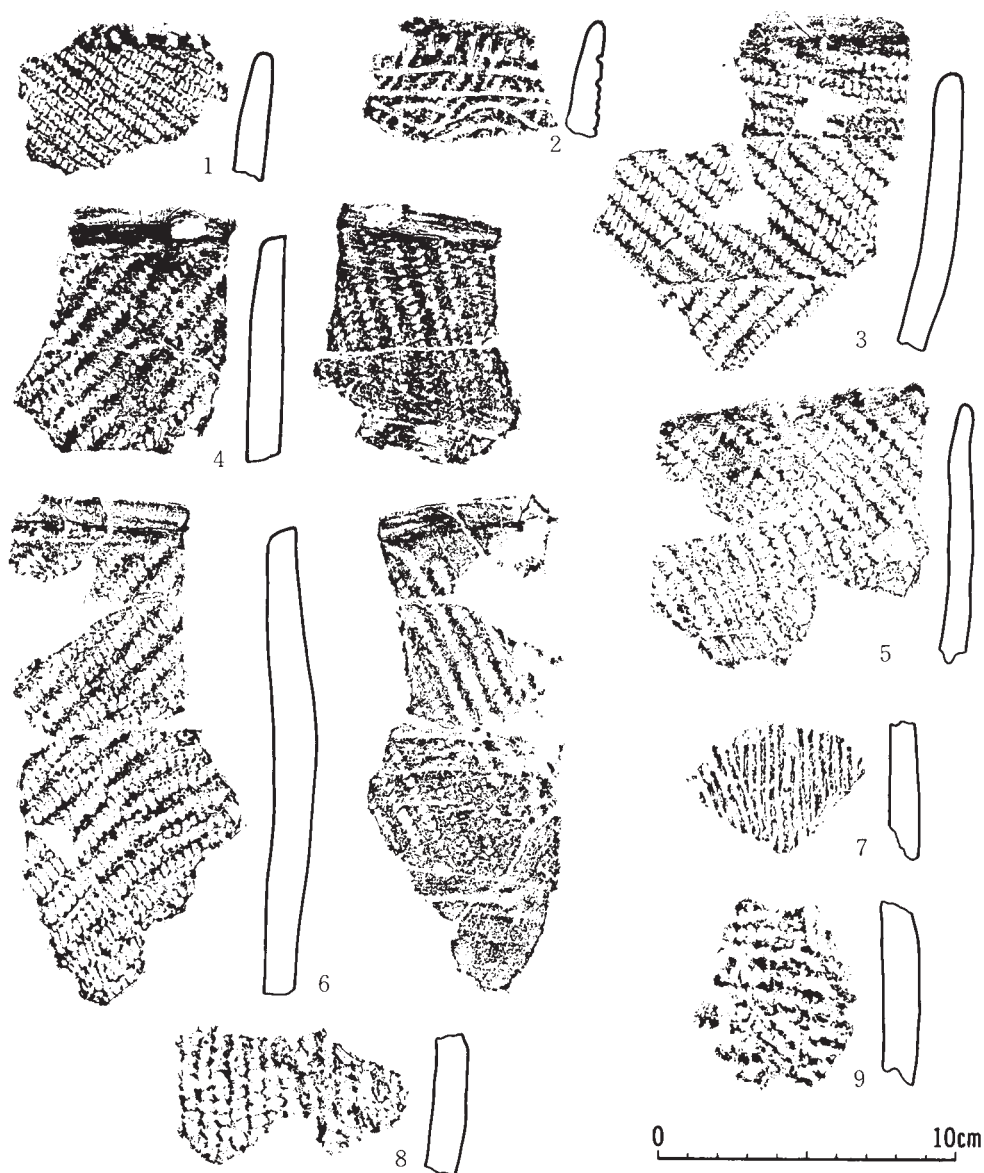


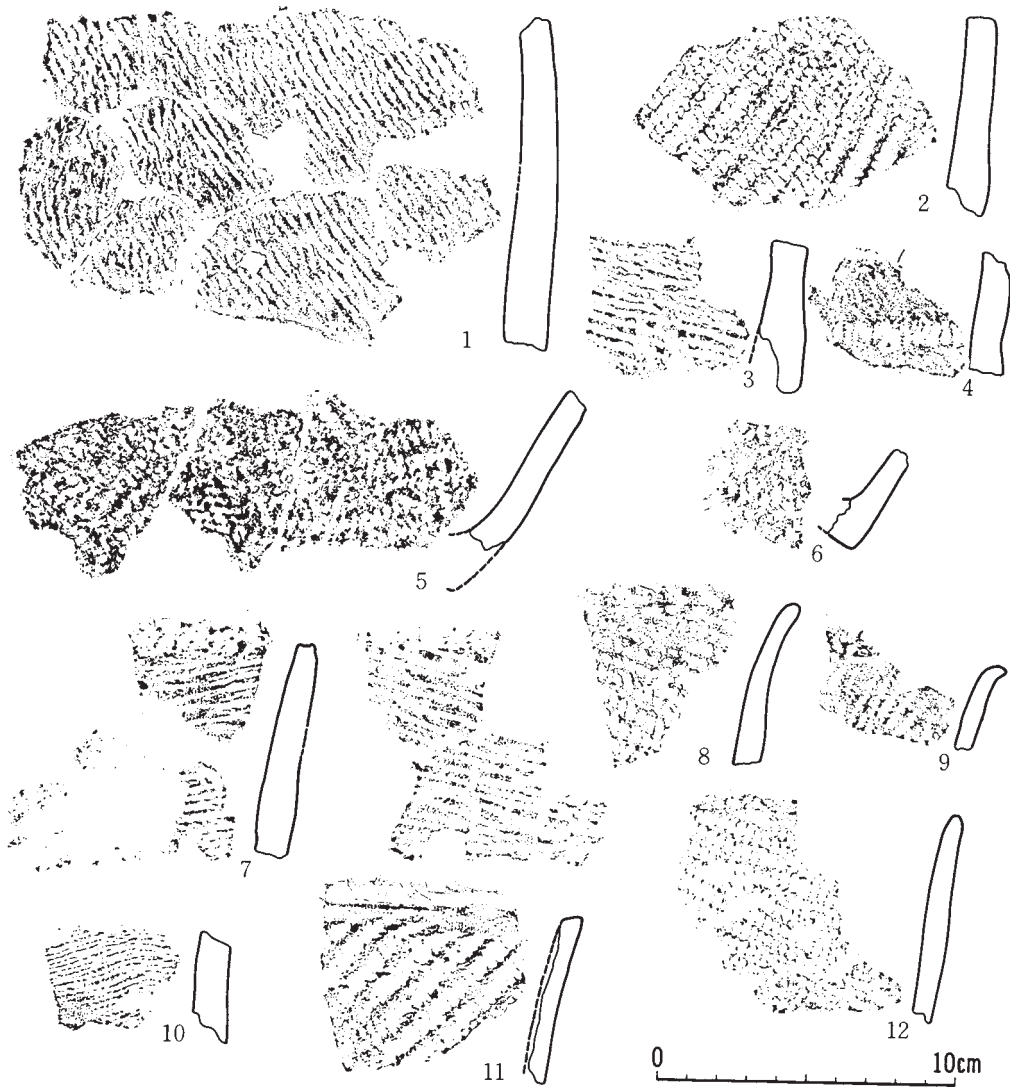
图16 4号住居跡出土遺物(1)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	4H 1層	X 群	口縁部	附加条縄文			4H P 42
2	4H 1層	IV 群	口縁部	沈線文、RL縄文			4H P 49
3	4H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文・RL縄文		篋など	4H P 27
4	4H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR縄文		縄文	4H P 47
5	4H 1層	IV 群	口縁部	RL縄文			4H P 130
6	4H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR縄文		縄文	4H P 127
7	4H 1層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文			4H P 134
8	4H 1層	X 群	胴部	RL縄文			4H P 18
9	4H 1層	X 群	胴部	RL縄文			4H P 127

図17 4号住居跡出土遺物(2)

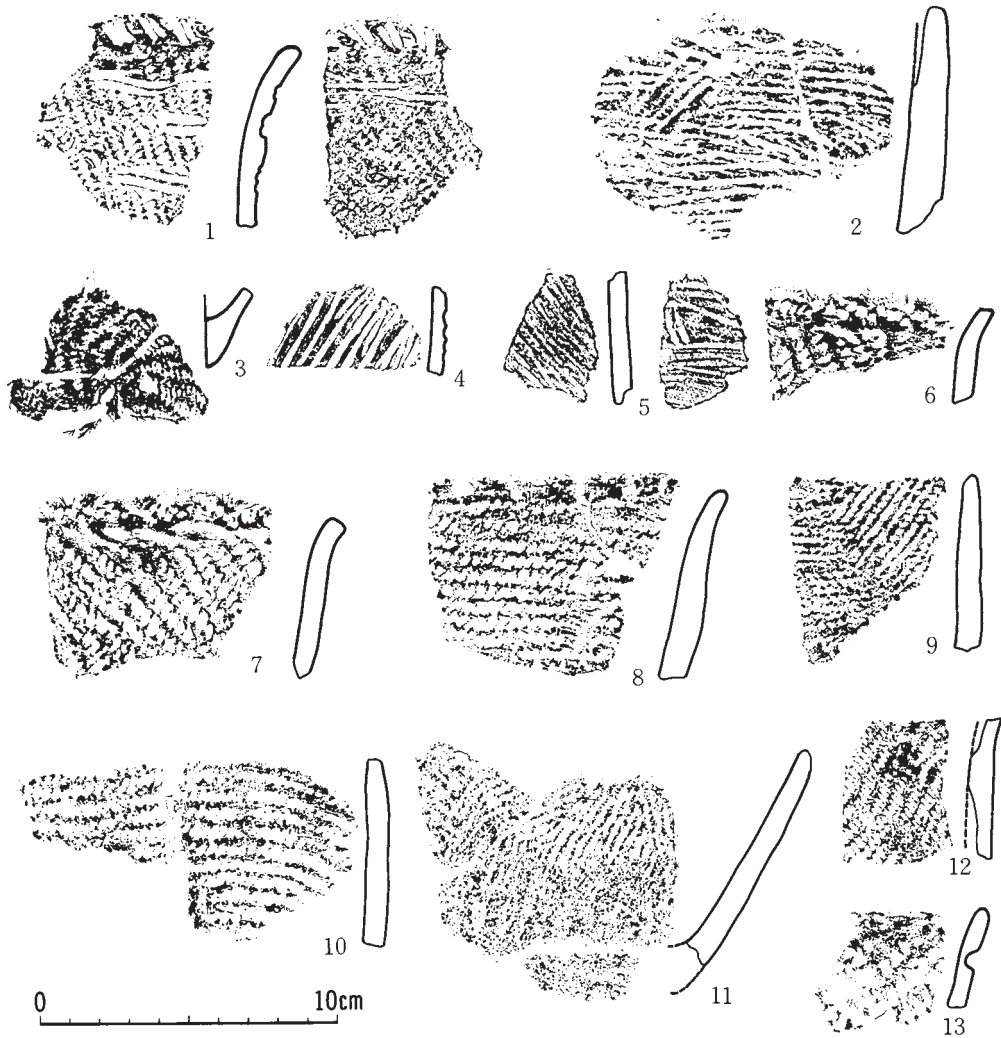


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	4 H 1層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文			4 H P 85
2	4 H 1層	XII 群	胴部	附加条縄文			4 H P 127
3	4 H 1層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文			4 H P 56
4	4 H 1層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文、同圧痕文			4 H P 85
5	4 H 1層	IX 群	底部	L R 縄文			4 H P 133
6	4 H 1層	IX 群	底部	L R 縄文			4 H P 41
7	4 H 2層	XII 群	口縁部	単軸絡条体回転文			4 H P 64
8	4 H 2層	IX 群	口縁部	R L 縄文			4 H P 106
9	4 H 2層	XII 群	口縁部	L R 縄文			4 H P 59
10	4 H 2層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文			4 H P 91
11	4 H 2層	X 群	口縁部	O段多条L R 縄文			4 H P 81
12	4 H 2層	IX 群	口縁部	R L 縄文			4 H P 13

図18 4号住居跡出土遺物(3)



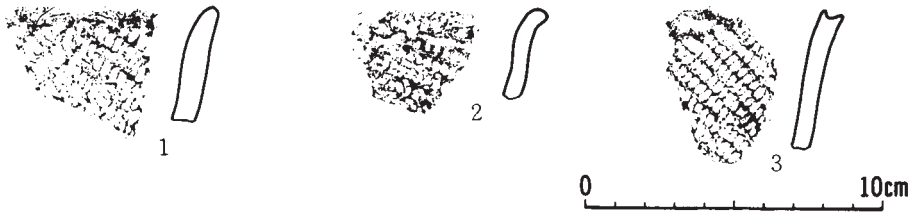


繩文土器 觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	4H 2層	Ⅸ群	口縁部	沈線文、RL繩文		沈線・繩文	4H P 111
2	4H 2層	Ⅺ群	胴部	単軸絡条体回転文			4H P 78
3	4H 2層	Ⅸ群	底部	RL繩文			4H P 80
4	4H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	4H P 105
5	4H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文		沈線	4H P 53
6	4H 3層	Ⅸ群	口縁部	RL繩文			4H P 115
7	4H 3層	Ⅸ群	口縁部	RL繩文			4H P 115
8	4H 3層	Ⅸ群	口縁部	○段多条LR繩文			4H P 121
9	4H 3層	Ⅸ群	胴部	RL繩文			4H P 118
10	4H 3層	Ⅸ群	胴部	RL繩文			4H P 120
11	4H	Ⅸ群	底部	RL繩文			4H P 23
12	4H	Ⅸ群	胴部	LR繩文			
13	4H	Ⅸ群	口縁部	LR繩文			

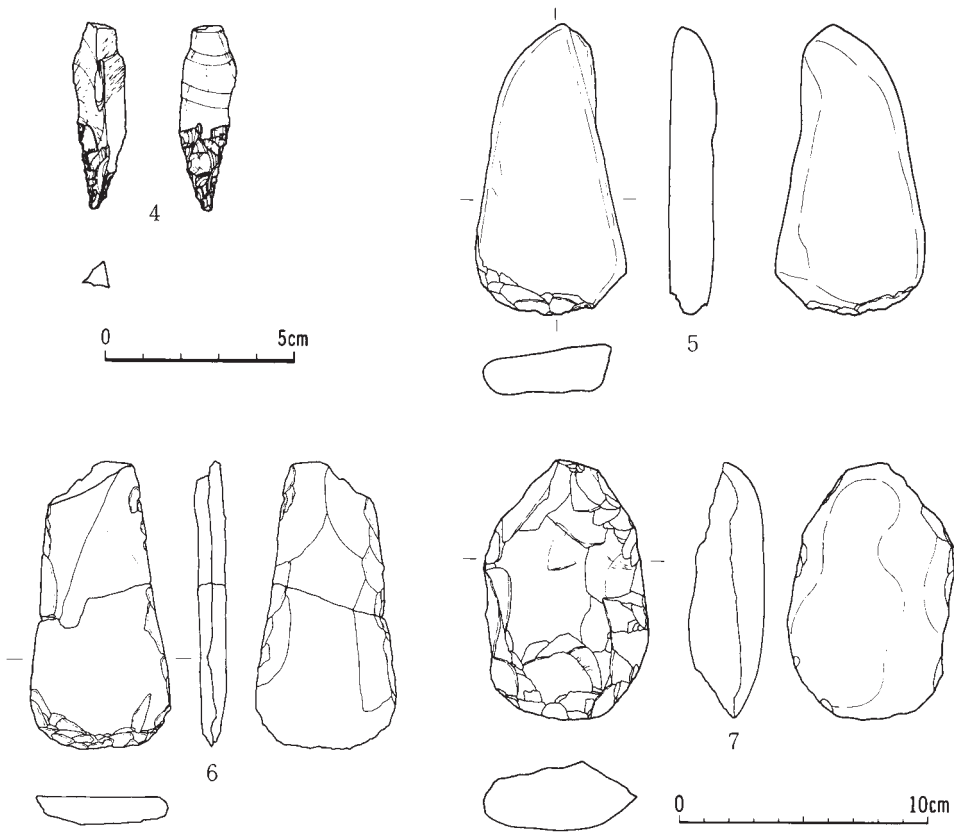
図19 4号住居跡出土遺物(4)





縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	4 H 床直	Ⅸ 群	口縁部	R L 縄文、L R 縄文			4 H P 137
2	4 H 床直	Ⅸ 群	口縁部	R L 縄文			4 H P 50
3	4 H 床直	Ⅸ 群	口縁部	R L 縄文			4 H P 52



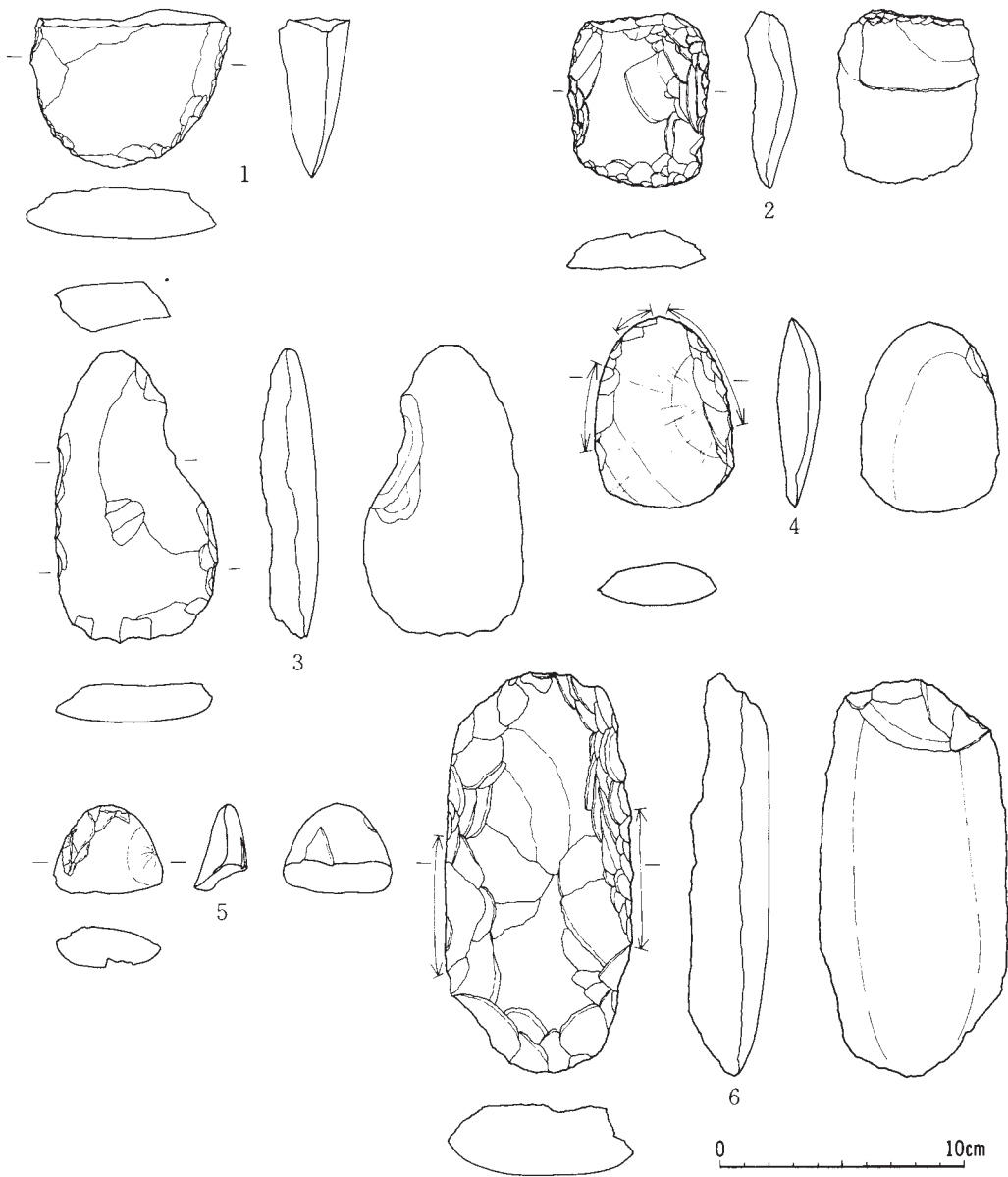
石錐観察表

番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
4	4 H	49	14	9	7.7	珪頁	I

打斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剥離	磨滅敲打	痕
5	4 H	116	61	19	189	チャ	I		○		
6	4 H	115	56	13	123	砂	Ⅱ	下			
7	4 H	104	67	30	245	砂	Ⅲ			l c d f g マ	3 i タ

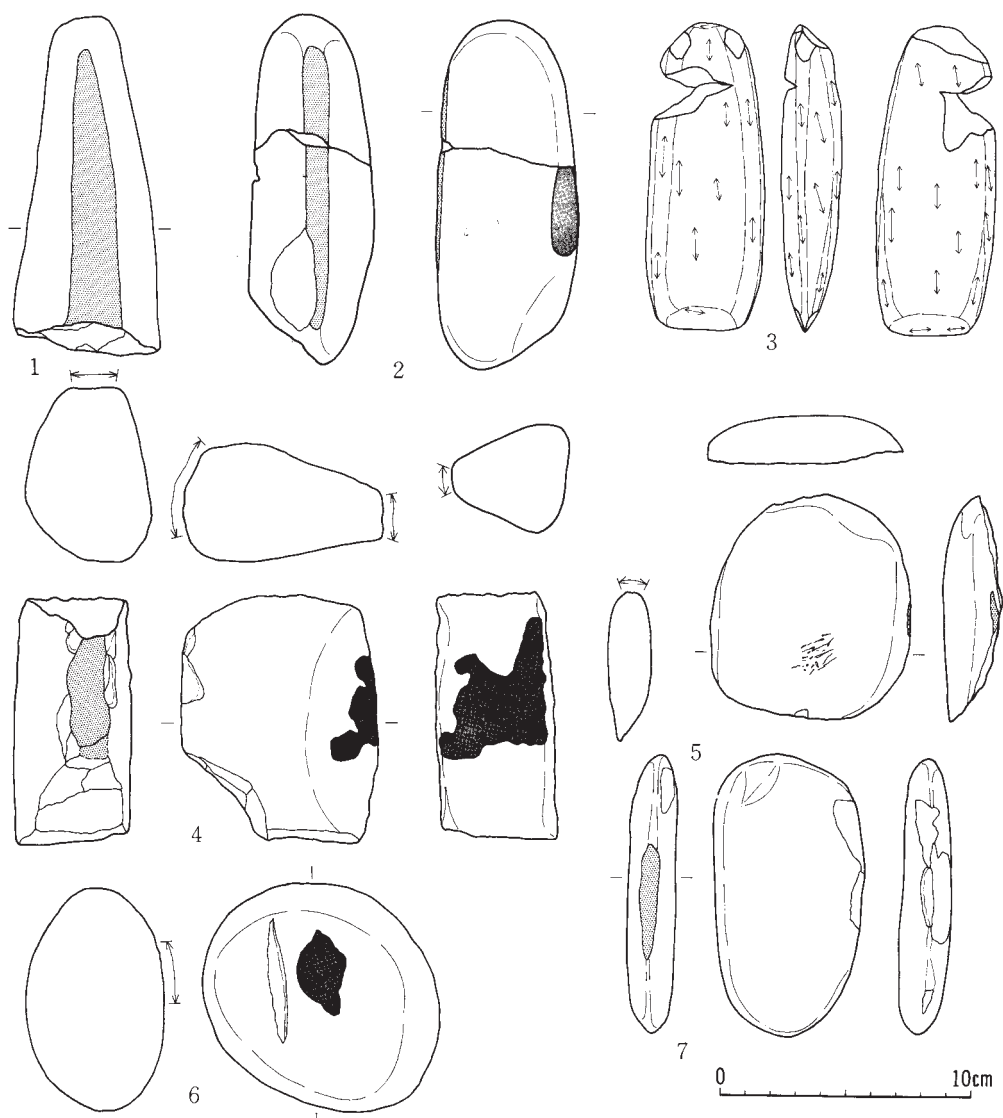
図20 4号住居跡出土遺物(5)



打斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剝離	磨滅敲打	痕
1	4H	140	60	37	345	砂	2接			1a~hマ	2kマ3lタ
2	4H	70	57	19	81	頁				3ac	
3	4H	119	66	23	211	輝	IV				
4	4H	78	57	17	92	砂	IV			2bマ	3cハ
5	4H	36	44	20		頁		1下			
6	4H	165	77	33	605	珪玉糝	IV			1bdgマ	3aハ

図21 4号住居跡出土遺物(6)



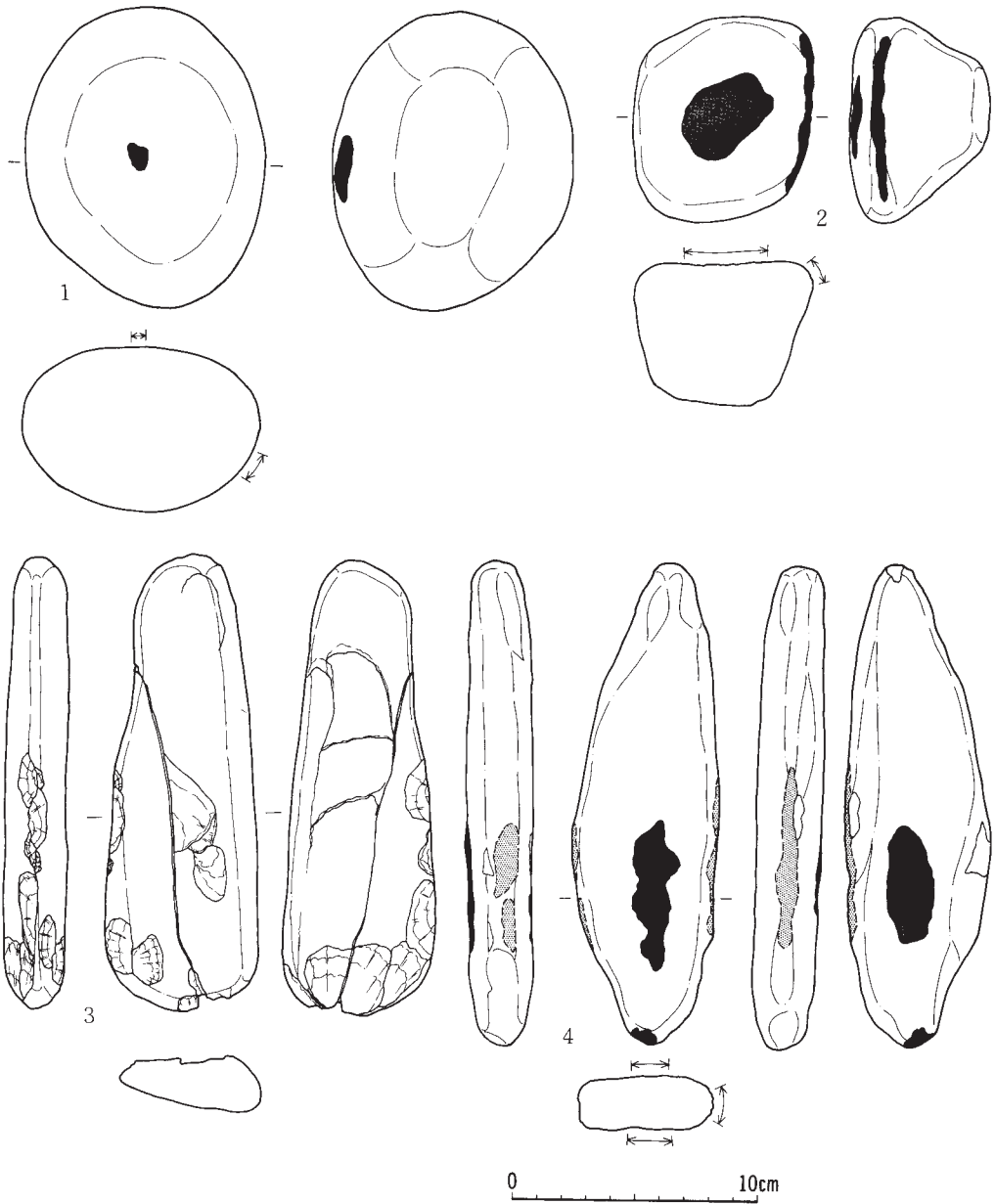
磨敲凹石類観察表

番号	地区層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	4H 1層 S-56	123	57	44		砂	I b	スータ凹	1		
2		143	56	47							
4		94	78	47							
5		90	80	24							
6	4H床直 S-154	92	95	56	632	チャ	I a	タ	1		
7	4H 1層	112	60	20	205	頁	III b	ス			

磨製石斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位
3		124	47	25	(237)	輝緑岩	5	1 接合

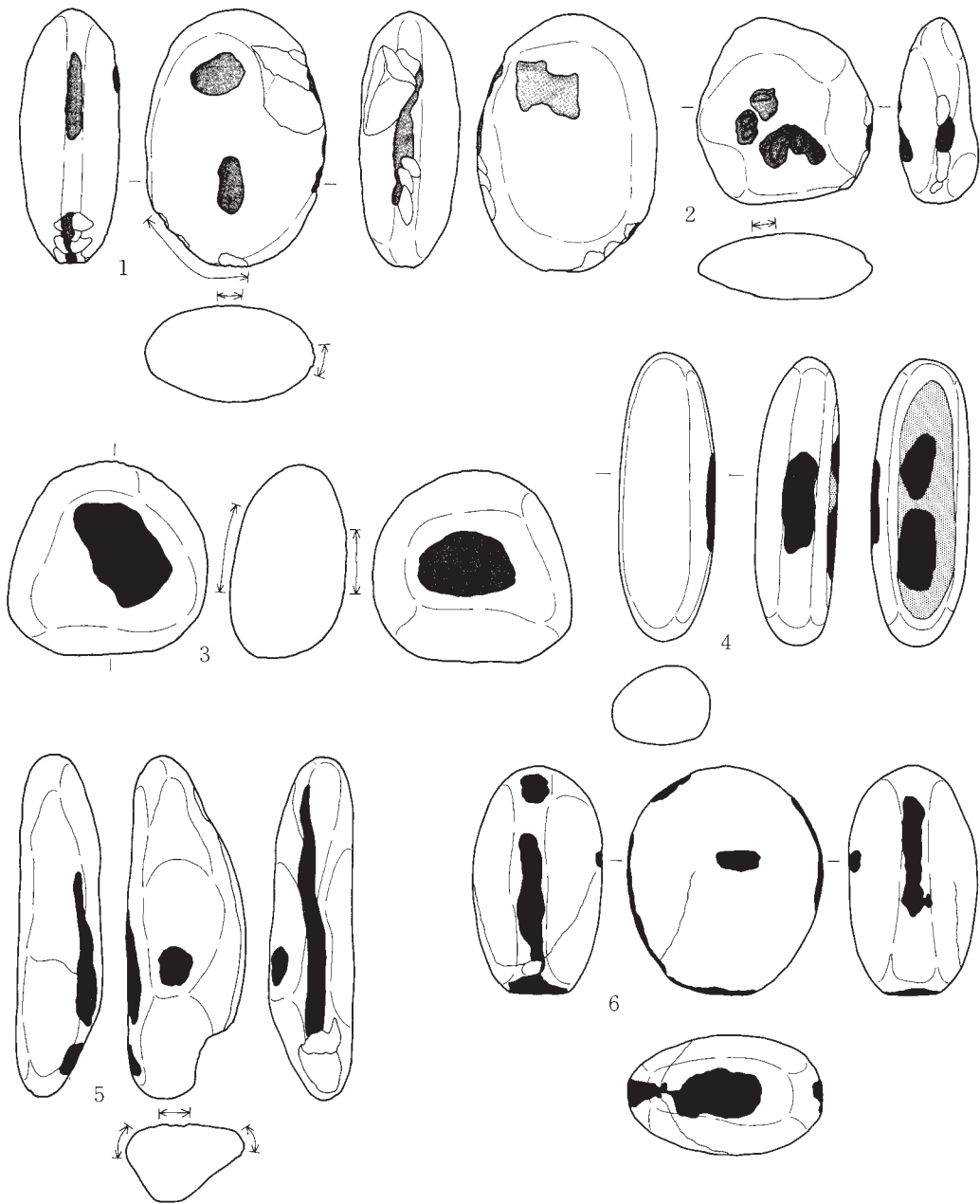
図22 4号住居跡出土遺物(7)



磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	4 H	112	98	68	1165	安	Ⅳ a	タ	1		
2	4 H	84	74	57	516	安	Ⅳ b	スーア凹	1		
3	4 H	187	59	25							
4	4 H	197	60	28	436	砂	Ⅱ b	タ	1	○	レタ、aタ1

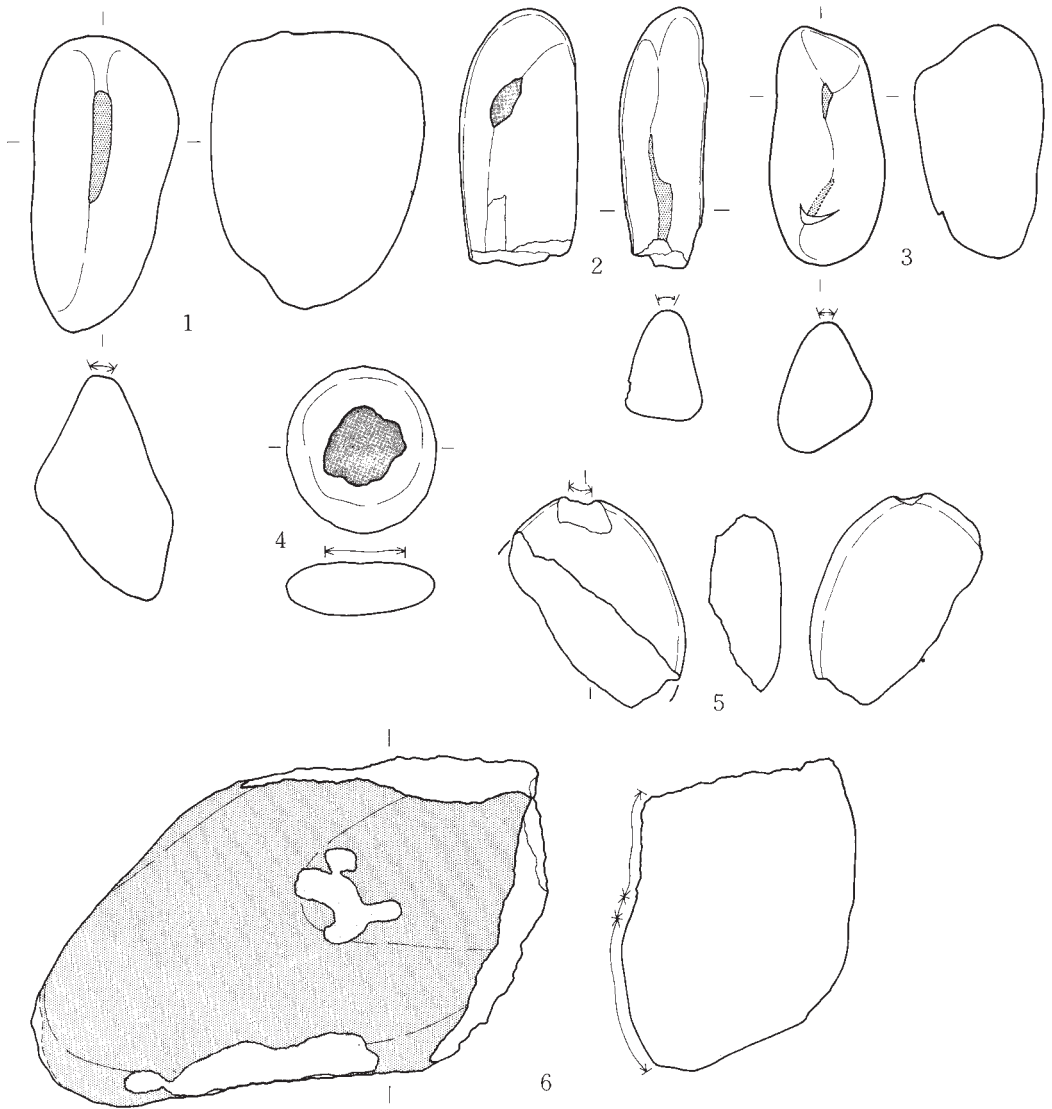
図23 4号住居跡出土遺物(8)



磨敲凹石類観察表

番号	地区層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	<sup>4</sup> H 2層 S-138	109	76	42	465	砂	I b	スター凹	1		
2	<sup>4</sup> H 2層 S-77	78	75	34	239	安	IV b	スター凹	1	○	
3	<sup>4</sup> H 2層 S-3	82	85	49	506	砂	IV c	タース凹	1		
4		122	41	34							
5	<sup>4</sup> H 2層	144	51	36	(318)	砂	II a	タ	1	○	
6	<sup>4</sup> H床直 S-140	96	77	55	582	砂	I b	スター凹	1		

図24 4号住居跡出土遺物(9)



磨石凹石類観察表

番号	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	類	度	石質	h	複合
1	4 H	118	90	59	757	Ⅲ b	ス	1	チャ		
2	4 H	102	48	30							
3	4 H	95	51	46	286	Ⅲ b	ス	1	チャ		
4	4 H	66	59	21	134	Ⅳ a	タ	1	砂		

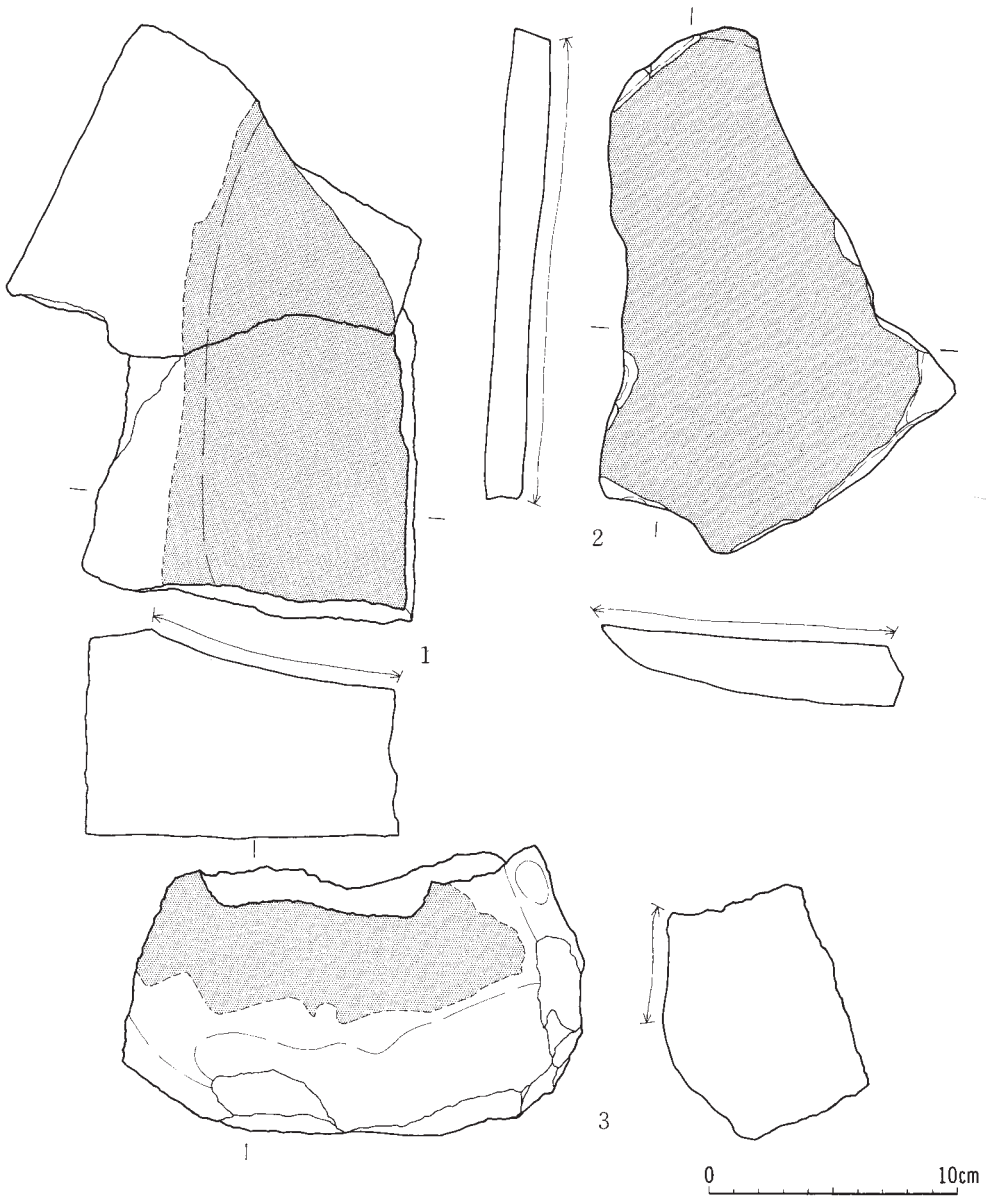
石錘観察表

番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
5	4 H	84	69	31	159	砂	欠

石皿観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
6	4 H	205	139	93	2550	安	I b

図25 4号住居跡出土遺物(10)



石 皿 観 察 表

番号	地 区	長 さ(mm)	幅(mm)	厚 さ(mm)	重 量(g)	石 質	分 類
1	4 H	(235)	(175)	( 84)	(4480)	安	
2	4 H	(213)	(147)	( 27)	( 912)	安	Ⅱ a
3	4 H	(185)	(118)	(911)	(2470)	安	Ⅲ a

図26 4号住居跡出土遺物(11)

## 5号住居跡

**位置と確認** DK - 16・17、DL - 16・17、DM - 16・17グリッドの 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

**平面形** 東壁及び西壁の一部しか確認できなかったので詳細については不明であるが、残存部から推測すると長径約5m、短径約4mの楕円形を呈するものと考えられる。

**重複** 12号溝状ピット及び13号溝状ピットに切られている。

**覆土** 5層に区分できた。1～2層は床面及びその上位を覆う土で、黒色～褐色のシルト質土である。また3～5層はピット4のみを覆う土で、黒色～黄褐色のシルト質土である。

**壁・床面** 壁の残存状態はあまり良好でなく、東壁及び西壁の一部を確認したにすぎない。壁高は東壁でおよそ5cm、西壁で21～24cmで、いずれも緩やかに立ち上がる。

床面は比較的凹凸があり、総じて中央部が低い。また、出入口、炉跡は認められなかった。

**ピット** 住居跡内に5基、住居跡外で1基を確認した。この中で位置及び深さなどから、本住居跡に伴うと思われるピットはピット1・3・5である。ピット2は南壁近くに位置する。深さは10～19cmで不整楕円形を呈し、底面から2個の礫が出土した。ピット4はその覆土から住居構築以前のピットと考えられる。ピット6は、本住居跡と係わりはないものと思われる。

表8 5号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	16	16	22		4	100	87	12	長径は推定値
2	240	158	10～19		5	35	26	8	長径・短径はいずれも推定値
3	38	21	13		6	31	25	10	

**その他** 住居跡西側に焼土を確認したが、その位置から本住居跡には直接関係ないものと考えられる。

**出土遺物と時期決定** 覆土は5層に分けられるが、1層の堆積土が厚く、遺物もこの層のものが多い。形式的に長七谷地群がほとんどである。石器には石鏃、石匕、すり石等がある。復元できたのは4点である。

以上から、この住居跡は長七谷地群期のものと言える。



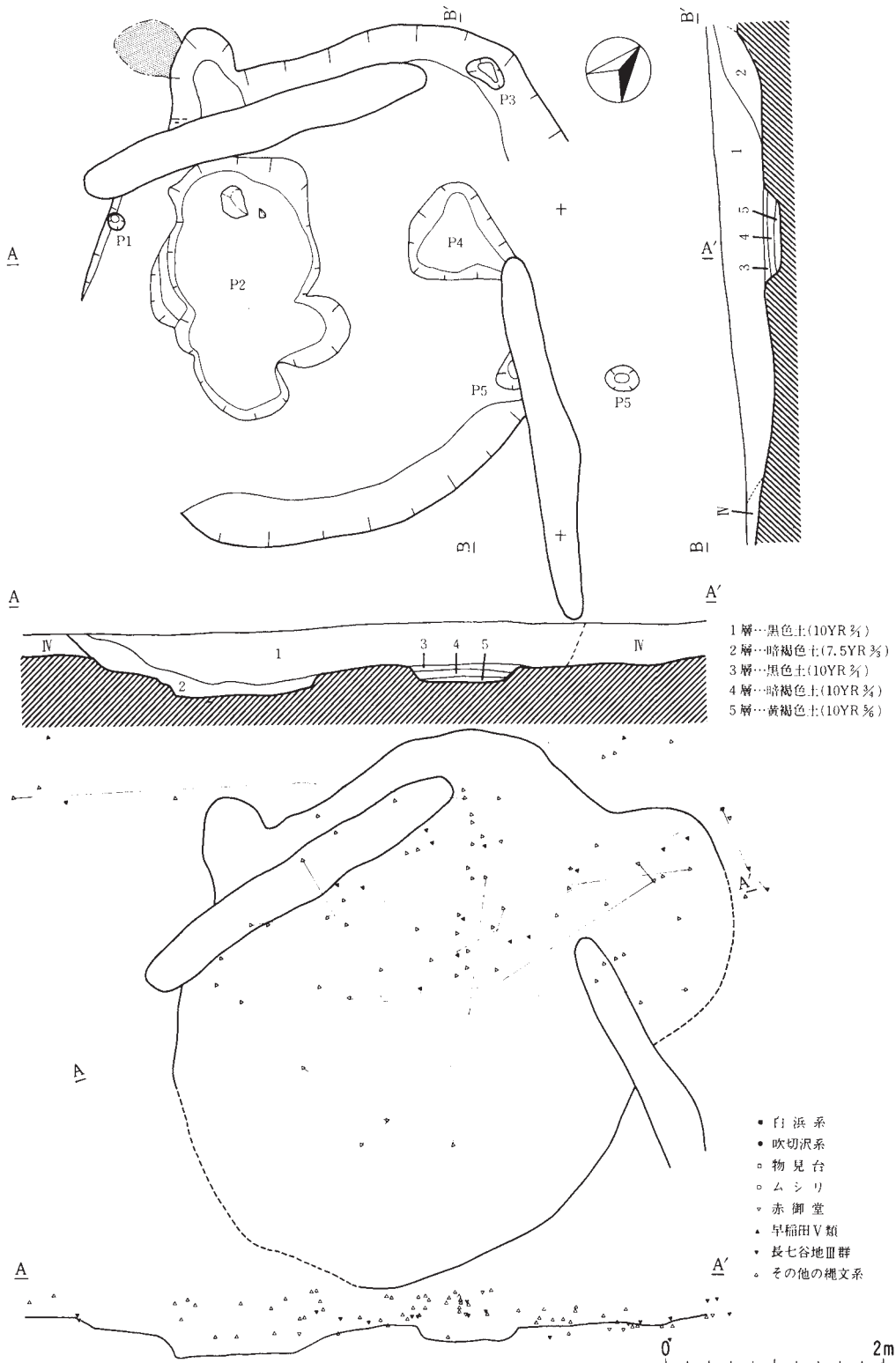


図27 5号住居跡・5号住居跡遺物出土状況

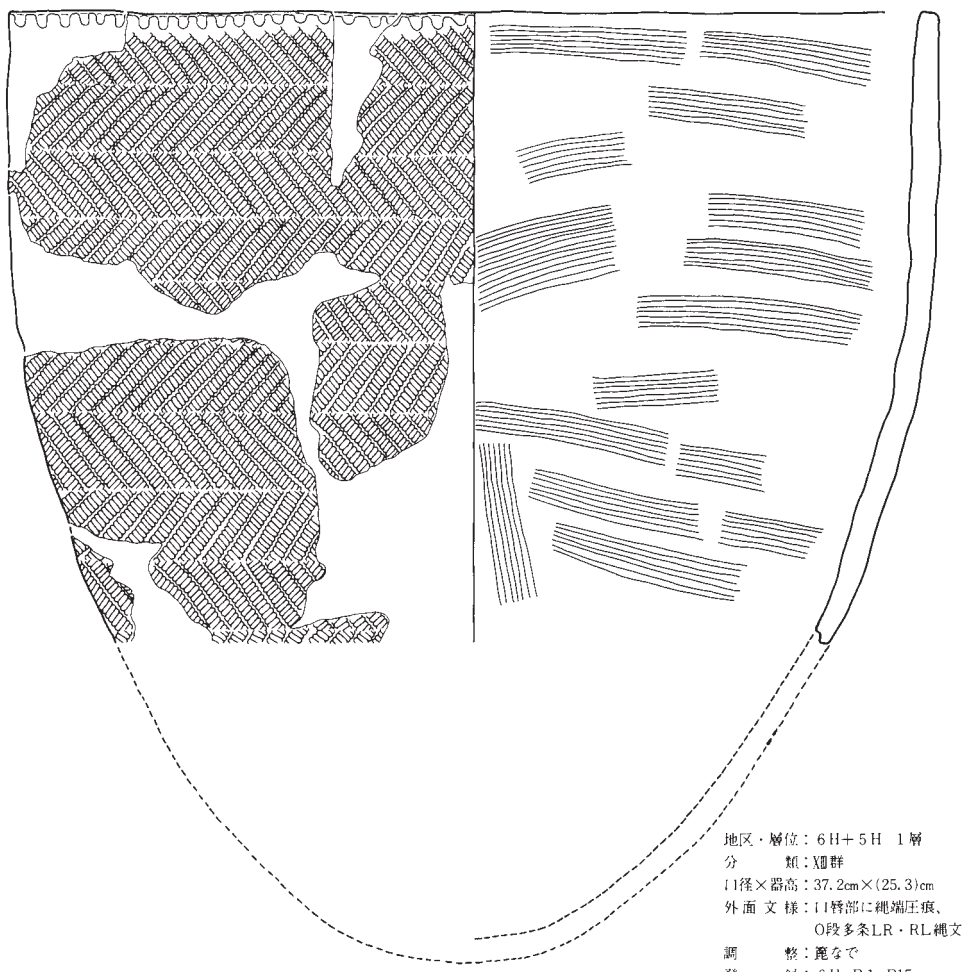


図28 5号住居跡出土遺物(1)

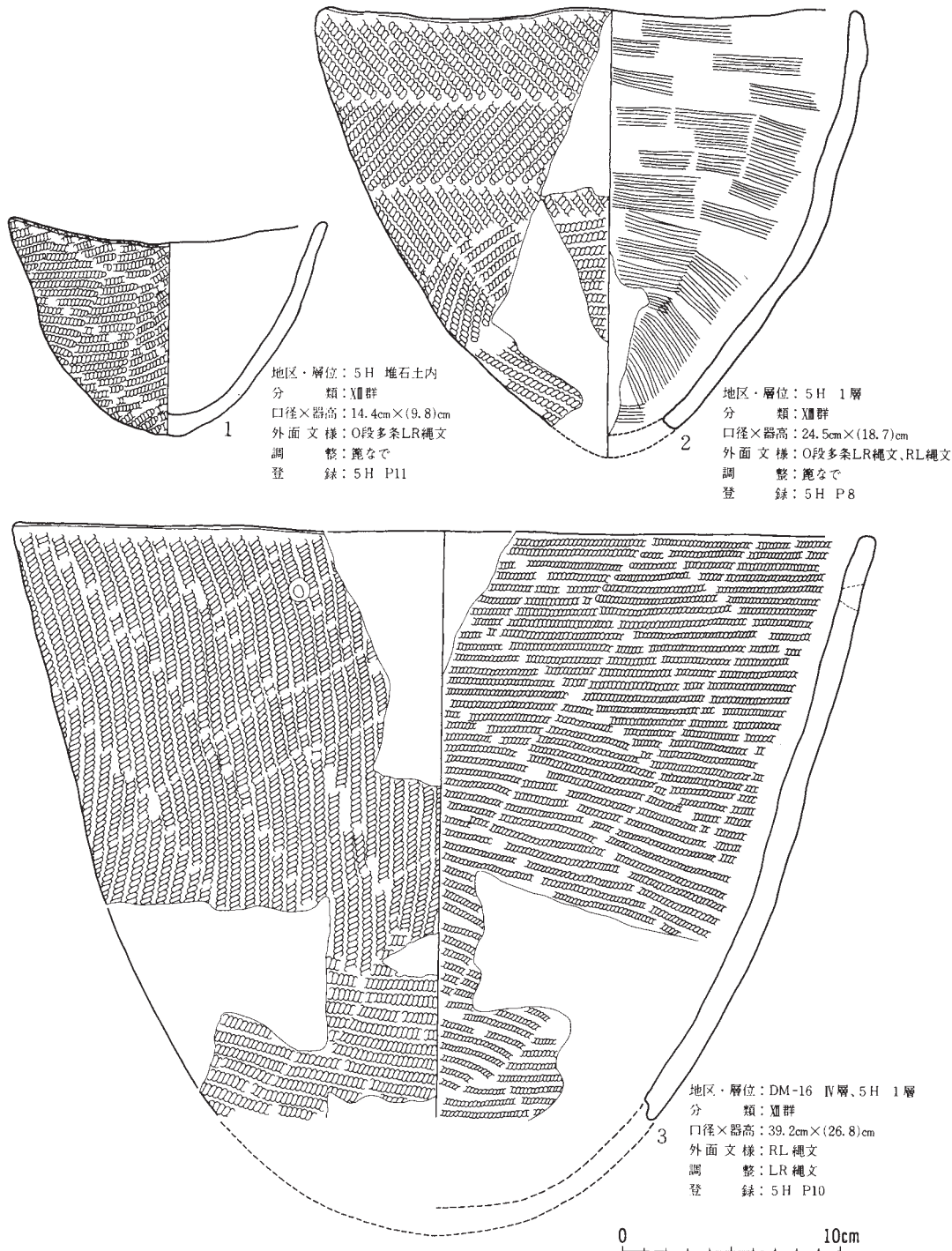
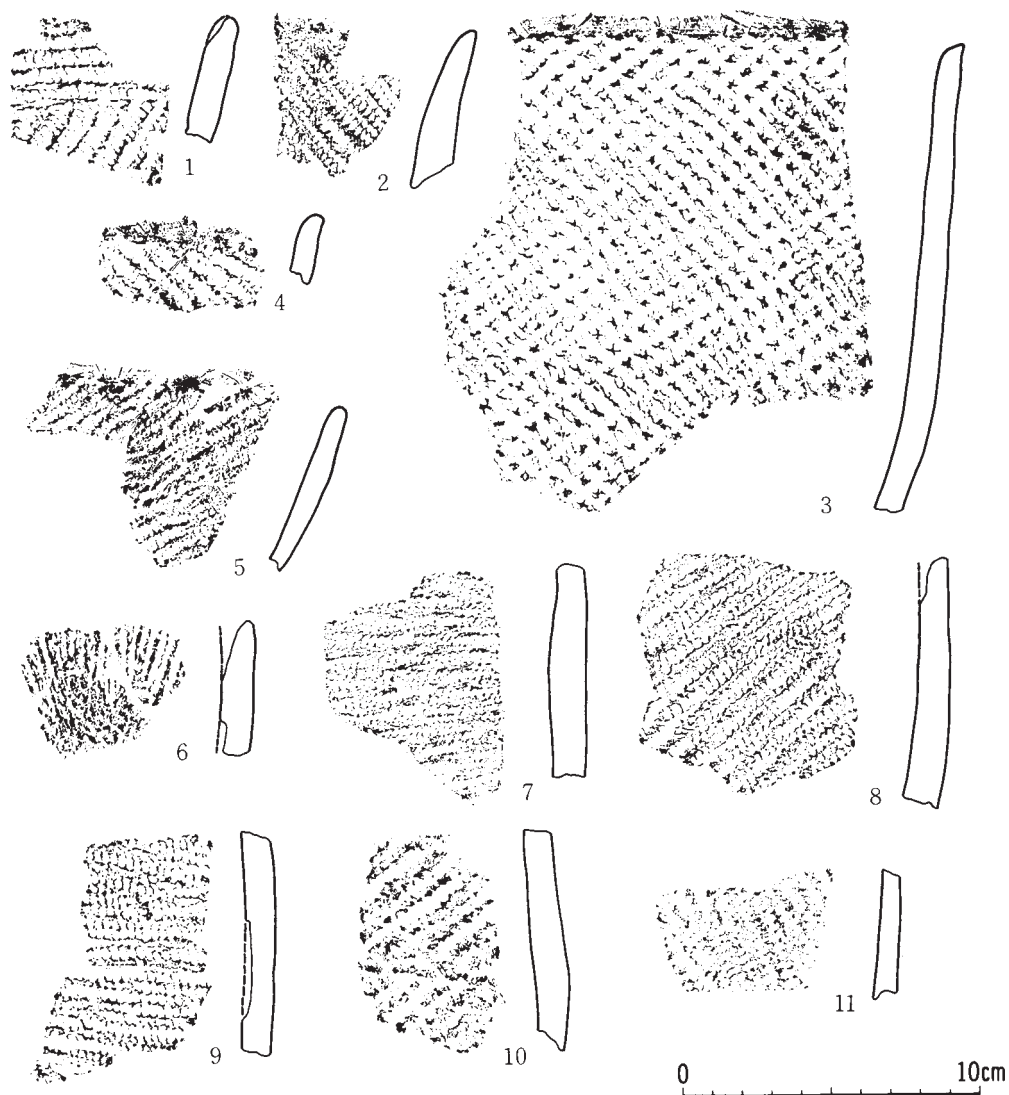


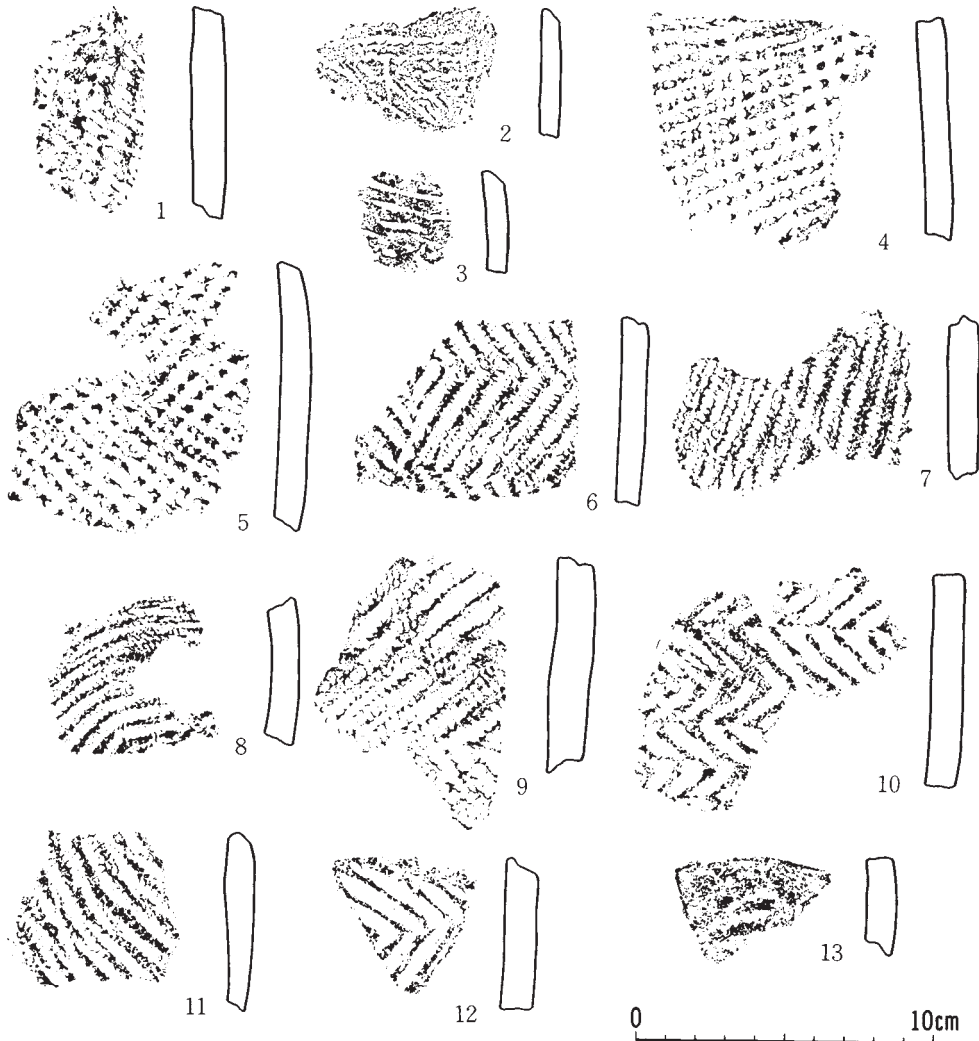
図29 5号住居跡出土遺物(2)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	5H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文・RL縄文		5H P43
2	5H 1層	X 群	口縁部	RL縄文		5H P55
3	5H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文	篋まで	5H P59
4	5H 1層	XII 群	口縁部	○段多条RL縄文		5H P83
5	5H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文		5H P28
6	5H 1層	XII 群	胴部	単軸絡条体回転文		5H P61
7	5H 1層	X 群	胴部	LR縄文		5H P61
8	5H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文		5H P56
9	5H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文		5H P79
10	5H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P56
11	5H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文		5H P44

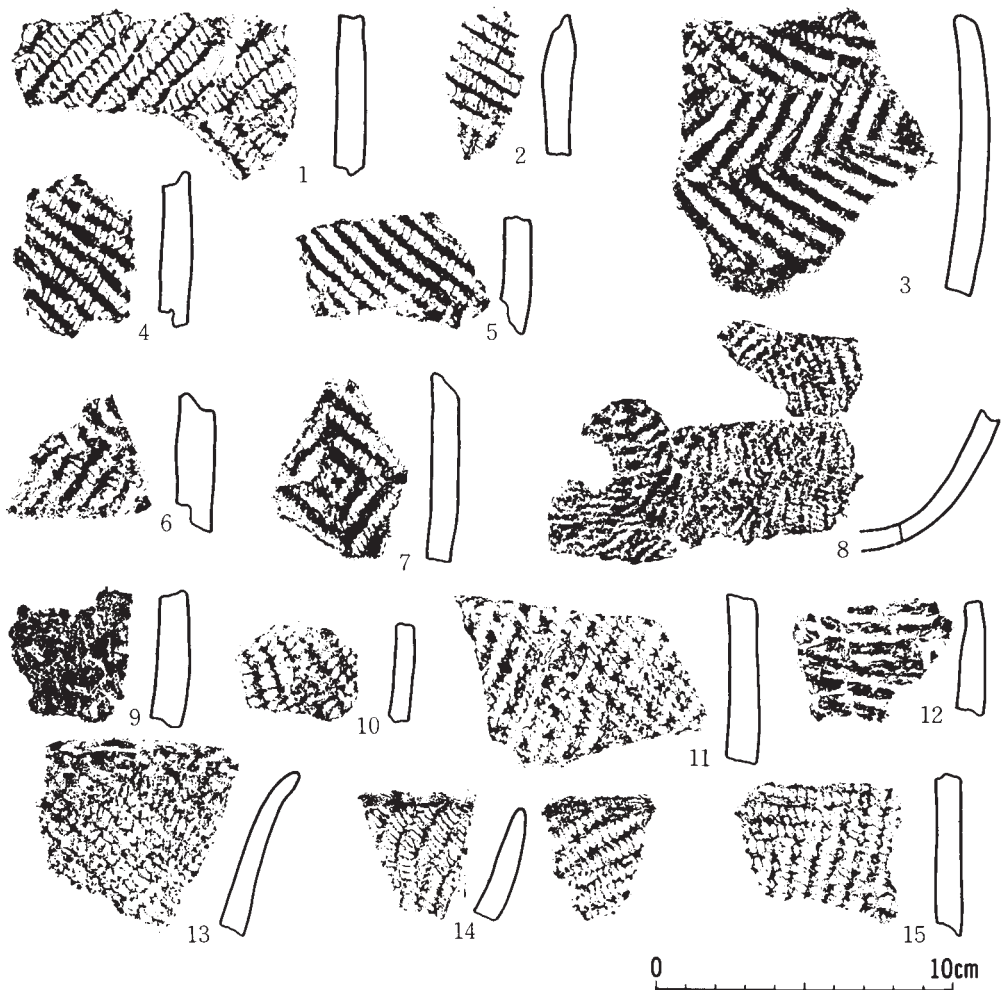
図30 5号住居跡出土遺物(3)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	5H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文		5H P10
2	5H 1層	XII群	胴部	撚糸側面圧痕文		5H P60
3	5H 1層	XII群	胴部	単軸絡糸体回転文		5H P63
4	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P11
5	5H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文		5H P20
6	5H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋まで	5H P29
7	5H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文		5H P74
8	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P63
9	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋まで	5H P31
10	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文(糸内磨消)	篋まで	5H P19
11	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P67
12	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文(糸内磨消)	篋まで	5H P39
13	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P 8

図31 5号住居跡出土遺物(4)

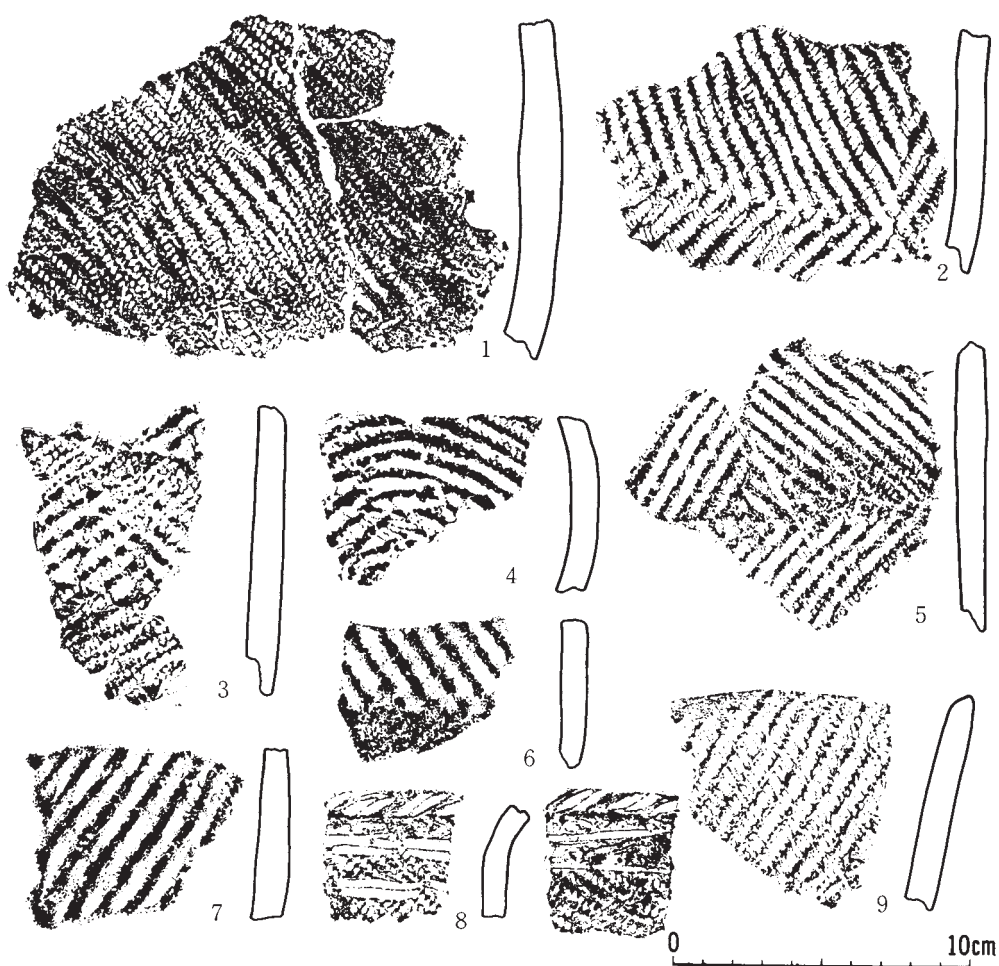


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P 45
2	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P 81
3	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P 12
4	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P 81
5	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文		5H P 58
6	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P 9
7	5H 1層	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P 66
8	5H 1層	XII群	底部	RL縄文		5H P 26
9	5H 2層	XII群	胴部	擦糸側面压痕文		5H P 23
10	5H 1層	XII群	胴部	RL縄文		5H P 44
11	5H 堆積土	XII群	胴部	○段多条LR縄文		5H P一括
12	5H 堆積土	XII群	胴部	単軸絡条体回転文		5H P 1
13	5H 堆積土	X群	口縁部	RL縄文		5H P 5
14	5H 堆積土	XII群	口縁部	○段多条LR縄文	縄文	5H P一括
15	5H 堆積土	XII群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		5H P一括

図32 5号住居跡出土遺物(5)

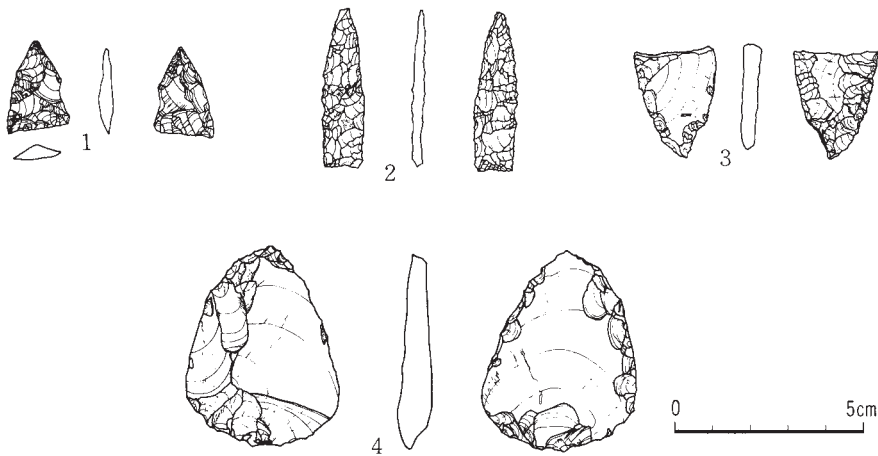




繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条RL繩文			5H P 72
2	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条LR繩文・RL繩文			5H P 70
3	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条LR繩文			5H P 73
4	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条RL繩文			5H P一括
5	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条LR繩文・RL繩文			5H P一括
6	5H 堆積土	XII 群	胴部	○段多条RL繩文			5H P一括
7	5H 床直	XII 群	胴部	○段多条LR繩文			5H P 22
8	5H 床直	IX 群	口縁部	刻日、沈線文、RL繩文		沈線・繩文	5H P 85
9	5H 床直	XII 群	口縁部	○段多条LR繩文			5H P 62

図33 5号住居跡出土遺物(6)



石鏃観察表

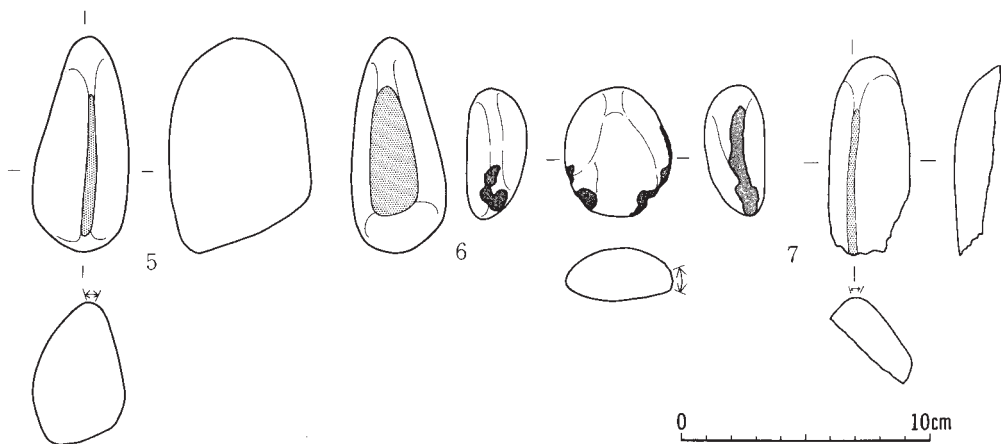
番号	地区	層位	大きさ(mm)			重さ(g)	石質	分類	長幅比
			長さ	幅	厚さ				
1	5H	1	24	12	4	1.2	珪頁	A2	II
2	5H	4	43	11	3	1.7	珪頁	B1	III

石匕観察表

番号	地区	層位	計測値(mm)			重量(g)	石質	分類	1	2	3	4	5
			長さ	幅	厚さ								
3	5H	1	41	29	7	7.5	珪頁	A1b	L	R			

石籠観察表

番号	地区	長さ	幅	厚さ	重量	石質	分類	番号
4	5H	53	41	9	18.2	珪頁	IIa	

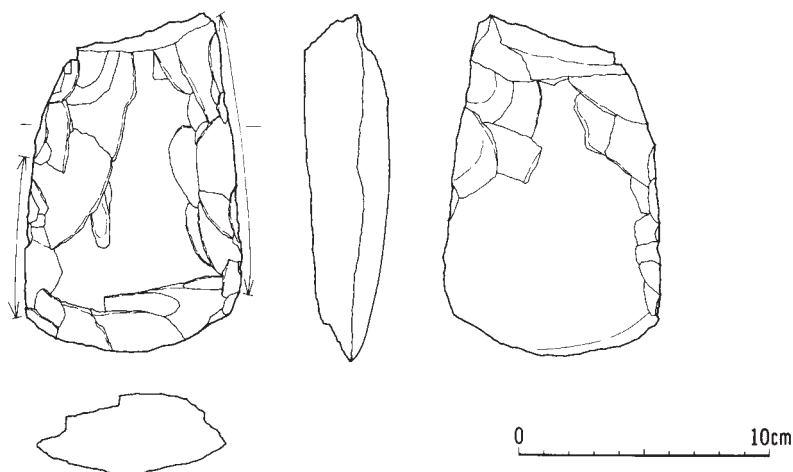


磨敲凹石類観察表

番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
5	5H	77	58	39	262	安	IIIb	ス	1		
6	5H	52	43	25	66	安	IVb	スー	1		
7	5H	(78)	(33)	(16)							

図34 5号住居跡出土遺物(7)





打製石斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部の 剥離	磨滅敲打	痕
5	H	136	87	34	501	輝	V				l c d f g h マ

図35 5号住居跡出土遺物(8)

### 6号住居跡

**位置と確認** DK - 17・18、DL - 17・18グリッドの 層に落ち込みがあり、遺物もまともに出土したので、住居跡と確認した。

**平面形** 南壁は5号住居跡と重複しているため不明であるが、西壁及び北壁の残存状況から推測して、直径約3.6mの不整形円形を呈するものと思われる。

**重複** 住居跡の中央部を南西にむかって8号溝状ピットがのびている。南側の約 $\frac{1}{3}$ は5号住居跡と重複している。覆土の観察及び遺物の出土状態から溝状ピットが新しいと思われる。5号住居跡との新旧関係は確認できない。

**覆土** 比較的良く残っている北西壁で約40cm、南東の5号住居跡との重複地点では20cmの厚さで、2層に区分できた。1層は黒褐色、2層は褐色を呈し、2層とも遺物(赤御堂式が主体)を包含している。

**壁・床面** 南東部のおよそ $\frac{1}{3}$ は5号住居跡と重複するため壁・床面とも不明であるが、残存する壁高は確認面から20cm内外で、立ち上がりは、ほぼ45度である。床面は平坦で、固くしまっている。床面から倒立した土器が1点出土した。炉跡、出入口などは確認できなかった。

**ピット** 2基確認した。ピット1は直径25cm、深さ22cmであるが、柱穴と断定するには至らなかった。ピット2は長径40cm、短径30cmの楕円形を呈し、深さ22cmである。底面から土器

が1個体分出土した。

表9 6号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	25	25	22		2	40	30	22	底面から土器出土

出土遺物と時期決定 覆土は2層に分けられ、それぞれから長七谷地 群ほかの土器が出土した。また、床面と床面にあるピットから復元できた土器1個体ずつ(図37の1~2)出土した。これら床面及びピットから出土した土器は、早稲田 類と長七谷地 群の間に位置すると思われる土器であるが、従来からの型式ではあてはまるものがなく、本遺跡の土器分類で群としたものである。

本住居跡の構築時期は、床面及び床面ピットから出土した土器により、早稲田 類と長七谷地 群の間、売場 群期と言える。

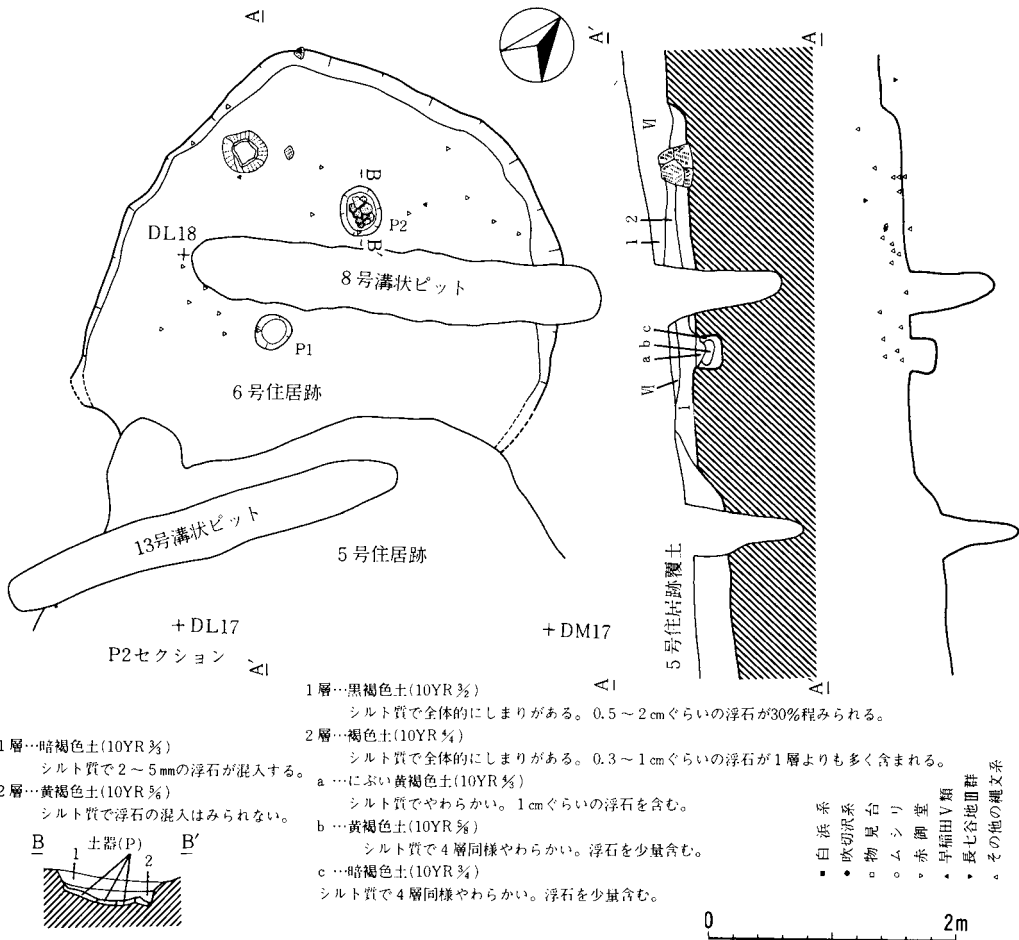
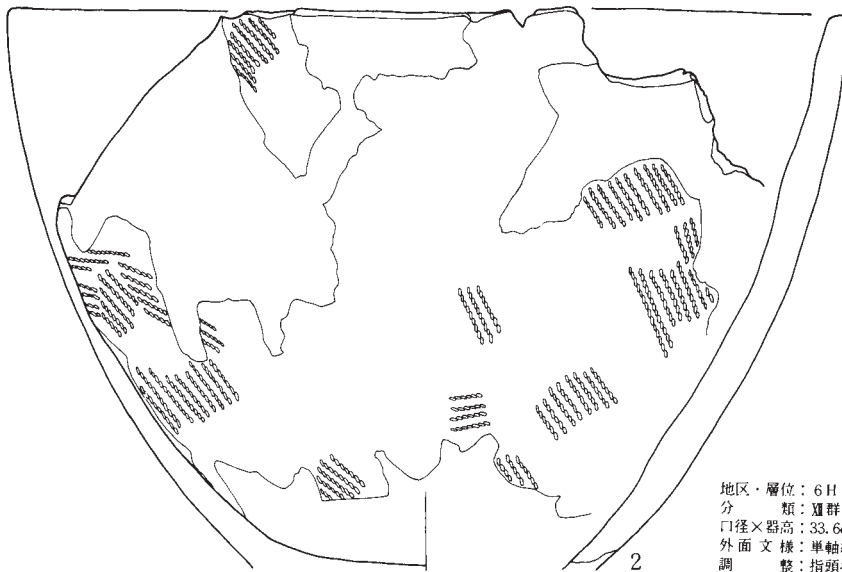


図36 6号住居跡

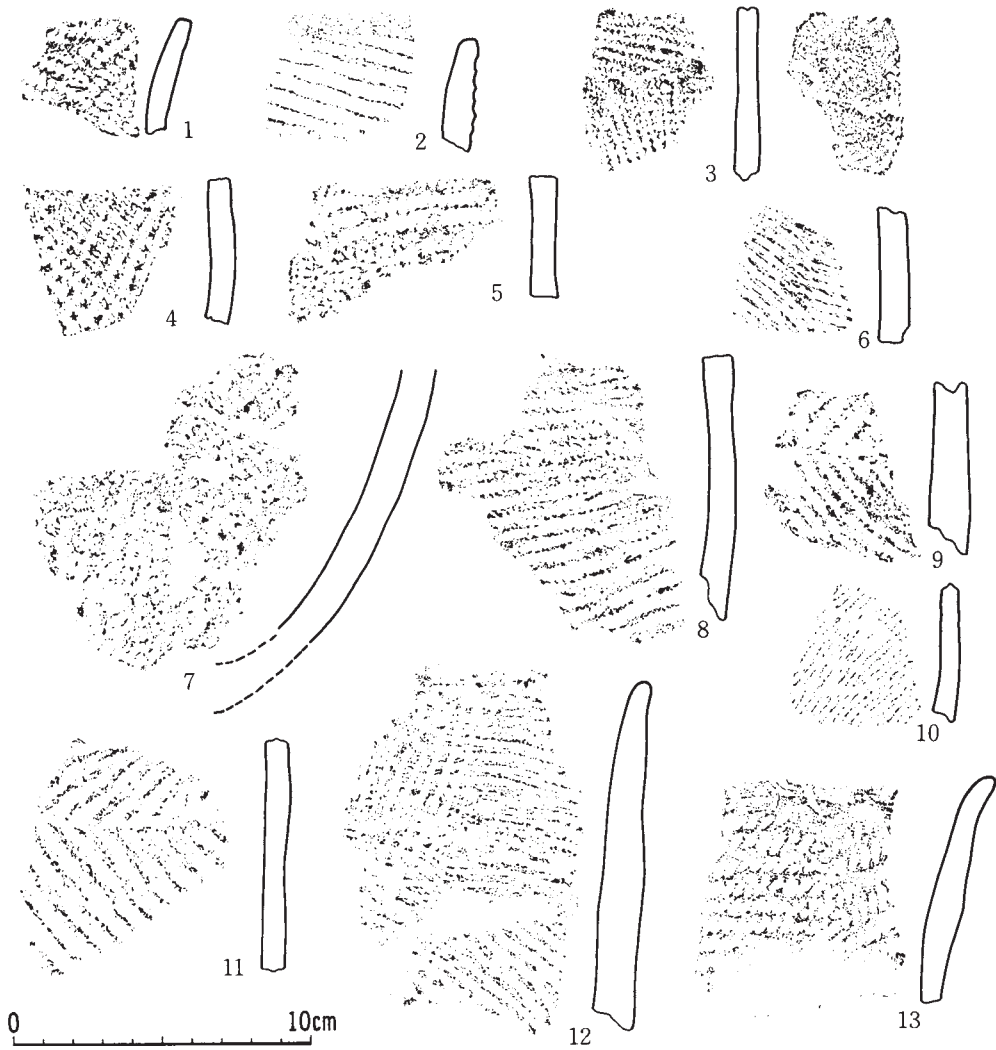


1  
 地区・層位：6H  
 分類：Ⅷ群  
 口径×器高：31.4cm×(24.5)cm  
 外面文様：O段多条RL縄文  
 調整：匏まで  
 登録：P23



2  
 地区・層位：6H  
 分類：Ⅷ群  
 口径×器高：33.6cm×(22.3)cm  
 外面文様：単軸綵条体回転文  
 調整：指頭押痕  
 登録：P2

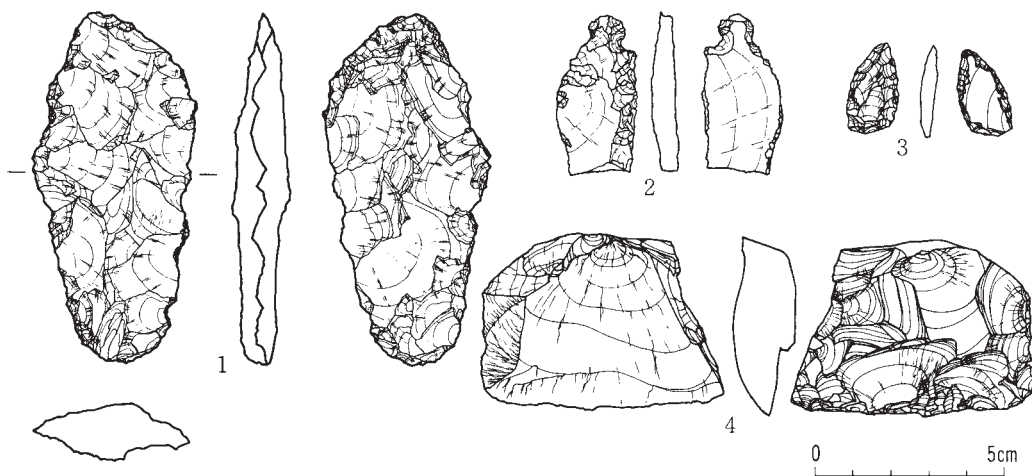
図37 6号住居跡出土遺物(1)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	6H 1層	XII群	口縁部	RL縄文			6H P 201
2	6H 1層	XII群	口縁部	○段多条RL縄文		篋まで	6H P 202
3	6H 1層	XII群	胴部	RL縄文		縄文	6H P 203
4	6H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文			6H P 14
5	6H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文			6H P 204
6	6H 1層	XII群	胴部	単軸絡条体回転文			6H P 20
7	6H 2層	XII群	底部	○段多条LR縄文			6H P 4
8	6H 2層	XII群	胴部	○段多条LR縄文			6H P 6
9	6H 2層	XII群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文			6H P 7
10	6H 堆積土	XII群	胴部	単軸絡条体回転文			6H P 18
11	6H 1層	XII群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文			6H P 22
12	6H 堆積土	XII群	口縁部	単軸絡条体回転文			6H P 19
13	6H 床直	X群	口縁部	○段多条LR縄文			6H P 21

図38 6号住居跡出土遺物(2)



石槍観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
1	6H	床面	(92)	44	(15)	(45.4)	珪頁		

石匕観察表

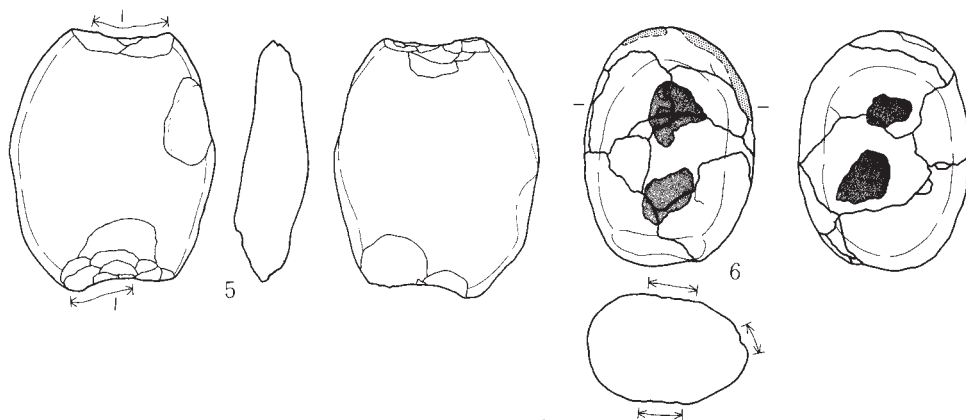
番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
2	6H	1層	(43)	21	7	(5.8)	珪頁		

石鏃観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	石質	長幅比
3	6H	1層	25	13	4	1.2	珪頁	D	I

スクレーパー観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	
4	6	H	1	47	64	16	63.0	珪頁



石錘観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	
5	6	H	105	83	23	294	砂	IV

磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
6	6H	95	69	44	338	安	IVb	スーダ	1		

図39 6号住居跡出土遺物(3)

## 8号住居跡

**位置と確認** DJ - 19・20、DK - 19・20グリッド 層上面で暗褐色の落ち込みを確認した。

**平面形** 他の遺構により破壊されているので、平面形、規模等は不明である。

**重複** 1・9号土壌に切られている。

**覆土** 確認できたのは浮石をわずかに含む暗褐色土1層にすぎない。

**壁・床面** 北壁・西壁の一部が残っているにすぎない。壁高は約10cmと浅く、やや垂直に立ち上がる。床面は平坦で、かたくしまっている。出入口、炉跡などは確認できなかった。

**ピット** 西隅で1基確認したが、柱痕は確認できなかった。平面形は長径30cm、短径20cmの楕円形を呈する。

**出土遺物と時期決定** 本住居跡に伴う遺物は1点も出土しなかった。そのため住居跡の時期は断定できない。確認土層及び周辺の出土遺物等から長七谷地群あたりとも思われる。

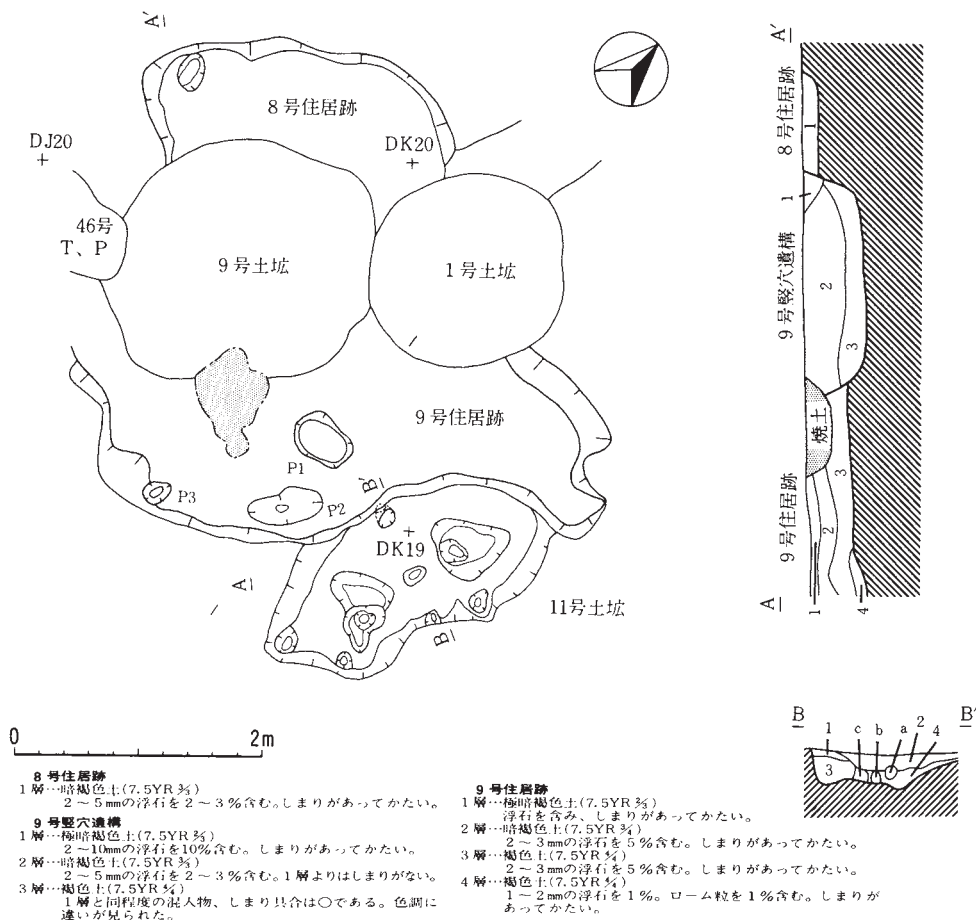


図40 8・9号住居跡、9号土壌

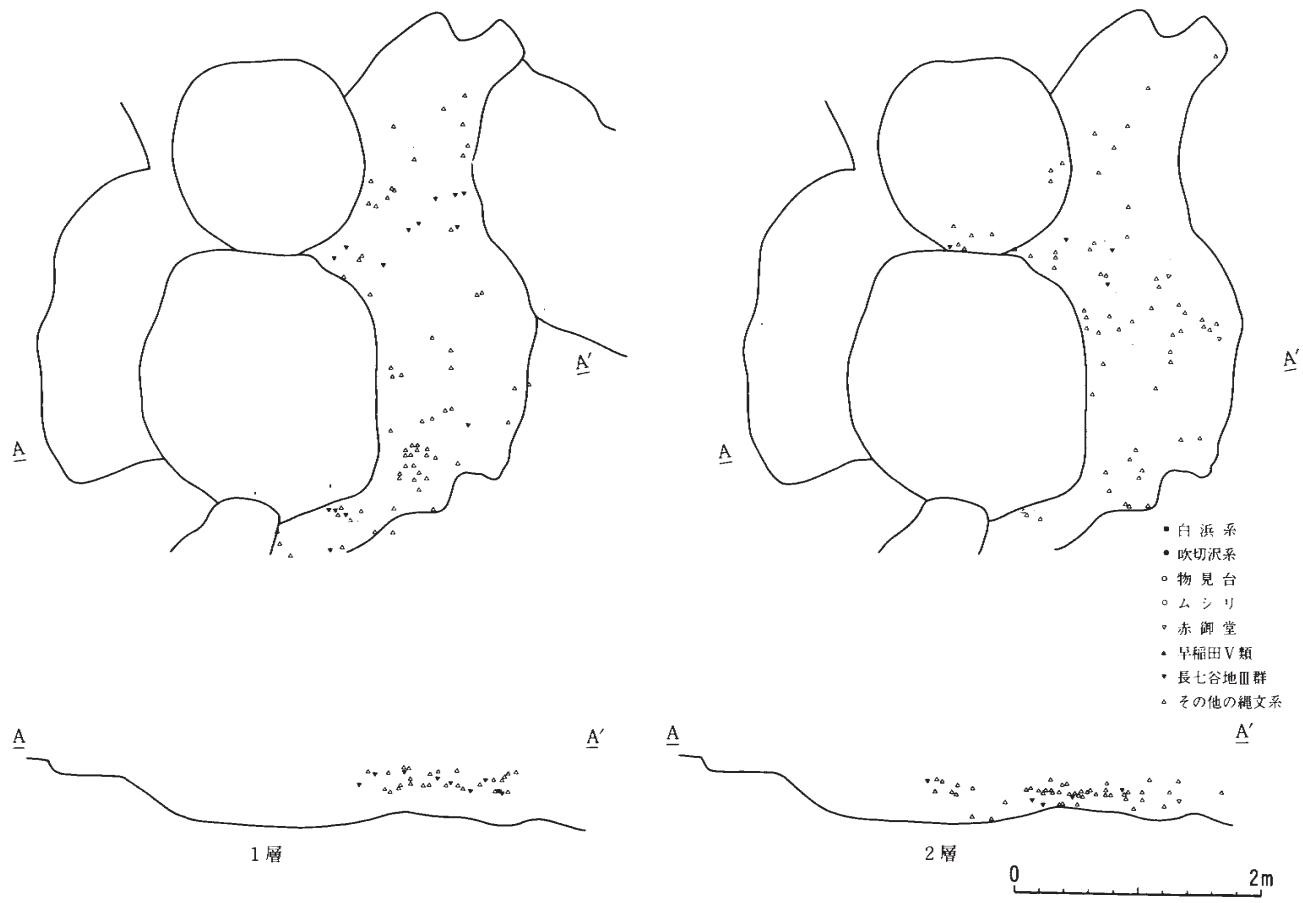


図41 9号住居跡遺物出土状況



## 9号住居跡

位置と確認 DJ - 19、DK - 19グリッド 層上面で極暗褐色の落ち込みを確認した。

平面形 8号住居跡と同様、他の遺構によってかなり破壊されているので、平面形、規模などは不明である。

重複 1・9号土壇、4号竪穴遺構に切られている。

覆土 4層に区分できた。ほとんど褐色系シルト質土で、堆積状況からみて自然堆積と思われる。

壁・床面 壁は北壁の一部しか残存せず、明確に把握できない。床面は凹凸しているが、かたくなっている。出入口、炉跡などは確認できなかった。

ピット 確認できたピットは合計3基である。柱痕を確認したものはなく、柱穴配置等は不明である。

表10 9号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	50	30	—		3	22	16	—	
2	60	24	22						

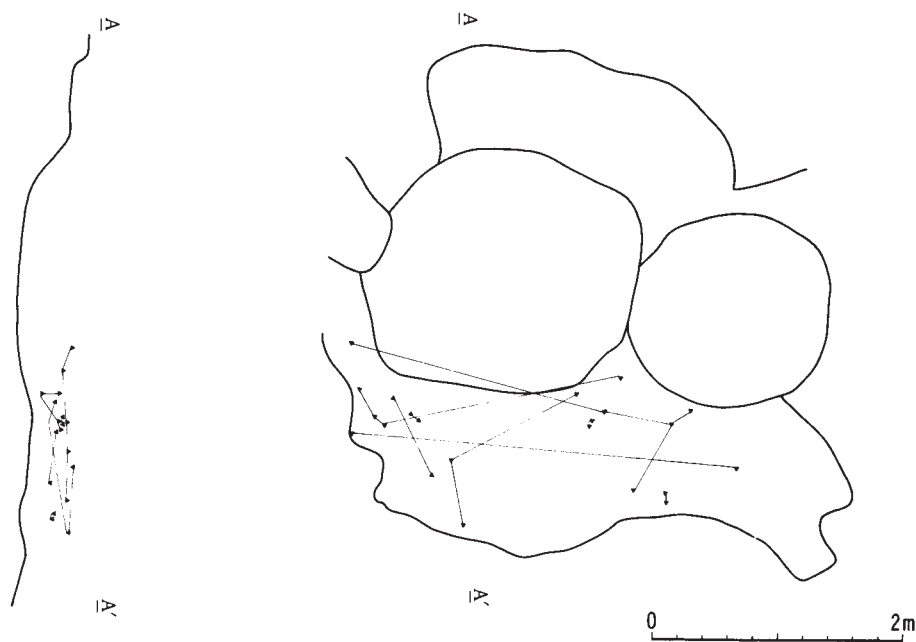
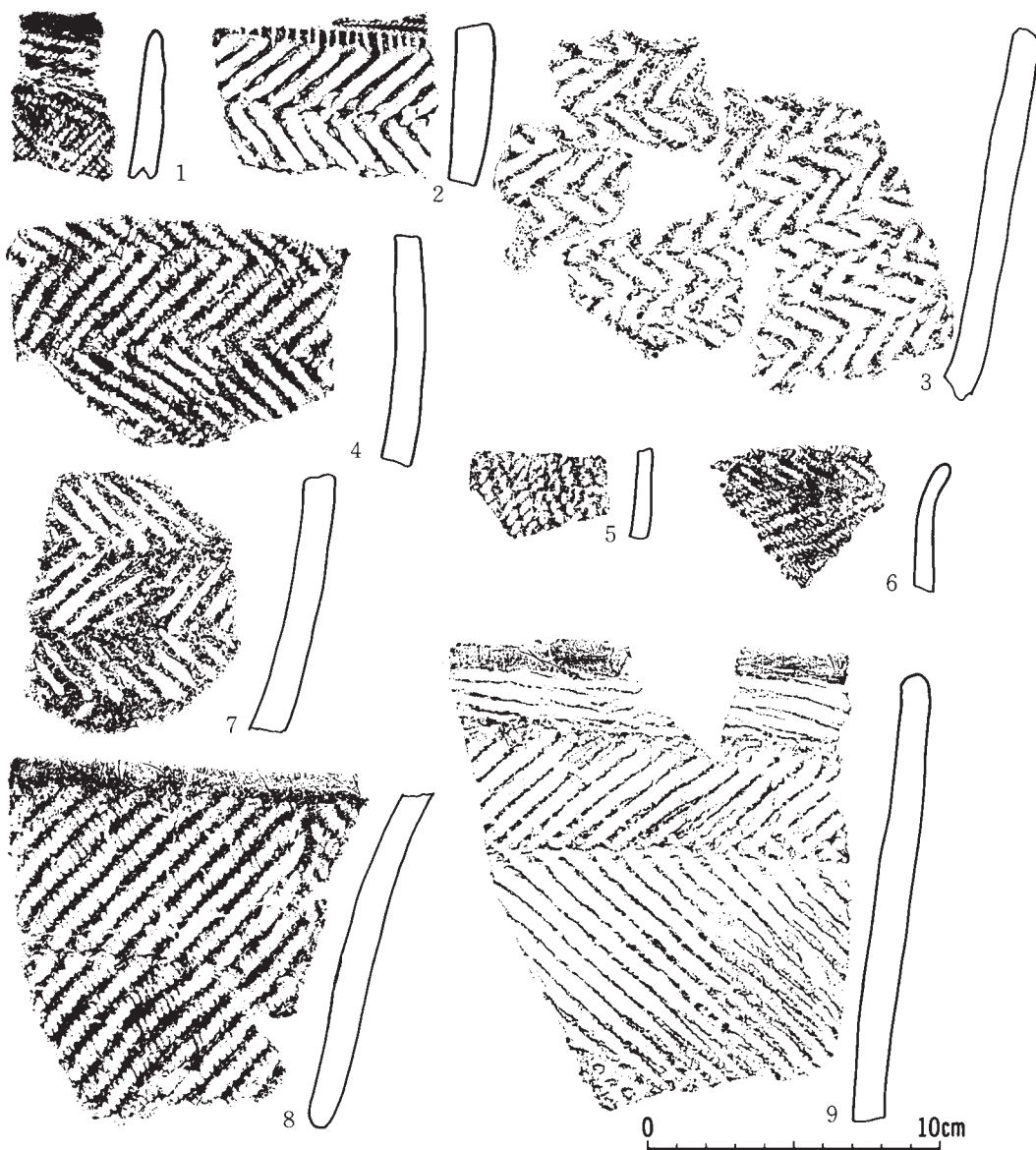


図42 9号住居跡遺物接合関係



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	9H 1層	XII 群	口縁部	擦糸側面圧痕文、○段多条LR縄文		9H P 264
2	9H 1層	XII 群	胴部	口唇部刻目、○段多条LR縄文、RL縄文		9H P 52
3	9H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文(条内磨消)	篋など	9H P 100
4	9H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文		9H P 35
5	9H 2層	IX 群	胴部	RL縄文		9H P 239
6	9H 2層	IX 群	口縁部	○段多条RL縄文		9H P 298
7	9H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋など	9H P 27
8	9H 2層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文	篋など	9H P 146
9	9H 2層	XII 群	口縁部	○段多条RL縄文・LR縄文		9H P 103

図43 9号住居跡出土遺物

焼土 遺構確認面で本住居跡と同時に焼土を確認したが、土層断面図で明らかなように、本住居跡とは直接関係がない。

出土遺物と時期決定 覆土 1 ~ 2 層から赤御堂式及び長七谷地 群の土器が出土した。ムシリ系の土器は 1 点も出土していない。石器には石鏃・石錐・石筥等がある。

本住居跡の時期を決定できるような遺物の出土状態はみられなかった。しかし、覆土から赤御堂式、長七谷地 群の土器が出土していることから、長七谷地 群期あたりの住居跡と思われる。

### 10号住居跡

位置と確認 DM - 15・16グリッド 層で 1 号住居跡及び22号溝状ピットを精査したところ、プランははっきりしないが、床面を検出したので住居跡と確認した。

平面形 円形状を呈すると思われるが、大部分他の遺構に切られ、確認することができなかった。

重複 1 号住居跡及び22号溝状ピットと重複している。切り合い関係や覆土の堆積状況から、本住居跡が最も古く、次いで22号溝状ピット、1号住居跡の順に新しくなる。

覆土 4 層に区分できた。極暗褐色～褐色を呈し、全体に浮石を含む。

壁・床面 壁及び床面を確認した部分は少ない。確認部分では南西壁は高さ20cm、北壁は10cmほどである。立ち上がりはどちらも45度くらいの傾斜である。床面はほぼ平坦で固くしまっている。

ピット 床面から 5 基確認した。ピットの位置や深さなどから 1 ~ 4 のピットが柱穴と考えられる。

表11 10号住居跡ピット一覧表

ピット 番 号	掘り方の規模			備 考	ピット 番 号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	30	20	17.5	柱 穴	4	48	30	15.4	柱 穴
2	20	15	15.0	〃	5	35	17	16.8	
3	24	15	11.0	〃					

その他の施設 西壁の一部が内側に凹んだところがあり、出入口などの施設ではないかと考えられたが、床面にこれに伴うような特別なピットなどは確認できなかった。

出土遺物と時期決定 床面直上から赤御堂式の土器片 4 点出土した。いずれも胴部の破片である。このことから、本遺構は赤御堂式期の住居跡と思われる。

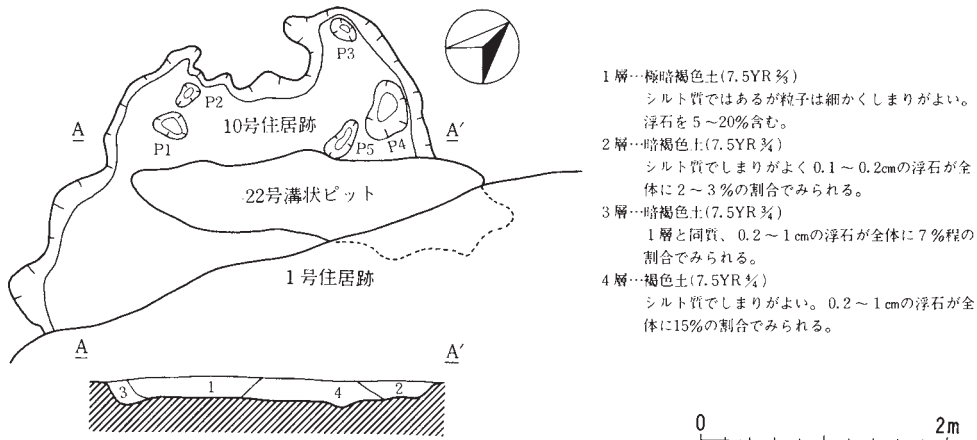
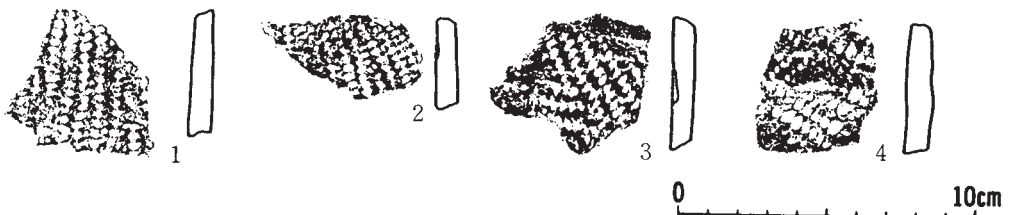


図44 10号住居跡



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	10H 堆積土	Ⅹ群	胴部	R L縄文			10H P 2
2	10H 堆積土	Ⅹ群	胴部	R L縄文			10H P 4
3	10H 堆積土	Ⅹ群	胴部	R L縄文			10H P 3
4	10H 1層	Ⅹ群	胴部	L R縄文			10H P 1

図45 10号住居跡出土遺物

### 11号住居跡

**位置と確認** D L - 13・14、DM - 13・14グリッド 層で円形の落ち込みを確認した。

**平面形** 東西約3.7m、南北は1号住居跡によって切断され不明である。平面形は残された壁の状況から推定して、ほぼ円形を呈すると思われる。

**重複** 住居跡の北側<sup>1</sup>は歴史時代に掘り込まれた1号住居跡によって切断されている。また25号溝状ピットが東側から南西壁を通して掘り込まれ、さらに、24号溝状ピットも西側床面に一部みられる。

**覆土** 最も深い北側で厚さ約35cmあり、5層に区分できた。いずれも自然堆積によるものと思われる。なお、焼土は厚さが5cmほどである。

**壁・床面** 壁で良好に残っている部分は西側の一部のみである。ほかは他の遺構により破壊されている。西壁は深さが30cm、立ち上がりの角度はおよそ25度である。床面は地形に沿っ

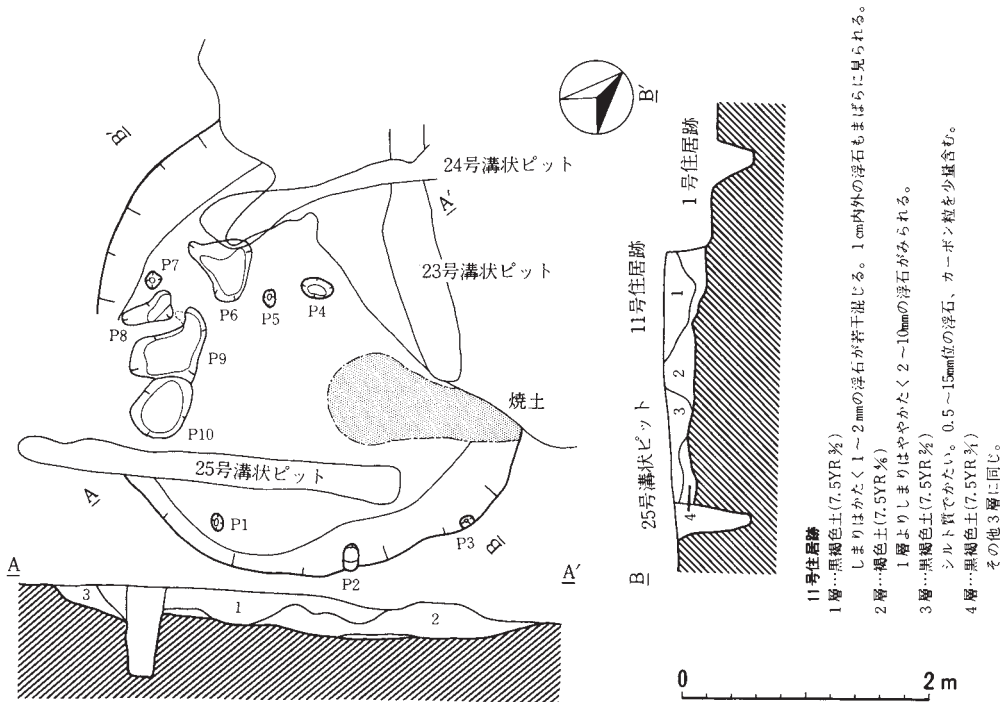


図46 11号住居跡

て北東にいくぶん傾き、凹凸している。

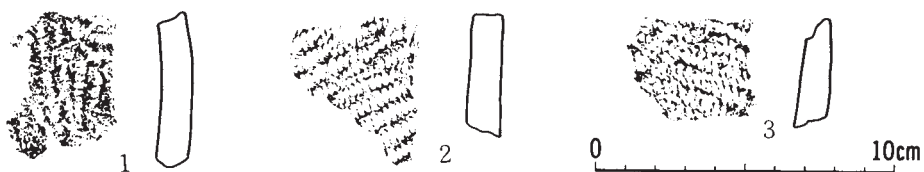
ピット 壁で2基、床面から8基、計10基を確認した。このうち柱穴と思われるのは、その位置や深さなどから、ピット1~3、7の4基と思われる。

表12 11号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	13	10	11.4	柱 穴	6	58	40	15.4	
2	21	12	14.0	〃	7	14	13	13.3	柱 穴
3	10	8	10.3	〃	8	20	18	15.5	
4	25	14	17.9		9	72	26	14.7	
5	14	10	14.9		10	54	42	22.5	

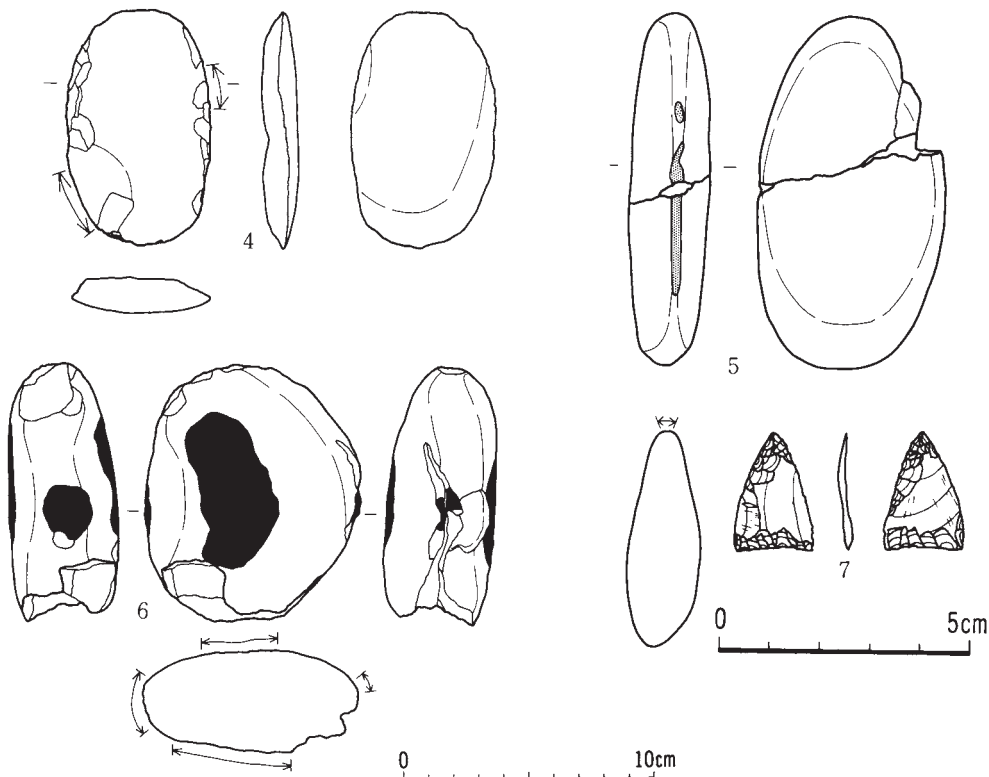
焼土 床面東側で焼土を確認した。分布範囲は幅70cm、長さ160cmに及ぶが、精査したところ、幅70cm、長さ80cm位の地床炉であった可能性も考えられる。

出土遺物と時期決定 床面直上から赤御堂式の土器片が3点出土した。いずれも胴部破片である。石器には石鏃、打製石斧等がある。土器の出土状態から、本住居跡は赤御堂式期の住居跡と思われる。



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	11H 1層	Ⅸ群	胴部	RL縄文			11H
2	11H 1層	Ⅸ群	胴部	LR縄文			11H P 2
3	11H 1層	Ⅸ群	胴部	RL縄文			11H P 1



打製石斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剝離	磨滅敲打	痕
4	11 H	94	57	13	108	安	Ⅲ			1eマ	

磨凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
5	11H	141	76	33		砂	Ⅲb	ス	ノ		
6	11H	95	85	45							

石鏃観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
7	11H	1層	24	16	2	0.8	珪頁	A <sub>2</sub>	I

図47 11号住居跡出土遺物

### 13号住居跡

**位置と確認** DN - 13グリッドの層で確認した。住居跡の南西側は1号住居跡及び8号土壇によって切られている。

**平面形** 南北2.7m、東西は他の遺構と重複して不明であるが、残存状態から2m内外と推定され、ほぼ楕円形を呈するものと思われる。

**重複** 南西は8号土壇、西側は1号住居跡と重複している。新旧関係は、覆土の堆積状況から本住居跡が最も古く、次いで8号土壇、1号住居跡の順になる。

**覆土** 10~20cmと浅い。土質はほぼ均一で区分することができなかった。

**壁・床面** 確認面からの壁高は北壁20cm、東壁15cm、南壁10cmと浅く、30~45度の緩傾斜で立ち上がる。西壁は8号土壇と1号住居跡により破壊されている。床面はほぼ平坦である。炉跡、出入口などは確認できなかった。

**ピット** 北側床面で1基確認した。直径約30cm、深さは13~14cmで、平面形はおおむね円形を呈する。

**出土遺物と時期決定** 確認が遅れたため覆土が浅く、出土土器も4点しかなかった。物見台式の口縁部片1点、赤御堂式の胴部片3点である。

出土遺物が少なく明言できないが、床面直上に赤御堂式の土器があったので、その時期の住居跡と言えよう。

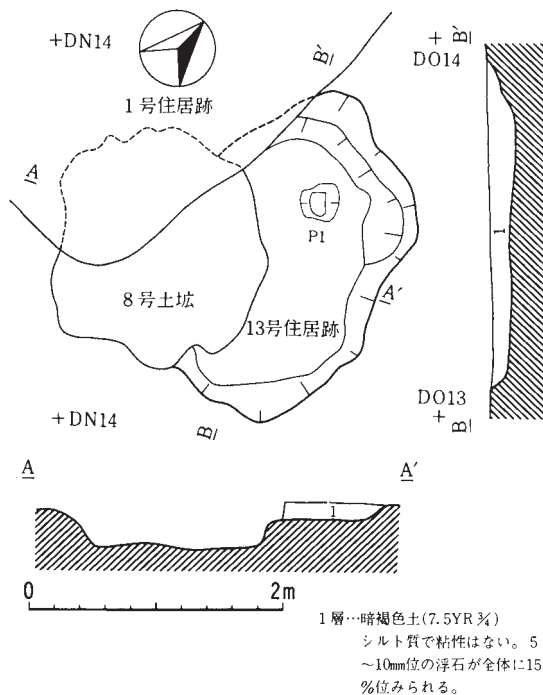
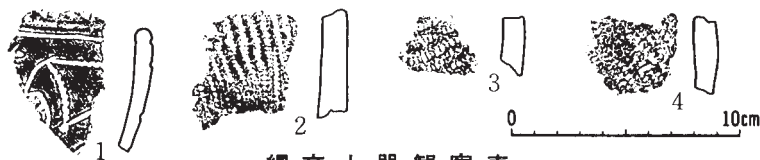


図48 13号住居跡



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	13H 1層	V 群	口縁部	沈線文、見殻腹縁文、刺突文			13H P 3
2	13H 1層	IX 群	胴部	L R 縄文			13H P 1
3	13H 1層	IX 群	胴部	L R 縄文			13H P 2
4	13H 1層	IX 群	胴部	R L 縄文			13H P 2

図49 13号住居跡出土遺物



## 15号住居跡

位置と確認 DM - 11・12グリッド 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 溝状ピットに切られているため、一部不明な箇所もあるが長軸約2.6m、短軸 2mで不整形を呈する。

重複 30・31号溝状ピットにより、中央部が切られている。

覆土 深い所で24cmほどで、3層に区分できた。下層になるにしたがい、黒褐色から黄褐色へと変化する。いずれもシルト質でかたくしまっている。

壁・床面 壁は溝状ピットに切られた部分以外は残っているが、立ち上がり部は明瞭でなく、傾斜も緩い。壁高は高い所で10cmくらいである。床面は平坦で固くしまっている。

ピット 南半分の壁に沿って5基確認した。直径は10～30cm、深さ10～15cmでいずれも壁の立ち上がりぎわにあり、他の住居跡の例から柱穴に使用されたものと思われる。

表13 15号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	30	25	14.8	壁柱穴	4	20	18	9.5	壁柱穴
2	12	10	9.5	〃	5	20	16	13.4	〃
3	10	10	10.7	〃					

焼土 住居跡の床面ほぼ中央部に認められた。分布範囲は溝状ピットによって一部切られているが、残存状況から幅40cm、長さ50cmぐらいと思われる。焼土下には落ち込みはみられなかった。

出土遺物と時期決定 覆土1～2層から、物見台式とムシリ式土器が出土した。ムシリ式土器が主体であり、物見台式は数片にすぎない。縄文系の土器は出土しなかった。石器には打製石斧があったほか、フレークや礫が出土した。

本住居跡はムシリ式期のもと思われる。

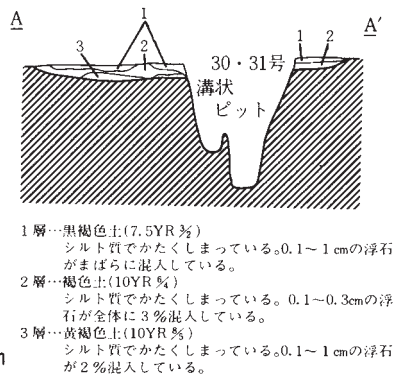
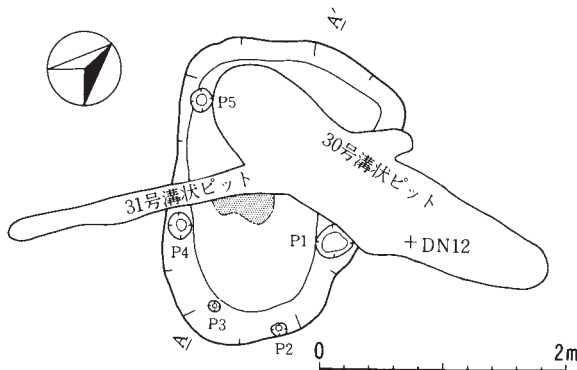
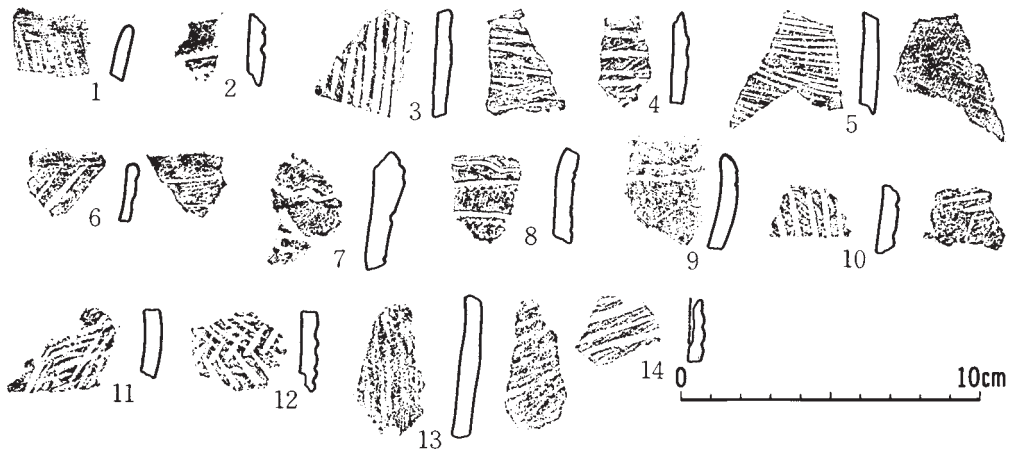
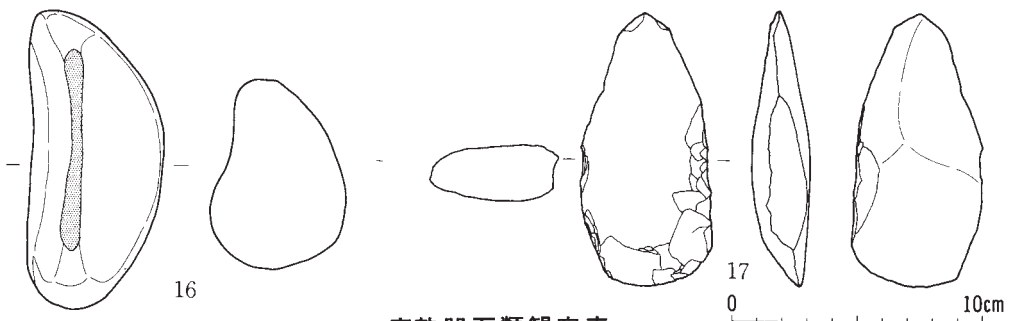


図50 15号住居跡



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	15H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	15H P 1
2	15H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 4
3	15H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 12
4	15H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 13
5	15H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 14
6	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 2
7	15H 2層	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文			15H P 6
8	15H 2層	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文			15H P 5
9	15H 2層	V 群	口縁部	沈線文・貝殻腹縁文			15H P 3
10	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 9
11	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 7
12	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 8
13	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 10
14	15H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	15H P 11



磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
16	15H	120	55	50							

打製石斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剥離	磨滅敲打	痕
17	15 H	110	53	23	151	砂	IV				

図51 15号住居跡出土遺物

## 201号住居跡

位置と確認 E K - 23・24、E L - 23・24、E M - 23・24グリッド 層で落ち込みを確認した。

平面形 長径5.1m、短径4.2mの楕円形を呈する。

重複 223号溝状ピットに切られている。

覆土 2層に区分できたが、1層は標準土層の 層上部と、2層は 層下部と同質である。

壁・床面 落ち込みが浅くレンズ状を呈し、しかも傾斜がゆるやかであるため、壁の立ち上がり部を明瞭に確認することができなかった。床面の最も深い箇所は約30cmである。また、床面に柱穴等は認められなかった。東壁近くに焼土の広がりがあったが、住居跡に伴うかどうかは不明である。

出土遺物と時期決定) 出土遺物には、1層からは物見台式、早稲田 類、ムシリ 式、2層からは吹切沢式、ムシリ 式、早稲田 類の各土器がある。いずれも破片だけであり、器形のわかるものはない。石器には石鏃、石錘、石匕、スクレーパー等がある。

遺構の時期を確定づける出土状態の遺物はなかったが、比較的床面に近く、しかも多く出土しているムシリ 式期の遺構と推測される。

その他 層で落ち込みを確認し、住居跡としたものであるが、覆土の状況、壁の立ち上がり等から、あるいは風倒木痕との見方もある。

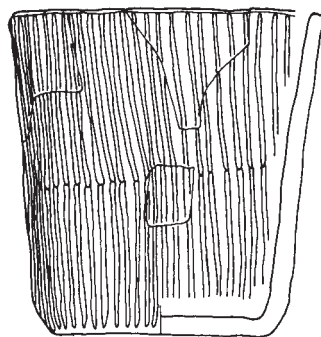
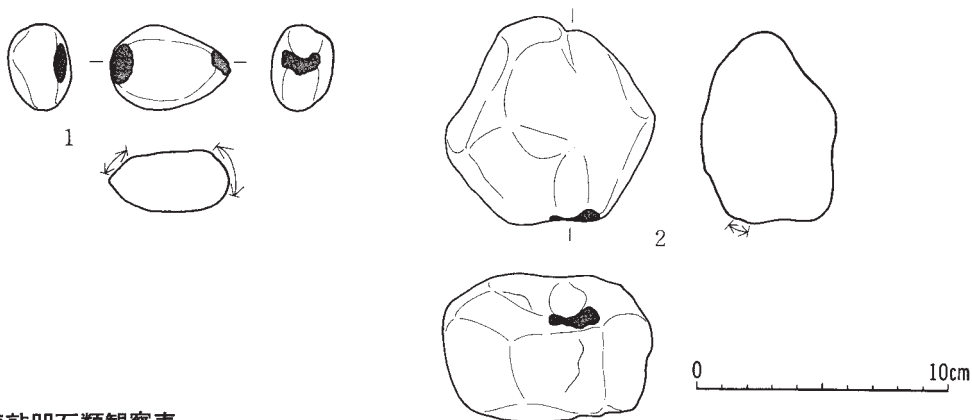


図52 201号住居跡  
出土遺物(1)



磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	80 202日東礪セクションIV上	48	35	25	48	安	IV c	ターズ		○	
2		83	83	54							

図53 201号住居跡出土遺物(2)

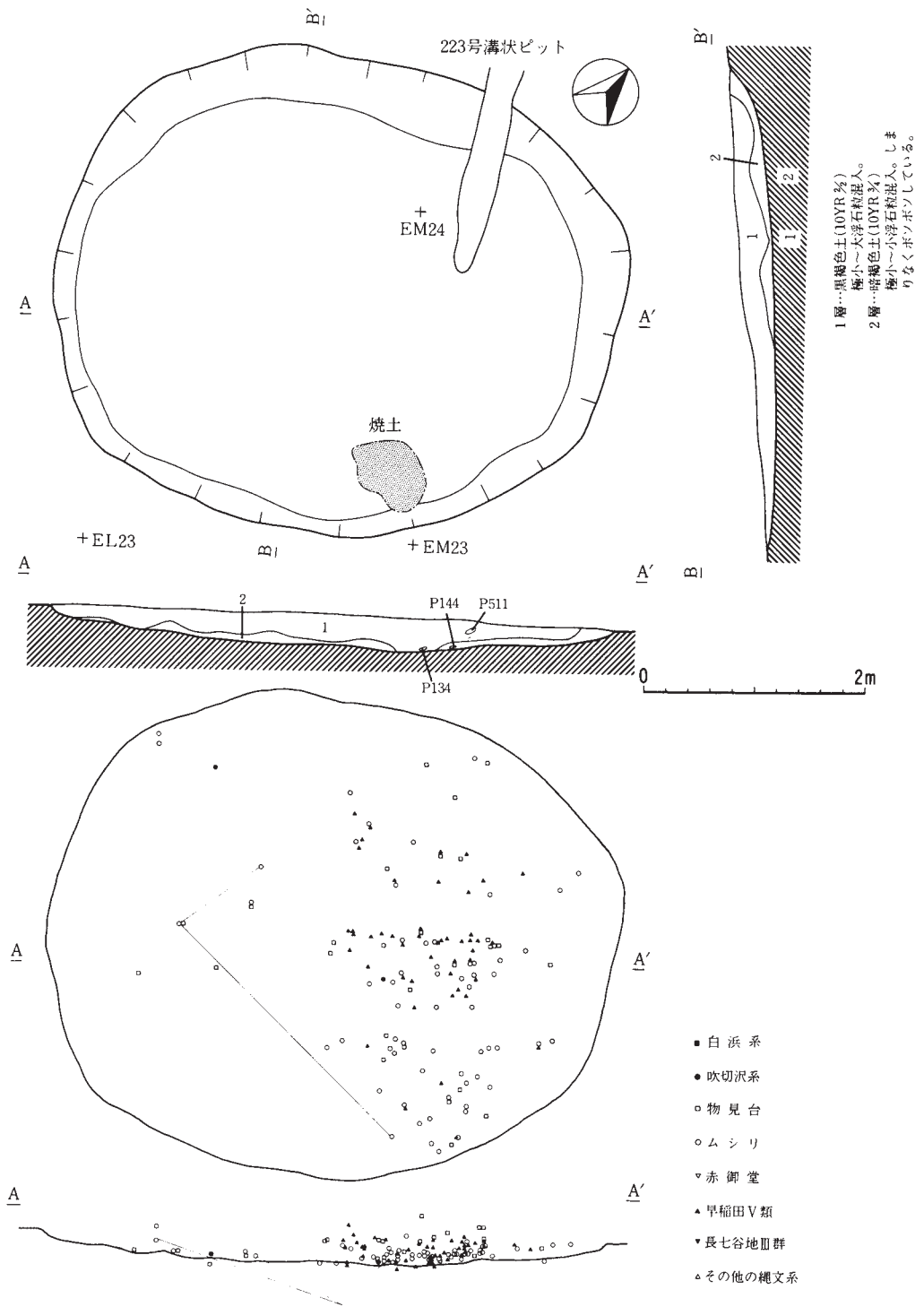
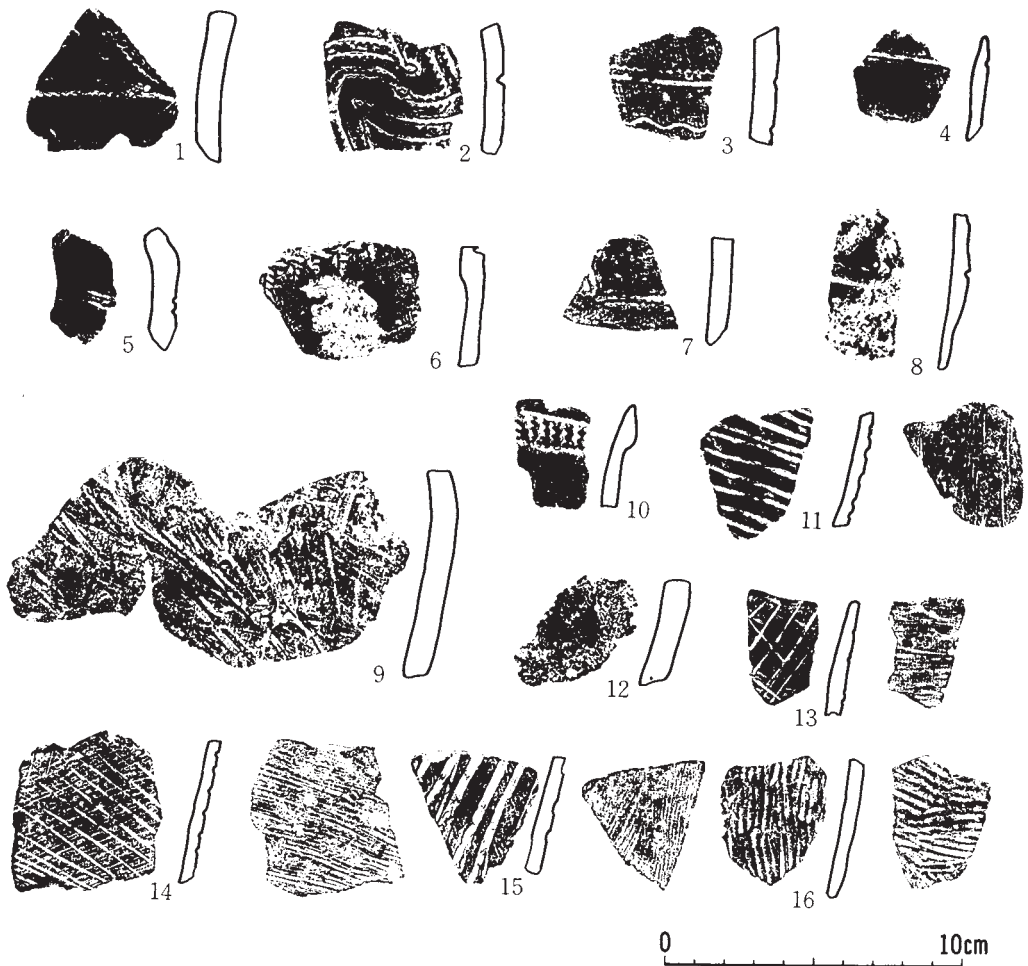


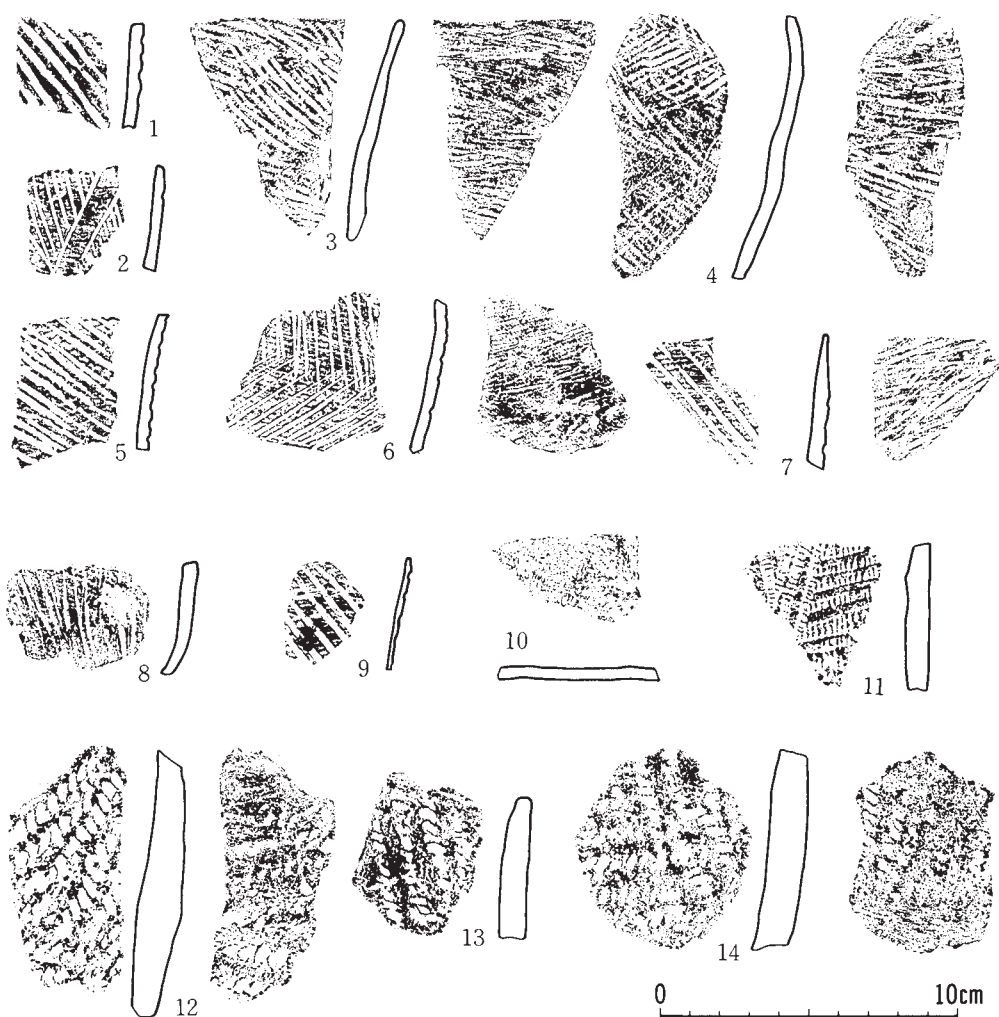
図54 201号住居跡、201号住居跡遺物出土状況



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	201H 4層上部	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			201H P 16
2	201H 4層上部	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文、刺突文			201H P 143
3	201H 4層上部	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			201H P 10
4	201H 4層下部	V 群	胴部	沈線文			201H P 142
5	201H 4層上部	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			201H P 6
6	201H 4層上部	V 群	胴部	貝殻腹縁文			201H P 70
7	201H 4層上部	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			201H P 99
8	201H 4層上部	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文、刺突文			201H P 45
9	201H 4層上部	V 群	胴部	条痕文			201H P 44
10	201H 4層下部	V 群	口縁部	貝殻腹縁文、沈線文			201H
11	201H 4層上部	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 72
12	201H 4層下部	V 群	胴部	沈線文			201H P 138
13	201H 4層上部	VI 群	口縁部	条痕			201H P 51
14	201H 4層下部	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 152
15	201H 4層下部	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 148
16	201H 4層上部	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 14

図55 201号住居跡出土遺物(3)

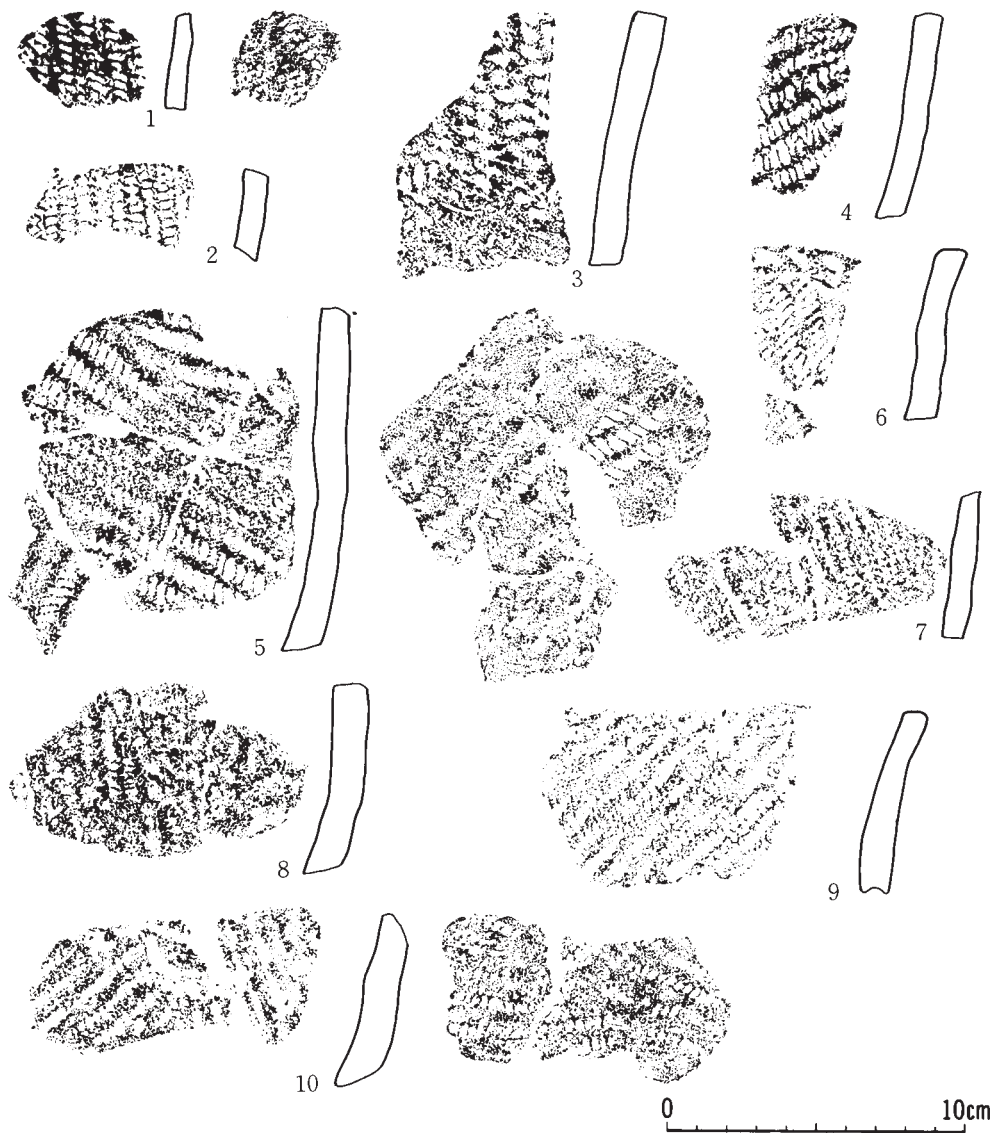


繩文土器 觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 136
2	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 40
3	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 41
4	201H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 37
5	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 137
6	201H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201H P 5
7	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 28
8	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 92
9	201H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	201H P 104
10	201H 1層	VI 群	底部	無文			201H P 29
11	201H 1層	XI 群	胴部	単軸絡条体圧痕文			201H P 205
12	201H 1層	X 群	胴部	L R 縄文		縄文	201H P 123
13	201H 1層	X 群	口縁部	L R 縄文			201H P 133
14	201H 1層	X 群	胴部	L R 縄文		縄文	201H P 206

図56 201号住居跡出土遺物(4)



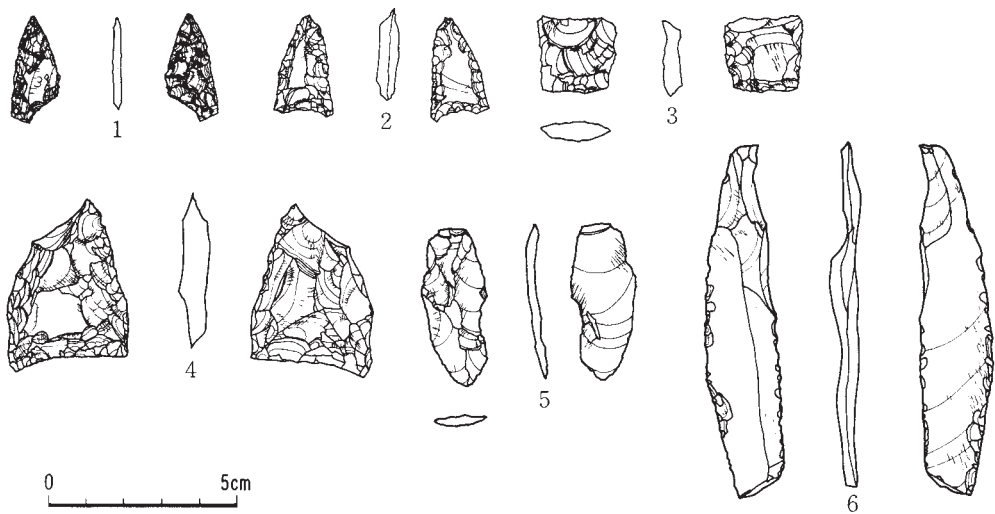


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	201H 1層	Ⅸ 群	胴部	LR縄文		縄文	201H P 22
2	201H 1層	Ⅸ 群	胴部	RL縄文			201H P 72
3	201H 1層	X 群	胴部	LR縄文			201H P 132
4	201H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			201H P 146
5	201H 1層	X 群	胴部	○段多条RL縄文		縄文	201H P 75
6	201H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR縄文・RL縄文			201H P 49
7	201H 1層	Ⅸ 群	胴部	RL縄文			201H P 47
8	201H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			201H P 3
9	201H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR縄文			201H P 144
10	201H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文		縄文	201H P 132

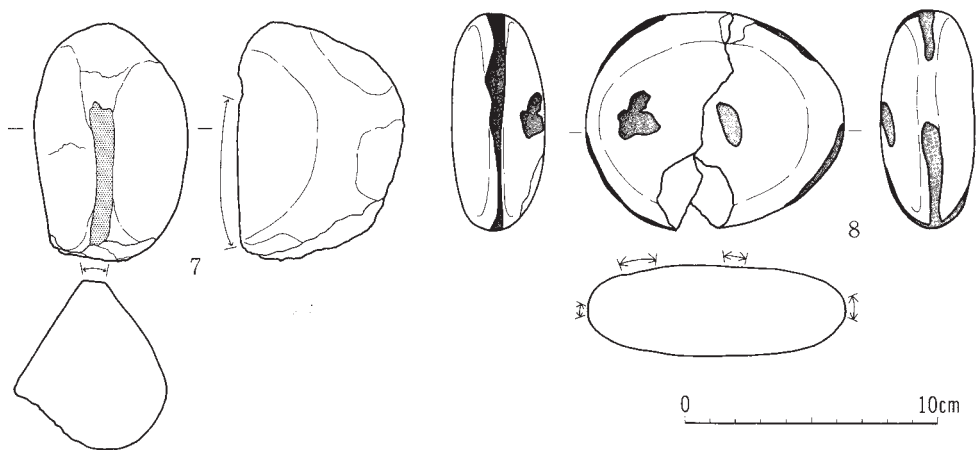
図57 201号住居跡出土遺物(5)





石鏃石槍観察表

番号	地区	層位	大きさ (mm)			重量(g)	石質	分類	長幅比
			長さ	幅	厚さ				
1	201H	IV上	28	13	2	0.9	珪頁		
2	201H	IV上	27	16	6	1.8	珪頁	A 1 I	
3	201H	IV上	20	21	6	2.4	珪頁	I	
4	201H	IV上	43	32	7	12.5	珪頁	A 1	
5	201H	IV上	41.5	17	3	1.6			
6	201H	IV上	95	79	8	11.7	珪頁	A II a 2	



磨敲凹石類観察表

番号	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
7	201H					頁	III b	ス	2	○	
8	201H	104	88	37	1280	砂	I b	スーダ凹	1		

図58 201号住居跡出土遺物(6)

## 202号住居跡

位置と確認 E I - 25・26、E G - 25・26グリッド 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 西壁・南壁及びピットの配列等から推測して、隅丸形状であったと考えられる。

重複 219号溝状ピットに切られている。

覆土 6層に区分できた。1～4層は黒褐色～暗褐色土で、本住居跡を覆う土である。5層は、床面下にみられた性格不明の落ち込みを覆っている極暗褐色土である。6層は、この住居跡等より、更に古い時期のものと考えられるピット25を覆う層である。

壁・床面 壁は西壁及び南壁しか確認できなかった。壁高は3～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、一部を除いて地山を直接利用している。出入口、炉跡などは認められなかった。

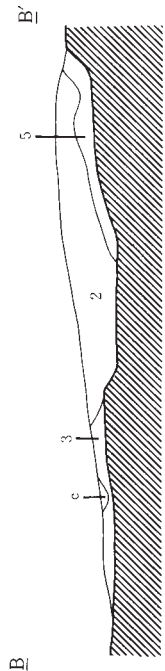
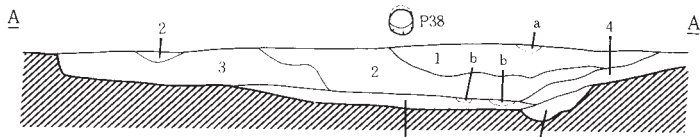
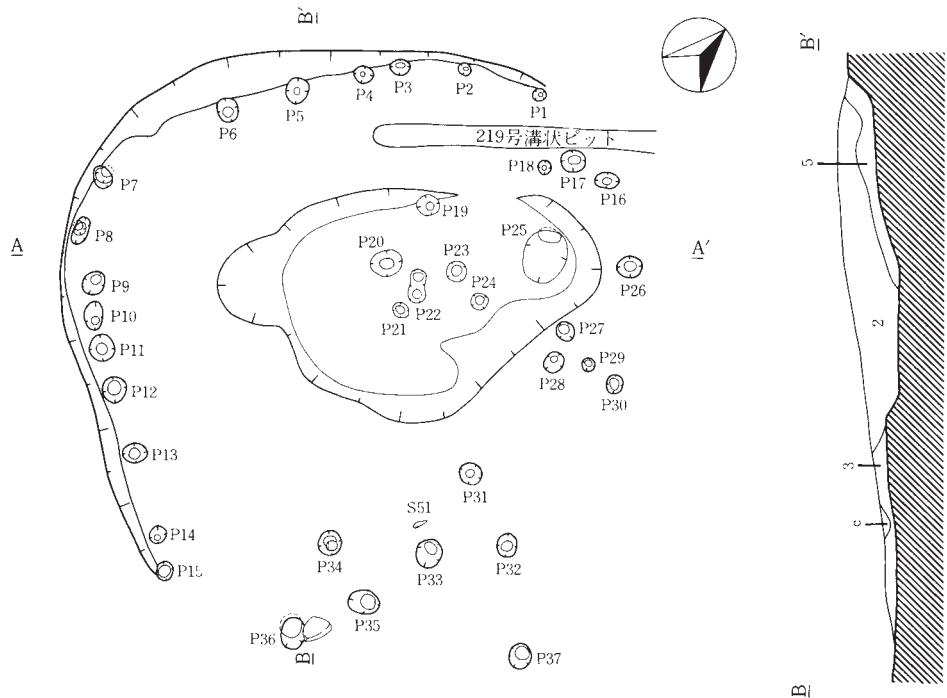
ピット 住居跡周辺で確認したピットは38基である。この中で、壁直下を巡るピット1からピット15までは、本住居跡に伴う壁柱穴と考えられるが、残りのピットは判然としない。

表14 202号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	10	9	5	壁柱穴	20	25	20	13	
2	10	10	20	〃	21	13	10	8	
3	15	11	10	〃	22	25	15	6	
4	16	14	15	〃	23	17	15	20	
5	20	17	16	〃	24	13	13	10	
6	19	15	15	〃	25	44	35	9	
7	15	15	20	〃	26	20	15	7	
8	23	12	16	〃	27	17	15	15	
9	19	17	10	〃	28	18	16	8	
10	24	15	14	〃	29	10	9	24	
11	23	20	8	〃	30	15	13	21	
12	20	20	12	〃	31	18	15	21	
13	17	15	11	〃	32	18	15	15	
14	13	11	12	〃	33	25	20	22	
15	14	12	3	〃	34	20	18	3	
16	17	12	8		35	26	20	22	
17	20	18	8		36	27	20	10	
18	10	9	45		37	21	17	22	
19	18	15	9		38	21	19	23	

出土遺物と時期決定 住居内覆土1～2層からは物見台式、ムシリ 式が多く、ほかには早稲田 類が少量出土した。3層からはムシリ 式、4層からは物見台式とムシリ 式が出土し、縄文系の土器は包含されていない。石器には、石槍、石ヒ、スクレーパー、石皿等がある。

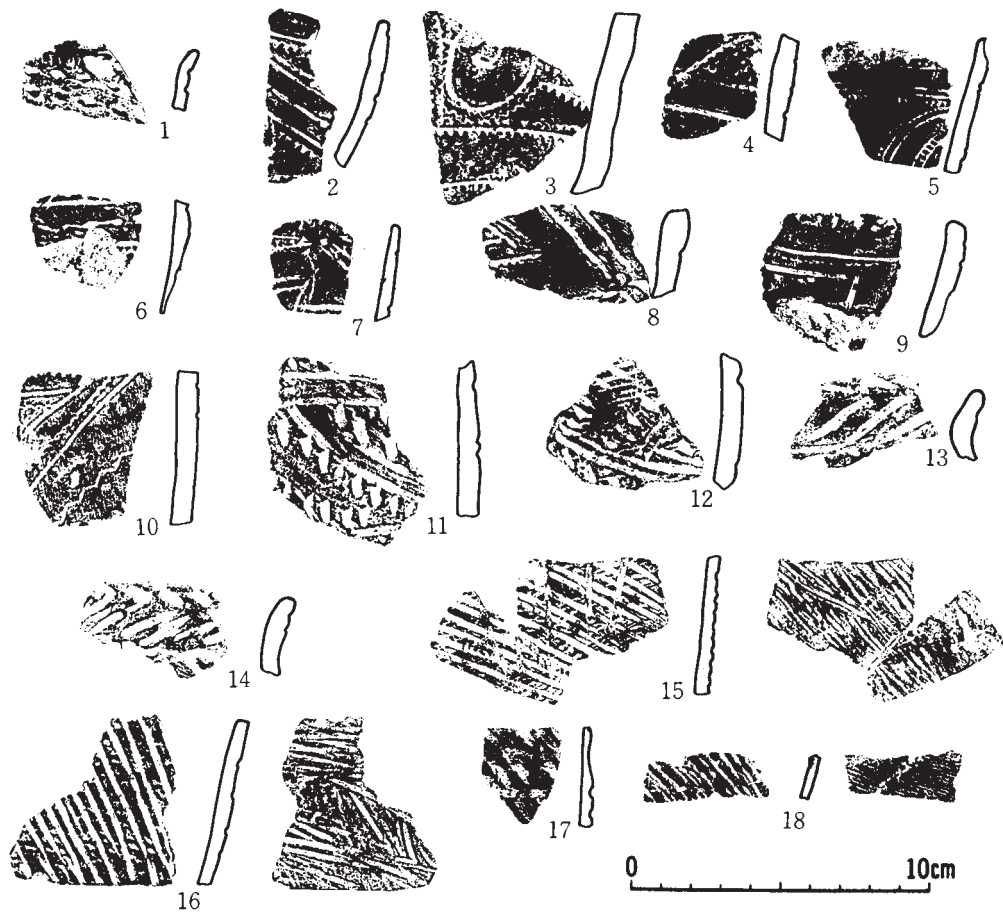
遺構の時期を決定づける遺物として、床面直上から物見台式の遺物が出土している。このことから物見台式期の遺構と思われる。



- 1層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
シルト～粘土、1mmの赤味をおびた稜子(浮石稜?)が均等多量に混入。3mm大の炭化物を一部含む。
  - 2層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
1層よりやや暗い。シルト～粘土、1～10mmの浮石を5～7%含む。
  - 3層…暗褐色土(10YR 5/2)  
シルト～粘土、1～8mmの浮石を10%含む。3mm大の炭化物を含む。赤味をおびた稜子(浮石稜?)が混入。
  - 4層…極暗褐色土(7.5YR 5/1)  
シルト～粘土、1～10mmの浮石を5～7%含む。
  - 5層…極暗褐色土(7.5YR 5/1)  
シルト～粘土、1～5mmの浮石を5%含む。
  - 6層…暗褐色土(10YR 5/2)  
シルト～粘土、1～5mmの浮石を5%含む。火山灰を一部ブロック状に含む。
- a…粘土  
b…火山灰  
c…浮石と火山灰

- 白浜系
- 吹切沢系
- 物見台
- ムシリ
- ▽ 赤御堂
- ▲ 早稲田V類
- ▽ 長七谷地群
- その他の縄文系

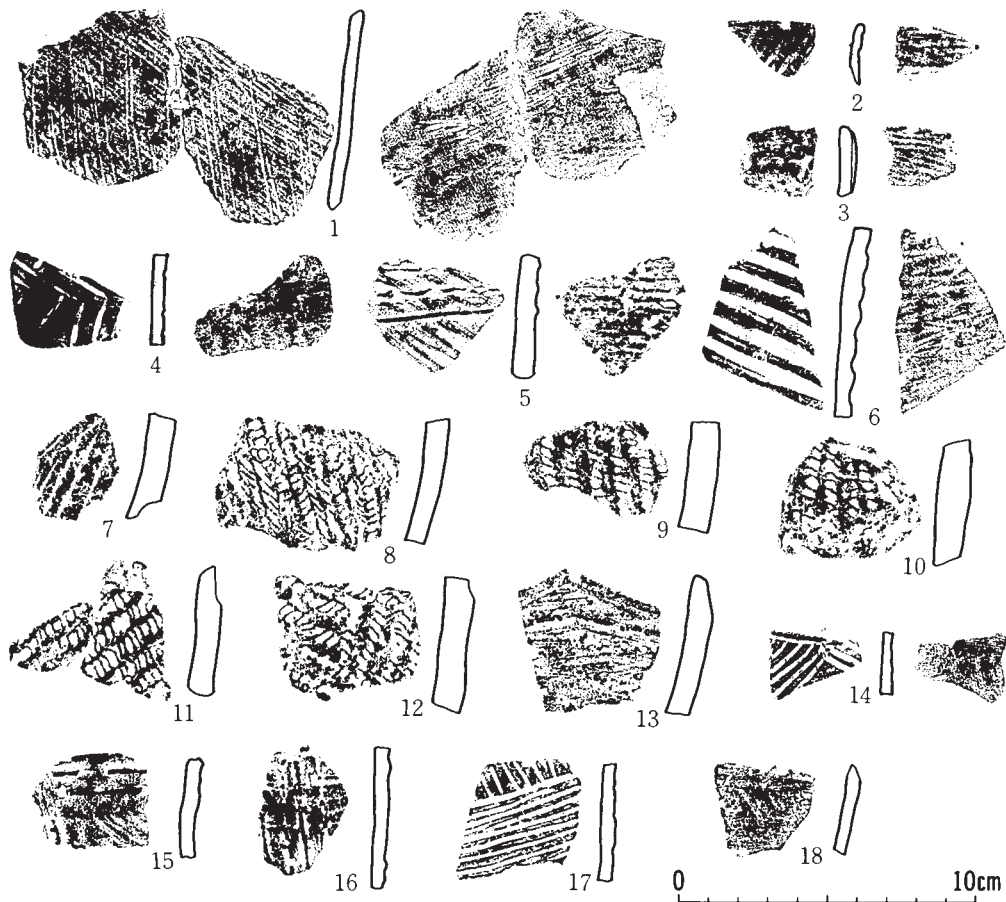
図59 202号住居跡、202号住居跡遺物出土状況



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	202H 1層	II 群	口縁部	刺突文、条痕文			202H P一括
2	202H 1層	V 群	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文			202H P 22
3	202H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文			202H P 200
4	202H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文			202H P一括
5	202H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			202H P一括
6	202H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			202H P一括
7	202H 1層	V 群	口縁部	貝殻腹縁文、沈線文、刺突文			202H P 3
8	202H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			202H P 62
9	202H 1層	V 群	口縁部	貝殻腹縁文、沈線文、刺突文			202H P 60
10	202H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			202H P一括
11	202H 1層	VII 群	胴部	沈線文、短刻線文			202H P 53
12	202H 1層	VII 群	胴部	沈線文、短刻線文			202H P 67
13	202H 1層	VII 群	口縁部	沈線文			202H P 58
14	202H 1層	VIII 群	口縁部	矢羽根状沈線文			202H P 46
15	202H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	202H P 83
16	202H 1層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	202H P 57
17	202H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	202H P一括
18	202H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	202H P一括

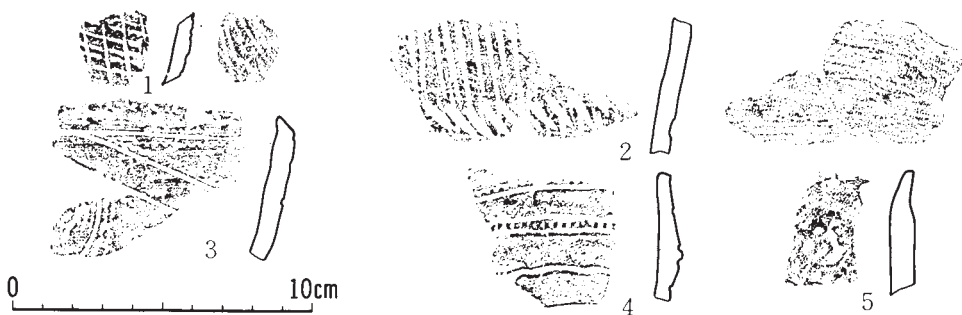
図60 202号住居跡出土遺物(1)



繩文土器觀察表

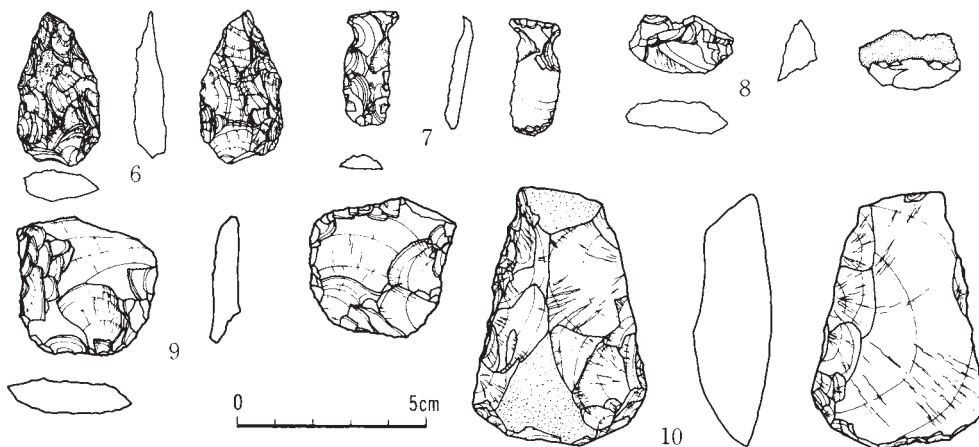
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	202H 1層	VI群	胴部	条痕文、沈線文		条痕	202H P 42
2	202H 1層	VI群	口縁部	沈線文		条痕	202H P 一括
3	202H 1層	VI群	口縁部	沈線文		条痕	202H P 6
4	202H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	202H P 15
5	202H 1層	VI群	胴部	微隆起線文		条痕	202H P 45
6	202H 1層	VI群	口縁部	沈線文		条痕	202H P 64
7	202H 1層	VI群	胴部	単軸絡条体回転文			202H P 40
8	202H 1層	IX群	胴部	附加条縄文			202H P 48
9	202H 1層	IX群	胴部	L R縄文			202H P 1
10	202H 1層	IX群	胴部	L R縄文			202H P 100
11	202H 1層	IX群	胴部	L R縄文			202H P 12
12	202H 1層	IX群	胴部	L R縄文			202H P 99
13	202H 2層	VI群	口縁部	沈線文			202H P 70
14	202H 2層	V群	胴部	沈線文			202H P 78
15	202H 3層	VI群	胴部	微隆起線文		条痕	202H P 31
16	202H 3層	VI群	胴部	微隆起線文		条痕	202H P 236
17	202H 3層	VI群	胴部	沈線文		条痕	202H P 32
18	202H 4層	VI群	胴部	条痕文		条痕	202H P 90

図61 202号住居跡出土遺物(2)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	202H 4層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	202H P92
2	202H 5層	Ⅷ群	胴部	沈線文・短刻線文		条痕	202H P88
3	202H 5層	Ⅴ群	口縁部	沈線文・貝殻腹縁文			202H P96
4	202H 床上	Ⅴ群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文			202H P75
5	202H 1層	X群	口縁部	L R縄文			202H P91



石槍観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
6	DN-20	Ⅳ	36	17	7	3.4	珪頁	A2	Ⅱ

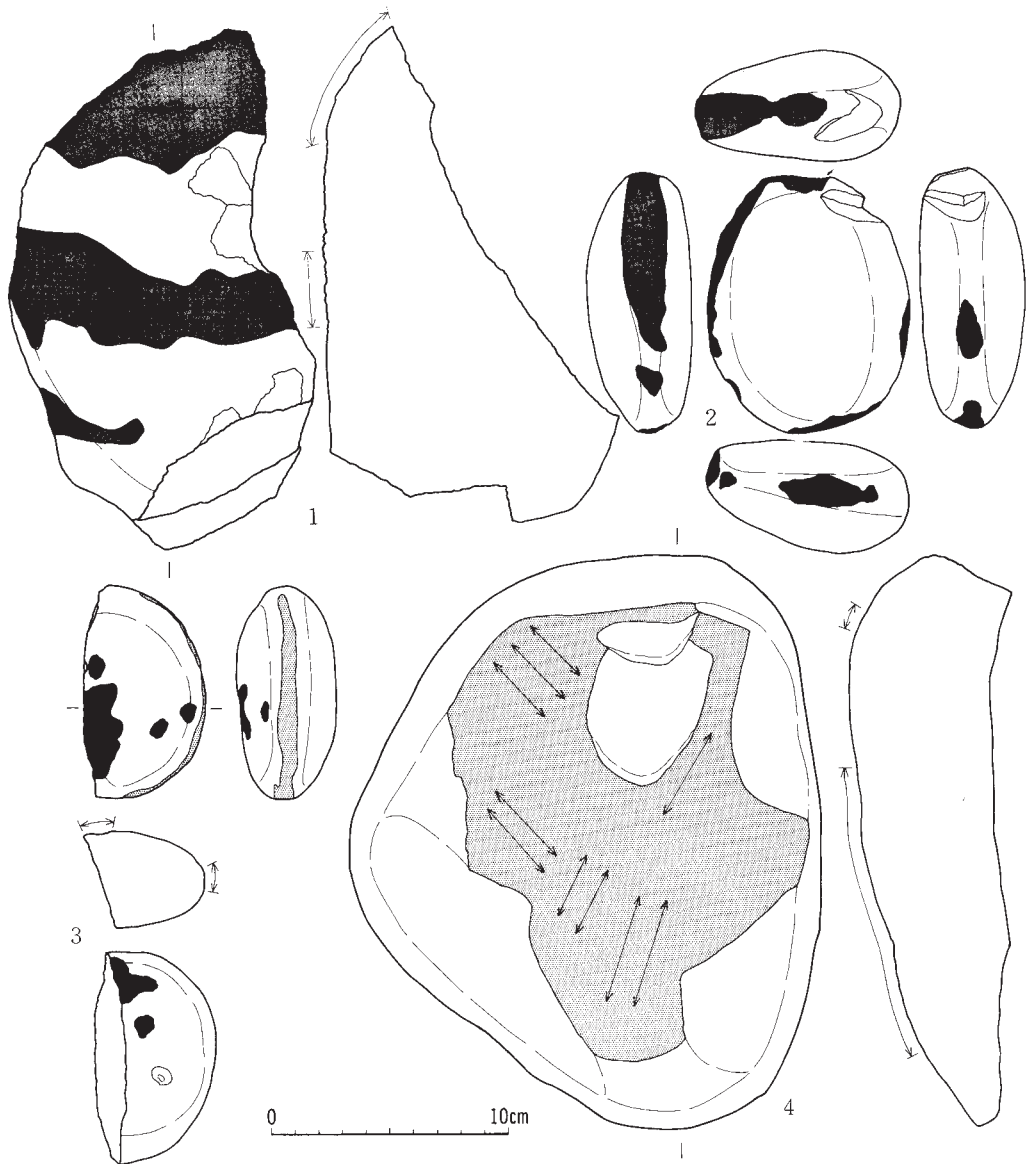
石七観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	1	2	3	4
7	202H	1~2	31	12	4	1.6	珪頁					

スクレーパー観察表

番号	分類名	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質
8		202H	床上	(15)	(27)	(8)	1	珪質
9	エンドスクレーパー	202H	床上	38	37	7	14.7	珪質
10		202H	床上	67	42	21		珪質

図62 202号住居跡出土遺物(3)



石皿観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
1	206H	(221)	(129)	(124)	(3430)	凝	I b
4	202H	243	201	77	(4120)		II b

磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
2	80 202H ピット内	109	86	45	610	安	I b	スター	1		
3		90	52	42							

図63 202号住居跡出土遺物(4)



## 203号住居跡

位置と確認 E H - 24・25、E I - 24・25グリッド 層下部で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 壁の一部が不明であるが、直径約4.2mの不整円形を呈する。

重複 東壁から床面中央にかけて、218号溝状ピットに切られている。

覆土 5層に区分できた。1～3層は主として竪穴中央部を覆う層で、4・5層は壁際を覆う層である。いずれも自然堆積と思われる。

壁・床面 北東部を除いて、壁の残存状態は比較的良好である。壁高は4～24cmで、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は凹凸が少ないが、中央部が壁際に比べて若干低くなっている。出入口、炉跡等は認められなかった。

ピット 確認できたピットは26基であるが、柱痕を確認できたものはない。ピット22～25の4基を除くピットはすべて壁周辺に位置し、壁柱穴と考えられる。住居跡中央部に位置するピット23～26は、これらの壁柱穴と形態や規模が類似しており、断定はできないが、やはり柱穴と考えられる。

表15 203号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	9	7	5	壁柱穴	14	13	10	10	壁柱穴
2	11	10	5	〃	15	12	11	5	〃
3	10	7	12	〃	16	12	10	9	〃
4	12	10	13	〃	17	13	12	9	〃
5	12	10	8	〃	18	12	10	11	〃
6	14	14	6	〃	19	11	11	10	〃
7	11	11	11	〃	20	9	8	7	〃
8	10	10	9	〃	21	11	18	6	〃
9	18	13	12	〃	22	14	12	9	〃
10	12	9	10	〃	23	12	10	3	柱 穴
11	8	7	7	〃	24	13	13	6	〃
12	11	10	7	〃	25	19	17	13	〃
13	16	14	8	〃	26	12	9	6	〃

出土遺物と時期決定 覆土1～2層からは物見台式、ムシリ 式の土器が出土した。3～4層では、後述の土器分類で 群としたムシリ系の太沈線の土器が多量に出土した。この 群土器はムシリ系であるが、従来の土器型式には当てはめることができない型式である。

遺構の時期は、3～4層で多量に出土した 群土器型式の時期と思われる。

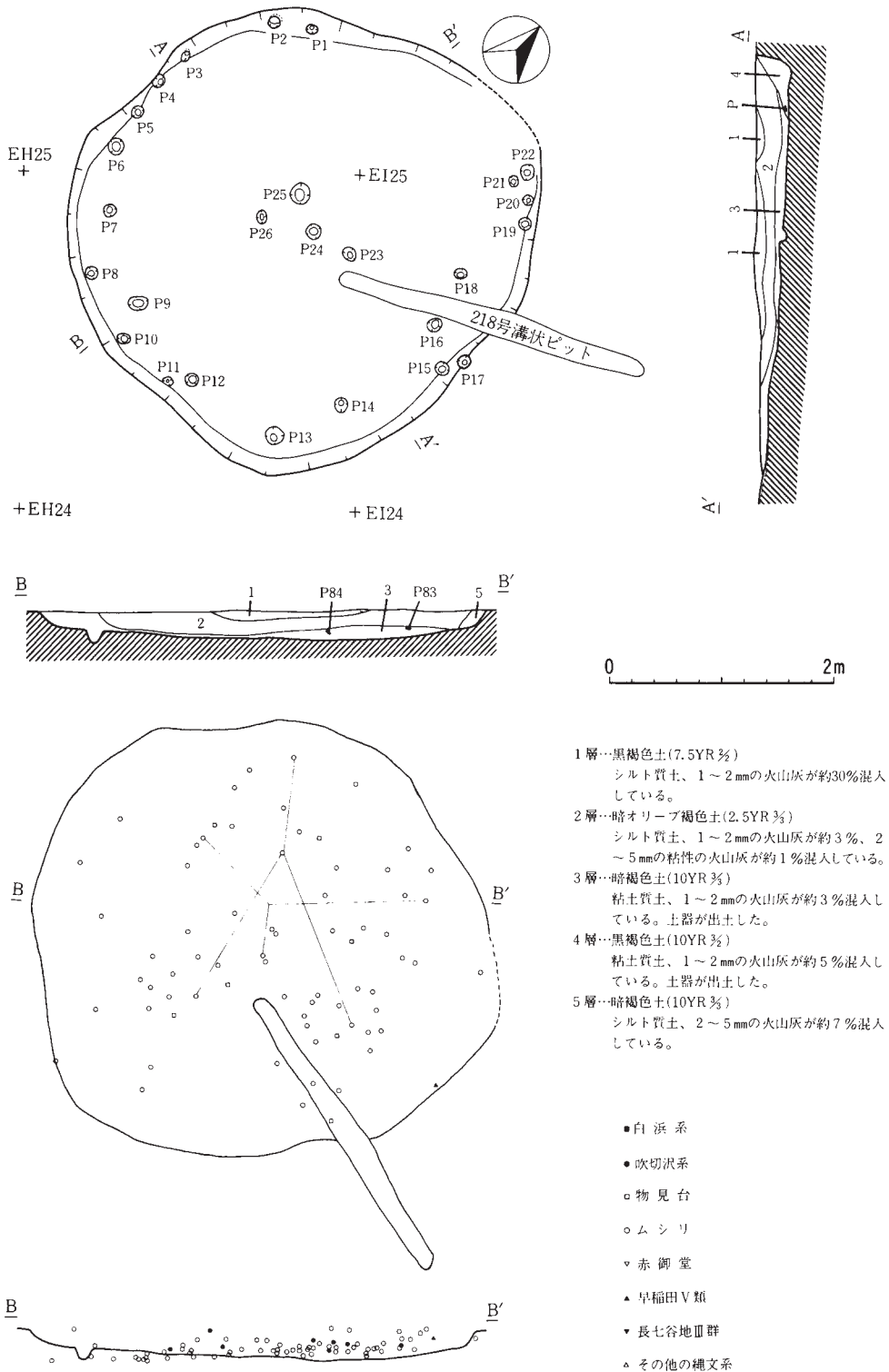
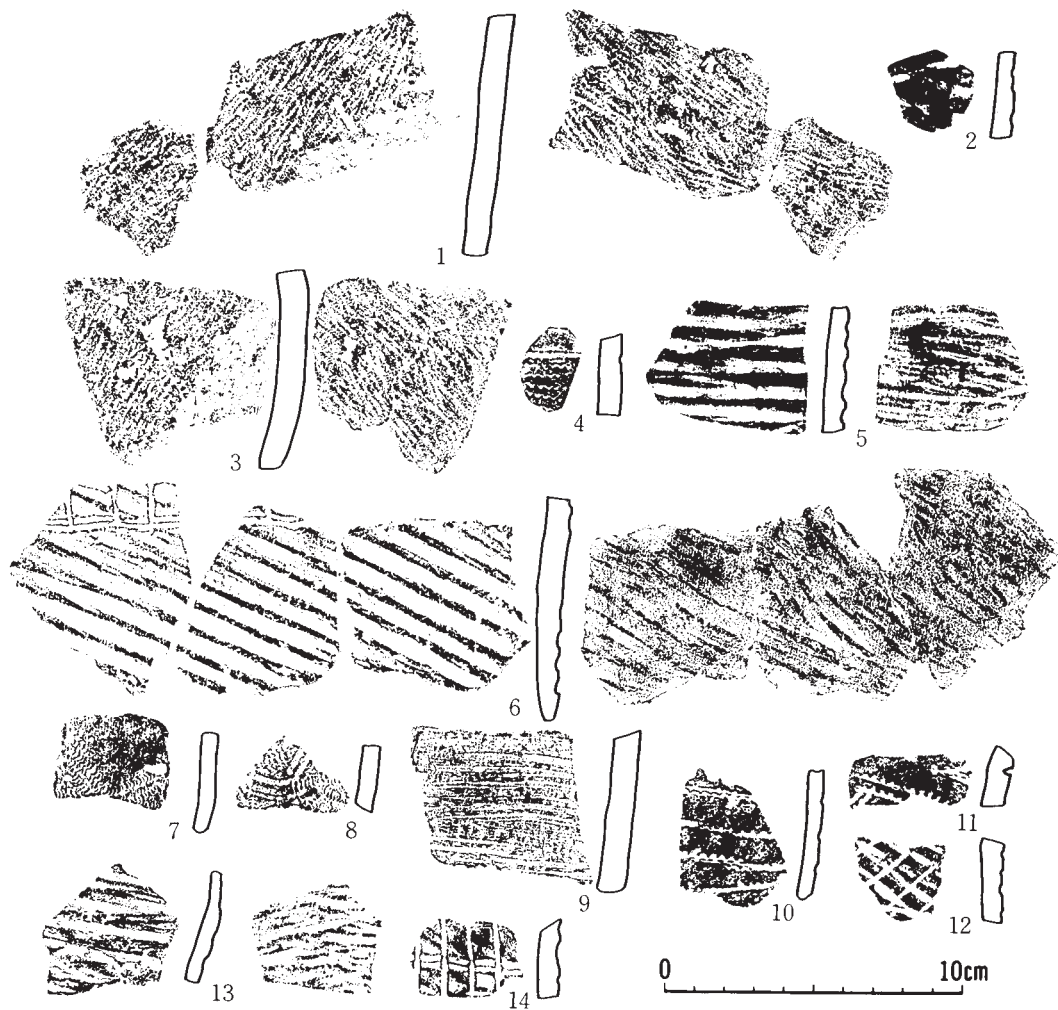


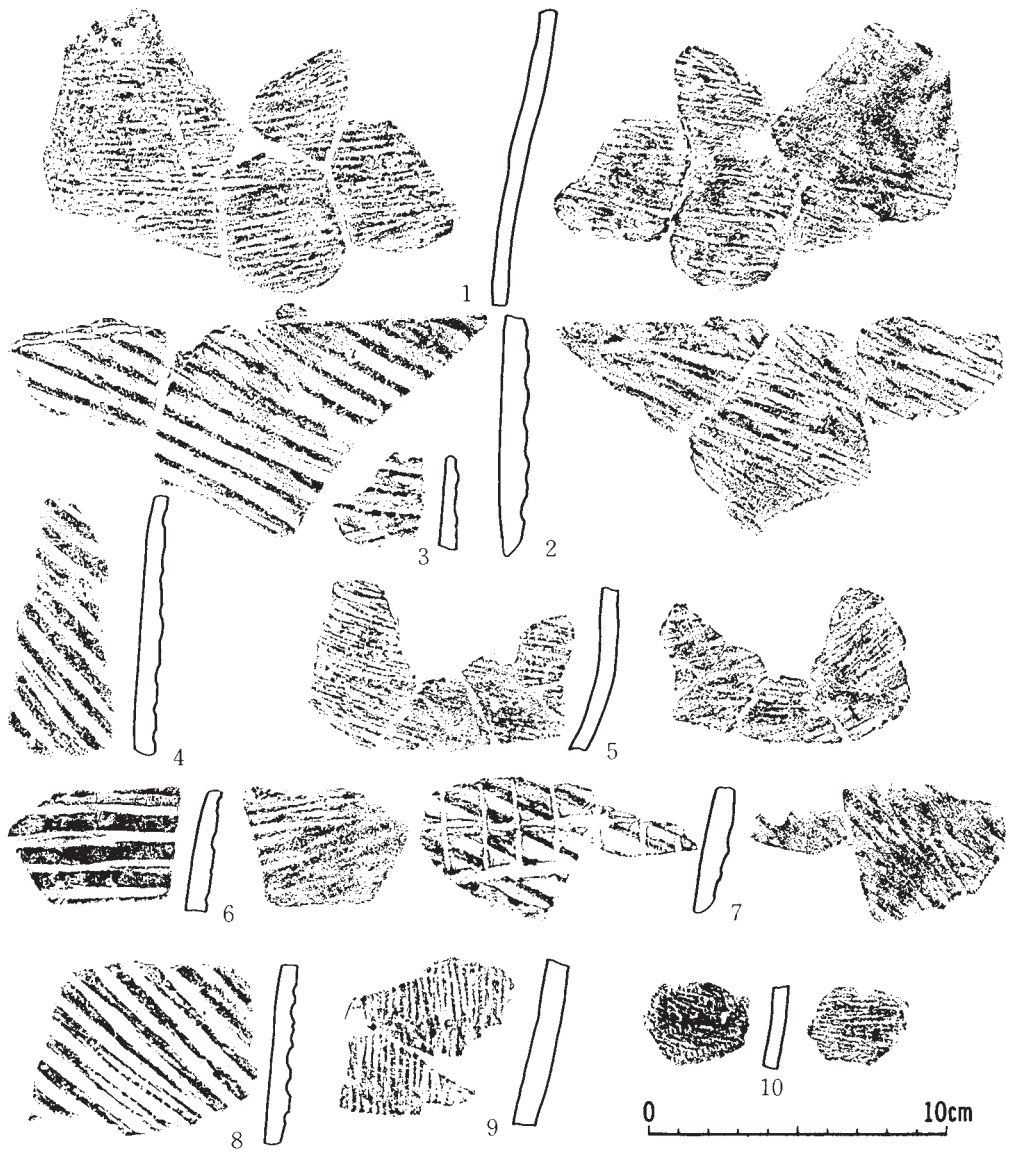
図64 203号住居跡、203号住居跡遺物出土状況



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	203H E 124 IV	1層 VI 群	胴部	条痕文		条痕	203H P 45
2	203H	2層 VI 群	胴部	沈線文		条痕	203H P 50
3	203H	1層 V 群	胴部	条痕文		条痕	203H P 3
4	203H	1層 V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			203H P 42
5	203H	1層 VII 群	胴部	太い沈線文		条痕	203H P 44
6	203H	1層 VII 群	口頸部	沈線文、太い沈線文		太い条痕	203H P 93
7	203H	2層 IV 群	胴部	貝殻腹縁文			203H P 4
8	203H	2層 IV 群	胴部	貝殻腹縁文			203H P 14
9	203H	2層 V 群	胴部	貝殻条痕文			203H P 75
10	203H	2層 V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			203H P 22
11	203H	2層 V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文、刺突文			203H P 82
12	203H	2層 VII 群	胴部	沈線文			203H P 94
13	203H	2層 VII 群	胴部	太い沈線文		条痕	203H P 79
14	203H	2層 VII 群	胴部	太い沈線文、沈線文		条痕	203H P 54

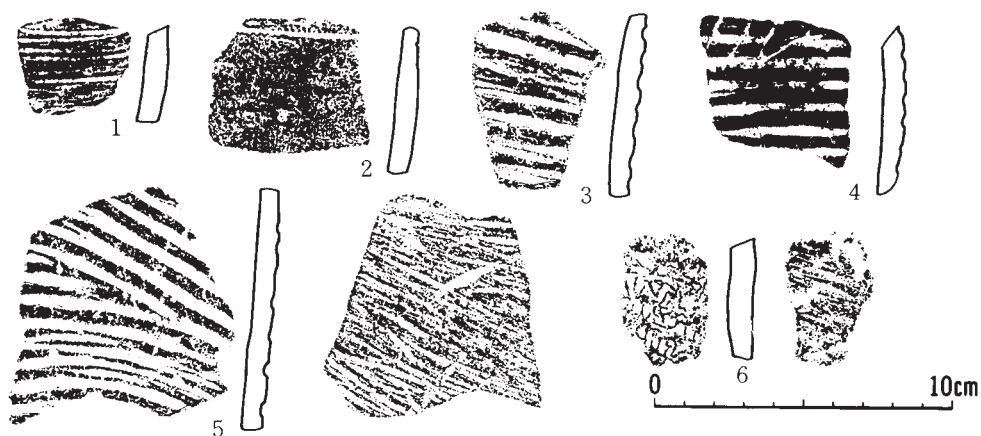
図65 203号住居跡出土遺物(1)



縄文土器観察表

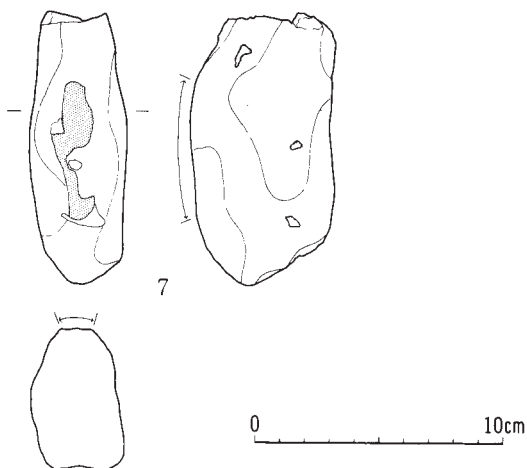
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	203H 2層	Ⅵ群	胴部	条痕文			203H P 281
2	203H 2層	Ⅶ群	胴部	太い沈線文		条痕	203H P 57
3	203H 2層	Ⅶ群	胴部	太い沈線文			203H
4	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文			203H P 1030
5	203H 2層	Ⅶ群	胴部	条痕文		条痕	203H P 48
6	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	203H P 62
7	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文、太い沈線文		条痕	203H P 10
8	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	203H P 43
9	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文			203H P 97
10	203H 2層	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	203H P 73

図66 203号住居跡出土遺物(2)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	203H 3層	VI 群	胴部	沈線文				203H P81
2	203H 3層	V 群	胴部	沈線文				203H P81
3	203H 3層	VII 群	胴部	太い沈線文			条痕	203H P84
4	203H 4層	VII 群	胴部	太い沈線文			条痕	203H P96
5	203H 4層	VI 群	胴部	太い沈線文			条痕	203H P91
6	203H 1層	X 群	胴部	R L 縄文			条痕	203H P87



磨鼓凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
7	203H 1層	18	57	35		チャ	III b	ス	1		

図67 203号住居跡出土遺物(3)

## 204号住居跡

**位置と確認** E G - 25・26、E H - 25・26グリッド 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

**平面形** 南北が4.2mで、東側は203号住居跡と重複しているため不明であるが、東西はおよそ3.5～3.7mの不整形円形を呈する。

**重複** 東側の床面を南北に204号溝状ピットが切っている。また、203号住居跡と重複しているが、壁の残存状態から本住居跡の方が古い。

**覆土** 3層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。1層はシルト、2層は粘土で、いずれにも浮石が含まれる。3層は壁の崩落土と思われる。2層から物見台式土器が出土した。

**壁・床面** 壁は、203号住居跡に切られた東壁を除きほぼ確認できた。高さは北壁30cm、西壁32cm、南壁20cmである。床面は平坦であるが、地山の傾斜に沿って東側に傾いている。柱穴、出入口等の施設は認められず、ピットも検出されなかった。

**出土遺物と時期決定** 覆土1層からは遺物が出土せず、2層から物見台式土器及び203号住居跡で 群としたムシリ系の太沈線の土器が出土している。石器には石鏃、石槍、石匕等がある。

遺構の時期は遺物の点からは決定することはできないが、遺構の重複関係でみると 群期とした203号住居跡より古い。このことから 群期より古いムシリ 式期かそれ以前といえる。

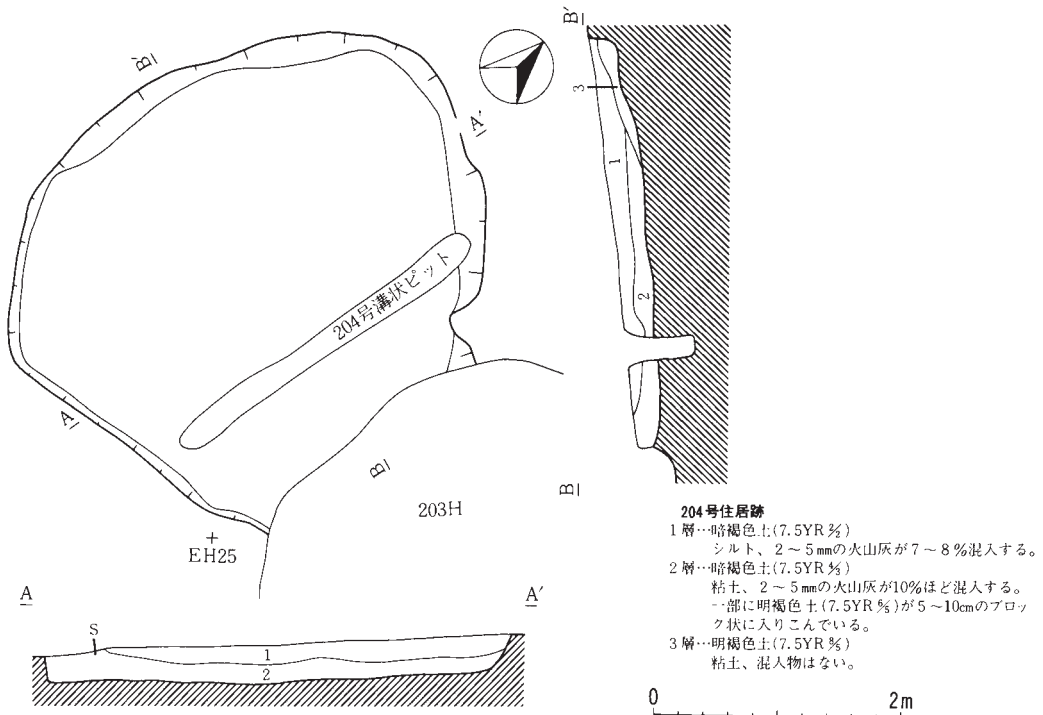
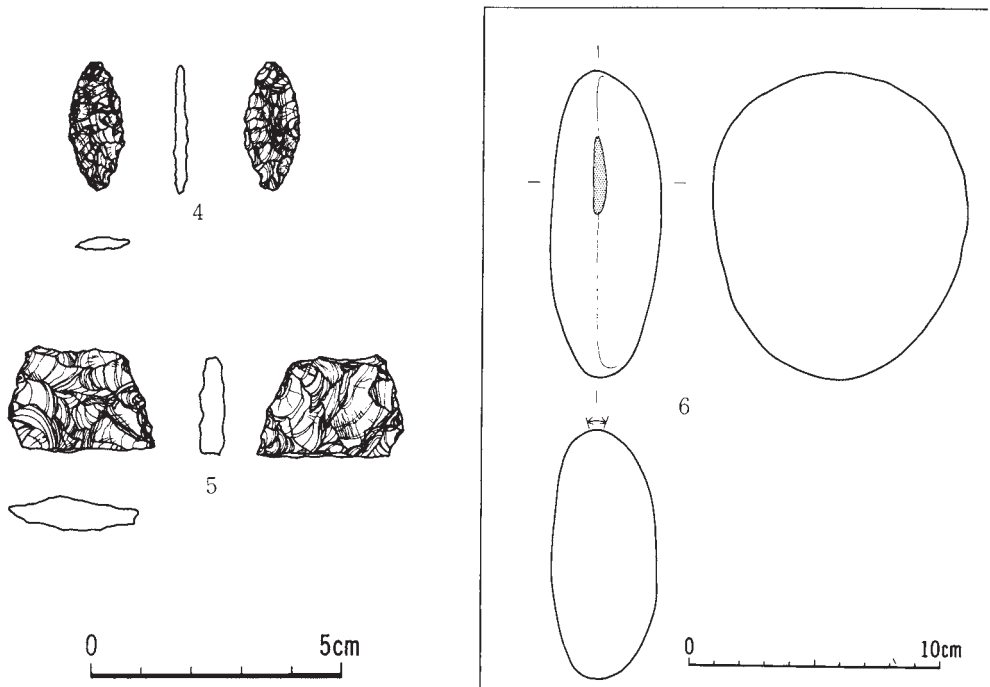


図68 204号住居跡



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	204H 2層	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文			204H P 4
2	204H 1層	VI 群	胴部	沈線文		沈線	204H P 1
3	204H 1層	VII 群	胴部	太い沈線文			204H P 1



石槍観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
4	204H	1	25	11	4	0.9	桂頁	C 4	II
5	204H	1	27	20	5		桂頁		

磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
6	206H	123	102	44	831	砂	I b	スーダ	1		

図69 204号住居跡出土遺物



## 205号住居跡

**位置と確認** EF - 24、EG - 24グリッド 層上面で黒色土の落ち込みを確認したが、調査の結果遺構は、ED - 23・24、EE - 23・24、EF - 23・24、EG - 23・24・25グリッドに及んでいた。

**平面形** 斜面下方にあたる東側の壁は確認できなかったが、検出した柱穴等から推定して長径8.5m、短径5.6mの隅丸長方形を呈していたと考えられる。

**重複** 203、205、206、207、238号溝状ピットと重複していた。覆土の堆積状態や溝状ピットの覆土からの遺物の出方、及び住居跡の柱穴が溝状ピットの底面より下方で確認されたことなどから、本住居跡の方が古いと判断した。また、北東隅の208号住居跡との新旧関係については、208号住居跡の壁の残存状況から推測して、本住居跡が古いと思われる。

**覆土** 9層に区分できた。上層には浮石が比較的多く含まれるのに対し、下層ではロームの比率が多くなる。5・6・7層は壁の崩落土と思われる。大半の遺物は1層と2層から出土しているが、3層直上や床面からも少量出土した。

**壁・床面** 壁は北、西、南側で確認できた。壁高は北壁約20cm、西壁約100cm、南壁約50cmである。立ち上がりは約45度である。床面は平坦で、中央から東側が特にかたくしまっていた。東側の床面は確認できなかったが、おそらく貼り床であったと思われる。床面中央から南側に直径1mほどの焼けたような灰白色粘土の散らばりがみられた。出入口らしき施設は認められなかった。

**ピット** 87基確認した。ピットの位置が規則的で、その配列等から支柱穴、壁柱穴に分類できた。支柱穴は74・75・77・78・79・80・81・82・83・85・86・87の12基で、3本ずつ4列に配列されている。平面形は円形を呈し、深さは平均24.8cmである。柱痕が確認されたものはない。支柱穴及び76と84を除く73基が壁柱穴であるが、支柱穴同様柱痕は確認されなかった。深さは平均18.9cmである。ピットの配列が二重になっているところもあることから、ある時点で20～50cmほどの拡張が考えられる。柱穴の向きは、支柱穴、壁柱穴とも相当数が東南に傾いている。これは斜面に作られたため、東南にいくぶん地すべりしたものと思われる。ピット84の底面から物見台式の土器片が1点出土した。

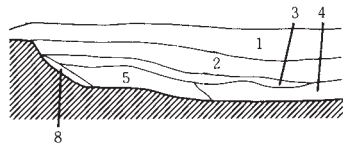
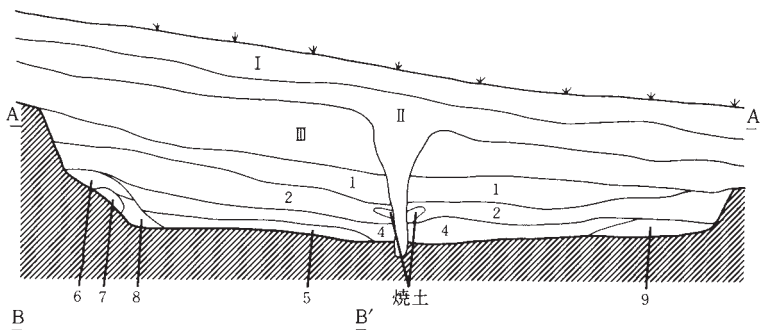
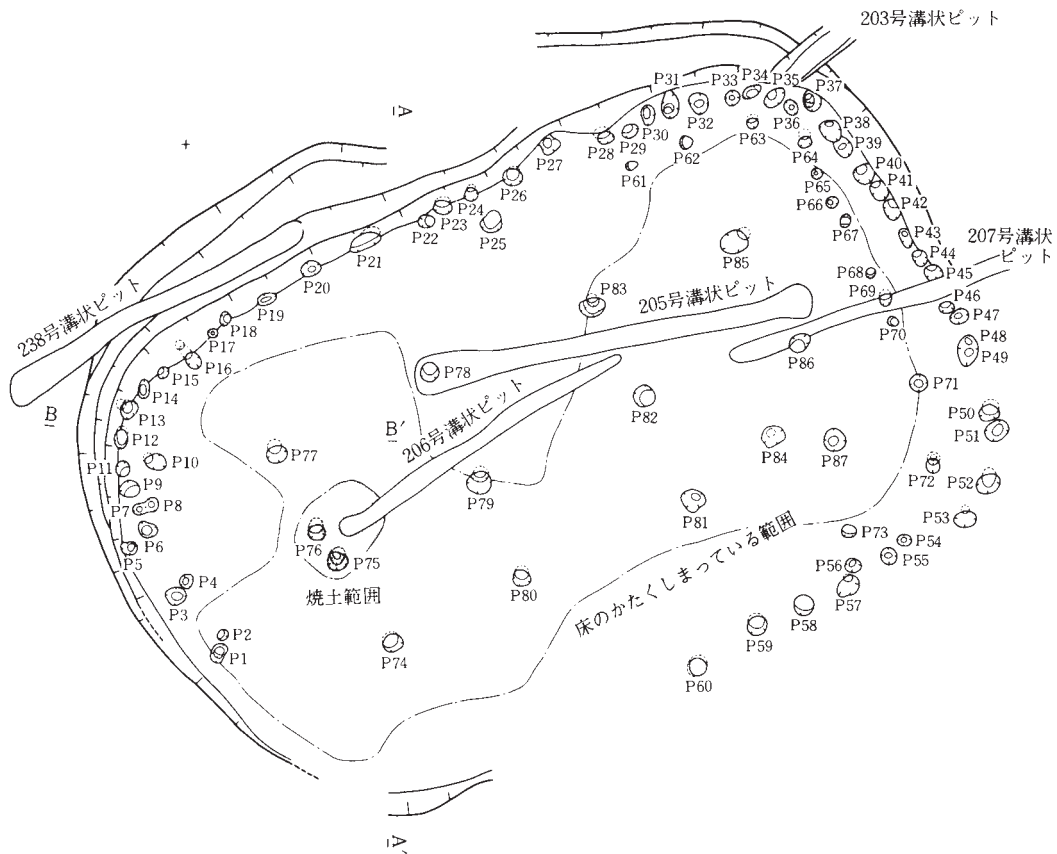
**出土遺物と時期決定** 覆土各層から大量の土器が出土した。1層では物見台式、ムシリ式、長七谷地 群、早稲田 類が多く、赤御堂式が少量混じる。2層ではムシリ 式、早稲田 類が多く、物見台式、長七谷地 群が混じる。白浜式、東釧路 式の土器も1片ずつ出土している。3層では物見台式、ムシリ 式、早稲田 類、長七谷地 群が出土している。石器には石鏃、石槍、石ヒ、スクレーパー、石錘等がある。

遺構の時期を決定づけるような状態で出土した遺物はなかったが、3層の遺物の出土状態が

ら推測すると、早稲田 類か、長七谷地 群あたりの時期のものと思われる。

表16 205号住居跡ピット一覧表

ピット 番 号	掘り方の規模			備 考	ピット 番 号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	18	14	27	壁柱穴	47	19	15	26	壁柱穴
2	12	11	24	〃	48	(17)	(12)	22	〃
3	22	16	25	〃	49	(20)	(17)	14.5	〃
4	14	14	30	〃	50	19	18	18.8	〃
5	14	11	11	〃	51	23	21	18.5	〃
6	19	16	29	〃	52	23	20	13	〃
7	10	(10)	17	〃	53	22	18	10	〃
8	13	(13)	10	〃	54	14	14	9	〃
9	20	17	29	〃	55	17	17	10.5	〃
10	21	17	38	〃	56	16	15	18.5	〃
11	14	12	22	〃	57	25	18	23.5	〃
12	20	13	25	〃	58	20	20	9	〃
13	18	15	19	〃	59	20	18	10.5	〃
14	20	11	9	〃	60	18	16	22	〃
15	11	10	19	〃	61	11	10	7	〃
16	19	14	38	〃	62	14	13	18	〃
17	10	8	20	〃	63	11	10	22	〃
18	13	10	19	〃	64	13	13	30	〃
19	19	12	22	〃	65	10	10	6	〃
20	18	13	22	〃	66	12	11	7	〃
21	33	15	25	〃	67	12	11	19	〃
26	18	18	20	〃	68	10	10	10	〃
27	18	18	12	〃	69	11	10	38	〃
28	17	11	22.5	〃	70	9	8	11	〃
29	17	13	13	〃	71	17	17	22.5	〃
30	20	13	8	〃	72	15	13	24	〃
31	30	18	30	〃	73	15	13	13	〃
32	22	18	30	〃	74	20	18	23	主柱穴
33	15	15	28.5	〃	75	20	19	33	〃
34	22	16	22.5	〃	76	15	15	34	〃
35	24	17	28	〃	77	20	19	18	主柱穴
36	15	13	17	〃	78	20	17	16.5	〃
37	22	16	22	〃	79	23	21	22	〃
38	24	19	11.5	〃	80	18	16	19.5	〃
39	20	16	21	〃	81	23	22	29.5	〃
40	21	20	16.5	〃	82	21	21	18	〃
41	20	17	22	〃	83	24	20	36	〃
42	19	15	42.5	〃	84	21	19	23.8	〃
43	20	10	16.5	〃	85	25	25	36	主柱穴
44	16	13	22	〃	86	22	16	34.5	〃
45	21	14	27	〃	87	22	21	12	〃
46	16	12	13.5	〃					



0 2m

- |   |  |
|---|--|
| <p>1層…黒色土(7.5YR 5/1)<br/>シルト、上部に中級浮石及び1～2mmの浮石、中位には5～8mmの浮石を含む。</p> <p>2層…黒褐色土(7.5YR 5/2)<br/>シルト、2～3mmの浮石を5%含む。ローム粒も若干混じる。</p> <p>3層…極暗褐色土(7.5YR 5/3)<br/>シルト、2～3mmの浮石を10%含む。ローム粒も混じる。この層以下しまりがなく、ボンボンした感じになる。</p> <p>4層…暗褐色土(10YR 5/4)<br/>2～3mmの浮石を20%含む。3cm位のロームブロックも混じる。</p> | <p>5層…暗褐色土(10YR 5/4)<br/>黄褐色のローム粒を含み湿性が強い。以下7層まで壁の崩落土と思われる。</p> <p>6層…暗褐色土(10YR 5/4)<br/>黄褐色ロームと褐色土との混合土。</p> <p>7層…褐色土(10YR 5/6)<br/>5cm位のロームブロックが混入する。浮石もわずかにみられる。</p> <p>8層…褐色土(7.5YR 5/6)<br/>5層より多く黄褐色ローム粒を含む。</p> <p>9層…暗褐色土(10YR 5/4)<br/>4層に似るがロームブロックが認められない。</p> |
|---|--|

図70 205号住居跡

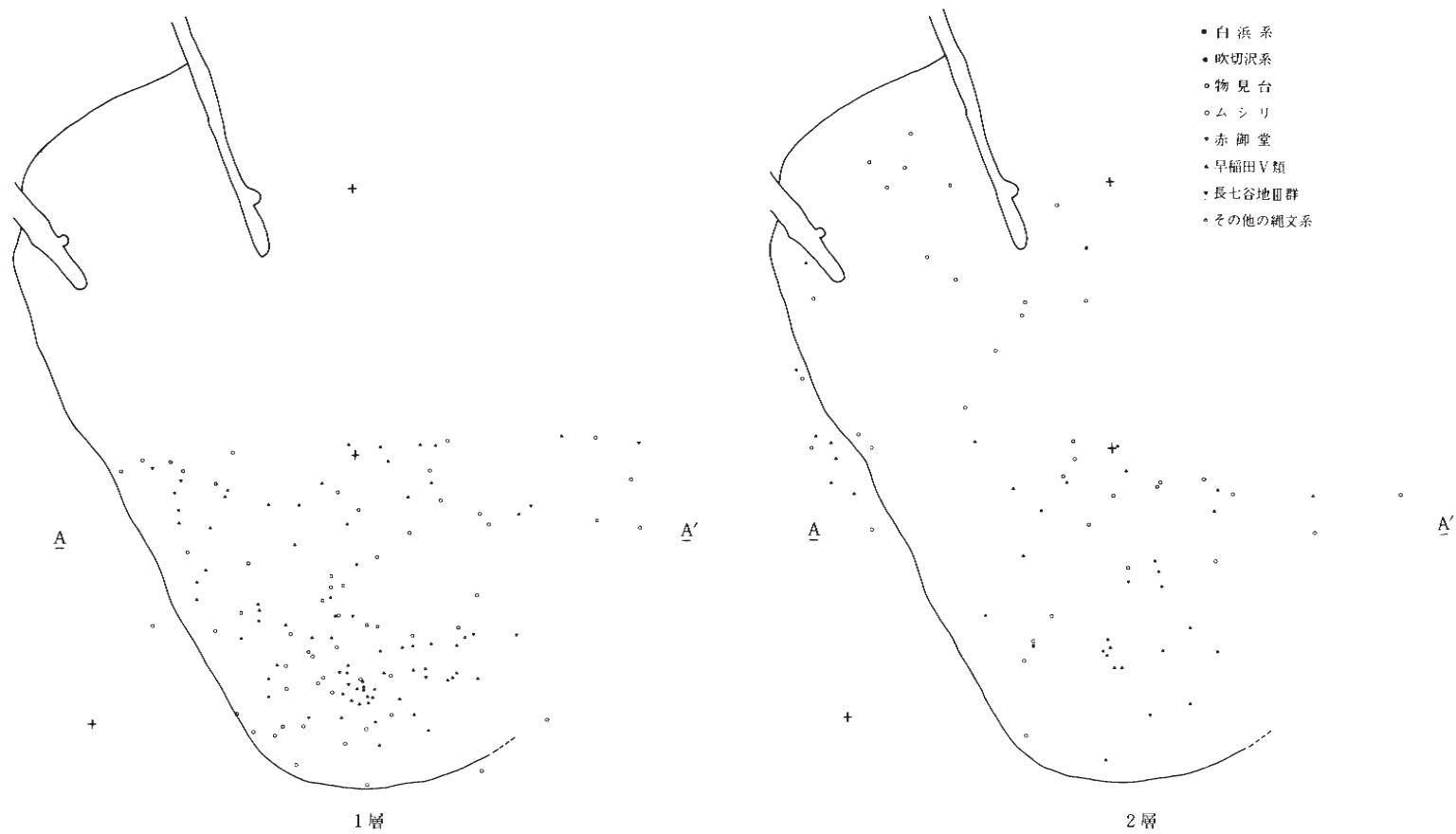


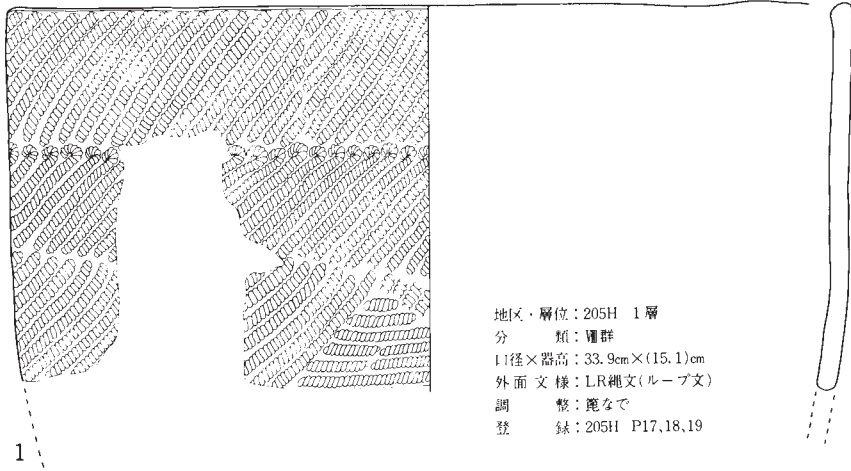
図71 205号住居跡遺物出土状況(1)



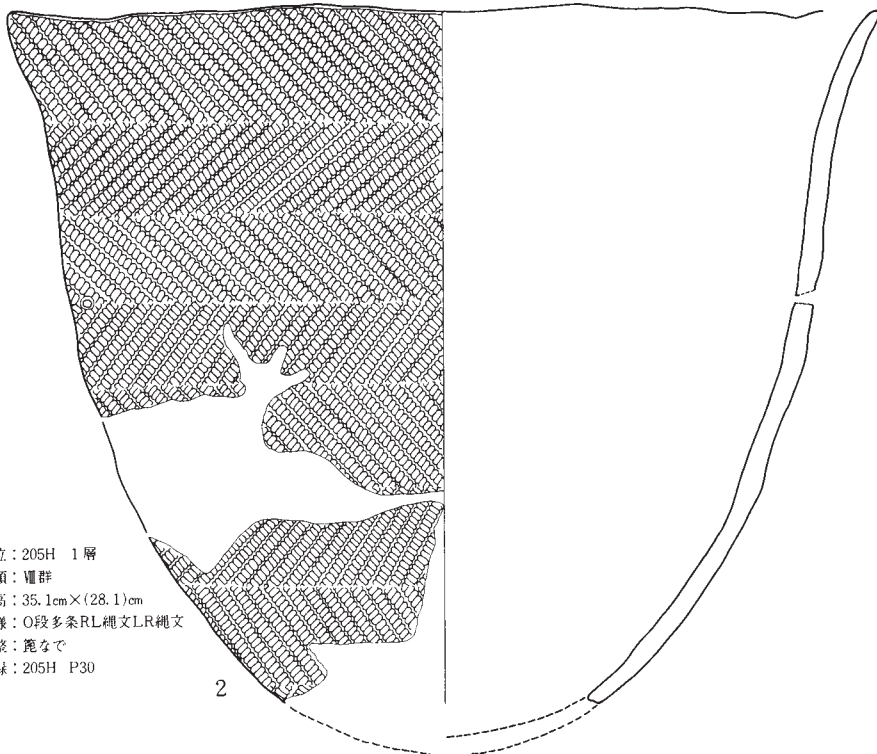
図72 205号住居跡遺物出土状況(2)



图73 205号住居跡遺物出土狀況(3)



地区・層位：205H 1層  
 分類：甗群  
 口径×器高：33.9cm×(15.1)cm  
 外面文様：LR縄文(ループ文)  
 調整：麗まで  
 登録：205H P17,18,19



地区・層位：205H 1層  
 分類：甗群  
 口径×器高：35.1cm×(28.1)cm  
 外面文様：O段多条RL縄文LR縄文  
 調整：麗まで  
 登録：205H P30

0 10cm

図74 205号住居跡出土遺物(1)

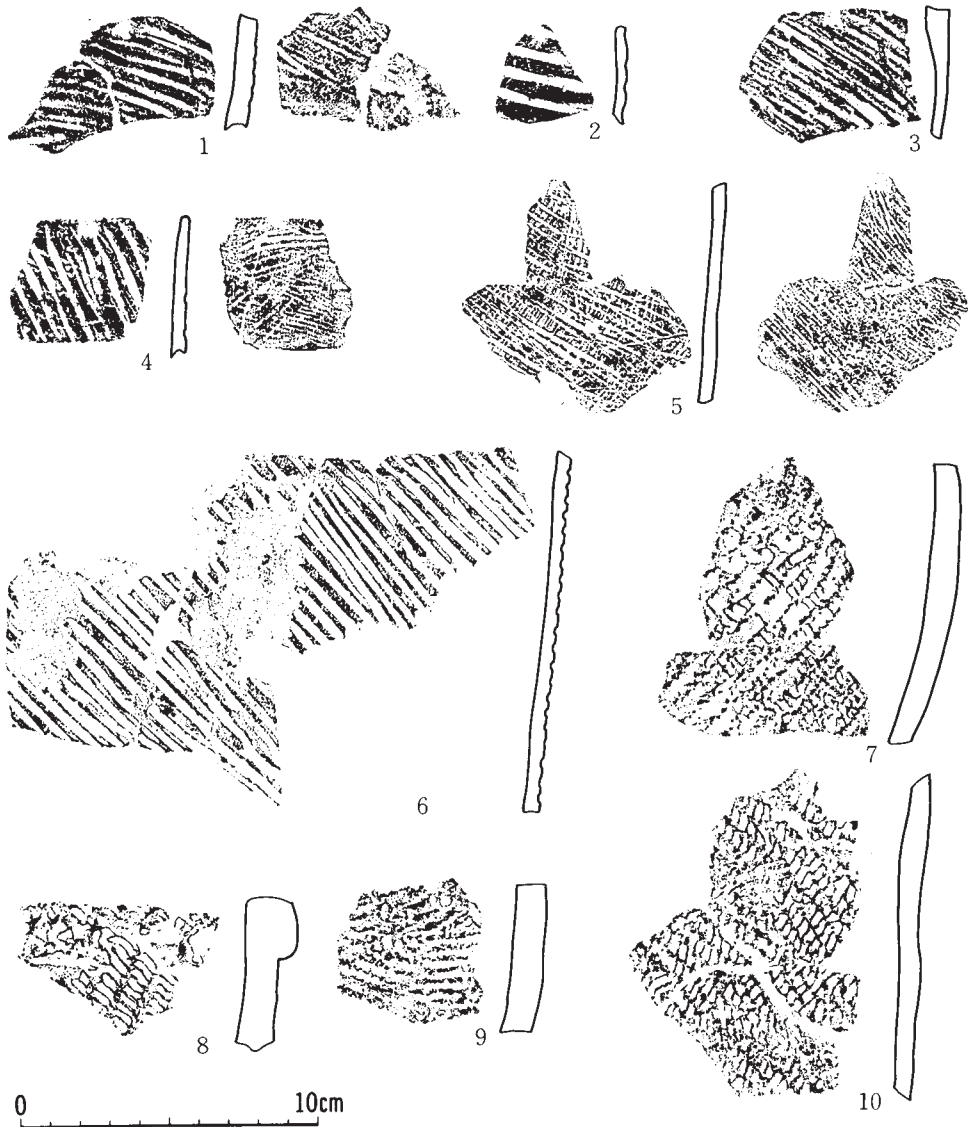




繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文		205H P 211
2	205H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文		205H P 220
3	205H 1層	V 群	胴部	無文		205H P 235
4	205H 1層	V 群	口縁部	無文		205H P 214
5	205H 1層	V 群	胴部	無文		205H P 141
6	205H 1層	V 群	胴部	無文		205H P 49
7	205H 1層	V 群	胴部	貝殼腹縁文、沈線文、刺突文		205H P 240
8	205H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殼腹縁文		205H P 208
9	205H 1層	V 群	胴部	沈線文、貝殼腹縁文		205H P 107
10	205H 1層	V 群	胴部	沈線文、刺突文	条痕	205H P 43
11	205H 1層	XI 群	胴部	単軸絡条体压痕文	条痕	205H P 228
12	205H 1層	VI 群	胴部	沈線文	条痕	205H P 156
13	205H 1層	VI 群	胴部	沈線文	条痕	205H P 224

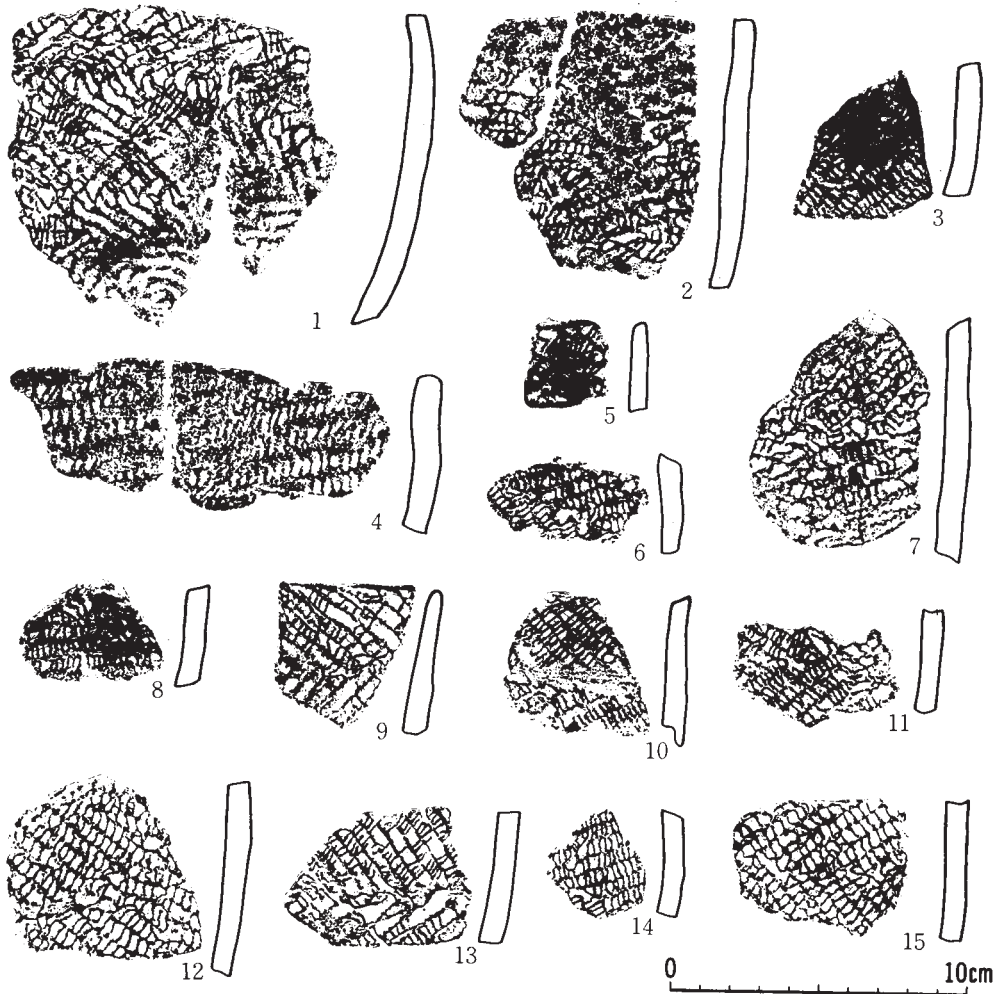
图75 205号住居跡出土遺物(2)



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文	条痕	205H P 152
2	205H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文		205H P 145
3	205H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文	条痕	205H P 139
4	205H 1層	Ⅵ群	口縁部	沈線文	条痕	205H P 22
5	205H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文	条痕	205H P 254
6	205H 1層	Ⅵ群	胴部	沈線文	条痕	205H P 238
7	205H 1層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 42
8	205H 1層	X群	胴部	太貼付隆帯、○段多条LR縄文		205H P 111
9	205H 1層	X群	胴部	RL縄文		205H P 204
10	205H 1層	X群	胴部	RL縄文		205H P 86

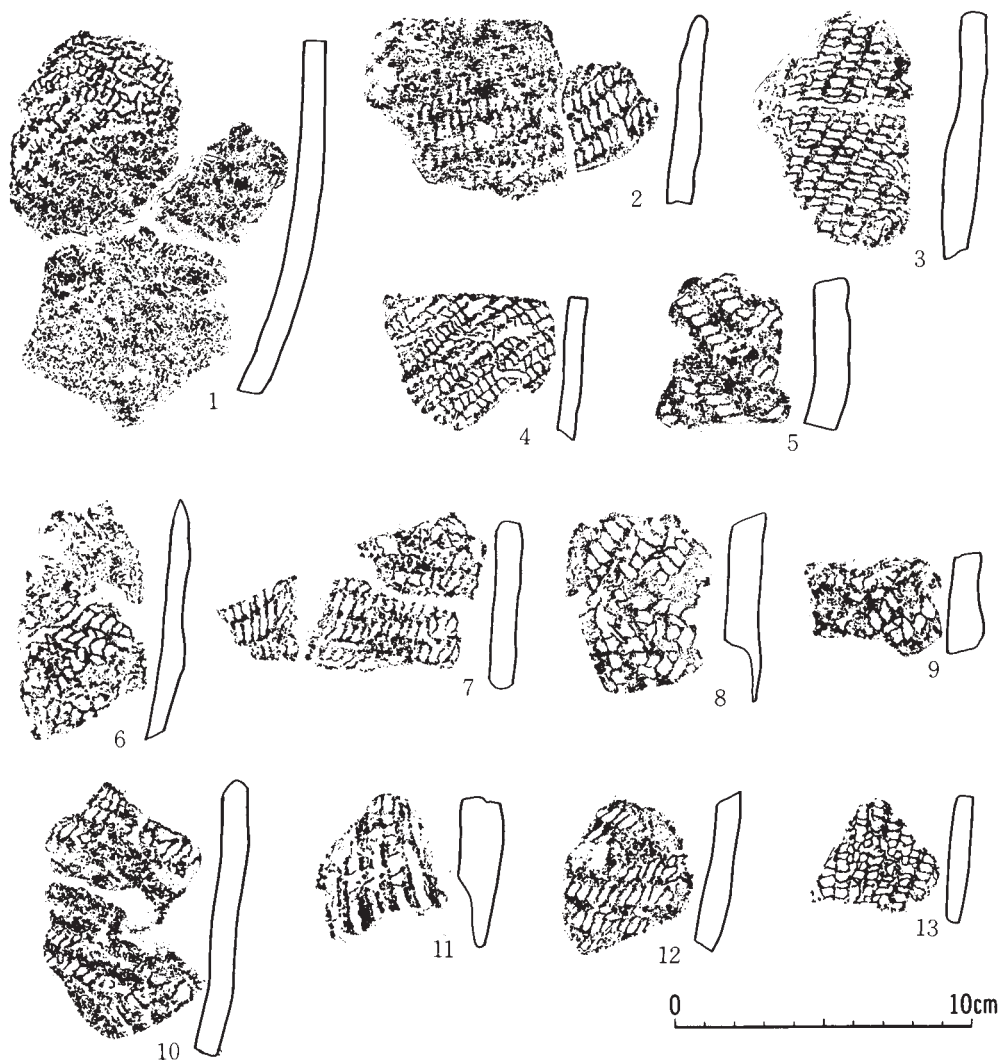
図76 205号住居跡出土遺物(3)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文		篋まで	205H P 66
2	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 227
3	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 20
4	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 169
5	205H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR縄文			205H P 207
6	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 207
7	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 227
8	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 206
9	205H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文			205H P 51
10	205H 1層	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文			205H P 207
11	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文			205H P 74
12	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文		篋まで	205H P 234
13	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条RL縄文・LR縄文		篋まで	205H P 258
14	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文		篋まで	205H P 74
15	205H 1層	XII 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文		篋まで	205H P 198

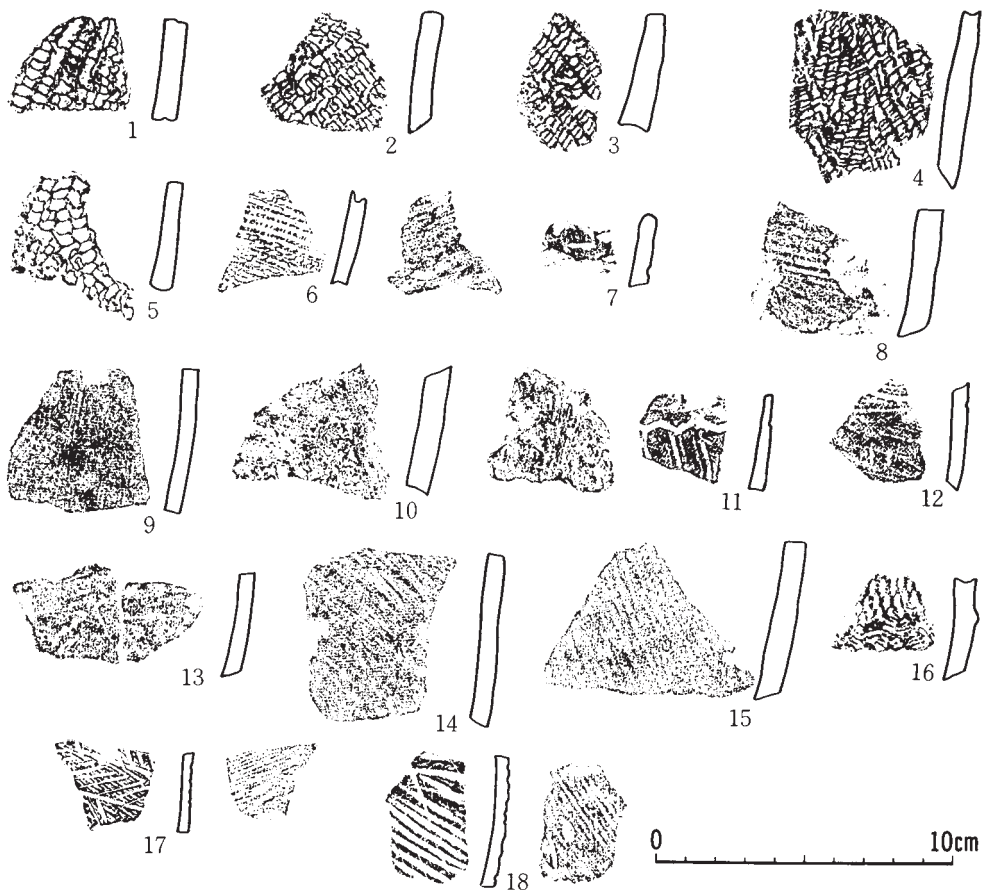
図77 205号住居跡出土遺物(4)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 1層	X 群	胴部	RL 縄文			205H P 228 <sup>44</sup>
2	205H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR 縄文			205H P 84
3	205H 1層	X 群	胴部	○段多条RL 縄文			205H P 217
4	205H 1層	X 群	口縁部	○段多条LR 縄文			205H P 205
5	205H 1層	X 群	胴部	LR 縄文			205H P 185
6	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR 縄文			205H P 137
7	295H 1層	X 群	胴部	○段多条LR 縄文			205H P --括
8	205H 1層	X 群	胴部	LR 縄文			205H P 39
9	205H 1層	X 群	胴部	LR 縄文			205H P 228
10	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR 縄文			205H P 61
11	205H 1層	X 群	胴部	単軸絡条体回転文			205H P 267
12	205H 1層	X 群	胴部	○段多条LR 縄文			
13	205H 1層	IV 群	胴部	LR 縄文			205H P 148

図78 205号住居跡出土遺物(5)

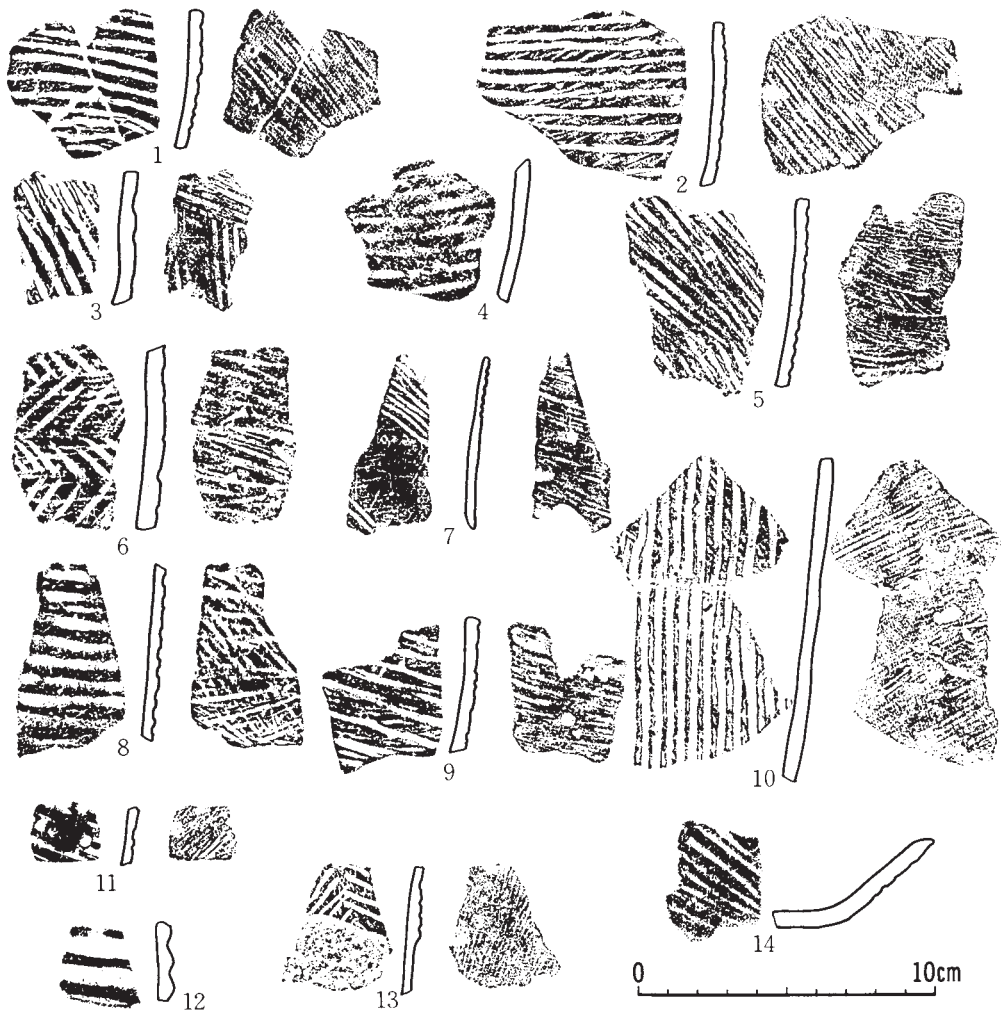


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 1層	IX 群		○段多条R L 縄文		205H P 207
2	205H 1層	X 群	胴部	○段多条R L 縄文		205H P 219
3	205H 1層	X 群	胴部	○段多条R L 縄文		205H P 62
4	205H 2層	X 群	胴部	○段多条R L 縄文		205H P 130
5	205H 1層	X 群	胴部	R L 縄文		205H P 238
6	205H 3層	XV 群	胴部	貝殻文	条痕	205H P 178
7	205H 2層		口縁部	縄文		205H P 157
8	205H 2層	VI 群	胴部	貝殻条痕文		205H P 一括
9	205H 2層	VI 群	胴部	条痕文		205H P 272
10	205H 2層	VI 群	胴部	条痕文	条痕	205H P 一括
11	205H 2層	V 群	口縁部	沈線文・条痕文	条痕	205H P 225
12	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		205H P 17
13	205H 2層	X 群	胴部	R L 縄文		205H P 18
14	205H 2層	VI 群	胴部	条痕文		205H
15	205H 2層	VI 群	胴部	条痕文		205H P 282
16	205H 2層	IX 群	胴部	○段多条R L 縄文		205H P 34
17	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文	条痕	205H P 一括
18	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文	条痕	205H P 160

図79 205号住居跡出土遺物(6)

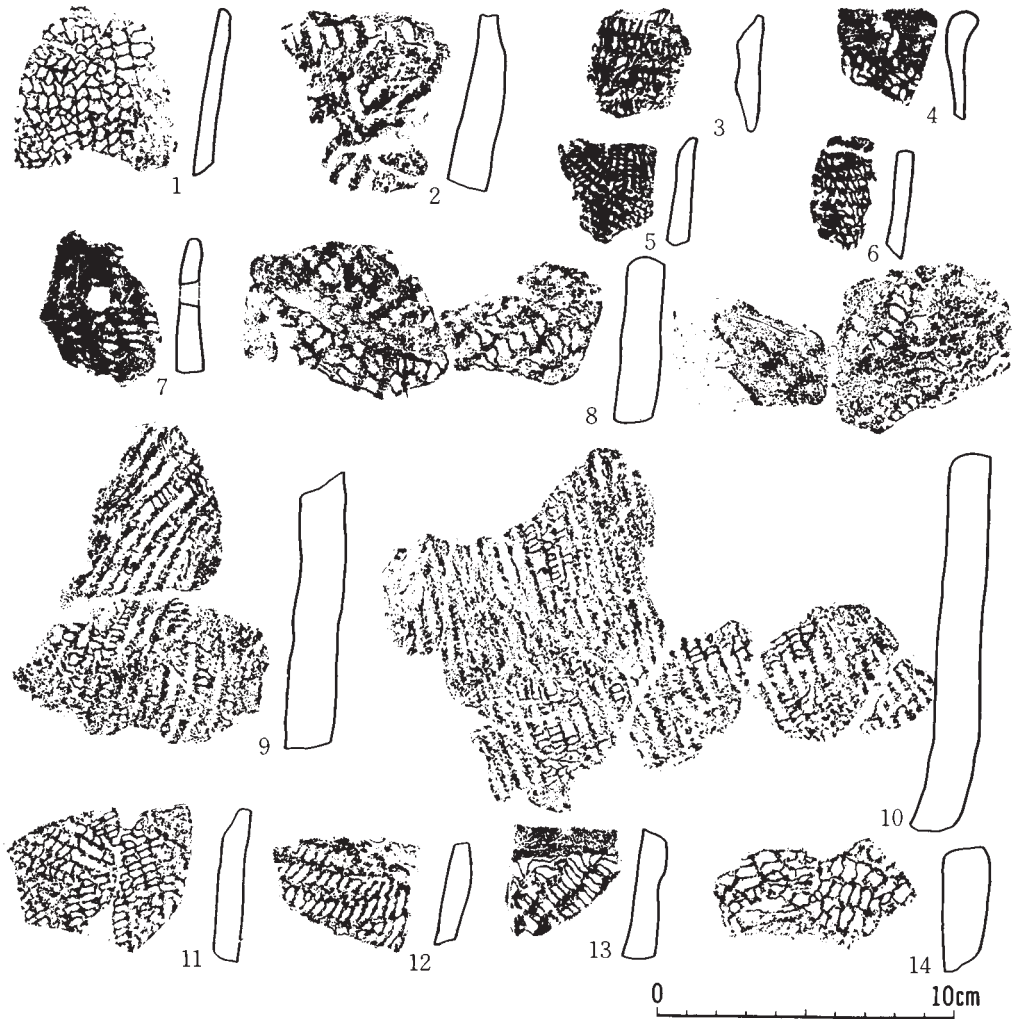




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 30括
2	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 一括
3	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 273
4	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文			205H P 277
5	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 38
6	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 23
7	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 274
8	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 20
9	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 38
10	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 277
11	205H 2層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 93
12	205H 2層	VII 群	胴部	太い沈線文?			205H P 一括
13	205H 2層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	205H P 32
14	205H 2層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	205H P 10

図80 205号住居跡出土遺物(7)

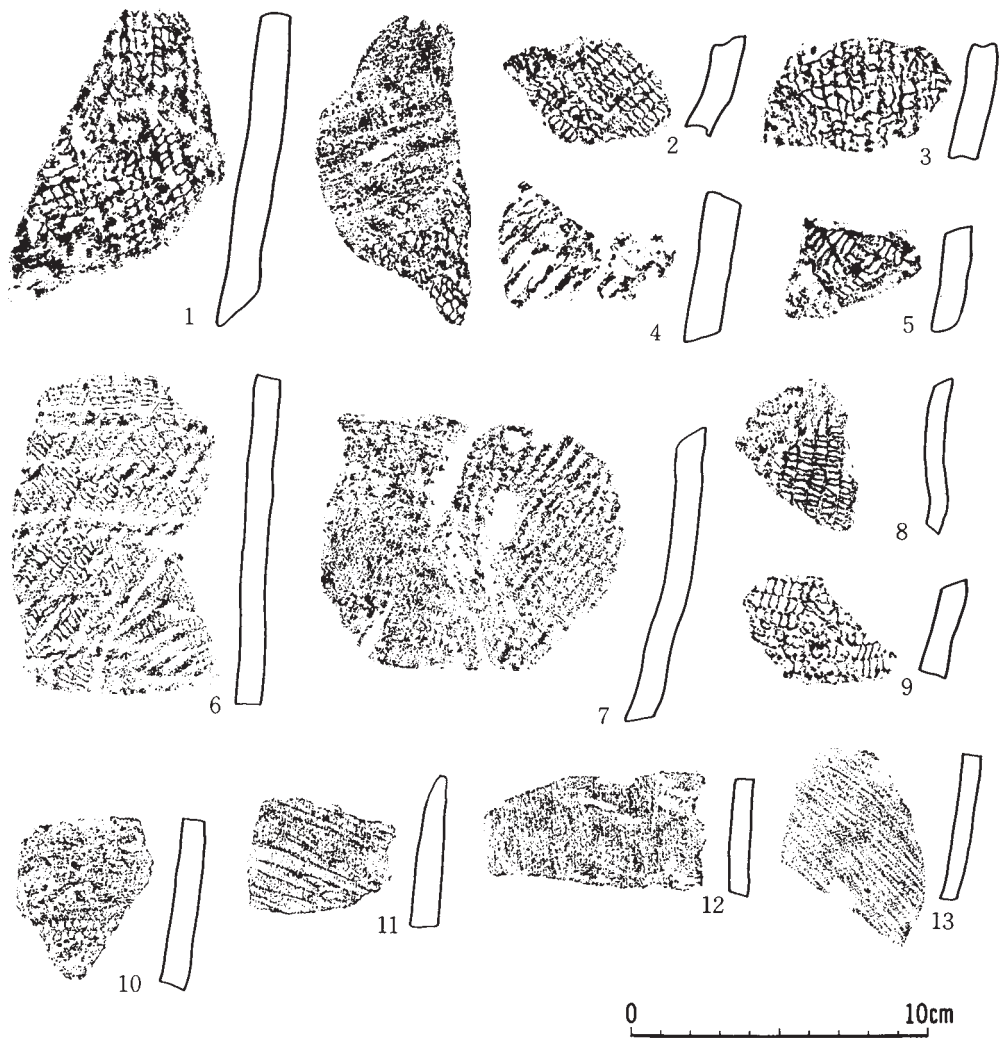


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 2層	Ⅸ群	胴部	R L 縄文		205H P 144
2	295H 2層	X群	胴部	単軸絡条体、回転文		205H P 267
3	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 249
4	205H 2層	X群	口縁部	R L 縄文		205H P 36
5	205H 2層	Ⅸ群	胴部	L R 縄文		205H P 一括
6	205H 2層	Ⅸ群	胴部	L R 縄文	L R 縄文	205H P 166
7	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 72
8	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 246
9	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 249
10	205H 2層	X群	胴部	○段多条RL縄文		205H P 249
11	205H 2層	Ⅸ群	胴部	R L 縄文		205H P 65
12	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 123
13	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 34
14	205H 2層	X群	胴部	○段多条LR縄文		205H P 38

図81 205号住居跡出土遺物(8)

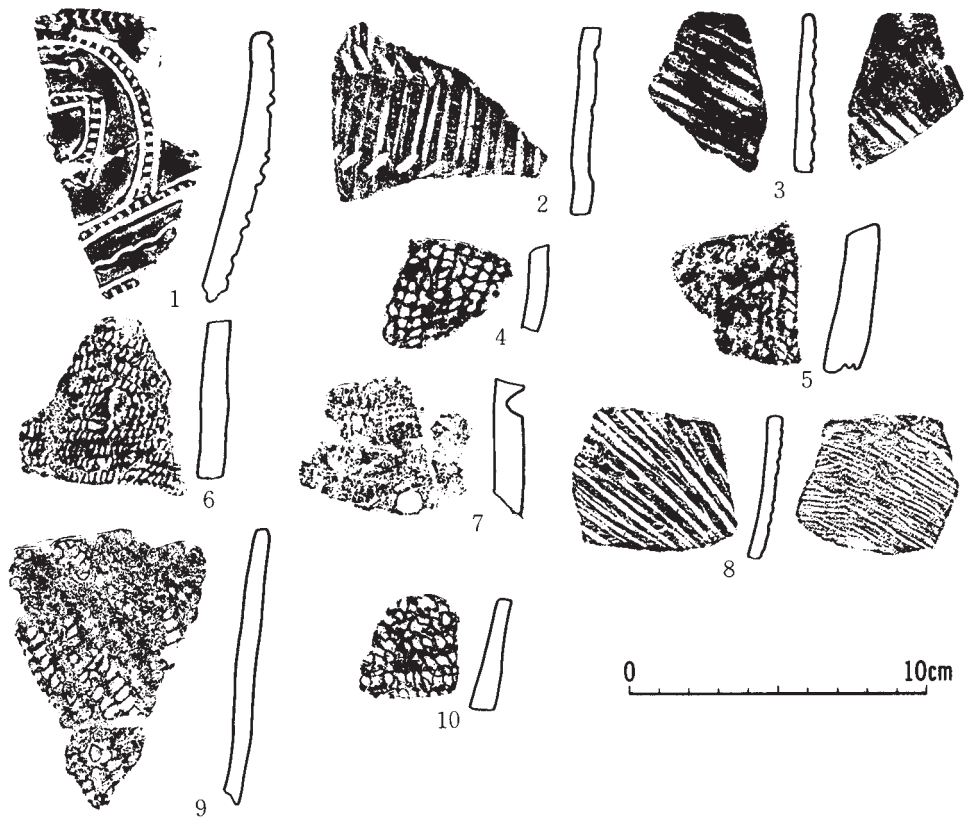




繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 2層	X 群	胴部	直前段合燃繩文	繩文	205H P 10
2	205H 2層	X 群	胴部	○段多条R L 繩文		205H P 277
3	205H 2層	X 群	胴部	○段多条L R 繩文		205H P 280
4	205H 2層	X 群	胴部	単軸絡条体回転文		205H P 267
5	205H 2層	X 群	胴部	○段多条L R 繩文		205H P 一括
6	205H 2層	XI 群	胴部	貼付隆帯、単軸絡条体圧痕文、L R 繩文		205H P 268
7	205H 2層	IX 群	胴部	R L 繩文		205H P 7
8	205H 2層	X 群	胴部	○段多条L R 繩文		205H P 195
9	205H 2層	X 群	胴部	○段多条L R 繩文		205H P 244
10	205H 3層	X 群	胴部	L R 繩文		205H P 5
11	205H 3層	X 群	胴部	無節L 繩文		205H P 21
12	205H 3層	VI 群	胴部	条痕文	条痕	205H P 174
13	205H 3層	VI 群	胴部	条痕文	条痕	205H P 5

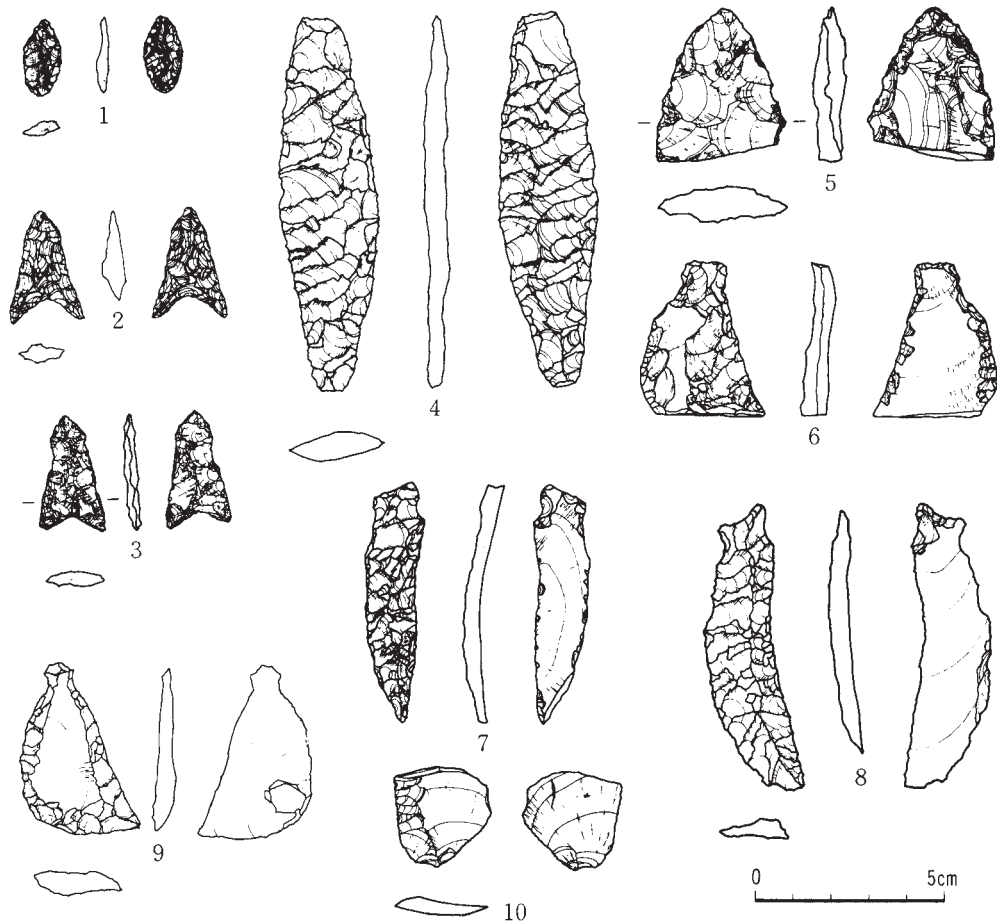
図82 205号住居跡出土遺物(9)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H 3 <sub>4</sub> 上層	V 群	口縁部	沈線文、貝殻文		にがき	205H P 475 <sup>5</sup>
2	205H 3層	VIII 群	胴部	沈線文、刺突文			205H P 28
3	205H 3層	VI 群	口縁部	沈線文		条痕	205H P 270
4	205H 3層	IX 群	胴部	R L 縄文			205H P 121
5	205H 3層	X 群	胴部	直前段			205H P 一括
6	205H 3層	X 群	胴部	○段多条L R 縄文			205H P 37
7	205H 床直	X 群	胴部	単軸絡条体回転文			205H P 180
8	205H 床直	VI 群	胴部	沈線文		条痕	205H P 26
9	205H 床直	IX 群	胴部	○段多条R L 縄文			205H P 168 <sup>201</sup>
10	205H 床直	IX 群	胴部	R L 縄文			205H P 169

図83 205号住居跡出土遺物(10)



石鏃観察表

番号	地区	層位	大 き さ(mm)			重さ(g)	石 質	分 類	長幅比	1			
			長 さ	幅	厚 さ								
1	205H	2層	20	10	4	0.7	珪 質	C 4	II				
2	205H	1層	30	20	6	1.7	珪 質	B 5	I				
3	205H	床直	31	17	4	0.9	珪 質	B 5	I				

石槍観察表

番号	地区	層位	大 き さ(mm)			重さ(g)	石 質	分 類	長幅比	1			
			長 さ	幅	厚 さ								
4	205H	2層	(101)	26	8	(18.0)	青 玉	A					
5	205H		(37.5)	(35)	(7.5)	(8.3)	珪 質	A I					

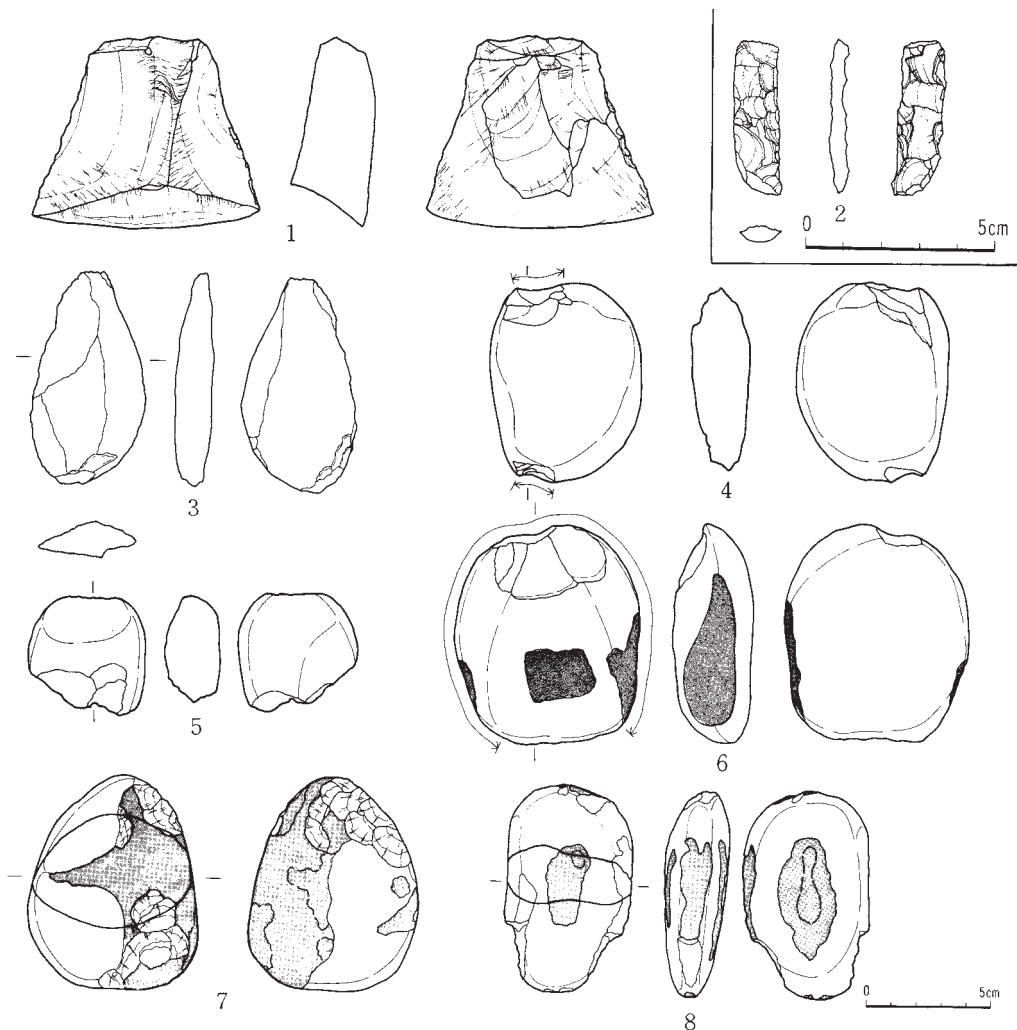
石匕観察表

番号	地区	層位	大 き さ(mm)			重さ(g)	石 質	分 類	長幅比	1			
			長 さ	幅	厚 さ								
6	205H	1層	(41)	(29)	(7)	(7.5)	珪 質	A I	L	R			
7	205H	2層	74	14	5	4.5	珪 質	A III a <sub>1</sub>		L	R		
8	205H	2層	76	18	6	8.2	珪 質	A I b <sub>1</sub>	L		R	L	
9	205H	1層	45	26	5	6.3	珪 質	A II b		L	LR	L	R

スクレーパー観察表

番号	地区	層位	大 き さ(mm)			重さ(g)	石 質	分 類	長幅比	1			
			長 さ	幅	厚 さ								
10	205H	1層	27	25	5	3.1	珪 質						

図84 205号住居跡出土遺物(11)



スクレーパー観察表

番号	分類名	出土地区	層位	遺物番号	出年度	計測値(mm)			重量(g)	石質
						長さ	幅	厚さ		
1		205H	床面	S-70	80	(59.5)	(50.5)	20	(47)	頁
2		205H	Ⅱ層	S-13	80	(41)	12	4	(2.4)	

打斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剝離	磨滅高打	痕
3	205H	85	45	14	52	千輝	V				

石錘観察表

番号	地区	層位	計測値(mm)			重量(g)	石質	分類
			長さ	幅	厚さ			
4	205H	2層	81	62	23	169	チャ	Ⅰ
5	205H	1層	(47)	(48)	(21)	(159)	安	Ⅰ
6	205H	3層	91	80	31	(322)	安	Ⅳ

磨敲凹石類観察表

番号	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	度	h	複合
7	205H	87	79							
8	205H	84	51	26	(144)	安	Ⅳb	スータ	1	

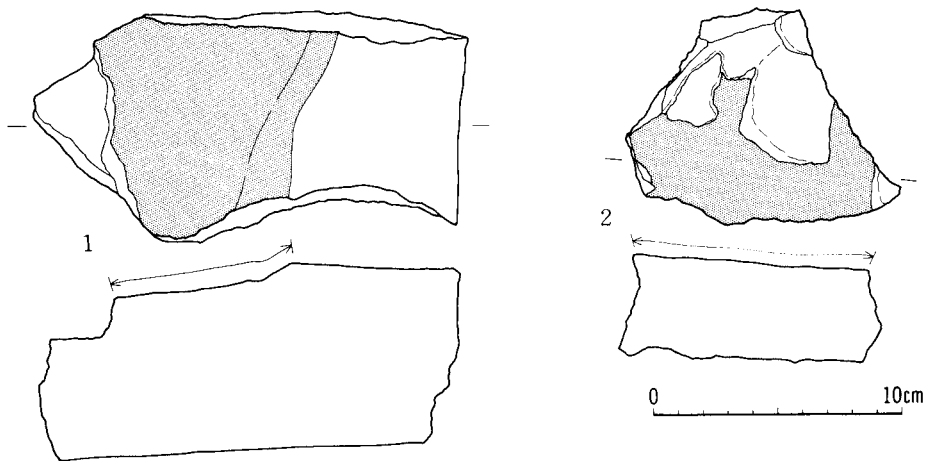
図85 205号住居跡出土遺物(12)



磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	205H	125	45	28							
2	205H	104	52	39	336	頁	IV a	タ	1		
3	205H	95	62	28							
4	205H	94	62	77							
5	205H	120	55	33							
6	205H	105	80	61	687	安	I b	スー	タ	1	

図86 205号住居跡出土遺物(13)



石 皿 観 察 表

番号	地 区	長 さ(mm)	幅(mm)	厚 さ(mm)	重 量(g)	石 質	分 類
1	205H	(176)	(94)	(79)	(1790)	安	
2	205H	(112)	(88)	(41)	( 579)	安	Ⅱ a

図87 205号住居跡出土遺物(14)

### 206号住居跡

位置と確認 E I - 19・20、E J - 19・20グリッド 層上面で黒色土の落ち込みを確認した。

平面形 風倒木痕によって北東壁の周辺が破壊されているが、直径約3.6mの不整形円形を呈していたと思われる。

重複 201号溝状ピット、風倒木痕によって切られている。

覆土 5層に区分できた。いずれも黒～褐色のシルト～粘土質土である。人為堆積の様相はみられない。1～3層は物見台式、ムシリ 式の遺物を包含している。

壁・床面 壁は風倒木痕に破壊された部分以外は残存状態は良好である。壁高は5～30cmで、床面からやや緩やかに立ち上がる。床面は全般に平坦で、出入口と思われる施設は認められなかった。

ピット 35基確認した。柱痕を確認できたものはないが、床面中央のピット35を除く1～34は壁直下及び壁の途中に位置するため、壁柱穴と考えられる。これらは住居跡の中央部に向かって傾いている。壁柱穴の深さは平均6.6cmである。

表17 206号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	5	5	10	壁柱穴	19	5	5	7	壁柱穴
2	5	5	6	〃	20	6	6	13	〃
3	15	8	8	〃	21	8	5	8	〃
4	8	5	6	〃	22	5	5	10	〃
5	15	7	8	〃	23	7	6	5	〃
6	8	6	6	〃	24	12	7	8	〃
7	7	7	3	〃	25	4	4	8	〃
8	5	5	3	〃	26	6	5	6	〃
9	8	8	4	〃	27	5	5	6	〃
10	7	6	5	〃	28	9	7	9	〃
11	9	9	6	〃	29	7	7	8	〃
12	7	5	6	〃	30	10	10	6	〃
13	6	6	5	〃	31	5	5	9	〃
14	8	6	6	〃	32	9	7	6	〃
15	9	8	6	〃	33	8	6	7	〃
16	6	6	4	〃	34	10	7	6	〃
17	8	5	5	〃	35	34	27	6	〃
18	8	6	5	〃					

出土遺物と時期決定 覆土1～3層及び床面直上から物見台式、ムシリ 式の土器が出土し、縄文系の土器は出土していない。石器には石鏃、石槍、スクレーパー等がある。

遺構の構築時期は、床面直上から物見台式とムシリ 式の土器が出土していることから、ムシリ期の時期と考えられる。

#### 207号住居跡

位置と確認 EC - 24・25、ED - 24・25グリッド 層上面で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 北壁の一部と東壁周辺は確認できなかったため、全体は不明である。残存部から推定し、長径3.5m、短径2.6mの隅丸長方形を呈していたと考えられる。

覆土 6層に区分できた。いずれも黒褐色～褐色のシルト質土で、人為的な堆積の様相はみられない。1層から物見台式、ムシリ 式、赤御堂式、早稲田 類の遺物が出土した。

壁・床面 北壁の一部、西側の壁及び南側の壁が確認された。壁高は7～46cmで、やや緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦で、炉跡、出入口等は認められなかった。

ピット 確認できたピットは29基である。この中で柱痕を確認できたものはない。壁直下及びその周辺に位置するピット1、3～22は壁柱穴と思われ、口径が小さい割には深い作りになっている。壁柱穴の深さは平均20.2cmである。ところで、ピットの掘り方が地山の傾斜に沿って谷側に傾いているものがいくつか存在するが、これらはそのように意図して掘ったものではなく、部分的な地すべりによって生じたものと考えられる。



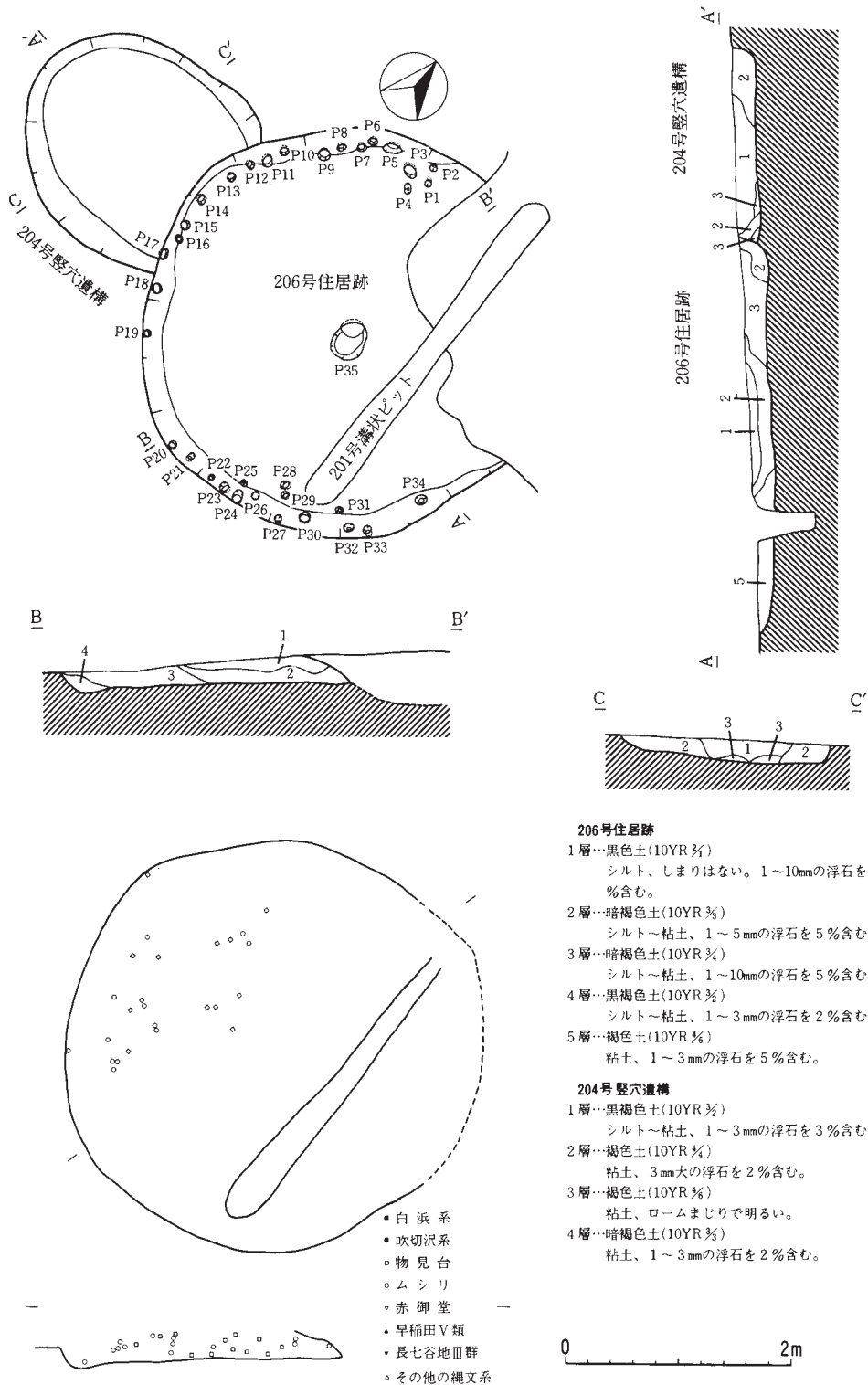


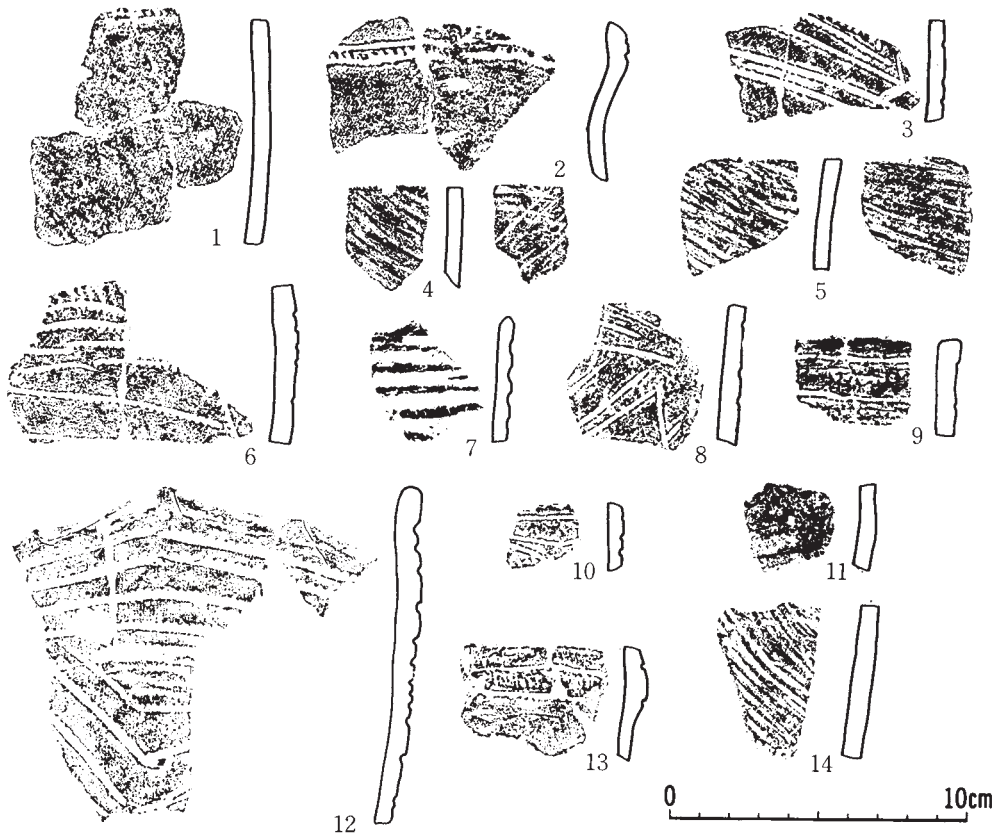
図88 206号住居跡、206号住居跡遺物出土状況



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	206H 1層	V 群	胴 郎	貝殻腹線文、沈線文		条 痕	206H P一括
2	206H 1層	V 群	口縁郎	貝殻腹線文、沈線文			206H P一括
3	206H 1層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P一括
4	206H 1層	VI 群	胴 郎	太い沈線文			206H P 36
5	206H 1層	VII 群	胴 郎	太い沈線文			206H P 14
6	206H 1層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P一括
7	206H 1層	VI 群	胴 郎	微隆起線文			206H P一括
8	206H 1層	VI 群	胴 郎	沈線文			206H P 4
9	206H 1層	V 群	口縁郎	貝殻腹線文、刺突文			206H P1042
10	206H 1層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P一括
11	206H 3層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P 20
12	206H 1層	V 群	口縁郎	貝殻腹線文、沈線文、刺突文			206H P 31
13	206H 1層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P一括
14	206H 3層	VI 群	胴 郎	沈線文		条 痕	206H P 20

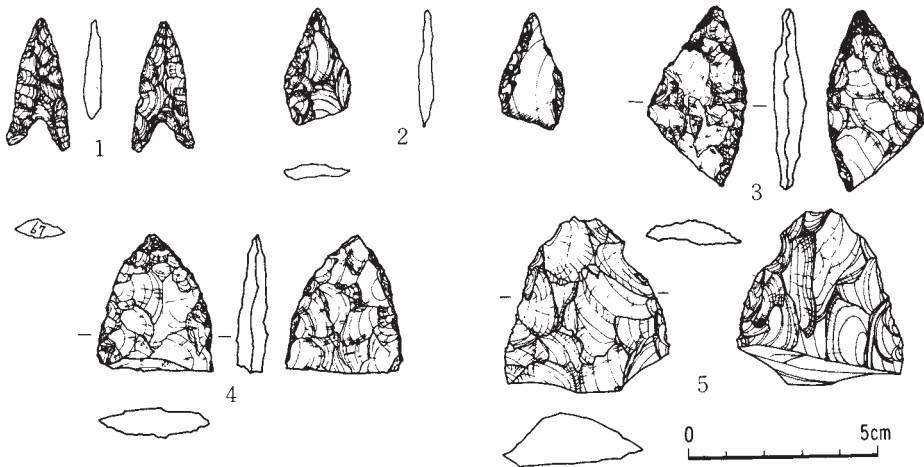
図89 206号住居跡出土遺物(1)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	206H 3層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	条痕文	条痕	206H P 38
2	206H 3層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P 10
3	206H 3層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P 21
4	206H 3層	VI群	胴部	条痕文		条痕	206H P 9
5	206H 3層	VI群	胴部	条痕文		条痕	206H P 19
6	206H 3層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P 7
7	206H 3層	VII群	胴部	太い沈線文		条痕	206H P 16
8	206H 3層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P 18
9	206H 堆積土	V群	口縁部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P-一括
10	206H 床直	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文		206H P 15
11	206H 床直	V群	胴部	貝殻文			206H P 5
12	206H 堆積土	V群	口縁部	貝殻腹縁文、	沈線文、刺突文		206H P 39
13	206H 1層	V群	胴部	貝殻腹縁文、	沈線文、刺突文		206H P 32
14	206H 床直	VI群	胴部	沈線文		条痕	206H P 37

図90 206号住居跡出土遺物(2)

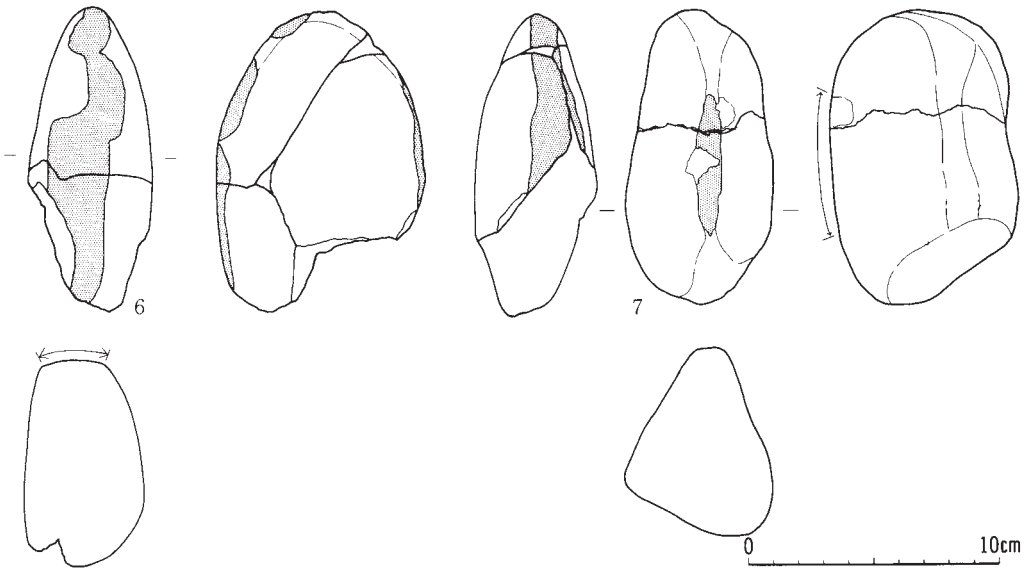


石鏃 (1~2) 石槍 (2~4) 観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
1	206H	IV層F	35	17	5	1.8	珪頁	B 5	II
2	206H	3層	29	17	3	(1.4)	珪頁	D	I
3	206H	床面	(92)	44	(15)	(45.4)	珪頁	石槍	
4	206H	床面	(46)	(25.5)	(7.5)	(6.4)	珪頁	石槍	

スクレーパー観察表

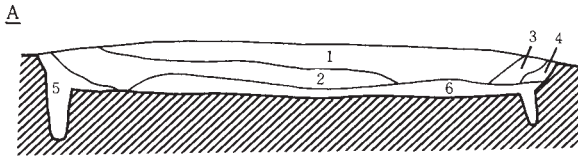
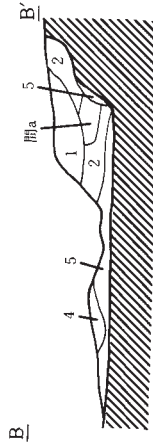
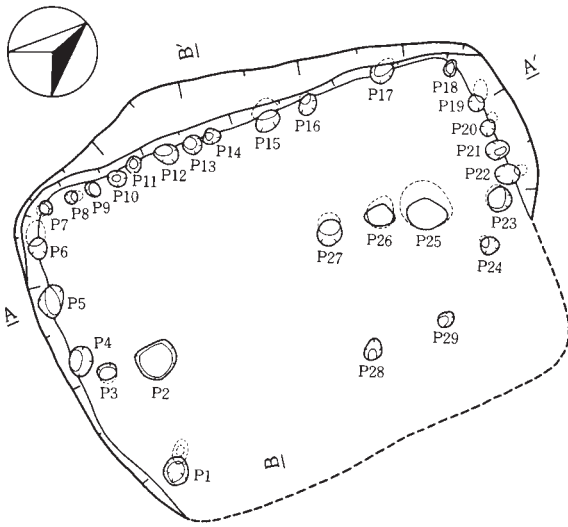
番号	分類名	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質
5	サイドスクレーパー	206H	床面	47	44	14	24.7	珪頁



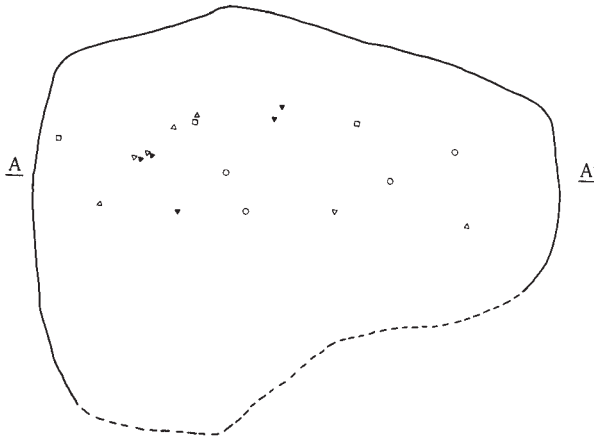
磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
6	206H	120	83	45							
7	206H	117	55	57							

図91 206号住居跡出土遺物(3)



0 2m

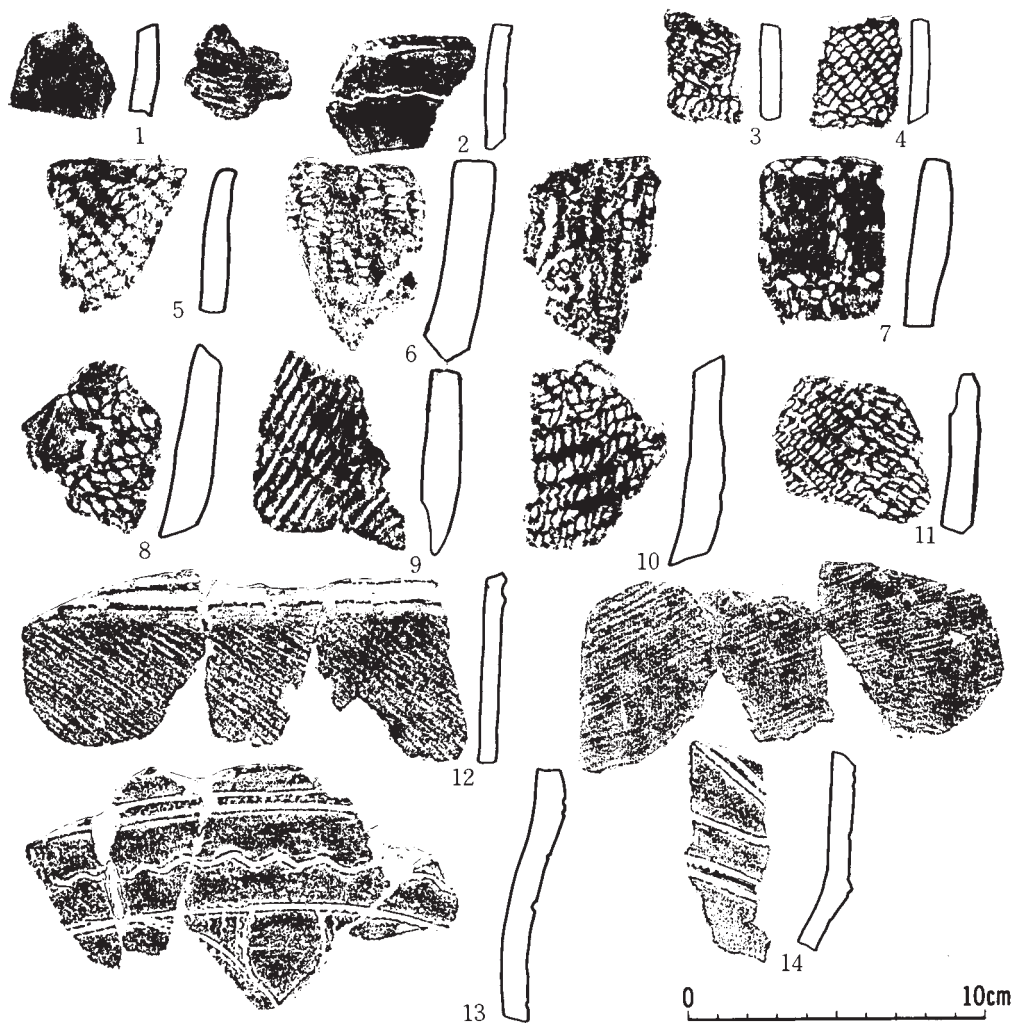


**207号住居跡**

- 1層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
シルト質で、1~10mmの火山灰を25~30%含む。
- 2層…極暗褐色土(7.5YR 3/2)  
シルト質で1~7mmの火山灰を20%ぐらい含む。
- 3層…暗褐色土  
シルト質で1~2mmの火山灰を1%ぐらい含む。
- 4層…褐色土(10YR 5/2)  
シルト質で2~3mmの火山灰を5%ぐらい含む。
- 5層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
1~3mmの火山灰を2~3%ぐらい含む。
- 6層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
シルト質で、1~2mm大の浮石を5%含む。
- 間a層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
シルト質で、1~3mm大の浮石を5%含む。

- 白浜系
- 吹切沢系
- 物見台
- ムシリ
- ◇ 赤御堂
- ▲ 早稲田V類
- ▼ 長七谷地Ⅲ群
- ◇ その他の縄文系

図92 207号住居跡、207号住居跡遺物出土状況



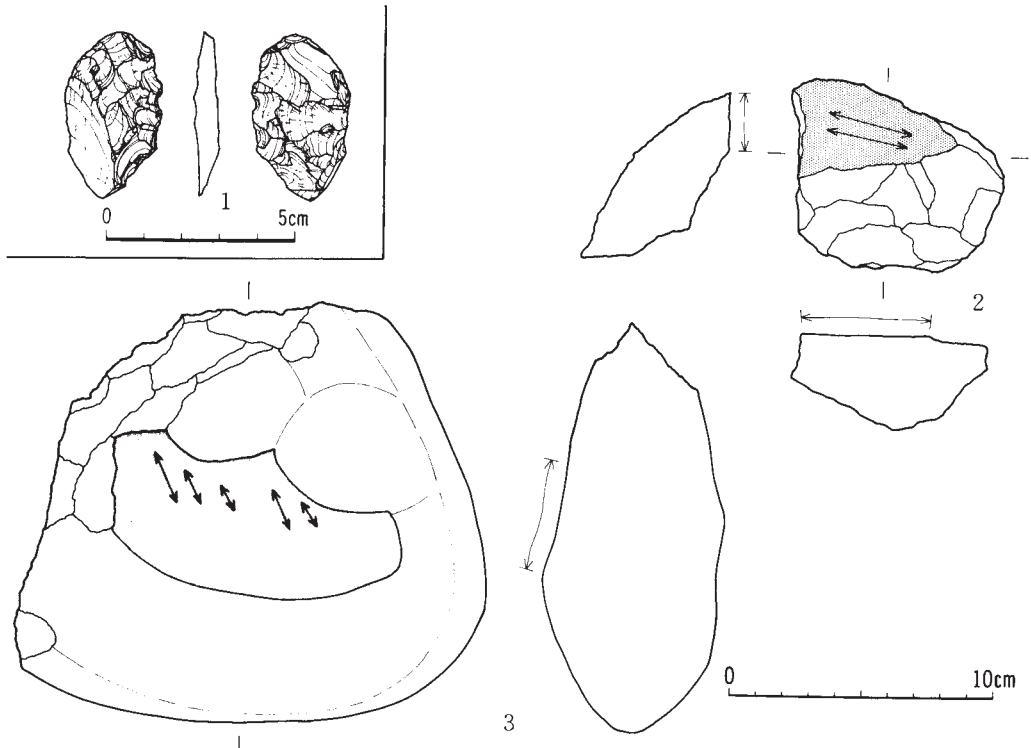
繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	207H 1層	VI 群	胴部	沈線文		条痕	207H P 17
2	207H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			207H P 9
3	207H 1層	IX 群	胴部	LR縄文			
4	207H 1層	IX 群	胴部	RL縄文			
5	207H 1層	X 群	口縁部	RL縄文			207H P 8
6	207H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文		縄文	207H P 8
7	207H 1層	X 群	胴部	擦系側面压痕文			207H P 17
8	207H 1層	X 群	胴部	RL縄文			207H P 12
9	207H 1層	X 群	胴部	単軸絡条体回転文			207H P 13
10	207H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			207H P 一括
・1	207H 1層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			207H P 一括
12	207H 1層	VI 群	胴部	条痕文		条痕	
13	207H 1層	V 群	口頸部	細隆起線文			207H P 206
14	207H 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文、沈線文			207H P 1

図93 207号住居跡出土遺物(1)

出土遺物と時期決定 遺物は1層からだけ出土し、他の層には含まれていなかった。土器型式には物見台式、ムシリ式、赤御堂式、早稲田類がある。いずれも破片で復元できるものはない。石器にはスクレーパー、石皿がある。

遺構の時期を決定づける出土状態の遺物はないので不明である。早稲田類以前とだけ記しておく。



スクレーパー観察表

番号	分類名	出土地区	層位	計測地(mm)			重量(g)	石質
				長さ	幅	厚さ		
1	サイドスクレーパー	207H		45	26	6	89	珪頁

石皿観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
2	207H	(82)	(72)	(56)	(150)	多安	
3	207H	155	175	65			

図94 207号住居跡出土遺物(2)



表18 207号住居跡ピット一覧表

ピット 番 号	掘り方の規模			備 考	ピット 番 号	掘り方の規模			備 考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	19	15	26	壁柱穴	16	14	11	20	壁柱穴
2	26	24	15		17	17	16	20	〃
3	13	13	26	壁柱穴	18	10	9	18	〃
4	20	15	16	〃	19	10	10	21	〃
5	20	16	36	〃	20	10	9	19	〃
6	14	12	14	〃	21	16	12	26	〃
7	8	8	20	〃	22	16	13	24	〃
8	8	8	23	〃	23	16	16	31	
9	9	9	15	〃	24	12	11	33	
10	12	11	10	〃	25	28	21	38	
11	11	10	17	〃	26	20	14	27	
12	15	13	15	〃	27	18	16	20	
13	12	12	20	〃	28	14	12	26	
14	12	10	22	〃	29	11	9	26	
15	17	10	21	〃					

208号住居跡

位置と確認 E G - 23・

24、E H - 23・24グリッド  
層で直径 2 m ほどの黒色土の  
落ち込みを確認した。

平面形 西南部の輪郭は  
不明であるが、直径 3 m のほ  
ぼ円形を呈するものと思われ  
る。

重複 西壁の一部が207  
号溝状ピットに切られている。  
また、南西部のプランははっ  
きり確認できなかったが、  
205号住居跡と重複している。

覆土 6層に区分できた。  
いずれも自然堆積と思われる。

1層に遺物が包含されてる。

壁・床面 南西壁は確認  
できず、西壁は溝状ピットに

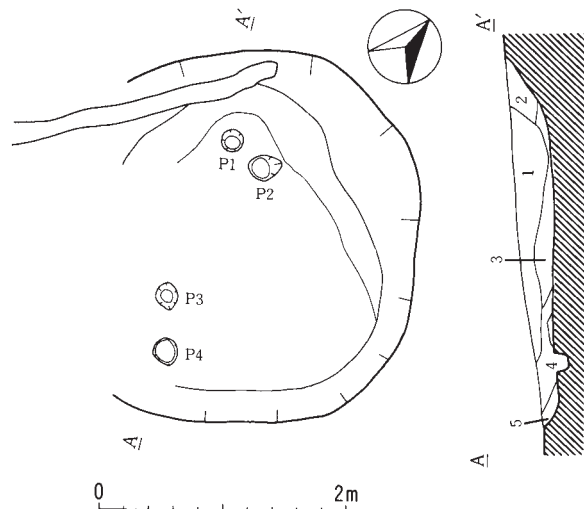


図95 208号住居跡

切られている。北壁は高さが約30cmであるが、立ち上がりは緩い。東壁は13～15cmと低く、立ち上がりは北壁同様緩い。床面は平坦で白色粘土や細砂がみられ、しまりがなく、やわらかい。

ピット 4基確認した。おおよそ直径17～25cm、深さ14.7～26cmであるが、この遺構に伴うかどうか覆土の関係からはとらえることができなかった。

表19 208号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備 考	ピット 番号	掘り方の規模			備 考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	18	17	22.4		3	22	18	17.5	
2	25	20	26.0		4	22	19	14.7	

出土遺物と時期決定 覆土は5層に分けられたが、そのうち1層からムシリ 式の土器が出土しただけである。

遺構の時期を決定づけるものはなかったので不明である。ムシリ 式期か、それ以前に位置づけられよう。



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	208H 1層	VI 群	胴部	沈線文			条痕	208H P一括
2	208H 1層	VI 群	胴部	沈線文			条痕	208H P一括
3	208H 1層	VI 群	胴部	沈線文			条痕	208H P一括

図96 208号住居跡出土遺物

### 209号住居跡

位置と確認 E J - 20・21、E K - 20・21グリッド 層で暗褐色の落ち込みを確認した。

平面形 長径2.4m、短径2.1mで、底面では長径約200cm、短径170cmの楕円形を呈する。

覆土 4層に区分できた。自然堆積の様相を呈し、全体的に浮石の混入がみられる。1層から土器3点とフレーク2点出土した。

壁・床面 壁は柔らかな茶褐色土であり、確認に時間がかかったが、全壁を調査することができた。北壁25cm、南壁10cm、東壁15cm、西壁20cmほどで、立ち上がりはおおよそ45度である。床面は平坦で固くしまっている。出入口等の施設は検出されなかった。

ピット 壁及び床面にピットを15基確認したが、ピット15を除き、壁あるいは壁近くにあ

るところから柱穴と推定される。  
平均の深さは9.9cmである。

出土遺物と時期決定 覆土は4層に分けられたが、1層から物見台式とムシリ 式の土器が少量出土しただけである。

遺構の時期をはっきり決定づける出土状況の遺物はなかった。ムシリ 式期か、それ以前の遺構といえよう。(天間 勝也)

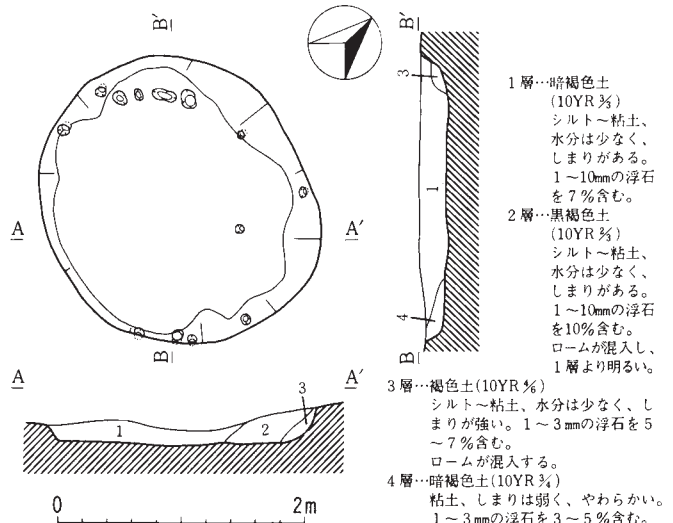
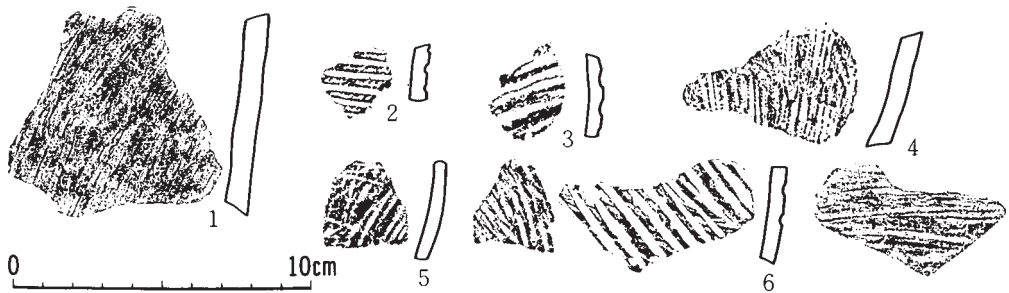


図97 209号住居跡

表20 209号住居跡ピット一覧表

ピット番号	掘り方の規程			備考	ピット番号	掘り方の規程			備考
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	16	12	25	壁柱穴	9	8	6	7	壁柱穴
2	20	10	19	〃	10	9	8	11	〃
3	10	6	9	〃	11	10	8	7	〃
4	12	8	9	〃	12	7	6	7	〃
5	10	8	3	〃	13	10	6	8	〃
6	10	8	9	〃	14	6	6	6	〃
7	8	6	10	〃	15	9	8	5	〃
8	12	8	8	〃					



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	209H 1層	VI群	胴部	条痕線			209H P 2
2	209H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	209H P一括
3	209H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	209H P一括
4	209H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	209H P 1
5	209H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	209H P一括
6	209H 1層	VI群	胴部	沈線文		条痕	209H P一括

図98 209号住居跡出土遺物

## (2) 竪穴遺構と出土遺物

縄文時代の竪穴通構は、第1次調査で1～4号の4基、第2次調査で201～205号の5基、計9基検出した。確認層は、早期物見台式から前期初頭長七谷地群までの遺物を包含する標準土層層であり、遺構覆土内から出土する遺物は各遺構とも類似する。したがって構築時期は、いずれも早期後半から前期初頭と考えられる。平面形は統一されたものではなく、大きさもまちまちである。

### 1号竪穴遺構

**位置と確認** DL-19グリッドとDM-19グリッドにまたがり、遺構の一部は4号住居跡の南側壁の下で確認した。

**平面形** 長径110cm、短径100cm、底面では長径、短径とも90cmのほぼ円形を呈する。

**重複** 北東の一部が4号住居跡と切り合っているが、堆積土の状況から本遺構が新しいと判断した。

**覆土** 3層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。1層中に少量の焼土があったがこの遺構に伴うものではなく、流れ込んだものと考えられる。

**壁・底面** 西壁の高さが15cmで立ち上がりも急であるが、東壁は5cmで立ち上がりは緩い。底面は平坦で、ピット等は認められなかった。

**出土遺物と時期決定** 覆土から長七谷地群土器が3点出土した。4号住居跡(赤御堂式期)を切っていることから赤御堂式期よりは新しく、長七谷地群期あたりと考えられる。

### 2号竪穴遺構

**位置と確認** DL-13・14グリッド層で円形の落ち込みを確認した。

**平面形** 長径105cm、短径85cm、底面では長径90cm、短径75cmの隅丸方形形状を呈する。

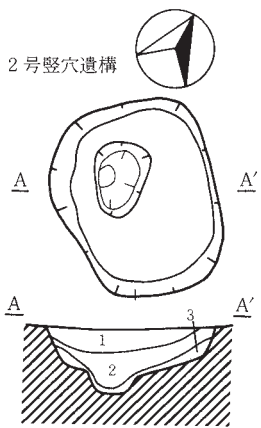
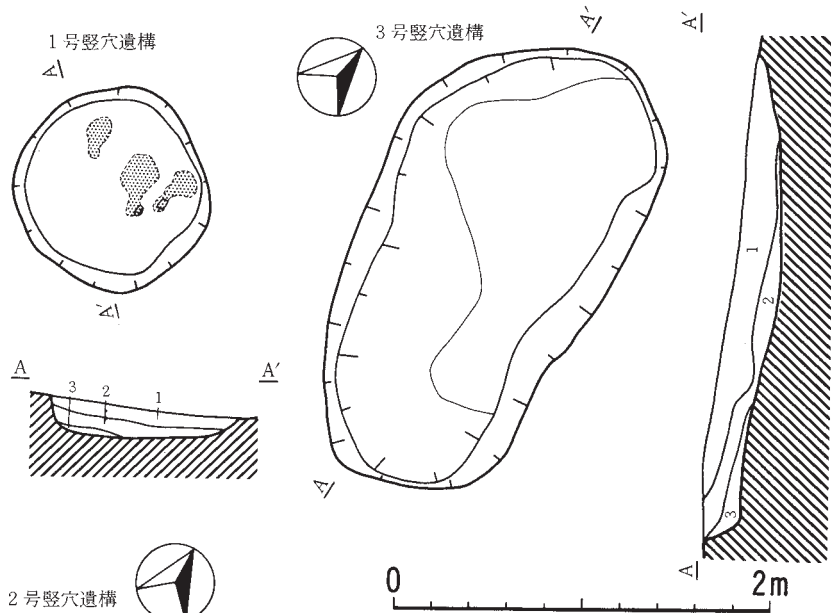
**覆土** 3層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。いずれもシルト質で1・2層は湿性が強い。3層には炭化物の混入がみられる。

**壁・底面** 南西壁の高さは15～25cm、北東壁は15～20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は中央部がやや深くなり、西寄りに長径40cm、短径30cm、深さ33cmの柱穴状ピットが1基ある。

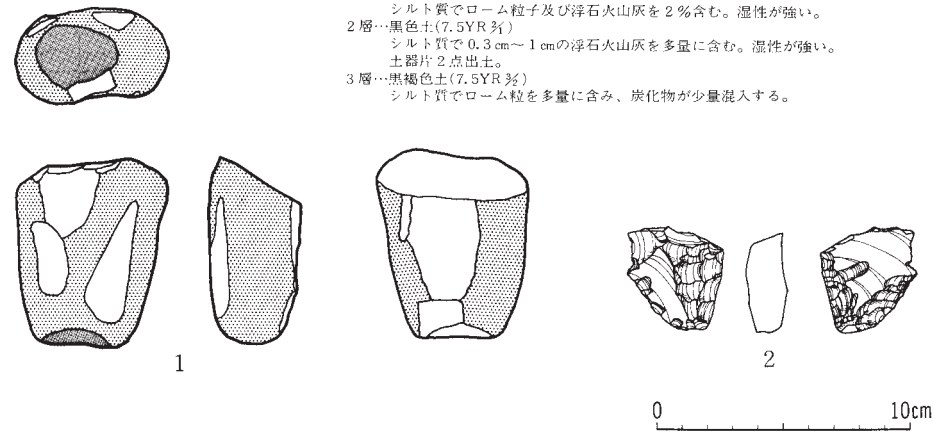
**出土遺物と時期決定** 遺物は出土していないので明言できないが、早期末から前期初めにかけての遺物包含層で確認されているので、そのあたりに位置づけられよう。

### 3号竪穴遺構

**位置と確認** DQ-13・14グリッドからDR-13グリッドにかけて層に黒褐色の落ち込みを確認した。



- 1号竪穴遺構**  
 1層…黒褐色土(7.5YR 2%)  
 粘土質で粒子は細かく、0.3～0.5cmの浮石を40%含む。  
 2層…暗褐色土(7.5YR 3%)  
 1層よりもしまりがあり、粘性も強い。0.5cmぐらいの浮石を10%ほど均等に含む。  
 3層…暗褐色土(10YR 3%)  
 2層と同質と思われるが、しまりが弱い。
- 2号竪穴遺構**  
 1層…黒色土(7.5YR 2%)  
 シルト質で0.1cm位のローム粒を0.5%含む。しまりがあつてかたく、焼土が含まれている。  
 2層…黒褐色土(10YR 2%)  
 シルト質で0.2～0.3cm位のローム粒を0.5%、0.3～0.5cmの浮石を0.5%含む。1層よりはしまりはなくやわらかい。  
 3層…暗褐色土(7.5YR 2%)  
 しまりはなくやわらかく、ローム粒を5%程含む。
- 3号竪穴遺構**  
 1層…黒色土(7.5YR 2%)  
 シルト質でローム粒子及び浮石火山灰を2%含む。湿性が強い。  
 2層…黒色土(7.5YR 2%)  
 シルト質で0.3cm～1cmの浮石火山灰を多量に含む。湿性が強い。土器片2点出土。  
 3層…黒褐色土(7.5YR 2%)  
 シルト質でローム粒を多量に含み、炭化物が少量混入する。



磨敲凹石類観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
1	1 竪	51	40	25							

スクレーパー観察表

番号	分類名	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質
2		2 竪穴	2 層	28	25	11	7.5	玉髓

図99 1・2・3号竪穴遺構、1・2号竪穴遺構出土遺物

平面形 長径210cm、短径130cmの長円形を呈する。

壁・底面 南壁の高さ15～20cm、北壁は10cmくらいでほぼ垂直に立ち上がる。他の壁高は10～20cmで、立ち上がりは緩い。底面は地山の傾斜に沿っていくぶん北に傾斜している。ピット等は認められなかった。

覆土 3層に区分できた。自然堆積と思われる。3層とも粒子の細かい粘土質で、0.3～0.5cmの浮石を含んでいる。

出土遺物と時期決定 覆土1層から長七谷地群の土器が4点出土した。このことから、早期末～前期初めに位置づけられる。

#### 4号竪穴遺構(図40)

位置と確認 D J - 18・19、D K - 18・19グリッド 層付近で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 長径260cm、短径120cmの不整形を呈する。

重複 9号住居跡の床面が本遺構上面にあった。

覆土 4層に区分できた。1層を除く他の層はいずれも褐色系のシルト質土である。

壁・底面 壁高は20～30cmほどで、底面から垂直に立ち上がる。底面は凹凸が激しい。

ピット 底面で確認したピットは9基である。本遺構に伴うピットと考えられるが柱穴かどうかは、不明である。

出土遺物と時期決定 本遺構からは遺物が出土しなかった。9号住居跡(長七谷地群期)の下で確認されたことから、早期末あたりの遺構と思われる。

#### 201号竪穴遺構

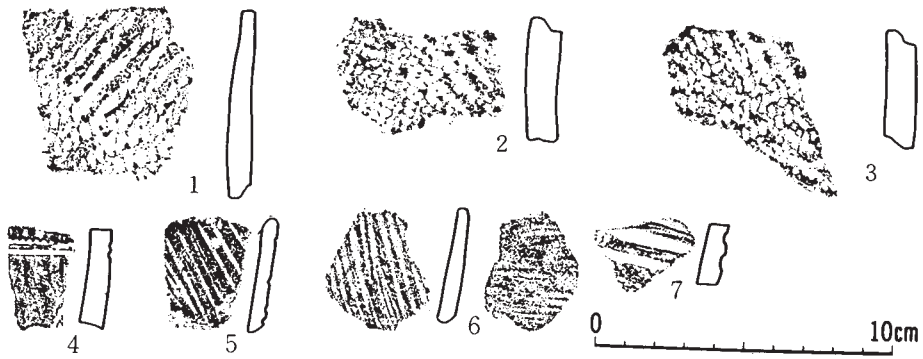
位置と確認 E I - 24・25、E J - 24・25グリッド 層で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径110cm、短径95cmで、底面は長径80cm、短径70cmの楕円形を呈する。

覆土 深いところでも10cmしかなく、層区分できなかった。層と同質の覆土であるが、浮石、ローム粒がいくぶん多い。土器片が4点出土した。

壁・底面 壁は底面とはっきり区別できないほどゆるやかに立ち上がり、底面もしまりがない。北東端で確認した直径15cm、深さ21cmのピットは、柱痕を認めず、この竪穴遺構に伴うかどうか不明である。

出土遺物と時期決定 覆土から物見台式が1点、ムシリ式が3点出土した。構築時期を明言できないが、出土遺物からムシリ式期あたりと考えられる。



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	1 竪穴	IX 群	胴部	LR縄文			1竪 P一括
2	1 竪穴	IX 群	胴部	LR縄文			1竪 P一括
3	1 竪穴	IX 群	胴部	LR縄文			1竪 P一括
4	201 竪穴	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			201竪 P 3
5	201 竪穴	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201竪 P 2
6	201 竪穴	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201竪 P 1
7	201 竪穴	VI 群	胴部	沈線文		条痕	201竪 P 2

図100 1・201号竪穴遺構出土遺物

### 202号竪穴遺構

**位置と確認** EF - 20グリッド 層下部で暗褐色の落ち込みを確認した。精査の結果一部はEE - 20グリッドにもかかっていた。

**平面形** 長径225cm、短径180cmで、底面では長径217cm、短径150cmのほぼ楕円形を呈する。

**覆土** 7層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。いずれの層もシルト質で、浮石を若干含んでいる。覆土から土器片9点、フレーク2点出土した。

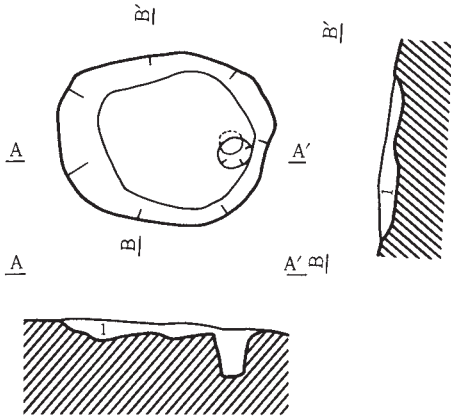
**壁・底面** 壁高は北壁、西壁、東壁とも20cm、南壁は30cmである。壁面はやわらかいが、立ち上がりはしっかりしており、その角度は約45度である。底面は中央部に近くなるほどたくなる。ピット等は認められなかった。

**出土遺物と時期決定** 覆土中から物見台式、ムシリ 式、長七谷地 群の土器が出土した。このことから、前期初頭に位置づけられる。





201号小竪穴

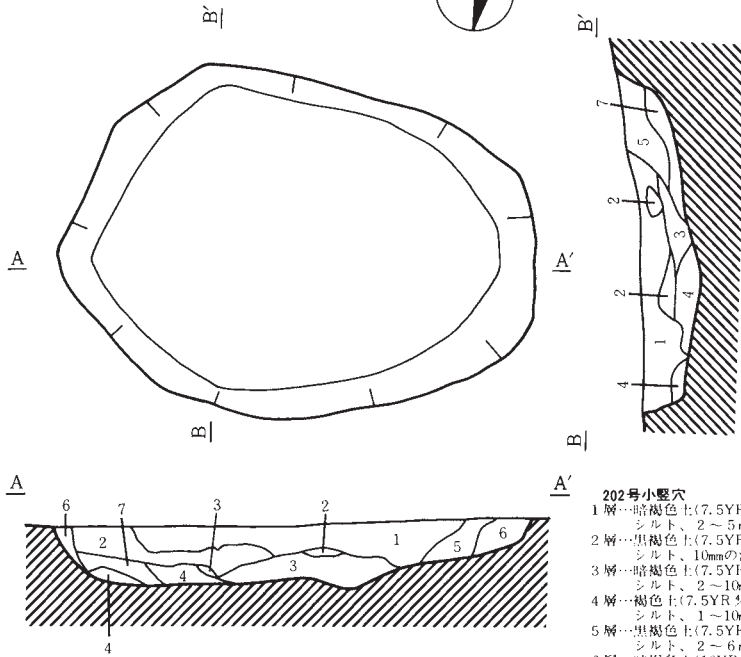


201号小竪穴

- 1層…極暗褐色土(7.5YR 3/6)  
2～3mmの浮石を5%程度含む。しまりが強い。
- 2層…褐色土(10YR 3/6)  
2～3mmの浮石を7%、ローム粒を含む。しまりがなくやわらかい。
- 3層…褐色土(7.5YR 3/6)  
2mm大の浮石を3%含む、ローム粒が部分的に混入する。
- 4層…暗褐色土(7.5YR 3/4)  
1層と同質だが、色調に差異がみられる。
- 5層…褐色土(10YR 3/6)  
1～2mmの浮石を3%含む。ローム粒も全体に平均して混入する。
- 6層…褐色土(7.5YR 3/6)  
1mm大の浮石が少量混入したローム。



202号小竪穴

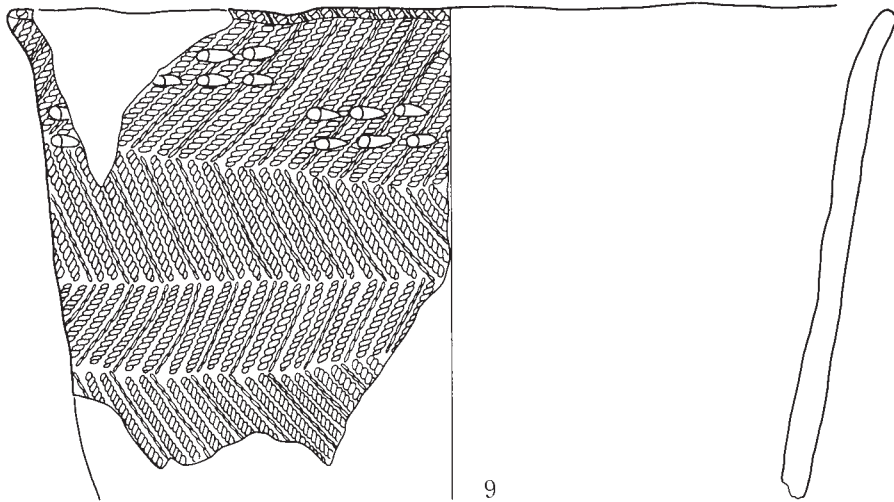
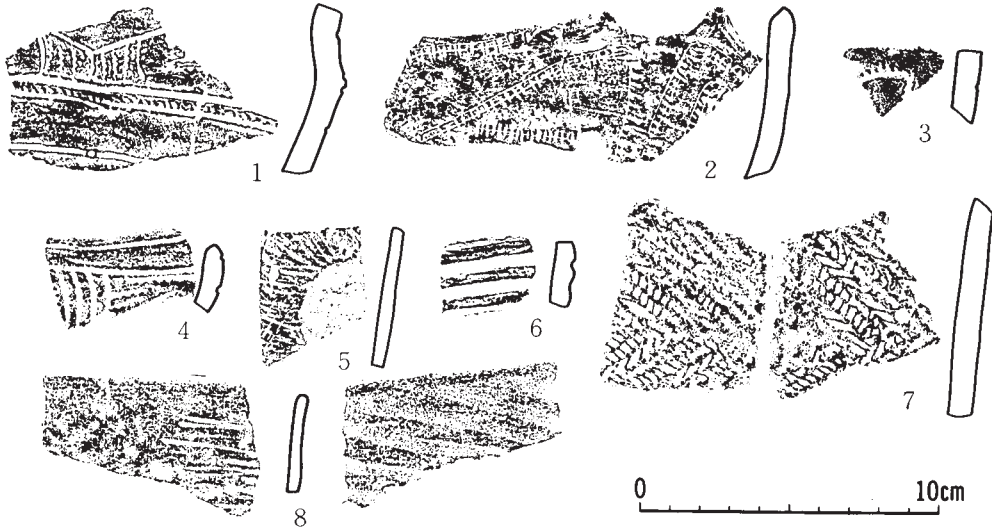


202号小竪穴

- 1層…暗褐色土(7.5YR 3/6)  
シルト、2～5mmの浮石を7～10%含む。
- 2層…黒褐色土(7.5YR 3/2)  
シルト、10mmの浮石を1%含む。
- 3層…暗褐色土(7.5YR 3/6)  
シルト、2～10mmの浮石を10%含む。
- 4層…褐色土(7.5YR 3/4)  
シルト、1～10mmの浮石を12%含む。
- 5層…黒褐色土(7.5YR 3/2)  
シルト、2～6mmの浮石を5%含む。
- 6層…暗褐色土(10YR 3/3)  
シルト、1～3mmの浮石を3%含む。
- 7層…黄褐色土(10YR 3/4)  
シルト、5～10mmの浮石を1%含む。



図101 201・202号竪穴遺構



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	202 Ⅲ 1層	V 群	胴部	沈線文・貝殻文・刺突文		208H P 5
2	202 Ⅲ 1層	V 群	口縁部	貝殻腹縁文・刺突文		208H P 2
3	202 Ⅲ 1層	V 群	胴部	貝殻腹縁文・刺突文		208H P 5
4	202 Ⅲ 1層	V 群	口縁部	貝殻腹縁文・刺突文		208H P 5
5	202 Ⅲ 1層	VI 群	胴部	沈線文	条痕	208H P 5
6	202 Ⅲ 1層	VI 群	胴部	太い沈線文		208H P 5
7	202 Ⅲ 1層	IX 群	胴部	附加条縄文		208H P 1
8	202 Ⅲ 1層	VI 群	口縁部	沈線文	太い条痕	208H P 2
9	202 Ⅲ 1層	IX 群		附加条縄文		

図102 202号Ⅲ穴遺構出土遺物

### 203号竪穴遺構

**位置と確認** 遺跡の中では最も低地であり、遺構等も少なくなるE K - 15・16グリッド層で黒褐色の落ち込みを確認した。精査の結果、遺構の一部がE L - 15・16グリッドにもかかっていた。

**平面形** 確認面では長径147cm、短径125cmの楕円形を呈していたが、掘り下げの結果隅丸長方形となった。

**覆土** 厚さが約55cmあり、6層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。下位層になるにしたがってシルト質から粘土質となり、水分を含むようになる。覆土から土器片3点、フレーク5点出土した。

**壁・底面** 壁高は北壁55cm、東壁、南壁とも50cm、西壁60cmとかなり深い。壁の立ち上がりは中段まではおよそ45度の傾斜で下がるが、以下底面まではほぼ垂直に近くなる。底面はほぼ平坦で、かたくしまっている。柱穴等は認められなかった。

**出土遺物と時期決定** 覆土中から物見台式、ムシリ式、長七谷地群の土器が出土した。このことから、前期初頭長七谷地群期あたりの遺構と考えられる。

### 204号竪穴遺構

**位置と確認** E I - 18・19グリッド層で、黒色土の落ち込みを確認した。

**平面形** 長径238cm、短径200cmの楕円形を呈する。

**覆土** 深いところで45cmあり、6層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。土質はシルト～粘土で、いずれの層にも浮石が混じる。

**壁・底面** 壁高は北壁35cm、南壁25cmであるが、東壁と西壁は底面と壁の立ち上がりぎわがはっきりしない。底面は鍋底状を呈する。平坦ではなくいくぶん凹凸がみられる。柱穴等は認められなかった。

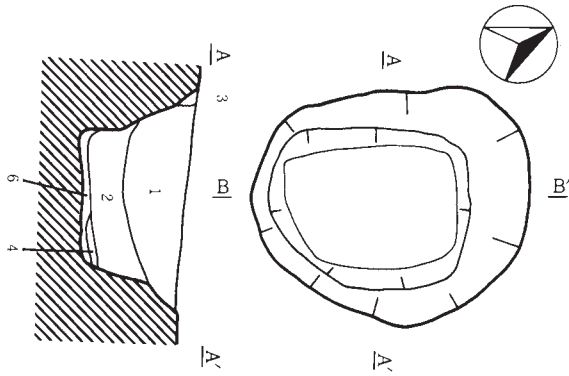
**出土遺物と時期決定** 覆土中から物見台式、ムシリ式、長七谷地群の土器及び剥片石器1点が出土した。このことから、前期初頭長七谷地群期あたりに位置づけられよう。

### 205号竪穴遺構

**位置と確認** E H - 26グリッド層で黒色土の落ち込みを確認したが、プランの半分は調査区外にかかった。

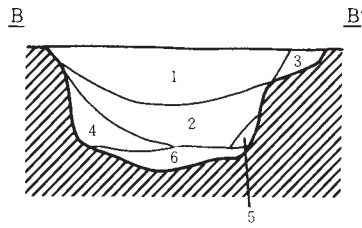
**平面形** 調査できた部分から推定すると、直径およそ130cmの円形を呈するものと思われる。

**覆土** 40cmの深さがあり、3層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。遺物は出土しなかった。

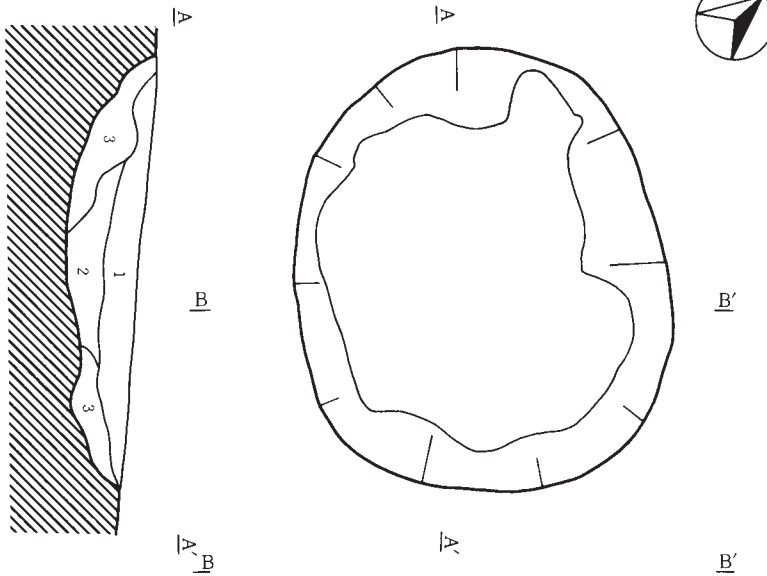


203号竖穴遺構

- 1層…黒褐色土(5YR 2/5)  
シルト、1～5mmの浮石を7%含む。
- 2層…極暗褐色土(7.5YR 2/5)  
シルト、1～5mmの浮石を10%含む。
- 3層…暗褐色土(7.5YR 2/5)  
シルト、かたくしまっている。2～5mmの浮石を5%含む。
- 4層…暗褐色土(7.5YR 2/5)  
シルト～粘土、2～5mmの浮石を2%含む。
- 5層…黒褐色土(7.5YR 2/5)  
シルト～粘土、2mm位の浮石を3%含む。
- 6層…暗褐色土(10YR 2/5)  
粘土、5mm位の浮石を15～20%含む。



204号竖穴遺構



- 1層…黒褐色土(7.5YR 2/5)  
シルト～粘土、1～5mmの浮石を2%含む。
- 2層…暗褐色土(10YR 2/5)  
粘土、1～5mmの浮石を1%含む。
- 3層…褐色土(10YR 2/5)  
粘土、ロームが混じる。1～3mmの浮石を2%含む。
- 4層…黄褐色土(10YR 2/5)  
シルト～粘土、1～5mmの浮石を7%含む。
- 5層…褐色土(10YR 2/5)  
シルト～粘土、ロームが混入する。1～3mmの浮石を5%含む。
- 6層…褐色土(10YR 2/5)  
シルト～粘土、1～5mmの浮石を10%含む。

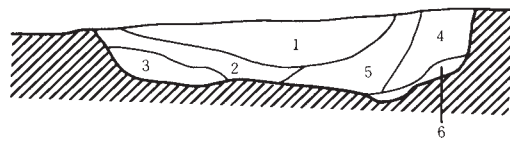
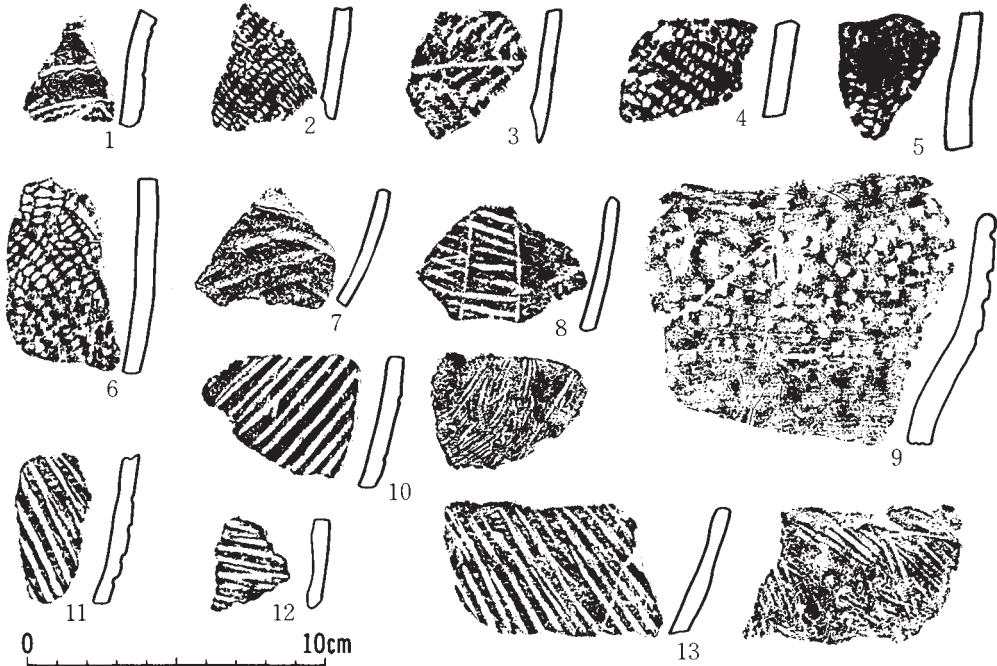


図103 203・204号竖穴遺構

壁・底面 壁の立ち上がりは上段と下段は45度の傾斜となるが、中段では緩く20度ほどである。底面は直径30cmで平坦である。柱穴等は認められなかった。

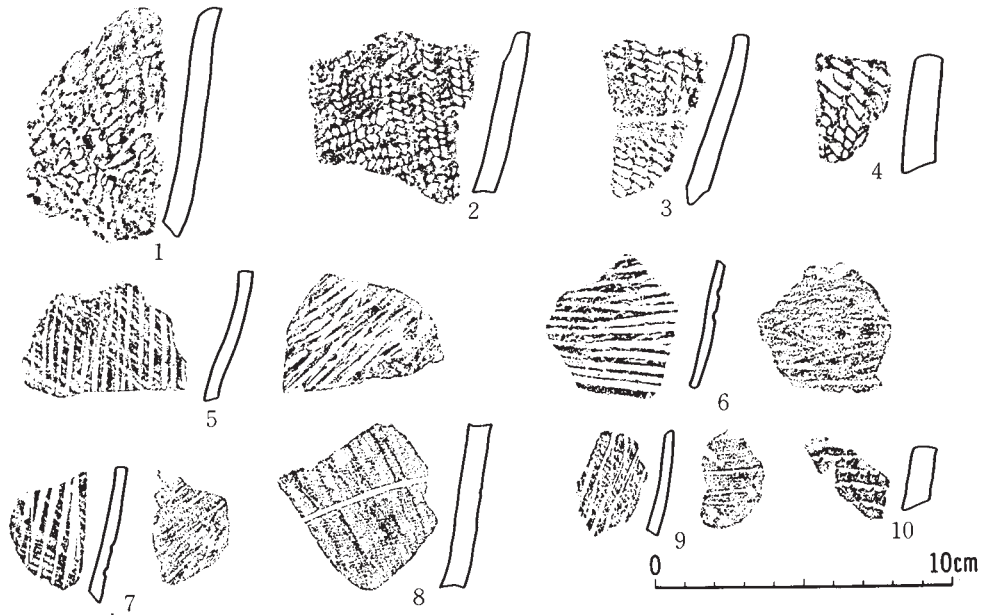
出土遺物と時期決定 出土遺物がなく時期は確定できないが、早期末から前期初頭の遺物を包含する層で確認した。(天間 勝也)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	203竪 一括	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文			203竪 P 4
2	203竪 一括	IX 群	胴部	L R 縄文			203竪 P 4
3	203竪 一括	IV 群	胴部	結束第1種縄文			203竪 P 4
4	203竪 一括	IX 群	胴部	R L 縄文			203竪 P 4
5	203竪 2	IX 群	胴部	R L 縄文			203竪 P 1
6	203竪 一括	IX 群	胴部	R L 縄文			203竪 P 4
7	203竪 一括	VI 群	胴部	沈線文		条痕	203竪 P
8	203竪 一括	VI 群	胴部	沈線文		条痕	203竪 P 4
9	203竪 IV層上部	V 群	口縁部	刺突文			203竪 P130号
10	203竪 一括	VI 群	胴部	沈線文		条痕	203竪 P 4
11	203竪 一括	VI 群		沈線文		条痕	203竪 P 4
12	203竪	VI 群	胴部	沈線文		条痕	203竪 P 一括
13	203竪	VI 群	胴部	沈線文		条痕	203竪 P 一括

図104 203号竪穴遺構出土遺物



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	204 縦 堆積土	X 群	胴部	○段多条RL縄文			204 縦 P 1
2	204 縦 1 層	X 群	胴部	附加条縄文			204 縦 P 2
3	204 縦 1 層	X 群	胴部	○段多条LR縄文			204 縦 P 3
4	204 縦 堆積土	X 群	胴部	○段多条LR縄文			204 縦 P 4
5	204 縦 堆積土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	204 縦 P 5
6	204 縦 堆積土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	204 縦 P 6
7	204 縦 堆積土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	204 縦 P 7
8	204 縦 堆積土	V 群	胴部	沈線文		沈線	204 縦 P 10
9	204 縦 堆積土	VI 群	胴部	沈線文			204 縦 P 8
10	204 縦 堆積土	V 群	胴部	貝殻腹縁文			204 縦 P 9

図105 204号小竪穴遺構出土遺物

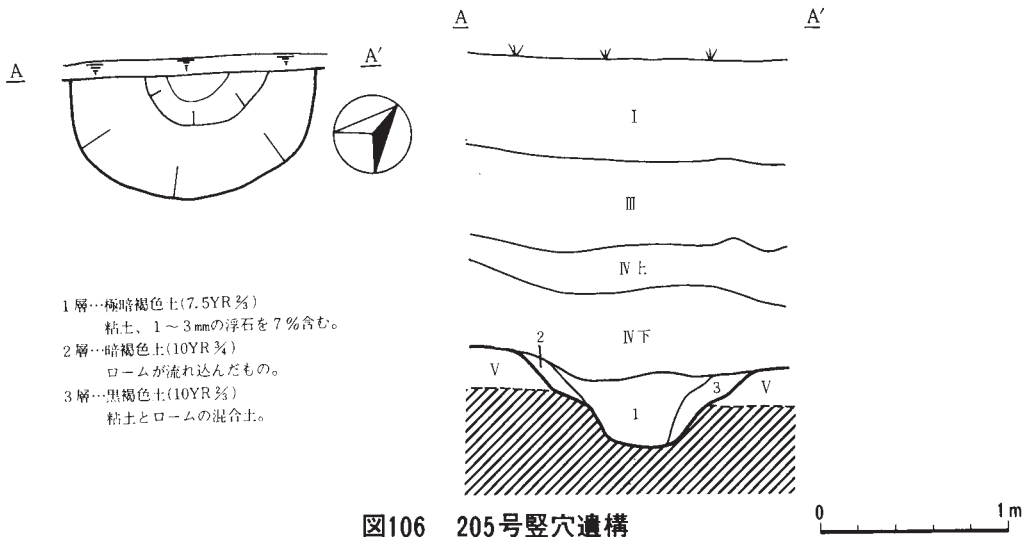


図106 205号竪穴遺構

### (3) 集石遺構

すり石や礫が集中するいわゆる集石遺構は、54年の調査の際4基確認したのみである。これらの集石は明らかに人為的に運ばれ、配置されたものである。しかし、いずれの集石下にも土壌等の施設はなく、その意図は不明である。集石が構築された時期は明確ではない。標準土層層で確認された集石周辺からは、縄文時代早期ムシリ式や赤御堂式の遺物が出土しているので、この時期に構築された可能性が強い。

#### 1号集石遺構

DQ-17グリッド層で礫群を確認した。長軸135cm、短軸95cmの台形状の中に62個の礫が集中していた。北西例の礫はいくぶん移動したらしく、当初は長方形を呈していたものと思われる。

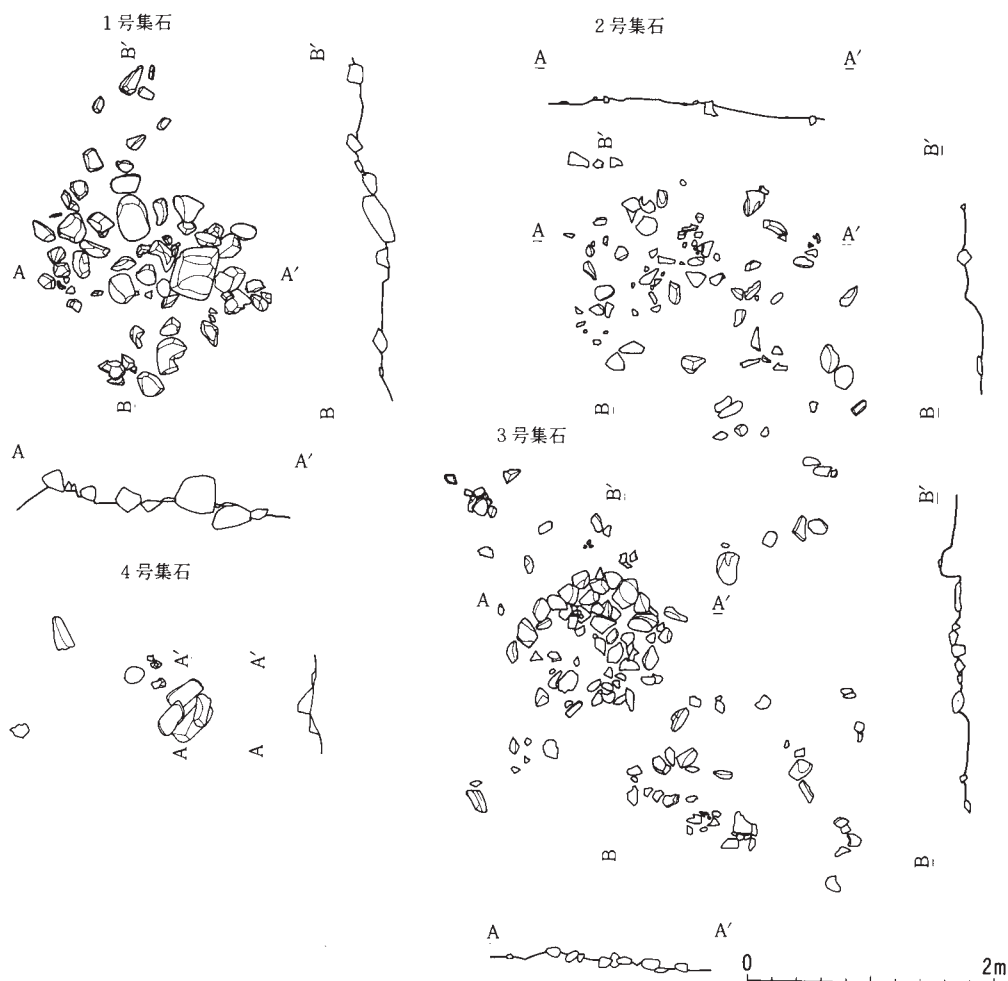
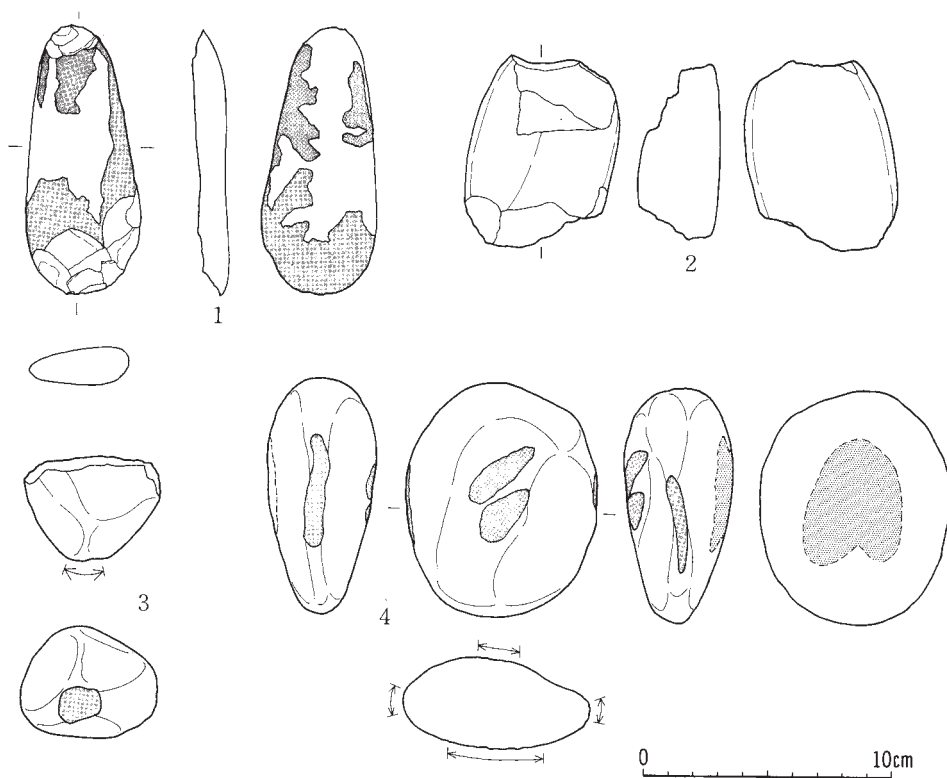


図107 1・2・3・4号集石



## 2号集石遺構

1号集石の西側D0-18グリッド層で確認した。礫の集中度は1・3号よりまばらで長軸170cm、短軸100cmのほぼ楕円形の中に67個の礫があった。散乱がひどく、もとの配石に復元することはできないが、1・3号の集石から推定して、方形又は長方形を呈していたものと思われる。



打製石斧観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位	刃部裏の剥離	磨滅敲打	敲打
1	集石4	108	47	15	118	安	I			全面タ	2 a ハ

石錘観察表

番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類
2	集石4	77	63	34	194	安	I

磨敲凹石類観察表

番号	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	類	度	h	複合
3	3号集石層	55	45	42	(129)	安	IVc	タース		○	
4	3号集石層	95	77	44	432	安	Ib	スータ凹	1		

図108 4号集石出土遺物

### 3号集石遺構

D O - 17グリッド 層で、中心部が1号集石より更に密集した礫群を確認した。密集部分は長軸、短軸とも55cmで、方形を呈する。しかし、周辺にも後世に移動したと思われる礫があり、その範囲は150cm四方に及んでいる。礫の数は約100点である。

### 4号集石遺構

D L - 18グリッド 層で、6号溝状ピットと8号溝状ピットの間ですり石が10個集中していた。小さなものは直径約5cmの球状を呈するものから、大きなものでは長さ20cm、直径10cm位の円柱状を呈するものまでであった。(天間 勝也)

#### (4) 焼土遺構

54年の調査で4箇所、55年の調査で13箇所、計17箇所確認されている。屋外炉の範疇に入るものばかりで、掘り込みをもつ炉穴(ファイア・ピット)はみられない。焼土が集中する地点は55年度の調査地域であるが、その中でも住居跡が集中する地点とほぼ一致している。規模は、長軸25~128cm、短軸20~94cmと様々であり、層の厚さは5~20cmである。図6に示した焼土の範囲は、焚き火による火熱で赤褐色に焼けた部分や炭化物を多量に含む層を示したもので、掘り込みがあったかどうかは明らかではない。焼土から出土した遺物は一覧表に示した。

次に、焼土が形成された時期について記述する。焼土の大部分は標準土層 層で確認されているが、この層は縄文時代早期中頃以降前期初頭にかけての土器を包含している。焼土から出土した土器にもムシリ式、赤御堂式、早稲田類等があり、また、同一の焼土から2種類の土器型式が出土したものもある。これらのことから、個々の焼土の時期を特定することは難か

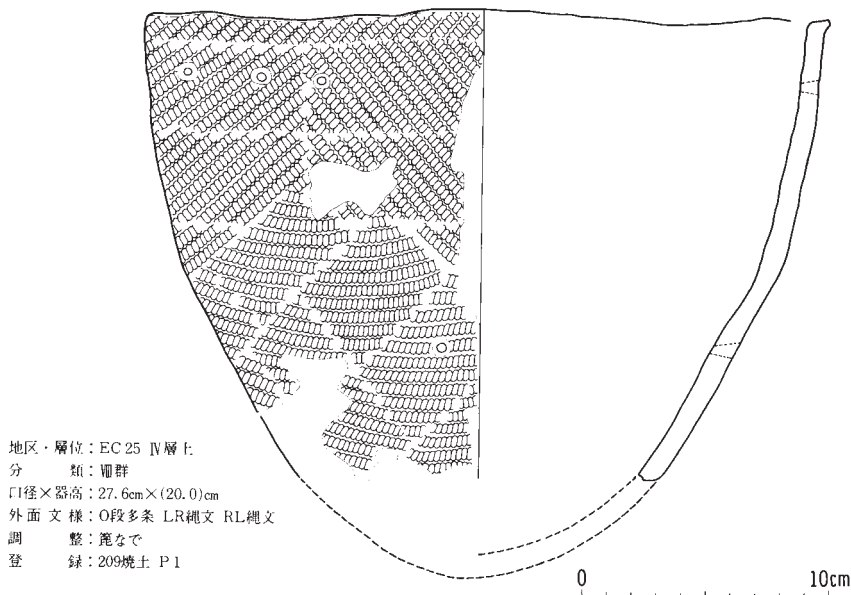
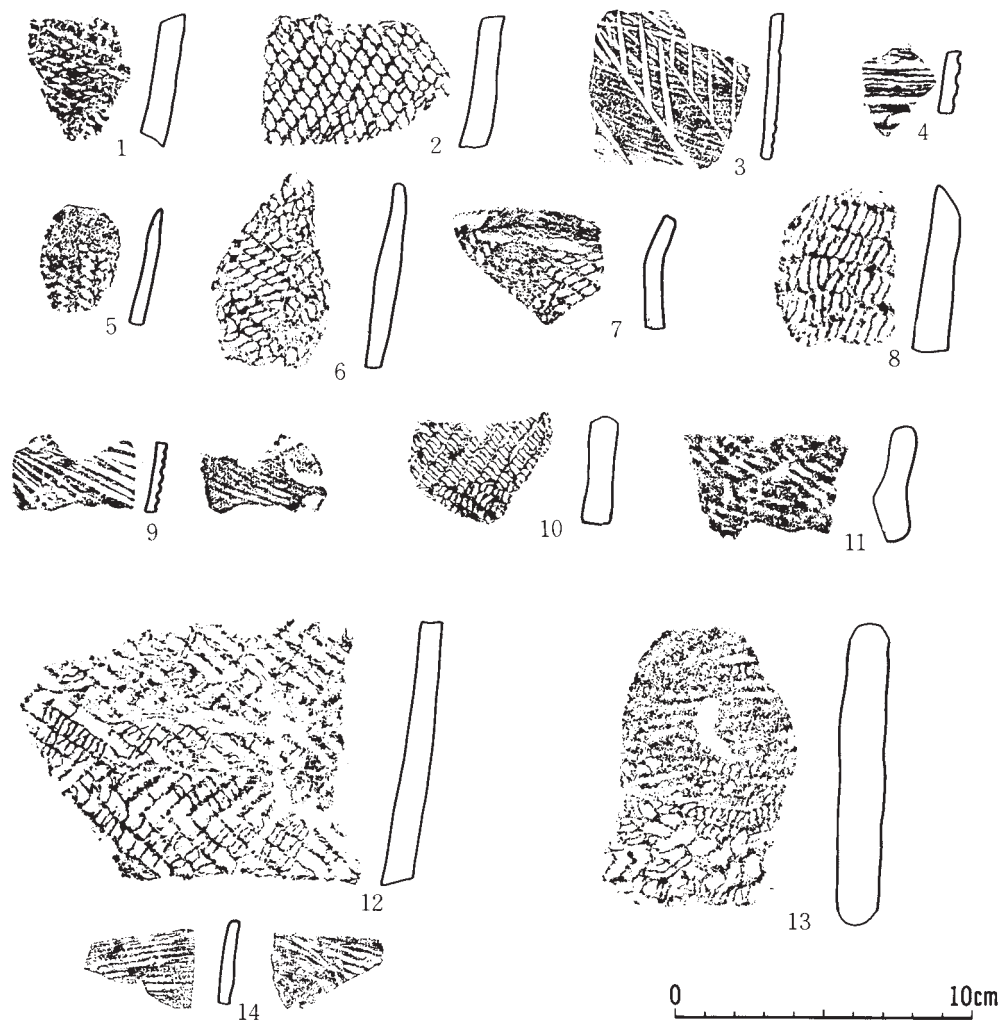


図109 209号焼土出土遺物



縄文土器観察表

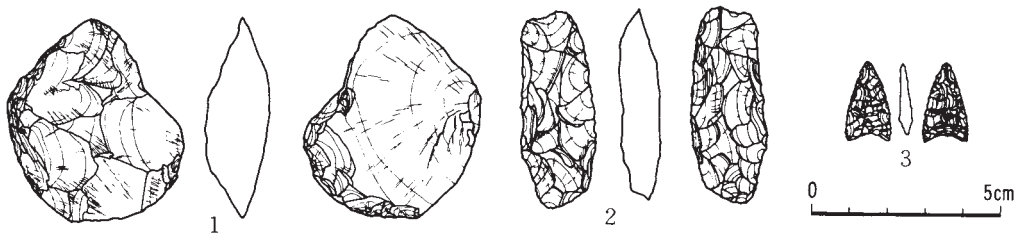
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	202 焼土	IX 群	胴部	単軸絡条体	回転文			202焼土 S-1
2	202 焼土	IX 群	胴部	L R 縄文				202焼土 〃
3	202 焼土	VI 群	胴部	沈線文				202焼土 2
4	202 焼土	VI 群	胴部	沈線文			条痕	202焼土 1
5	204 焼土	IX 群	胴部	L R 縄文				204焼土
6	205 焼土	IX 群	口縁部	L R 縄文				205焼土 2
7	205 焼土	IX 群	口縁部	L R 縄文				205焼土 7
8	205 焼土	XII 群	胴部	〇段多条	L R 縄文			205焼土 4
9	205 焼土	VI 群	胴部	〇段多条	L R 縄文		条痕	205焼土 3
10	209 焼土	XII 群		〇段多条	L R 縄文			209焼土 13
11	209 焼土	X 群	胴部	〇段多条	L R 縄文			209焼土 11
12	209 焼土	XII 群	胴部	〇段多条	L R 縄文		窠なで	209焼土 9
13	209 焼土	XII 群		〇段多条	L R 縄文		窠なで	209焼土 10
14	212 焼土	VI 群		沈線文			条痕	212焼土

図110 焼土遺構出土遺物(2)

しいが、焼土の多くは縄文時代早期中頃から前期初頭にかけて形成されたものといえる。縄文時代早期の住居跡（当遺跡の住居跡も同様であるが）には、住居内に炉跡が確認されないことが多い。おそらく、これらの焼土はこの時期に住居を営んだ人々による屋外炉の役割を果たしたものと考えたい。（天間 勝也）

表21 焼土遺構一覧表

番号	グリッド	長軸	短軸	厚さ	備考
1 a	DK - 15	38 <sup>cm</sup>	20 <sup>cm</sup>	5 <sup>cm</sup>	
1 b	〃	(44)	(31)	7	
2	DM - 16	(118)	(60)	15	
3	DL-23・24	67	28	—	
201	EG・EH-25	90	45	10	
202 a	EH - 20	25	22	17	
202 b	〃	59	38	12	
202 c	〃	128	94	17	縄文土器（長七谷地Ⅲ群、ムシリ）
203	EJ - 21	50	30	10	〃（〃〃）
204	EF-23・24	(92)	90	20	〃（〃〃）
205 a	EC - 23	60	56	13	
205 b	〃	67	58	12	
206	EE - 23	78	68	12	
207 a	〃	54	30	16	
207 b	〃	36	24	—	
208	EL - 23	70	53	12	縄文土器（ムシリ）
209	EC - 25	50	50	12	縄文土器（早稲田V類、赤御堂）



スクレーパー観察表

番号	分類名	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質
1	エンドスクレーパー	1号焼土	Ⅱ	54	47	17	33.4	珪頁
2	ラウンドスクレーパー	4号焼土	Ⅳ	64	51	14	41.8	珪頁

石鏃観察表

番号	地区	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	長幅比
3	208号焼土	Ⅱ	21	12	4	0.6	珪頁		I

図111 1・4・208号焼土出土遺物

## 第2節 遺構外出土遺物

### (1) 土器の垂直分布について

E D 22～24、E E 22～24の各グリッドにおいては、遺物包含層が比較的厚かった。この包含層は24から22の方向に向って傾斜し、アルファベットの方ではほぼ水平である。このため各  
類の土器片の出土地点をグリッドの数字方向の垂直断面に投影し分布図を作成した。出土土器  
は 群、 ~ 群、 ~ 群の3種にまとめて図示した。

分布図から見られる傾向としては、 ~ 群が 群と ~ 群より上位にあることがあげられる。この傾向は調査時においてみられた傾向と一致する。 群と ~ 群については差が  
みられない。

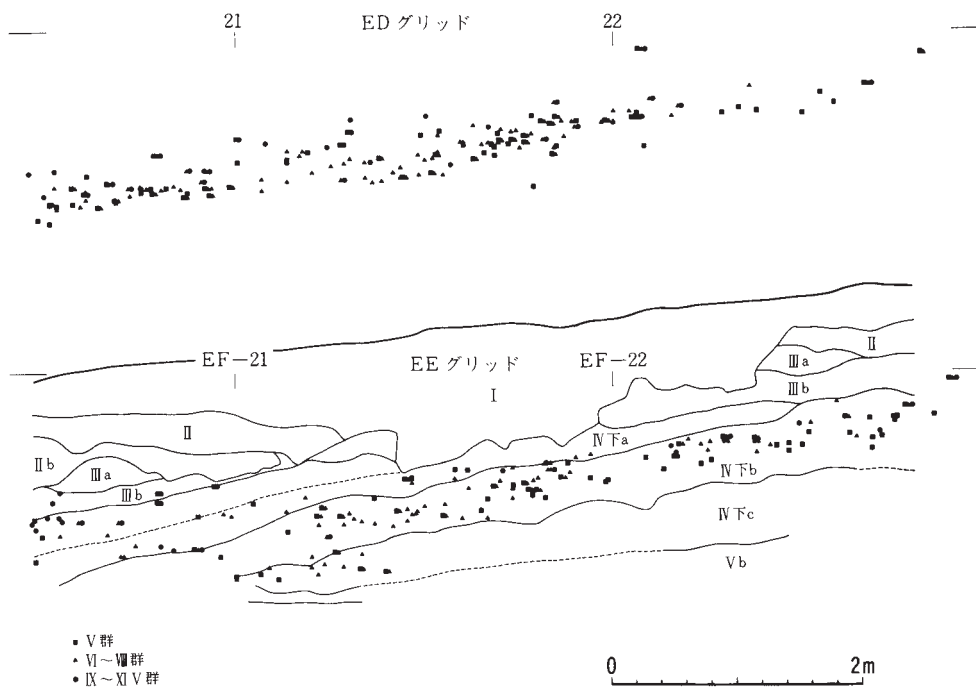


図112 土器垂直分布図

## (2) 土 器

### 縄文時代の土器

売場遺跡から出土した縄文土器には、押型文、貝殻腹縁文、貝殻条痕文、縄文、細隆起線文、沈線文、絡条体圧痕文、絡条体回転文、撚糸側縁圧痕文等が施文された土器がある。これらの土器は、胎土や、調整技法の違いのほか、文様要素や、文様構成、文様施文技法上から下記のように15大別される。類型化するにあたっては、従来の東北地方の縄文時代早期から前期初頭にかけての土器型式を基本とした。なお、各群別は後編の第3次、第4次調査で出土した土器にも適用されるが、細分化の段階では、この限りでない。

第 群土器：日計式そのものではないが、その系統上にある土器

第 群土器：白浜式、あるいは小船渡平式に比定される土器

第 群土器：寺の沢式に比定される土器

第 群土器：吹切沢式に比定される土器

第 群土器：物見台式、千歳式に比定される土器と、その系統上にある土器

第 群土器：ムシリ 式に比定される土器

第 群土器：型式は特定できないがムシリ 式の系統上にある土器

第 群土器：型式は特定できないがムシリ 式の系統上にある土器

第 群土器：赤御堂式に比定される土器

第 群土器：早稲田 5 類に比定される土器

第 群土器：東釧路 式、中茶路式、東釧路 式に比定される土器

第 群土器：従来の土器型式に比定できないが早稲田 5 類と長七谷地 群の間に位置づけられる土器

第 群土器：長七谷地 群に比定される土器

第 群土器：早稲田 6 類、春日町式に近い土器

第 群土器：型式の特定できない土器

### 第 群土器 ( 図113 - 1 ~ 2 )

押型文の施文されたものと、それに伴う可能性の高い縄文施文のもので、2 個体分出土した。いずれも細片である。原体は、日計式と異なるが、その系統上にあるものと思われる。

図113 - 2 は、長さ3.0cmほどの細い角棒を器面に対し横方向に回転して施文したものである。胴部破片のため詳細は知り得ないが、破片には横位 2 段にわたって施文されている。胎土には少量の植物性繊維が混入され、しかも極端に粒子の細かい粘土が使用されている。粗砂粒の混入はみられない。

1 は、口縁部破片で、口唇部は内傾気みに面取りされている。文様は口唇部直下に 3 条 1 単

位の平行線状文を2段、その中間には「X」字状の文様が連続して横位に展開する。この原体は、両端にそれぞれ3本の刻線を軸に直行させ、その中間を「X」字状に刻んだものであろう。胎土には細砂粒と植物性繊維が混入されている。

3は、胴下半部の破片である。外面には細いRと縄文が横位に回転施文されている。胎土及び色調は2と近似する。

#### 第 群土器(図113 - 3 ~ 11、図114、図115 - 1 ~ 7)

爪又は爪状工具による連続爪形刺突文、貝殻腹縁圧痕文、貝殻条痕文、縄文、沈線文等の各要素のうち、幾つかの要素が組み合わされて施文された土器群である。

白浜式あるいは小船渡平式に比定されるものである。

器面に、爪あるいは爪状工具により連続刺突した文様(連続爪形刺突文)を主体とし、沈線文や、貝殻腹縁圧痕文を施文としたものである。器形は、ほとんどのものが口縁部から直線的に底部に至る深鉢で、底部は鋭角の尖底か、あるいは砲弾状のものと思われる。また、口縁はすべて平坦である。器外面の調整は、いずれもアナダラ属の貝殻により行われるため、条痕が明瞭に確認できる。また、内面は、条痕の後に研磨したものと、条痕を省略し、なでによる調整のものがある。文様要素の組み合わせ、あるいは施文手法により以下の2類に細分できる。

#### A類(図113 - 3 ~ 11、図114 - 1 ~ 7)

爪あるいは爪状工具を、器面に対し縦方向あるいはやや斜位に刺突したもので、3条の横位沈線を伴うもの(図113 - 7)、横位の貝殻腹縁圧痕文を伴うもの(図114 - 2)、連続爪形刺突文のみもの(図113 - 8、10、11)がある。

本類の連続爪形刺突文は、通常、口唇部直下に1~3段にわたって縦位に連続施文されるが、11のように器面のほぼ全体に施文されるものはまれである。また、この爪形刺突文には図113 - 3 ~ 6等に見られるように、工具を止めた側に粘土のまくれあがりが見られるものと、それがみられないもの(8、9)があるが、前者が主体を占める。

本類の口唇部の形状には、外方向に傾斜をもって面取りされるもの(5、6)、水平に面取りされるもの(図114 - 6、7、9)、やや丸みをもつもの(図114 - 1 ~ 5)の三つの形態がみられる。また、口唇部上面には刻目が施文されるものと、無文のものがある。

胎土には粗砂粒の混入は認められるものの植物性繊維は混入されていない。

#### B類(図114 - 8 ~ 12、図115 - 1 ~ 8)

爪あるいは爪状工具を器面に対し横方向に刺突したもので、これも沈線を伴うもの(図115 - 1)、貝殻腹縁圧痕文を伴うもの(図114 - 10、図115 - 2、5)、連続爪形刺突文のみもの(図114 - 11、12)がある。

爪形刺突文はいずれも上位から下位方向に向けて刺突しているため、下端に粘土のまくれあがりが見られる。



沈線を伴う1は3単位の連続爪形刺突文列を2段に配し、その中間に斜位の細く鋭い沈線を2～4mm間隔で充填したものである。また、貝殻腹縁圧痕文を伴うものは、図115-8のように斜位、横位に組み合わせ、幾何学的文様を構成するものと、図115-2のように連続爪形刺突列を区画するものがある。

本類はA類に比較して、やや文様帯が広くなる傾向がみられる。

口唇部は外傾するものがなく、やや先細りするものや、やや丸みのあるものなどがあるが、水平に面取りされたものが比較的多い。また、本類の口唇部上面には深い斜位の刻目が施されるものと無文のものがある。

#### 第 群土器 (図115-9～11)

器面に絡条体回転文、貝殻腹縁圧痕文の施文された土器群であり本群土器は寺の沢式土器に近いものである。3片2個体分が出土した。

器形は、平坦口縁で、尖底と思われる。9は口縁部で、口唇部は外方向に向けて面取りされ、その上面には短刻線状の刻目が施文されている。9、10はいずれも器面に、滑らかな斜位の絡条体回転文が施文される。

本群は、表裏面とも軽い光沢がみられるほど良く研磨され、ある程度乾燥が進んだ段階で絡条体回転文が施文されたため、条及び節は浅く印刻される。胎土には粗砂粒が混入しているが繊維の混入は認められない。

#### 第 群土器 (図116-1～6)

貝殻腹縁の押引きによって器表面を装飾した土器群である。これは、吹切沢遺跡、早稲田貝塚、下田代納屋B遺跡出土の吹切沢式や、早稲田2類式に比定されるものである。

図116-1、4の2個体はいずれもEF～EK-15～27区の層下部から出土した。

特に1の直上には群土器及び群土器の破片が比較的多く出土した。

1、2は小波状の口縁部を有した砲弾状の深鉢形土器で、全体の器形からみると底部は尖底と思われる。口唇部の断面は「∟」状で中央を境にして内傾、外傾する。器厚は、0.6～0.7cmで比較的厚手である。この外傾する方向に刻目が施される。

外面文様は、波状直下に、垂下する貼付けを配したものと、貝殻腹縁の押引きによるものとで構成される。

貝殻腹縁文は、アナグラ属の貝殻の腹縁を押付け、細く移動することによって施文されるもので、口縁部は横位移動縦位施文、体部は縦位移動横位施文である。体部においては、文様と文様の間に一部無文帯が生じている。

内面は、口縁部で横位の、体部で斜位縦位の条痕がみられる。

4は、貼付隆帯はないものの、口唇部の形状は1に類似する。外面文様は口縁部から体部に

至るまで貝殻腹縁の押し引きによる横位移動縦位施文である。器厚は 3 個体のうち最も厚く 1.0 cm である。

6 は、口縁部片で、口唇部直下に幅 0.4cm ほどの 1 本の貼付隆帯を一巡させている。この隆帯上にはアナダラ属の貝殻腹縁を縦位に圧痕している。

口唇部は「 $\square$ 」状に面取りされ、その後に細い絡条体圧痕文を連続して施文している。

外面文様は、他の 2 点と同様、貝殻腹縁の押し引きによって施文される。ただ、一部で工具の移動の周期をやや長くしたために貝殻条痕文風のものもみられる。内面には、貝殻条痕は用いられず、なでの調整である。

## 第 群土器

従来物見台式、あるいは千歳式と称される土器群と、明らかにこの系統上にあり、時期的には近いものと思われるが、文様構成、文様要素の施文頻度、器形、調整技法上で、これらの型式に含めることが困難な土器群である。



これには文様上、貝殻腹縁圧痕文や、刺突文を主体にし、物見台式、あるいは千歳式のように幾何学的な文様を構成しないもの（A 類）、沈線文、貝殻腹縁圧痕文、刺突文の三つの文様要素で、複雑な幾何学的な文様が展開するもので、物見台式、あるいは千歳式と称される土器群とほとんど同一のもの（B 類）、B 類の幾何学文様が変容し、その構成が縦位に大きく伸びたもので、文様要素の主体も、沈線文と刺突文となり、貝殻腹縁圧痕文の使用頻度が極端に少ないもの（C 類）、無文で、器形、胎土、調整技法上から見て A 類及び B 類に伴うものと思われるもの（D 類）に分類できる。

なお、これらの各類は、文様要素や文様構成上の違いだけでなく、調整技法、形態、胎土の上でも相違が見られる。

また、本群中に占める A、B、C、D 各類の比率は約 2 : 5 : 1 : 2 である。

本群土器の分布は、E A ~ E N - 17 ~ 26 区が主体を占め、東側に延びる舌状台地及びその北側斜面にはほとんど出土していない。

### A 類（117 ~ 119）

復原可能な土器がないため、器形の全容が明らかでないが、118 - 2 や 6 に見られるように、口縁部の幅 4 ~ 7 cm でやや内湾し、体部上位でわずかにくびれがあるものと、体部から口縁部にかけて緩く内湾ぎみに立ち上がり、くびれないものがある。底部形状は不明である。

口唇部は、全般に、B 類に近く、丸みを有し、しかも外傾するもの、丸みをもつもの、平坦なもの、あるいはまれではあるが内傾するものなどがある。また口縁は大波状、あるいは山形突起を有するものが大部分である。

外面文様は、貝殻腹縁圧痕文だけを口縁部に縦位、横位あるいは交差して施文し、文様を構

成するもの（1類）貝殻腹縁圧痕文と、円形刺突文で口縁部文様帯を飾るもの（2類）円形刺突文だけで口縁文様帯を飾るもの（3類）刺突文、沈線文を主体にし貝殻腹縁圧痕文の一部に使用するもの（4類）沈線と貝殻腹縁のもの（5類）がみられる。

文様帯の幅は、おおむね、やや内湾する部分に限定され、しかもその幅はB類に比べて狭い。

#### A<sub>1</sub>類（図117 - 1 ~ 5）

貝殻腹縁を、斜位に方向を違えて網目状に施文したもの（図117 - 1）縦位方向に連続施文し、一部に間隔をやや広目にとり、それに横位の腹縁圧痕文を充填したもの（図117 - 5）や、上下に横位の腹縁圧痕を施文し、その間に等間隔の縦位の腹縁を施文したもの（図117 - 4、5）あるいは図117 - 3のように、腹縁圧痕で連続する羽状を構成したものがある。

1の口縁部には、波状突起の頂部に口唇部から口縁にかけて、両側面からつまみあげた状態で、粘土粒の盛上がりが見られる。

内面の調整には、1のように、やや荒い貝殻条痕をもつものと、4~5のように丁寧な磨きの行われるものがある。焼成の度合は比較的良好であるが、B類に比べ、粗砂粒の混入が多く、やや脆弱な感がある。

#### A<sub>2</sub>類（図118）

口唇部直下と、体部上位の屈曲部付近に、短い間隔の刺突列を配し、その上下の刺突列間を、貝殻腹縁を2~3回縦列させて連結するもの（図118 - 1~2）や、上下の刺突列を腹縁圧痕で縁取りし、その間を腹縁文で羽状に充填するもの（図118 - 6）逆に、羽状の腹縁文の間隔を利用し、円形刺突を充填させるもの（図118 - 4、8）と円形刺突列内に腹縁圧痕により、多重の四角形を構成させるもの（5）あるいはこの四角形の頂部に刺突を加えるもの（3）がある。

胎土には凝灰岩の砂粒や、角のとれた細砂、粗砂を含む。また、内面の調整は貝殻の条痕や指頭等の押えの凹凸が残る。内外ともB類のような磨きは行われていない。

#### A<sub>3</sub>類（図117 - 6 ~ 12）

円形刺突文や、角形刺突文を主体にして口縁部文様帯を飾るもので、刺突の工具には、丸味のあるものや（10）角のあるもの（6、8）あるいはアナダラ属の貝殻を5mm前後に切断し、それを連続的に押し当てて、疑似刺突文をなすもの（6~9）がある。

口縁部はやや内湾し、体部上半で軽い段をなす点は他の類と類似する。12は、この屈曲部がやや大きいものである。

外面及び内面調整器面調整は、磨きが施されず、工具のなでによるものである。

#### A<sub>4</sub>類（図119 - 1 ~ 11）

沈線で連繫菱形文を構成し、その内部に刺突文を配したもので6~10のように内部に腹縁圧

痕文を充填させたものがある。

調整及び形状、胎土の点はA<sub>3</sub>類に似る。

#### A<sub>5</sub>類（図119 - 12 ~ 14）

口縁部直下に縦位方向に貝殻腹縁圧痕文を施し、その後に横位の小波状沈線を4条施したものの（図119 - 12）や、逆に沈線で区画した内部に、長さ5mm程に切断したアナダラ属の貝殻を連続施文したものの（14）、縦位2条の沈線を基本とし、枝状に腹縁文を配したものの（13）などがある。

14は、口唇部内側と、内面の口唇部下1cm程の位置に連続腹縁文が施文されている。12及び14の口唇部は他のものと異なり、内傾する。

#### B類（図120 ~ 129）

本類土器が群の主体を占める。しかし、破片が主で、復原可能なものは、図120 - 1の1点だけである。

本類土器は、物見台遺跡を標式とする物見台式、あるいは千歳（13）遺跡の千歳式に酷似するものである。

胎土、焼成、調整、器形、文様要素、文様帯、文様構成の特徴について述べる。

胎土焼成：胎土には細砂粒が極少量であるが、大部分の土器に混入されている。また、約3割の土器中には、金雲母の細粒、あるいは凝灰岩の細砂、粗砂も含まれる。植物性繊維の混入はない。

また、焼成の度合は良好で、全般に堅い。A、C類とはやや異質である。

器形：本類土器は、器形上、縄文早期貝殻文系の各型式中、最も特徴がある。特に口縁部、体部上位、底部に、その特徴が顕著に現われている。

復原できた図120 - 1は、本類土器の器形の特徴を、最も兼ねそなえている。

口縁部は、おおむね、四つの大波状で、波状頂部には口唇部から口縁外面にかけて、丸みのある小突起を有する。また、この突起を中心に、左右に小さな突起が配されるものと、これが伴わないものがある。この中央部の突起を中心にした左右の小突起の有無は、文様構成の点でもやや差異が認められる（これについては後述する）。

口唇部は、全般に、丸みをもって外傾するものが多く、しかも、内側の口唇部の変換線上には貝殻腹縁の圧痕文が施される。

口縁部から、体部上位にかけては、大きく内湾し、キャリパー状をなすものが多い。この内湾の度合は個体によってやや差異があり、図120 - 2、3のように、軽く内湾するものもある。

体部上位では、逆「く」字状にくびれるものが多い。この度合は、口縁部の内湾の度合とも関連し、大きく内湾するものは、強くくびれが、また、緩く内湾するものは軽くくびれとなる。

この屈曲部の下位は直線的に底部に向う。

底部は、ほとんどが乳頭状をなすものと思われるが、体部、あるいは口縁部と接合したものが無いため、確定できない。しかし、図129の底部は、胎土、色調、調整の各技法の点で本類と一致する。

文様要素：貝殻（アナガラ属）による腹縁圧痕文、棒状工具による沈線文、刺突文、粘土粒による貼付け文があるが、このうちの1種ないし2種を欠くものもある。

貝殻腹縁圧痕文の場合は、三角形、あるいは菱形に区画された内部を等間隔で充填する手法、沈線上か、この縁に添って施文する手法、2本の平行沈線間（3～5mm）内に、貝殻を斜位方向から施文する手法、あるいは、2個の円形刺突間を腹縁圧痕により連結する手法がある。貝殻腹縁文におけるこの四つの手法を用いた土器は本類中、過半数を占めるが、これらの手法のうち1～3の手法を欠くものもみられる。

沈線文の場合は、口縁部直下に、口縁部の形状に添って施されるもの、体部上位の屈曲部と湾曲する文様帯内に施される2条1単位の平行沈線、体部上位の屈曲部や、区画内に施される小波状沈線、幾何学文様、あるいは曲線文様を構成される場合の沈線等、文様を構成する際の主体となっている。

刺突文は、A類のように列点文となるものは少なく、幾何学文様の各頂部や、区画内を他の要素（例えば貝殻腹縁文、あるいは沈線文）と合わせて充填される場合や、粘土粒の頂部に配される場合に用いられる。この刺突文は直径2mm程の小円形である。

粘土粒は、貼付けされたものか、器壁からつまみ上げられたものか、その後の調整が行きとどいているため、不明である。大きさは器壁からの高さが約5mm、直径が約10mm程の円錐形をなし、ほとんどがその頂部に1個の刺突が加えられる。これが配される位置は、幾何学文様の中心部分、体部上位との屈曲部に施文される2条1単位の連弧文の谷部に限定される。

文様帯：文様帯は、口縁部から体部上位の屈曲部までに限定されるものと、体部下半にまで広がるものがある。前者は、2条の平行沈線による緩い弧状を屈曲部に配することによって文様体と無文帯の境界をなす。また後者は、前者と同一に、同様な平行沈線を有し、更に、体部下位で、1条の横位沈線でその下位の無文帯と区画する。本類の場合は、前者が主体を占める。

文様構成：上記の各要素を用いて、文様を構成するが、口縁部の大波状直下か、大波状の谷部直下の文様帯中央部に文様の中心を置く。文様は、大きな三角形、菱形、あるいは四角形を基本にし、それに弧状文を加えたものを組み合わせることによって構成される。更に、各区画内には、小波状沈線、貝殻腹縁圧痕文、刺突文が充填され複雑な展開をする。図120 - 1は、上記の各特徴が最も良く表現された土器であろう。

また、体部下半に展開する文様は、図120 - 1で見るとかぎり、体部上半のものとはやや異質



で、各要素は同一であるが連弧文を入組状に組合わせた文様を基本とし、それに大小の連弧文を付したものである。このように、文様帯の上下で異質な構成をなすのは、1だけでなく、文様帯が屈曲部以下に広がる土器に全般的に見られる傾向である。

次に本類の分布及び出土層位を見る。分布する範囲は、E A ~ E N - 17 ~ 20区で、全体的な広がりをもつ。この範囲内で検出された住居跡のうち、明瞭に本類に特定できるものは無いが208号住居跡、209号住居跡は、その可能性があるものである。

遺物の出土層位は第 層下部を主体にする。

### C類 (図130)

A及びB類にみられた、器形、調整、文様構成の各特徴が大きく変容したと思われる類である。しかし、文様要素及び文様構成上では、明らかに、その系譜を引くものである。

器形上の特徴は、B類に一般的であった体部上位の屈曲部が完全に消失し、口縁部からストレートに体部下位に至る。また口縁部の形状にもA類及びB類と大きな相違がある。A類及びB類でみられた大波状の頂部の、口唇から口縁にかけての貼付け瘤は消失し、3個の類似した小波状をなす(図130 - 1、5、9)。この突起は、A、B類でみられた大突起を中心に、左右に小粒を配したもから変化したものであろう。この口唇部は断面が「 $\square$ 」状に成形される。

文様は沈線が主体で、縦構成の幾何学文様に変化する。しかし、沈線に添って、貝殻腹縁の圧痕の一部に配する手法は、B類と深い関連をもつものである。また、1 ~ 3にみられる沈線間には、刺突列が、ほぼ、等間隔で配される点はB類にみられず、むしろ B類との関連があるのかも知れない。

内外面の調整は、B類とは異質で、粗い条痕が残る。特に、内面には沈線状の太い条痕が残る点は、類とも関連するものかも知れない。

また、図130 - 9のように多条の沈線を主体とするもの、6のように沈線と貝殻腹縁を組合わせたもの、あるいは、三角形の内部に刺突列を加えた4も、突起の形状、内面の調整、胎土は1、5に似る。

本類のA類、B類との層位関係は、明らかではない。しかし、層下位からの出土が大部分である。P364は 群土器の下層(層最下部)から出土している。また、分布範囲は、A、B類と重複する底位面のE A ~ E N - 18 ~ 23区を主体にしている。

### D類 (図131 ~ 132)

器外面は調整痕のみを残し、文様が施文されないものである。

口唇部の形状は、平坦なものもあるが丸みをもって外傾するものが多い。また、口縁部は、軽く内湾し、体部上半位でややくびれのあるものが多いが、段をなすものはない。波状口縁のものは波状頂部に突起を有するが、この形状はA類の一部及びB類に似る。

内外面の調整は、工具によるなでか、あるいは軽い条痕が主体で丁寧な磨きは施されていない。

## 第 群土器

ムシリ遺跡出土のムシリ 式（江坂：1957）、早稲田貝塚出土の早稲田 3 類（佐藤：1958）に相当するもので、 群土器とともに、第一次、第二次調査の主体をなす土器である。復元可能土器（図上復元も含む）が32個体、底部破片69片、口縁部破片170片で、他に多量の胴部破片が出土した。

### （1）出土状況と層位

本群が主に出土した地区は、P～T-17～21区、EE～EL-20～27区である。

P～T-17～21区は東方に延びる舌状台地の北斜面に位置し、約20度の傾斜角で北方に下がる緩斜面である。この地区は、時期を異にする溝状ピットが存在しただけで、本群土器期の遺構が検出されない点からみると、土器廃棄の場として使用されたものであろう。図112 - 下に示した第 層下部に、本群土器の大部分が包含される、その直上の第 層上には、第 群土器が集中して包含されることから、層序的にみて本群土器が 群土器より明らかに古い時期のものといえる。

土器群の出土状況は、細片が主体を占めるが、中には大型破片や、復元可能土器も含まれ、「捨場」的な状況を示す。本群が包含される 層下部には少量の第 群土器の細片が含まれるが、これとの新旧関係は不明である。

EE～EL-20～27区は、東方に傾斜する緩斜面に位置する。この地区で本群が包含される層は第 層を主体とするが、第 層及び、第 層にも比較的多くの土器片が含まれている。これは、この地区に第 群、第 群の住居跡や小竪穴遺構のほか、第 群土器期の住居跡や、第 層の堆積以後に掘り込まれた溝状ピットが多数検出されたことから、これらの遺構を構築した際に、第 群土器が動かされた結果、第 層、第 層に浮き上がったものと考えられる。

ほかに少数ではあるが、第201号住居跡、第204号住居跡の床面から、また、第206号住居跡、第201号竪穴遺構の堆積土からも出土した。

### （2）土器製作技術の特徴

本群土器の製作技術の特徴（胎土・成形・調整・器形）を概観し、また、文様要素・施文技術等から次のような分類を行った。

#### 胎 土

粒子が細く、均一的な素地土を使用している。粗砂粒はもちろん細砂粒すら含まないものが多い。しかし中には、金雲母を多量に含むもの、1～2mm大の浮石を含むものもある。本土器群以前の寺の沢式にも、また、以後の赤御堂式にも植物性繊維を混入させたものが多いが、本群土器にはみられない。



色調は、内面と外面が類似するものが約半数を占め、灰黄褐色・褐灰色・にぶい黄橙色・明黄褐色・黒褐色等を呈するが、褐灰色あるいは灰黄褐色のものが主体を占める。

## 成 形

土器製作には、直立状態で底部から順に口縁部に至るまで成形する方法と、逆に、倒立状態で、先に口縁部から製作し、最後に底部を成形する方法が考えられるが、本類土器は前者である。

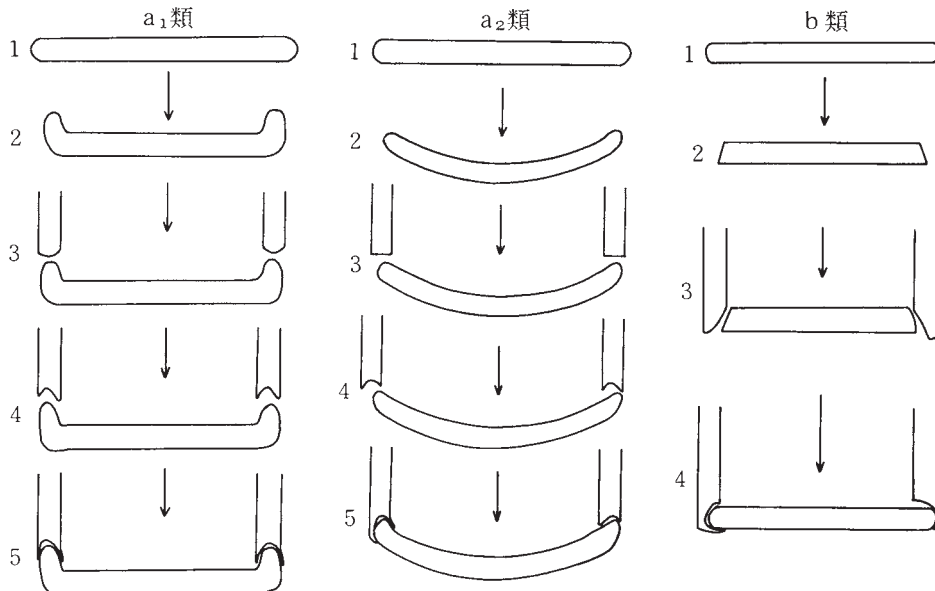
### 第1工程（底部の製作とその形状）

出土した土器の底部及び底辺部の形状は次のように分類できる。（図162～166）

- 1類 底部が平坦で、底辺部から体部にかけての立ち上がりがほぼ直線的なもの。
- 2類 底部が平坦で、底辺部が軽く湾曲しながら立ち上がるもの。
- 3類 底部が平坦で、底辺部が外方に張り出すもの。
- 4類 底部が上底風のもので、底辺部からの立ち上がりが2類に類似するもの。
- 5類 底部が丸底、あるいは緩く湾曲した丸底風平底のもので、底辺部からの立ち上がりが内湾するもの。

本群土器に占める割合は2類が主体をなし、3、4類がそれに続く。5類はまれな存在である。次にこれらの底部からその製作技法をみると、以下の2類3種が観察できる。

a<sub>1</sub>類 平底の土器にみられる手法である。最初に、薄い円盤状の粘土板を作り、次に、外



参考図 底部の成形と粘土帯の接合法

周から約 1 cmほど内側を境にして折り曲げ、浅い皿状の器を成形する。この皿状の器の口縁を整え、次の粘土帯の接合に備える。

a<sub>2</sub>類 丸底、あるいは平底風丸底の底部にみられる手法である。基本的には a<sub>1</sub>類と共通し、薄い円盤状の粘土板を作った後、それを鍋底状に屈曲させ外縁を整えるものである。

b類 平底の土器にみられる手法である。最初の段階で、意図した大きさの薄い偏平な粘土板を作り、その外周に粘土帯を接合していくものである。

a<sub>1</sub>類及び a<sub>2</sub>類は、粘土の粒子が粘土帯に沿っていわゆる「目」として並ぶが、この「目」が底部から約 1 cmほどの立ち上がりまで切れ目なく連続する。特に、底部から底辺部にかけては素地土全体が大きく湾曲しながら連続する。また、この類は底部の割れ方にも特徴があり、底辺部で割れるものが少なく、大多数は約 1 cmの立ち上がり部分で割れる。

b類を観察できる個体は少数である。この場合は底辺部の外縁が剥落するものが見受けられる。

次に、底部及び底辺部の形状分類と、底部製作技法の分類との関係を見ると、製作技法分類の a類は形状分類の 2類、3類、5類に、b類は形状分類の 1類、4類に多く認められる。このことから両者は強い相関関係にあるといえる。

#### 第 2 工程（粘土帯の接合と体部の形状）

次の段階では胴部から口縁部に至る各部位の成形であるが、通常これには粘土紐の巻き上げ手法が輪横手法が想定される。本群土器の場合は完全に復原した個体が少ないため、いずれの手法によったものか確定できない。しかし、大型破片等では、粘土帯が底部に対し平行でなく、やや斜位であることから、巻き上げ手法によった可能性が高い。

粘土帯の幅は、土器によっても、また、1個体の中の部位によっても異なるが、おおむね、2～3 cmで、2.5 cmほどのものが主体を占める。

器厚は、縄文時代早・前期が土器群中で最も薄手で、3～6 mmの範囲にすべておさまるが、4 mm前後のものがほとんどである。なお、胴径と器厚の関係は土器の大きさに比例せず、ほぼ一定である。

粘土帯の接合方法については、少数であるがその過程を復原できる資料がある。観察から得た接合の方法は基本的に下記の 2種類であろう。

図138 - 6 の土器の接合過程をみると次のように復原できる。

厚さ 4 mm前後、幅 2.5 cm前後の粘土帯の口縁部側約 7～8 mmをやや薄く、しかも断面を「∩」状に整形し、次の粘土帯接合に備える。逆に底部側は平坦にし、幅 3 mmほどの 1 条の浅い溝を掘る。次に、下段の粘土帯の整形された口縁部側を掘り込まれた溝に埋め込む。更に、上段の粘土帯の下端をつぶしたり、粘土を引き下げて上下の粘土帯を密着させる。この際に工具等に

よる器面調整は行われていない。この作業を口縁部に至るまで繰り返すことによって1個の土器を成形する。

このように溝を掘る作業は、粘土帯の下端（底部側）の溝中に、棒状工具で引かれた細い擦痕を観察することによって理解される。また、上端（口縁部側）の整形は引き下げられた粘土が剥落し、当初の粘土帯の形状が露呈されたことによって確認される。

粘土帯の接合にあたっては、乾燥がある程度進んだ段階で接合されたものと思われ、粘土帯の上端は製作時のままとし口縁部に酷似する。

他の方法は、下端、上端を平坦に形造り、それを重ね合わせた後、あらたな粘土で内外面を補強するものである。しかし、明らかにこの手法を用いたと思われる土器は少ない。

前者のように、土器の粘土帯の厚さ、胎土、接合方法、あるいは乾燥の進んだ段階での作業等本群の一部の土器に見られる前者の成形過程は、他の土器群に比べて特異な存在といえよう。これが本土器群のほとんどの土器に行われた手法かどうかは明らかではないが、上記の擬似口縁が比較的多く確認されていることからみれば、この手法が主体をなしたものと推定される。

### 第3工程（口縁部の成形）

第2工程を経て、成形の最終工程である口縁部の製作に移るが、本土器群の約9割は、特殊な加工（例えば、波状、突起、折り返し等）を行っていない。この約9割の土器は、第2工程で見られた粘土帯の上端を、わずかに指で押さえることによって整形する程度の加工である。したがって、口端には軽い凹凸が残り、しかも指によってなでた痕跡が残る。また、口縁部の器厚は、内外面から手の第一指、第二指で強く押えることによって体部器厚よりもやや薄手に作られている。この際の指圧痕が口端直下1cm～1.5cmの幅で確認されるものも多い。口端断面は丸みを有するものが多い。

また、残りの約1割は、上記のような成形工程の後に、口端上面を工具でなでることによって平坦にしたものである。

### 内外面の調整

成形の第1～第3工程中には指だけで行われた概略的な調整も、次の段階で工具を使用した調整が行われる。

工具を使用した調整痕を有する土器は、中型、大型のものでは約9割、小型のもので約半数ある。

内面の調整はサルボウ、アカガイ等のアナグラ属の貝殻で、強く引っ掻くことによって生じた条痕が明瞭に残るものが多い。この条痕の有り方から、器壁の余分な粘土を削り取り、全体を平滑にし、しかも粘土帯の接合をより強固にする意図が読み取れる。条痕の方向はほとんどの場合、粘土帯に添って、横位である。この方向はまれにやや斜位のものもあるが底辺部の内

面から、口縁に至るまで同一である。

工具はアナガラ属の貝殻だけでなく、単一の棒状工具も使用されている。更に、貝殻、条痕に似た工具（例えば単軸絡条体）によるものも存在する可能性がある。しかし、同一器面にはこの痕跡は確認されていない。

外面の調整も基本的には内面と同様である。工具も内面に使用されたものほとんどの場合同一である。また、内面において、指のみによる調整のものは、外面においても工具が使用されていない。

底部の調整は、外面、内面ともほとんど体部と類似する。しかし、外面の調整痕の多くは、焼成までの過程で消滅している。

### 文 様 施 文

内外面の調整を経た後、外面に文様が施文される。文様要素では、沈線、刺突、条痕、隆起線（貼付けと削り出しの二つの手法がある）、絡条体圧痕がある。

これらの文様要素とその組合せの相違で、本群土器は沈線のみによるもの（A類）、沈線と刺突文を併用するもの（B類）、条痕のみによるもの（C類）、隆起線文を施文したもの（D類）、絡条体圧痕文を施文したもの（E類）に類型化できる。

更に、類型化された各土器は、文様構成で幾つかに細分できる。以下に、類型化された土器群の文様上の特徴を述べ、これと、製作上の特徴（器形、胎土、調整、施文工具）及び出土状況等との関係について述べる。

#### A類（図133～138、図140～155）

沈線のみによって文様が施文されるもので、これには、斜位、横位沈線かあるいは左右方向の沈線を重ねることによって格子目状をつくるだけで、特殊な文様を構成しないもの（A<sub>1</sub>類）、幾何学文様を構成するもの（A<sub>2</sub>類）、構位、斜位の直線文と連弧文を組合せたもの（A<sub>3</sub>類）に細分される。

#### A<sub>1</sub>類（図133 - 1、2、図134～136、図140～152）

本類は第 群土器の約 8 割を占める。中でも口縁部から底部方向に約30度前後の右下がりの角度で、器面を 2 段から 3 段に分けて細沈線を施したものが多く。縦位のは少なく、横位のもの（図133 - 1、図144 - 3、4、図146 - 11、図148 - 10）はまれである。また、本類には、幾何学文様（A<sub>3</sub>類）に見られる左下りの沈線のみのはわずかである。図134 - 1に見られるように、右下りの沈線を地文にして、左下りの沈線によりアクセントをなした場合にのみ限定される。

施文工具はほとんどの場合、単一の棒状工具である。工具の先端は、やや丸味をもつものが多く、平坦なものは比較的少ない。

沈線の幅、間隔、深さに、a類（やや細目の沈線をもつもの）とb類（太目の沈線をもつもの）の2種類が見られる。

A<sub>1a</sub>類の沈線は浅く、0.5mm以下のものが主体で、0.6mm以上の深さをもつものはまれである。また沈線間は同一個体の土器においても幅があり、まれに図134 - 5のように幅の比較的広いものもあるが、おおむね、2 ~ 4 mmで、条間は極端に狭い。また、沈線の幅は1 mm ~ 2.5mmで、1.5mm ~ 2 mmのものがほとんどである。なお、これらの沈線は口唇部直下から底部の方向に手早く引かれたために、ほぼ直線的である。

このような沈線は、器面全体に、条線の集合として施文されるため、一見、貝殻条痕に酷似する。本類の一部にも金雲母が胎土中に含まれるものがある。

本類の器形は、すべて円筒形を呈し、口縁部は平坦で、平底、平底風丸底、上げ底風丸底をなす。口縁部はかすかに外反するものが多い。また体部はほとんど変化がないが、図141 - 2、図142 - 1のようにまれに、中央部で軽い段をなすものもある。

口唇部は無文が多いが、刻目が施文されたものが約2割ある。

A<sub>1b</sub>類の沈線はやや広く2.5 ~ 3 mmのものが主体を占める。また深さは、0.8mm前後のものが多いが、0.5mm前後のものもある。沈線の間隔は3 ~ 6 mmでA<sub>1a</sub>類に比較してやや広目である。A<sub>1b</sub>類の文様をもつ土器はやや大型のものに多く、器厚も5 mm程でA<sub>1a</sub>類よりやや厚手の傾向が見られる。

本類土器は、舌状台地の北斜面の遺物包含層地区第 層の下部と、調査区E A ~ E D - 17 ~ 27の広範囲にわたって出土した。その他、201住居跡、204住居跡、206住居跡は本類を主体とする住居跡である。

#### A<sub>2</sub>類（図133 - 3、4、図137、図153 ~ 154）

口縁部から体部にかけて、平行沈線の変えて、幾何学的な文様を構成するものである。本類の出土量は、A<sub>1</sub>類に次いで多く、群土器中に占める割合は約2割である。沈線の幅、深さ、沈線の間隔等はほとんどA<sub>1</sub>類と類似する。しかし、各沈線の間隔と深さは、A<sub>1</sub>類に比較して、より整っている。これは、文様の構成を意図したため、各々の沈線を比較的丁寧に引いた結果であろう。

文様構成は、三角形を基本とした幾何学的なもので、これは単に、A<sub>1</sub>類に見られた、器面全体にわたる細沈線の集合体に、それと異方向に、しかも三角形に沈線を引いたもの（図137 - 2、5、図153 - 1、3、12）や、あらかじめ、大小の三角形や台形の構図を器面上に描き、その内部を沈線で充填させたもの（図137 - 1、3、4、図153 - 4 ~ 15、図154 - 2 ~ 21）がある。図137 - 3のように一部三角形内部には沈線を充填させないで、調整痕の地を露出させたものもある。

また、この文様帯は、前者がほぼ口縁部に限定されるのに対し、後者は体部中央まで広がりをもつ。本類中では前者が約7割を占める。分布範囲及び出土層位はほぼA<sub>1</sub>類と重複する。

胎土、色調、硬質な焼成、器厚、器形等はほとんどA<sub>1a</sub>類と一致する点が多い。また、分布範囲、及び出土層位の点でもA<sub>1</sub>類と重複する。

#### A<sub>3</sub>類(図155)

口縁部から体部にかけて、多条の沈線で連弧文を構成するものである。本類の出土量のA類土器中に占める割合は極めて低く2%前後である。6個体8破片が出土した。

文様構成では図155-9のように、2~3条を1単位とする連弧文の内外に沈線による充填が行われないもの、1、8のように連弧文の内外を異なる方向の多条沈線で充填し、文様効果を上げているもの、更には2~6のように横位に展開する各連弧文の谷部の上部に、新たな連弧文を連続的に施文しているものがある。

沈線の太さ、深さ、沈線間の間隔はA<sub>1a</sub>類、A<sub>2</sub>類に共通する。また、胎土、色調、器形については1~8がA<sub>1a</sub>類に酷似するものの、9はやや軟質である。

本類の出土地点は 類の遺構が集中するEF~EM-17~22区で、層位は第 層である。

#### B類(図156)

沈線文と刺突文を併用するもので、これには斜位、横位の多条沈線に一定の間隔をおいて刺突列を加える比較的単純な構成のもの(B<sub>1</sub>類)と、縦位、横位の多条の連続山形文と刺突列を加えたやや手の込んだ文様構成のもの(B<sub>2</sub>類)とに細分される。

#### B<sub>1</sub>類(図156-3~7)

3個体5片が出土したにすぎない。4はA<sub>1a</sub>類と同一の文様(斜位の多条沈線)を地文とし、沈線間の細い無文帯に半裁竹管工具で連続した刺突列を加えた土器である。この刺突列は破片中に1列により確認できないが、器面全体では数単位に及ぶものと推定される。

3、5、7は同一個体の破片で、多条沈線を地文とし、その沈線間に生じた無文帯に、竹管工具で連続刺突したもので、手法的にはほとんど4と一致する。しかし、沈線間の間隔が広いこと、各刺突列間が狭いこと、焼成が甘く、やや軟質であることなどやや様相を異にする。

本類はEJ~EM-17~19区の遺構外に分布するものである。出土層位は 層、 層であるが、5は 層上部である。

#### B<sub>2</sub>類(図156-1、2)

これも2個体出土したにすぎない。このうち1は破片であるが口縁部から底部まで存在し、器形の全容が知れるものである。

1は、推定器高16cm、底径6cmの小型深鉢である。円筒形であるが口縁部文様帯、体部文様帯、体部下半から底辺部にかけて三つの文様帯が整然と区画されている。



口縁部文様帯は、幅 4 cmで、文様構成はA<sub>2</sub>類に似た三角形の連続した構図中に異方向の多条沈線を充填させた幾何学文様である。刺突文は直径2.5mmの竹管様工具によるもので斜位の沈線間の無文帯に等間隔で施文されている。

体部文様帯は、沈線により連続山形文、あるいは連続弧状文を数段、横位に展開させたもので構成される。この山形文、あるいは弧状文の振幅は約0.5cmであるが周期は1.5cm～2.8cmで一定しない。

体部下半から底辺部にかけての文様帯は7～8条の比較的整った横位平行沈線である。

本土器の形状は、口径と底径の差がほとんどなく口縁部から底部にかけて直線的な円筒形である。また、口縁部は平坦で、底部は平底である。底部及び底辺部の形状は2類に相当し、また底部製作技法上ではa<sub>1</sub>類に相当する。口唇部には連続した刻目をもつ。器厚は4mm～5mmでA<sub>1a</sub>類に近似するが、やや軟質である。

図15-2は、体部破片である。条痕が残る器面の体部下半にA<sub>1a</sub>類に類した多条沈線を縦位に施した後、4条1単位の連続山形文を縦位に施文している。刺突文は、この山形文の外縁に添って配されている。刺突文には2種類みられ、一つは直径2mm、他は直径5mmである。また、破片上端には細い粘土の隆起帯がかすかに認められることから、D類とも係わりを有る可能性がある。

B<sub>2</sub>類の出土地区及び出土層位は、1がEC～ED20区 層上部、2がDQ-20区第 層上部である。A類が主体的に包含される 層下部よりはやや上位から出土した点で注目される。

### C類(図138-6、図157)

器表面に条痕だけが施文されるもの。類中に占める割合は約1割にも満たない。

これは、〔土器製作の特徴〕の調整の項で述べたように、本群土器の大多数はアナダラ属の貝殻により器面調整が行われるが、この際の貝殻条痕がそのまま残り、棒状工具により文様施文が行われないものである。しかし、器面調整では、ほとんどが横位の条痕を有するのに対し、本類はA<sub>1</sub>類同様右下がりの斜位条痕であることから、本来A<sub>1</sub>類を意図したものと推定される。

図138-6は、器厚5mmでやや厚く、胎土に多量の金雲母を含む。この土器は内面調整においても、斜位条痕であるが、条の方向は左下がりである。

図157-1～12は、胎土、色調、器形等A<sub>1</sub>類に酷似する。

### D類(図139、158～160)

器表面を隆起線によって飾るもので、以下の2種類がある。

#### D<sub>1</sub>類(図139-1、2、図158、159)

隆起帯の幅が1.0～1.5mmと細く(以下微隆起線と呼称する)しかも、この微隆起線で幾何学的な文様を構成するものである。



復原可能土器 2 個体、破片が 7 個体分出土した。

図139 - 1 は推定器高約25cmの中型のもので、微隆起線による文様帯は口唇直下 9 cm幅である。文様は幅 3 cm、振幅 5 cm、周期11cmの大きな山形の無文帯を形成し、その上下に生じた三角形の空間に縦位の微隆起線を充填させ幾何学的な構成をとるものである。微隆起線の間隔は 3 ~ 6 mmである。また、無文帯の谷部の内外には 3 条の横位の微隆起線を施し、アクセントをつけている。

体部下半は調整痕をそのまま残している。

図139 - 1 は体部上半から口縁部にかけてのもので、文様帯の幅は7.5cmである。文様は、横位の幅 1 cmの無文帯を基本にし、その上下に同一幅の無文帯を左右交互に形成し、それによって生じた台形内を横位の微隆起線で充填したものである。微隆起線間は 3 ~ 5 mmである。

体部下半は 1 と同様に条痕の調整痕をそのまま残している。

図158 ~ 159は破片であり、文様の構成は明らかではないが、多くは図139 - 1 や 2 に類似した構成をとるものと思われる。しかし、図158 - 10は充填微隆起線が格子目状に交叉し、11は弧状に配した微隆起線も一部に見られる。

次に D<sub>1</sub>類の微隆起線の施文手法について触れる。この手法には以下の 2 種類がある。

a 類：幅 1 ~ 1.5mm、器面からの高さ0.5 ~ 1.0mmの微隆起線は D<sub>2</sub>類手法のように細い粘土紐の貼付けによって形成されたものでなく、3 ~ 4 mm幅の篋状工具の両角を削り取った工具を利用し、1 ~ 1.5mmの間隔で平行沈線を引くことによってその左右に生じた無文帯上の粘土のまくれあがりを整形したものである。したがって、隆起帯は工具の走る方向に形成されるのが特徴である。

神奈川県野島遺跡を標式とする野島式土器の隆起線文も、その構成や、隆起帯の大きさなどの点で一見、本類に似るが、野島式の場合は、同様な工具を用いながら工具の内側に生じた粘土のまくれあがりを連続させ、1本の隆起帯を形づくる。したがって、隆起帯は工具の走る方向に直角である点に特徴を有する。

ここでは、仮に、本類の手法を「ムシリ型微隆起線」、野島遺跡の手法を「野島型微隆起線」と呼称する。

図139 - 1、2、図158、159はこのムシリ型微隆起線手法のものである。本類土器のほとんどはこの手法で野島型微隆起線手法は用いられていない。

b 類：極端に細い粘土紐を貼付けた後、a 類の形状に整形したもので、図158 - 11の土器片の一部にみられる。しかし、この土器の微隆起線の主体はムシリ型であることから、本類中における b 類手法は極めてまれなものと言えよう。

次に D<sub>1</sub>類の器形、調整、器厚等の特徴について触れる。

器形は、群に通常見られる円筒形の深鉢である。しかし、図139 - 1 は体部から口縁部にかけて他のものよりもやや大きく開く。口縁部は平坦で、一部に刻目をもつものもある。

調整は、A<sub>1</sub>類とほとんど類似し、内外面が横位、斜位の貝殻条痕を主体とする。

器厚は、図158 - 11だけが2.8mmと極端に薄い、他は4 ~ 5 mmでA<sub>1</sub>類とほとんど同一である。

#### D<sub>2</sub>類 (図139 - 3、図160)

隆起帯の幅が2 ~ 3 mmとやや太く(以下細隆起線文と呼称する)、しかも、この細隆起線は数条、横位か、縦位に貼付けられるだけで、D<sub>1</sub>類のように幾何学的な文様を構成しないものである。

復原可能土器1個体、破片が8個体分出土した。

図139 - 3は、口径14cm、推定器高30cmの中型のもので、口縁部に2条、体部に1 ~ 2条の細隆起線を貼付けたものである。体部中央の細隆起線は2条を1単位とするが、途中で意図的に段をなす。

口縁部の2条の細隆起線上には細かい刻目が施されるが、他のものはみられない。

各隆起線間には条痕による調整痕が残るが、隆起線の上下約1 cm幅は篋状工具による横位のなでによって、条痕が消されている。

図160 - 3 ~ 13は、間隔の狭い細隆起線を横位に貼付けたものである。10の破片には8条、3には3条の隆起帯が見えるが、本采、器面の上部に、10条前後施されたものであろう。

1、2は、口唇直下に1条と、その下部の6 cm幅の無文帯を挟み、もう1条の細隆起帯がそれぞれ器面を巡る。更に、口唇部から、下部の隆起帯にかけて1 ~ 2条の隆起帯が垂下する。6は細片で隆起帯がどのように展開するか不明であるが、2条の隆起帯が弧状に配されている。

6、7、8の3点の土器の細隆起線の一部で、剥落した部分があり、この位置に棒状工具による沈線が確認される。これは、あらかじめ細隆起線を貼付ける位置に沈線で構図をとったものである。このような手法を用いるのは本類のみでD<sub>1</sub>類の微隆起線には用いられていない。

器形はいずれも底径対口径の比が小さく円筒形をなす。

胎土はA<sub>1</sub>類に近似するものが多いが、10は砂粒の混入がやや多い。また、1は細かい金雲母を多量に含む。

#### E類 (図161)

器面に単軸絡条体の圧痕文を連続的に施文したものである。

6個体、21片が出土したにすぎず、しかも細片が多い。

1は口縁部片でやや太目の撚紐を軸に巻き付けて6 ~ 8 mm間隔で横位に圧痕したものである。

3 ~ 5は口唇部片、2、6 ~ 14は体部片であり、いずれも、面が扁平な軸に、細い撚紐を巻

き付けたものを斜位に押しつけたものである。

4、5は沈線と絡条体圧痕文を組合せたものである。絡条体は第 群土器と同様、扁平な軸を用いている。また、沈線はA<sub>1</sub>b類に類似し、工具が太目でしかも沈線間がやや間隔がある。

15、16はA<sub>1</sub>b類の沈線内に単軸絡条体の圧痕を施文したもので、胎土、器厚はA<sub>1</sub>bに類似する。

2～17は、原体の有り方が第 群土器に酷似するが、器厚が4mmで薄く、しかも胎土に繊維を含まず、硬質である点でA<sub>1</sub>類に類似する。しかし、3～17は灰褐色で第 群土器のほとんどのものと同じであるが、2だけは明黄褐色であり、異質なものと言えよう。

### 第 群土器(図167～168)

本群土器は、第 群土器と強い関連性が認められながらも、施文工具、器厚、胎土、焼成等の点でムシリ遺跡出土のムシリ 式や、早稲田貝塚出土の早稲田3類あるいは本遺跡第 群土器とは異質であり、上記の型式に含めることが困難な土器群である。

以下に、本群土器の製作上の諸特徴や出土分布、あるいは出土層位について触れる。

胎土には、細砂粒の混入が極少量認められるが、植物性繊維の混入は無い。また焼成の度合は図167-1、6、10、図168-3、16のように、良好でA類に近いものや、図167-4、5、図168-1、2のようにやや不良で明灰褐色を呈するものがある。

器形は、口縁部から体部下半に至るまで、ほぼ直線的で第 群土器のように円筒形をなすか、体部下半がやや内湾する。口縁部は、図167-1、3にみられるように、平坦口縁か、緩い周期の長い波状をなす。

底部は、明らかに本類に伴うと特定できるものが無く、不明であるが、体部下半の形状から推定して平底か、あるいはそれに近い丸底をなすと考えられる。

器厚は、第 群土器に比較して厚く、6～7mmである。

調整は、貝殻で引っ掻くことによって行われる。内面には太目の条痕が多数の土器で見られる。特に、203号住居跡から出土した本群の裏面にはホタテ貝と思われる貝殻の条痕が見られる。しかし、外面は文様施文の際に消失し、その痕跡は確認できない。

外面の文様は、幅4～5mmの太く、しかも深い沈線を連続的に斜行されることによって構成される。この沈線の深さは、器厚の $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{2}$ にも及ぶ。また、各沈線間の無文帯は、沈線に向けて丸く面取りされている。

この多重沈線の工具は明らかでないが、棒状工具によるものか、貝殻によるものであろう。仮に、1本の太い棒状工具であるとすれば、各沈線間の無文帯は、1本づつナデることによって調整されなければならない。また、貝殻であるとすれば、背面に太い条をもつホタテ貝か、あるいはそれに類するもので、しかも、背面を強く押しながら引いて施文したものであろう。しかし、現在生息するホタテ貝での施文実験では、本群のような深い沈線が不可能であった。

図167 - 6、図168 - 8 にみられる口縁部片の口唇部直下には、沈線の先端の痕跡があり、これによれば、前者である可能性が高い。

上記のような多重沈線を外面文様の主にしながらも、図167 - 1、5、6、10にみられるように口縁部から体部上位にかけて方向を異にする沈線を組み合わせ、格子目状に構成したものもある。

このように多重沈線を主体にする本群は、器形、文様構成、文様要素、胎土において、第群A、b類に類似し、強い関連性が認められるが、沈線間の無文帯の調整技法、器厚においては異質と言える。

次に本群の出土分布及び出土層位を見る。

分布は203号住居跡を含むその周辺に集中する。この周辺は、第群及び群土器が集中する地点である。また、出土層位は、203号住居跡の場合は、2層、3層が主体で一部に床面直上のものである。遺構外の場合は第層が主体である。

#### 第群土器（図169、170）

本群土器も、第群土器同様に、第群土器と強い関連性を有し、しかも、第群土器とも、胎土、焼成の度合、器形等で関連性が認められる土器群である。しかし、第群土器とは器厚、胎土、器形、調整、文様構成の点で、また、第群土器とは、文様要素、文様構成の上で明らかに異なり、上記の各群に含めることが困難な土器群である。

本群土器は、現段階で対応する型式は不明である。出土状況や出土層位の点では後述するように、第群土器（ムシリ式相当）の後、第群土器（赤御堂式相当）の前に位置づけられるものである。

以下に、本群土器の製作上の諸特徴や出土分布、あるいは出土層位について述べる。

胎土には、2mm前後の砂粒を少量混入する。まれに、4mm前後の粗砂を含むものもある。植物性繊維の混入は無い。また、焼成の度合は、比較的良好で堅い。この点は第群土器や、次の第群土器ともやや似ていると言える。

器形の全容は、口縁部から底部までの復原可能土器が無いため、明確ではないが、3個の大型破片でみると、口縁部から体部下半に至るまでほぼ直線的であるが、図170 - 1は、体部中央から下半にかけて、やや内湾ぎみである。口縁部は図169 - 1のように、やや外反するか、直線的で、しかも平坦である。

本群相当の底部は図170 - 3、6の2点だけであるが、角度のやや大きい尖底をなす。これが本群の全ての底部形状を示すものかどうか特定できない。図170 - 1は丸底をなす可能性もある。

器厚は、7～9mmのものが主体で、やや厚手である。しかし図169 - 6は5mmで薄く、群

土器に近い。

内面の調整は、条の粗い貝殻によるもので、横位の条痕が内面全体に残る。また、外面にも条痕が施されたものと思われるが、大部分がその文様施文直前の段階でなでられているため、かすかな痕跡より残らない。

外面の文様は、やや太目の棒状工具による沈線文、同一工具による刺突文の二つの文様要素からなる。また、構成上でも、横位に展開する矢羽根状のもの（A類）と、直線文と弧状の曲線を組み合わせたもの（B類）がある。

#### A類（図169 - 1 ~ 3、6）

4 個体分の土器片が出土した。図169 - 1 は大型の破片である。口唇部には、棒状工具の先端を斜位に押し当てた刺突文が施されている。また、外面には、幅 5 mm程の沈線を矢羽根状に横位に連続させ、これを数段重ね合わせて、器面全体を飾る。3 も同様の構成である。2 は、短刻線を同一方向に重ね合わせて 1 条の沈線にし、これを矢羽根状に構成させている。この土器にみられる沈線は、引き始めの先端部で深く、引き終りで浅く、B類にみられる斜位の刺突文に類似する。

図169 - 6 は口唇部外面に貼付隆帯を施したもので、体部上位は横位平行沈線間に短刻線を、また下位には矢羽根状の沈線を施文している。

#### B類（図169 - 4、5、図170）

5 個体分の土器片が出土した。図170 - 1 は、体部文様として、斜位の刺突を数段に渡って配し、その間を連続して横位に展開する沈線を施文する。口縁部は連弧文沈線による連弧文が文され、その周囲に、数段の刺突文が連続して配される。

図169 - 4、5、図170 - 8、9 は、周期が大きく、しかも振幅の小さい連弧文とその周囲に工具を斜めに押しつけた刺突文が連続して施される。連弧文を構成する沈線は粗く、しかも沈線内にやや太目の条線が残る。

次に本群土器の出土分布及び出土層位を見る。

図上復原した図170 - 1 は、東方に延びる舌状台地の北側斜面の遺物包含層から出土した。調査区はDP - 18である。この調査区を含む周辺は、第 群土器（赤御堂式相当）、 群土器（ムシリ 式相当）の「捨場」が形成された地区である。上記の各群の土器が集中して包含される層は 層である。 層上部には第 群土器（赤御堂式相当）が、また、 層下部には第 群土器（ムシリ 式相当）が包含され、本土器は第 群土器の上部、第 群土器の下部に大型破片の状態出土した。本土器の直下、あるいはその周辺に掘り込みは確認されなかったため、廃棄の状態を直接示すものであろう。すなわち、廃棄の時期は、第 群土器より新しく、 群土器より古いことになる。

他の破片は、層中のものが主体を占めるが、各群との層位的関係は明らかでない。

## 第 群土器

ここでは、縄文時代早期後半の赤御堂式に比定される土器を一括した。本遺跡から、赤御堂式期の竪穴住居跡3軒、及び舌状台地の北側斜面第層上面から捨て場を検出した。

本群土器は、器形・胎土・焼成・器厚・施文文様の点から次の2類に分類することができる。

(1) A類(図171~175 - 1・2、177 - 1、178、179 - 1~7、181、182、183、写真 - 36、37)

(器形) 口縁が外反し、胴部がそのまま底部へ伸びる円錐状を呈するのが一般である。中には胴部下半が若干膨らみ、砲弾状を呈するものもある。器高は50cm前後のものが大部分であるが、20cm以下のものもある。

(胎土・焼成・器厚) 胎土には繊維・小礫を含まず、焼成は極めて良好である。器厚は8mm前後と薄く、色調は赤褐色のものが多い。

(口唇部の形態) 平坦に整形されているものが大部分であるが、丸みを帯びているものも少量ある。口唇部に縄文を施文するものが大部分で全体の80%以上あり、他に工具による刺突、刻み、無文がある。

### 縄 文

最も多くみられる手法で、胴部の縄文と同一原体により回転施文される。

### 刺 突

ヘラ状工具によるものと端の丸い棒状工具によるものがある。ヘラ状工具による刺突は、一に行われるものと、連続的な押し引きによって施文されるものがある。

### 刻 み

器面に対して直角に行われるものと斜めに行われるものがあり、前者の場合、刻みが深く大きく行われた時には口縁が小波状になるものがある。

(口縁部文様帯) 口縁部に文様帯を構成するものが全体の10%程度あり、次の種類がある。

### 横 走 縄 文

口唇部直下5cm位の幅に、縄文原体を斜めに回転させた横走縄文が施文される。その下には通常の横位回転による斜行縄文が施文される。少数だが糸が交差するものもある。

### 沈 線

口唇部直下5cm前後の箇所に、地文縄文の上に一条の沈線、平行沈線、波状平行沈線、短沈線が施文される。

### 刺 突

先端の丸い棒状工具により、器面に対して直角に行われるものと斜め方向から行われるものがあり、後者が多い。



## 貼 付 け

口唇部直下に幅 2 ~ 3 cm 前後の粘土紐を貼付け、隆帯を構成するものである。隆帯上には胴部文様と同一原体、同一回転方向の斜行縄文が施文される。

## 無 文 帯

口唇部直下を幅 2 ~ 3 cm の無文帯にし、その下から縄文施文を開始するものである。

(胴部文様) 横位回転による整然とした斜行縄文が施文される。原体は R  が大部分である。

1 例だけであるが O 段多条の原体がある。また付加条、回転方向を変えた羽状縄文もある。

(底部) 円錐形を呈する。尖底部突端では器厚が幾分増す。縄文は尖底部においても回転方向が大きく変化しない。平底が一例ある。

(内面調整) 指頭によるナデと縄文施文とほぼ同比率である。条痕と呼ばれる目の荒い調整は見られない。1 例だけ外面と撚りの違う原体を用いた縄文がある。

### (2) B 類 (図 - 175 - 3、176、177 - 2、177 - 9、180、184、写真 - 37)

(器形) 口縁がやや外反するかまたは直線的に立ち上り、胴部が膨らむか直立するものである。大きさは A 類よりも大型のものが多いようである。早稲田貝塚第 4 類土器に類似するものである。口縁の外反も A 類に比べて小さいものが多い。


(胎土・焼成・器厚) 胎土には繊維は含まないが、直径 2 ~ 5 mm 前後の小礫を含むものが大部分である。器厚は 1 cm と A 類に比べて厚く、焼成は良好、色調は黄褐色を呈するものが多い。

(口唇部の形態) A 類に比べて丸みを帯びるものが増加し、従って口唇部に施文するものは少なくなる。口唇部の文様は縄文、刺突、刻み等があるが少ない。中でも刻みの例は少ない。

(口縁部文様帯) 口縁部に文様帯を構成するものが A 類とほぼ同じ 10% 程度あり、刺突・沈線・縄文原体の側面圧痕の種類がある。刺突・沈線の手法は A 類と殆ど同じであり、ここでは A 類に見られなかった縄文原体の側面圧痕について述べる。

### 縄文原体の側面圧痕

口唇部直下ないしは 3 cm 以内の箇所に、1 ~ 2 条の側面圧痕を施文するものである。原体は胴部縄文と同一の原体を用いる。

(胴部文様) 横位回転による斜行縄文が施文されるが、胴部下半から底部にかけて回転方向が乱れるものがある。縄文原体は R  が大部分であるが A 類に比べて節が大型になるものが多い。

(底部) 円錐状のものは少なく、釣鐘を逆にした形状のものが大部分である。乳房状の突起を有するものが 1 例ある。底部近くにつれて縄文の回転方向が乱れるものが多い。

(内面調整) 指頭によるナデと縄文施文のものがあるが、前者が主体を占める。条痕のような目の荒い調整は見られない。指頭によるナデ(押圧)は器厚のあるためか、A 類に比べて顕



著で凹凸が激しい。

以上A・B類について個々の項目について述べたが、もう一度A類、B類の分類基準を明確にする。

A類・B類の最も大きな相違は胎土・焼成・器厚である。ともに胎土には繊維を含まないがB類にはかなり多量の小礫が含まれ、A類には全くみられない。器厚もA類に比べてB類が厚く、焼成もやや落ちる感じを受ける。器形はA類・B類とも尖底深鉢を基本とし（A類には平底が存在する）、口縁が外反することを特徴とするが、B類はA類ほど外反が顕著でなく、中には外反しないものがある。さらにB類は胴部が直立ないしは膨らむものがあり、胴部に最大径を有するものもある。器高もB類の方があり、A類より土器が大型のものが多いようである。底部の形状も、A類は円錐形であるがB類は釣鐘状のものが多い。口縁部文様帯はA類・B類ともに全体の1割程度であるが、A類には全くみられない原体の側面圧痕がB類には認められる。口唇部施文はA類では頻繁にみられるが、B類ではA類ほど多くはない。内面調整はA類では、縄文・指頭ナデとも同比率であるが、B類では縄文が少なく指頭ナデが多い。指頭ナデもA類に比べてB類では大きく粗く、凹凸が顕著である。縄文原体はA類・B類ともにR〔ㄣ〕が大部分であるが、B類の節が大きく、原体も太い。A類の中に、極めて少ないがO段多条、付加条、回転方向を変えた羽状縄文が存在する。胴部の施文は、横位回転による斜行縄文が施文されるが、B類は底部に近づくにつれて回転方向が乱れる傾向にある。（岡田 康博）

### 第 群土器（図185～187）

本群土器は、早稲田貝塚第4層出土の土器を標式とする早稲田5類土器に含めることが可能な土器である。

本群土器が主に分布する地区は、EA～EL-22～29の第205号住居跡を中心とする範囲である。また、出土層位は第1層上部であるが、個体数は比較的少ない。

本群土器の大きな特徴は、器形、胎土、文様施文上にある。

器形は、平底の深鉢形で、胴中央部がやや膨らみ、胴下部で大きくすぼむもの、底辺部から外方に直線的に開くものなどがある。また、底辺部外方に張り出す平底が一般的で、しかも、張り出した側縁には指頭押が加えられる。

口唇部は平坦で、やや肥大するもの、丸みをもつもの、軽く水平に面取りされるものがみられ、中には、縄の側面圧痕文、単軸絡条体回転文、縄文、指頭押文が施文されるものがある。

口縁部は変化がなく、体部から直線的に口端に至るものが多いが、まれにやや外反するものもある。

胎土には粗砂粒及び細砂粒がほとんど混入されないが、多量の植物性繊維が含まれる。したがって全般的に軽く、しかも極めて脆弱な感じを受ける。

内面の調整は粗い糸をもった貝殻によるもの、指の押えによるものがある。

外面の文様には撚紐の側面圧痕を用いるものと（A類）と、縄文を用いるもの（B類）がある。

#### A類（図168 - 1 ~ 6、12）

撚紐の側面圧痕を有するものは破片資料のみであるが、2、5、6のように無文地に0段多条の側面圧痕を横位、又は縦位に配するもの、1、3、4、12のように縄文地に、横位平行や弧状に配したものがある。これが器面全体に及ぶものか、明確でないが、ほとんどは口縁部やあるいは体部上位に限定されるものと思われる。

#### B類（図185、図186 - 7 ~ 11、13、14、図187）

縄文だけが施文された土器であるが、縄文の種類は以下に述べるように豊富である。

縄文原体には、0段多条の $R_L^L$ 、 $L_R^R$ 、L、Rの無節、直前段合撚の $R_{R^L}^{L^R}$ 、 $R_R^L$ 、 $L_R^L$ 、 $L_{R^R}^R$ 、単軸絡糸体第 類がある。

これらの原体は、回転方向によって縦位羽状・横位羽状・斜位・横位・縦位と種々の構成がみられる。

#### 第 群土器（図188）

絡糸体圧痕文、絡糸体回転文、貼付隆帯、縄文組紐圧痕文の各要素が組み合わされて施文された土器群である。本県においての出土例は少なく、むしろ北海道に多くみられる土器群である。東釧路 式、中茶路式、東釧路 式に比定される土器群である。

胎土には少量の植物性繊維が混入され、器厚は0.7 ~ 0.9cmで比較的厚手である。施文原体の相違により以下の4類に細分される。

#### A類（図188 - 10、11）

幅0.3cmほどの平たい工具に、撚紐をラセン状に巻きつけた絡糸体を連続して押し付け施文したものである。3個体分出土した。

図188 - 11は、絡糸体圧痕文と同回転文が組み合わされて施文されたもので、絡糸体圧痕文は、縦位、横位の矢羽根状の連続した構成をなす。その直下に異原体の絡糸体回転文が施文されている。

図188 - 10は、胴下半部の破片で、上位には絡糸体圧痕が縦位に施文され、下位には幅0.3cmほどの粘土紐が横位数段にわたって貼り付けられている。また、この隆帯間には $L\{R^R$  縄文が横位、縦位に施文されている。

2個体とも胎土に少量の植物性繊維の混入が認められる。内面は10が横位の貝殻条痕、11はなでの擦痕がみられる。

#### B類（図188 - 1 ~ 9、12、13、15）

0.4cmほどの平たい工具に、細い撚紐を左右両方向に巻きつけ、中央で交差させることによって、「×」字状を構成させた原体を使用する土器である。2個体分出土し、いずれも横位平行に連続施文されている。

3、5、6、12は同一個体で、そのうち3は、口縁部片である。口端がやや肥大し、口唇部は水平な面取りが行われ、その直下は2cmほどの幅で無文帯が形成されている。12には上位に絡条体圧痕文が用いられているが、下位にはL{ R 斜位縄文が認められる。

1、2、4、15も同一個体で、15は底部片である。底辺部に至るまで絡条体圧痕文が施文されている。底部は、径が比較的小さく、しかも底辺部が外方にやや張り出す形状のものもある。

### C類

細い粘土紐の貼付け隆帯と絡条体回転文が組み合わされた土器で、細片が1片出土した。

粘土紐の幅は0.2~0.3cmで極端に細く、しかも、A、B類と異なり曲線的に展開する。また、この隆起帯間には1段の絡条体回転文が施されている。胎土には少量の植物性繊維が混入されている。

### D類(図188 - 14)

3本組紐による圧痕(あるいは組紐の単軸絡条体回転文の可能性もある。)文が施文された土器で1片が出土したにすぎない。

14は口縁部片で、口唇部直下の外面に粘土紐を貼り付け、その上に指頭押文が施され、また、口縁部には、3本組紐(平組紐)による圧痕が弧状に配されている。

胎土中には、植物性繊維が多量に混入されていることや、器厚が厚手である点で群土器との関連がうかがえる。

### 第 群土器(図189~191)

6号住居跡出土の2個体の復原可能土器を含む土器群である。編年的には、住居構築の新旧の関係において、明らかに群土器(長七谷地 群相当)以前に、また、型式学上では第群土器(早稲田5類相当)以後に位置づけられるが、従来までの土器編年では特定できる型式がないものである。

胎土及び焼成の度合は、第群土器と第群土器の中間的であるが、文様要素、文様構成において、上記の土器群と強い類似性のあるものと、相当な隔たりがあるものがみられる。特に、後者においては絡条体を多用している点が顕著である。

この例は6号住居跡に付随する施設内に敷かれていた図37 - 2の土器が代表するものであろう。これは細い単軸絡条体の回転文が全面に施されたものである。

また、前者の例としては、図37 - 1の、太い節の0段多条の2段撚の原体が用いられたものが代表する。

以下に、本群土器の製作上の諸特徴について述べる。

胎土には、多量の植物性繊維の混入がみられ、焼成は軟質で、脆弱である。この点は、第群土器に最も近いものである。

調整においては第群土器のように篋状工具を使用したと思われるものがほとんどなく、また、それが使用されたものでも、かすかに確認される程度であり、おそらく、指、あるいは手によるものであろう。しかし、第群土器でみられるような円面の凹凸は少ない。

器形は、おおむね、第群土器に類似し、口縁部からやや内湾しながら体部下半に至る。底部は図191 - 8のように角度の大きな尖底か、あるいは丸底をなす。

口唇部から口縁部にかけての形状には、3種類あり、図37 - 1のように、口端が水平に面取りされるもの、先細りしながら丸みをもつもの（図189 - 1、図190 - 5、10）口唇部直下でやや外反するもの（図190 - 6、8）である。

外面の文様は、大きく、単軸絡条体の原体を使用するもの（A類）、0段2条か、0段多条の原体を主体的に使用するもの（B類）、撚紐の側面圧痕と2段の縄文を組み合わせたもの（C類）がみられる。

#### A類（図37 - 2、図190 - 1 ~ 11）

単軸絡条体を用いたものは、施文の方法、原体の大小、文様の構成でバラエティに富む。原体を口縁部に平行に押圧し、その位置から回転施文するもの（図190 - 1、6、10、11）間隔をあけた撚紐を、異方向から回転し、網目状を構成させるもの（図190 - 8、9）細い撚紐を巻いた原体を口縁部方向に回転し、条を横走させるもの（5）器面全体に密に巻いた原体を使用するもの（2 ~ 4、7）がある。

#### B類（図191 - 3 ~ 5、7、9）

0段多条の原体や0段2条の原体を使用しているが、第群土器のように、水平な横位回転施文による整然とした帯状の文様を構成しないものである。

#### C類（図189、図191 - 1、2、6）

図189 - 2のように、B類にみられる比較的細い原体を使用した縄文地に撚紐の側面圧痕を配したものや、図189 - 1にみられるように体部上半の無文帯に撚紐の側面圧痕を弧状に配し、下半部を細い縄文が施文されたものがある。

図189 - 1の側面圧痕により構成された文様は長七谷地群や花積下層式に近いものであるが、その他の特徴は本群の他の土器と共通する。時間的にはこれらと近いものであろう。

### 第群土器

本群土器は、長七谷地貝塚出土の長七谷地群土器、あるいは関東地方の花積下層式に類する土器群である。この土器は、長七谷地貝塚の調査において注目され、現在の東北地方北部の

土器編年においては、縄文前期初頭、早稲田 5 類直後に位置づけられている。

本遺跡においては、3号、5号、9号の各住居跡から主に出土している。この他、上記の各住居跡が位置する台地の北側斜面からも、まとまった破片が出土している。

器形の全般的な特徴は、波状をなすものがなく、すべて平坦口縁で、口縁部から底部にかけて大きく内湾し底部に至る。底部はいずれも丸底か丸底に近い尖底をなす。全体の形状は砲弾状をなす。

口唇部は工具によって平坦に面取りされるか、あるいは丸味をもって外傾するものが多い。まれに、内傾するものや、全体に丸みをもつものもある。この口唇部上には、通常、文様は施文されない。

胎土には、粗砂、細砂の混入はほとんどみられない。しかし、多量の植物性繊維を含み、器内面にこの繊維痕が条として残るものが多い。

内面の調整は、篋状工具（杵目板の可能性もある）による、横位のなみである。個体によって、この調整の度合いが異なり、図193、図194のようにほぼ平滑になでられているものもあるが、一部に凹凸が激しく残るものがある。

外面の文様においては、口縁部文様帯を構成するも、体部と同一施文で、口縁部文様帯を構成しないものがある。

器外面を飾る文様要素には、0段多条の太い節を有する縄文、縄端回転文、撚紐の側面圧痕文、棒状工具による刺突文、縄端による刺突文、押型文がある。これらの各要素は1個体にすべて用いられるものではなく、全般的に2～3の要素が組み合わせられて文様が構成される。この他、特殊な手法として、北海道網文式に多用される、条内の節を、条に添って磨り消されるものがある。以下に、文様要素、文様構成上の特徴で分類を行う。

#### A類（図192、194、図197 - 1、2、5、図198）

口縁部文様帯を構成するもので、この文様帯に用いられる要素で、撚紐の側面圧痕を主体的に使用するもの（1類）、押型文を用いるもの（2類）、体部に用いられた原体と同一のもので、方向を違えて構成するもの（3類）に細分できる。

#### A<sub>1</sub>類（図197 - 1、2）

図197 - 2は、細い撚紐の側面圧痕で、横に延びる三角形や菱形状の区画を構成し、その内部に同一の原体による圧痕を充填させる。この際に、各区画内の中央部には撚紐の先端を渦状に変化させて圧痕する。また、各幾何学文様間には幅1cm程の無文帯が形成されるが、この上には連続短沈線が施される。

本土器に施文された側面圧痕による渦状の文様は、関東地方の花積下層式の特徴であるが、口唇部の形状、胎土、焼成の度合で、他の第 群土器と酷似する。

1 は、撚紐の側面圧痕による文様上の構成は不明であるが、2 と異なり、太目の原体を使用している。体部文様は撚りの異なる 2 本の O 段多条の縄文原体を、交互に横位回転させることによって羽状を構成させたものである。この際、縄端を特に強く回転させることによって、上位の縄文帯と区画する。

図 9 は、3 号、7 号住居跡から出土したもので、口縁部直下に 2 条の平行の撚紐の側面圧痕を施し、その間を、短刻線状の刺突文で充填したものである。体部は、O 段多条の撚りの異なる原体が交互に施文されている。

#### A<sub>2</sub>類 (図197 - 5)

口縁部に押型文を施文したもので 1 点のみの出土である。約 3 cm 幅の中には押型沈線が横位に展開するが、原体の長さは 1.5cm 程のものであろう。各沈線内及び沈線の側面には加工痕が認められる。体部には R L、L R の O 段多条の原体を横位に、しかも交互に回転施文することによって帯状の羽状が展開する。

#### A<sub>3</sub>類 (図192、図194、図198)

体部には O 段多条の L R、R L 縄文を横位に交互に施文することによって羽状を構成させる手法は A<sub>1</sub> ~ A<sub>3</sub> 類と同様であるが、この原体を用いて口縁部に斜位回転させ、各条を、A<sub>1</sub> 類風に横走させて口縁部文様帯を構成させたものである。

この文様帯の幅は、2.5 ~ 3.5cm であり、原体が R L を使ったものが全てである。

#### B 類 (図197 - 3、4、6 ~ 8)

口縁部文様帯を形成せず、体部文様を同様な文様構成が口縁部に施されるものである。これには、図 197 - 3、4、6 のように異方向に撚られた O 段多条の 2 本の原体を交互に横位回転させることによって施文されたもの (B<sub>1</sub> 類)、図 197 - 7、8 のように、O 段多条の L R 縄文だけを、器面全体に施文したもの (B<sub>2</sub> 類)、図 195 - 5 のように O 段多条の L R 縄文と R L を整然と重ね合わせて施文することによって複雑な網目状を構成するもの (B<sub>3</sub> 類) がある。

B<sub>2</sub> 類及び B<sub>3</sub> 類は、文様施文上で、長七谷地 群土器に含めることの妥当性の問題もあるが、口唇部及び体部の形状、胎土、内面の調整技法の各特徴は、いずれも、本遺跡の第 群土器 A 類、あるいは第 群土器 B 類と酷似する。

#### 第 群土器 (図199)

本群土器は、胎土、焼成、口縁部を含む体部上半の形状、円面の調整技法の各特徴は長七谷地 群土器に最も類似するが、器厚がやや薄く、外面文様に、ループ文や結束第 1 種の縄文を施文したものである。

このループ文は、縄の末端に環が付けられた原体を使用したもので、側面には付けられたものは無い。ループ文は、東北地方北部の早稲田 6 類や表館式、東北地方南部の上川名 式や大



木1式に盛行する文様である。

また、結束第1種の縄文は、上記の各型式期に盛行し、それ以後、長期間に渡って出現頻度の高い手法として知られている。

以下に、製作上の各特徴を述べる。

胎土には、細砂粒の混入がやや多く、植物性繊維も混入する。また、焼成の度合は良好で、第 群土器に近いが、それよりやや良好と言える。

内面の調整も、第 群土器に酷似し、幅のやや広い篋状工具で横位になでて、器内面を平滑にしている。

器形の特徴は、平坦口縁で、しかも口唇部は平坦に面取りされ、口縁部から軽く内湾して体部下半に至る点にある。これは、第 群土器にも共通する。底部の形状は明らかでないが、丸底に近い尖底の可能性が高い。

器厚は、7～8mmで第 群土器に比較して、やや薄手である。

外面の文様では、末端に環のついた、いわゆるループ文が施文されたもの（A類）と、結束第1種の縄文が施文されたもの（B類）がある。

#### A類（図199 - 1、5、7）

3個体分が出土した。1、5はR $\frac{1}{2}$ の原体を横位に回転し、ループ文を帯状に配したものである。群に多用される縄端回転文とは異なり、「条の閉じた端に、条の撚を強めて、環を二つ作り付け、後条を撚合せた縄」（山内：1979）を原体としたものである。

7はR $\frac{1}{2}$ の原体と、LRの原体を使用し、ループ文を基点に、上下で羽状を構成する特殊なものである。いずれも、節の太さは長径約4mm、短径2mmで、第 群土器の節の約 $\frac{2}{3}$ である。

#### B類（図199 - 2、3、4、6）

3個体分が出土したが、いずれも小破片である。原体は、RLとLRの撚の異なる2段のものを結束したもので、横位回転により羽状縄文を形成する。同一方向の撚の結束したものや、異原体の結束のものはない。

原体の長さは、短いもので2.5cm、長いもので3.5cmである。

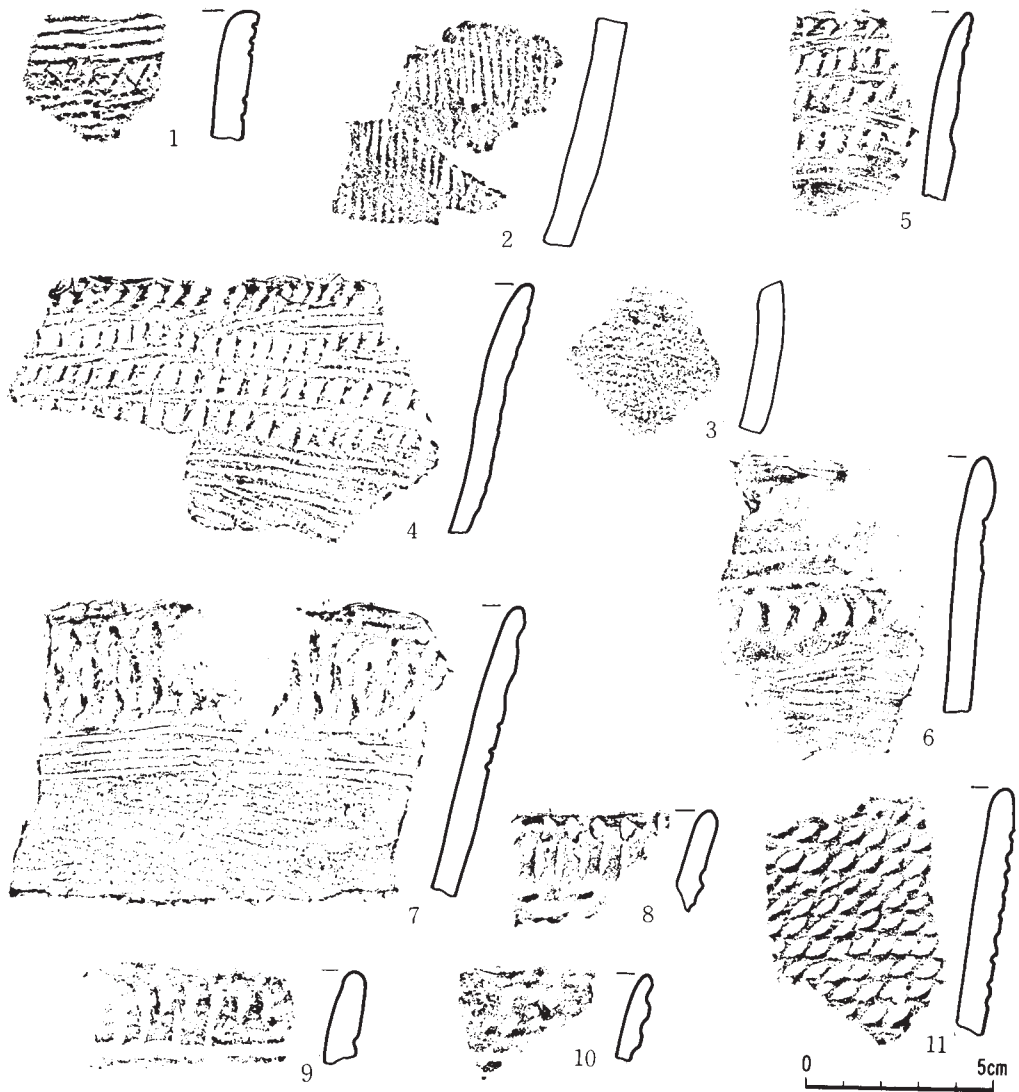
#### 第 群土器（図200）

本群土器は、縄文時代早期のものであるが、その編年的な位置づけが不明なものである。

第1次調査から第4次調査までのものを含めるとA類（縄文を施文したもの）、B類（縄文と刺突及び沈線が施文されたもの）、C類（絡条体圧痕文を施文したもの）、D類（細隆起線と貝殻文を施文したもの）、E類（半裁竹管による平行沈線文を施文したもの）、F類（刺突文を施したもの）、G類（半裁竹管による平行沈線文に刺突を加えたもの）の7類に細分される。

このうち、第1次、第2次調査で出土した土器は図200のD類である。 （三浦 圭介）

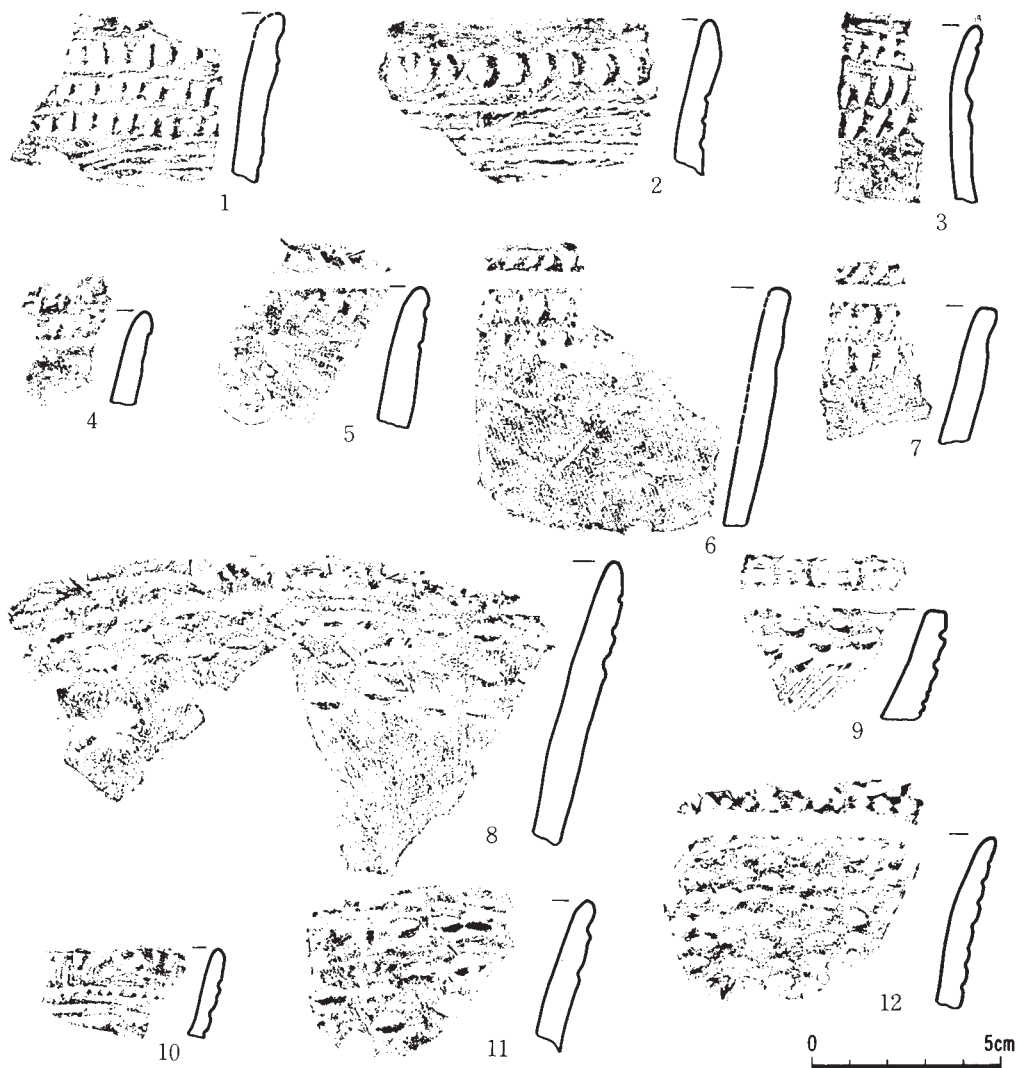




繩文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-18 IV層	I群	口縁部	押型文	なで	P 113-1
2	EF-24 IV層	I群	体部	押型文(角棒)	なで	P 32
3	EF-25	I群	体部	RL縄文	なで	P 6
4	EJ-20 IV下層	II群	口縁部	RL縄文、沈線文、口唇刻目	なで	P 302
5	EK-20 IV下層	II群	口縁部	RL縄文、沈線文、口唇刻目	なで	P 201
6	EN-22 IV層	II群	口縁部	RL縄文、沈線文	なで	P 203
7	<sup>EK-20</sup> <sub>EK-21</sub> IV下層	II群	口縁部	RL縄文、貝殻腹縁左痕文	なで	P 699
8	EL-23 IV層	II群	口縁部	RL縄文、口唇刻目	なで	P 202
9	EN-22 IV層	II群	口縁部	RL縄文、沈線文	なで	P 204
10	表採	II群	口縁部	RL縄文	なで	P 205
11	EJ-23 IV層	II群	口縁部	RL縄文	なで	P 206

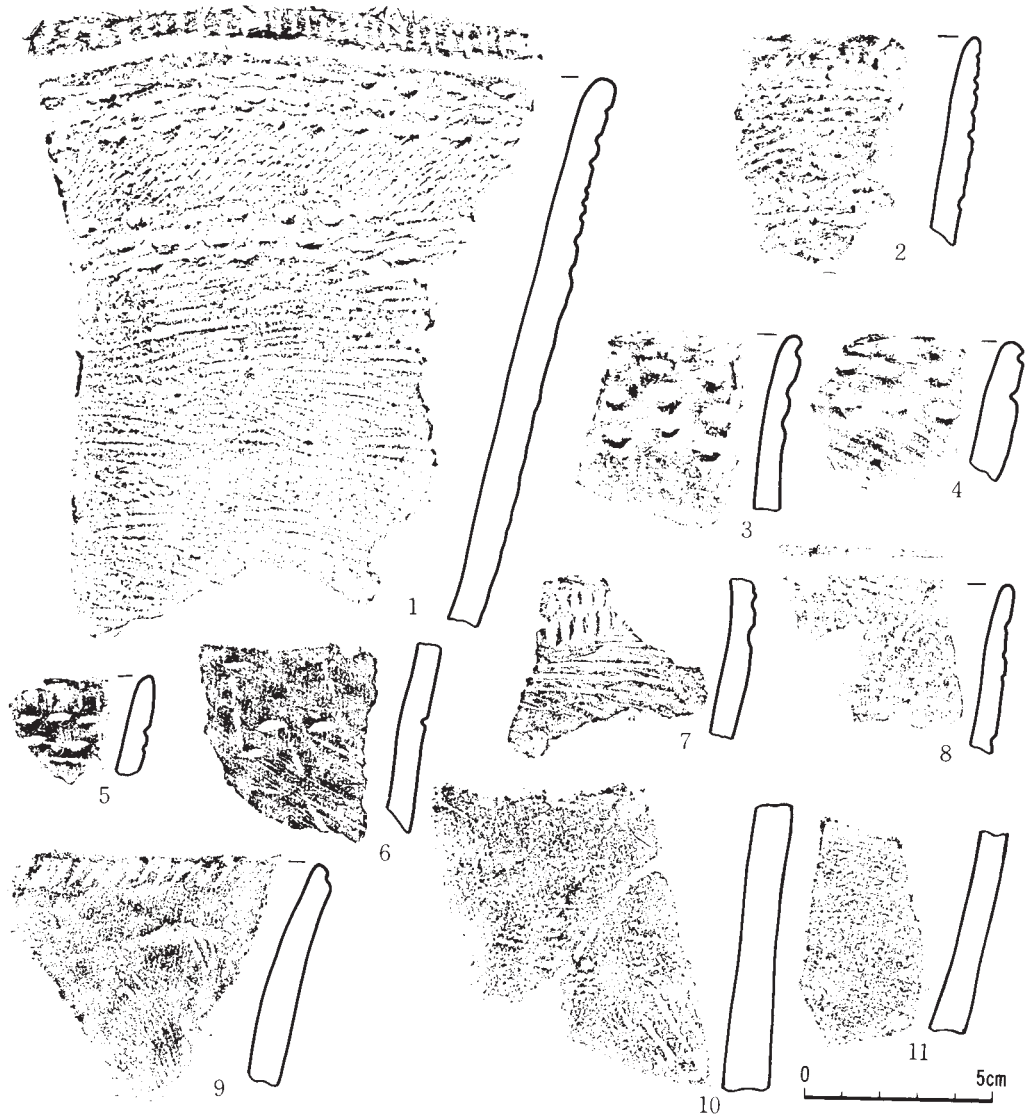
図113 遺構外出土土器 第I群土器、第II群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-19 IV層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	
2	EL-25 V層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文、貝殻腹縁圧痕文		条痕	
3	EJ-20 IV上層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文			P 300
4	EF-22 IV層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	
5	EL IV層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文、口唇部刻目		なで	
6	EF-19 IV上層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	P 1099
7	EK-16 IV層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文、口唇部刻目		なで	
8	EJ-21 IV層 EK-27 IV層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	P一括
9	EK-19 IV上層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文、沈線文、口唇部刻目		なで	P 654
10	EJ-25 II層	Ⅱ群B類	口縁部	貝殻腹縁圧痕文		なで	
11	EJ-25 IV層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	
12	EG-19 IVb層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文、口唇部刻目		なで	P 482

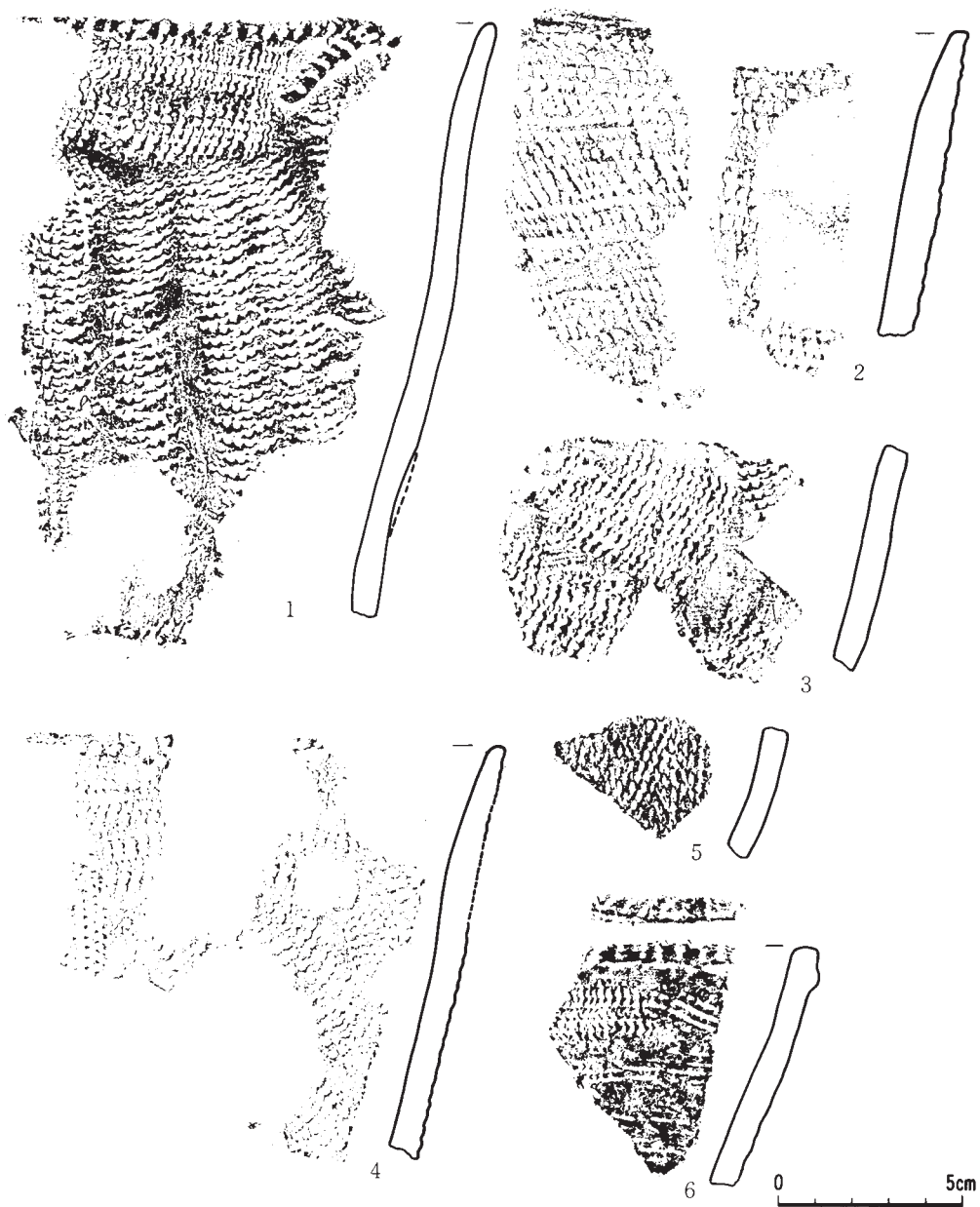
図114 遺構外出土土器 第Ⅱ群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-20 IV上層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文、沈線文		なで	P 693
2	EL-21 Ⅱ層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文、貝殻腹縁文		なで	
3	EM-20 IV上層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文		なで	P 961
4	EM-20 IV上層	Ⅱ群B類	口縁部	条痕地に爪形刺突文		なで	P 739
5	EL-22 IV層	Ⅱ群B類	口縁部	連続爪形刺突文、貝殻腹縁圧痕文		なで	
6	EM-23 IV層	Ⅱ群B類	体部	連続爪形刺突文		なで	
7	EN-21 IV層	Ⅱ群A類	体部	連続爪形刺突文		なで	
8	E1-20 IV下層	Ⅱ群A類	口縁部	連続爪形刺突文、貝殻腹縁圧痕文		なで	P 290
9	DP-14 IVc層	Ⅲ群	口縁部	口唇部刻目、体部単軸絡条体回転文		なで	包A P 147
10	DT-19 IV層 DP-13 IV層	Ⅲ群	体部	体部単軸絡条体回転文		なで	包A P 185
11	DQ-12 IV層	Ⅲ群	体部	貝殻腹縁文		なで	包A P 77

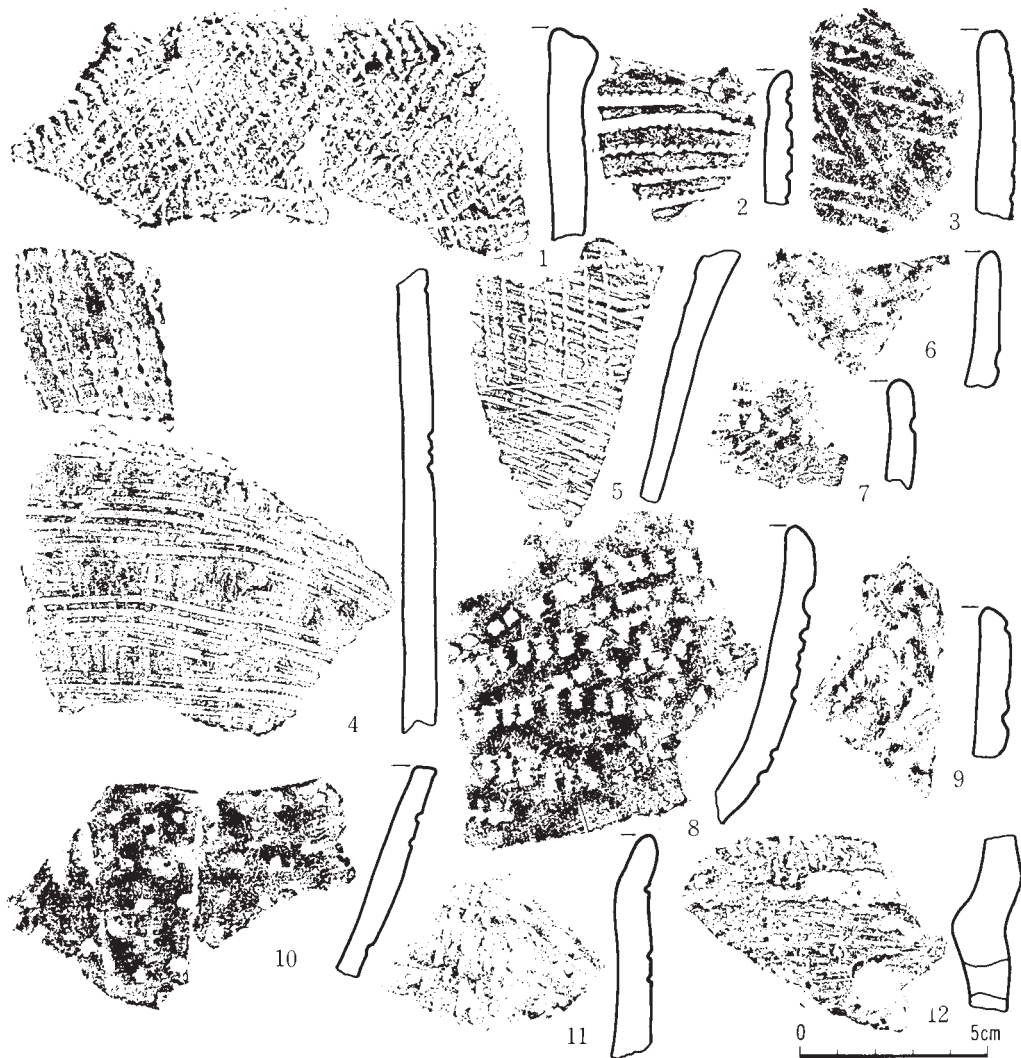
図115 遺構外出土土器 第Ⅱ群土器、第Ⅲ群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	観察表 (地文)	内面調整	登録番号
1	HK-15 EL-16	IV 層 IV 群	口縁部	口唇部刻目、貼付隆帯、貝殻腹縁の押引文	条痕	P 236	
2	EF-15	不明 IV 群	口縁部	口唇部刻目、貝殻腹縁の押引文	条痕		
3	HK-15 EL-16	IV 層 IV 群	体部	貝殻腹縁の押引文	なで		
4	HK-15 EL-16	IV 層 IV 群	口縁部	口唇部刻目、貝殻腹縁の押引文	条痕	P 1025 P 236	
5	EM-20	IV 上層 IV 群	体部	貝殻腹縁の押引文	なで	P 935	
6	表採	IV 群	口縁部	口唇部刻目、貼付隆帯、貝殻腹縁の押引文	なで		

図116 遺構外出土土器 第IV群土器

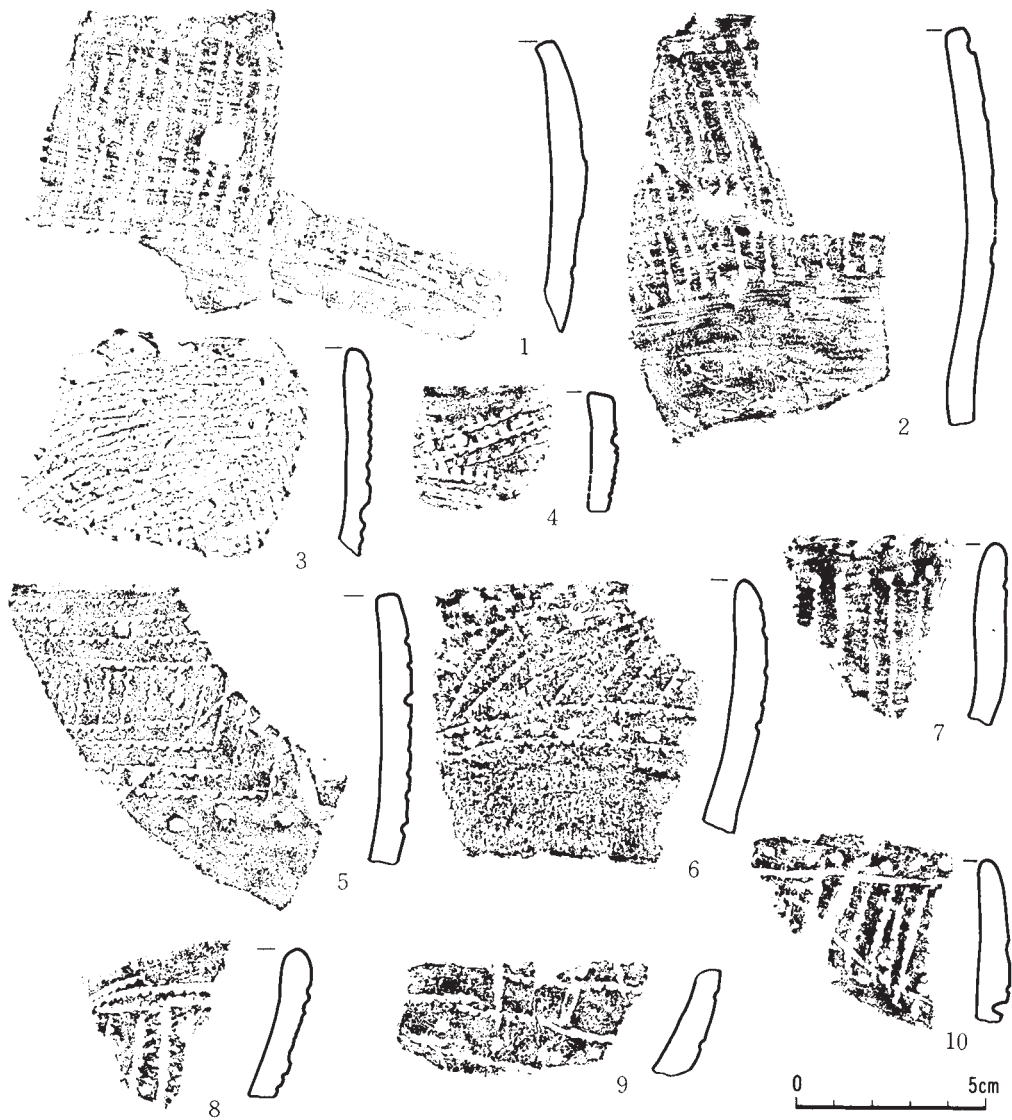


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-25 EJ-23 IV層	V群A類	口縁部	貝殻腹縁文	粗いなで	
2	EF-20 IV層	V群A類	口縁部	貝殻腹縁文		P 147
3	EG-19 IV上層	V群A類	口縁部	貝殻腹縁文	粗いなで	P 306
4	EJ-23 EJ-20 IV上層	V群A類	体部	条痕文、貝殻腹縁文	みがき	P 443
5	EM-20 IV層	V群A類	体部	条痕文、貝殻腹縁文	みがき	P 413
6	EG-22 IV上層	V群A類	口縁部	刺突文	粗いなで	P 338
7	EI-23 IV層	V群A類	口縁部	刺突文	粗いなで	P 211
8	EG-21 IV層	V群A類	口縁部	刺突文、貝殻腹縁による刺突文	粗いなで	P 202
9	EF-21 IV上層	V群A類	口縁部	刺突文、貝殻腹縁による刺突文	粗いなで	P 339
10	EJ-22 EF-25 IV層	V群A類	口縁部	刺突文	粗いなで	P 203
11	EK-23・24	V群A類	口縁部	刺突文	粗いなで	P 7
12	EF-19 IV層	V群A類	体部	刺突文	粗いなで	P 445

図117 遺構外出土土器 第V群A類土器

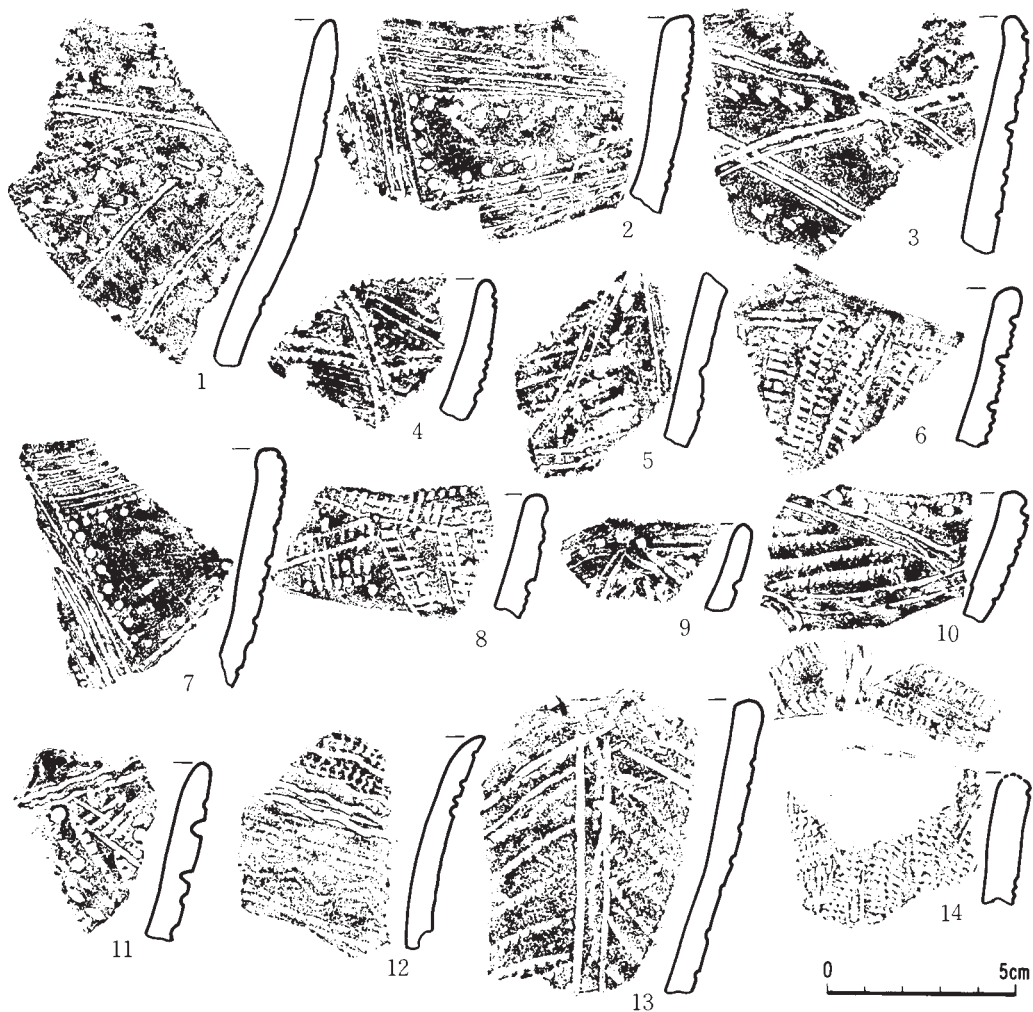




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-10 IV上層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 691 P 681
2	EM-17・18 II層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	
3	EL-24・25 II層 EH-21 IV上層	V群A類	口縁部	刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 89 P 42
4	EN-21 IV層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		なで	
5	EM-21 IV上層 EM-21 IV下層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		なで	P 95
6	EK-20 IV上層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		なで	P 690
7	EM-19 IV上層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文			P 1210
8	EM-21 IV層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 50
9	EM-23 IV層	V群A類	体部	円形刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	
10	EG-21 IV層	V群A類	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文、沈線文		粗いなで	

図118 遺構外出土土器 第V群A類土器

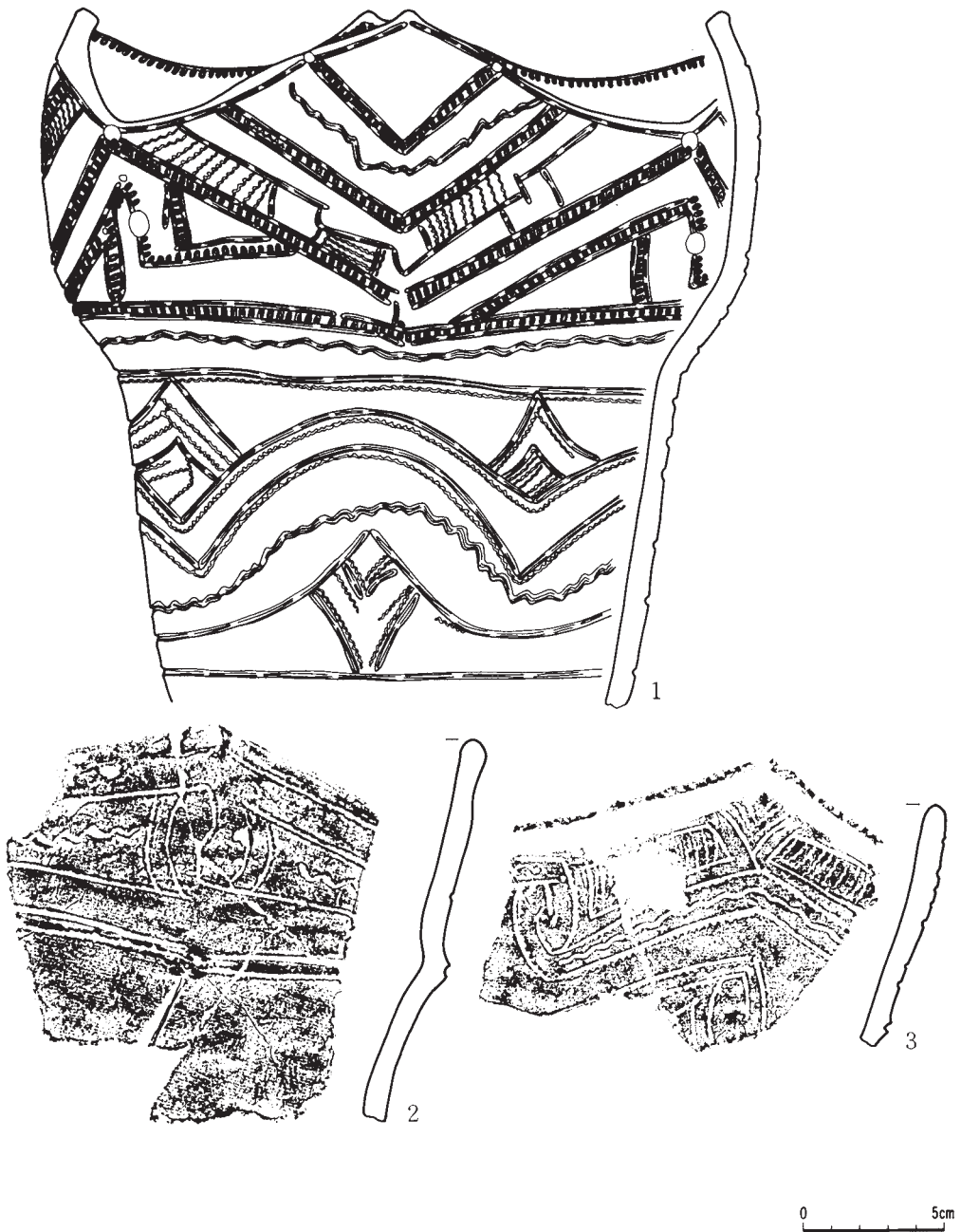


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-25 II層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文		なで	P 382
2	EK-23 I層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗い条痕	P 12
3	EL-22 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、2個一対の刺突文		なで	P 193
4	EF-25 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		なで	P 189
5	EN-20 IV上層	V群A類	体部	沈線文、刺突文		粗いなで	P 435
6	EG-21 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 191
7	EJ-19 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗い条痕	P 192
8	EF-19 IV上層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 591
9	EJ-25 I層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文		なで	P 209
10	EI-20 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		なで	P 330
11	EH-24 IV層	V群A類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		なで	P 208
12	EG-20 IV上層	V群A類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		なで	P 55
13	EK-25 II層	V群A類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 165
14	EN-20 IV上層	V群A類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		なで	P 836

図119 遺構外出土土器 第V群A4類土器、第V群A5類土器

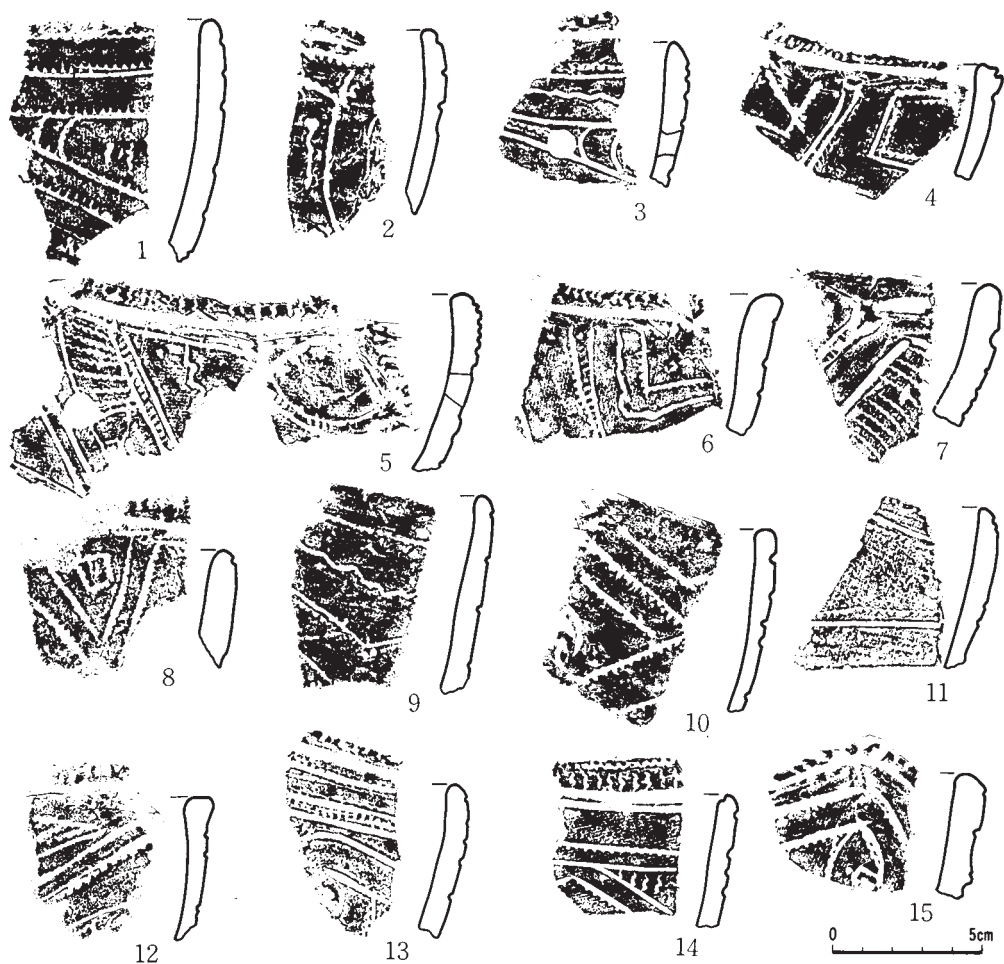




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-21 N下層	V群B類	略完形	沈線文、貝殻腹縁文、粘土粒貼付、刺突文	平滑ななで	P 227
2	EK-22 N上層	V群B類	口縁部	沈線文、粘土粒貼付上に刺突文	平滑ななで	P 91
3	EF-25 N上層	V群B類	口縁部	沈線文、粘土粒貼付上に刺突文、貝殻腹縁文	平滑ななで	P 1

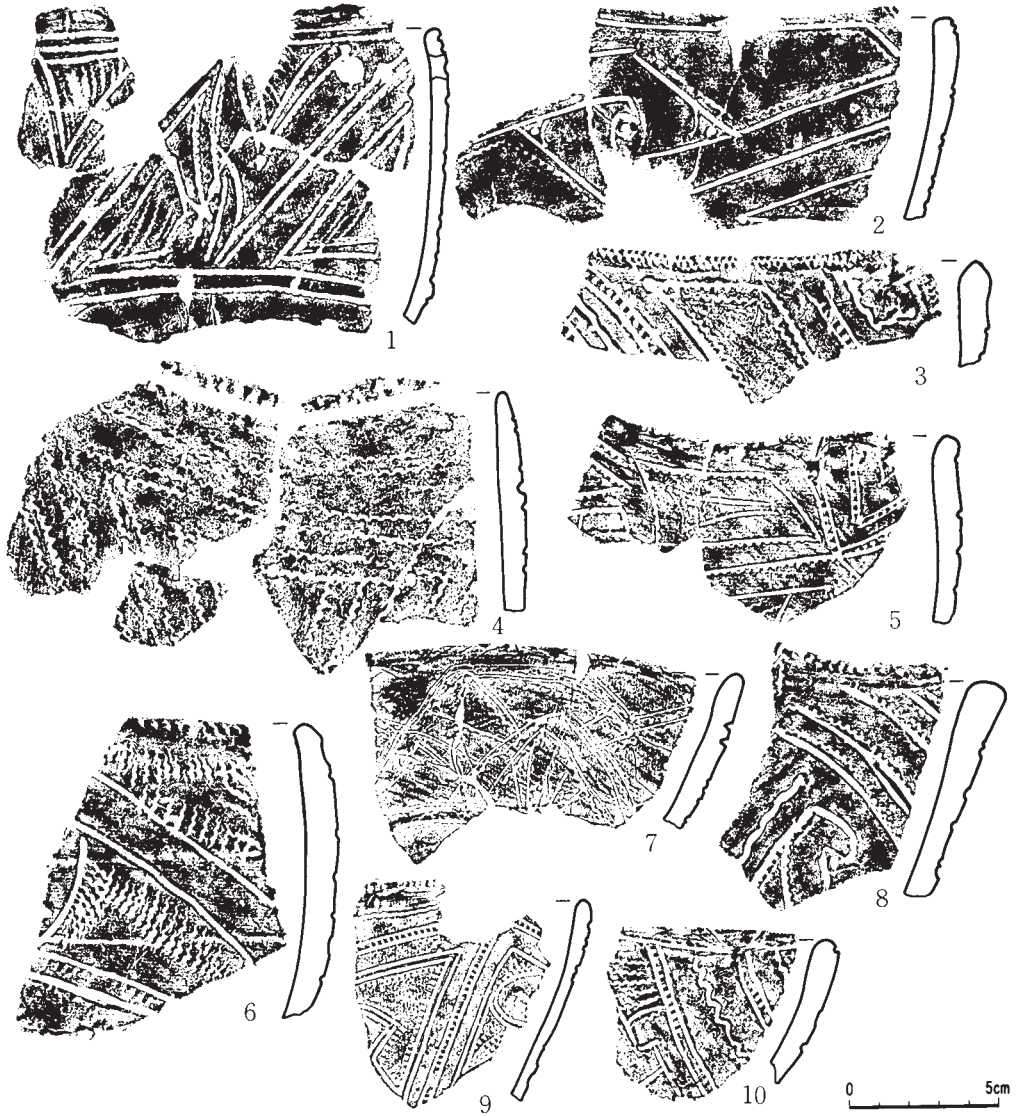
図120 遺構外出土土器 第V群B類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-24 I層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 139
2	EM-20 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 953
3	EG-22 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 40
4	EH-21 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 16
5	EM-21 EK-21 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 47
6	EK-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 563
7	EG-18 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 1034
8	EN-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 71
9	EL-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 174
10	EN-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 178
11	EL-25 V層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 12
12	EJ-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 83
13	EF-22 III層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 320
14	EG-21 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 131
15	EF-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 283

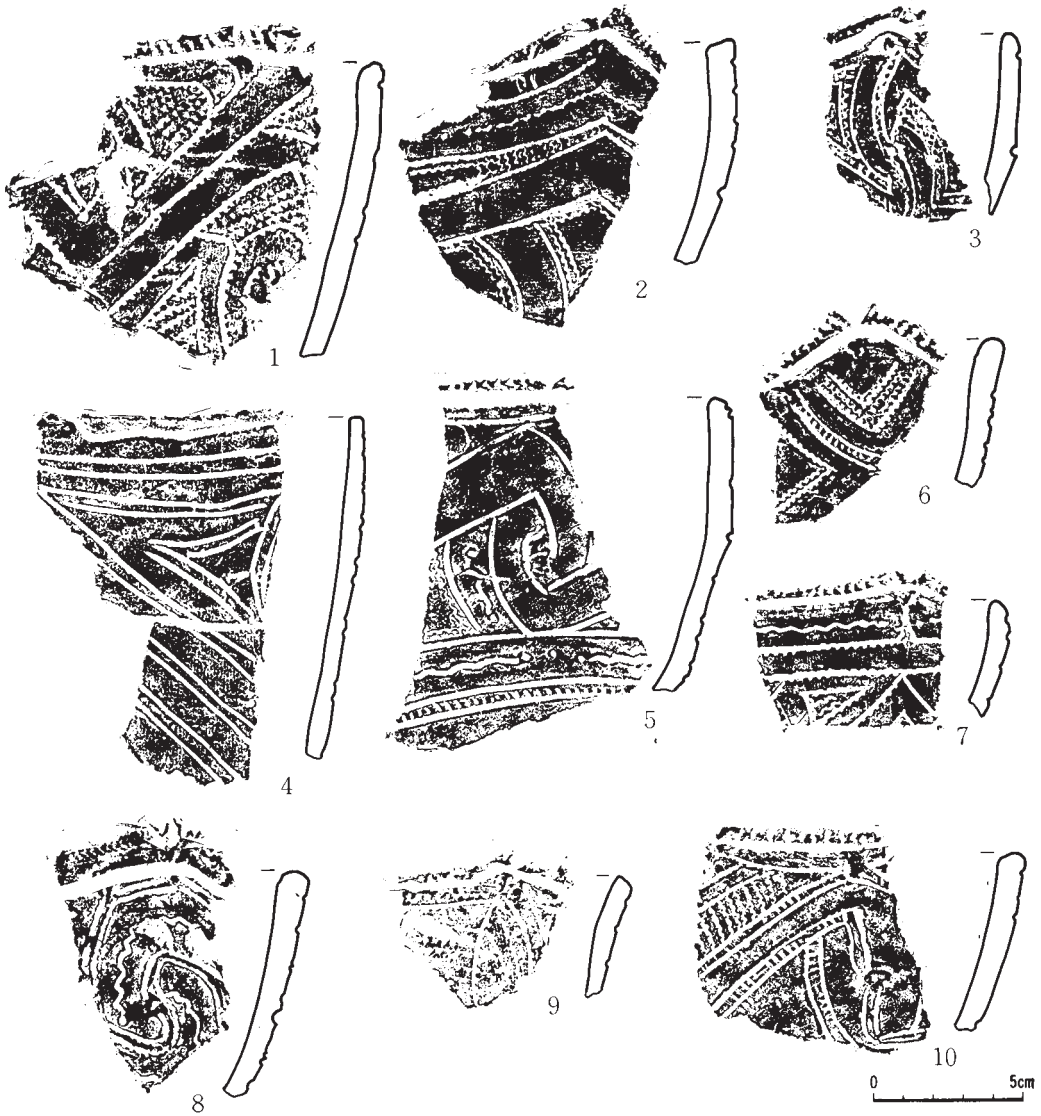
図121 遺構外出土土器 第V群B類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EH-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 213
2	EK-23 E-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 744
3	EF-21 EM-24 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 333
4	EN-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 197
5	EK-20 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 131
6	EK-19 E-20 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 73
7	EE-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 259
8	EF-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 179
9	EJ-20 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 326
10	EK-21 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 85

図122 遺構外出土土器 第V群B類土器

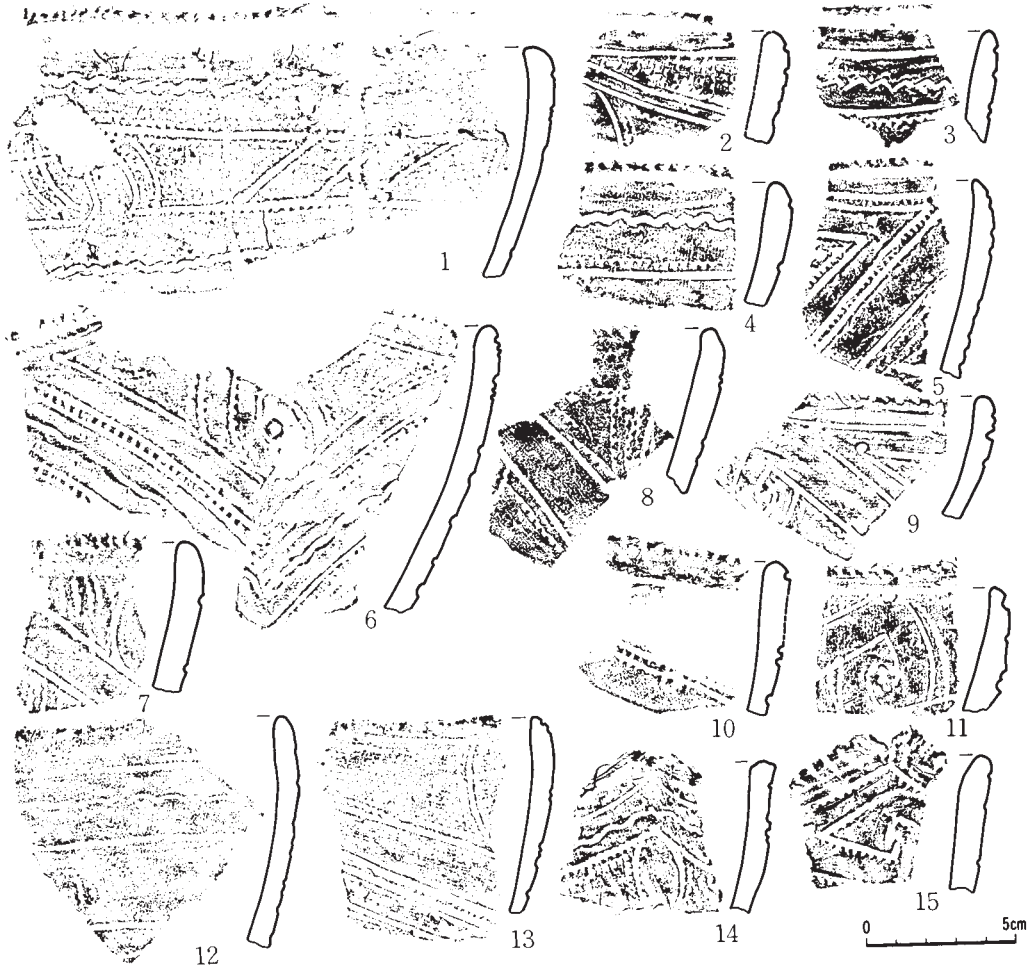


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	EK-26	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 90
2	EG-26	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 93
3	EL-23	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 91
4	EK-22	Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、刺突文		粗いなで	P 373
5	EG-18	Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P1034
6	EF-21	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 35
7	EK	Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 7
8	EF-23	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 107
9	EJ-23	Ⅳ層	V群B類	口縁部	貝殻腹縁文		みがき	P 381
10	EM-21	Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 159

図123 遺構外出土土器 第V群B類土器

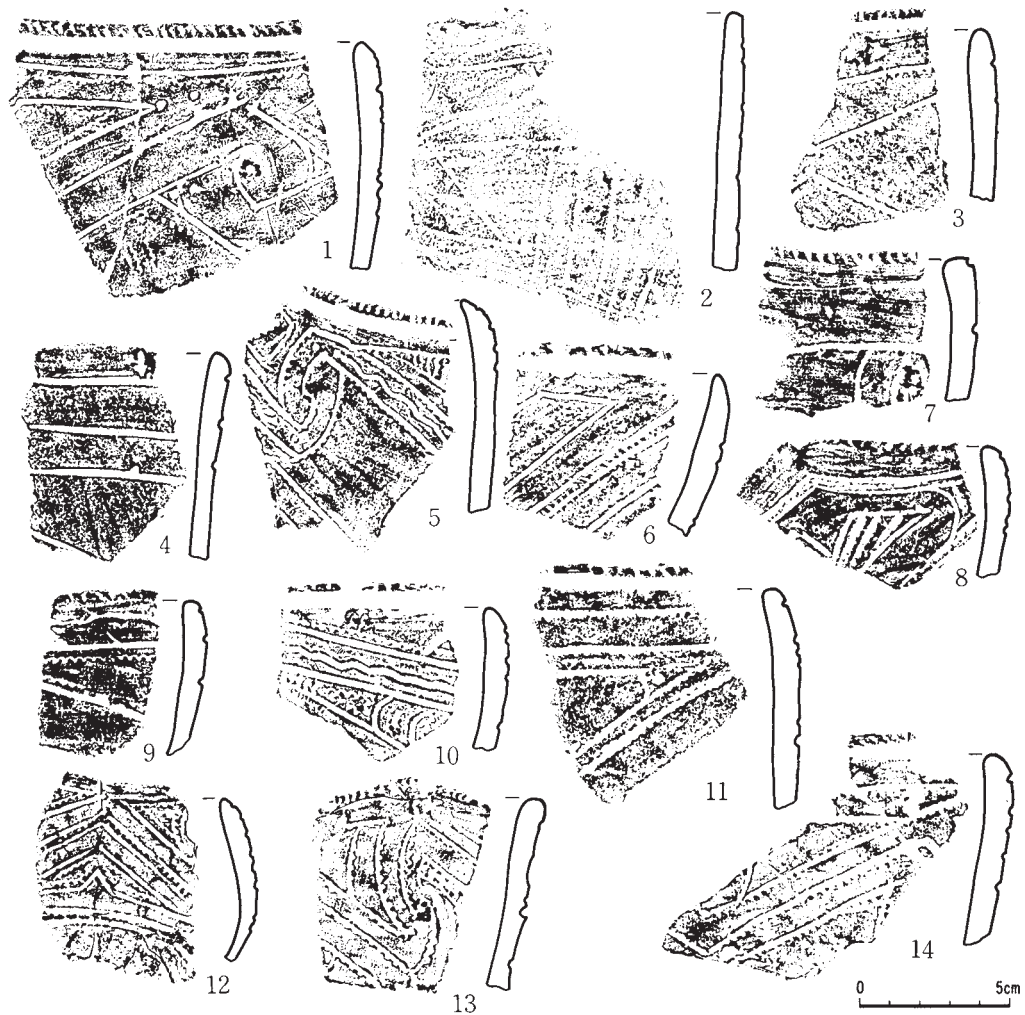




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-22 EG-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 377
2	EF-22	IV上層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 2376
3	EH-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 104
4	EK-23	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 73
5	EN-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 6
6	EF-20 EF-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 479
7	EF-26	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 145
8	EF-26	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 371
9	EJ-21 EK-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 227
10	EF-21	IV下層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、短い貝殻腹縁文による刺突		みがき	P 38
11	EI-20	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 55
12	EG-22 EG-23	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 375
13	EI-21	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 56
14	EI-18	IV層 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 76
15	EK-19	不明 V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 347

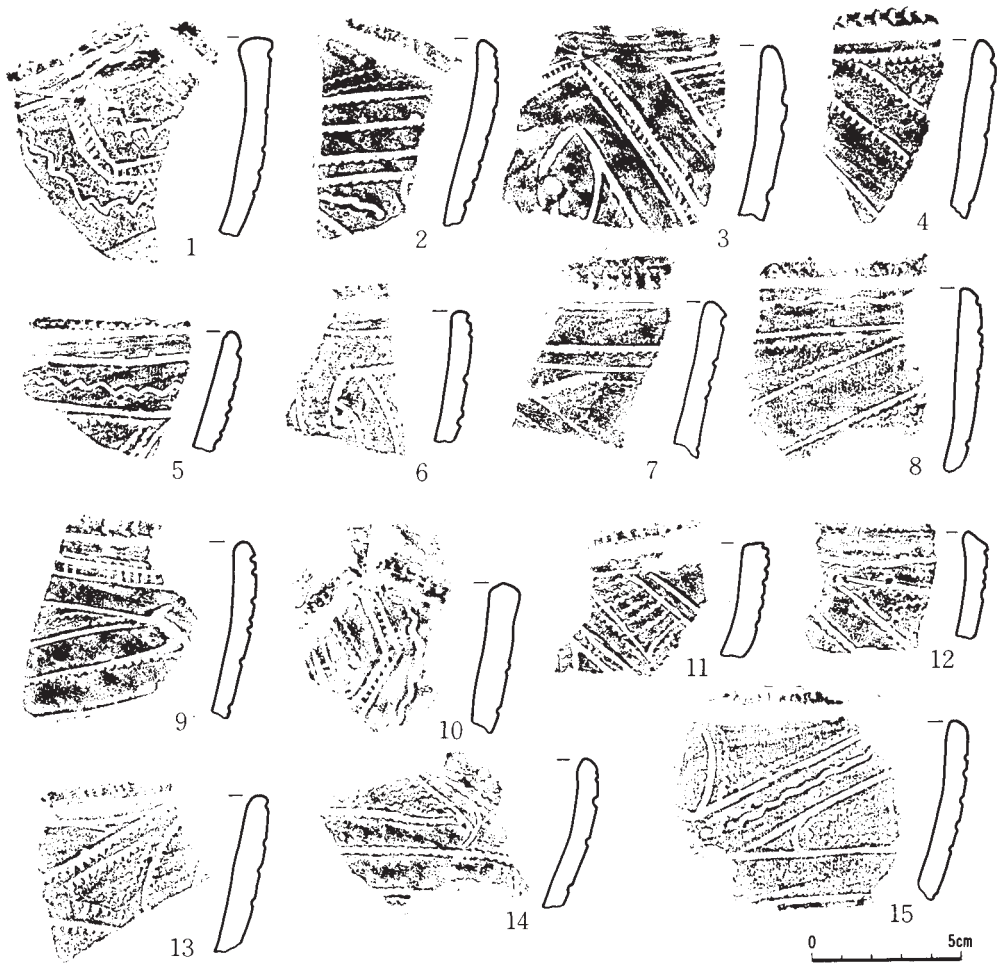
図124 遺構外出土土器 第V群B類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-20 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 237
2	EL-24 IV上層 EK-24 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	粗いなで	P 65
3	EG-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 2
4	EN-21 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文	みがき	P 69
5	EM-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 222
6	EG-21 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 246
7	EK-24 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、刺突文	みがき	P 227
8	EL-20 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 30
9	EG-20 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 20
10	EG-18 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 11
11	EH-25 II層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 111
12	EN-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	粗いなで	P 110
13	EK-22 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 6
14	EF-20 EG-26 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 89

図125 遺構外出土土器 第V群B類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EM-21 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 95
2	EI-20 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 146
3	EG-19 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 489
4	EJ-21 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 3
5	EK-24 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 32
6	EG-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 43
7	EG-24 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 74
8	OM-18 I層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 54
9	EM-20 IV上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 951
10	表採一括	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 328
11	EK-20 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 157
12	EK-20 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 335
13	EJ-20 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 4
14	EM-21 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文	みがき	P 286
15	EF-17 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殼腹縁文、刺突文	みがき	P 53

図126 遺構外出土土器 第V群B類土器

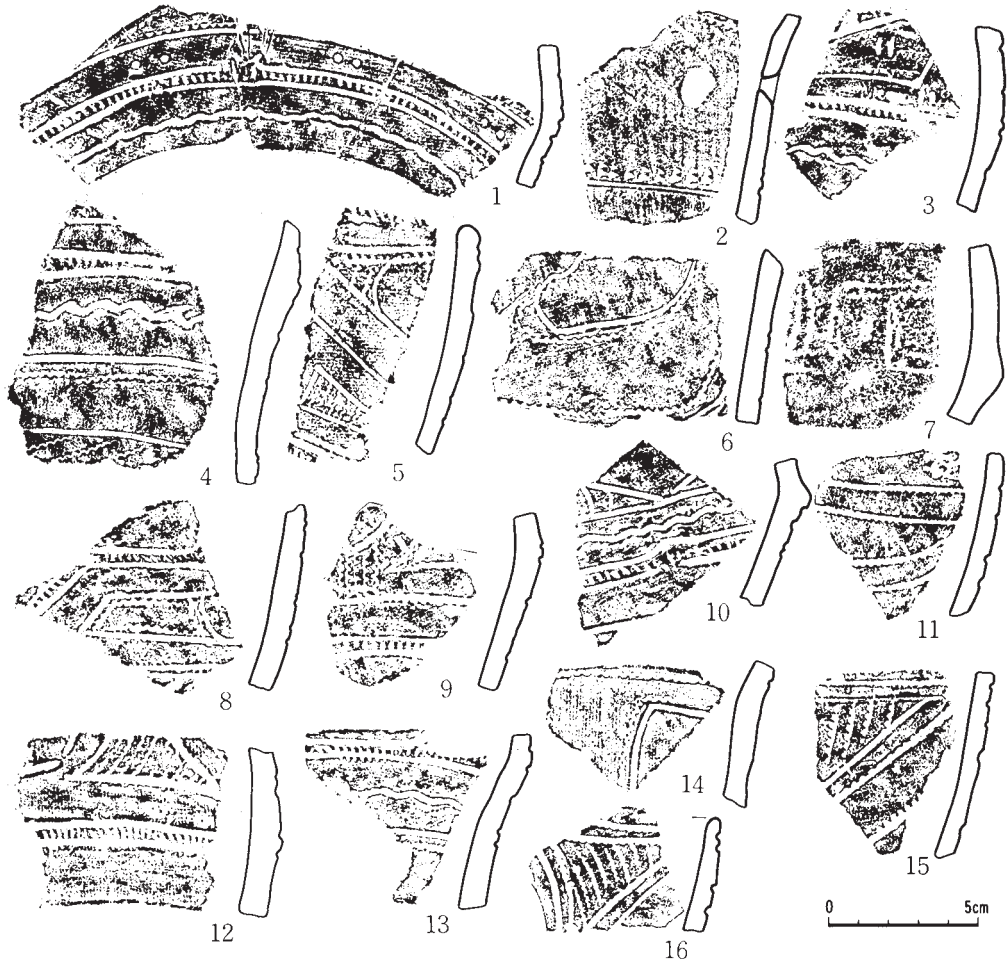




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面文様	登録番号
1	EJ-19 Ⅳ下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 362
2	EK-20 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、粘土粒貼付		みがき	P 370
3	EG-26 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 37
4	EH-24 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 121
5	EL-20 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 21
6	EH-26 Ⅱ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 14
7	EL-20 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	貝殻腹縁文		粗いなで	P 348
8	HG-18 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 1051
9	EM-18 Ⅱ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 137
10	EL-20 Ⅱ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 117
11	EF-21 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 36
12	EM Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 1248
13	EF-22 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文		みがき	P 48
14	EM-23 Ⅳ層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	P 132
15	EG-19 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 1068
16	EM-20 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 958
17	EL-19 Ⅳ上層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 97

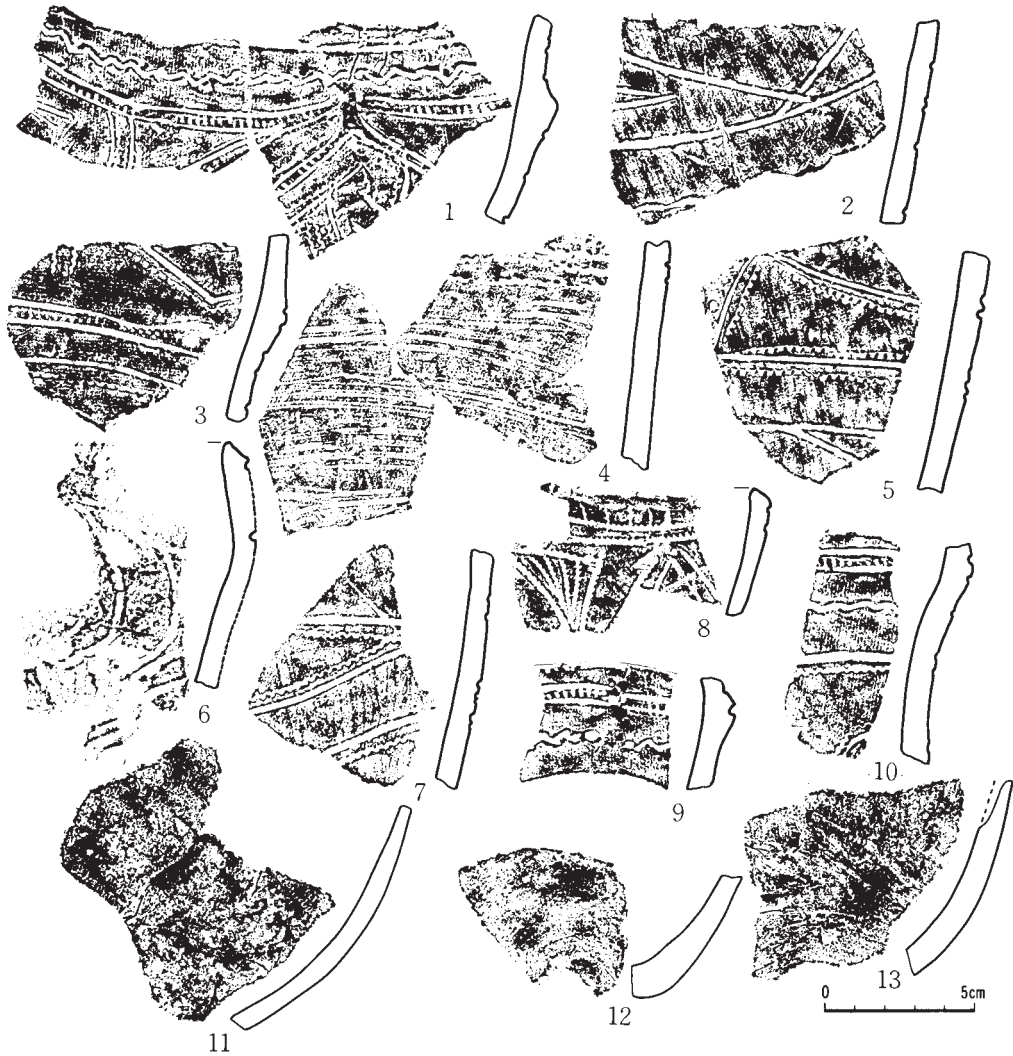
図127 遺構外出土土器 第V群B類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	EG-20 EG-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、	刺突文		みがき	P 475
2	EN-20	Ⅴ群B類	体部	沈線文、			みがき	P 1147
3	EG-18	Ⅴ群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、	刺突文		みがき	P 405
4	EJ-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 399
5	EK-20	Ⅴ群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、	刺突文		みがき	P 241
6	EH-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 410
7	EG-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 494
8	EJ-25	Ⅴ群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、	刺突文		みがき	P 404
9	表採	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 427
10	EG-18	Ⅴ群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、	刺突文		みがき	P 1103
11	EI-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文、刺突文		みがき	P 638
12	EG-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 504
13	EG-19	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 497
14	EK-20	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 422
15	EJ-20	Ⅴ群B類	体部	沈線文、	貝殻腹縁文		みがき	P 333
16	EJ-19	Ⅴ群B類	口縁部	沈線文、	貝殻腹縁文			P 356

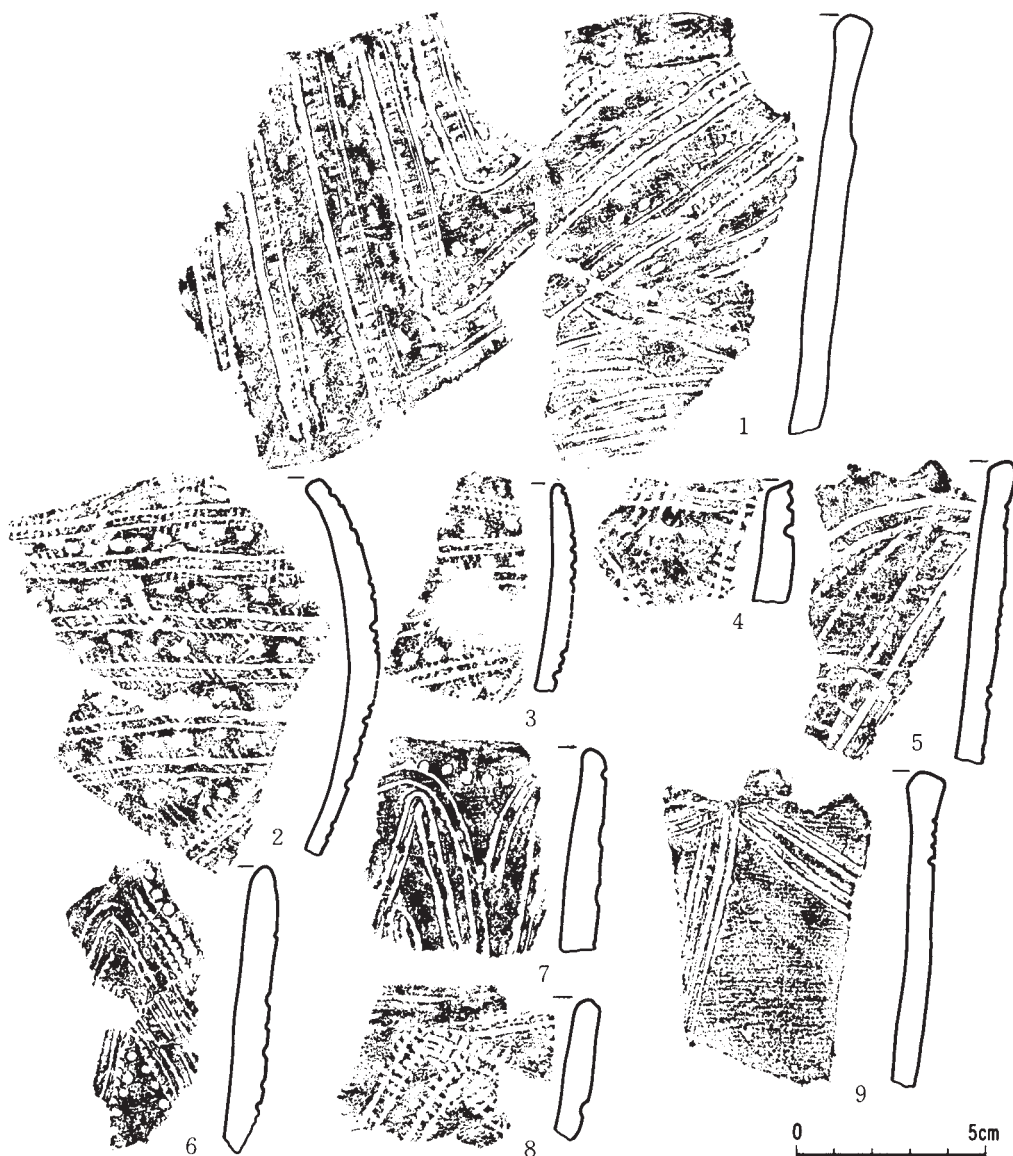
図128 遺構外出土土器 第Ⅴ群B類土器



繩文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EM-21 EM-19 IV下層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 238
2	EM-20 EL-20 IV上層	V群B類	体部	沈線文	みがき	P 743
3	EK-20 IV上層	V群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 690
4	EJ-22 ET-24 IV層	V群B類	体部	貝殻腹縁文、条痕文	みがき	P 406
5	EF-18 IV上層	V群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 550
6	EK-23 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 108
7	EM-20 IV上層	V群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 746
8	EN-22 IV層	V群B類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 166
9	EK-22 IV層	V群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文	みがき	P 400
10	EF-22 EM-19 IV上層	V群B類	体部	沈線文、貝殻腹縁文	みがき	P 1221
11	EK-19 IV層	V群B類	底部	無文	みがき	P 502
12	EF-18 IV層	V群B類	底部	無文	みがき	P 1091
13	EK-20 IV下層	V群B類	底部	無文	みがき	P 500

図129 遺構外出土土器 第V群B類土器

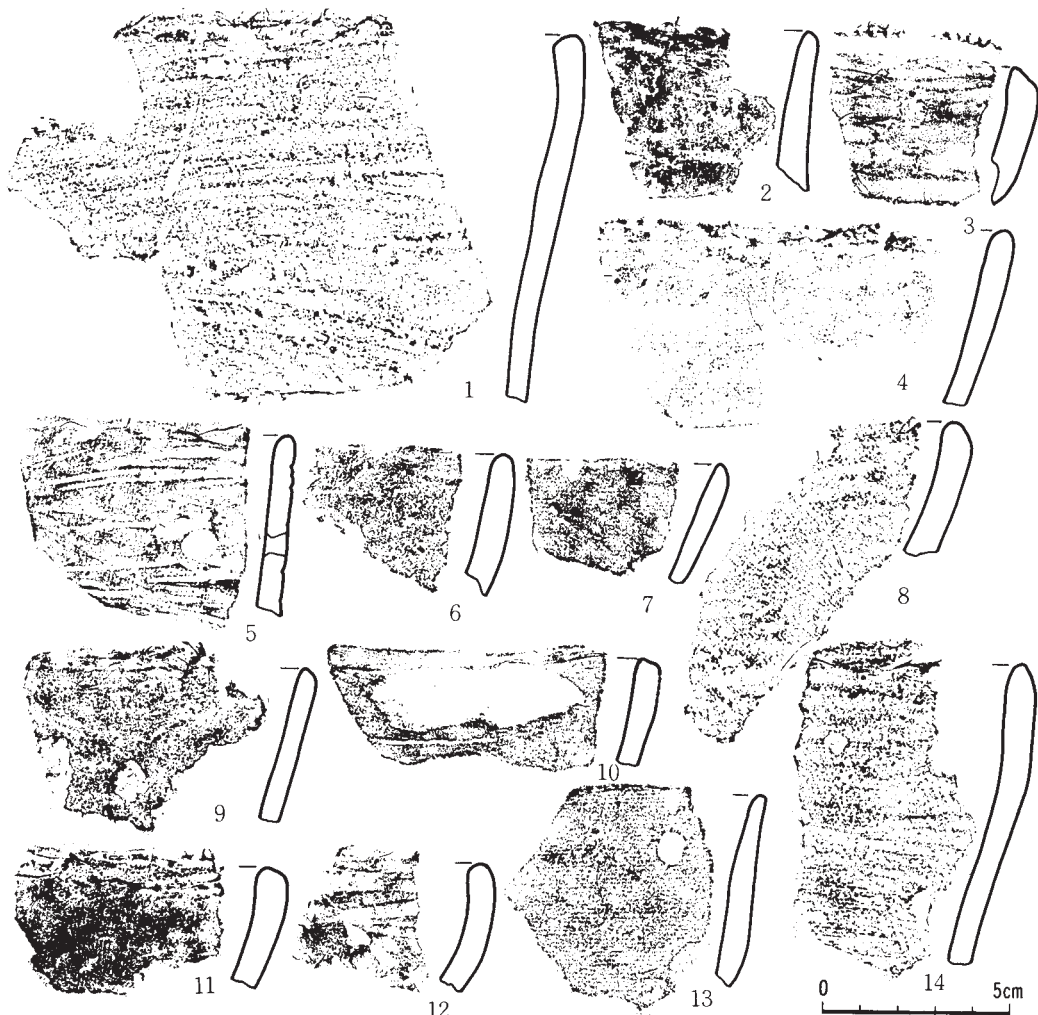


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-20 IV層	V群C類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		条痕	P 231
2	EN-21 IV層	V群C類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 199
3	EM-21 IV層	V群C類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 206
4	EI-24 IV上層	V群C類	口縁部	沈線文、刺突文、貝殻腹縁文		粗いなで	P 352
5	EM-23	V群C類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		条痕	P 183
6	EM-21 IV層	V群C類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		条痕	P 204
7	EL-24 IV層	V群C類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		粗いなで	P 205
8	EF-22 IIIb層	V群C類	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文、刺突文		粗いなで	P 354
9	EF-26 IV下層のF層	V群C類	口縁部	沈線文、刺突文		粗いなで	P 364

図130 遺構外出土土器 第V群C類

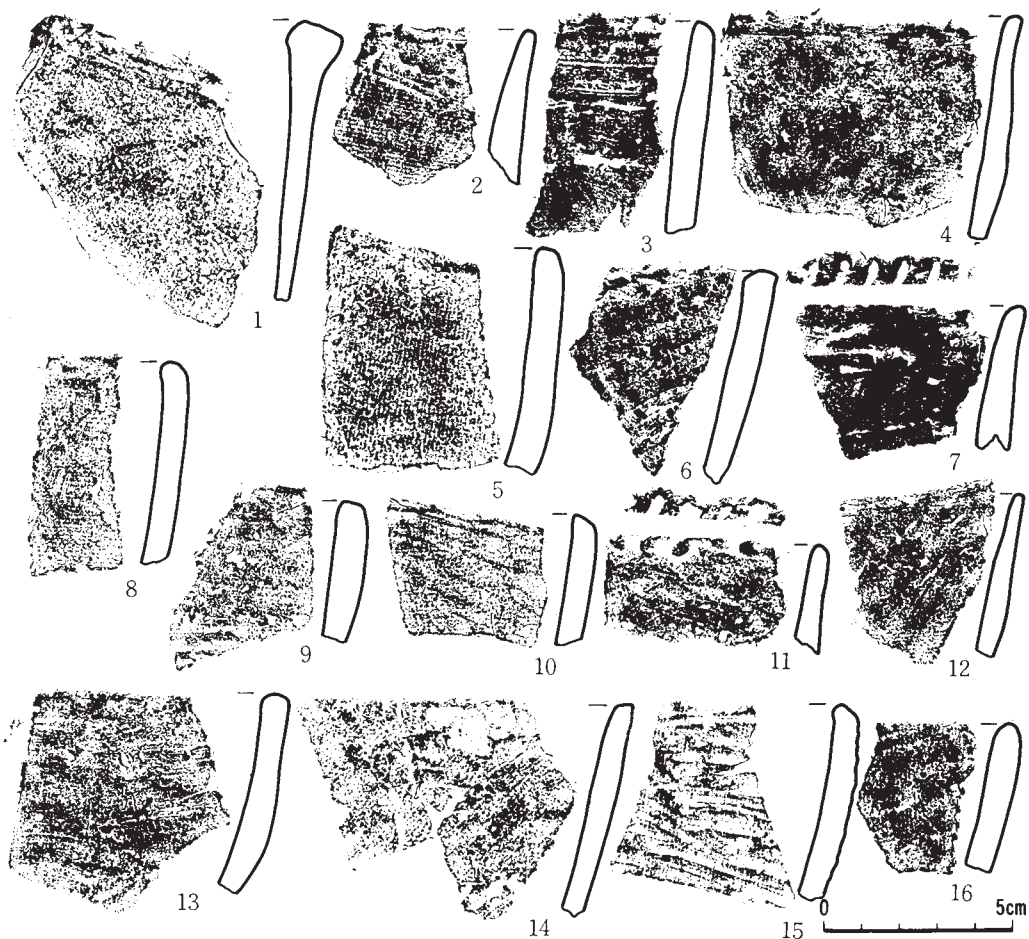




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-22 IV下層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 223
2	EF-21 IV下b層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 309
3	EL-20 II層	V群D類	口縁部	無文、口唇部刻目		みがき	P 136
4	FL-22 IV上層 EK-21 IV上層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 108
5	EK-20 IV下層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 357
6	EJ-22 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 142
7	EG-26 IV層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 140
8	EK-22 IV上層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 90
9	不明	V群D類	口縁部	無文		なで	P 391
10	EF-22 IV層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 180
11	EK-20 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 304
12	EK-20 IV下層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 334
13	EF-21 IV層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 133
14	EK-22 IV上層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 109

図131 遺構外出土土器 第V群D類土器



縄文土器観察表

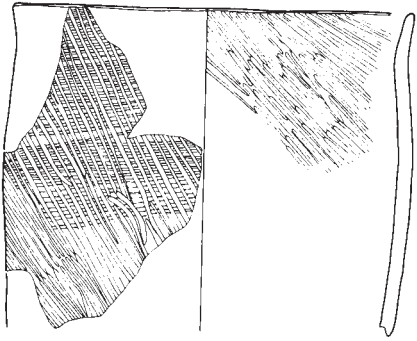
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-24 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 135
2	EG-21 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 138
3	EL-25 II層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 153
4	EI-20 IV層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 134
5	EK-15 不明	V群D類	口縁部	無文		なで	P 303
6	EJ-19 IV層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 152
7	EH-21 IV層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 207
8	EM-21 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 143
9	EK-23 IV層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 150
10	EK-25 II層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 147
11	EF-17 II層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 212
12	EJ-19 IV層	V群D類	口縁部	無文		なで	P 141
13	EF-26 IV層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 151
14	EJ-21 IV層	V群D類	口縁部	無文		粗いなで	P 188
15	EL-22 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 380
16	EN-20 IV層	V群D類	口縁部	無文		みがき	P 913

図132 遺構外出土土器 第V群D類土器

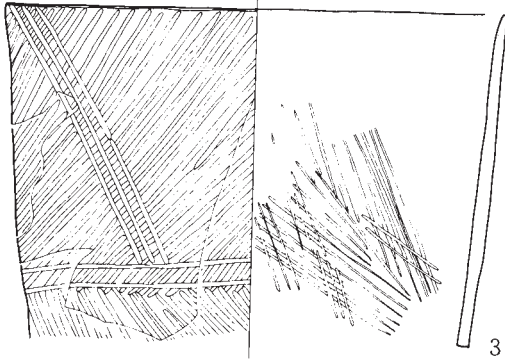




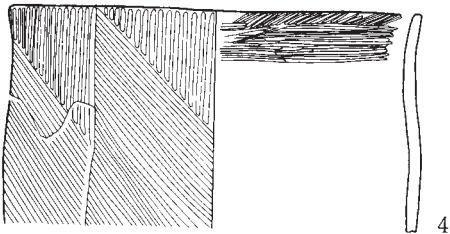
地区・層位：EM-18区 IV上、下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：21.8cm×(18.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P103、P104



地区・層位：EN-20区、IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：16.0cm×(12.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P836(外-242、外-243)



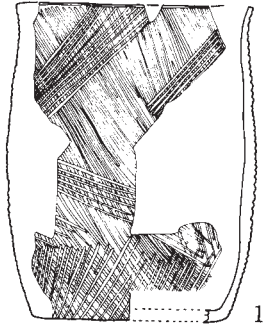
地区・層位：EL-19区、IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：20.0cm×(13.3)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P97



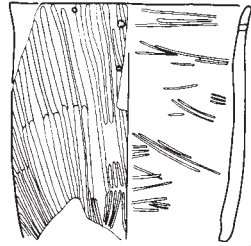
地区・層位：EF-25区 IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：16.5cm×(8.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P-括

0 10cm

図133 遺構外出土土器 第VI群土器

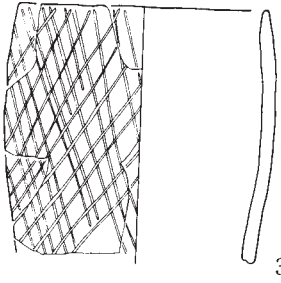


地区・層位：DQ-14  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：10.1cm×12.6cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P1001



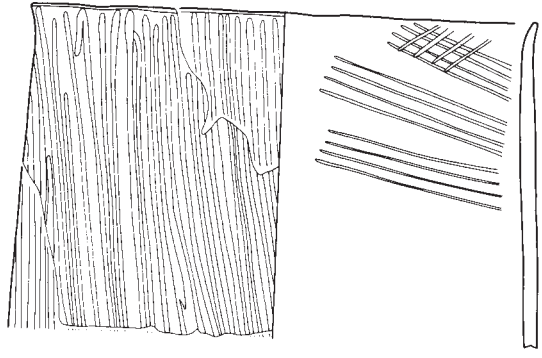
地区・層位：EG-22区 IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：9.7cm×(9.5)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P40

2



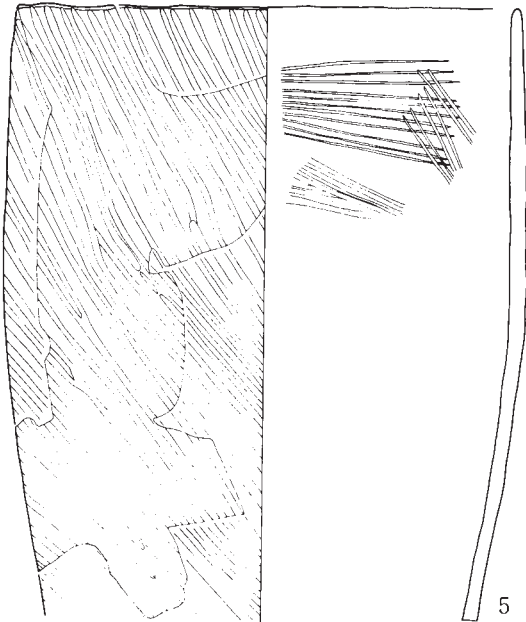
地区・層位：EF-11 IV層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：10.0cm×(10.1)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P1002

3



地区・層位：EL-19区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：20.2cm×(13.0)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P870

4

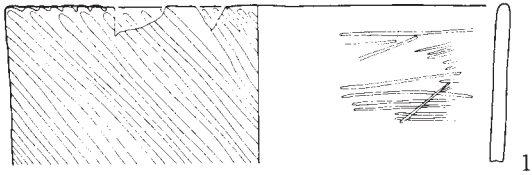


地区・層位：EH-19区  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：20.0cm×(24.9)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P49(外-148)

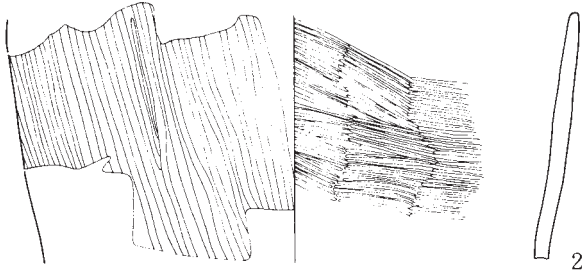
5



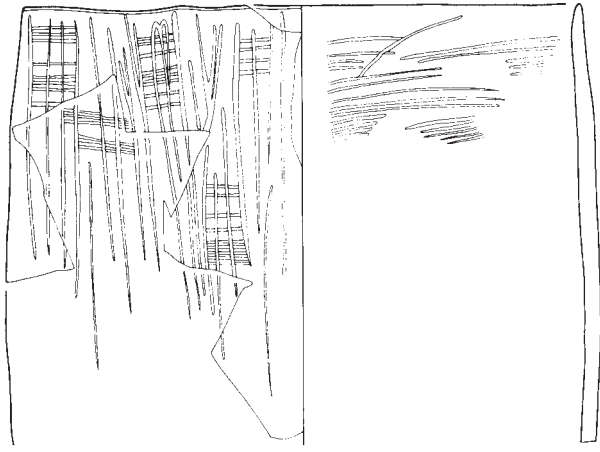
図134 遺構外出土土器 第VI群土器



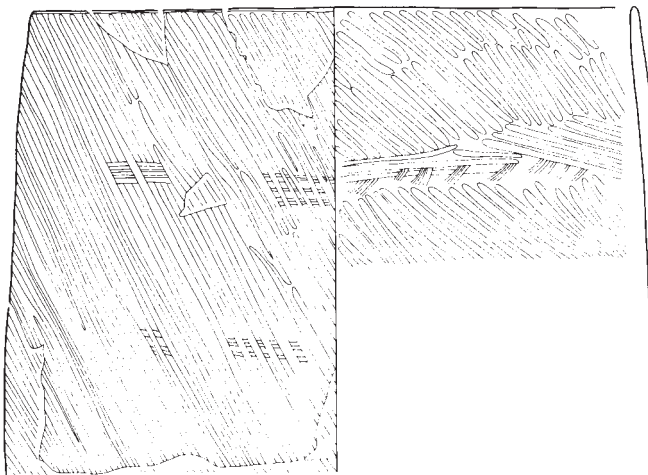
地区・層位：EE-21、22区 IV上、下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：20.0cm×(6.4)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：柔痕  
 登録：P2947、P2983



地区・層位：EG-18、17区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：22.7cm×(9.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：柔痕  
 登録：P498、P1048(外-152)



地区・層位：ED-24区 IV層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：22.2cm×(17.4)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：柔痕  
 登録：P2994 (E-101)



地区・層位：ED-21、EE-26区 IV上、下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：24.2cm×(18.5)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：柔痕  
 登録：P2886、P2976、P3124



図135 遺構外出土土器 第VI群土器

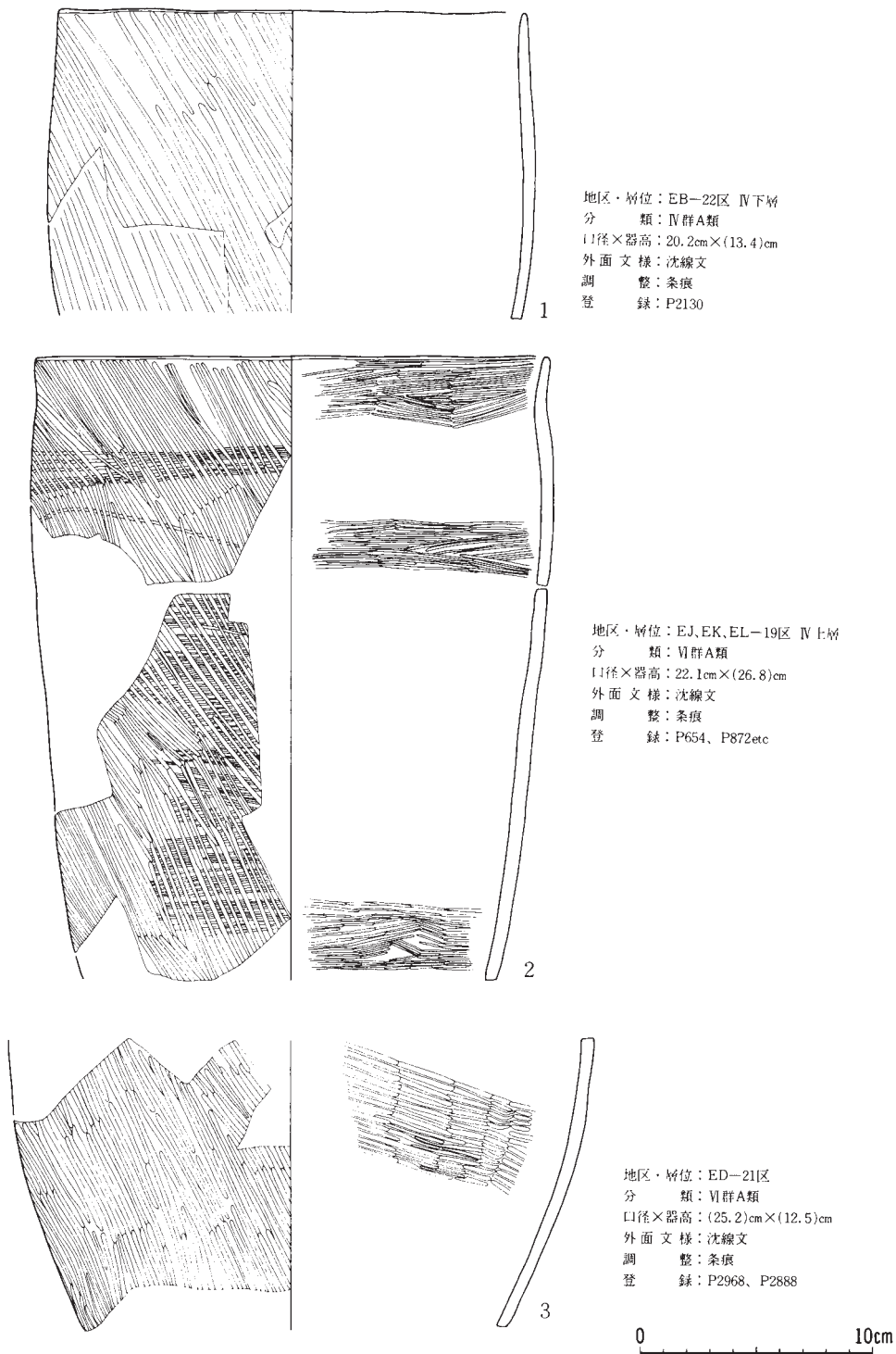
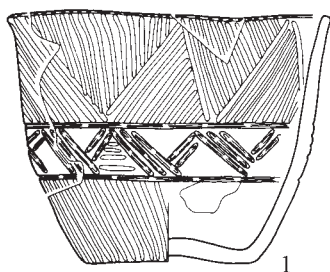
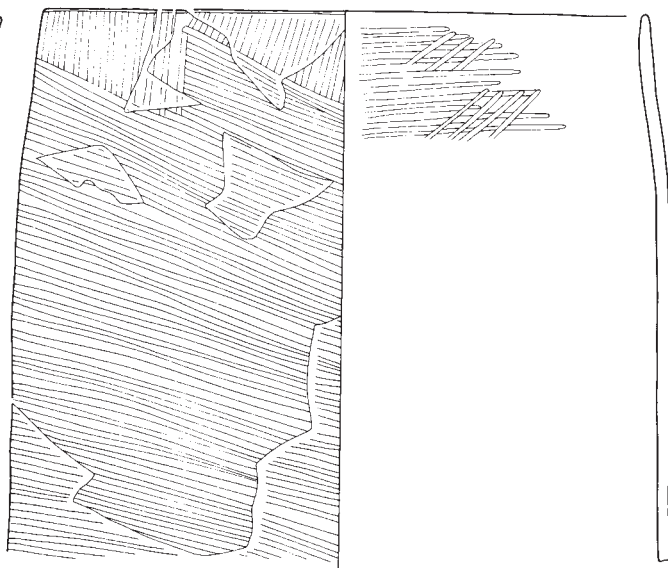


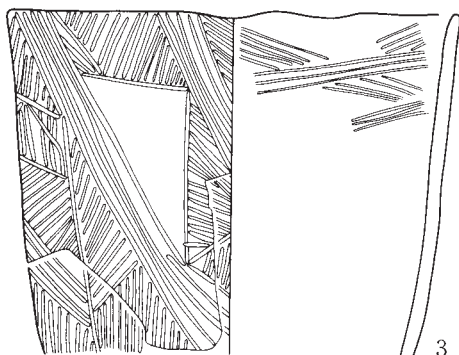
図136 遺構外出土土器 第Ⅵ群土器



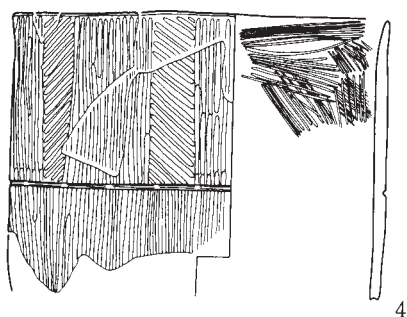
地区・層位：EL-17、19区 IV上、下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：12.9cm×10.1cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登錄：P 81、P 97 (外-271)



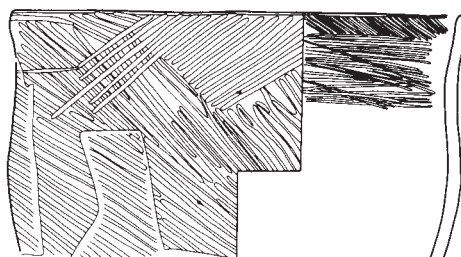
地区・層位：EH-19区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：24.2cm×(21.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登錄：P414



地区・層位：EN-20区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：18.0cm×(13.6)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登錄：P904、P917



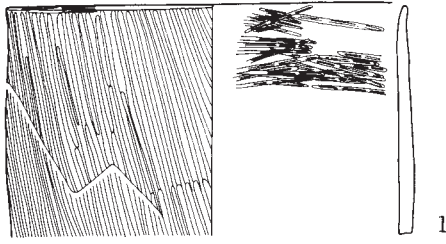
地区・層位：EH-19区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：15.0cm×(11.0)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登錄：P89 (外-191)



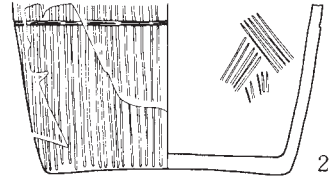
地区・層位：EJ-20区 IV層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：18.1cm×(9.6)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登錄：P502



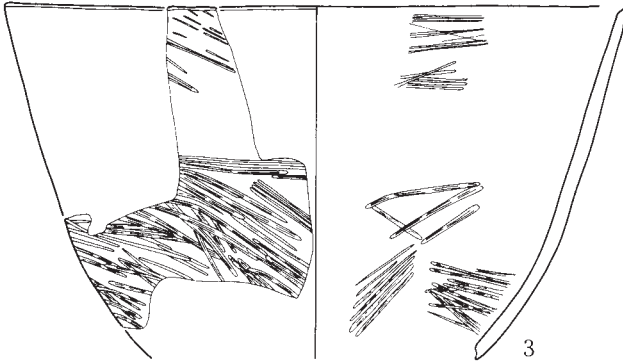
図137 遺構外出土土器 VI群土器



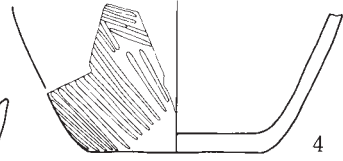
地区・層位：EL-19区 IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：16.0cm×(9.2)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P97



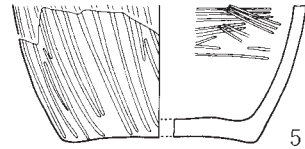
地区・層位：EG-22区 IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：(12.4)cm×(6.9)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P40



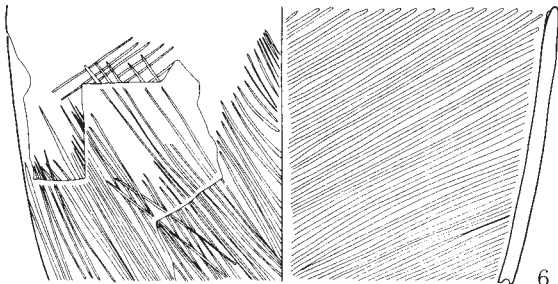
地区・層位：EB-24区 IV下層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：24.8cm×(14.0)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P2044



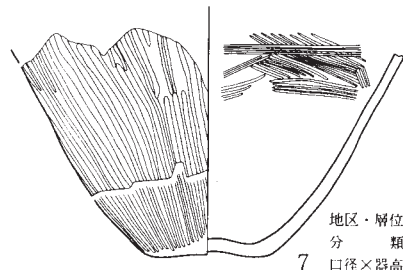
地区・層位：EJ-19区  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：(13.2)cm×(5.8)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P503



地区・層位：EJ、EK-20区 IV層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：(11.7)cm×(5.5)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P-括(外-162)



地区・層位：不明  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：(22.0)cm×(11.0)cm  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P501



地区・層位：EL-19区 IV上層  
 分類：VI群A類  
 口径×器高：(15.65cm)×(8.2cm)  
 外面文様：沈線文  
 調整：条痕  
 登録：P100、P771

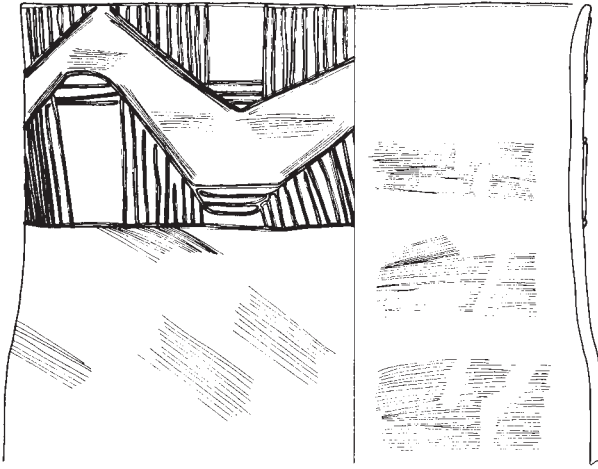


図138 遺構外出土土器 第VI群土器

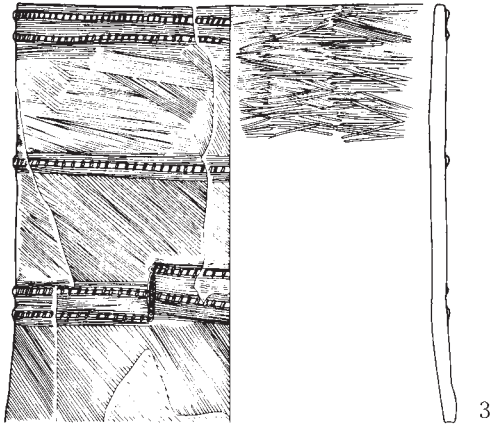




地区・層位：DQ-21区 IV層  
 分類：VI群D類  
 口徑×器高：18.6cm×(7.5)cm  
 外面文様：微隆起線文  
 調整：条痕  
 登録：P40



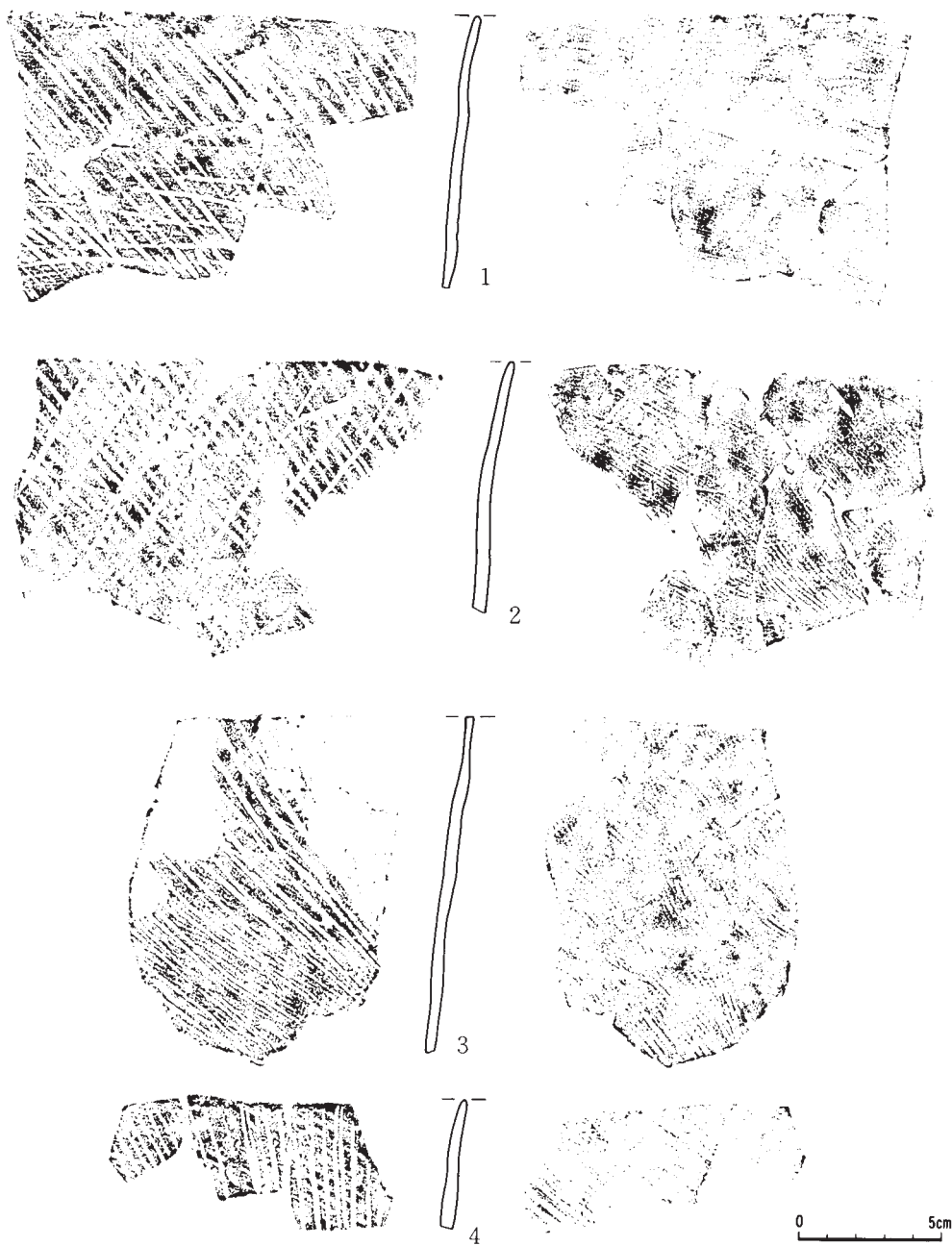
地区・層位：EK-22区 IV上層  
 分類：VI群D類  
 口徑×器高：22.8cm×(18.1)cm  
 外面文様：微隆起線文  
 調整：条痕  
 登録：P93



地区・層位：EM-21区 IV層  
 分類：VI群D類  
 口徑×器高：17.1cm×(16.6)cm  
 外面文様：細隆起線文  
 調整：条痕  
 登録：P2001

0 10cm

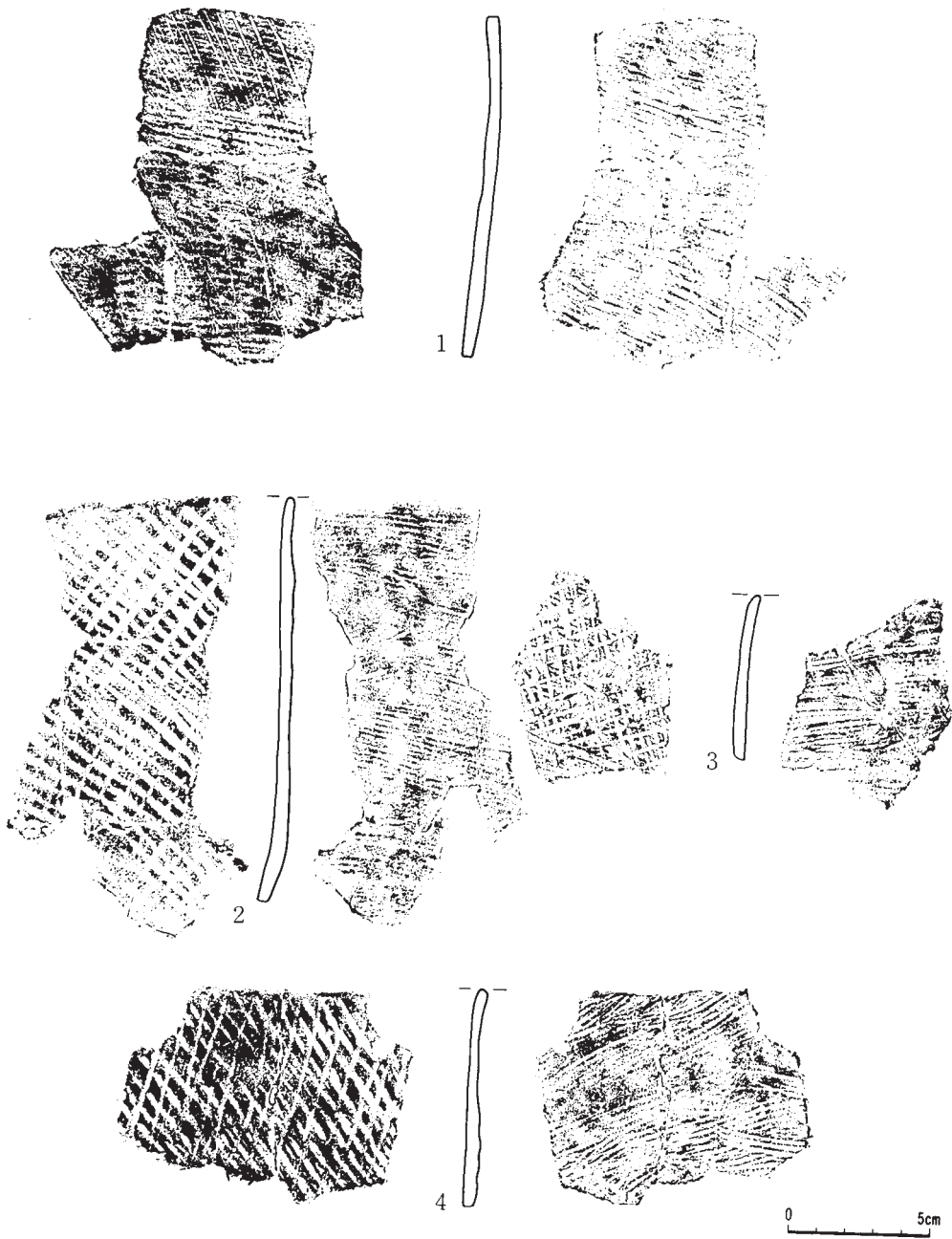
図139 遺構外出土土器 第VI群土器



繩文土器 觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EH-19 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 10
2	EN-22 IV上層 EN-20 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 1194
3	EK-19・20 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P一括
4	EN-21 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 9

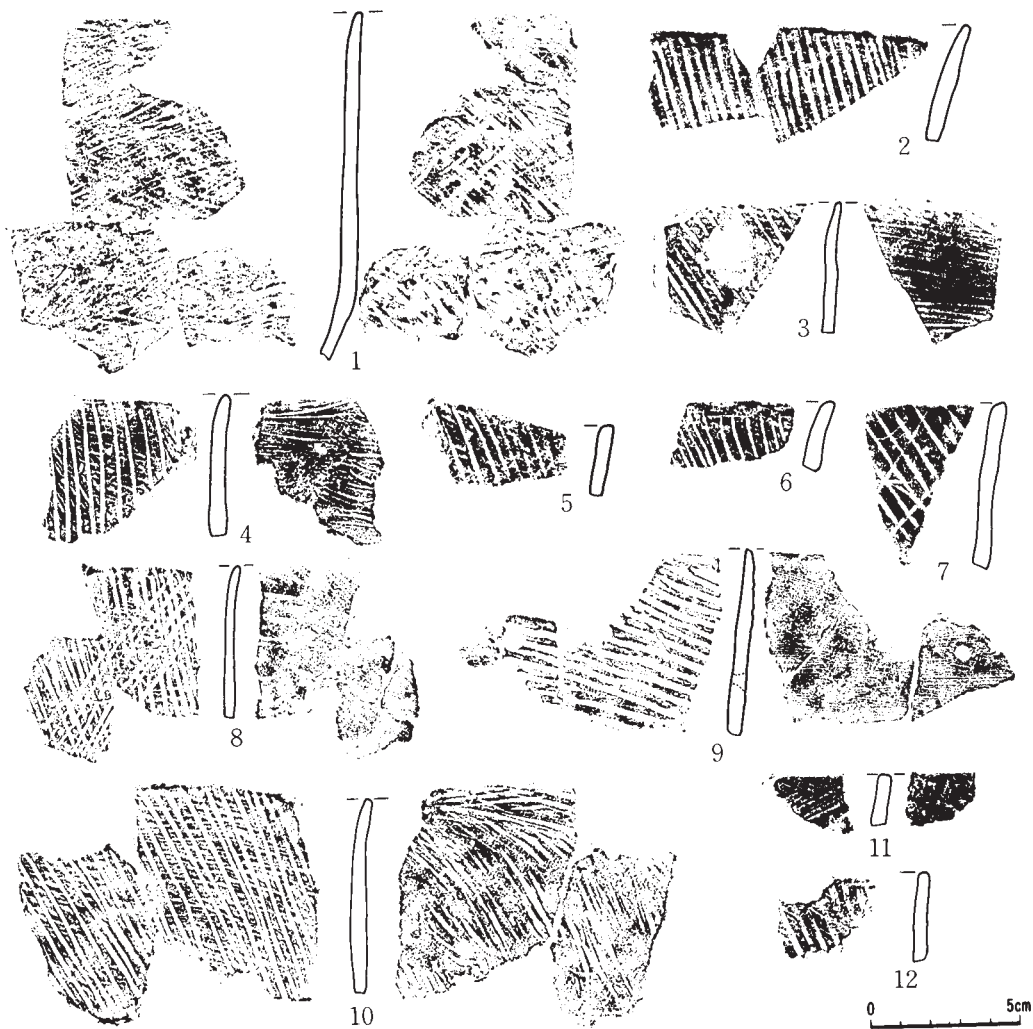
図140 遺構外出土土器 第VI群A,類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-21・22 IV 層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文		糸痕	P 3
2	EH-18 IV 層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		糸痕	P 457
3	ED-23 IV下層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		糸痕	P 2296
4	EF-22 IV 層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		糸痕	P 137

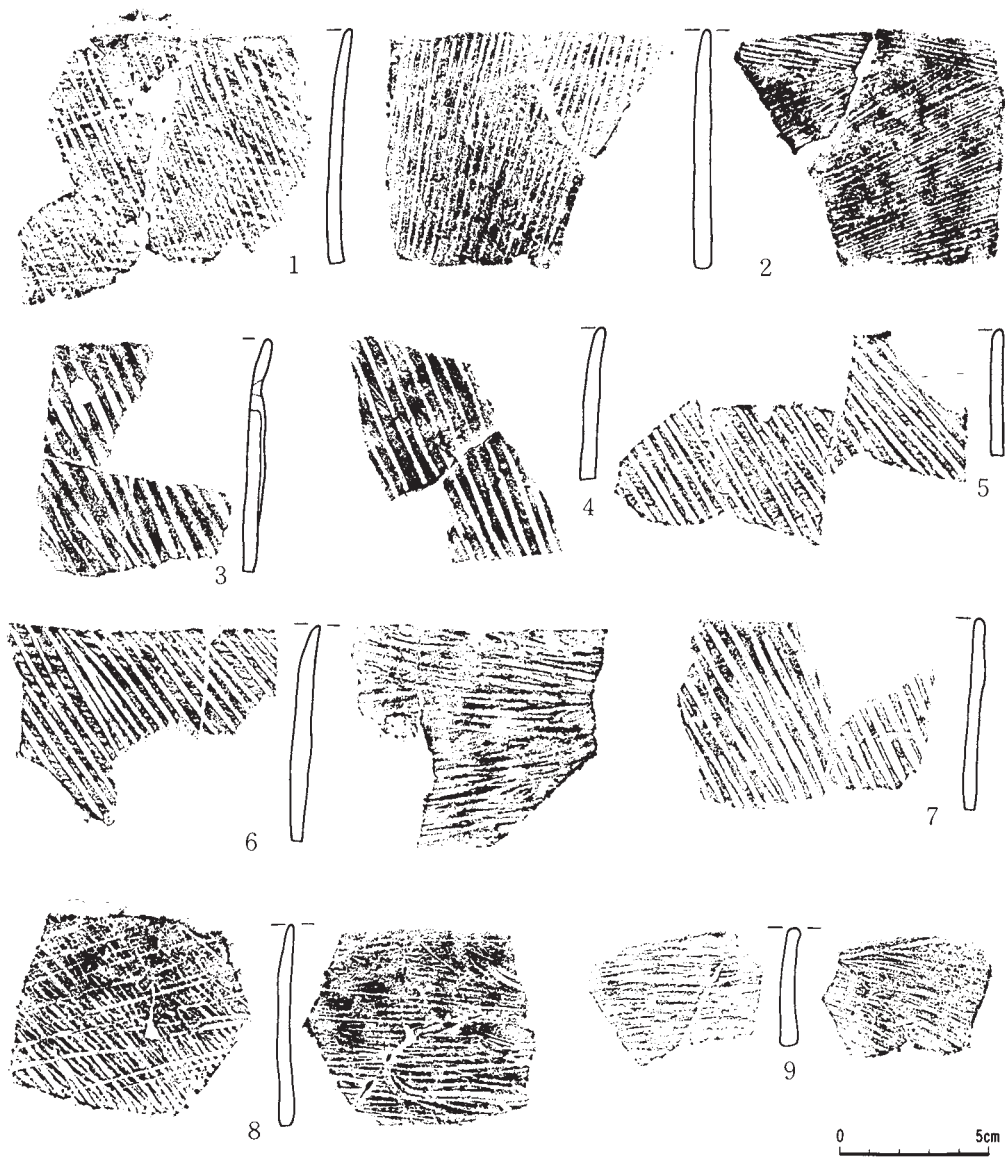
図141 遺構外出土土器 第VI群A<sub>1</sub>類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EG-18 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1047
2	EG-21 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 36
3	PM-23 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 39
4	EF-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 2001
5	EF・EK-25 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 9
6	EL-19 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 21
7	EF-26 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 15
8	EP・EK-15~27	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 2002
9	EG-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1108
10	EN-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 2003
11	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 2004
12	EL-21 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 2005

図142 遺構外出土土器 第VI群A<sub>1</sub>類土器

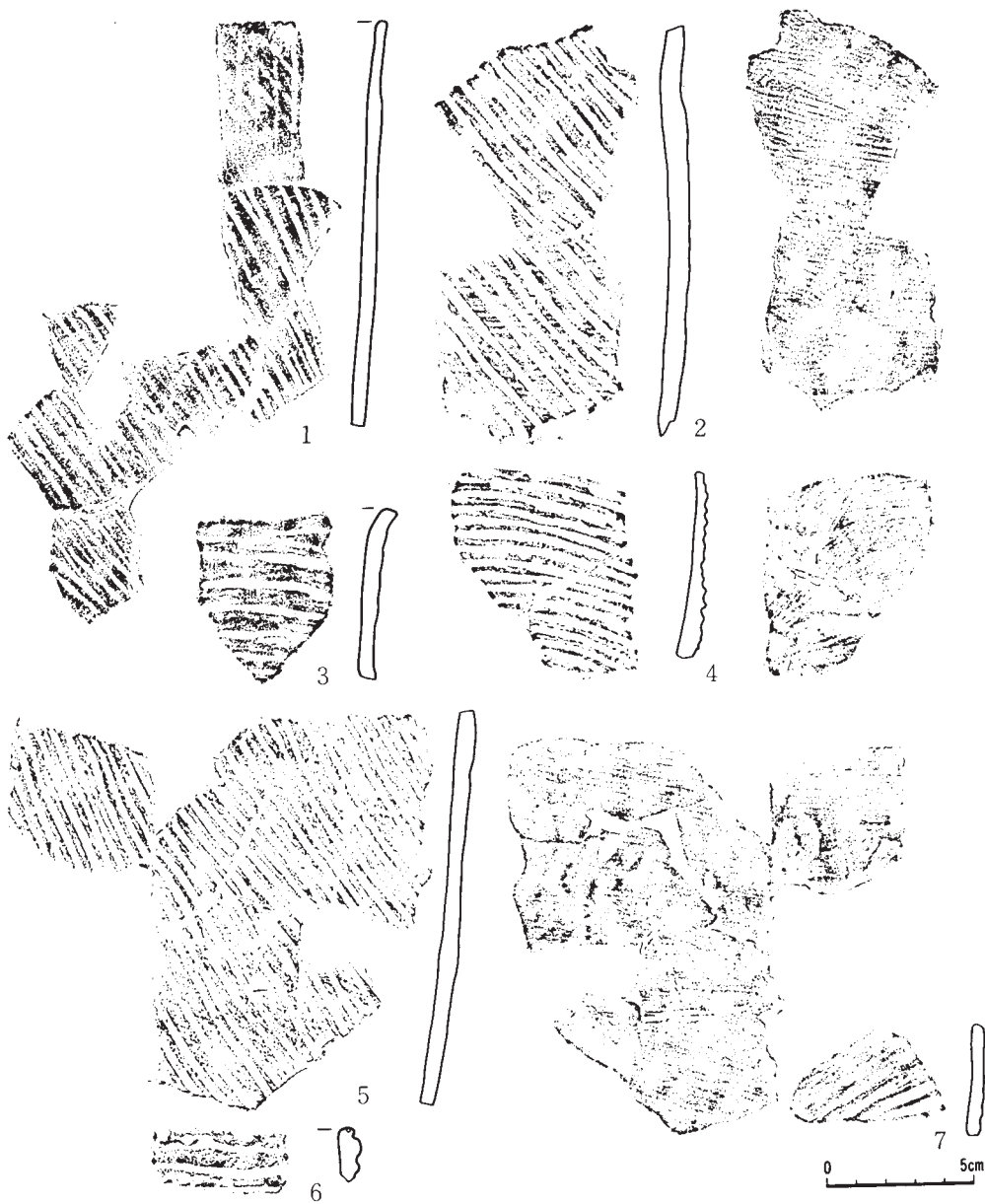


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EM-19 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 4
2	EJ-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P84
3	EH-23 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 8
4	EF・EK-15不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 5
5	EM-17 V層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 6
6	EL-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 7
7	DN-21 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P42
8	DT-27 不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 3
9	EL-23 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 2006

図143 遺構外出土土器 第VI群 A<sub>1</sub>類土器



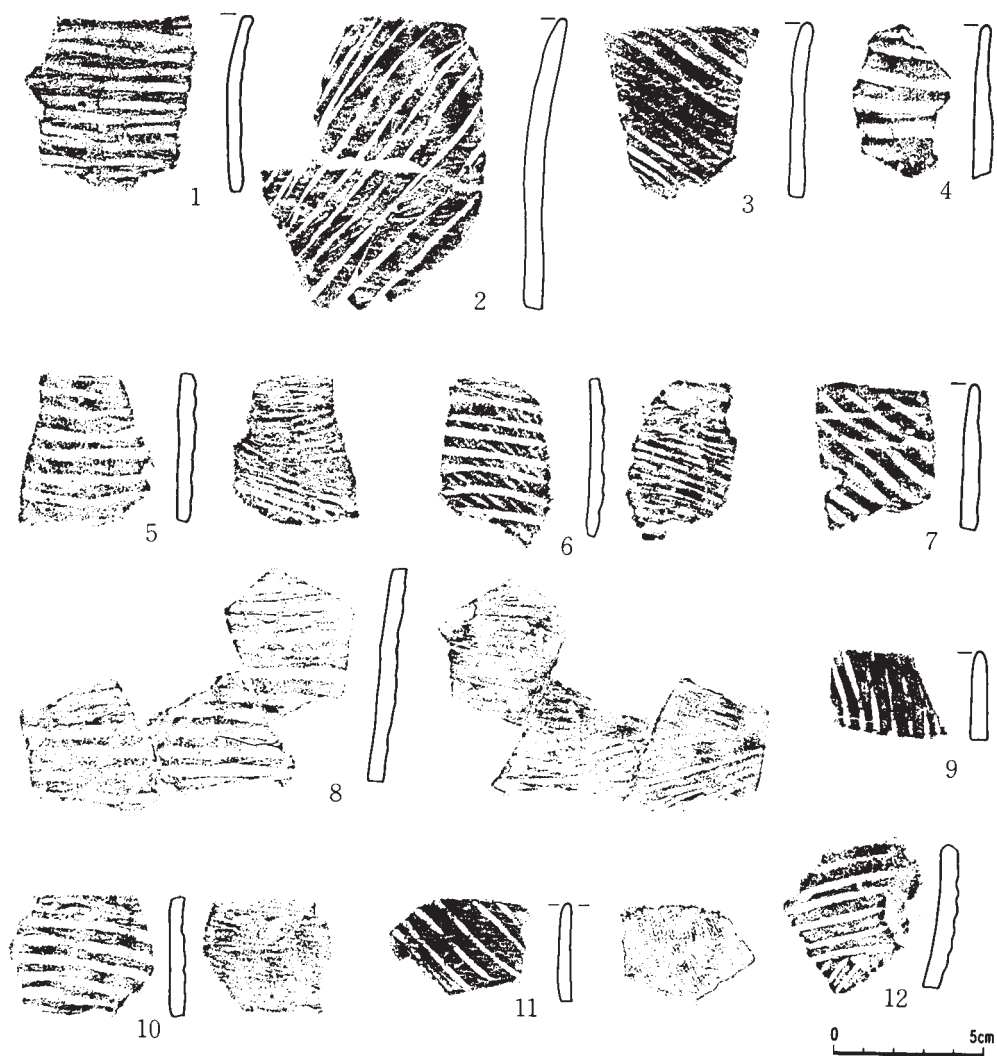


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面	文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-19 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 23
2	EG-26 IV上層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 183
3	EF-21 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 8
4	EJ-20 IV下層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 339
5	EE-21 EE-21 IV上層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 24
6	不明	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 2861
7	EJ-21 IV層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 83

図144 遺構外出土土器 第VI群A,類土器





繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-24 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 9
2	EF-20 IV層 EF-19 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 624 P 568
3	EF-19 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 595
4	EE-19 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 5721
5	包A-6 IVb層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 69
6	EM-19 II層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 2
7	EM-19 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 307
8	EF-19 IV上層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 586
9	EO <sup>15</sup> ~FO <sup>17</sup> 不明	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 51
10	EF-22 IIIb層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 12
11	DP-19 IV層一括	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 52
12	Pa-71 IV層	VI群A,類	体部	沈線文		条痕	P 11

図145 遺構外出土土器 第VI群土器

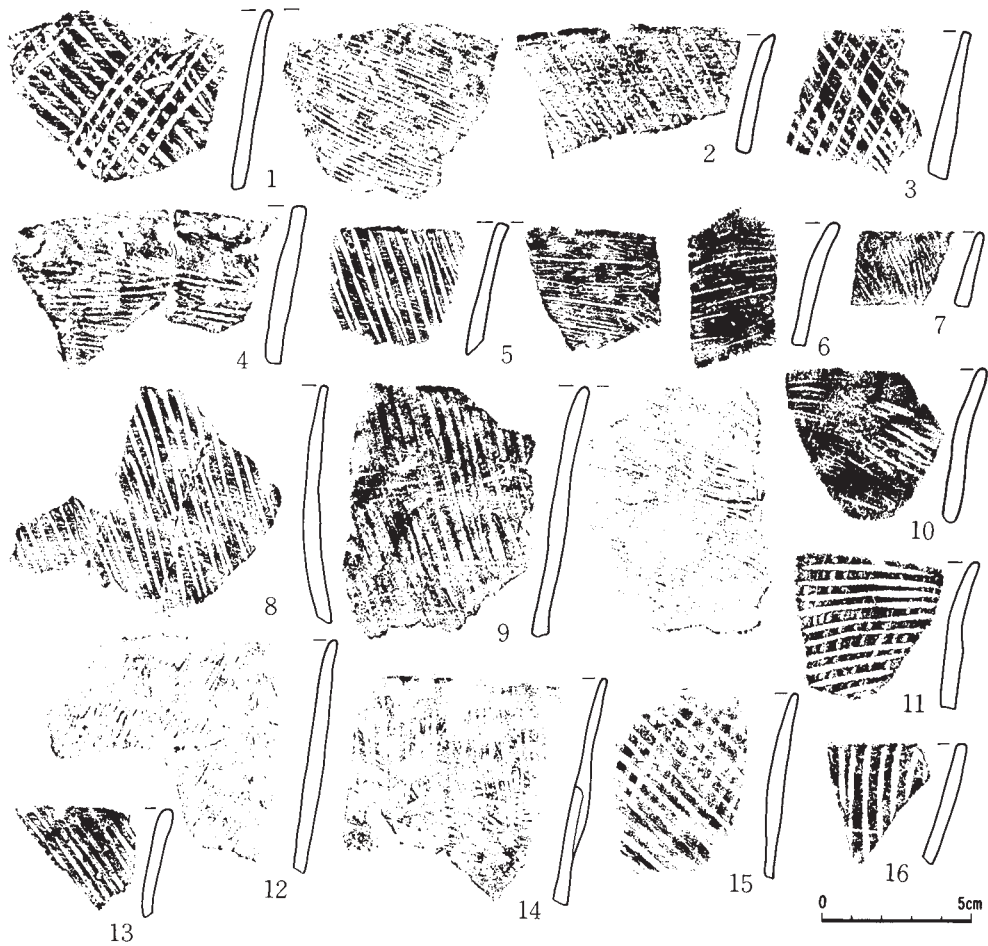
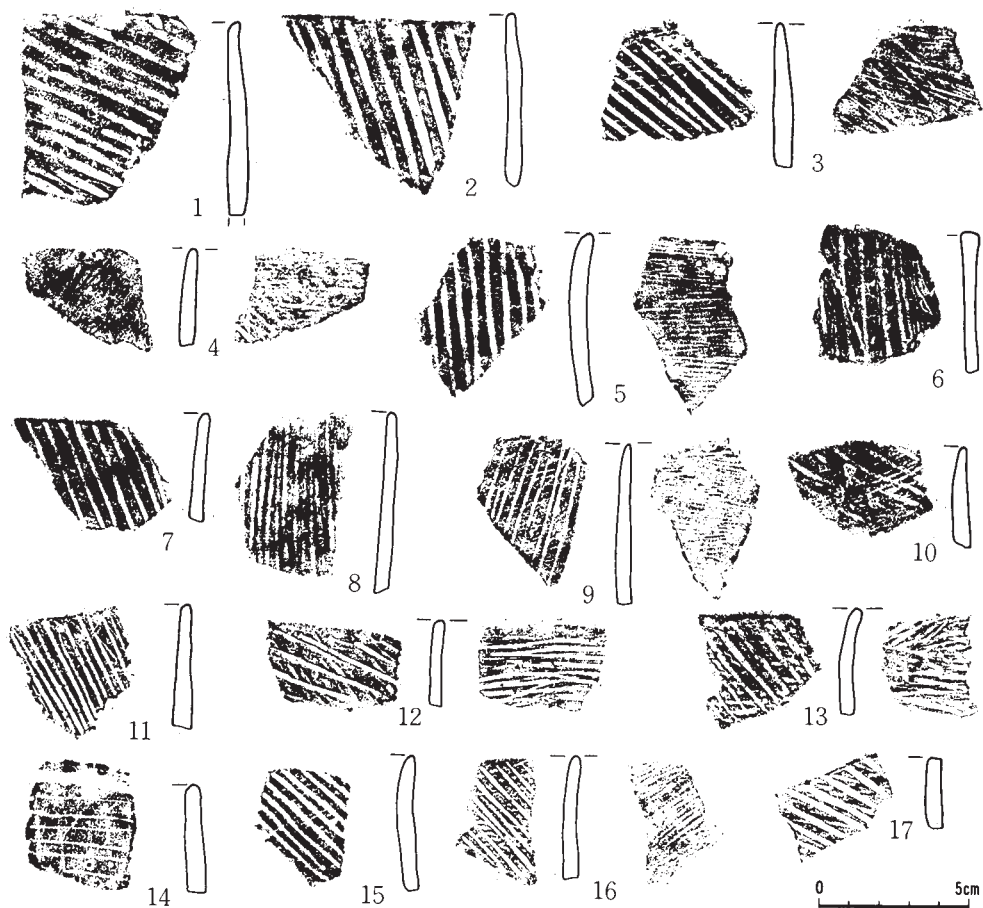


図146

縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-26 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	
2	EK-22~24 不明	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P一括
3	EN-9 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 53
4	EM-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 8
5	EH-20 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 10
6	EE-22 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 54
7	EG-18 IV下層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 1099
8	EM-17 II層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 6
9	EJ-19 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 35
10	EL-22 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 55
11	EN-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 56
12	EG-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 536
13	EK-20 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 57
14	EF-26 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 14
15	EM-23 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 58
16	EF-22 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 59

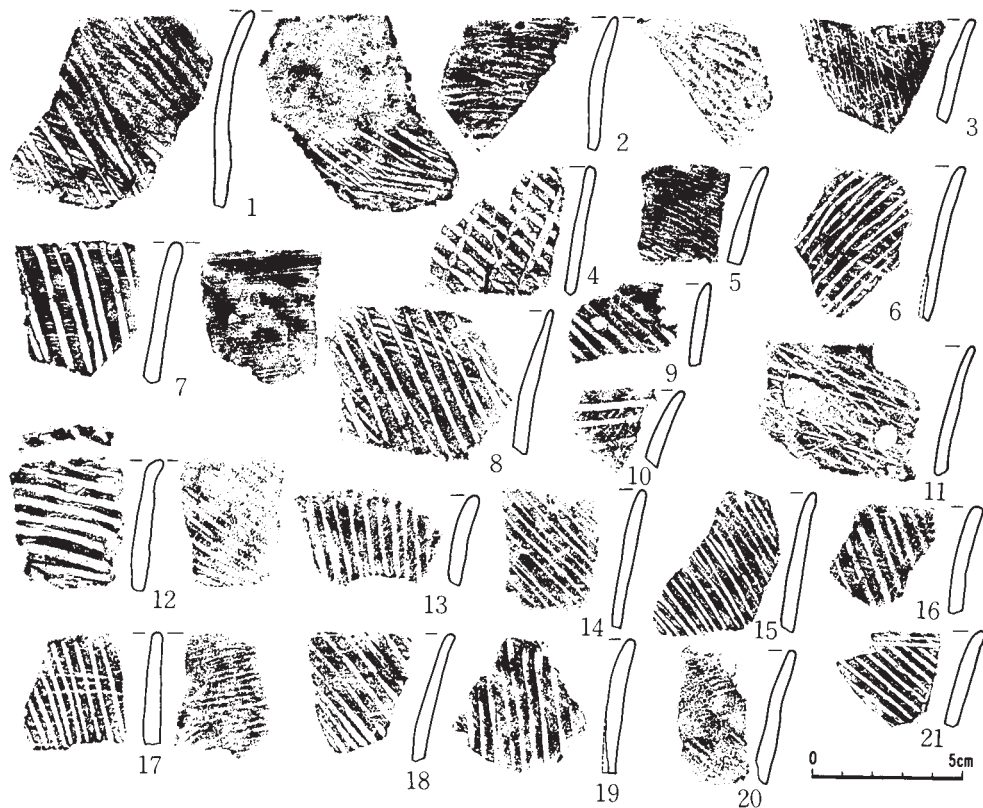
図146 遺構外出土土器 第Ⅵ群A<sub>1</sub>類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EN-22 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 55
2	EM-17 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 124
3	表採	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 75
4	EK-20 IV下層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 65
5	EM-17 II層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 91
6	EF-21 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 36
7	EM-17 II層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 44
8	EN-22 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 87
9	EK-20 II層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 69
10	包A-7 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 586
11	EL-22 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 49
12	EF-19 IV上層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 590
13	EF-21 IV下層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 38
14	EF-22 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 115
15	EF-22 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 60
16	EG-21 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 86
17	EL-21 IV層	VI群A,類	口縁部	沈線文		条痕	P 21

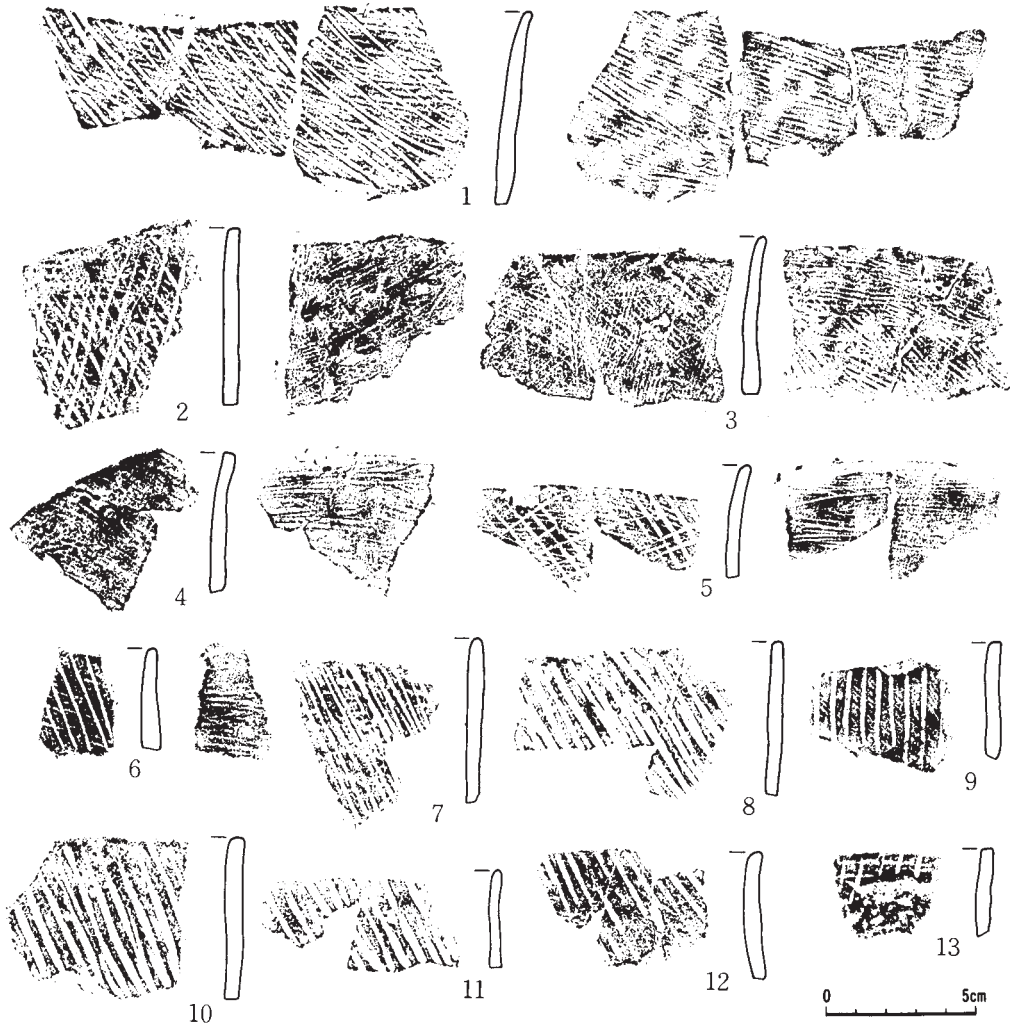
図147 遺構外出土土器 第VI群A,類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1093
2	EF-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 579
3	EL-21 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 121
4	EL-25 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 101
5	EH-18 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1032
6	EL-20 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 116
7	ER-22 I層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 31
8	EL-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 80
9	EJ-20 IV下層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 308
10	EG-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 509
11	EH-18 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 436
12	EN-20 不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1160
13	EF-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 59
14	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 82
15	EJ-20 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 39
16	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 32
17	EN-21 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 48
18	EJ-19 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 33
19	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 12
20	EL-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 885
21	EG-18 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 525

図148 遺構外出土土器 第VI群A<sub>1</sub>類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-22 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 31
2	EL-20 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 727
3	EK-20 II層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 71
4	EG-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 108
5	EL-20 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 228
6	EM-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 19
7	EG-20・21 一括	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 18
8	EH-19 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 319
9	EF-25 NF上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 72
10	EK-20 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 13
11	EK-22 I層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 41
12	EJ-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 73
13	EN-20 II層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 74

図149 遺構外出土土器 第Ⅵ群A<sub>1</sub>類土器



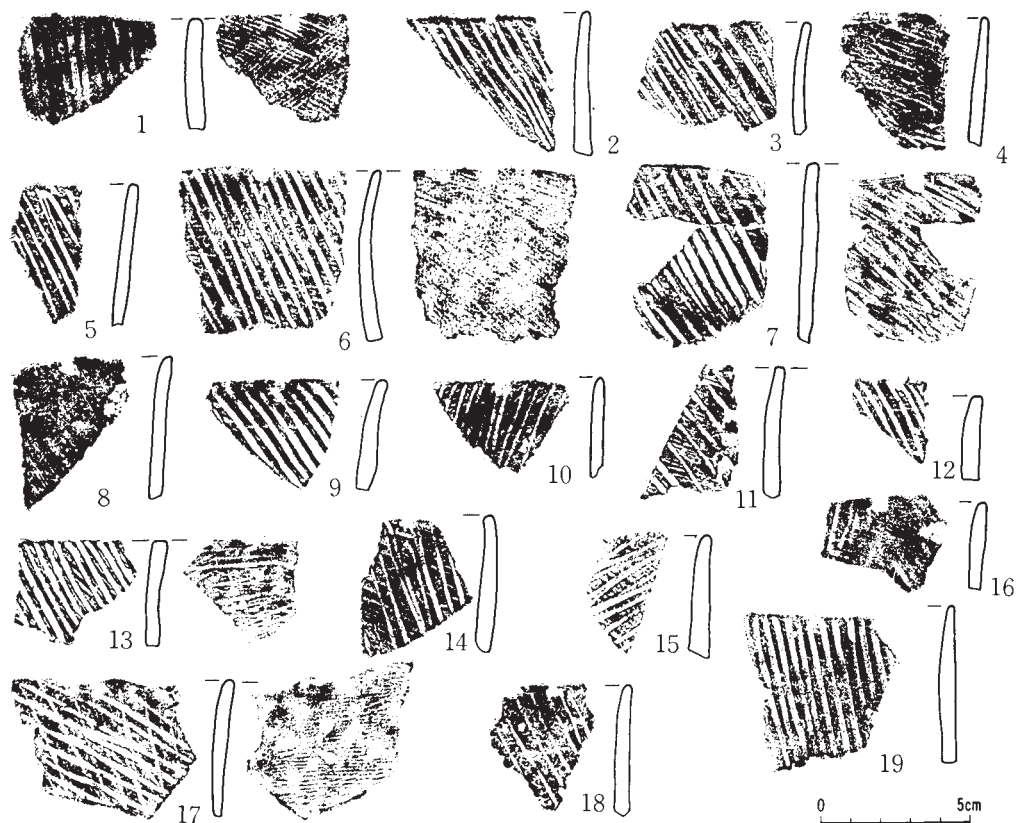


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-26 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 20
2	EF-20 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 3
3	包A-7 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 54
4	EM-20 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 949
5	EF-18 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 1119
6	EG-21 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 14
7	EM-17 V層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 15
8	EM-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 1217

図150 遺構外出土土器 第VI群A<sub>1</sub>類土器

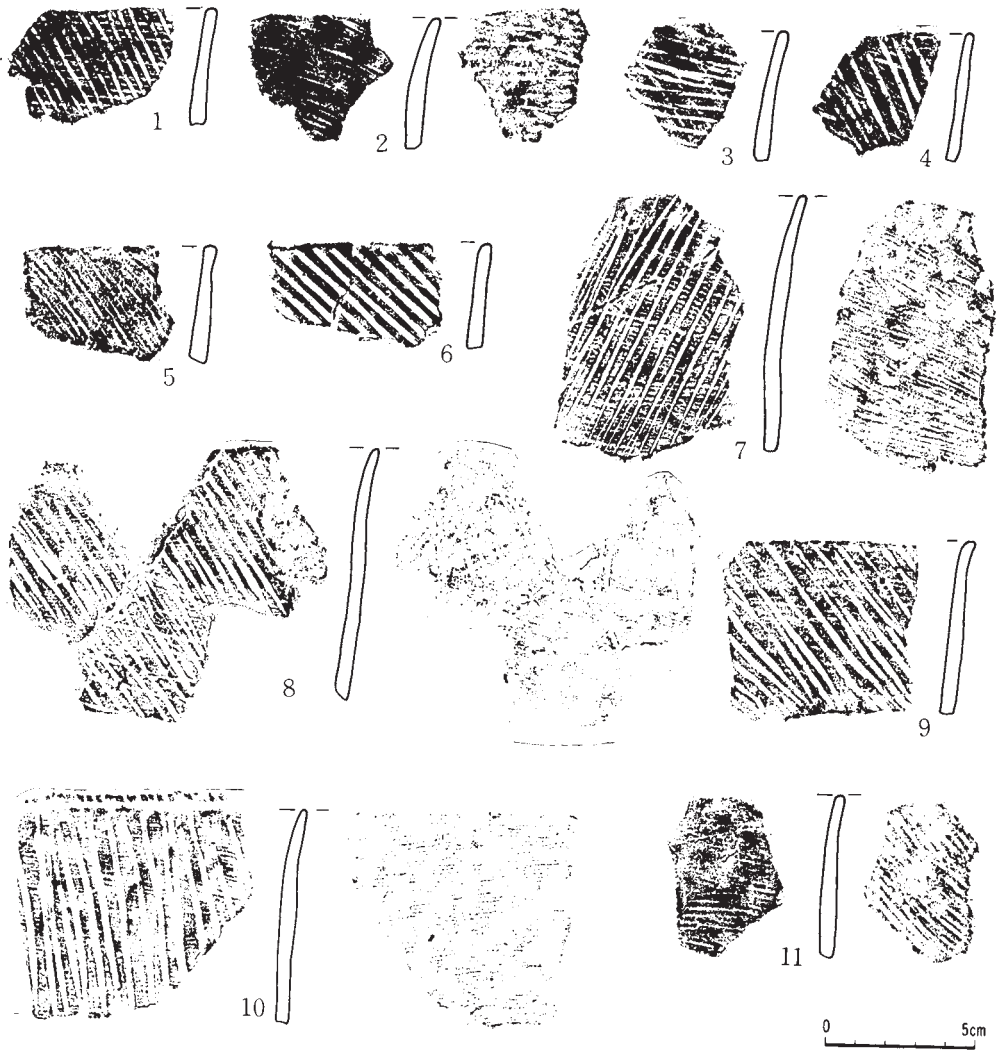




繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-20 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 16
2	EM-20 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 752
3	EM-17 II層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 111
4	EH-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 457
5	EL-21 IV下層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 275
6	EM-19 II層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 11
7	EI-19 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 76
8	EJ-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 57
9	EF-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 1081
10	EK-20 IV下層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 60
11	EF-22 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 109
12	EI-19 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 94
13	EJ-19 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 95
14	EM-21 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 20
15	包A-5 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 71
16	表採	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 50
17	EI-19 IV層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 77
18	不明	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 24
19	EG-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 520

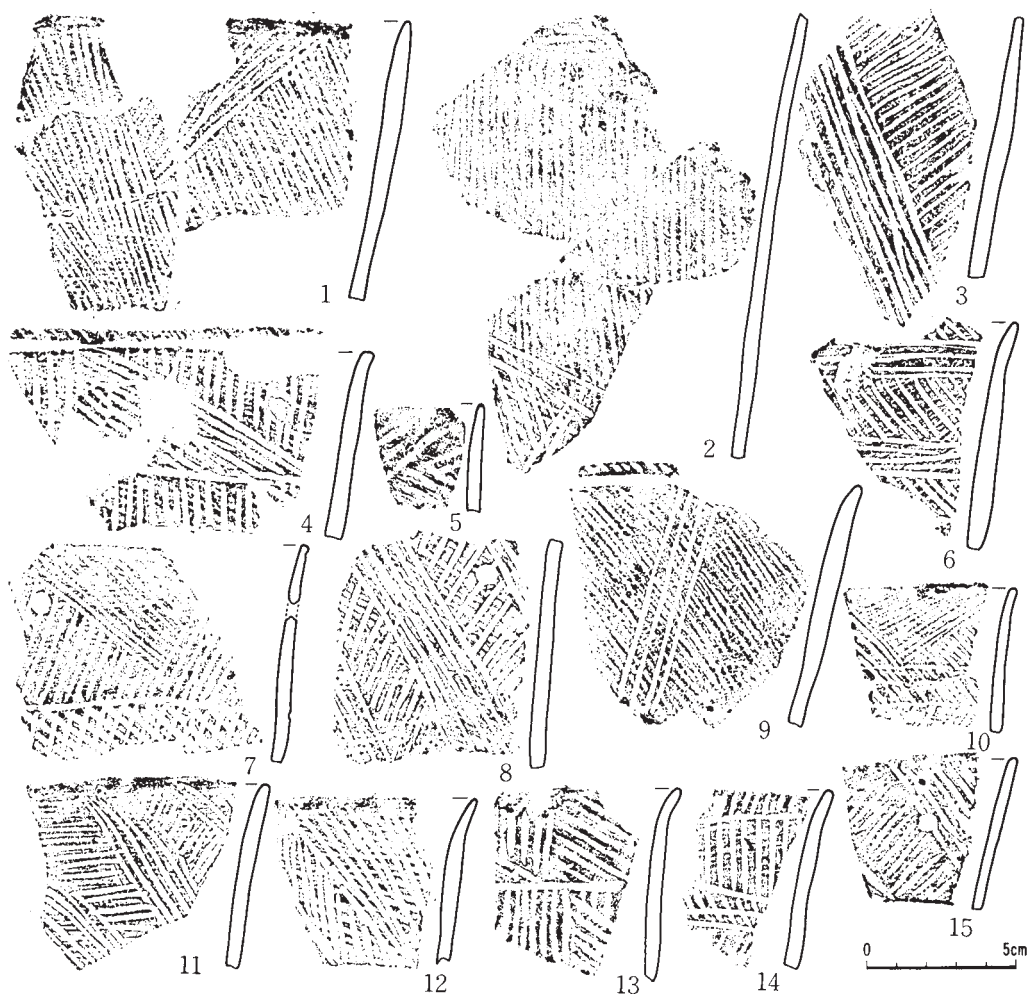
図151 遺構外出土土器 第Ⅵ群A<sub>1</sub>類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EG-22 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 136
2	EM-19 II層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 71
3	EG-26 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 45
4	EM-23	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 86
5	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 108
6	EF-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 119
7	EJ-19 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 72
8	EF-19 IV上層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 419
9	不明	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 46
10	EF-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 36
11	EL-22 IV層	VI群A <sub>1</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 53

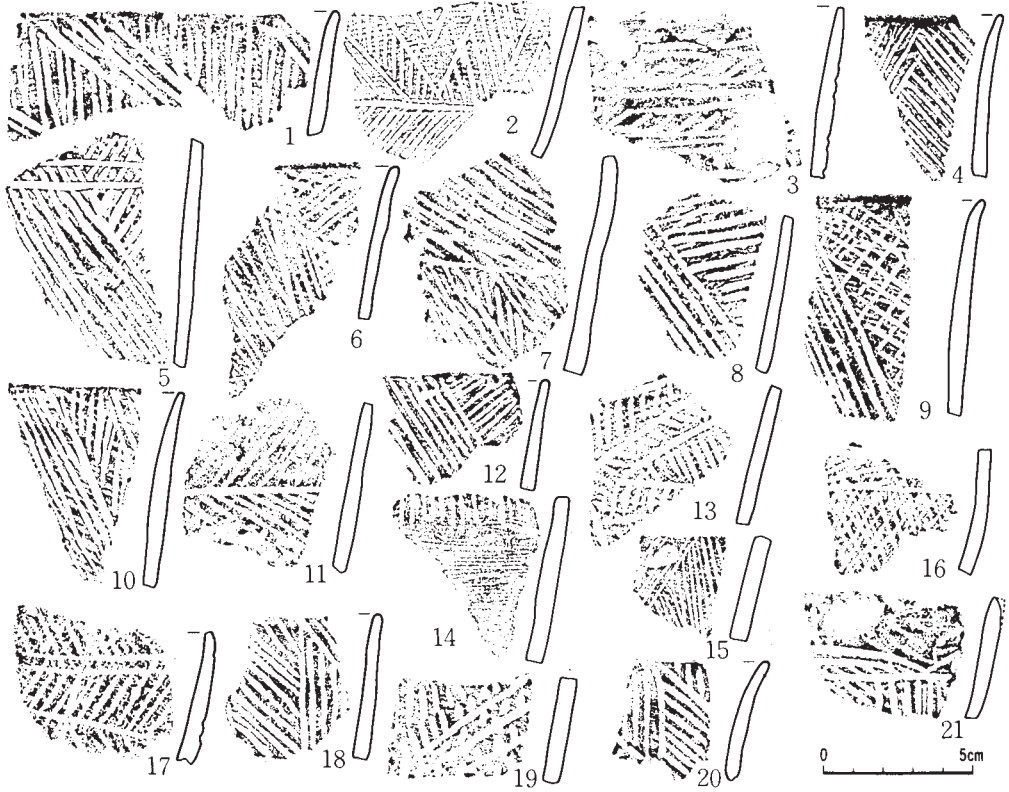
図152 遺構外出土土器 第VI群A<sub>1</sub>類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-19 IV上層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 807
2	EE-27 IV下層	VI群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文		条痕	P 2935
3	EG 不明	VI群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文		条痕	P 11
4	EJ-22 IV下層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 13
5	EI-20 IV下層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 295
6	EK-16 IV層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 5
7	EG-18 IV上層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 529
8	EK-15 IV層	VI群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文		条痕	P 15
9	不明	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 6
10	EL-24 II層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 27
11	EH-25 IV層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 9
12	EG-18 IV層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 2
13	EN-22 II層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 16
14	EI-23 IV層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 22
15	EI-20 IV下層	VI群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文		条痕	P 284

図153 遺構外出土土器 第VI群A<sub>2</sub>類土器

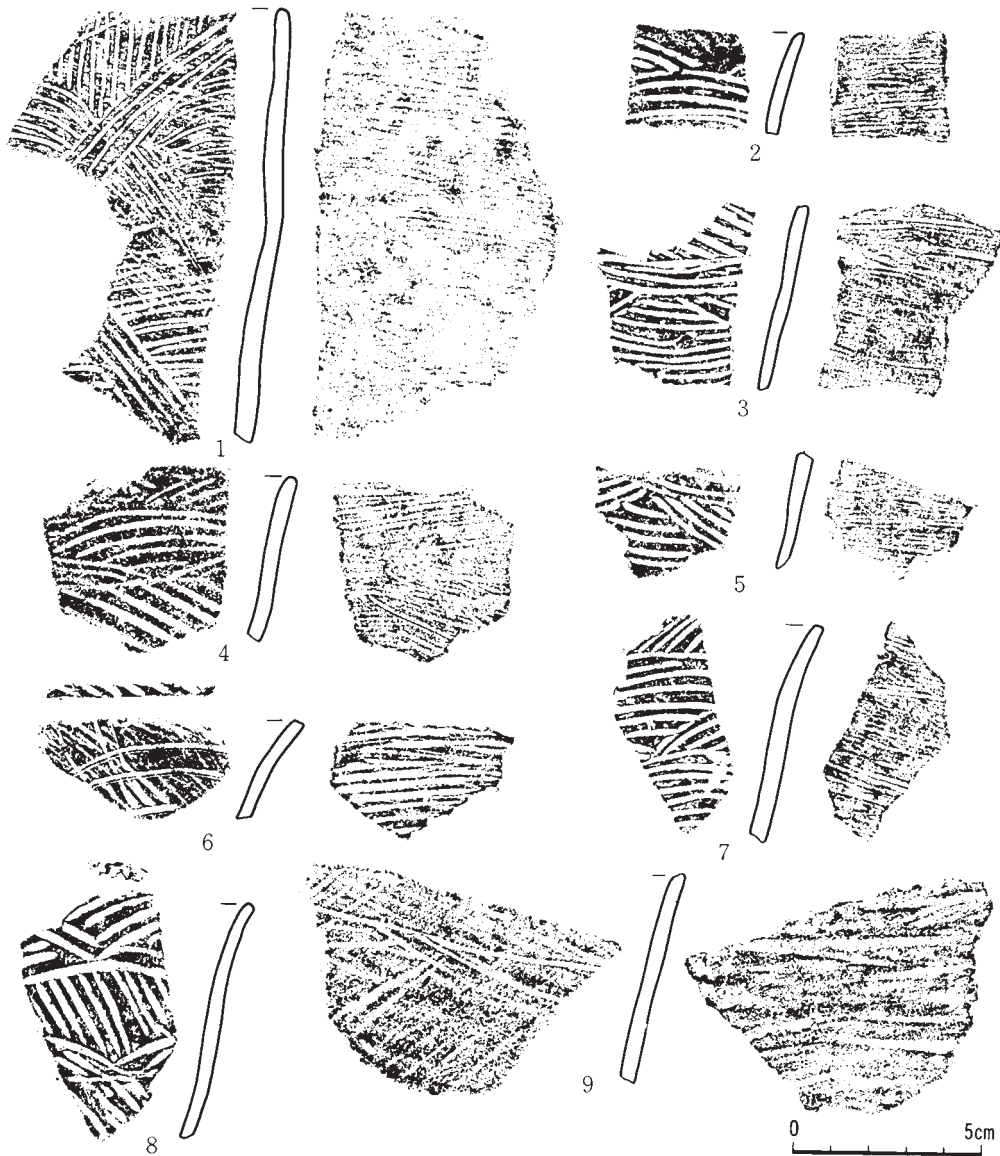


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-19 IV上層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 823
2	EL-20 IV上層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 819
3	EF-26 IV下層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 13
4	EK-15 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 8
5	不明	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 7
6	EJ-19 IV下層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 348
7	EK-16 IV上層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 1016
8	EI-20 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 1
9	EI-20 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 3
10	EF-20 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 23
11	EF-18 IV上層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 548
12	EM-18 II層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 20
13	EI-23 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 33
14	EJ-19 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 18
15	不明	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 26
16	EF-25 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 32
17	EJ-21 IV上層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 43
18	EL-21 III層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 21
19	EF-15	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 25
20	EI-22 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	口縁部	沈線文	条痕	P 17
21	EN-21 IV層	Ⅵ群A <sub>2</sub> 類	体部	沈線文	条痕	P 31

図154 遺構外出土土器 第Ⅵ群A<sub>2</sub>類土器

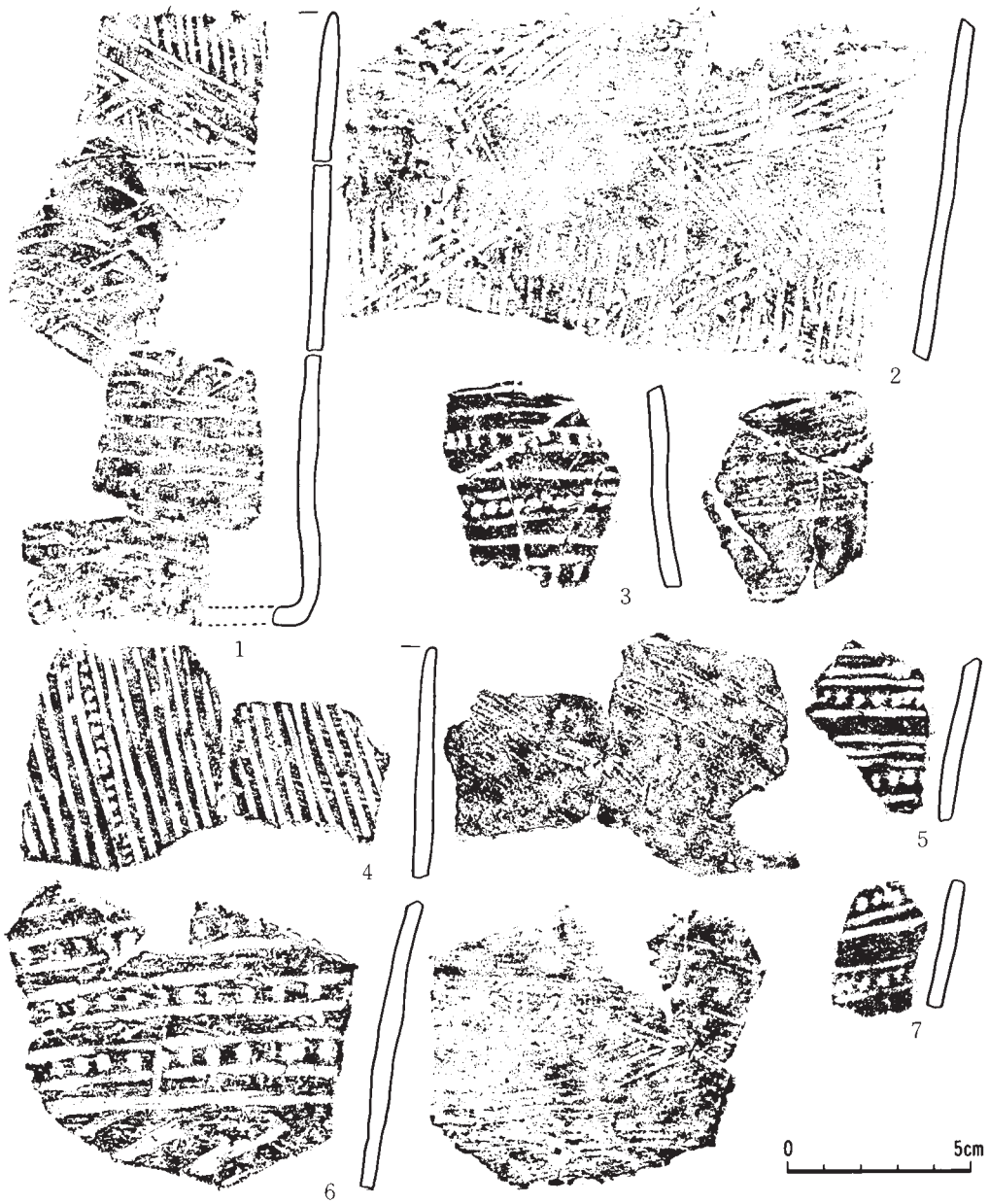




繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-19 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 201
2	EM-21 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 202
3	EM-17 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	体部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 203
4	EF-25 IV下層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 204
5	EH-22 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	体部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 205
6	EN-21 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)、口唇部刻目	粗い条痕	P 206
7	EF-21 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)	条痕	P 207
8	EN-21 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)	指頭押痕	P 208
9	EF-19 IV層	VI群A <sub>3</sub> 類	口縁部	沈線文(直線・弧状)、条痕文	粗い条痕	P 209

図155 遺構外出土土器 第VI群A<sub>3</sub>類土器

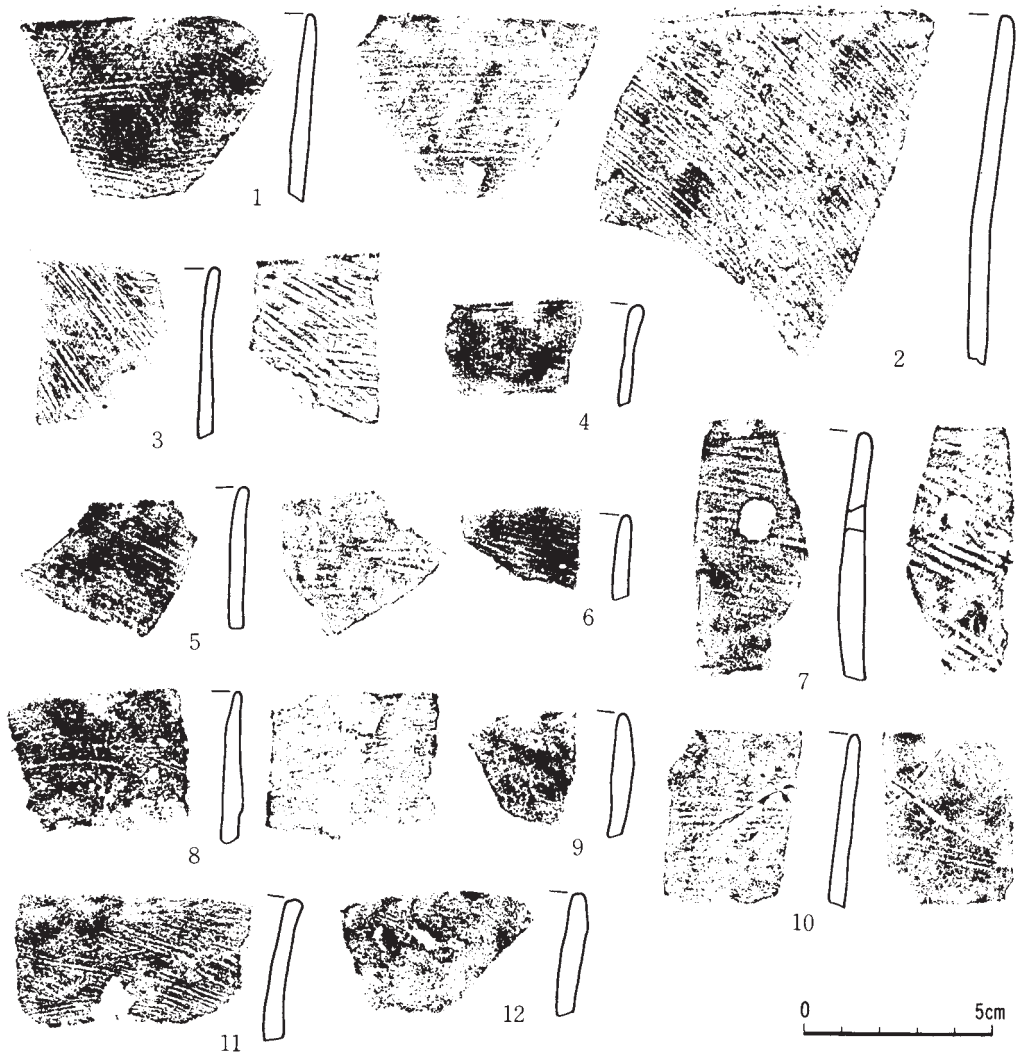


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号	
1	ES-21 ES-20	Ⅳ上層	Ⅵ群B <sub>2</sub> 類	略完形	沈線文(直線・山形状・弧状)、刺突文	粗いなで	P 3040
2	DQ-15	Ⅳ層	Ⅵ群B <sub>2</sub> 類	体部	沈線文(直線・山形状)、刺突文	粗いなで	P 93
3	EM-17	Ⅴ層	Ⅵ群B <sub>1</sub> 類	体部	沈線文、刺突文	条痕	P 201
4	EJ-19	Ⅳ層	Ⅵ群B <sub>1</sub> 類	体部	沈線文、刺突文	条痕	P 202
5	EJ-20	Ⅳ上層	Ⅵ群B <sub>1</sub> 類	体部	沈線文、刺突文	条痕	P 858
6	EM-17	Ⅴ層	Ⅵ群B <sub>1</sub> 類	体部	沈線文、刺突文	条痕	P 203
7	EM-17	Ⅱ層	Ⅵ群B <sub>1</sub> 類	体部	沈線文、刺突文	条痕	P 204

図156 遺構外出土土器 第Ⅵ群B類土器

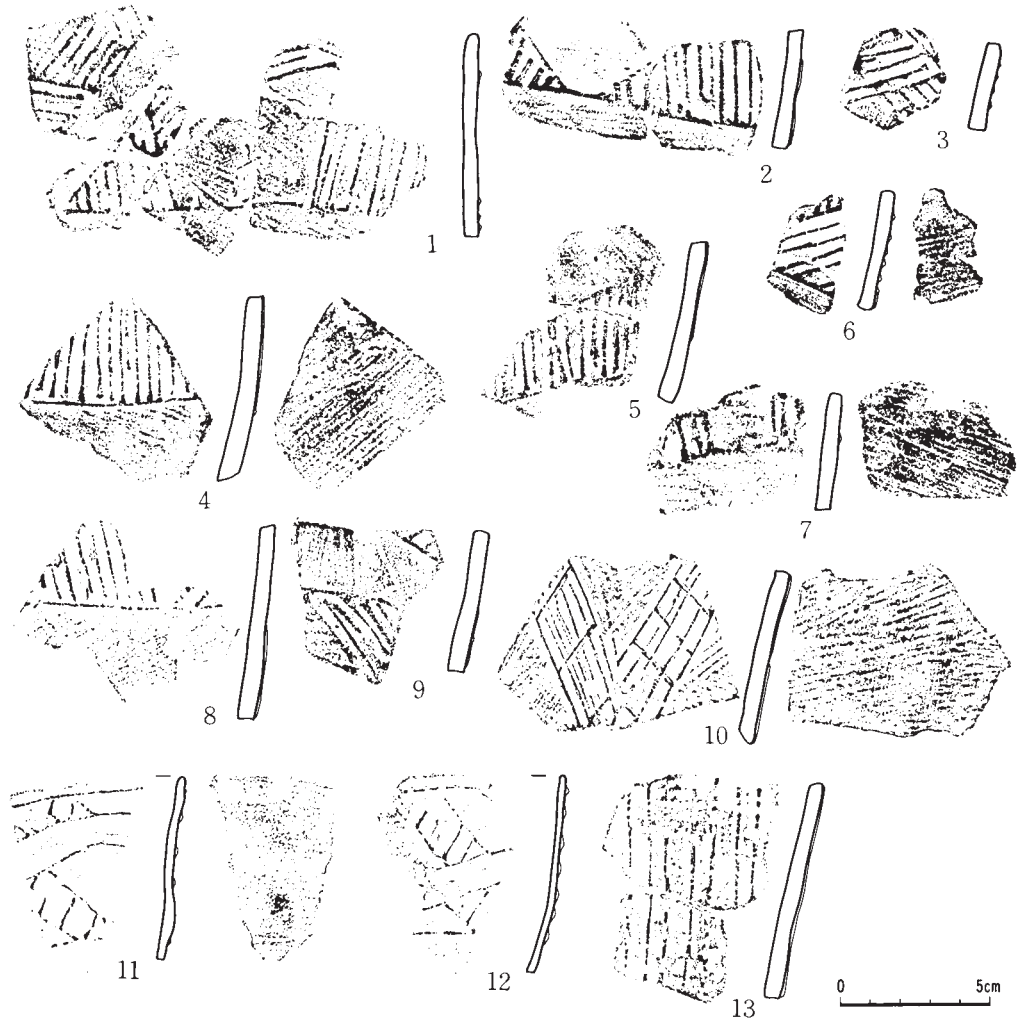




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EJ-20 IV上層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 858
2	EC-20 IV上層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 3019
3	EH-18 IV上層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 67
4	EL-19 IV上層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 2
5	EG-22 IV下層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 40
6	EL-23 IV層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 23
7	<sup>EK-15</sup> <sub>EO-27</sub> IV層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 47
8	EL-15 IV下層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 238
9	EM-21 IV層	VI群C類	口縁部	条痕文		なで	P 486・447
10	<sup>EC-19</sup> <sub>-18</sub> IV上層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 201
11	EJ-19 IV層	VI群C類	口縁部	条痕文		条痕	P 66
12	EH-20 IV下層	VI群C類	口縁部	条痕文		なで	P 339

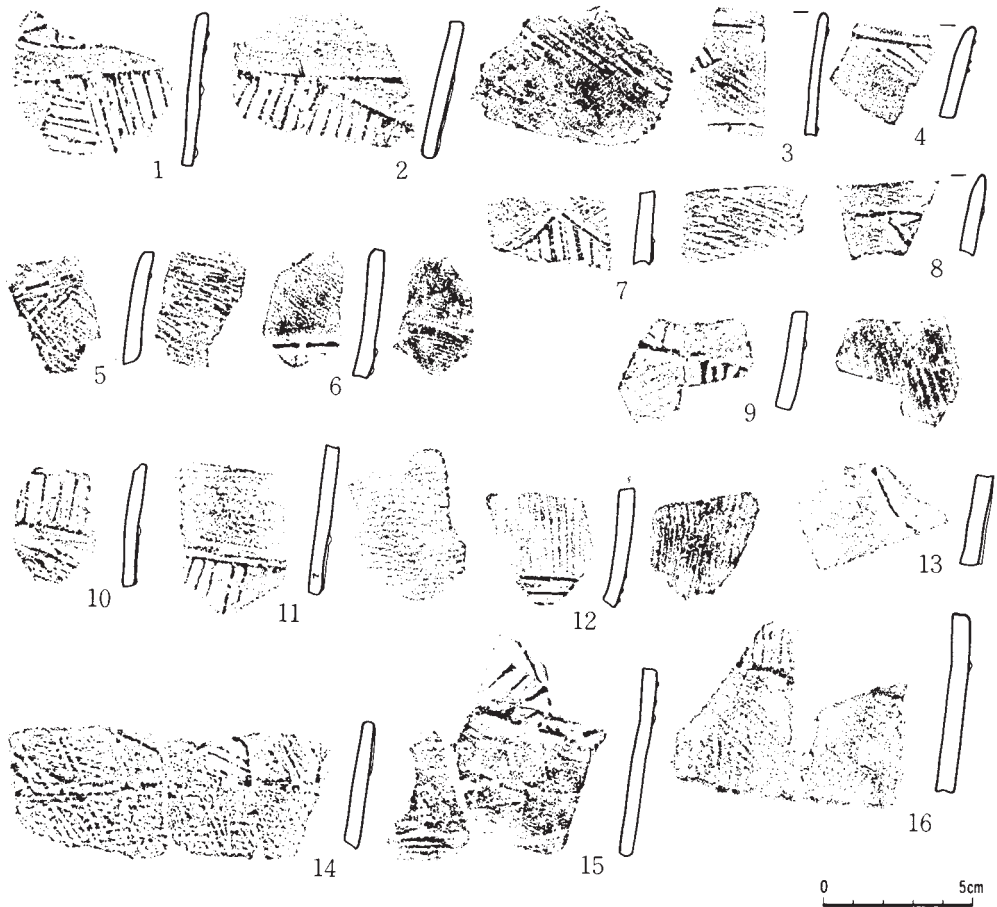
図157 遺構外出土土器 第VI群C類土器



繩文土器 觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-22 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 89
2	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 90
3	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 89
4	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 89
5	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 89
6	EK-22 IV下層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 224
7	EJ-19 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 844
8	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 90
9	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 90
10	ED-21 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 2960
11	EG-26 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	口縁部	微隆起線文	条痕	P 8
12	EG-26 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	口縁部	微隆起線文	条痕	P 1
13	ED-21 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)	条痕	P 2262

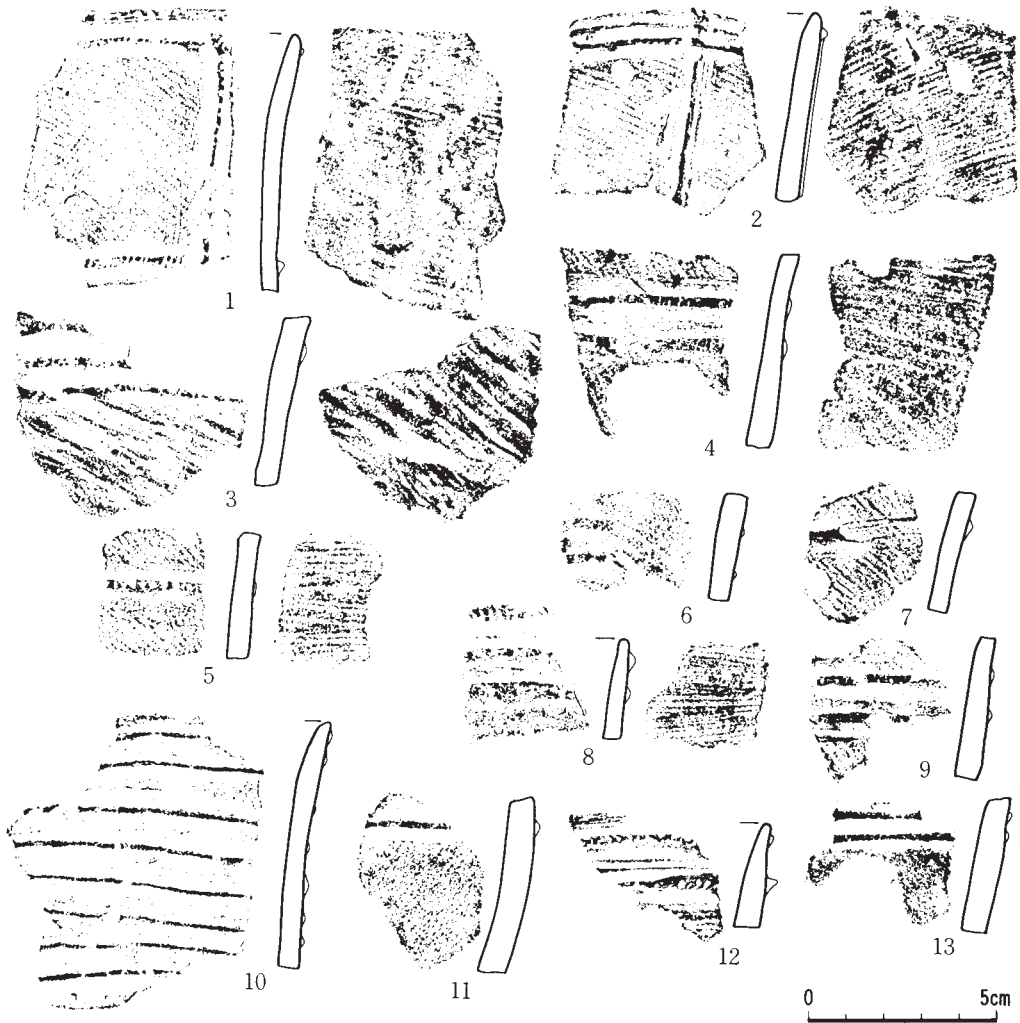
図158 遺構外出土土器 第VI群D<sub>1</sub>類土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	包A-V IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文		条痕	P 108
2	包A-V IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 40
3	EM-20 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	口縁部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 739
4	EK-22 IV下層	VI群D <sub>1</sub> 類	口縁部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 224
5	EF-19 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 604
6	EJ-19 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 591
7	EF-19 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 20
8	ED-21 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	口縁部	微隆起線文		条痕	P 2684
9	EF-22 IIIb層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 29
10	EM-23	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 30
11	EM-21 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 19
12	EK-22 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 90
13	EM-20 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 740
14	EF-19 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 563
15	ED-21 IV上層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 2683
16	EK-19 IV層	VI群D <sub>1</sub> 類	体部	微隆起線文(条痕)		条痕	P 3

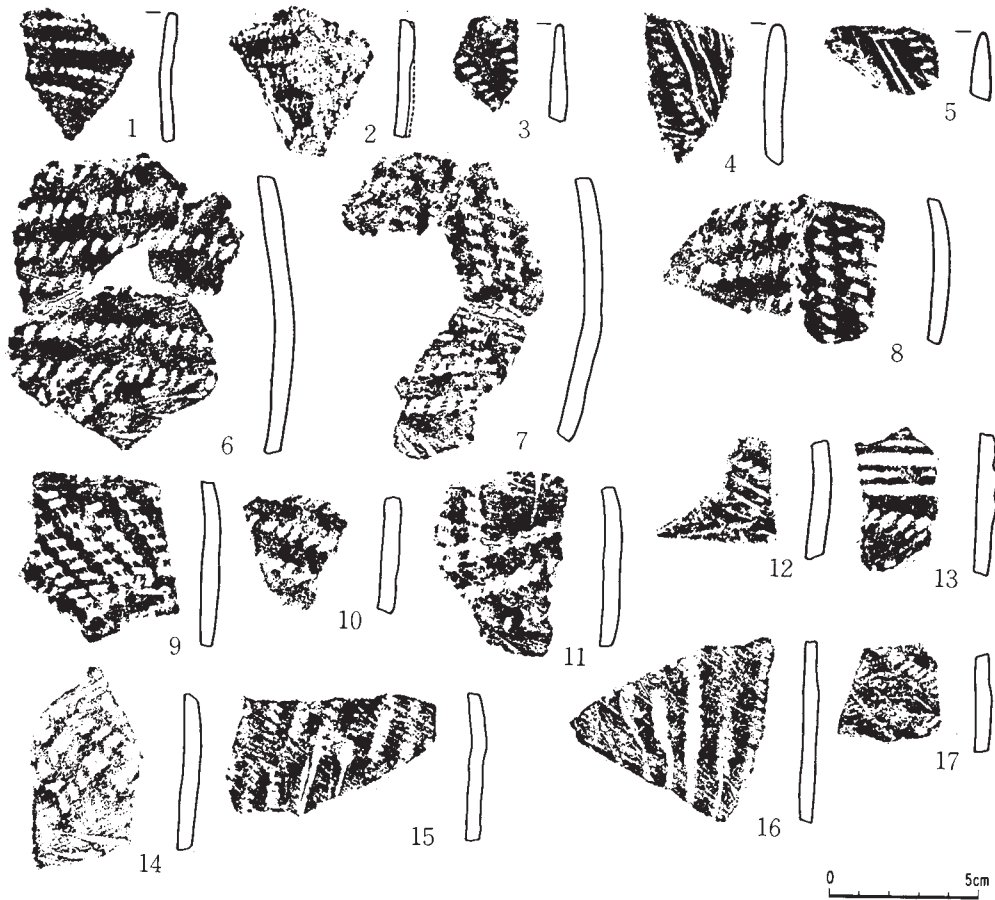
図159 遺構外出土土器 第VI群D<sub>1</sub>類土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EE-22 IV下層	VI群D <sub>2</sub> 類	口縁部	細隆起線文、口唇部絡条体圧痕文	(条痕)	条痕	P 2934
2	EL-22 不明	VI群D <sub>2</sub> 類	口縁部	細隆起線文	(条痕)	条痕	P 2
3	EG-24 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文	(条痕)	条痕	P 5
4	EM-21 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文		条痕	P 9
5	EM-21 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文	(条痕)	条痕	P 3
6	EF-22 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文		条痕	P 10
7	EH-18 IV上層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文	(条痕)	条痕	P 1432
8	EF-23 IV上層	VI群D <sub>2</sub> 類	口縁部	細隆起線文		粗いなで	P 127
9	EM-20 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文	(条痕)	なで	P 12
10	EJ-20 IV下層	VI群D <sub>2</sub> 類	口縁部	細隆起線文		粗いなで	P 293
11	EF-22 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文		条痕	P 6
12	EM-20 IV上層	VI群D <sub>2</sub> 類	口縁部	細隆起線文		条痕	P 941
13	EF-23 IV層	VI群D <sub>2</sub> 類	体部	細隆起線文		条痕	P 7

図160 遺構外出土土器 第VI群D<sub>2</sub>類土器

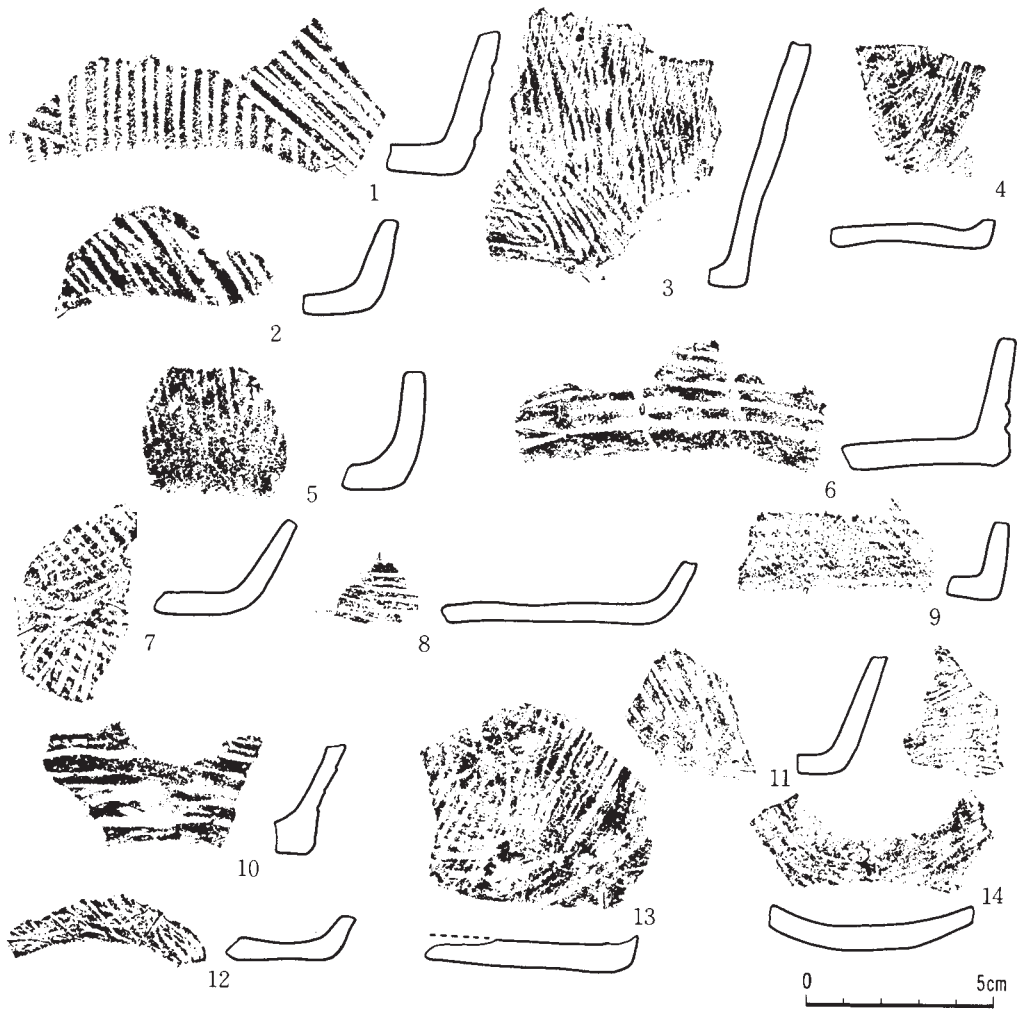


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-25 I層	VI群E類	口縁部	絡条体圧痕文(丸棒)		条痕	P 1
2	包A-VI 5層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)		条痕	P 92
3	EL-19 IV上層	VI群E類	口縁部	絡条体圧痕文(平棒)		なで	P 97
4	EK-20 IV下層	VI群E類	口縁部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		条痕	P 14
5	EK-21 IV層	VI群E類	口縁部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		条痕	P 4
6	EFF819 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 1095
7	EF-19 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 1098
8	EF-18 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 1083
9	EF-19 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 566
10	EG-18 IV下層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 1108
11	EF-19 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 575
12	EK-20 IV層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 577
13	EF-19 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 13
14	EF-19 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		なで	P 1094
15	EB-21 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		指頭押痕	P 3057
16	ED-23 IV下層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文		指頭押痕	P 2431
17	EF-18 IV上層	VI群E類	体部	絡条体圧痕文(平棒)、沈線文			P 1171

図161 遺構外出土土器 第VI群E類土器



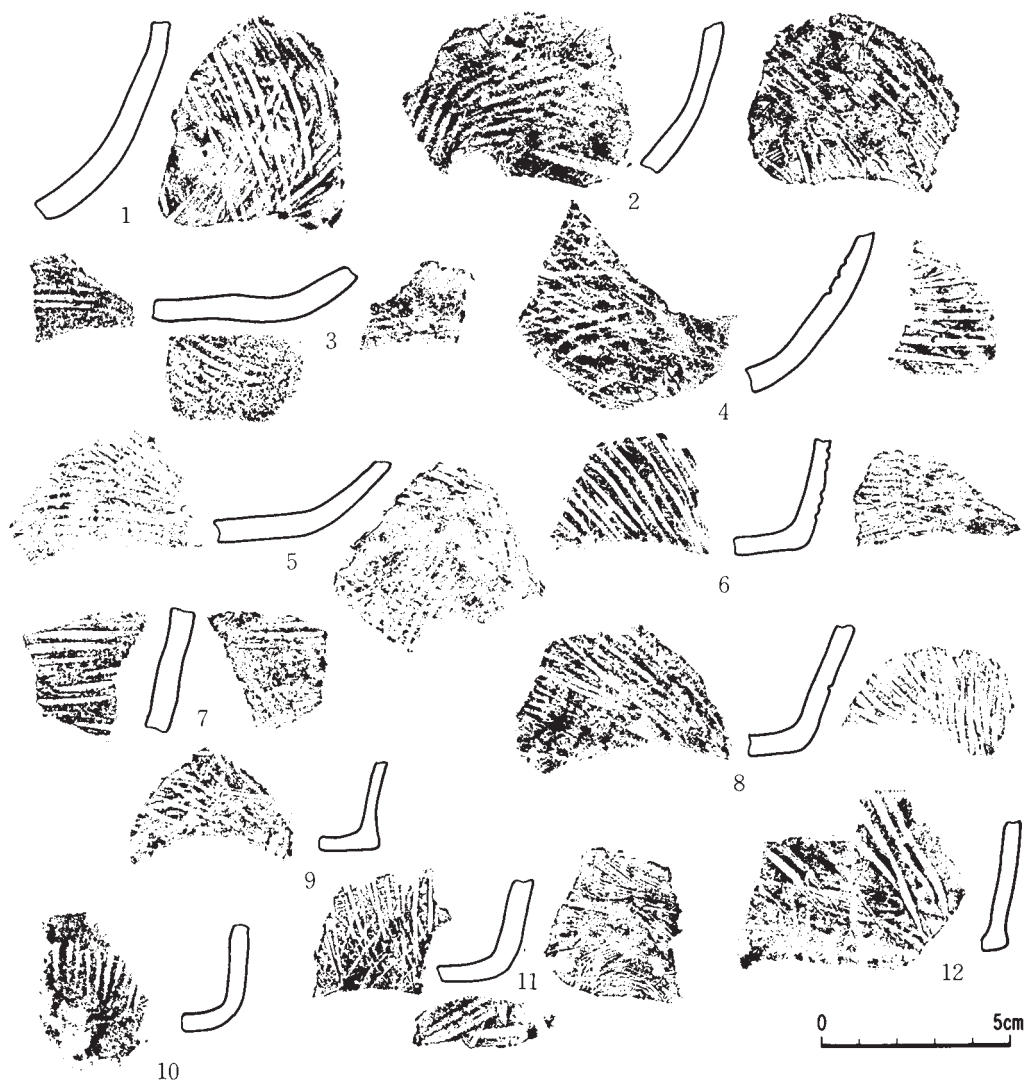


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-25 IV下層	VI群	底部	沈線文	条痕	P 23
2	EL-19 IV上層	VI群	底部	沈線文	条痕	P 875
3	EF-19 IV上層	VI群	底部	沈線文	条痕	P 602
4	EL-21 II層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 5
5	EG-21 IV層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 4
6	EM-17 IV上層	VI群	底部	沈線文	条痕	P 1245
7	EF-21 IV下b層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 18
8	EK-20 IV上層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 8
9	EM-19 II層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 7
10	EN-17 V層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 15
11	EM-19 II層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 17
12	EM-17 II層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 28
13	EL-25 IV層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 11
14	EF-22 IV下層	VI群	底部	沈線文	条痕	底 24

図162 遺構外出土土器 第VI群土器

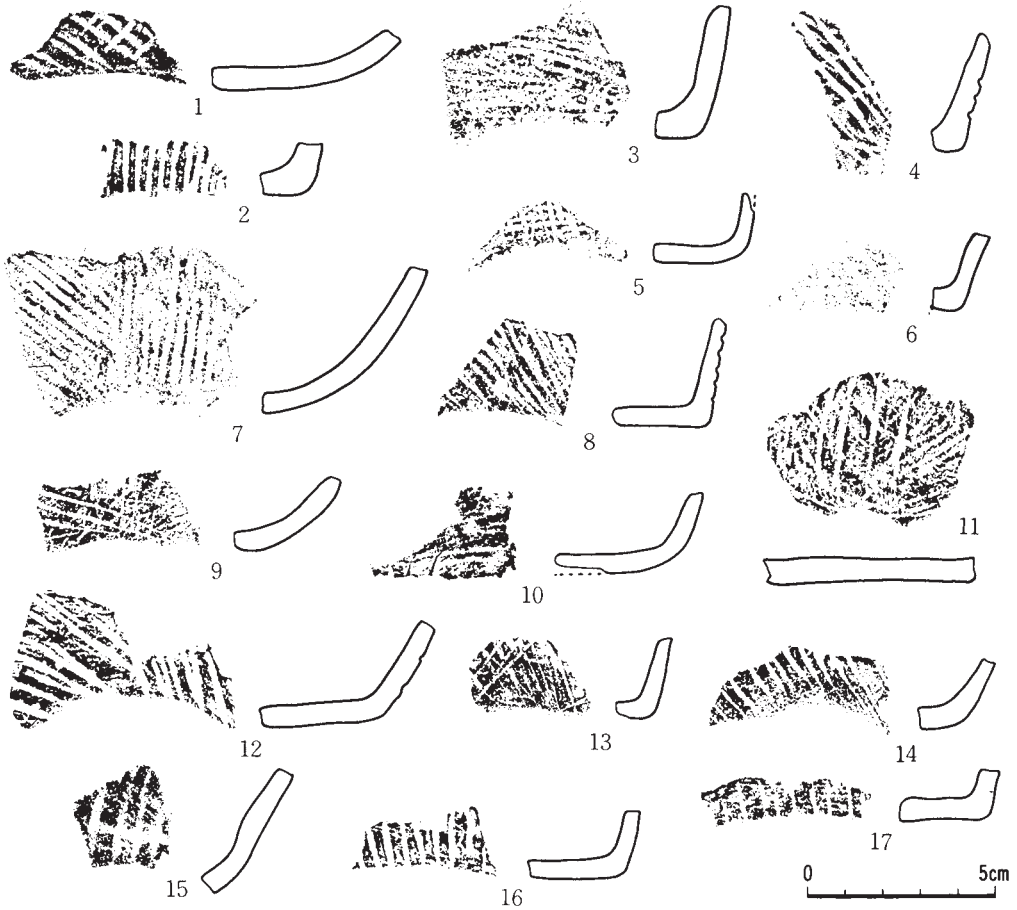




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EN-22 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 33
2	EL-22 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 54
3	EL-15 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 85
4	EG-26 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 16
5	EM-18 Ⅱ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 105
6	EJ-19 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 44
7	EJ-20 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 91
8	EN-22 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 42
9	EJ-14 不明	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 97
10	EH-18 Ⅳ層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 95
11	EF-15 不明	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	底 80
12	EJ-20 Ⅳ上層	Ⅵ群	底部	沈線文		条痕	P 861

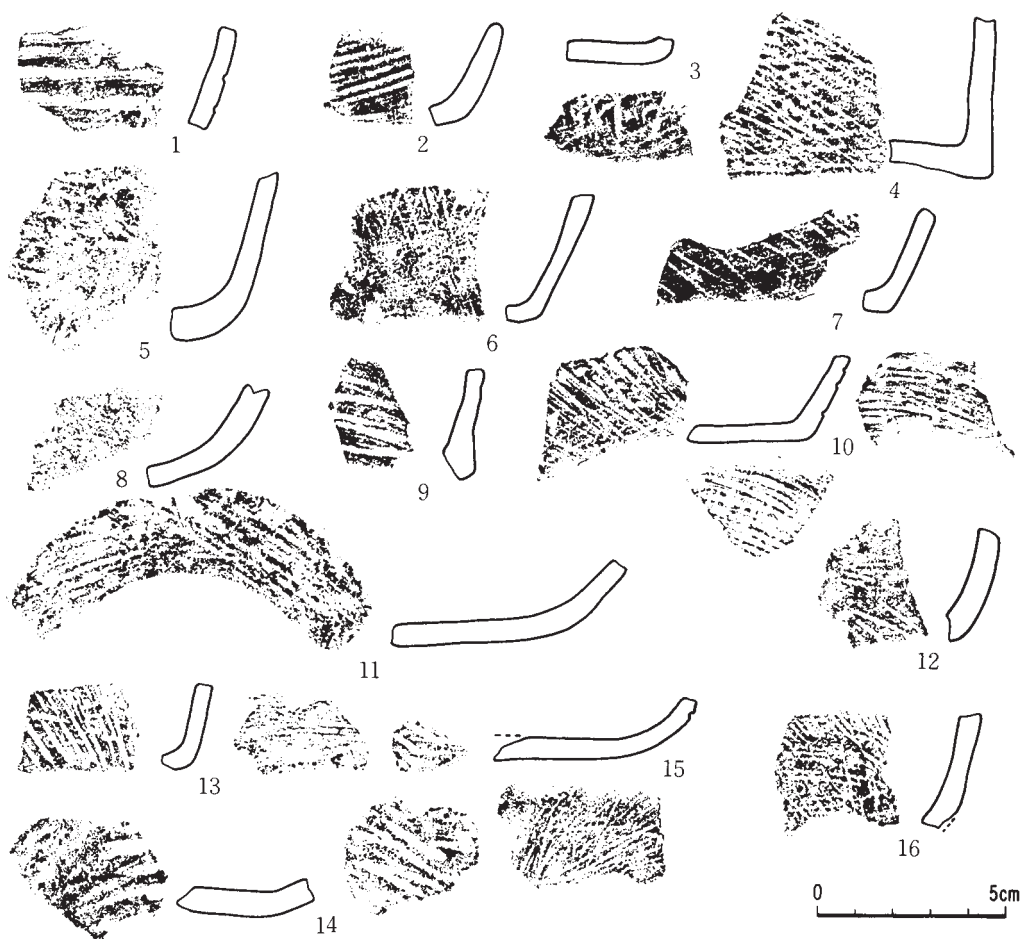
図163 遺構外出土土器 第Ⅵ群土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面	文樣	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	EH-18	Ⅳ上層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 437
2	EH-21	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 32
3	DP-17	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 29
4	EN-20	Ⅳ上層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 903
5	EJ-19	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 107
6	EL-19	Ⅳ下層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 47
7	ED-21	Ⅳ下層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 2870
8	EL-22	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 37
9	EL-20	Ⅳ上層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 877
10	EI-20	不明	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 35
11	EF-20	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 38
12	EF-21	Ⅳ上層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P 34
13	EK-19	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	P一括
14	EI-23	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 48
15	EF-19	Ⅱ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 47
16	EF-11	不明	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 46
17	EH-22	Ⅳ層	Ⅵ群底部	沈線文				条痕	底 52

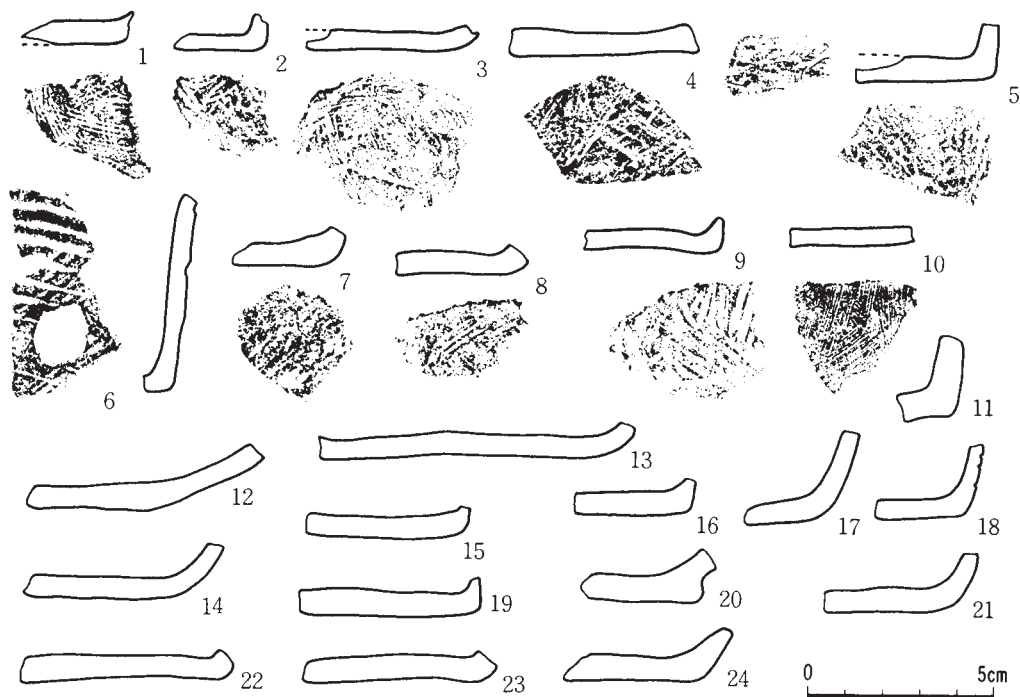
図164 遺構外出土土器 第Ⅵ群土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EG-19 IV上層	VI群	底部	沈線文		条痕	P 483
2	EF-22 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 51
3	EK-20 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	P一括
4	EM-17 V層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 55
5	EG-26 IV層	VI群	底部	無節R縄文		条痕	底 56
6	EJ-19 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 59
7	EG-25 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 63
8	EF-22 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 66
9	EM-17 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 69
10	EL-20 II層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 26
11	EL-19 IV上層	VI群	底部	沈線文		条痕	P 99
12	不明	VI群	底部	沈線文		条痕	底 84
13	EG-26 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 87
14	EL-22 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 81
15	EG-19 IV上層	VI群	底部	沈線文		条痕	P 510
16	EG-25 IV層	VI群	底部	沈線文		条痕	底 77

図165 遺構外出土土器 第VI群土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EK-20 N上層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 94
2	EL-19 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 96
3		VI 群	底部	沈線文		条痕	底 76
4	EF-21 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 78
5	EK-22 I層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 71
6	EK-24 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 40
7	EN-21 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 70
8	DJ-23 I層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 93
9	EF-19 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 89
10	EJ-23 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 23
11	EF-22 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 30
12	EJ-19 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 9
13	ED-20 IV下層	VI 群	底部	沈線文		条痕	P 2725
14	包 A	VI 群	底部	沈線文		条痕	P 2003
15	EM-24 II層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 23
16	EK-21 IV下層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 53
17	EM-19 IV上層	VI 群	底部	沈線文		条痕	P 1215
18	EN-21 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 14
19	EM-17 V層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 22
20	EM-19 IV上層	VI 群	底部	沈線文		条痕	P 974
21	EJ-23 IV下層	VI 群	底部	沈線文		条痕	P 15
22	EM-21 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 21
23	EF-EK 15-27	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 13
24	EL-22 IV層	VI 群	底部	沈線文		条痕	底 20

図166 遺構外出土土器 第VI群土器

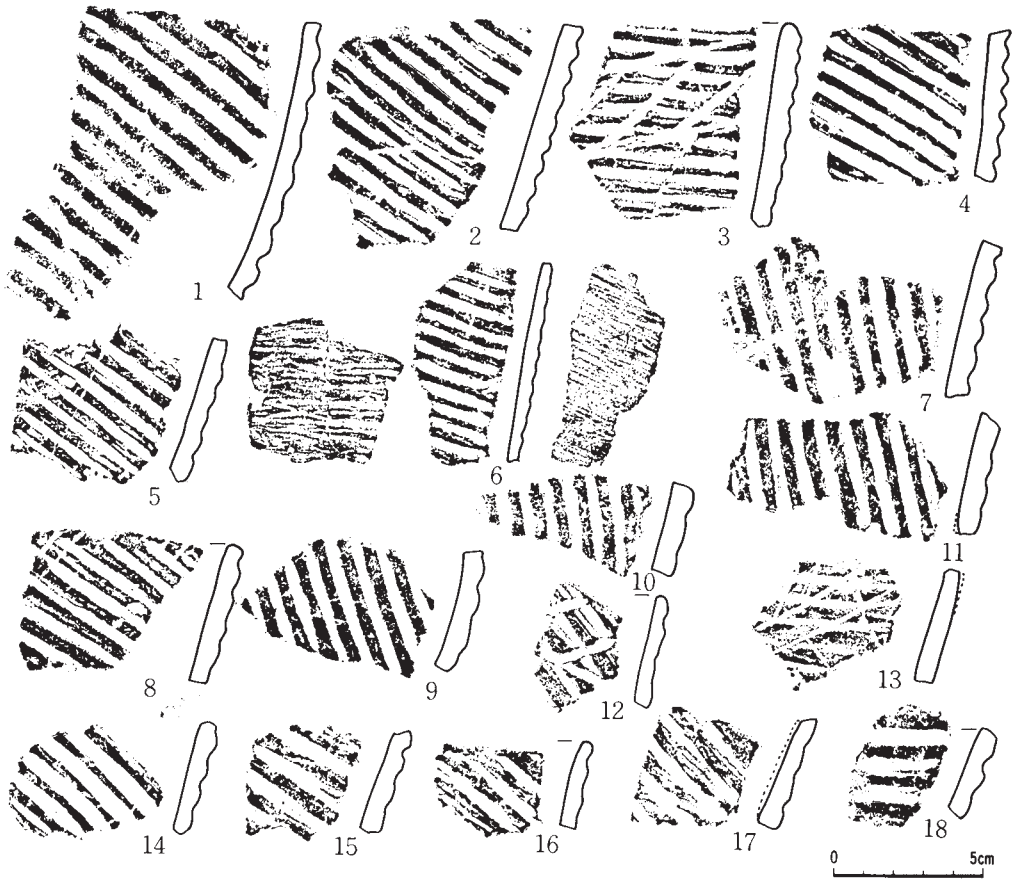


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EC-20 EC-21	IV層	VII群 口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 2158
2	ED-20	IV下層	VII群 胴部	太い沈線文		粗い条痕	P 2905
3	EF-25	IV下層	VII群 口縁部	太い沈線文		粗い条痕	P 33
4	EK-22	IV上層	VII群 口縁部	太い沈線文		粗い条痕	P 90
5	EJ-20	IV上層	VII群 口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 866
6	EK-25	IV層	VII群 口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 18
7	EL-21	II層	VII群 胴部	沈線文		指頭押痕	P 12
8	EM-21	IV層	VII群 胴部	沈線文		粗い条痕	P 8
9	EF-25	IV層	VII群 口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 3
10	EG-21	IV層	VII群 口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 16
11	EF-20	IV層	VII群 胴部	太い沈線文		粗い条痕	P 19

図167 遺構外出土土器 第VII群土器



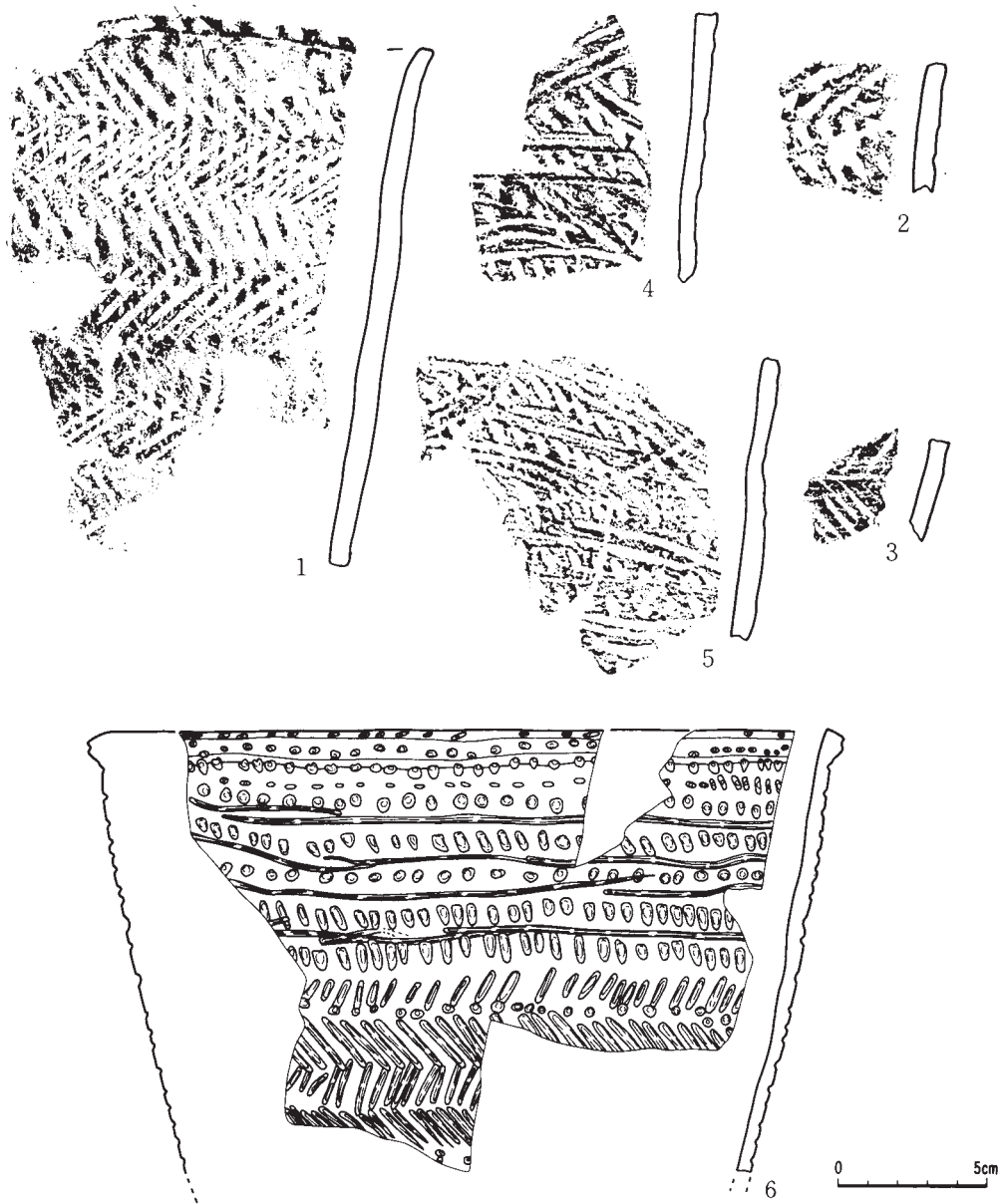


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EF-25 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 32
2	ED-21 IV上層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 2750
3	ED-20 IV下層	Ⅶ群	口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 2403
4	EC-21 IV上層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 2157
5	EQ-20 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 95
6	EM-18 II層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		条痕	P 201
7	EF-22 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 35
8	ED-21 IV下層	Ⅶ群	口縁部	太い沈線文		粗い条痕	P 2889
9	EF-22 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 4
10	EF-22 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 22
11	EC-22 IV上層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 2055
12	EG-21 IV下層	Ⅶ群	口縁部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 263
13	ED-21 IV上層	Ⅶ群	体部	沈線文、太い沈線文		粗い条痕	P 2965
14	不明	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 202
15	EF-26 IV層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 274
16	EF-22 IIIb層	Ⅶ群	口縁部	太い沈線文		粗い条痕	P 36
17	ED-20 IV上層	Ⅶ群	体部	太い沈線文		粗い条痕	P 2740
18	EH-21 II層	Ⅶ群	口縁部	太い沈線文		粗い条痕	P 27

図168 遺構外出土土器 第Ⅶ群土器

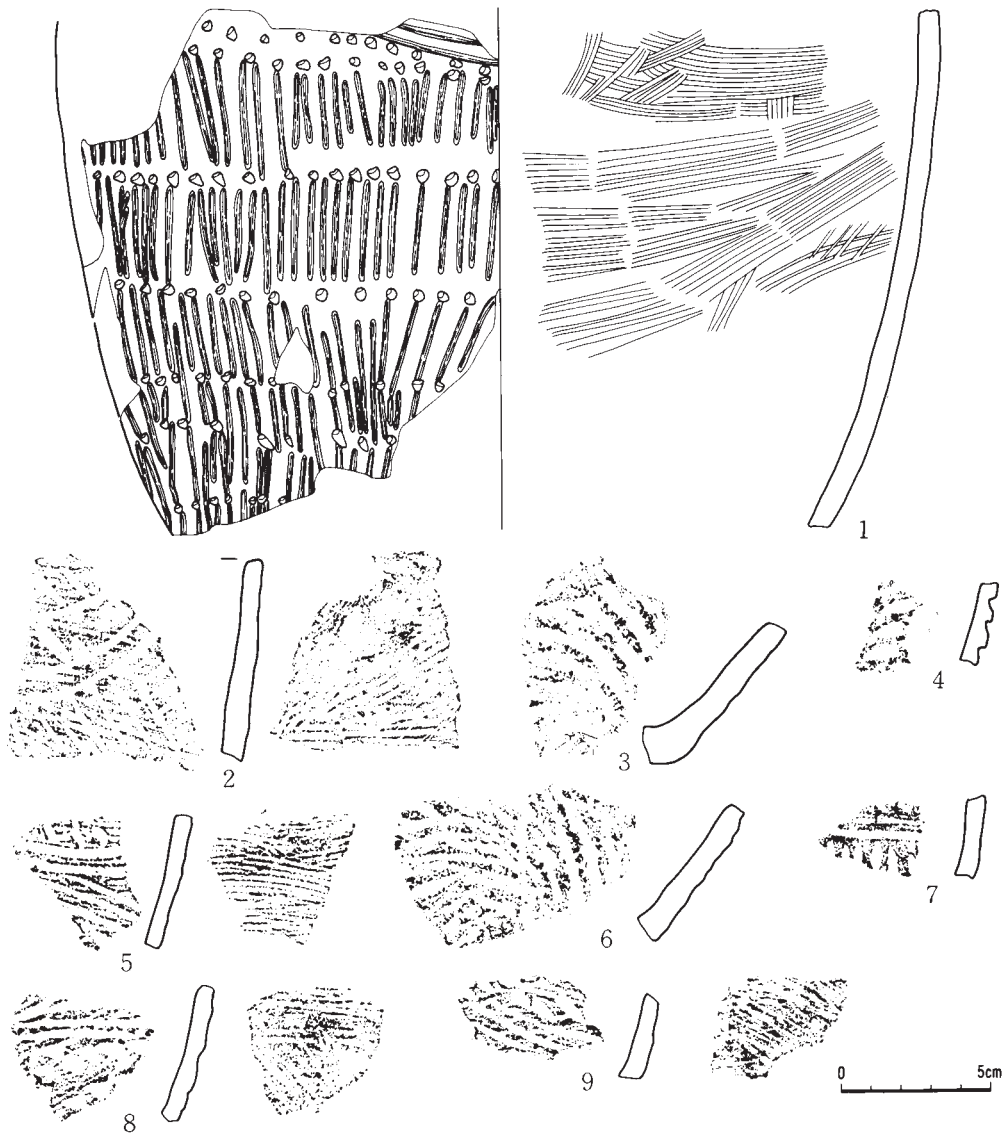




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	E I-25	Ⅳ下層	Ⅷ群A類	口縁部	沈線文(矢羽根状)、口唇部刺突文	粗い条痕	P 4
2	E J-23	Ⅳ下層	Ⅷ群A類	胴部	短刻線文	粗い条痕	P 164
3	E I-26	Ⅳ層	Ⅷ群A類	胴部	沈線文	粗い条痕	P 14
4	E H-25	Ⅳ層	Ⅷ群B類	胴部	沈線文(弧状・直線)、短刻線文	粗い条痕	P 4
5	E H-24	Ⅳ層	Ⅷ群B類	胴部	沈線文(弧状・直線)、短刻線文	粗い条痕	P 124
6	包A-Ⅳ		Ⅷ群A類	略完形	貼付隆帯、刺突文、短刻線文、沈線文	条痕	P 93

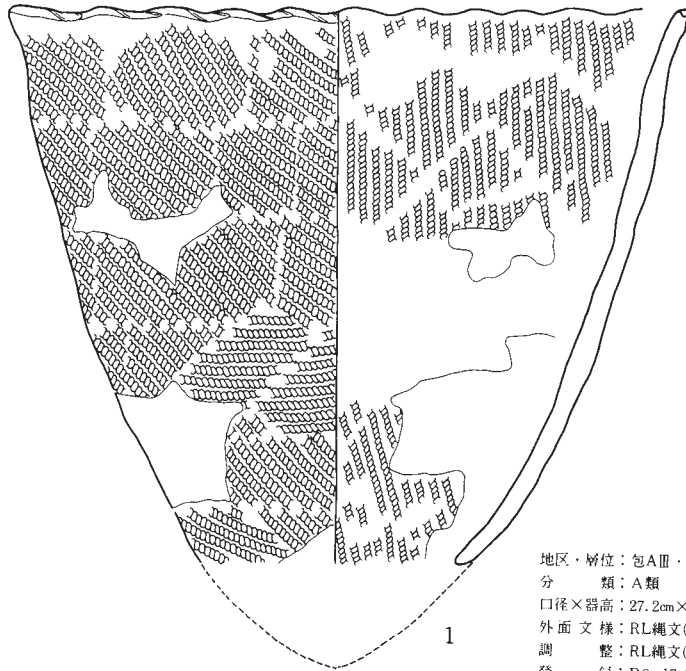
図169 遺構外出土土器 Ⅷ群A類土器、Ⅷ群B類土器



縄文土器観察表

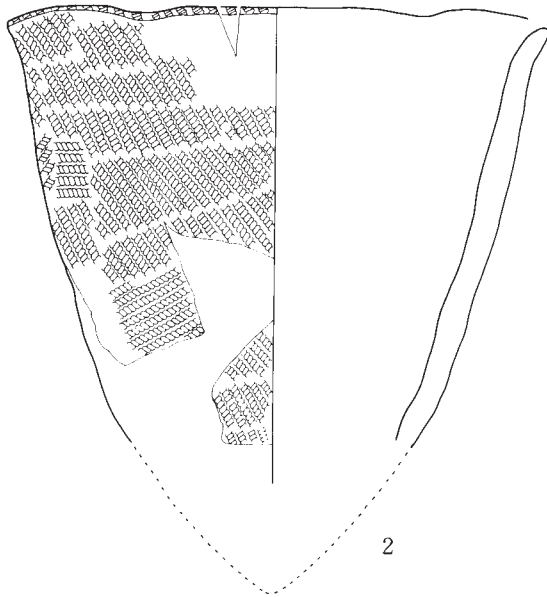
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	包A-4 IV層	Ⅶ群B類	略完形	沈線文(直線・弧状)、刺突文		粗い条痕	P 24
2	EG-18 IV上層	Ⅶ群B類	口縁部	沈線文(直線・弧状)、刺突文		粗い条痕	P 526
3	EF-22 IV層	Ⅶ群	底部	沈線文		粗い条痕	P 8
4	EF-20	Ⅶ群B類	胴部	短刻線文		粗い条痕	P 19
5	EH-24 IV層	Ⅶ群B類	底部	沈線文(直線・弧状)、短刻線文		粗い条痕	P 7
6	EF-22 IV層	Ⅶ群	底部	沈線文		粗い条痕	P 15
7	EG-18 IV層	Ⅶ群B類	胴部	沈線文、短刻線文		粗い条痕	P 12
8	不明	Ⅶ群B類	胴部	沈線文(直線・弧状)、短刻線文		粗い条痕	P 13
9	EJ-24 IV層	Ⅶ群B類	胴部	沈線文(直線・弧状)、短刻線文		粗い条痕	P 10

図170 遺構外出土土器 第Ⅶ群B類土器



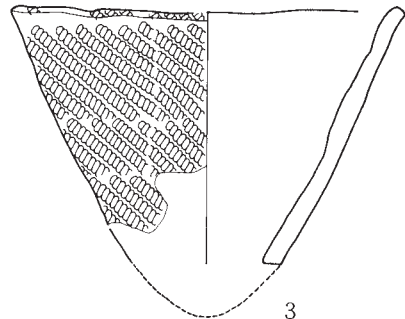
地区・層位：包AⅢ・Ⅳ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：27.2cm×(22.2)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：RL縄文(斜位回転)  
 登録：P8、17、26、39、42、54、111、112

1



地区・層位：包AⅡ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：15.7cm×(10.3)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P115

2

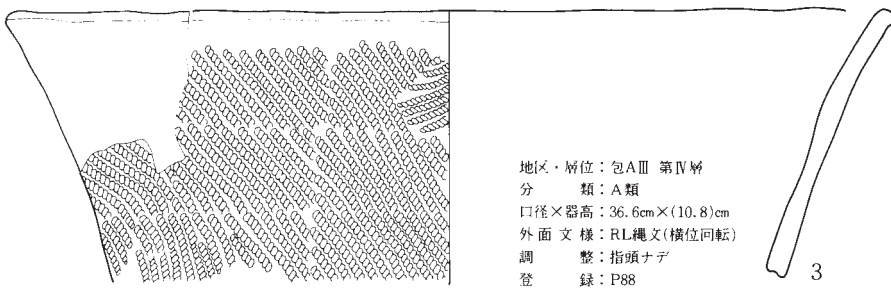
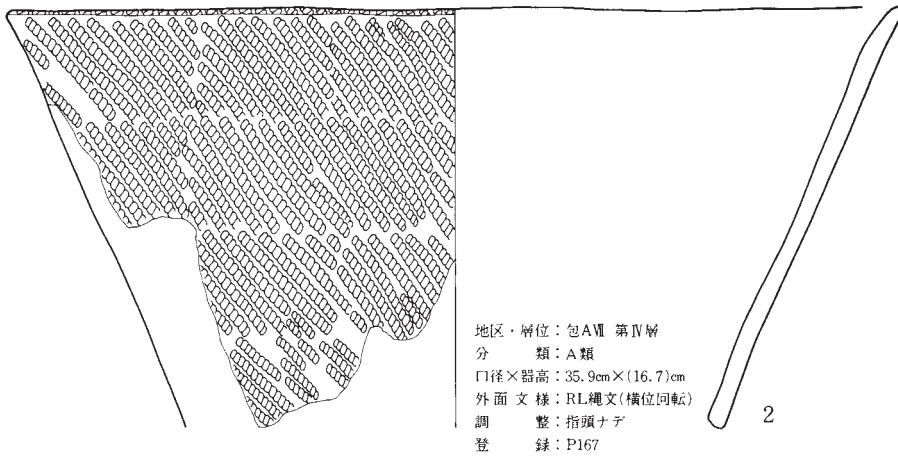
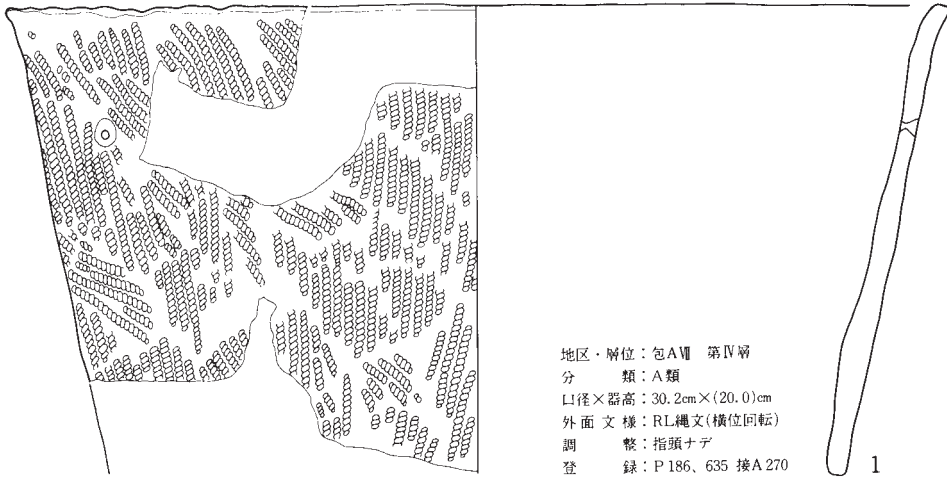


3

地区・層位：包AⅣ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：21.7cm×(17.5)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P2001



図171 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



0 10cm

図172 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器

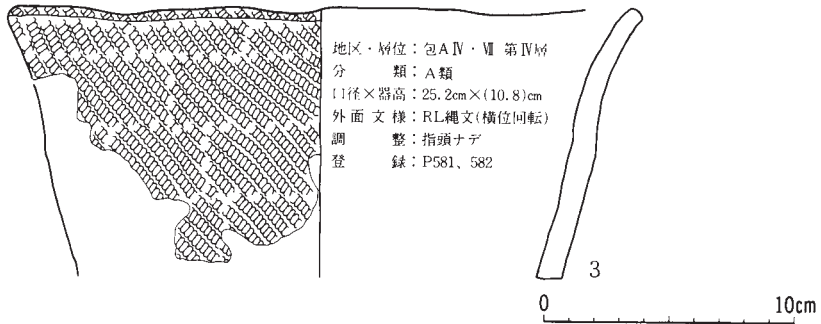
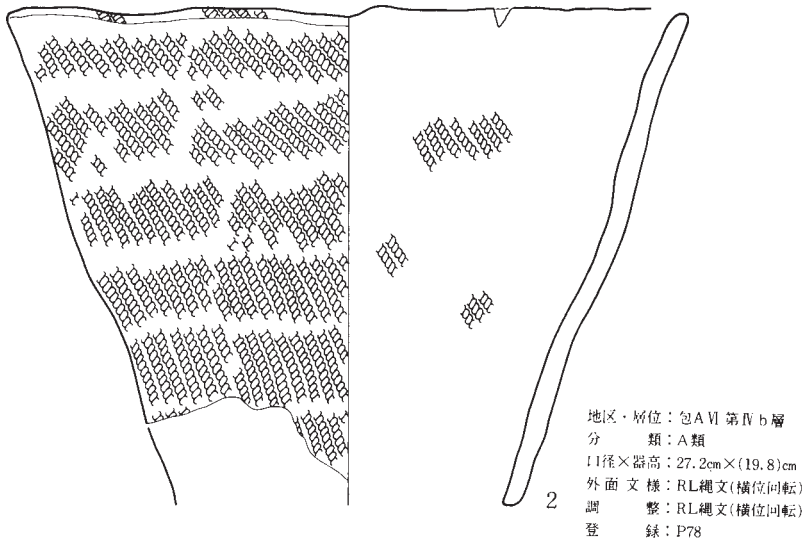
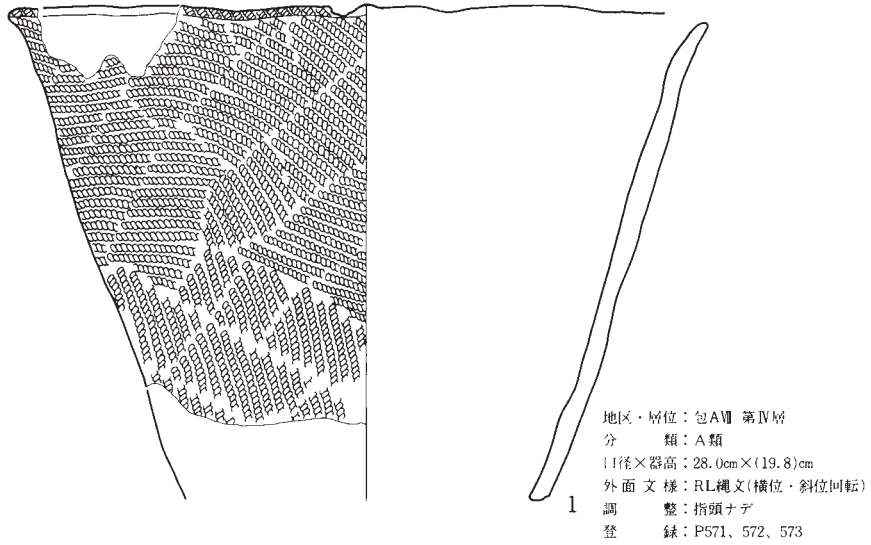
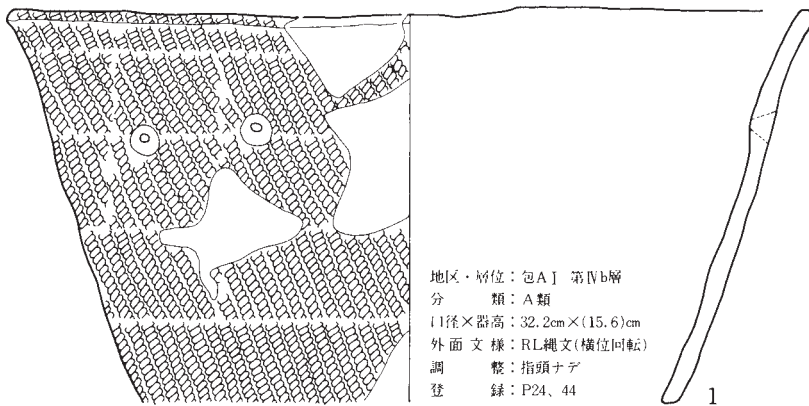
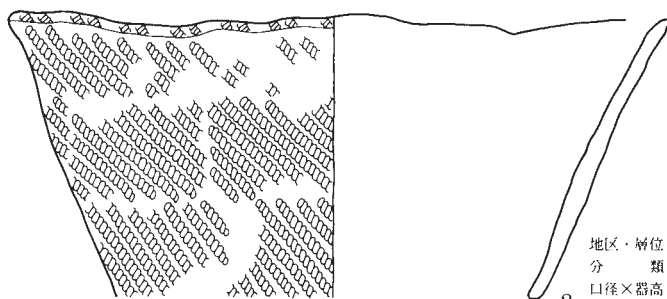


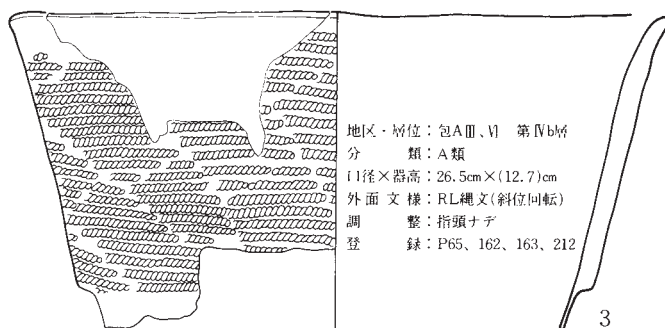
図173 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



地区・層位：包AⅠ 第Ⅳb層  
 分類：A類  
 口径×器高：32.2cm×(15.6)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P24、44



地区・層位：包AⅢ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：26.5cm×(11.3)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P3、41、87

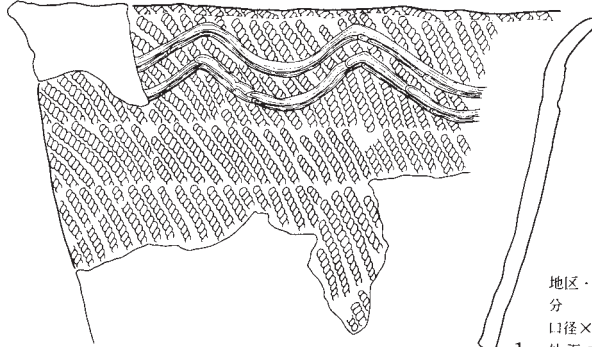


地区・層位：包AⅢ、Ⅳ 第Ⅳb層  
 分類：A類  
 口径×器高：26.5cm×(12.7)cm  
 外面文様：RL縄文(斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P65、162、163、212

0 10cm

図174 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器





地区・層位：包AⅢ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：23.5cm×(13.7)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P40、46、55、72、76

1



地区・層位：包AⅥ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：24.0cm×(14.1)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：RL縄文(横位回転)  
 登録：P370、371

2

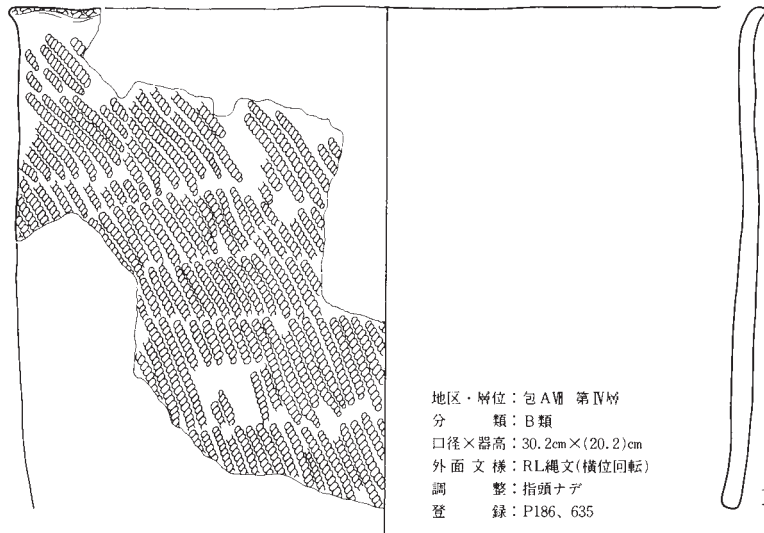


地区・層位：包AⅢ 第Ⅳ層  
 分類：B類  
 口径×器高：30.3cm×(17.0)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P19-括

3

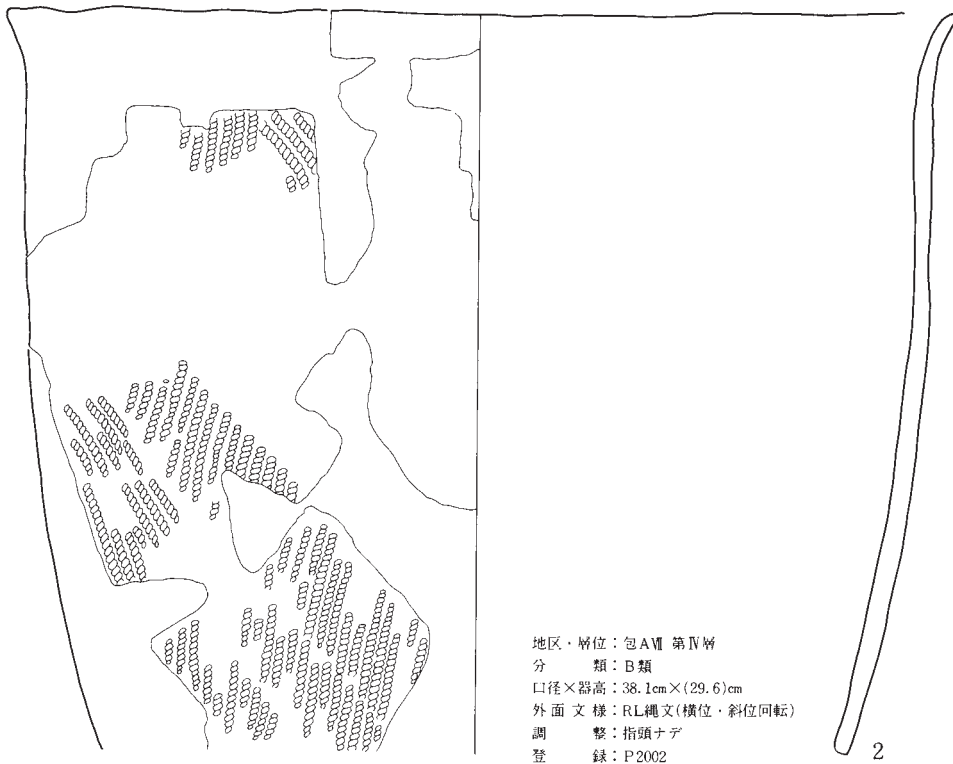
0 10cm

図175 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



地区・層位：包AⅧ 第Ⅳ層  
 分類：B類  
 口径×器高：30.2cm×(20.2)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P186、635

1

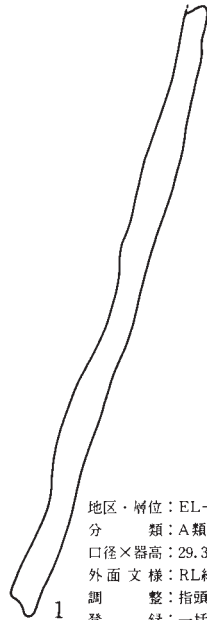
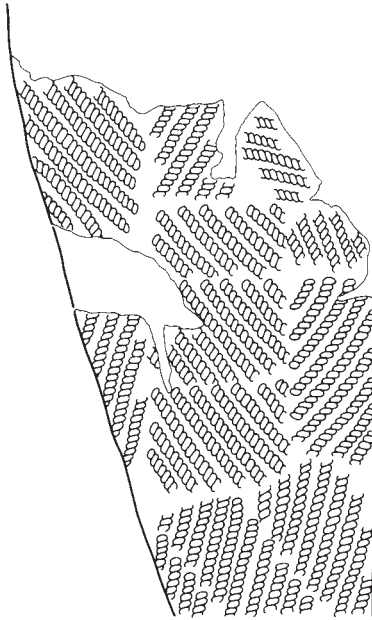


地区・層位：包AⅧ 第Ⅳ層  
 分類：B類  
 口径×器高：38.1cm×(29.6)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P2002

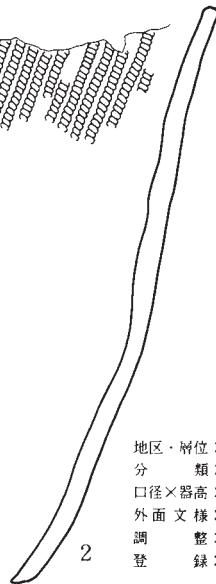
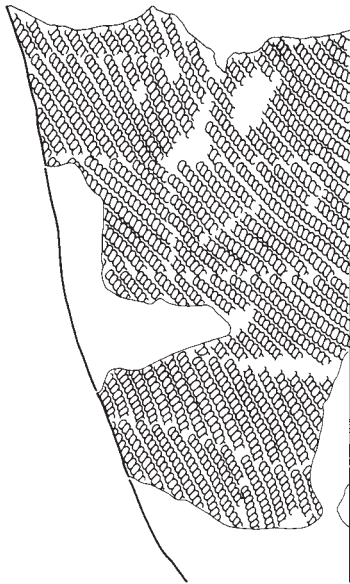
2

0 10cm

図176 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



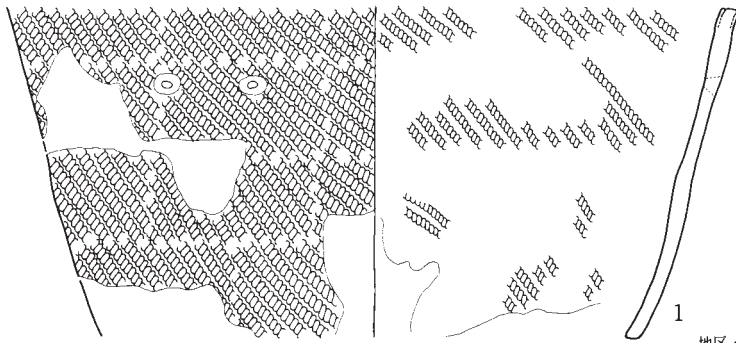
地区・層位：EL-21 第II層  
 分類：A類  
 口径×器高：29.3cm×(24.5)cm  
 外面文様：RL縷文(横位・縦位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：一括



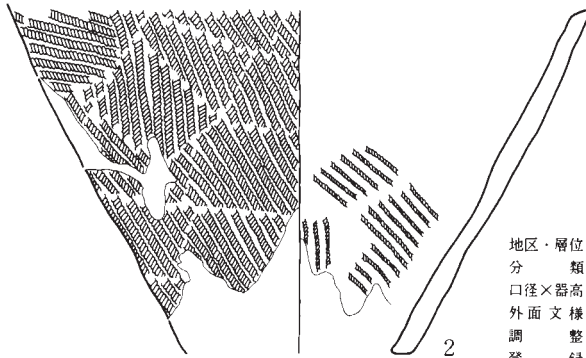
地区・層位：包AⅦ 第IV層  
 分類：B類  
 口径×器高：27.6cm×(23.1)cm  
 外面文様：RL縷文(横位回転)  
 調整：LR縷文(横位回転)  
 登録：P573、574、575

0 10cm

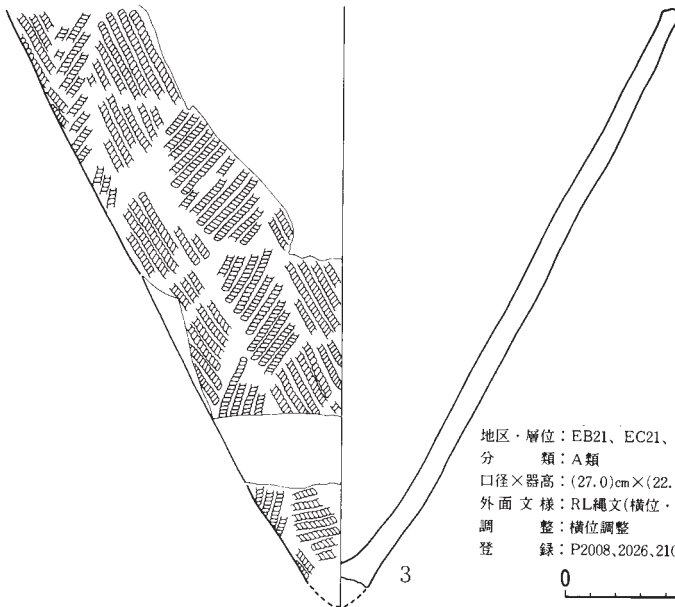
図177 遺構外出土土器 第IX群土器



地区・層位：包AⅢ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：29.3cm×(13.2)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：RL縄文(横位回転)  
 登録：P17、24



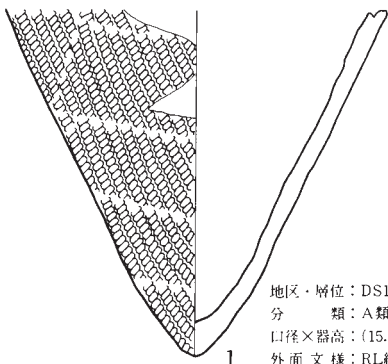
地区・層位：包AⅣ Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：23.2cm×13.7cm  
 外面文様：RL縄文〔O段多条〕(横位・斜位回転)  
 調整：L单絡1類(斜位回転)  
 登録：P44、45、311



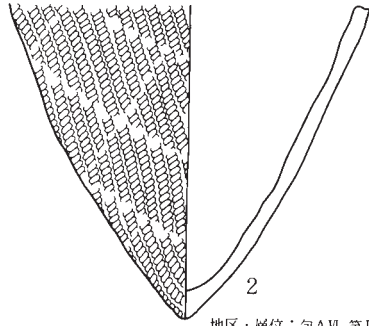
地区・層位：EB21、EC21、ED21 第Ⅳ上層  
 分類：A類  
 口径×器高：(27.0)cm×(22.8)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・縦位回転)  
 調整：横位調整  
 登録：P2008、2026、2104、2121、2125、2126、2166、3043

0 10cm

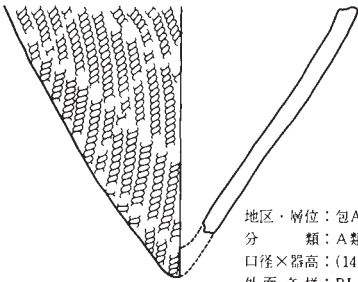
図178 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



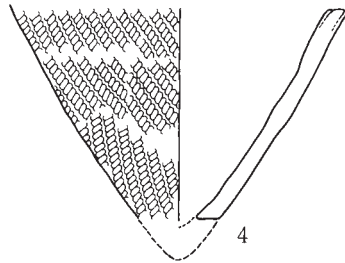
地区・層位：DS12 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(15.2)cm×(13.8)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：一括



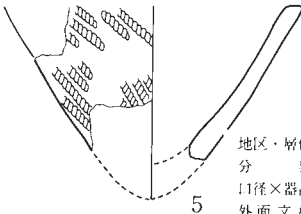
地区・層位：包AⅥ 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(14.4)cm×(12.5)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P85、101



地区・層位：包AⅥ 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(14.2)cm×(10.3)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P560

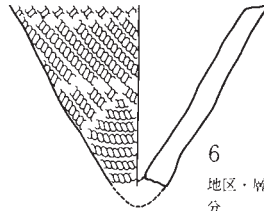


地区・層位：包AⅢ 第Ⅵ層  
 分類：A類  
 口径×器高：(13.5)cm×(8.4)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P215

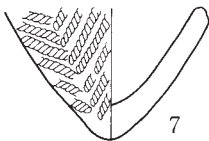


地区・層位：包AⅦ 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(13.2)cm×(8.4)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P575

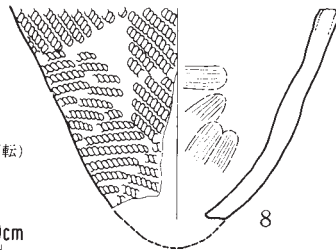
地区・層位：包AⅣ 6 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(8.0)cm×(5.2)cm  
 外面文様：LR縄文(横位・縦位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P22、96



地区・層位：包A7 第IV層  
 分類：A類  
 口径×器高：(10.2)cm×(7.2)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P205、216、220、229

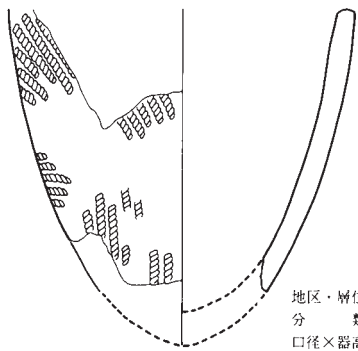


地区・層位：包AⅦ 第IV層  
 分類：B類  
 口径×器高：(13.2)cm×(8.4)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P575



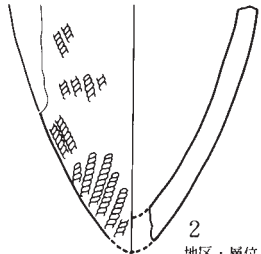
0 10cm

図179 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器



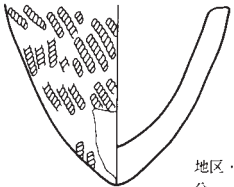
1

地区・層位：包AⅢ第Ⅳ層  
 分類：B類  
 口径×器高：(13.8)cm×(11.3)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・斜位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：一括



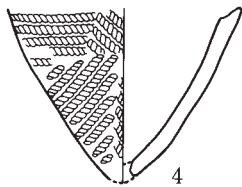
2

地区・層位：包AT 第ⅣF層  
 分類：B類  
 口径×器高：(10.0)cm×(9.4)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・縦位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P205



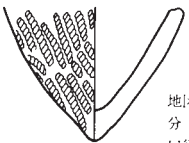
3

地区・層位：包A-6 第Ⅲ層  
 分類：B類  
 口径×器高：(9.1)cm×(7.2)cm  
 外面文様：RL縄文(横位・縦位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P60、P61



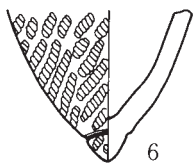
4

地区・層位：包AⅣ第Ⅴb層  
 分類：B類  
 口径×器高：(9.4)cm×(7.0)cm  
 外面文様：RL縄文(斜・横・縦位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P155、P138



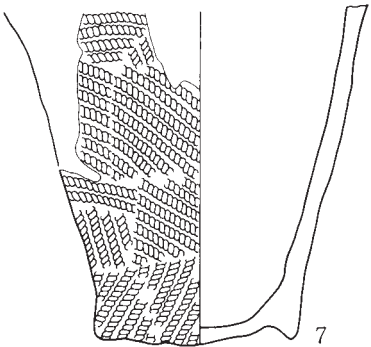
5

地区・層位：包A-5 第Ⅲ層  
 分類：B類  
 口径×器高：(7.2)cm×(5.3)cm  
 外面文様：RL縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P65



6

地区・層位：第Ⅳ層  
 分類：B類  
 口径×器高：(7.4)cm×(11.0)cm  
 外面文様：LR縄文(横位回転)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：一括



7

地区・層位：包AⅢ 第Ⅳ層  
 分類：A類  
 口径×器高：(12.6)cm×(13.2)cm  
 外面文様：RL縄文(異方向)  
 調整：指頭ナデ  
 登録：P394

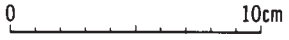
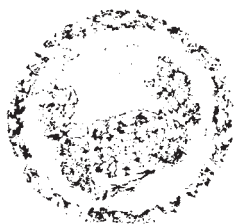
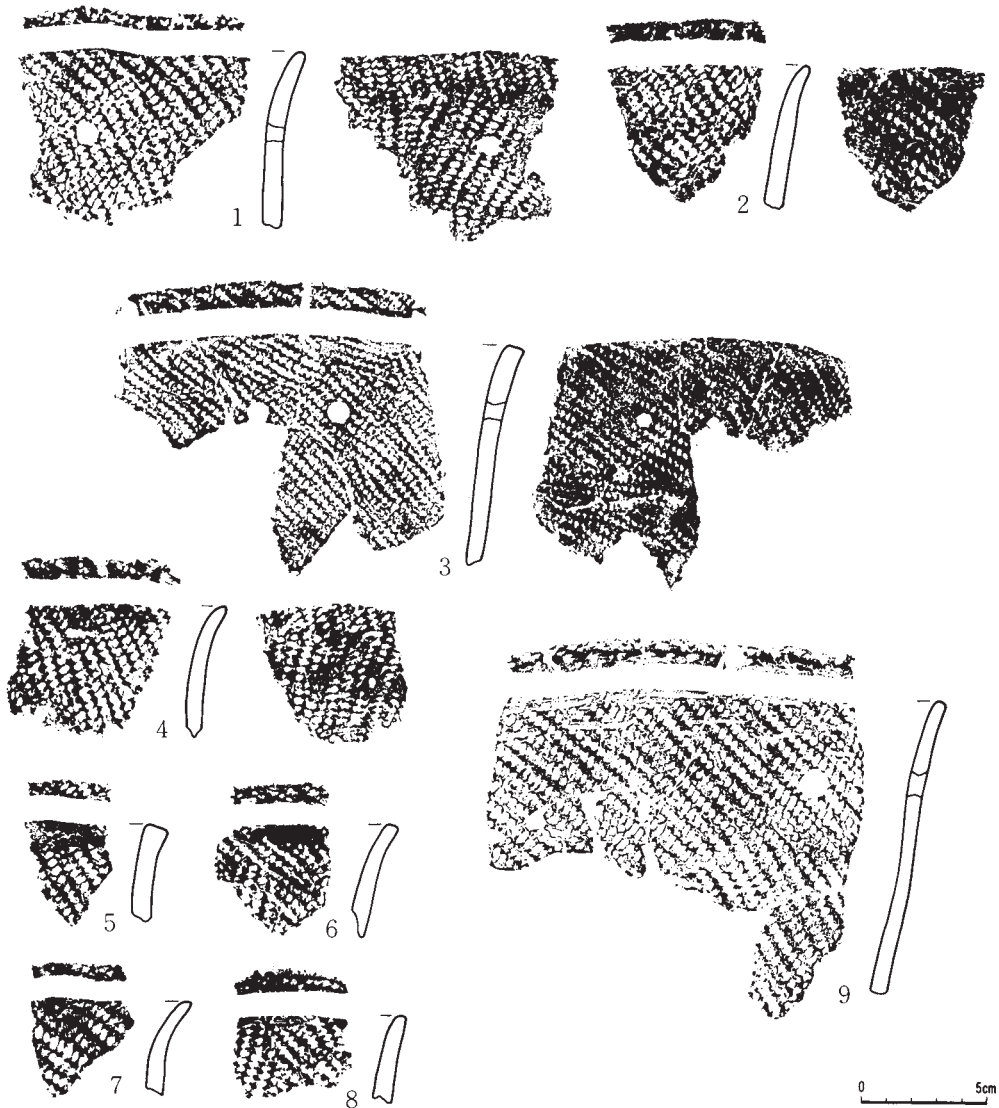


図180 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器

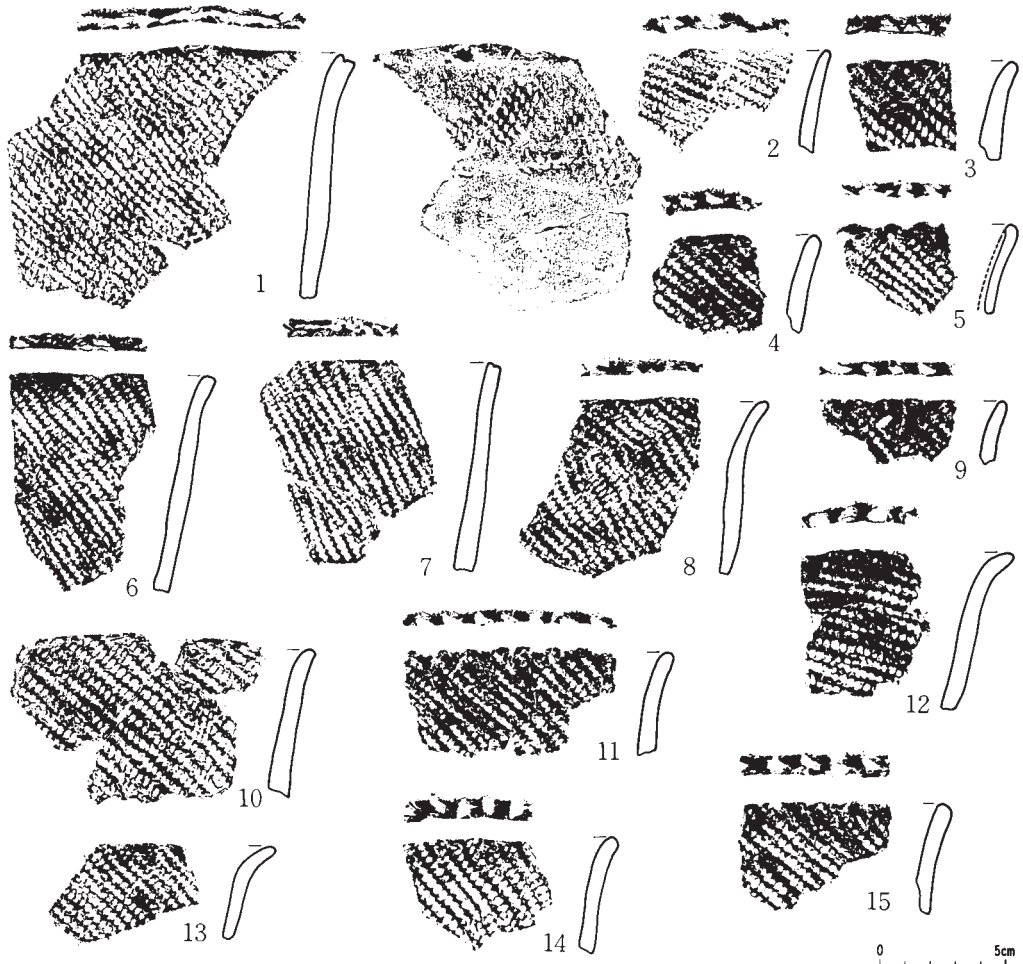




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	A-III IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	RL(縦位)	P 111
2	A-III IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	RL(横位)	P 20
3	A-III IV <sup>b</sup> 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	RL(横位)	P 27
4	A-III IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	RL(縦位)	P 111
5	A-III IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	指頭ナデ	P 19
6	不明	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	指頭ナデ	P 43
7	A IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	指頭ナデ	P 161
8	A-VI IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	指頭ナデ	P 201
9	A III 層	Ⅸ群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部 RL縄文	指頭ナデ	P 111

図181 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器 (A類)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	A-III IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部工具による調整	RL(横位)	P 10
2	A-VII IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部波状	指頭ナデ	P 50
3	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 200
4	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 89
5	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 139
6	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 80
7	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 80
8	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 151
9	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 90
10	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)		指頭ナデ	P 86
11	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 91
12	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部波状	指頭ナデ	P一括
13	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)		指頭ナデ	P一括
14	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 98
15	A-VI IV層	IX群A類	口縁部	RL縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 125

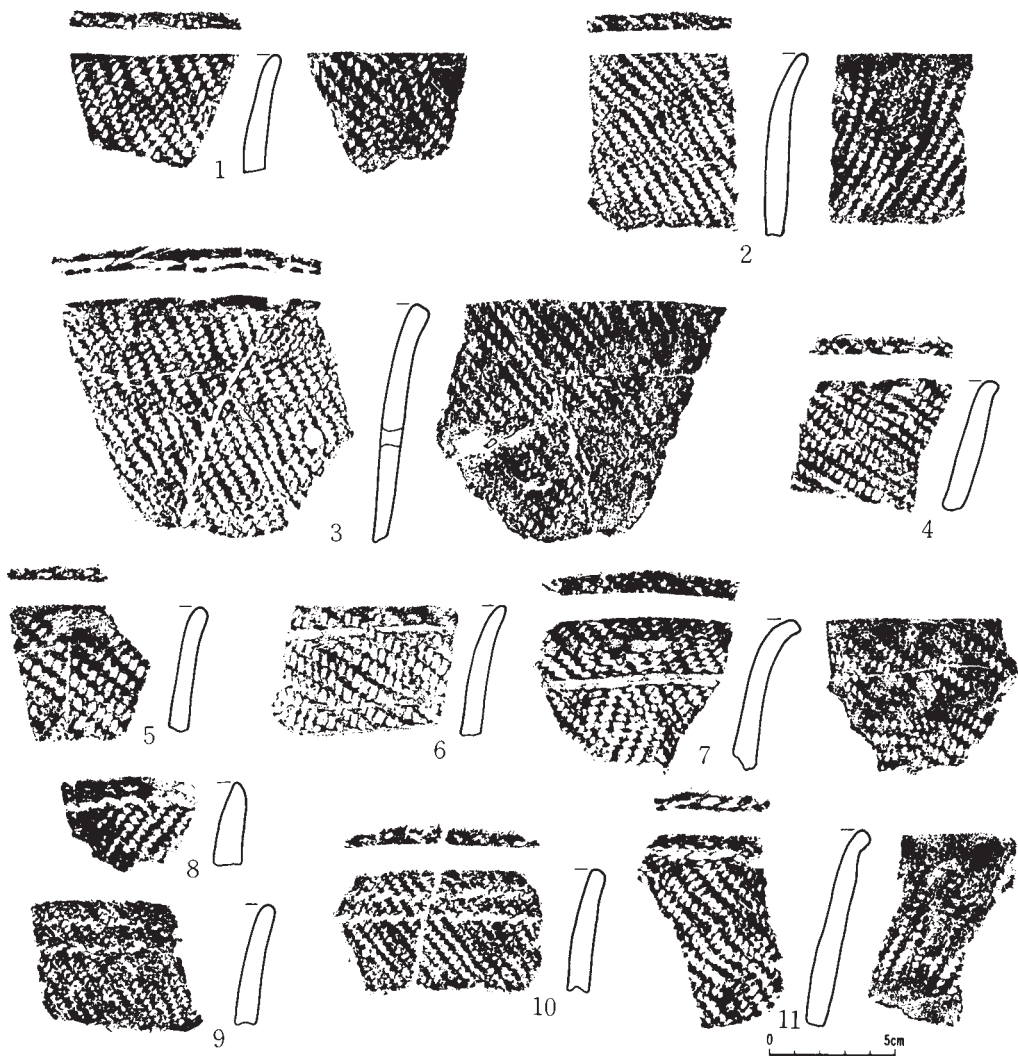
図182 遺構外出土土器 第IX群土器 (A類)



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	A-Ⅶ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部刺突	R L(斜位)	P 263
2	A-Ⅶ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部刺突	R L(斜位)	P 641
3	A-Ⅶ V 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 234
4	A-Ⅶ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部指頭押圧	指頭ナデ	P 285
5	A IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 372
6	A-Ⅵ IV b 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位回転)	口唇部 R L 縄文	指頭ナデ	P 85
7	A-Ⅵ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位・斜位)	R L 縄文	指頭ナデ	P 637
8	A-Ⅵ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位)	口唇部刺突	指頭ナデ	P 326
9	A-Ⅵ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位)	口唇部工具による調整	横位調整	P 223
10	A-Ⅵ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(斜位)	口唇部調整	横位調整	P 68
11	A-Ⅵ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(縦位・横位)	口唇部 R L 縄文	指頭ナデ	P 256
12	A-Ⅶ IV 層	Ⅸ群A類	口縁部	R L 縄文(横位・斜位)	R L 縄文	R L(横位)	P 492

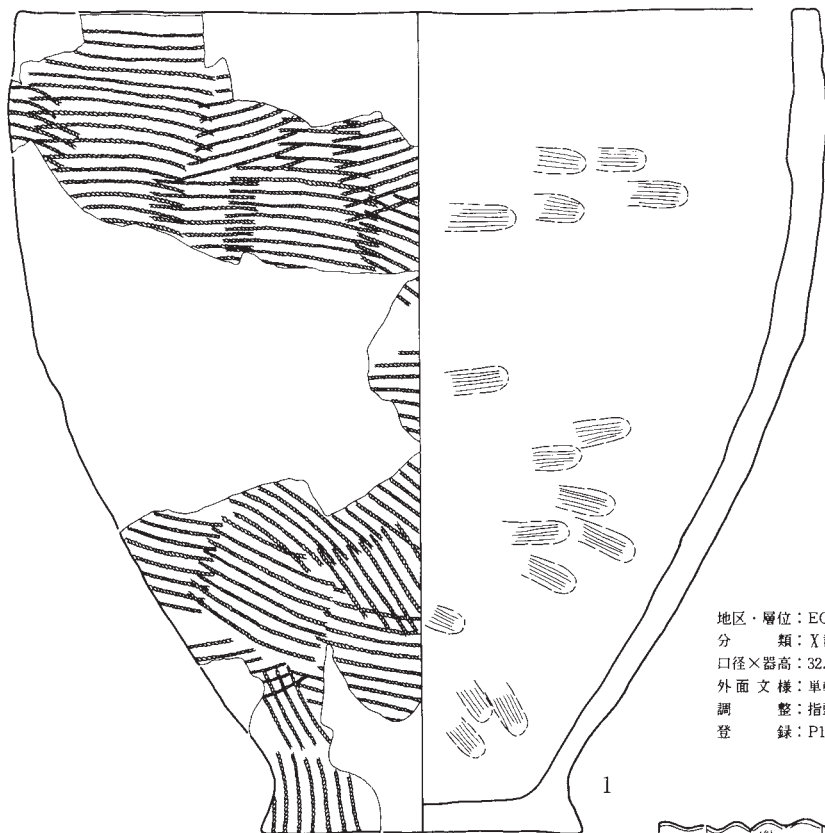
図183 遺構外出土土器 第Ⅸ群土器 (A類)



縄文土器観察表

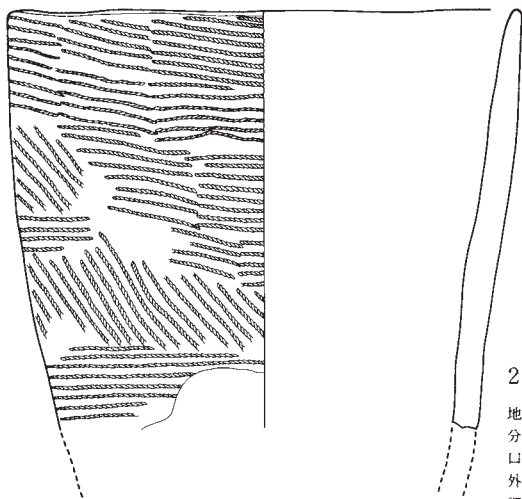
土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	A-III IV b 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転) 口唇部RL縄文	RL(横位)	P 212
2	A-III <sup>OP-13</sup> 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転) 口唇部RL縄文	RL(縦位)	P 213
3	A III 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転) 口唇部押し引き刺突	RL(横位)	P 159
4	A IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転) 口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 415
5	A-III IV b 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転) 口唇部刺突	RL(横位)	P 404
6	A-VII IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転)	指頭ナデ	P 505
7	A-VI IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転・斜位回転) 口唇部RL縄文	RL{横位} RL{斜位}	P 236
8	A-VI IV 層	IX群B類	口縁部	LR縄文(横位・斜位)、原体圧痕、口唇部LR縄文	指頭ナデ	P 69
9	A-VI IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位・斜位)、原体圧痕、口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 119
10	A-VI IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位・斜位)、原体圧痕、口唇部RL縄文	指頭ナデ	P 68
11	A-VI IV 層	IX群B類	口縁部	RL縄文(横位回転・斜位回転) 刺突	RL(縦位)	P 196

図184 遺構外出土土器 第IX群土器 (B類)



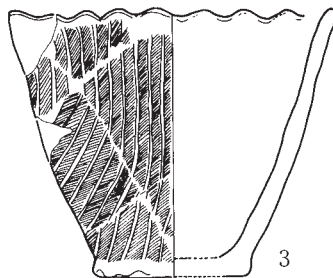
地区・層位：EG-26、EF-26 IV層  
 分類：Ⅹ群B類  
 口径×器高：32.0cm×32.8cm  
 外面文様：単軸絡糸体回転文  
 調整：指頭押痕  
 登録：P1001

1



2

地区・層位：DQ-17 IV層  
 分類：Ⅹ群B類  
 口径×器高：20.5cm×16.5cm  
 外面文様：単軸絡糸体回転文  
 調整：指頭押痕  
 登録：P93、94



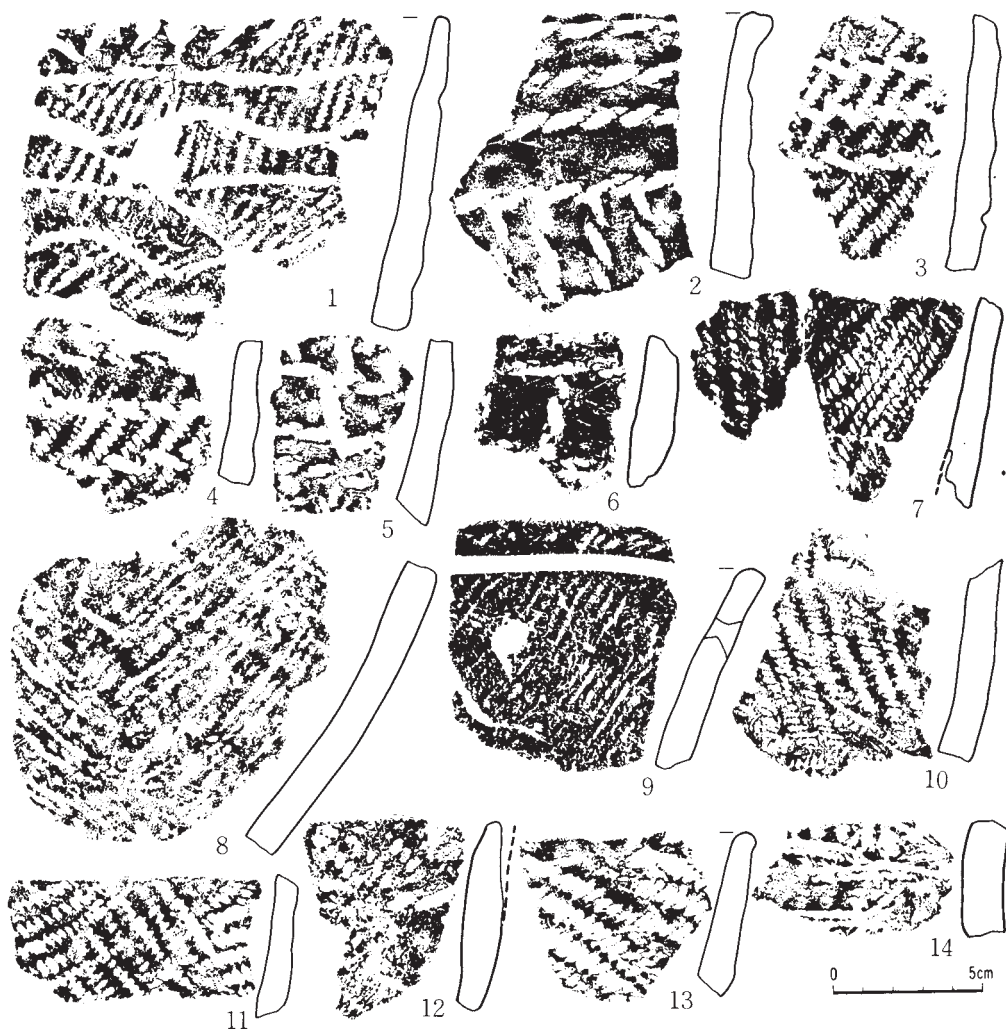
3

地区・層位：DS-22 IV層  
 分類：Ⅹ群B類  
 口径×器高：13.0cm×10.8cm  
 外面文様：無筋R縄文  
 調整：指頭押痕  
 登録：P597

0 10cm

図185 遺構外出土土器 第Ⅹ群B類土器



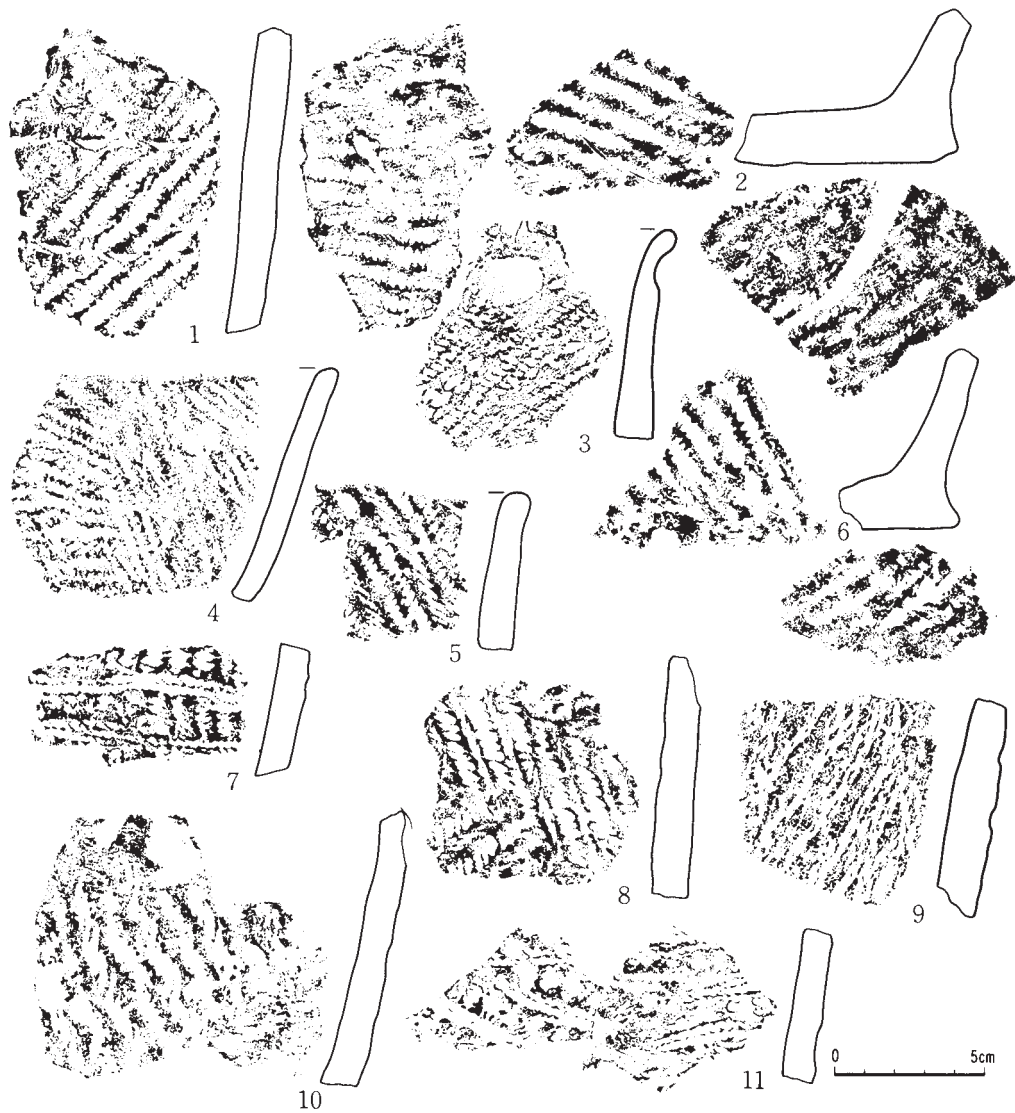


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	DP-17 IV層	X群A類	口縁部	O段多条LR縄文・撚糸側面压痕文・口唇部刻目	粗い条痕	P 21
2	PG-26 IV層	X群A類	口縁部	無文地に撚糸側面压痕文・口唇部撚糸压痕文	指頭押痕	P 3
3	EF-26 IV層	X群A類	体部	O段多条LR縄文・撚糸側面压痕文	指頭押痕	P 7
4	EF-26 IV層	X群A類	体部	O段多条LR縄文・撚糸側面压痕文	指頭押痕	P 15
5	EK-22 IV層	X群A類	体部	無文地に撚糸側面压痕文	指頭押痕	P 8
6	EC IV上層	X群A類	体部	無文地に撚糸側面压痕文	指頭押痕	P 2052
7	EC-27 IV上層	X群B類	体部	O段多条LR縄文	指頭押痕	P 396
8	EF-24 IV層	X群B類	体部	直前段合撚	指頭押痕	P 2
9	EB-25 IV下層	X群B類	口縁部	無節L縄文・口唇部縄文	指頭押痕	P 2690
10	EJ-20 IV層	X群B類	体部	O段多条LR縄文	指頭押痕	P 5
11	DI-23 IV層	X群B類	体部	O段多条R L縄文	指頭押痕	P 4
12	DD-26 IV上層	X群A類	体部	R L縄文・撚糸側面压痕文	指頭押痕	P 2060
13	EG-25 IV層	X群B類	口縁部	O段多条LR縄文	指頭押痕	P 12
14	EL-24 II層	X群B類	体部	直前段合撚	指頭押痕	P 10

図186 遺構外出土土器 第X群土器

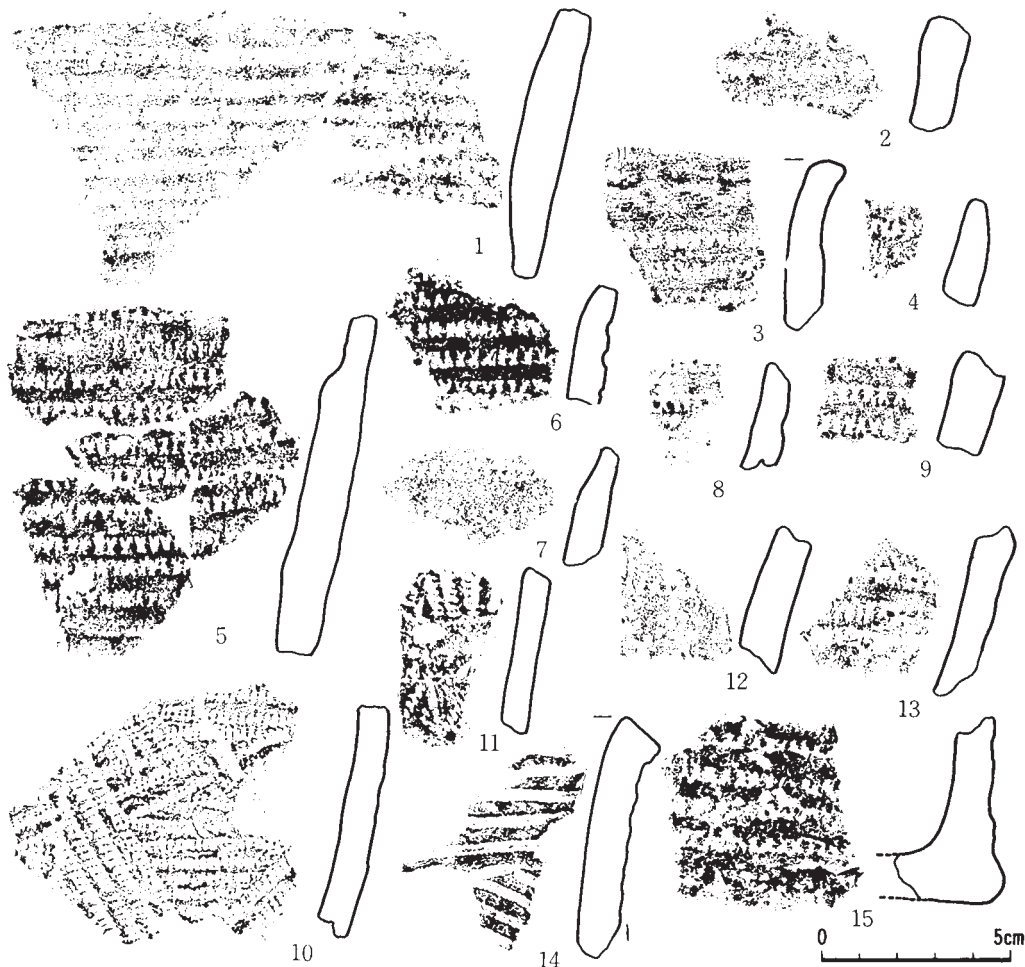




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-20 II層	X群B類	体部	○段多条LR縄文		縄文	P 11
2	EF-25 IV層	X群B類	底部	○段多条LR縄文		指頭押痕	P 19
3	EI-26 IV層	X群B類	口縁部	直前段合捺		指頭押痕	P 1
4	EL-19 IV下層	X群B類	口縁部	直前段合捺		指頭押痕	P 97
5	EL-25 IV層	X群B類	口縁部	直前段合捺		指頭押痕	P 14
6	EL-24 IV層	X群B類	底部	○段多条RL縄文		指頭押痕	P 201
7	EL-25 II層	X群B類	体部	直前段合捺		指頭押痕	P 13
8	EL-20 II層	X群B類	体部	附加縄文		指頭押痕	P 9
9	EK-22 II層	X群B類	体部	単軸絡条体回転文		指頭押痕	P 7
10	EF-26 IV層	X群B類	体部	直前段合捺		縄文	P 6
11	EL-25 II層	X群B類	体部	直前段合捺		指頭押痕	P 22

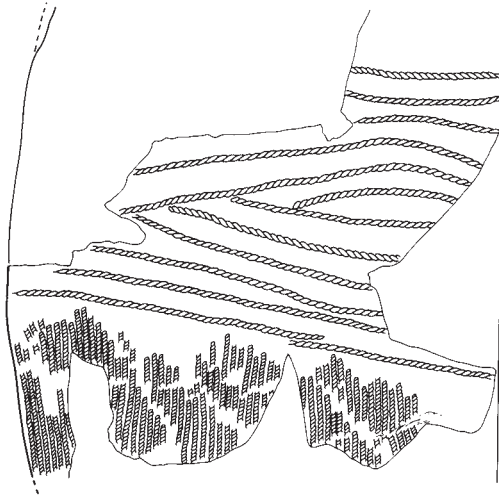
図187 遺構外出土土器 第X群土器



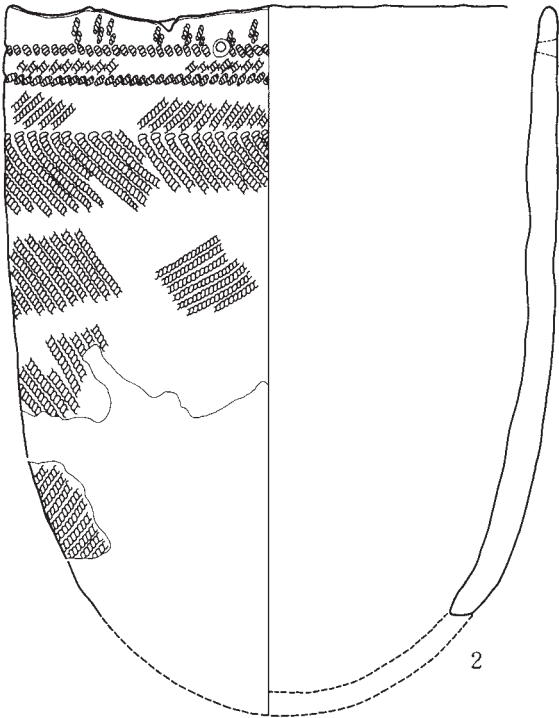
繩文土器 觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EG-24 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 10
2	EI-25 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 3
3	EG-25 IV 層	XI群B類	口縁部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 5
4	EI-25 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 4
5	EF-24 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 201
6	EF-24 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 6
7	EG-25 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 7
8	EL-25 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 218
9	EH-23 II 層	XI群A類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 9
10	EG-20 IV 層	XI群A類	体部	単軸絡条体圧痕文	粗い条痕	P 10
11	EJ-24 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文、LR縄文、粘土紐貼付		P 11
12	EL-24 不明	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文、LR縄文	指頭押痕	P 80
13	EK-22 IV 層	XI群B類	体部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 13
14	DP-20 IV 層	XI群B類	口縁部	粘軸紐貼付、組紐圧痕文	指頭押痕	P 13
15	EI-24 IV 層	XI群B類	底部	単軸絡条体圧痕文	指頭押痕	P 15

図188 遺構外出土土器 第XI群土器



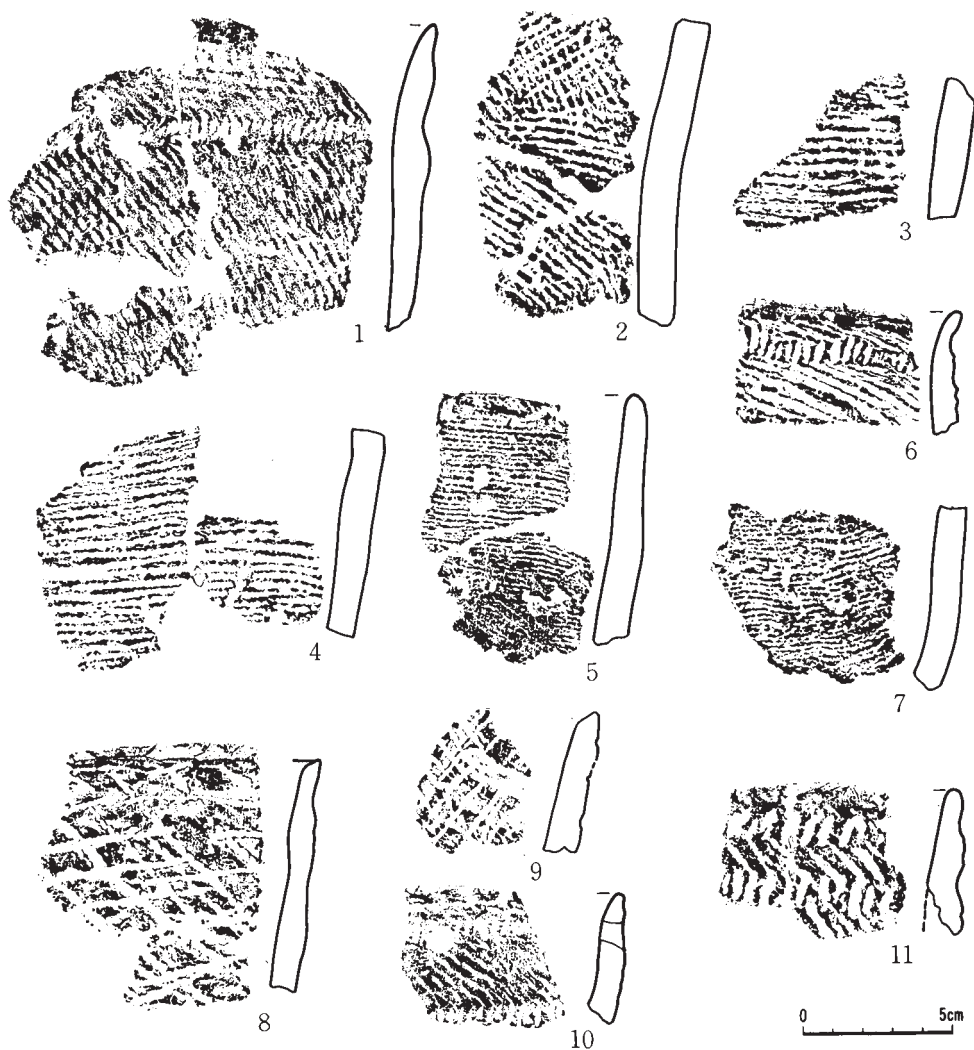
地区・層位：EL-21 II層  
 分類：Ⅺ群C類  
 口径×器高：(40.8)cm×(20)cm  
 外面文様：RL縄文、燃糸側面圧痕文  
 調整：粗いまで  
 登録：P837



地区・層位：EE-27 IV下層  
 分類：Ⅺ群C類  
 口径×器高：23.6cm×(26.2)cm  
 外面文様：RL縄文、燃糸側面圧痕文  
 調整：粗いまで  
 登録：P一括

0 10cm

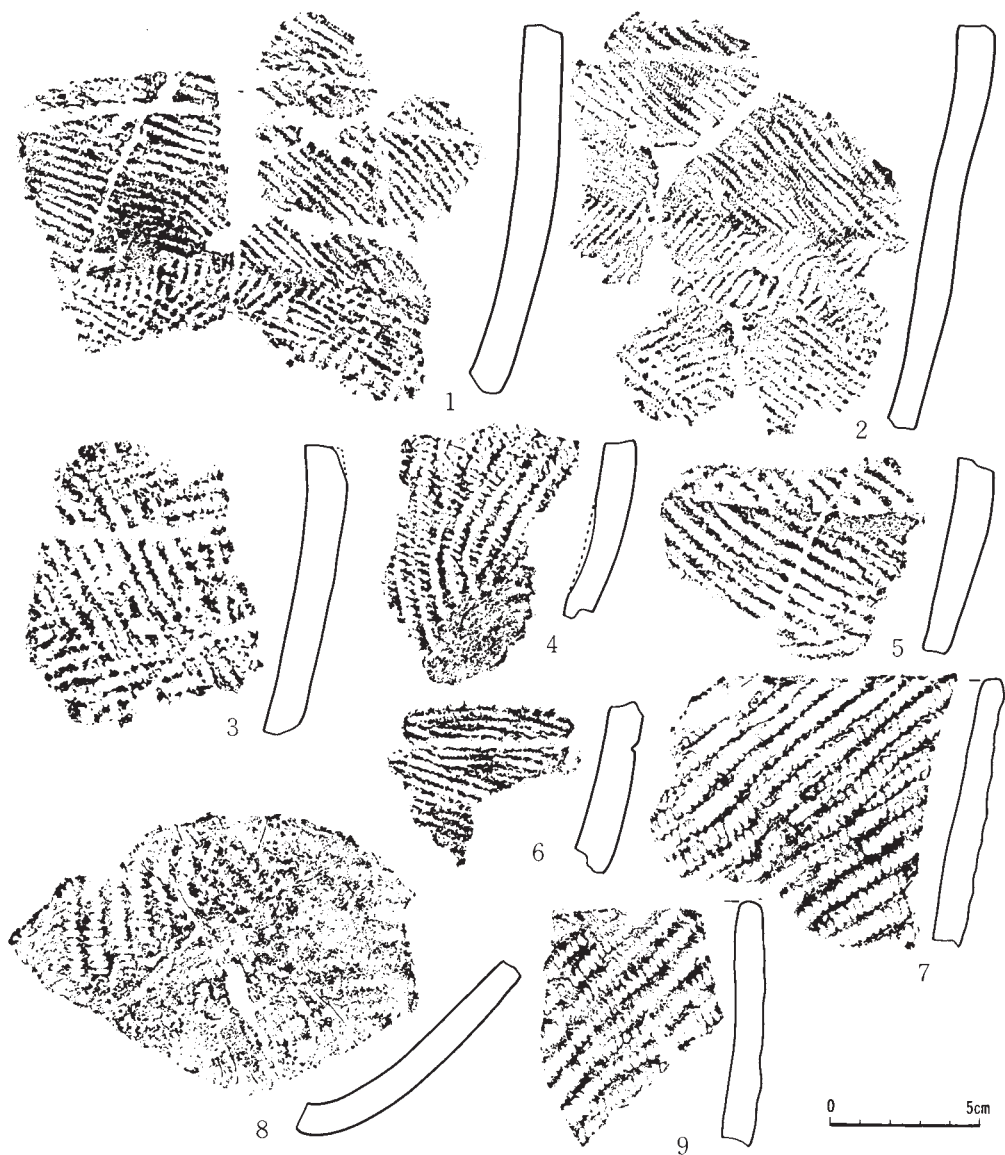
図189 遺構外出土土器 第Ⅺ群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	DL-22 II層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体圧痕文・単軸絡条体回転文	指頭押	P 15
2	DQ-14 IV層	Ⅱ群A類	体部	単軸絡条体回転文	なで	P 2
3	DR-14 IV層	Ⅱ群A類	体部	単軸絡条体回転文	指頭押	P 27
4	DS-13 IV層	Ⅱ群A類	体部	単軸絡条体回転文	指頭押	P 32
5	DP-21 I層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体回転文	条痕	P 17
6	EK-23 IV層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体回転文	粗い条痕	P 339
7	ED-26 IV上層	Ⅱ群A類	体部	単軸絡条体回転文	なで	P 2079
8	EN-21 IV層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体回転文	指頭押	P 16
9	DO-17 IV層	Ⅱ群A類	体部	単軸絡条体回転文	指頭押	P 17
10	DL-23 II層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体圧痕文・単軸絡条体回転文	指頭押	P 14
11	DL-22 II層	Ⅱ群A類	口縁部	単軸絡条体圧痕文・単軸絡条体回転文	指頭押	P 21

図190 遺構外出土土器 第Ⅱ群A類土器

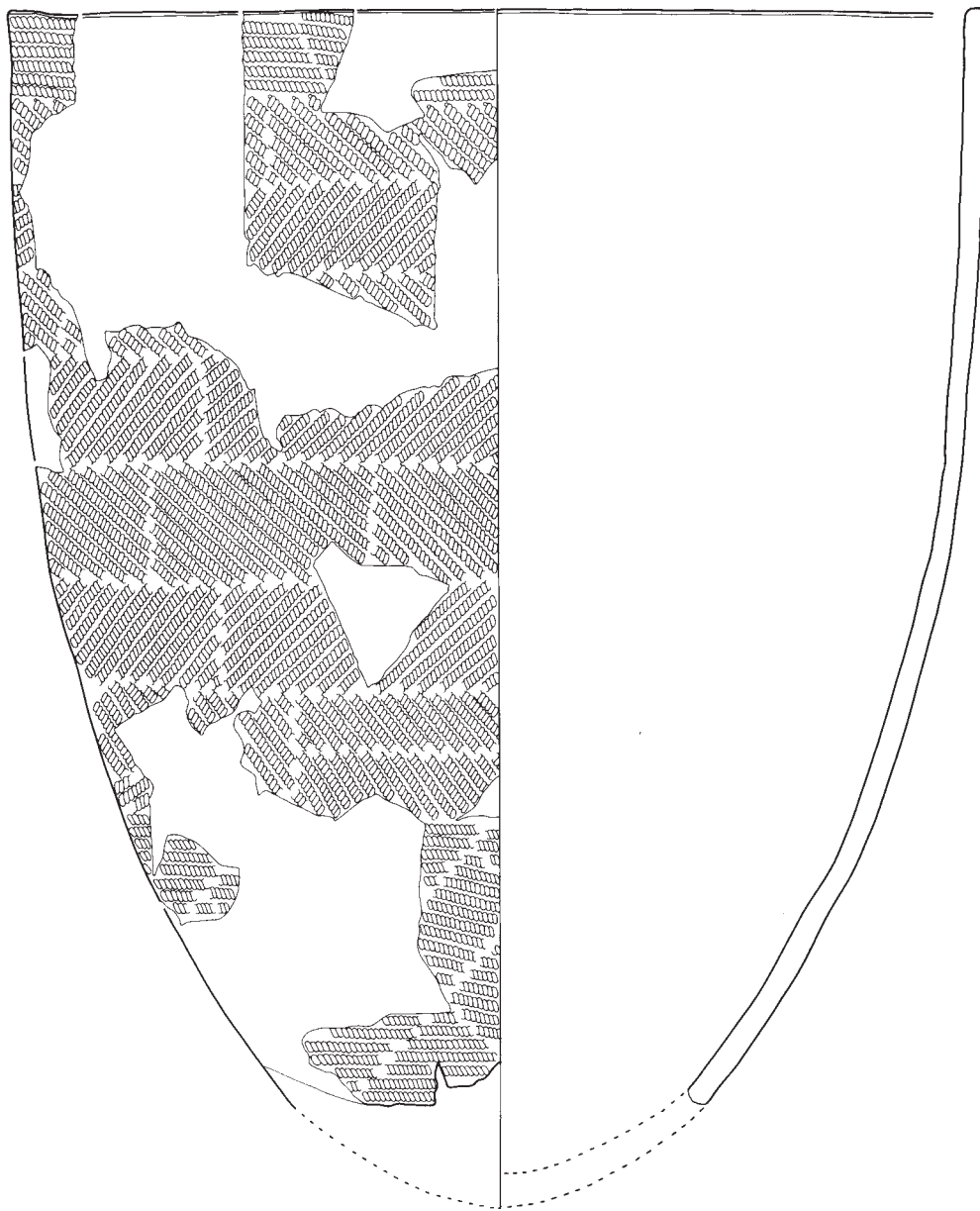


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	包A-V IV層	XII群C類	体部	RL縄文・燃糸側面圧痕文		なで	P 97
2	包A-V IV層	XII群C類	体部	O段多条RL縄文・燃糸側面圧痕文		なで	P 96
3	DP-17 IV層	XII群B類	体部	O段多条RL縄文		条痕	P 8
4	DN-14 不明	XII群B類	体部	O段多条LR縄文		なで	P 3
5	DL-15 II層	XII群B類	体部	O段多条RL縄文		指頭押	P 6
6	DP-14 IV層	XII群C類	体部	O段多条RL縄文・燃糸側面圧痕文		指頭押	P 13
7	DR-13 II層	XII群B類	口縁部	O段多条LR縄文		粗いなで	P 201
8	包A-II IV層	XII群B類	底部	O段多条LR縄文		粗いなで	P 2
9	DO-19 I層	XII群B類	口縁部	O段多条LR縄文		粗いなで	P 202

図191 遺構外出土土器 第XII群土器



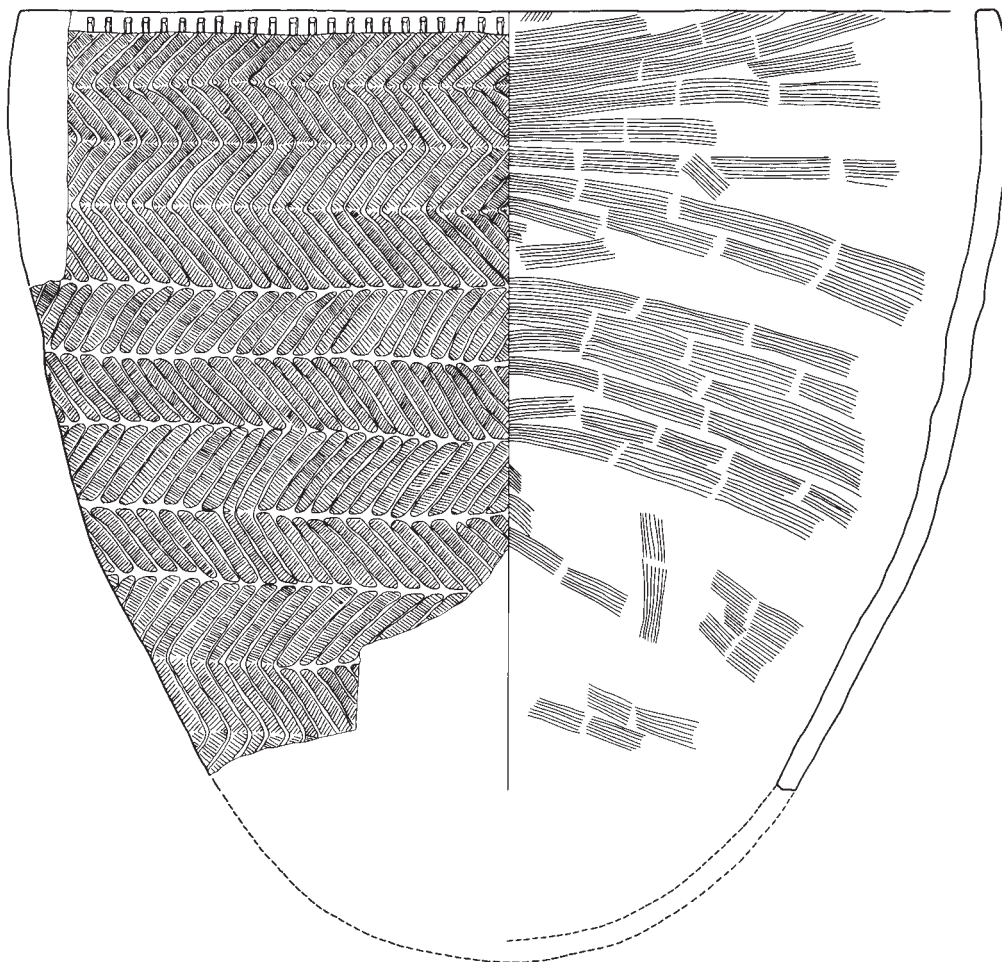


地区・層位：包A-6 IV層  
 分類：Ⅷ群A類  
 口径×器高：39.3cm×43.8cm  
 外面文様：D段多条RL縄文、LR縄文  
 調整：なし  
 登録：P201

0 10cm

図192 遺構外出土土器 第Ⅷ群土器

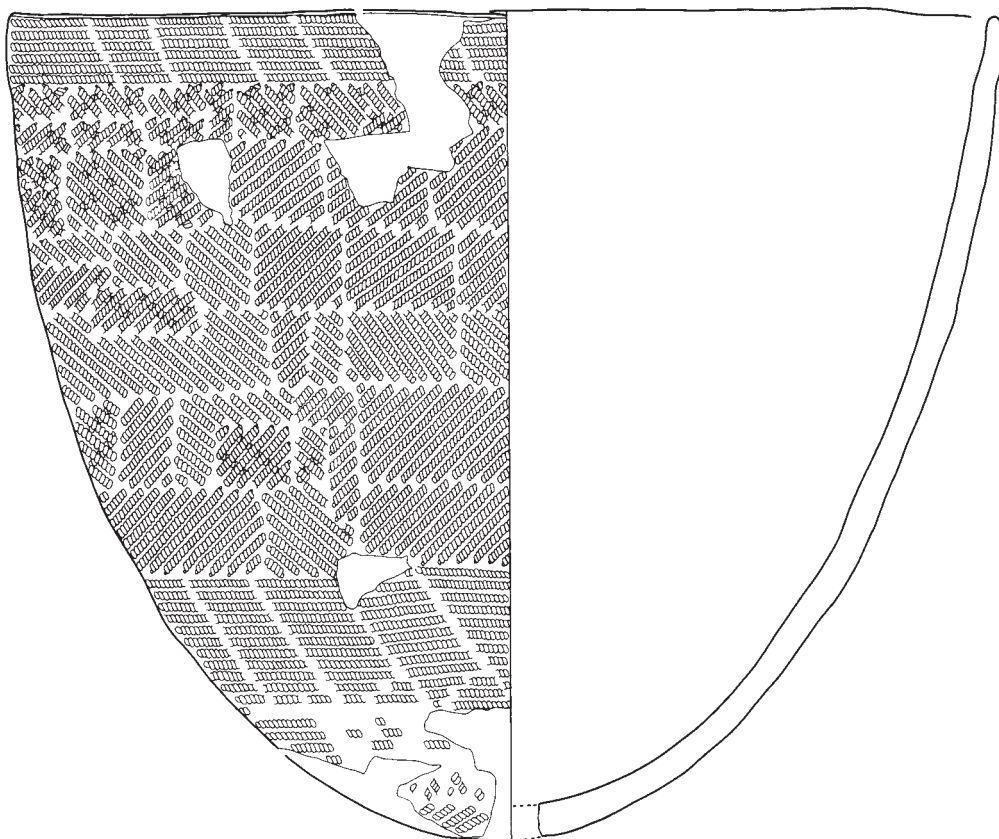




地区・層位：DQ-19、DO-17、21 IV層  
 分類：Ⅷ群B類  
 口径×器高：42.3cm×33.5cm  
 外面文様：無節L縄文、R縄文(条内磨消)  
 口唇部外面刻目  
 調整：麗なで  
 登録：P202

0 10cm

図193 遺構外出土土器 第Ⅷ群土器



地区・層位：DL-14 IV層  
 分類：Ⅷ群A類  
 口径×器高：42.5cm×35.6cm  
 外面文様：O段多条LR縄文、RL縄文  
 調整：なで  
 登録：P203

0 10cm

図194 遺構外出土土器 第Ⅷ群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EH-20 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条RL縄文・LR縄文	なで	P 335
2	DM-13 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋なで	P 8
3	EC-25 IV上層	XⅧ群B類	口縁部	○段多条RL縄文	なで	P2061
4	DL-14 IV層	XⅧ群A類	口縁部	○段多条LR縄文	なで	P1101
5	EE-28 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P2083
6	DK-16 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P 7
7	DL-19 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P 9
8	DK-17 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P 11
9	DK-21 IV層	XⅧ群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P 3

図195 遺構外出土土器 第Ⅷ群土器



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	DN-17 IV層	XII群B類	体部	○段多条LR縄文・RL縄文	篋なで	P 6
2	不明	XII群B類	体部	○段多条	篋なで	P 13
3	DN-20 IV層	XII群B類	体部	○段多条RL縄文	篋なで	P 15
4	DM-13 IV層	XII群B類	体部	○段多条RL・LR縄文	篋なで	P 2
5	包A-VI IV層	XII群B類	体部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋なで	P 165
6	DK-15 II層	XII群B類	体部	○段多条RL縄文	篋なで	P 4
7	DK-16 フク土	XII群B類	体部	○段多条RL縄文	篋なで	P 18
8	DN-22 I層	XII群B類	体部	○段多条RL縄文	篋なで	P 17
9	EM-17 II層	XII群B類	口縁部	○段多条LR縄文	篋なで	P 1

図196 遺構外出土土器 XII群B類土器

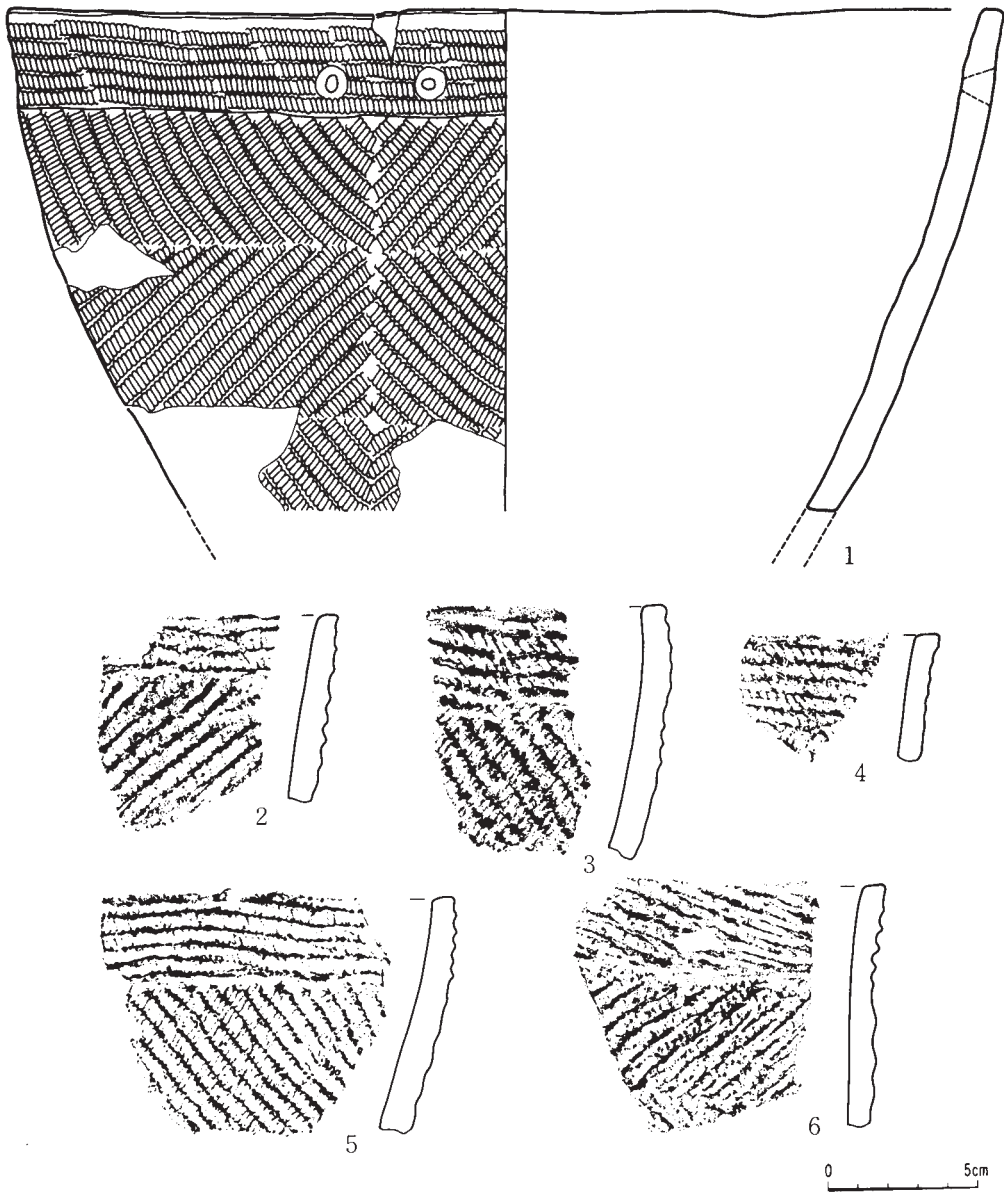


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	DK-16 IV層	XIII群A類	体部	○段多条RL縄文・LR縄文・撚糸側面圧痕	条痕	P 2
2	DQ-24 IV層	XIII群A類	口縁部	○段多条RL縄文・LR縄文	籠なで	P 607
3	EG-21 IV層	XIII群B類	口縁部	撚糸側面圧痕・刻目	なで	P 3
4	EB-22 IV上層	XIII群B類	口縁部	○段多条RL縄文・LR縄文	籠なで	P2029
5	E1-26 IV層	XIII群A類	口縁部	押型文・○段多条RL縄文・LR縄文	なで	P 1
6	EH-22 IV層	XIII群B類	口縁部	○段多条LR縄文・RL縄文	籠なで	P 201
7	DS-23 不明	XIII群B類	口縁部	○段多条LR縄文	籠なで	P 203
8	DQ-14 IV層	XIII群B類	口縁部	○段多条LR縄文	籠なで	P 204

図197 遺構外出土土器 第Ⅲ群A類土器





縄文土器観察表

土器	地区・層位	分織	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	BQ-21 IV層	XII群A類	略完形	○段多条RL縄文・LR縄文	篋なで	P 1201
2	DP-21 I層	XII群A類	口縁部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋なで	P 7
3	DR-23 IV層	XII群A類	口縁部	○段多条RL縄文	篋なで	P 420
4	DK-18 IV層	XII群A類	口縁部	○段多条RL縄文	篋なで	P 8
5	DP-20 IV層	XII群A類	口縁部	○段多条RL縄文	篋なで	P 5
6	ED-21 IV上層	XII群A類	口縁部	○段多条RL縄文・LR縄文	篋なで	P 2007

図198 遺構外出土土器 第XII群A類土器

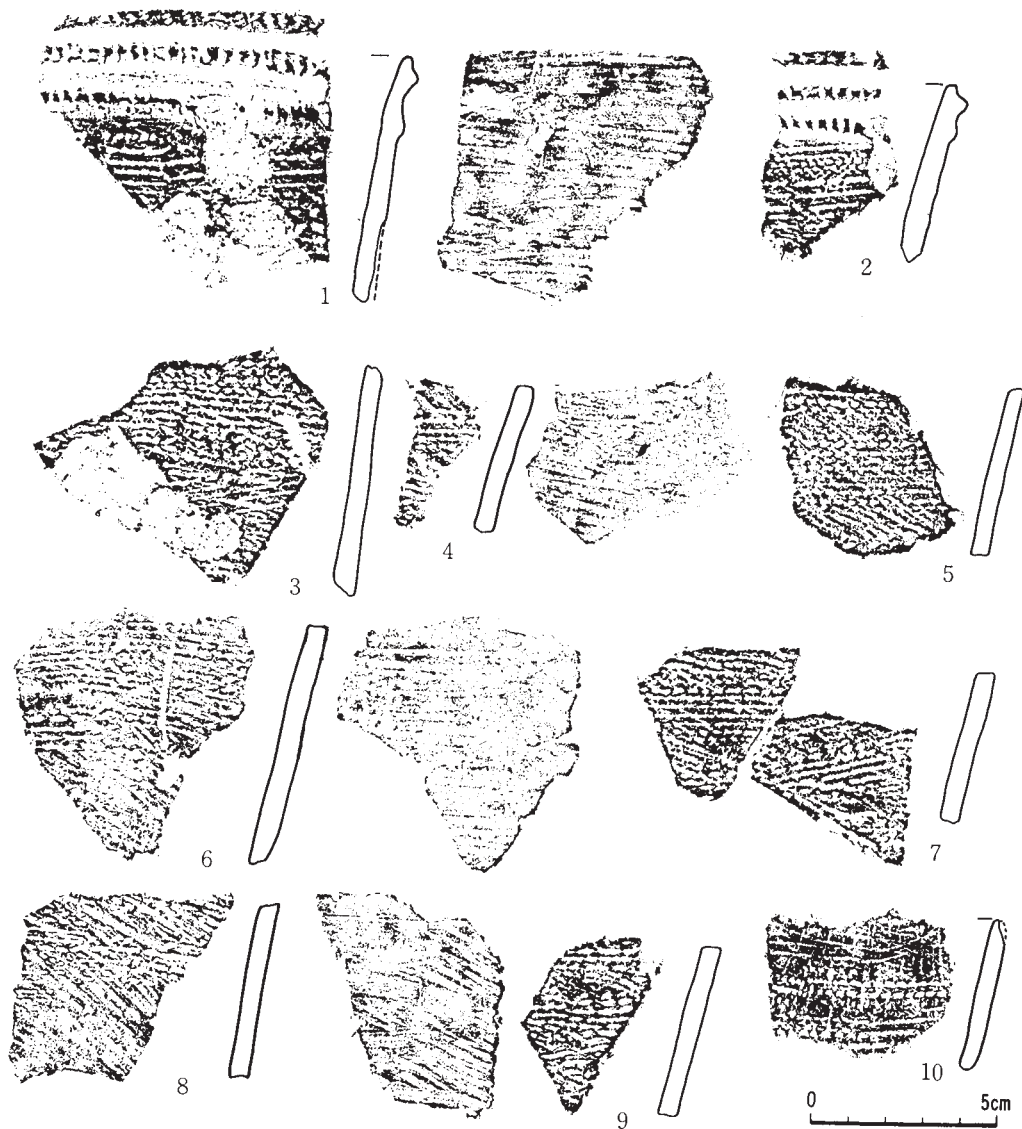




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EE-20 ED-20	IV上層 XIV群A類	略完形	○段多条RL縄文(ループ文)		篋まで	P 2024
2	EN-18	IV層 XIV群B類	体部	結束第一種(RL縄文・LR縄文)		篋まで	P 4
3	EK-18	IV層 XIV群B類	体部	結束第一種(RL縄文・LR縄文)		篋まで	P 1
4	EH-21	IV層 XIV群B類	体部	結束第一種(RL縄文・LR縄文)		篋まで	P 7
5	EG-18	IV層 XIV群A類	体部	○段多条RL縄文(ループ文)		篋まで	P 8
6	ER-15	IV層 XIV群B類	体部	結束第一種(RL縄文・LR縄文)		篋まで	P 6
7	EH-15	IV層 XIV群A類	略完形	○段多条RL縄文・LR縄文(ループ文)		篋まで	P 9

図199 遺構外出土土器 第XIII群・第XIV群土器



繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	不明 IVa層	XV群D類	口縁部	細隆起線文、貝殻文、口唇部絡条体圧痕文	条痕	P 1
2	EG-26 IV層	XV群D類	口縁部	細隆起線文、貝殻文、口唇部絡条体圧痕文	条痕	P 2
3	EF-21 IVb下層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 3
4	EE-21 IV上層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 2349
5	EG-21 IV層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 5
6	EC-21 IV上層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 3035
7	EG-21 IV下層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 271
8	EC-21 IV下層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 2698
9	不明 IV層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 9
10	EF-22 IV層	XV群D類	体部	貝殻文	条痕	P 10

図200 遺構外出土土器 第XV群土器

(3) 石器 (201~272、写真44~68)

遺構外からは、1,871点の石器及び734点の剥片および石核が出土した。またダンボール80箱分の礫が出土した。これらの石器について、器種ごとに述べ、実測図及び計測表(表25)を掲載する。計測表中の石質の略称は、表22のとおりである。なお、表23・表24に器種ごとの数量と破損品の内訳を示した。

なお土師器を伴う住居跡内から出土した縄文時代のものと思われる石器については図273と表26に記載し、本項において述べる。

表22 石質略号

頁……頁岩	チャ…チャート	千輝…千枚岩質輝緑凝灰岩
黒……黒曜石	ホ……ホルンフェルス	多安…多孔質安山岩
安……安山岩	石……石英	礫岩…礫岩
砂……砂岩	花閃…花崗閃緑岩	緑千…緑色千枚岩
珪頁…珪質頁岩	石ホ…石英ホルンフェルス	緑頁…緑色頁岩
流……流紋岩	輝凝…輝緑凝灰岩	古安…古期安山岩
粘……粘板岩	泥……泥岩	鉄石…鉄石英
閃……閃緑岩	玉……玉ズイ	スコ…スコリア
凝……凝灰岩	玄……玄武岩	碧……碧玉
玢……玢岩	斑糝…斑糝岩	
輝……輝緑岩	斑……斑岩	

表23 出土石器集計表(1)

( )は欠損品

	遺 構 内	遺 構 外	計
1 石 鎌	46( 16)	42( 12)	88( 28)
2 石 槍	12( 2)	22( 3)	34( 5)
3 石 ヒ	33( 14)	76( 23)	109( 37)
4 直刃斧・石篋類	9( 2)	41( 7)	50( 9)
5 石 錐	6( 0)	13( 0)	19( 0)
6 異形石器	0( 0)	3( 0)	3( 0)
7 不定形石器	26( 5)	88( 6)	115( 12)
8 磨製石斧	4( 3)	44( 34)	48( 37)
9 打製石斧	30( 8)	125( 43)	161( 55)
10 礫 器	0( 0)	15( 0)	15( 0)
11 石 錘	10( 4)	141( 24)	161( 31)
12 磨敲凹石類	164(133)	1096( 762)	1295( 930)
13 石 皿 類	45( 35)	165( 133)	220( 173)
計	385(222)	1871(1047)	2318(1317)
剥 片	158	711	872
石 核	4	23	27
計	162	734	899
合 計	547(222)	2605(1047)	3217(1317)

表24 出土石器集計表(2)

1. 石 鎌

(( ))は欠損品、合計には分類不能な欠損品を含む

分類		遺構内	遺構外	計
I		1	2(1)	3(1)
II A	1	6(2)	4(2)	10(4)
	2	9(4)	5	14(4)
	3	3	3(1)	6(1)
	4	1	2	3
	計	19(6)	14(3)	33(9)
II B	1	2	1	3
	2	6(3)	6	12(3)
	3	2	1	3
	計	13(3)	10	23(3)
II C	2	0	1	1
	3	0	1(1)	1(1)
	4	2	4	6
	計	2	6(1)	8(1)
II D		5(1)	4(1)	9(2)
合 計		46(16)	42(12)	88(28)

分類		遺構内	遺構外	計
A II	b 計	6(1)	20(3)	26(4)
	計	9(3)	26(4)	35(7)
A III	a 1	2	2	4
	a 計	2	2	4
	b 2	0	3	3
	b 3		3	3
	b 計	0	8(1)	8(1)
計	2	10(1)	12(1)	
A IV	b 2	2	1	3
	b 3	1	1	2
	計	3	4(1)	7(1)
A	計	33(14)	74(23)	107(37)
B		0	2(0)	2(0)
合 計		33(14)	76(23)	109(37)

2. 石 槍

分類		遺構内	遺構外	計
A		1	3	4
B		4(2)	8(3)	12(5)
合 計		12(2)	22(3)	34(5)

4. 直刃斧・篋状石器類

分類		遺構内	遺構外	計
I		2	10	12
II	a	4	13	17
	b	1	12(1)	13(1)
	計	7	35(1)	40(1)
合 計		9(2)	41(7)	50(9)

3. 石 七

分類		遺構内	遺構外	計
A I	a 1	3	7(1)	10(1)
	a 計	4(1)	7(1)	11(2)
	b 1	3	1	4
	b 2	0	2	2
	b 計	4(1)	5(1)	9(2)
	計	8(2)	12(2)	20(4)
A II	a 1	2(1)	2	4(1)
	a 2	0	4(1)	4(1)
	a 計	3(2)	6(1)	9(3)
	b 1	0	2	2
	b 2	5(1)	10(1)	15(2)
	b 3	1	6	7

5. 石 錐

分類		遺構内	遺構外	計
I		4	4	8
II		2	9	11
合 計		6	13	19

6. 異形石器

分類		遺構内	遺構外	計
		0	3	3

7. 不定形石器

分類		遺構内	遺構外	計
		26(5)	88(6)	115(12)

### 8. 磨製石斧

分類	遺構内	遺構外	計
I	2(1)	5(2)	7(3)
II	0	6(5)	6(5)
III	0	4(2)	4(2)
IV	0	3(1)	3(1)
V	1(1)	3(1)	4(2)
合計	4(3)	44(34)	48(37)

分類		遺構内	遺構外	計
9	III b タ	1(1)	28(8)	27(9)
10	III c	1(1)	22(17)	23(18)
11	IV a ケース	0	1(1)	1(1)
12	IV a タ	4	41(16)	46(17)
13	IV b スータ	10(4)	72(31)	80(34)
14	IV c	5(2)	52(15)	57(17)
	合計	164(133)	1096(762)	1295(930)

### 9. 打製石斧

分類	遺構内	遺構外	計
I	4(1)	9	13(1)
II	2(1)	19(3)	23(5)
III	7	22(2)	29(2)
IV	5(1)	14(4)	20(6)
V	5	18(1)	24(2)
合計	30(8)	125(43)	161(55)

### 13. 石 皿

分類		遺構内	遺構外	計
I	a	0	11(6)	14(7)
	b	2(2)	9(2)	14(6)
	計	2(2)	20(8)	28(13)
II	a	8(5)	19(15)	28(21)
	b	5(1)	8(5)	14(7)
	計	13(6)	27(20)	42(28)
III	a	2(2)	14(12)	17(14)
	b	0	1(1)	1(1)
	計	2(2)	16(13)	19(15)
IV		0	13(5)	13(5)
V		3	6(4)	10(4)
合計		45(35)	165(133)	220(173)

### 10. 礫 器

分類	遺構内	遺構外	計
	0	15(0)	15(0)

### 11. 石 錘

分類	遺構内	遺構外	計
I	6(2)	107	120(13)
II	0	10	10
III	0	6	7
IV	2	5(1)	7(1)
合計	10(4)	141(24)	161(31)

### 12. 磨 敲 凹 石 類

分類		遺構内	遺構外	計
1	I a ケース	0	20(2)	20(10)
2	I a タ	1	10(1)	11(1)
3	I b スータ	10(1)	43(8)	53(9)
4	II a タ	1(1)	0	1(1)
5	II b スータ	2	11(4)	13(4)
6	II c ・ II d	0	23(3)	21(2)
7	III a タ	0	16(1)	19(2)
8	III b ス	83(77)	632(527)	736(626)

## 1. 石鏃 (図201、写真44・45)

44点出土した。これらは2点の有茎鏃と42点の無茎鏃に大きく分けられる。

### 有茎鏃 (1、2)

2個とも薄手で、側縁がジグザグになっている。2は関の部分か他のものほどはっきりせず無茎鏃のA4類に似るがやや凹湾している。

### 無茎鏃 (3~28)

全体の形態と基部形態により分類し、これに長幅比による分類を加え計測表に付した。

全体の形態	基部形態	長幅比
A 三角形	1 凹基	1.99以下
B 五角形	2 平基	2.00~2.99
C 木葉形	3 円基	3.00~3.99
D 不定形	3 尖基	4.00~4.99
	5 長脚	5.00以上

以下に各種ごとに実測図の番号を示し、特徴のあるものについて説明を加える。

### A1類 (3・5・6)

3は厚く、基部側縁にこぶ状のもり上りがある。

### 2類 (4・7・8・10・11)

図273-3は唯一の黒曜岩製の石器で非常に薄くつくられている。

### 3類 (9・12・13・14)

### 4類 (15・16)

15は基部の両側が内湾している16は直線的である。

### B1類 (第5号・第9号住居跡内出土)

### 2類 (19~24・27)

### 3類 (17)

### 5類 (18)

18は、両面に調整がみられるが、表面側は中央が盛りあがって稜をなし、裏面は平坦である。

そして表面側に膨らみ弓なりにになっている。また、脚部が大きく外へせり出している。

### C4類 (第204号・第205号住居跡内出土)

### D類 (26・27・28)

いずれも形態が非定形的なものであるが、尖った先端部をつくり出し、厚さが幅に比べ薄いものである。調整も粗雑である。



## 2．石槍（図202、写真46）

22点出土した。

### A 柳葉形のもの（1～3）

いずれも細長い大形のものである。2と3は基部側縁がやや凹湾して有茎状である。細部調整は全面に丁寧に施され、深く側縁から中央に達して、ほぼ反時計回りの順に行われている。

### B 木葉形のもの（4・6～10）

Aに比べ小形で、細部調整が粗雑である。9は、裏面にはほとんど細部調整がみられない。6・10は比較的丁寧に調整されている。4は、側縁の中ほどが角ばって菱形に近い形である。6は一部欠損しているが基部が平らなものと思われる。

## 3．石匕（図203～208、写真47～49）

縦形石匕が74点、横形石匕が2点出土した。

### A 縦形石匕

縦形石匕は、側縁の形態を

- 一側縁が内湾し、他の側縁が外側へ膨らむもの
- 一側縁が直線的で、他の側縁が外側へ膨らむもの
- 両側縁が直線的なもの
- 両側縁が外側へ膨らむもの

と分け、次にその中で全体の幅で

- a 狭いもの
- b 広いもの

とし、さらにそれらを先端の形態により

- 1 先端が細く尖るもの
- 2 先端が幅広で、長軸に対し斜のもの
- 3 先端が幅広で、長軸に対しほぼ直角のもの

と細分した。

また次の5項目について観察を行い計測表に記載した。

- 1．裏面において細部調整が左右どちらの側縁にみられるか
- 2．裏面において歯こぼれ状の微細な剥離が左右どちらの側縁にみられるか
- 3．表面にみられる稜が中軸線から左右どちらに片寄っているか
- 4．類・類において側縁部の膨らみが左右どちらであるか

5. 2類において先端の辺の傾きが右下がりであるか左下がりであるか

これらについて右の場合は「R」、左の場合は「L」、両方の場合は「RL」、中央の場合は「M」と記号で表わした。いずれの項目においても右か左かは表面側からみた位置とした。このため1と2では裏面からみて右の場合は「L」、左の場合は「R」としている。

I a類 (1~8)

I a I類 (1~8)

3と6は他と逆に先端が左に傾いている。3の裏面は右側縁に細部調整が施され、左側縁には歯こぼれ状の微細な剥離があり、これも他の多くのものと逆である。また、器体が厚くなり稜をなす部分はやや左側にかたよっている。

I b類 (9~12・16)

I b I類 (10)

9はつまみ部分に明瞭な決りがみられないが、主に片面に加工があり先端が鋭く突出している他のものと共通の状態を呈している。裏面の上部にはバルブが残っている。12は、表面も側縁以外に細部調整がみられず中央部が平坦になっている。

I b 2類 (12・16)

16は先端の辺の裏面にも細部調整がみられる。

a類 (13~15・17~20)

a I類 (13・14)

14は表面の左上に礫表皮を残している。

a 2類 (17~20)

b類 (21~34・37・40・41・43・44・46)

b I類 (21・23)

23は裏面の右側に刃こぼれ状の微細な剥離がみられる。

b 2類 (25~33)

32は他と異り、先端の辺が左に傾いている。そして中央の稜も左にかたよっている。裏面の細部調整は右側にみられる。30は右側縁がこぶのように突出している。25は横長の剥片を用いているもので、裏面左側にバルブがみられ側縁に打面がわずかに残っている。24も横長の剥片を用いているものである。27は裏面左側に深い細部調整がみられる。

b 3類 (34・37・43・44・46)

37は玉髓製のものである。37・43・44・46は裏面の先端の側縁にも細部調整がなされている。

a類 (35・36)

a I類 (35・36)

36は12.0cmと大形のもので、つまみを作り出している抉り込みが浅い。

b類 (38・42・45・47)

b 2類 (40・41)

b 3類 (42・45・47)

b類 (48～51)

b 2類 (50)

b 3類 (48・51)

48は非常に粗雑なつくりのものであるが、つまみ状の部分があるため石匕とした。

B 横型石匕 (52・53)

52は細いつまみをもつものである。裏面上側に歯こぼれ状の微細な剥離がみられる。53は二等辺三角形の形態のものである。これも裏面の左右両側縁と下縁に歯こぼれ状の微細な剥離がみられる。

#### 4. 直刃斧・石篋類 (図209～211、写真50・51)

類が10点、類が25点出土した。

類 刃部表面に礫表皮か第1次剥離面を残すもの(1～10)

2、5は湾曲した部分の礫表皮をそのまま刃部として用いているものである。5は刃部から表面全体に礫表皮が残っている。1は、刃部を下からみると刃縁の両端が表面側に反り上がっている。3・5・7の基端は尖っていて、全体の形態が三角形である。

類 刃部表面に礫表皮や第1次剥離面を残さず細部調整による剥離面で覆われているものこれを細部調整の精粗により更に2分した。

a類 刃部の細部調整が大きく、幅、深さも一定でなく刃部表面の凹凸が大きいもの(12～23)

20は台形状、12・19・21は三角形を呈している。20は裏面の側縁部全体に浅い細部調整が整然と施されている。16は側縁の中ほどが外側に膨らんでいる。刃部形状は直線的ないしゆるく外へ膨らむものが多い。17は偏刃である。16・20・23の刃部断面はかなり大きい角度である。

b類 I aに比べて刃部の細部調整が細く大きさがそろっていて刃部表面に凹凸が少いもの(24～34)

24・27、28・29・32・33は、裏面の側縁全体に丁寧な浅い細部調整が施されている。32は台形状を呈している。31の側縁は、一方が外に膨らみ他方が内湾している。24は両側縁が内湾し揆形をしている。刃部形状は、33は刃縁が半円状を呈し、26は偏刃である。24の刃部は両面に細部調整がみられ両刃状を呈している。25・26・27・31・32など刃部断面の角度が大きいもの

が多くみられる。

#### 5．石錐（図212、写真52）

幅と厚さにあまり差のない細く突出する先端部をもつものである。13点出土した。

類 先端部から基部まで自然に幅が変化しているもの（1～3）

1・2・3は、先端から基部まで細部調整を施している。いずれも先端が磨滅してトロトロになっているが、1と2は両端部が磨滅している。

類 先端部と基部の間にくびれ状の部分があるもの（4～13）

比較的くびれの小さいもの（4・8）と大きいもの（5～7・9～13）がある。6・9・12・13は先端がかなり磨滅している。先端部の断面形は、6が台形状であるほかは三角形状である。

#### 6．異形石器（図212、写真52）

ここでとりあげた3点の石器は形態において似るところがあるため異形石器として記載する。

一端が厚く、他端が急に幅が広くなり薄くなるという形態のものである。16は背面に礫表皮を残すものである。基部の片方の側縁と背面の中央の稜は敲きつぶされている。先端には基軸にリングが直交する大きな剥離がある。腹面の細い側の端にはバルブが残っている。幅の広い側の一倒縁の表裏両面に微細な剥離がみられる。14も16と同様基部側縁がたたき潰され、先端に大きな剥離がある。先端の側縁の腹面側に微細な剥離がある。15は先端はあまり鋭くない、左側縁は表面側に微細な剥離がみられ、右側縁は表面側に比較的大きな剥離と微細な剥離が、裏面側には歯こぼれ状の剥離がみられる。

#### 7．不定形石器（図213～215、写真53）

88点出土した。

珪質頁岩などの細粒の石材の剥片に細部調整を施したもので、これまで示したものの以外のものであり、形態に規格性があまりみられない。

1～19は片面あるいは両面の側縁にほぼ全体に亘る細部調整がみられるものである。この細部調整は一般に小さく、側縁部に限られる。

20～35は剥片の中央にまで到る細部調整が施されるもので、この剥離は大きく深い。

36～41は側縁の一部に細部調整を加えて抉られたようなくびれ部分をもつものである。

以上に述べた各機種他に微細な剥離をもつものを含めて剥片が711点出土している。このうち数点の剥片は接合した。

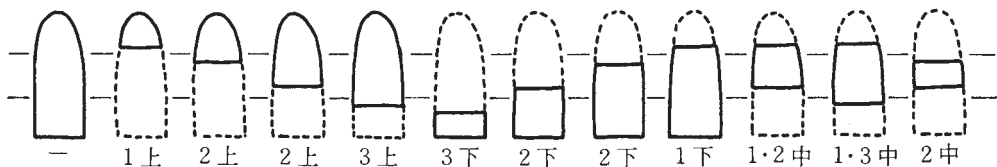
また石核も数点出土した。

## 8. 磨製石斧 ( 図216~218、写真54・55 )

44点出土した。この内欠損品は34点である。

本類の破損品については次のように破損の状態を分類し計測表に記載した。

破損の位置は器体を便宜的に3等分して考え基部側を1、中央部を2、刃部側を3とした。破損品が破損のどちら側のものであるかは、その破損品の器体の中での位置により上・中・下・右・左などで示した。これらの数字と文字を組み合わせ、残存部位とした。例えば刃縁付近が破損し、基部側が残るものは「3上」である。また逆に刃部のみが残る場合は「3下」である。



### 類 局部磨製のもの ( 1 ~ 5 )

5は大型のものである。基端が細く刃部が広がって円刃状を呈する。基端と刃部に剥離が加えられ刃部はその後さらに磨かれている。側縁には部分的に敲かれた痕跡がみられる。3の刃部は片面に大きな1回の剥離がみられ、他面は粗い数個の剥離で作り出されている。こちらの面が磨かれている。3と5は頁岩製である。1と2は、ホルンフェルス製で自然礫に打欠きを加えず刃部の研磨のみの加工をしているものである。4は側縁に敲打痕がみられる。

### 類 敲打により成形しているもので主に乳棒状の形態を呈するもの ( 7 ~ 11・18 )

ほとんどが欠損品であり、刃部を残すものは11のみである。10は基部は完成しているが、刃部にあたる部分は太いままで剥離とわずかな敲打痕がみられるだけで、刃の形態をなしていない。成形途中のものと考えられる。側縁には一部に自然面を残す。7と8も表裏面や側面に自然面を残している。石材は輝緑岩、砂岩、凝灰岩などである。

### 類 擦切加工の痕跡を残すもの ( 12 ~ 14 )

14はかつおぶし様の形態のものである。表裏両面から擦って溝をつけた後折りとった際の折断面がみられる。13は側縁からの剥離も施され、また基部付近に平行な傷状の痕跡もみられる。12は輝緑凝灰岩、13、14は緑色頁岩である。

### 類 研磨により加工されているもので片刃のもの ( 15 ~ 17 )

17は輝緑凝灰岩製で厚いものである。刃部が斜めに切り落されたような片刃状に作られている。一部に擦切痕もみられる。15は緑色頁岩製の小形のもので断面形が長方形をしている。16は頁岩製で、棒状のもの先端に表裏から研磨を加えているが、研磨が浅く刃部は尖っていない。

い。

類 ~ 類以外のもの定角式のものなどを含む(20~22)

20は頁岩製だが、裏面は自然面をやや磨いている程度で、表面は剥離面の縁辺のみを磨いて刃部を作り出している。両側面は平坦に磨かれている。22は輝緑凝灰岩のもので全面研磨されている。刃部側の幅が狭くなっていき、断面は長方形に近い形を呈している。基部は折れたような面となっており、この面の周囲には基部側から刃部側へ向けての打欠かれた剥離がみられる。

### 9. 打製石斧 (図219~229、写真56~62)

125点出土した。このうち欠損品は43点である。

打製石斧については残存部位と磨滅・敲打などの痕跡を観察し記号化して計測表に記載した。残存部位の表現は磨製石斧と同じである。

磨滅・敲打などの痕跡については次のようにその種類を記号化し、それがみられる位置については模式図の記号を用いて表わした。

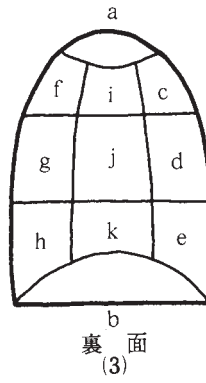
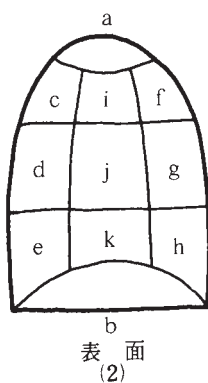
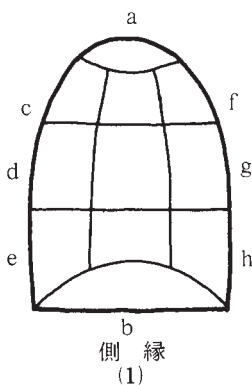
痕跡の種類

磨滅.....「マ」

擦り.....「ス」

敲打.....「タ」

剥離.....「ハ」



例 1aマ、2jタ、3hハ



類 刃部のみ加工するもの（1～12）

1～5・7は棒状の素材を用いているものである。主に刃部の剥離は片面のみに施されているが、5と7は裏面にもみられる。5は刃部表面の剥離が中央より基部寄りにまで達している。

8と6は厚手で大形のものである。いずれも基部にも剥離がみられ、敲きの跡も残っている。6は側縁に擦りの跡がみられる。

9・10・12は薄手で幅広のものである。9は刃部の先端が擦られている。

類 刃部のほか側縁にも剥離がみられるが、表裏両面に礫表皮を残すもの（13～34）

13～17は棒状の形態のもので側縁の剥離が部分的にしかみられないものであり、類にかなり近い。3と15は刃部よりも側縁の剥離が顕著で、礫器としたものに似る。いずれも側縁や基部に敲き潰しの痕跡がある。16も側縁に敲かれた痕跡がある。14は基部に敲かれた痕跡がある。

18～22も幅広ではあるが剥離が側縁に部分的にしかみられなく、類と類似するものである。21は刃部が抉れていて、刃部先端の角度が鋭くない。基端と側縁に敲きの痕跡がみられる。18と20は幅広で薄く正面形が楕円形で、類と似る。22は裏面上部の中央に細い傷状のものが集中している痕跡がみられる。

23～28は剥離が全側縁に及んでいて形態が棒状のものである。24は側縁を打欠きによる成形の後、全体を擦っている。基部には大きな剥離面がありこの縁にも敲かれたような痕跡がある。23は破損品が接合したもので基部、側縁、裏面上部中央に敲かれた痕跡があり、表面の刃部などにも敲きまたは擦りの痕跡がある。26は側縁が全体的に磨滅している。28も側縁や刃部表面などに部分的に敲かれた痕跡がある。また基部裏面にも同様の痕跡がみられる。27は破損品が接合したものである。各剥離面の辺が刃部以外はほぼ全面的に敲かれている。裏面右側には大きな剥離があり右側が抉られた形になっている。25は小形のもので基部にも剥離があり上下も対称的にみえる。

29と30は扁平で剥離が側縁全体に及んでおり揆形を呈するものである。

31は大形で破損品が接合したものである。表裏がほぼ全面にわたって敲かれているものである。基部には自然面を残している。

32～34は表面にはわずかししか礫表皮の残らないもので、類に類似するものである。34は刃部裏にほぼ基軸に平行する擦痕がみられる。

類 片面を全面加工し、他の片面は自然面のもの（35～56）

35～38は側縁から刃部に移る部分が角張るものである。36は小形で筥状石器にも似る。

39～56は側縁から刃部にかけて丸みを帯びて自然に連続しているものである。このうち39・42～45は基部が細く尖っている。42・44・45はその中でも特に小形のものである。40・41・46～56は基部、刃部とも丸みを帯びているものである。40と41は比較的細長い。

類 片面を全面加工し、他の片面は1側縁のみを加工するもの(57~66・68~72)

57は棒状のもので左側に大きな縦方向の破砕面を残している。基端部は敲击潰されている。

58~62は側縁から刃部に移る部分が角張っているものである。

63は片方だけが角張りもう片方は丸みを帯びていて、基部は細長く尖っているものである。

64~66・68~72は側縁から刃部にかけて丸みを帯びているものである。64・66は基部が細くなって先端が尖っているものである。

類 片面を全面加工し、他の片面は両側縁を加工するもの(73~91)

73は棒状のもので表面が磨滅し、剥離の縁の稜がとれている。

74~78・80・81・図273-20は側縁から刃縁に移る部分が角張るもので、このうち74・75  
図273-20は細長い形のもの、80と81は小形のものである。

83と図273-19は片方だけ角張り、もう片方は丸みを帯びているものである。

82~91は側縁から刃縁にかけて丸みを帯びるものである。このうち79と82は小形のものである。

#### 10. 礫器(図230~232、写真63)

打ち欠きにより鋭利な側縁をつくり出しているもので、素材もチャート、千枚岩質輝緑凝灰岩、砂岩、安山岩、頁岩などの比較的粗く割れるものを用いていて剥離も粗く、打製石斧のように形態に左右対称などの規格性があまりみられないものである。15点出土した。8は剥離の端部に間接打法によると思われる打痕がみられる。2は端部にかけての側縁に剥離が施され先端が鋭利に作りだされているものである。反対の端部にも剥離がみられ、その末端が磨滅している。側縁の剥離のない部分にはスリの跡がある。1は正面形が三角形の形態で、両端部に剥離がある。突出する端部の脇と幅広の端部の一部とその脇に敲击の痕跡がある。6は円形で扁平な礫の周囲全体に剥離があるもので片面は自然面である。自然面の側にもわずかに剥離がみられる。10~14は扁平な礫を用いており、粘板岩の10以外は千枚岩質輝緑凝灰岩のもので、大形で剥離が粗い。

#### 11. 石錘(図233~238、写真64)

141点出土した。

類 長軸の両端に抉りをもつもの(1~54)

大きさは、長さが5cm大の小形のものから14cm大の大形のものまで様々みられる。形態は整った楕円のものが多いが30のようにいびつなもの、1のように棒状のものがある。また抉りは端部付近を加工するものが主であるが、中央まで達しているものもある。また抉りの末端は磨

滅しているものが多い。また平坦面に「敲き」のみられるものもある。

41～54は 類のうちでも長軸と短軸の長さの差が小さく 類に近いもので、 b類とした。

類 縦横ほぼ同じ長さのもので、両端に抉りをもつもの（55～65）

類 短軸の両端に抉りをもつもの（66～70）

69と70は千枚岩質輝緑凝灰岩のもので非常に薄手である。抉りの部分に広い範囲にわたって「磨り」のみられるものもある。

類 抉りが3か所以上にあるもの（71～75）

## 12. 磨敲凹石類（図239～267、写真65～67）

従来磨石・擦石・敲石・凹石などと呼ばれてきたものを一括したものである。自然の礫にあまり加工が施されておらず、若干の成形痕・使用痕によって自然礫と区別される。遺構外からは1,096点が出土した。

本類は、形態と成形・使用痕の位置によって分類し、成形・使用痕の種類と程度によってさらに細分した。基準とした形態、成形・使用痕の位置・種類・程度は次のように便宜的に分類し、記号化して文中と計測表に記載した。また、実測図ではそれぞれの種類を模式図のように表現した。この各々の分類は、あくまでも本遺跡の石器の中での相対的で連続的なものであり、画然と区別されるものではない。

形態

円盤状

棒状

長・側縁部をもつ断面・三角形・四角・楕円形などの形態

・ ・ 以外の形態

成形・使用痕

位置

a 平坦面

b 側縁

c 端部

d 側縁の端部付近

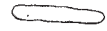
種類

痕跡の状態

「ケ」研磨

自然面よりも滑らかで光沢がある

「ス」磨・擦 自然面よりも滑らかだが光沢がない  
 自然面よりも荒れているが、自然面の形態（曲面）のまま  
 自然面よりも荒れていて、面が平面化し自然面との  
 境が稜をなす



「タ」敲・打 自然面よりも強く荒れていて、形態は自然面の状態  
 （曲面）のまま  
 自然面よりも強く荒れていて自然面の形態がえぐられ  
 凹凸のある面となる。



「ハ」「」剥離 敲・打欠による剥落



「ボ」凹み 表面の状態は「ス」「タ」と同様に数mm程度自然面よ  
 り窪むもの



なお「ケ - ス」や「ス - タ」はどちらともつかないものや、両者を含んでいるものを表して  
 いる。

程度

- 1 平坦面・側縁部にあつては、1つの面・側縁のうち全体になくとぎれがみられるもの。  
 円盤状礫では全周の半分以下のもの。端部・端部付近にあるものはすべて1とする。
- 2 平坦面・側縁部において1つの面・側縁の全体にとぎれなくみられるもの。  
 円盤状礫では全周の半分以上のもの。

またこれらの痕跡の周囲に「剥離」が伴うものについては表においてhの欄に 印を、伴わ  
 ないものは一印を付した。

以上を形態・成形・使用痕の位置・種類・程度の順に組みあわせ分類・細分類を表現した。  
 また複数の成形・使用痕が複合するものについては複合の欄に記号を用いて記入した。

なお以上の表現方法は石斧・石錘・石皿や遺構内出土石器についても同様である。

類 円盤状の形態のもの

I a類 円盤状で平坦面に成形・使用痕のみられるもの（1～25）

I a類ケ - ス 成形・使用痕が「磨き」や「擦り」のもの

3 は長さが幅に比べてかなり長く楕円形である。平坦面の「敲き」を伴うものがある。（15  
 ～17・19）

I a 類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの

半円形を呈するものの片面全面に「敲き」がみられるものがある。この「敲き」は細長く短い傷状のものが多数集合したもので、本類の他のものとは異なる。24・25の「敲き」は擦痕状の細かい傷の集合しているものである。痕跡は一般的な「敲き」であるが、中には荒れを伴う黒色の痕跡があるものもある。

I b 類 円盤状で側縁に成形・使用痕のみられるもの(26~49)

I b 類ス - タ 成形・使用痕が「擦り」または「敲き」のもの

「擦り」または「敲き」のいずれであるかは明瞭でないものが多い。チャートのものは平面化しており「擦り」と思われる。本類は痕跡が側縁に部分的のみられるもの(1)と全周の半分以上にわたっているもの(2)がある。

(1)は26~44である。側縁に「剥離」を伴っているものもある。33~37・39・41~44は平坦面に「凹み」を伴うものである。

(2)は45~49である。一般に厚手であるが、45はかなり薄く小形のものである。

なお形態が 類であるが成形・使用痕の認められない礫が20点出土している。

類 棒状の形態のもの

b 類 棒状で側縁に成形・使用痕のみられるもの(51~57)

b 類ス 成形・使用痕が「擦り」のもの

「擦り」は部分的なもので側縁全体には及んでいない。

b 類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの

c 類 棒状で端部に成形・使用痕のみられるもの(50・58~62)

c 類ス 成形・使用痕が「擦り」のもの(59)

c 類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの(61・62)

c 類ス - タ + 八 成形・使用痕が「剥離」または「敲き」に伴う「剥離」のもの(58・60)

d 類 棒状で側縁の端部付近に成形・使用痕のみられるもの(63~72)

d 類ス - タ 成形・使用痕が「擦り」または「剥離」のもの

12点出土した。64と66は偏平な形態のものである。72は非常に長く21cmほどある。70と72は側縁が稜をなすが、痕跡は隣りあった2か所の稜にみられるものである。「剥離」を伴っているものもある。

類 長い側縁部のある形態のもの

a 類 平坦面に成形・使用痕のみられるもの(73~84・86・87)

a 類ス 成形・使用痕が「擦り」のもの(73・74)。側縁にも「擦り」を伴っている。

a 類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの(75・77~84・86・87)

「敲き」は部分的なもの(75・77～80)と全面に亘っているもの(81～84・86・87)がある。

b類 側縁に成形・使用痕のみられるもの(76・85・88～107・109・110・113・114・116  
～123・125～200・203・209・210)

b類ス 成形・使用痕が「擦り」のもの

「擦り」は部分的なもの(1)と側縁全体にわたるもの(2)とがあり、さらにその側縁の「擦り」の周囲に「剥離」の伴わないもの(-)と伴うもの( )とがある。

これらの実測図の番号は次のとおりである。

b類ス1 (88～99・101～103・105～107・109・143)

ス1 (76・113・114・116～113・125～134・136)

ス2 (100・104・110・137～142・144～156)

ス2 (135・157～196)

これらにはまた、平坦面や「擦り」のない側縁または端部に「敲き」の伴うもの(aタ1、  
bタ1、cタ1)がある。

b類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの

「敲き」は部分的なものである。この「敲き」の周囲には「剥離」を伴わないもの(-)  
(197・199)と伴うもの( )(198・200・203・209・210)がある。

c類 端部に成形・使用痕のみられるもの(201・202・205・208・211)

c類ス-タ-八 成形・使用痕には「擦り」・「敲き」「剥離」がみられる。

d類 側縁の端部付近に成形・使用痕がみられるもの(212)

d類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの

類 ~ 類以外の形態のもの

a類 平坦面に成形・使用痕のみられるもの(214・215～218・221～236)

a類ケ-ス 成形・使用痕が「研磨」ないし「擦り」のもの

「研磨」ないし「擦り」は部分的なもの(1)(214)と平坦面全面に及ぶもの(2)がある。  
部分的なものは「研磨」が浅い溝状のもので溝の中に溝と平行な擦痕がみられる(214)。「研  
磨」は溝の外側の平坦な部分にもあり、表裏両面にみられる。

a類タ 成形・使用痕が「敲き」のもの(215～218・221～228・230・231・234  
235)

「敲き」は部分的なもの(1)と平坦面の全面に及ぶもの(2)(221)がある。部分的なもの  
は多数出土した。「敲き」は普通にみられる表面の荒れのほかに細い傷状のものや、やや荒れ  
て黒く変色しているもの(222・230)がある。また表裏面の対称的な位置に「敲き」がみられ  
るものが多く235は表裏の対称的な2か所にみられる。



a 類ボ 成形・使用痕が凹みのもの (236)

b 類 側縁に成形・使用痕がみられるもの (229・232・237～267・269～284・293)

b 類ス - タ 成形・使用痕が「擦り」ないし「敲き」のもの

本類は「擦り」ないし「敲き」が側縁に部分的にみられるもの(1)で、半数ほどが「剥離」を伴っている( )。

c 類 端部に成形・使用痕がみられるもの (283・285～292・294～297)

c 類ス - タ - ハ 成形・使用痕が「擦り」、「敲き」ないし「剥離」のもの

「擦り」ないし「敲き」のもの、それに「剥離」の加わるもの、「擦り」ないし「敲き」がみられず「剥離」のみのものもある。両端部に成形・使用痕がみられるものや端部の頂点でなくやや脇にそれたところにみられるものもある。

### 13. 石皿類 (図268～272、写真68)

164点出土したが、このうち132点は破損品である。破損品のうち83点は分類不能である。

類 平坦面が1面のみで、その面に「擦り」のみられるもの

a 類 「敲き」を伴わないもの (1～5・7・19)

b 類 「敲き」を伴うもの (6・8・9)

類 平坦面が平行に2面あり、その1面ないし2面にスリがあるもの

a 類 「敲き」を伴わないもの (10～18)

b 類 「敲き」を伴うもの (19～21)

19と21には「擦り」はみられない。

類 凹湾する面があり、そこに「擦り」のみられるもの

a 類 「敲き」を伴わないもの (23～35)

b 類 「敲き」を伴うもの (36)

類 隣りあった2面またはそれ以上の面に「擦り」のみられるもの (37～41)

類 溝状の凹部をもつもの (22・42～44・46)

なお礫石器以外の礫は遺構内のもも含めてダンボール箱で80箱ほど出土したが、これらの礫には割れているものや焼けた痕跡のあるものが多数含まれている。

(坂本)

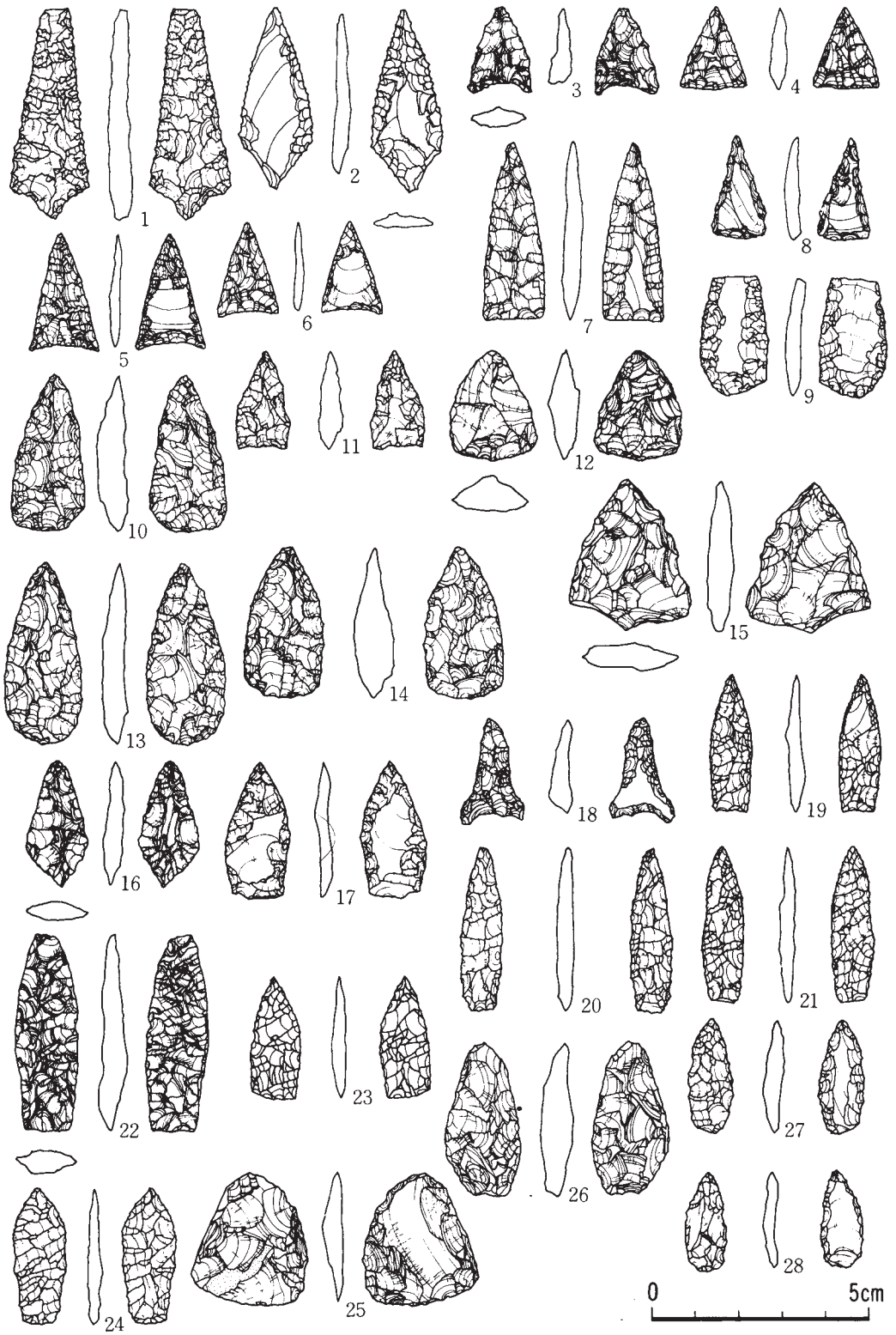


图201 遺構外出土石器(1) 石鏃

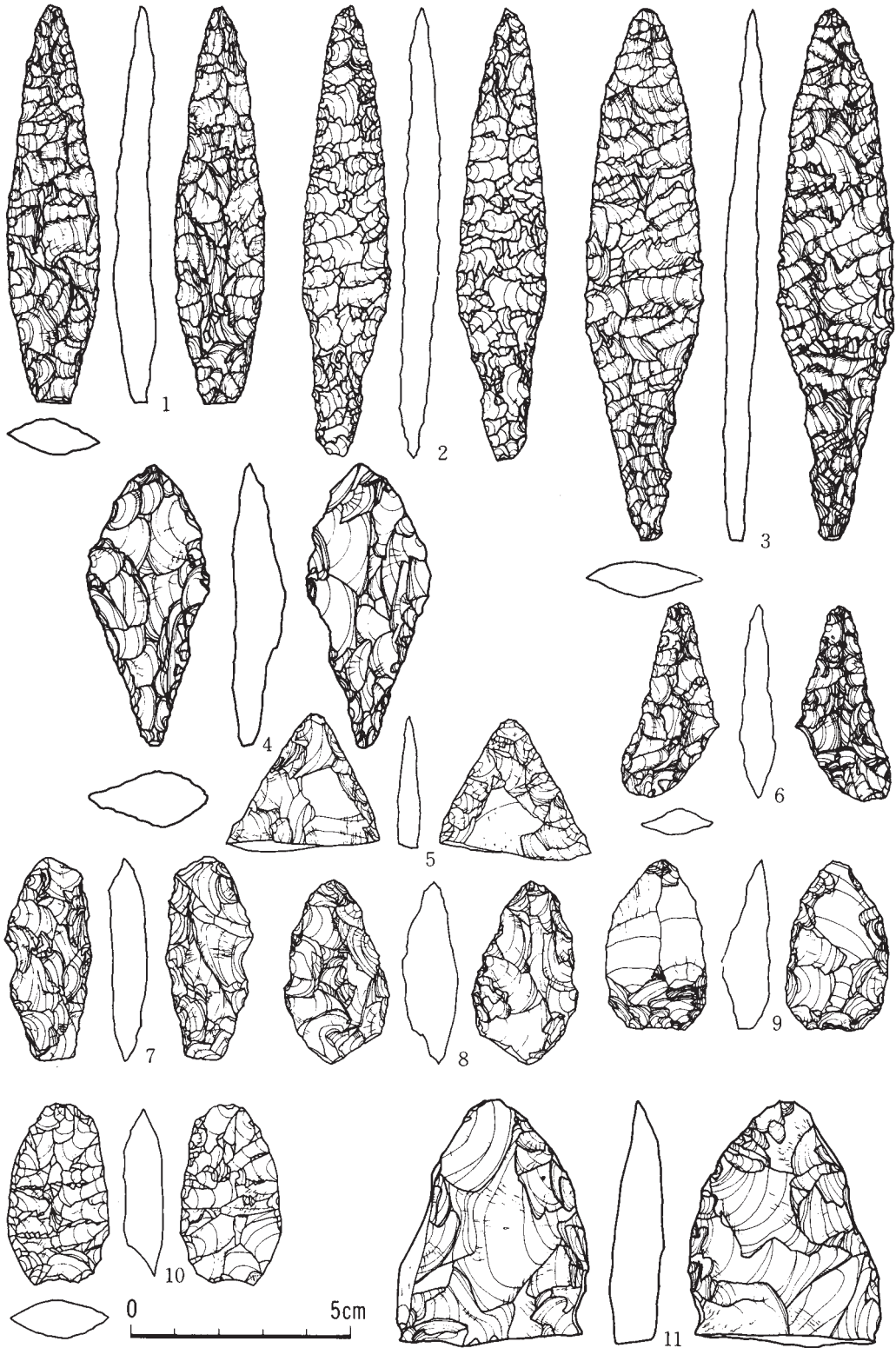


图202 遺構外出土石器(2) 石槍

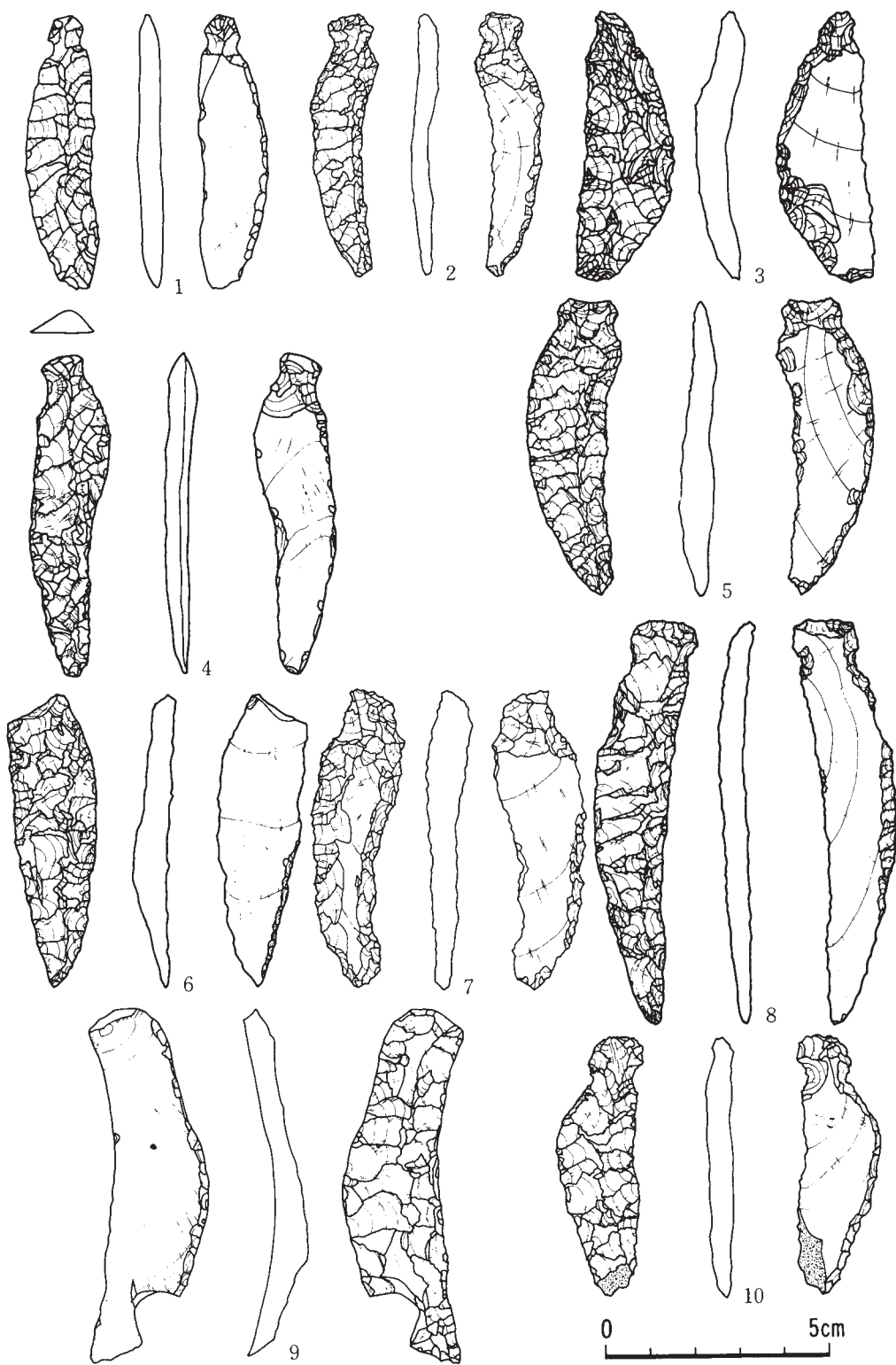


图203 遺構外出土石器(3) 石七 1

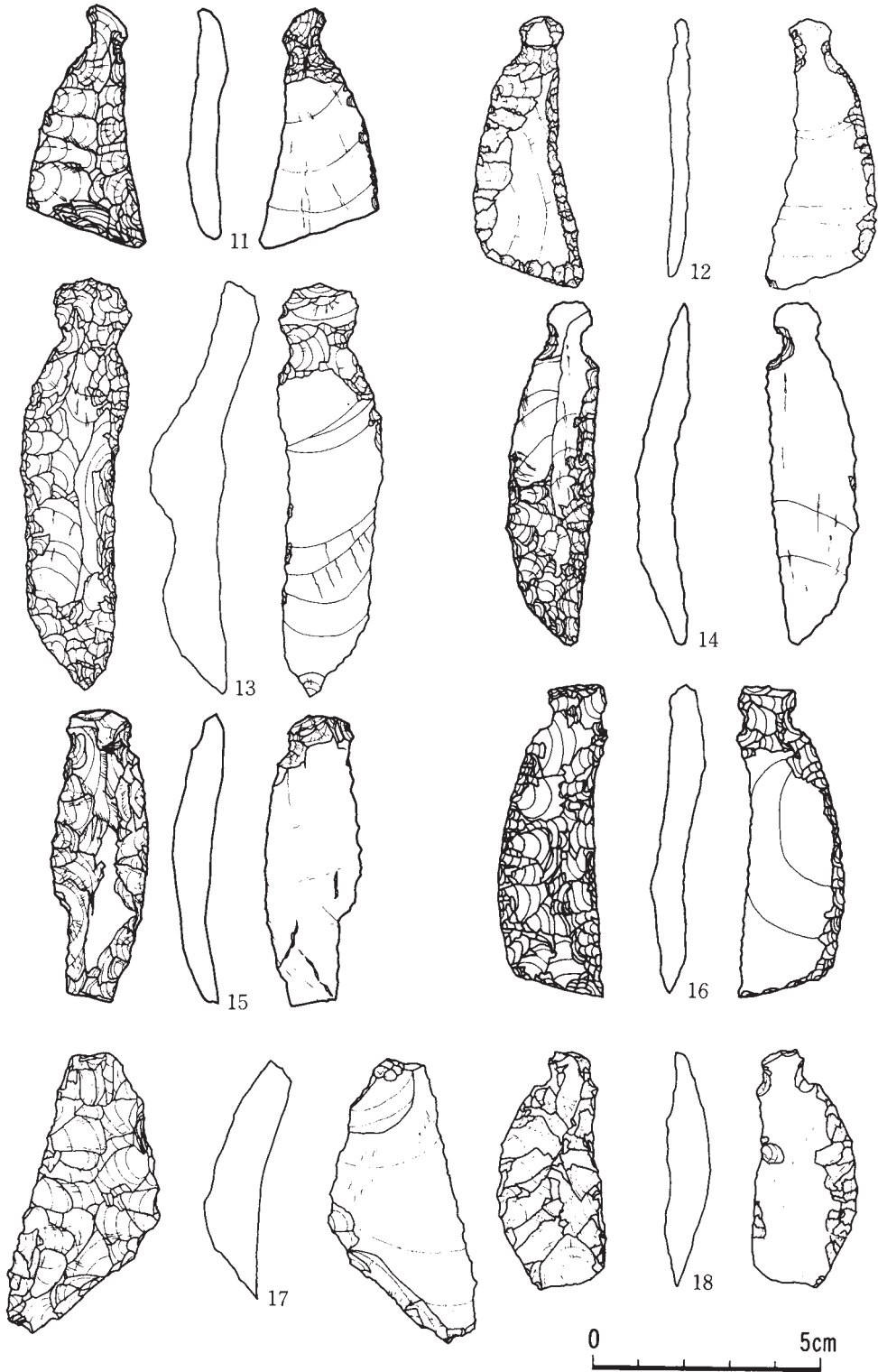


图204 遺構外出土石器(4) 石七 2



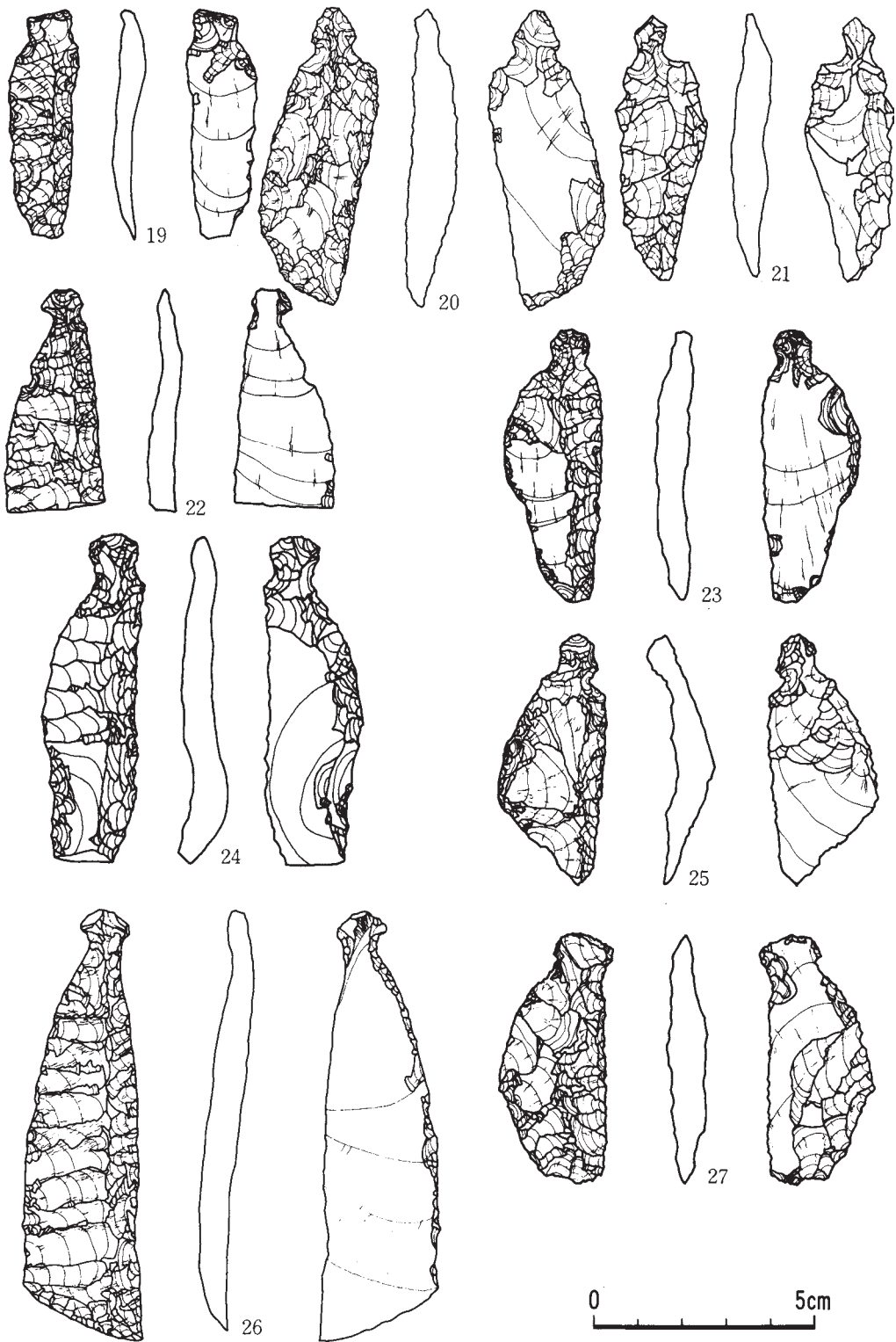


图205 遺構外出土石器(5) 石匕 3



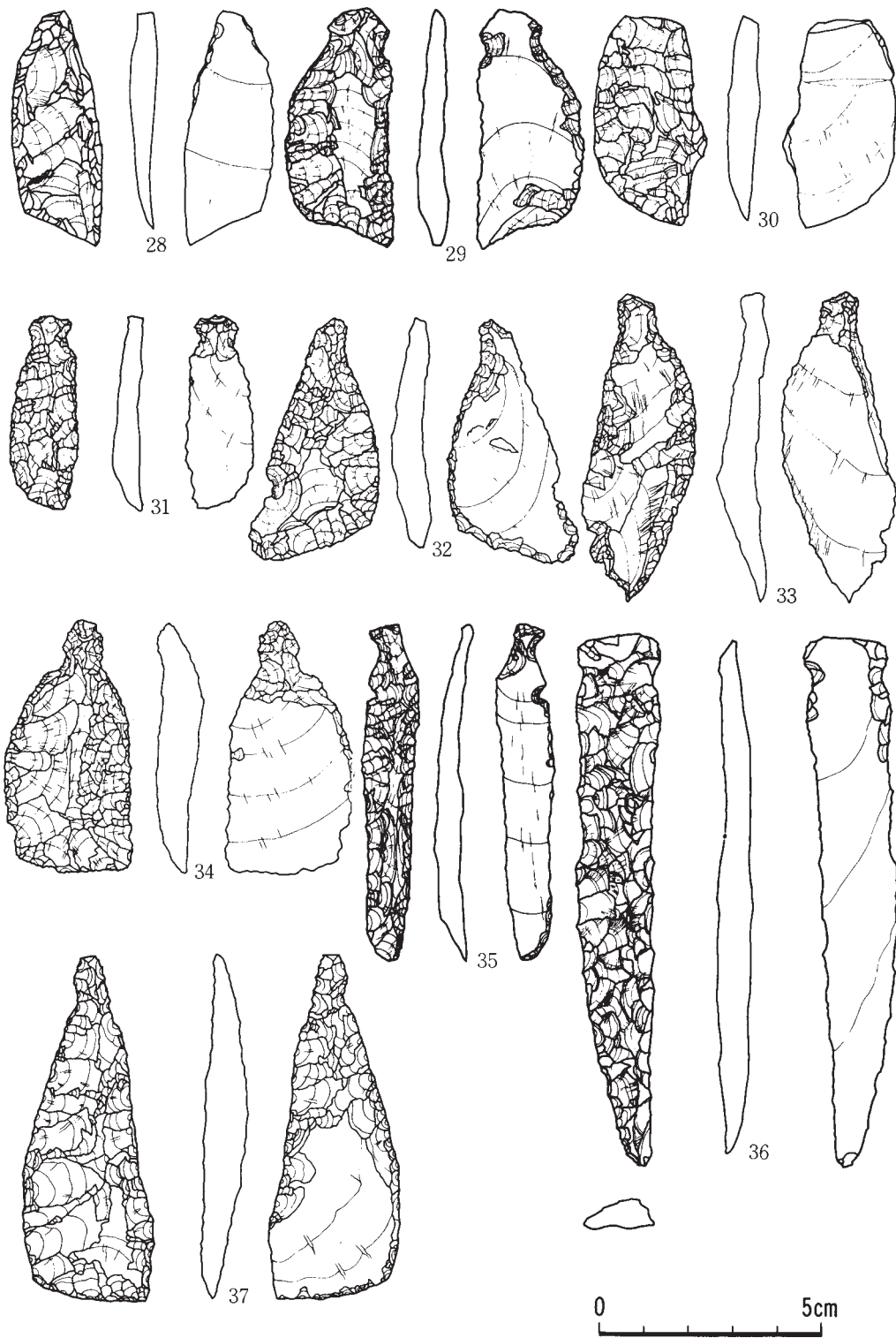


图206 遺構外出土石器(6) 石七 4

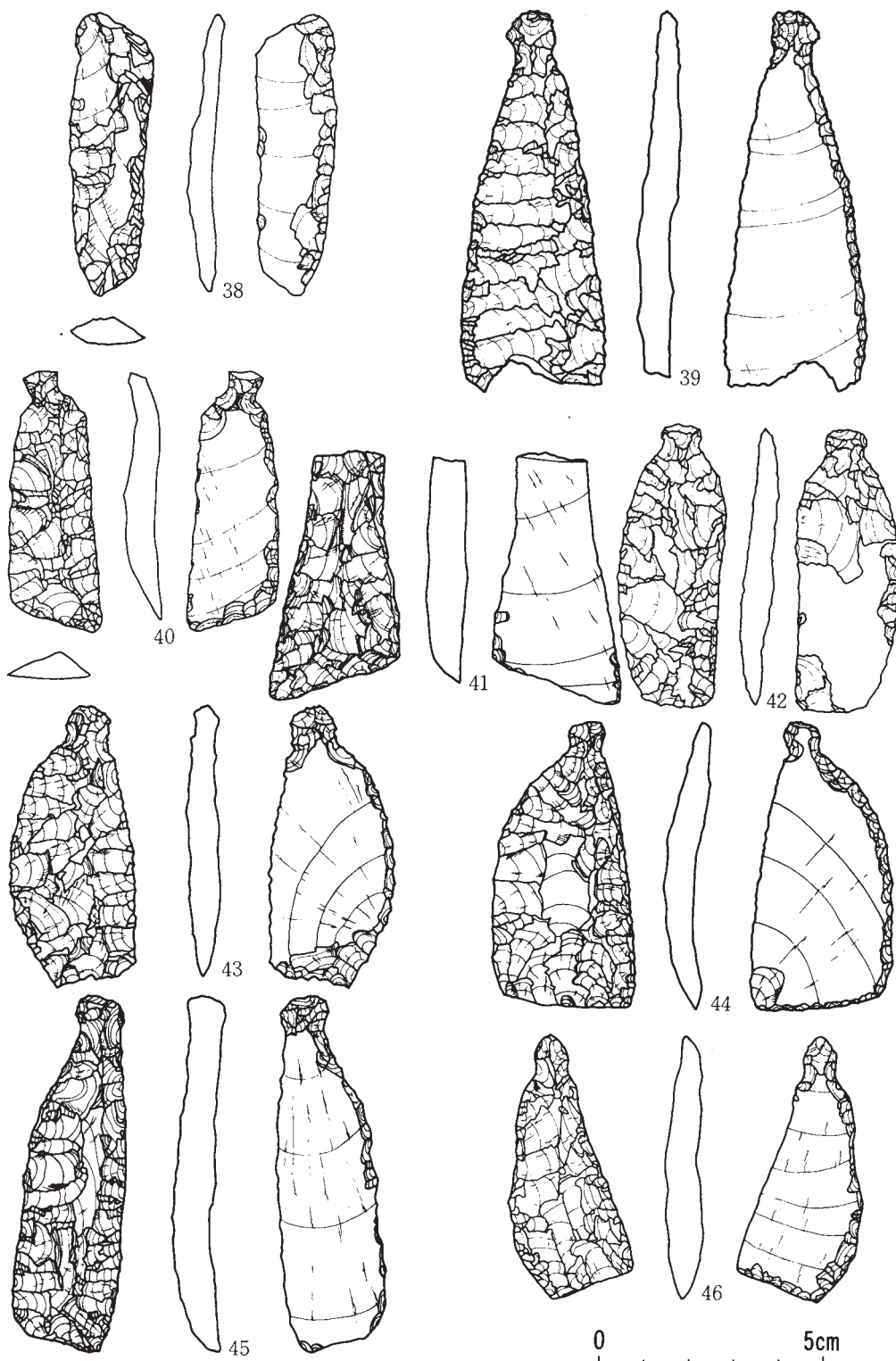


图207 遺構外出土石器(7) 石七 5

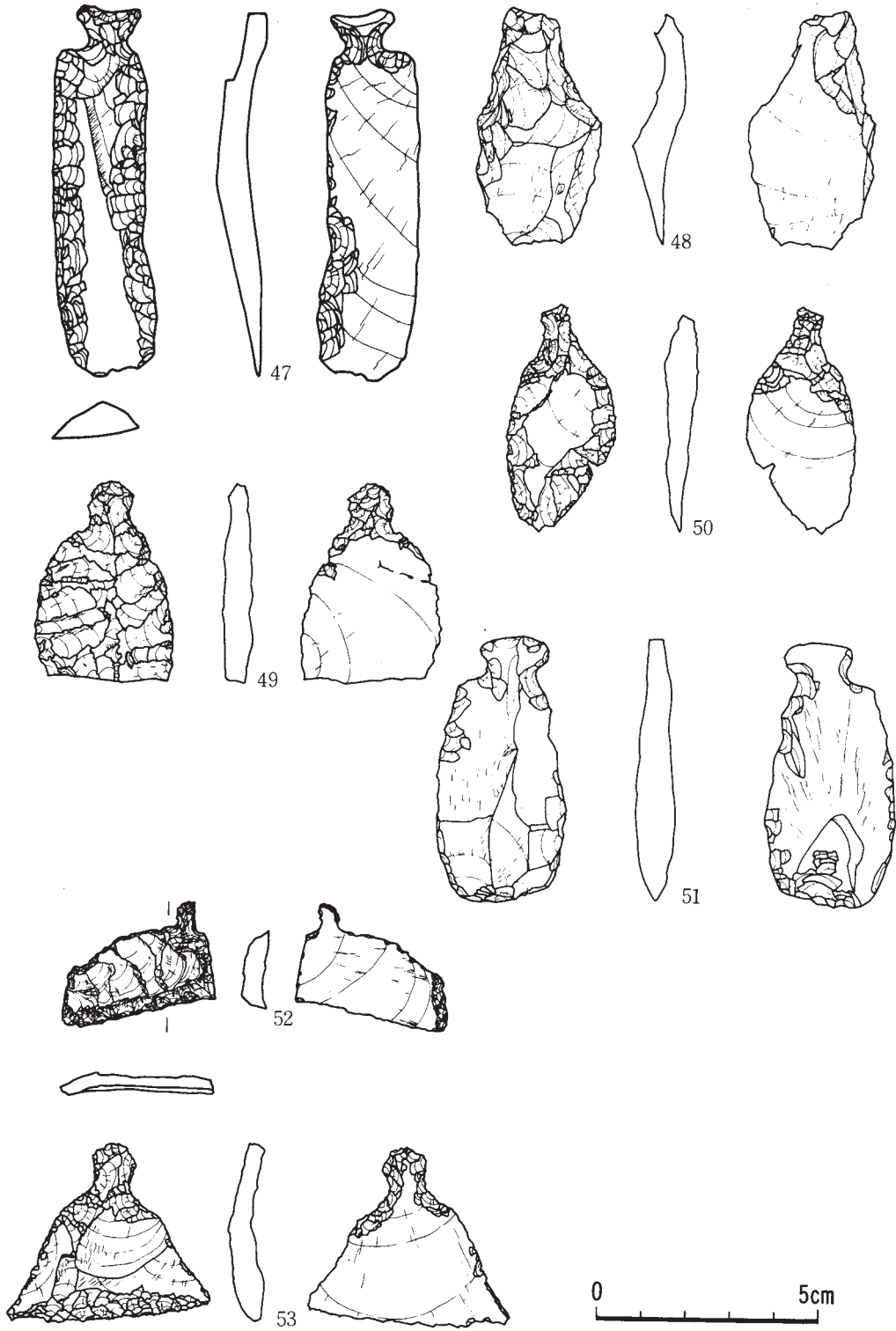


图208 遺構外出土石器(8) 石七 6

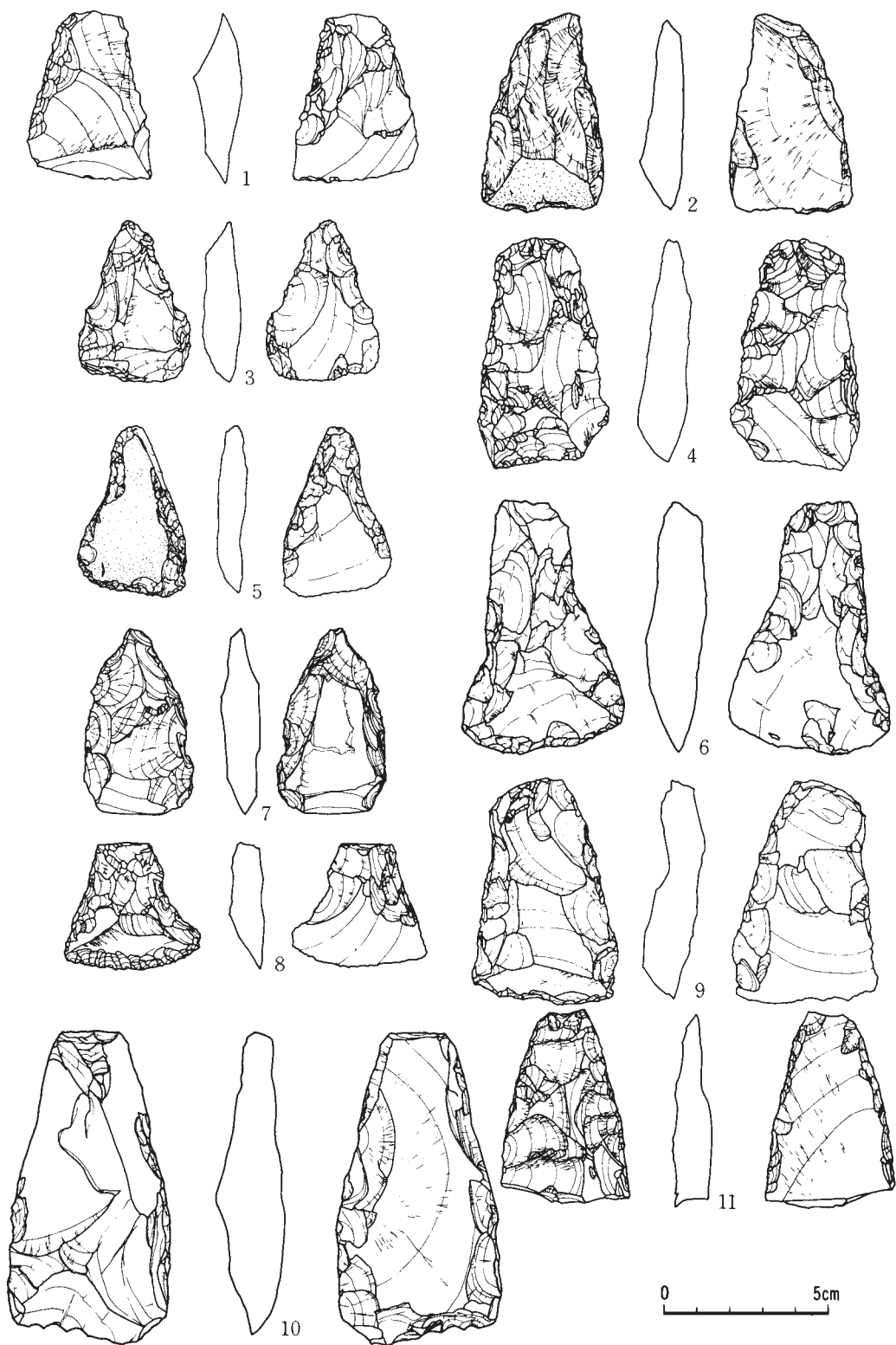


图209 遺構外出土石器(9) 直刃斧・石篋類1

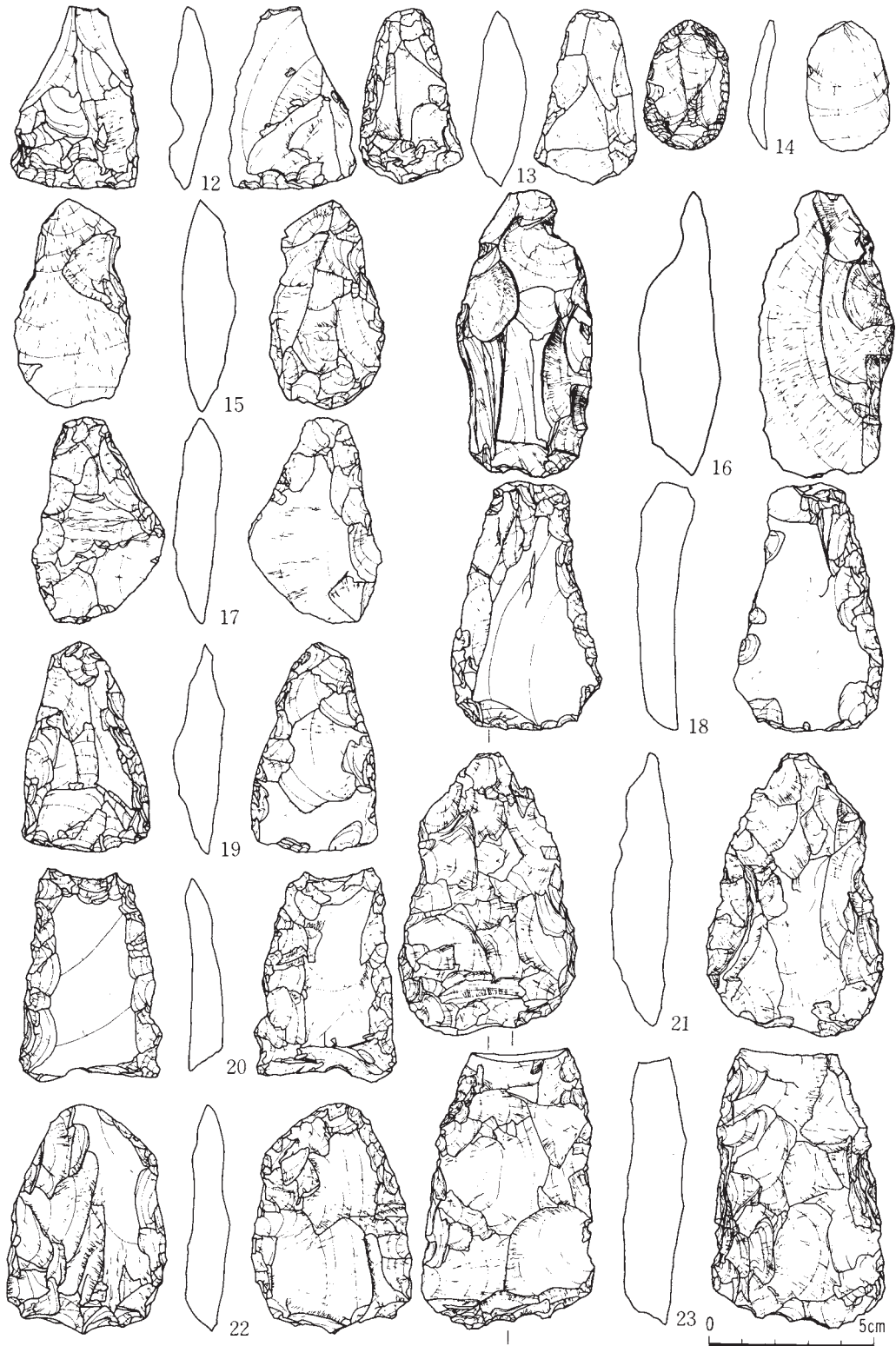


图210 遺構外出土石器(10) 直刃斧・石籠類2



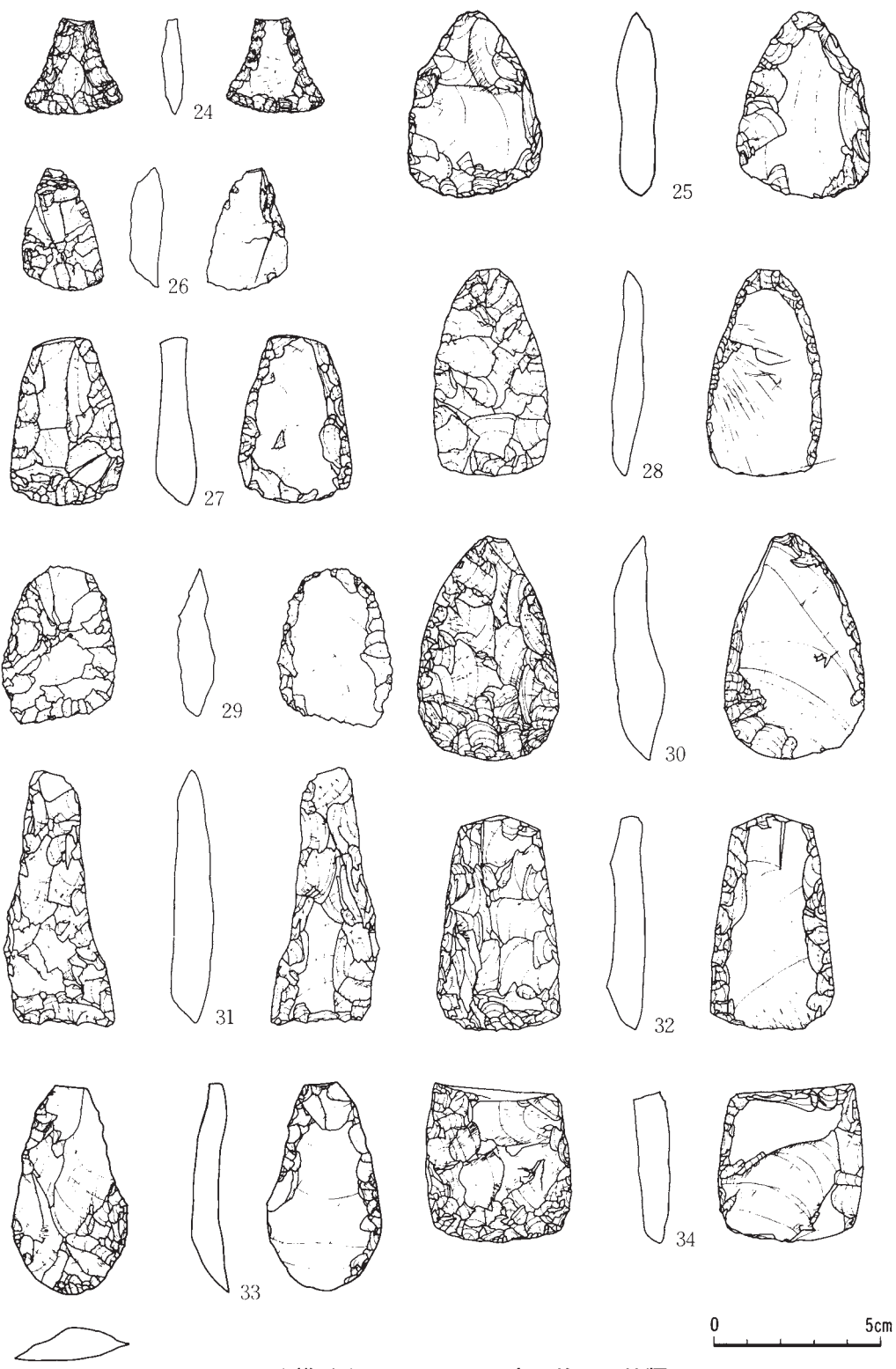


图211 遺構外出土石器(11) 直刃斧・石篋類3



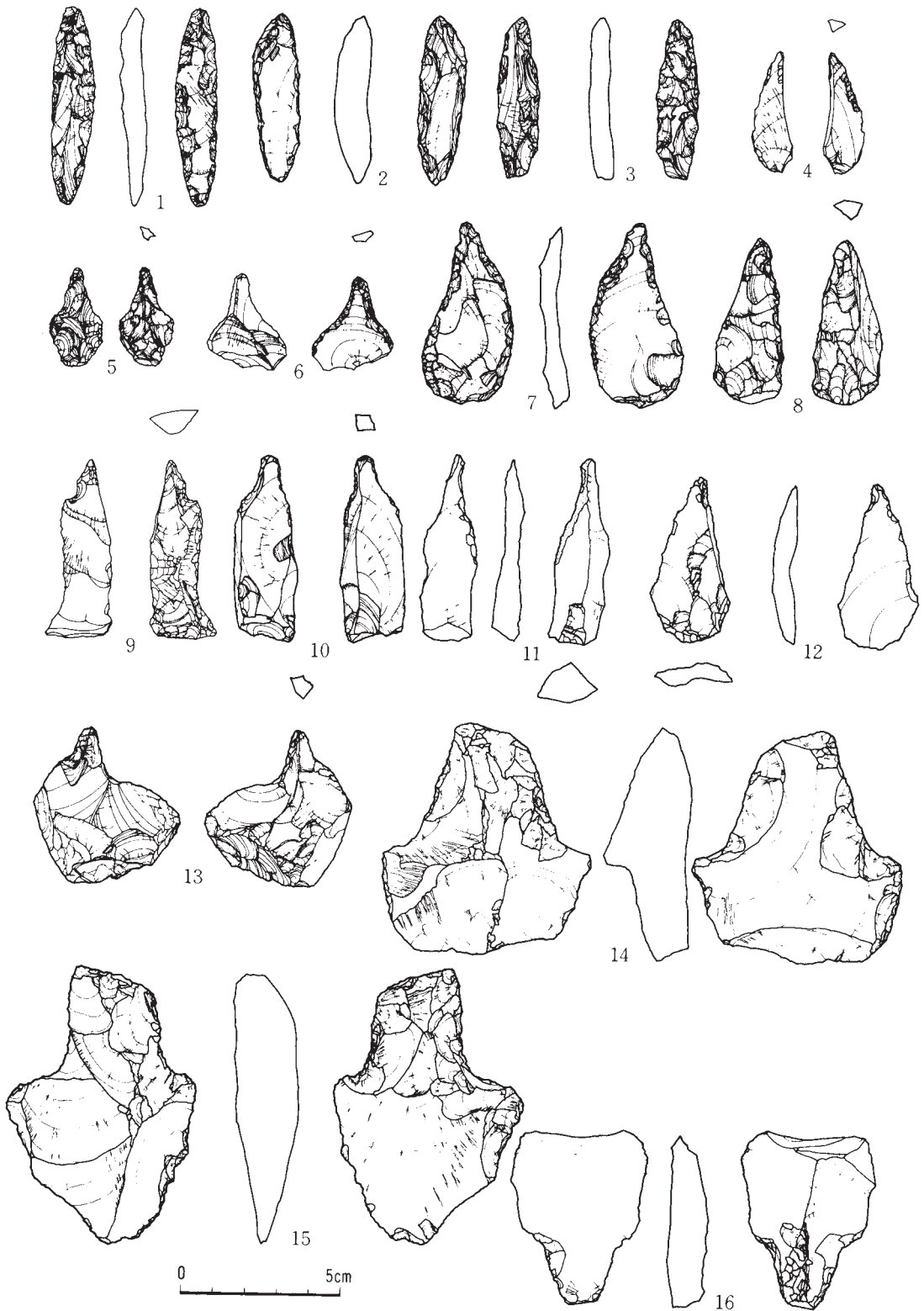


图212 遺構外出土石器(12) 石錐・異形石器

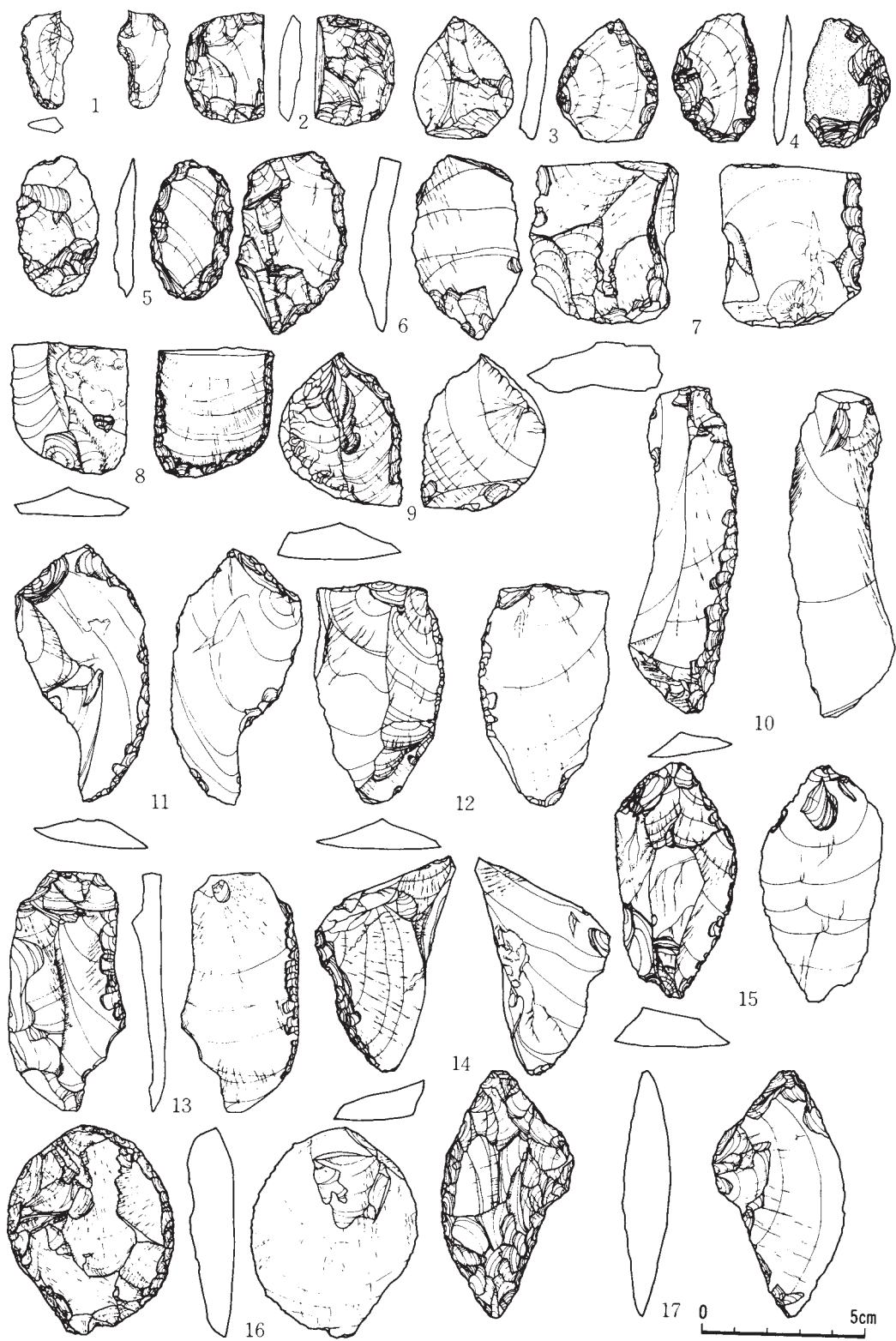


图213 遺構外出土石器(13) 不定形石器 1

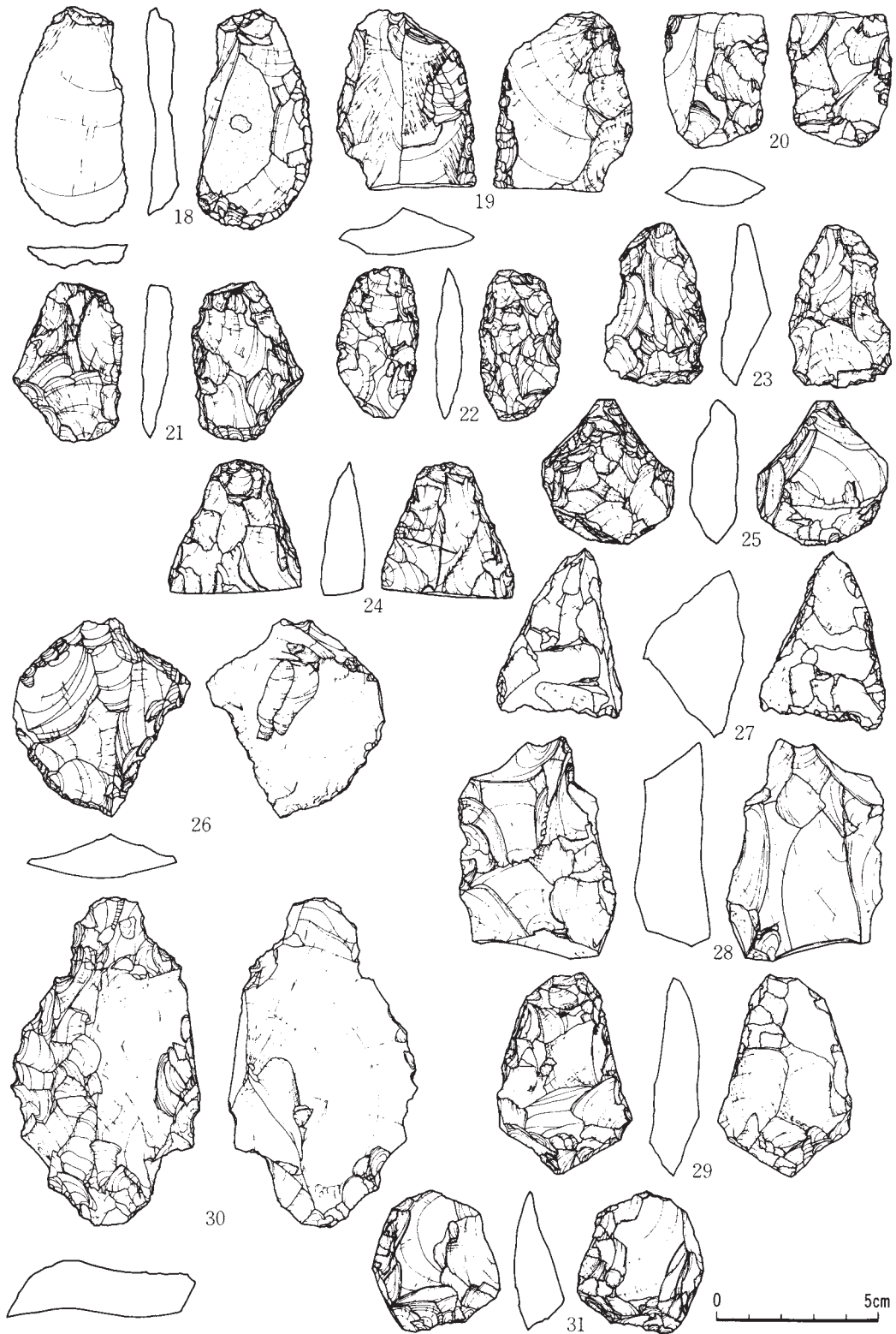


图214 遺構外出土石器(14) 不定形石器 2

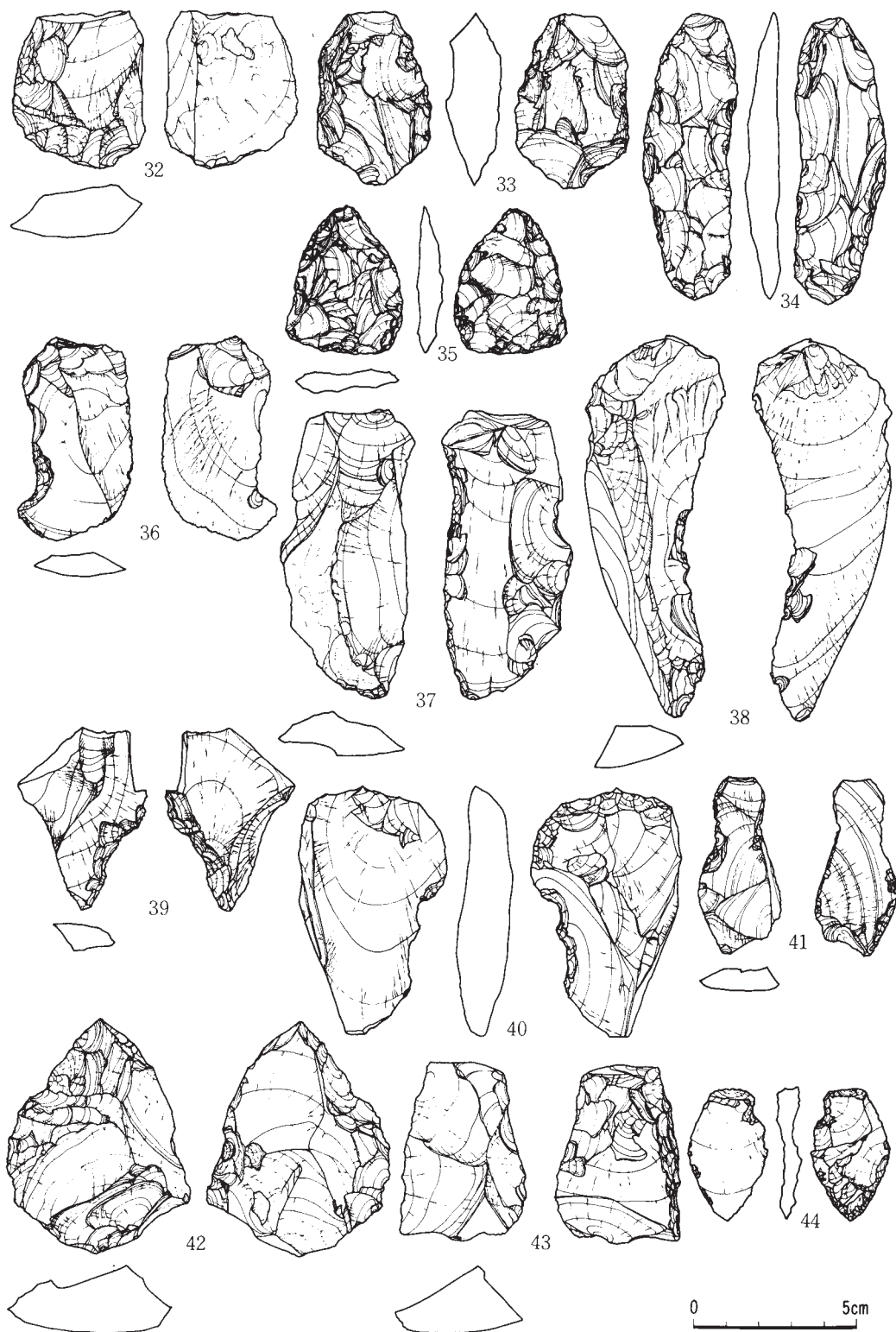


图215 遺構外出土石器(15) 不定形石器 3



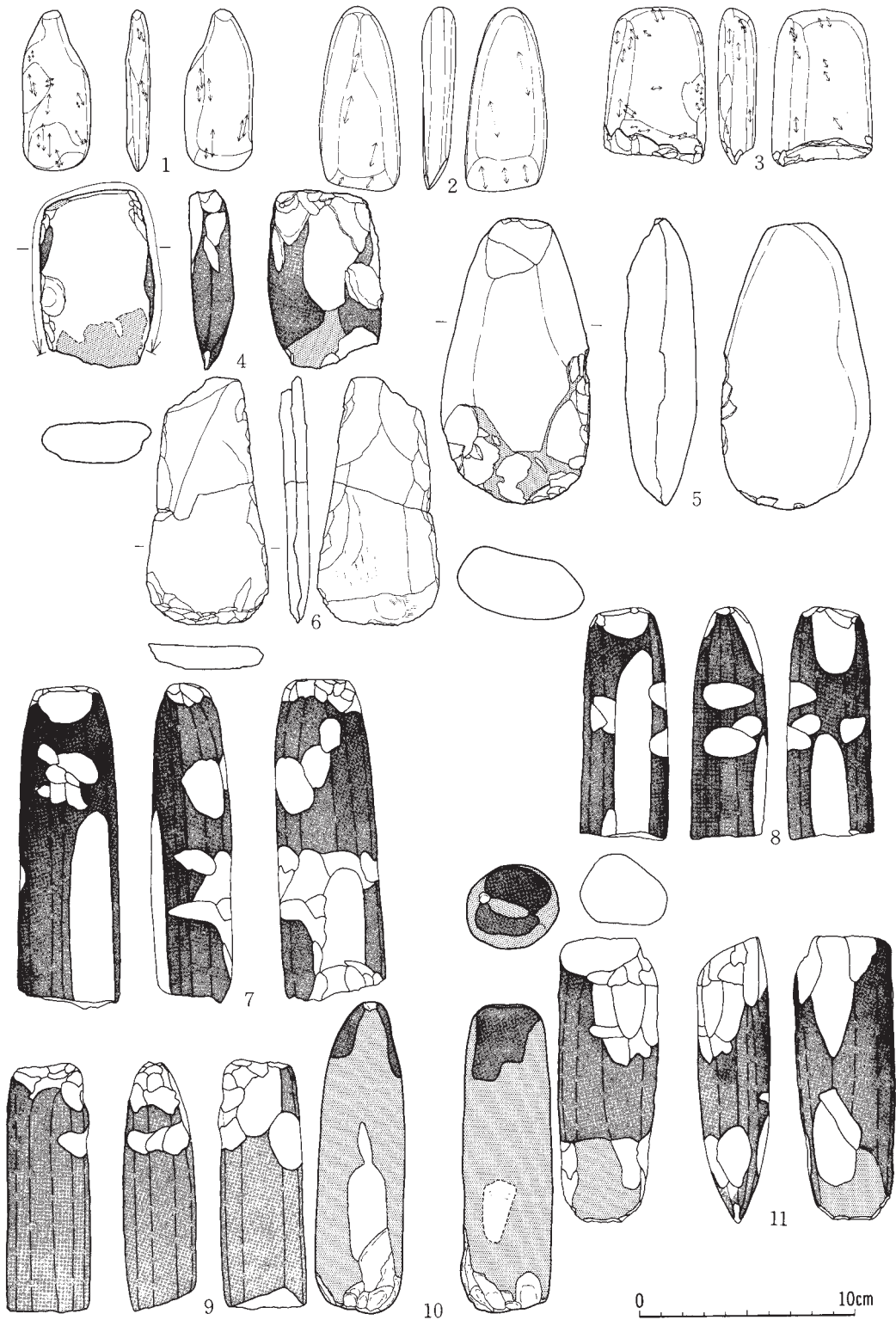


图216 遺構外出土石器(16) 磨製石斧 1

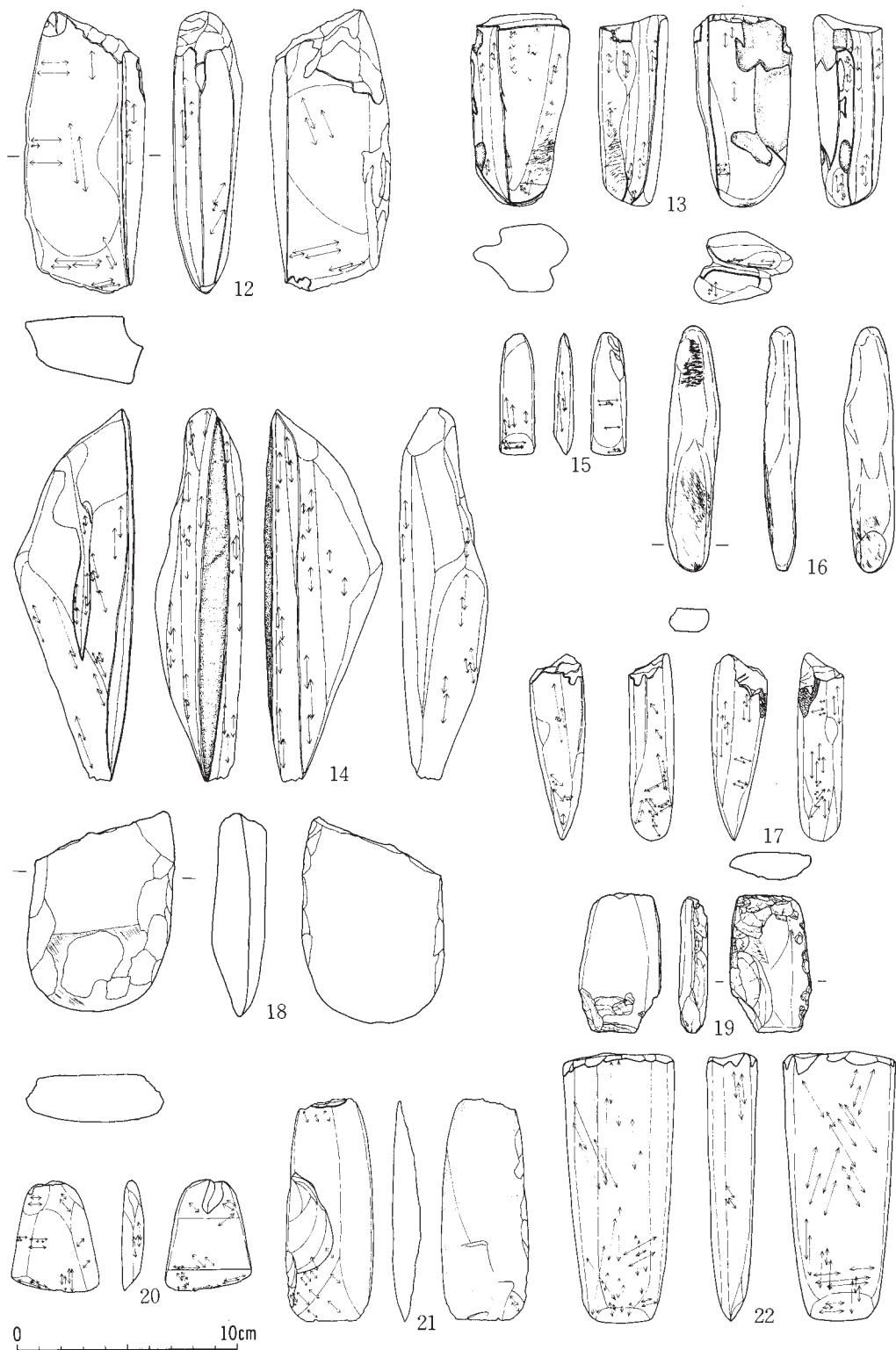


图217 遺構外出土石器(17) 磨製石斧 2





图218 遺構外出土石器(18) 磨製石斧 3

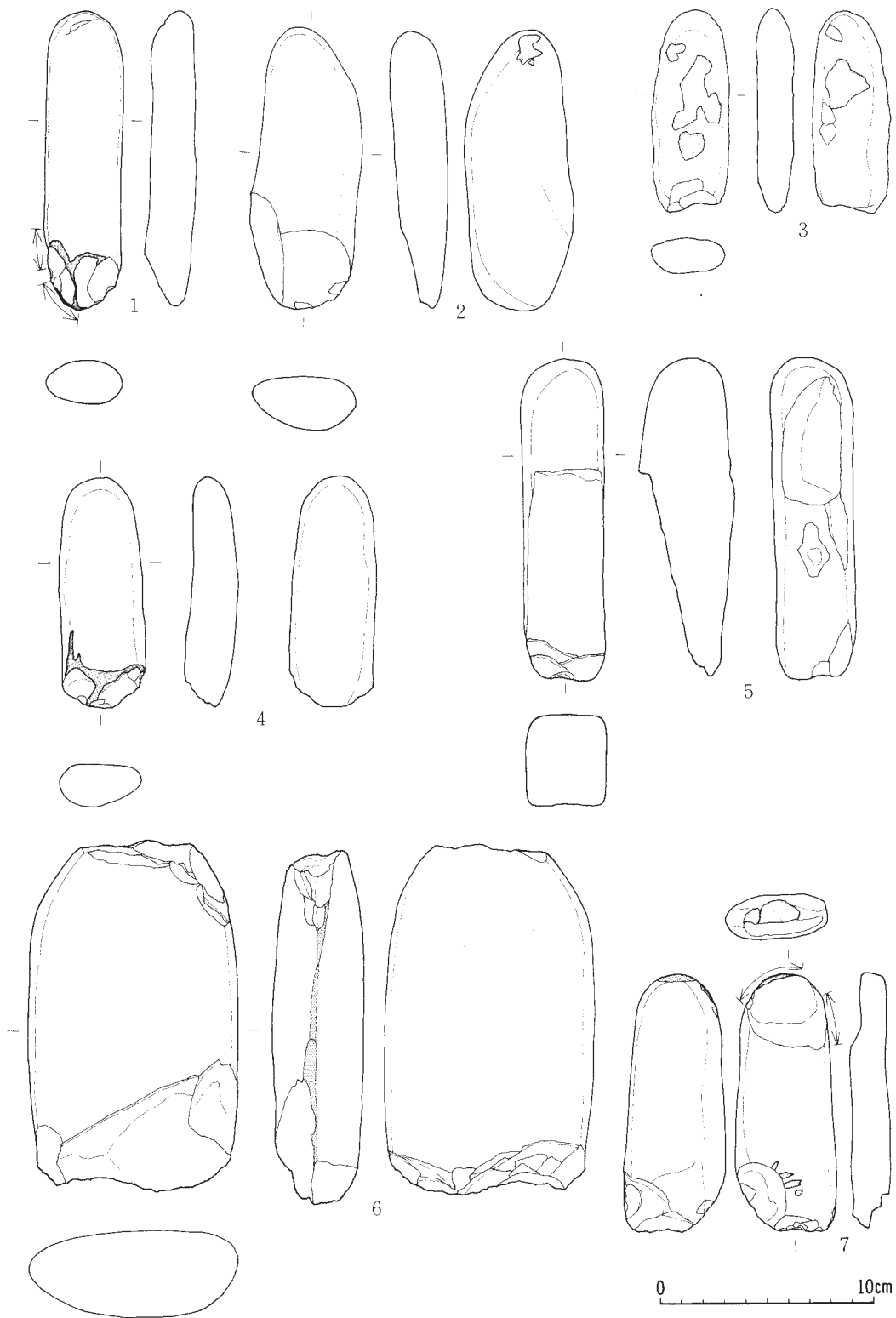


图219 遺構外出土石器(19) 打製石斧 1



图220 遺構外出土石器(20) 打製石斧 2



图221 遺構外出土石器(21) 打製石斧 3

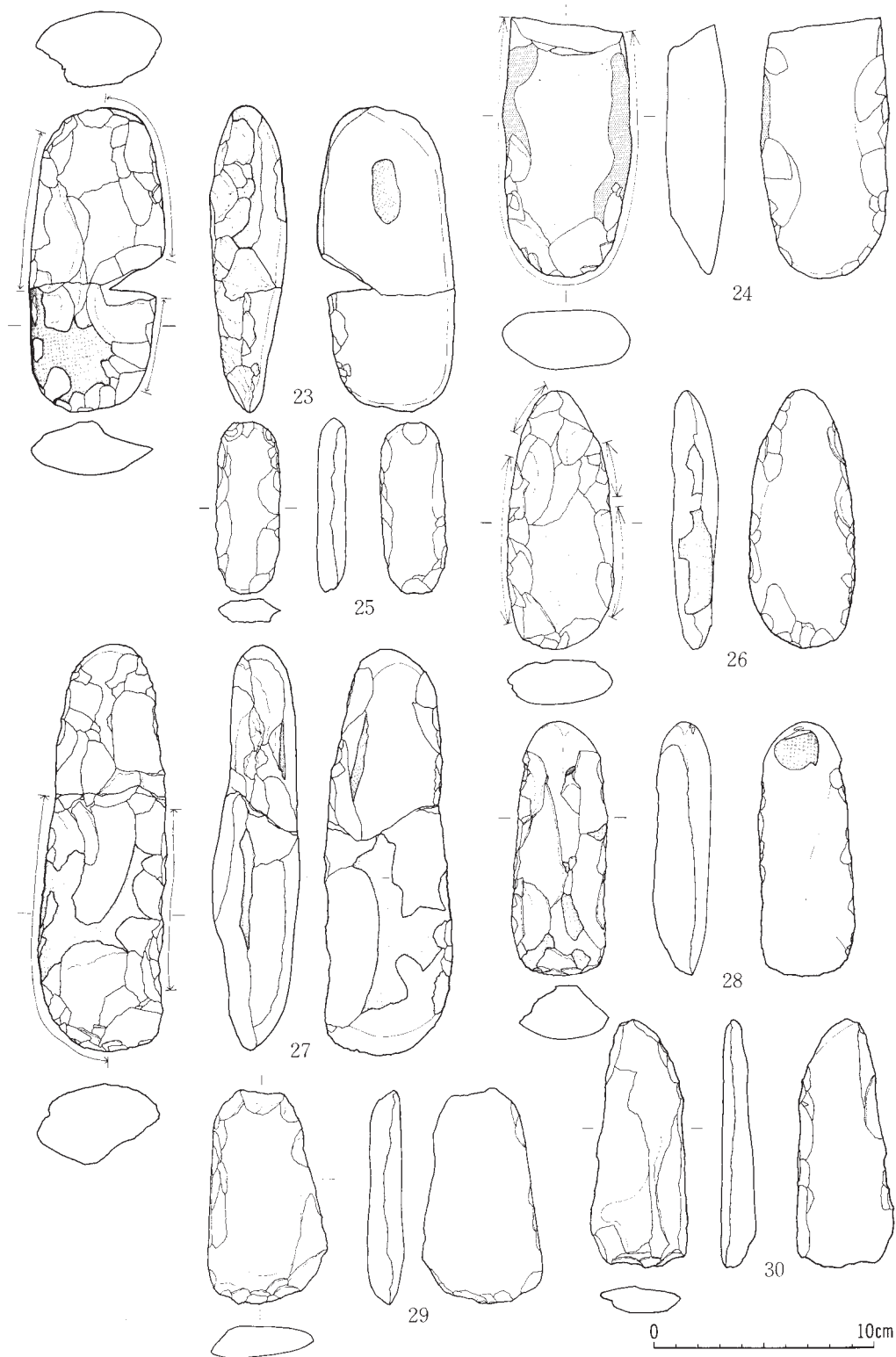


图222 遺構外出土石器(22) 打製石斧 4

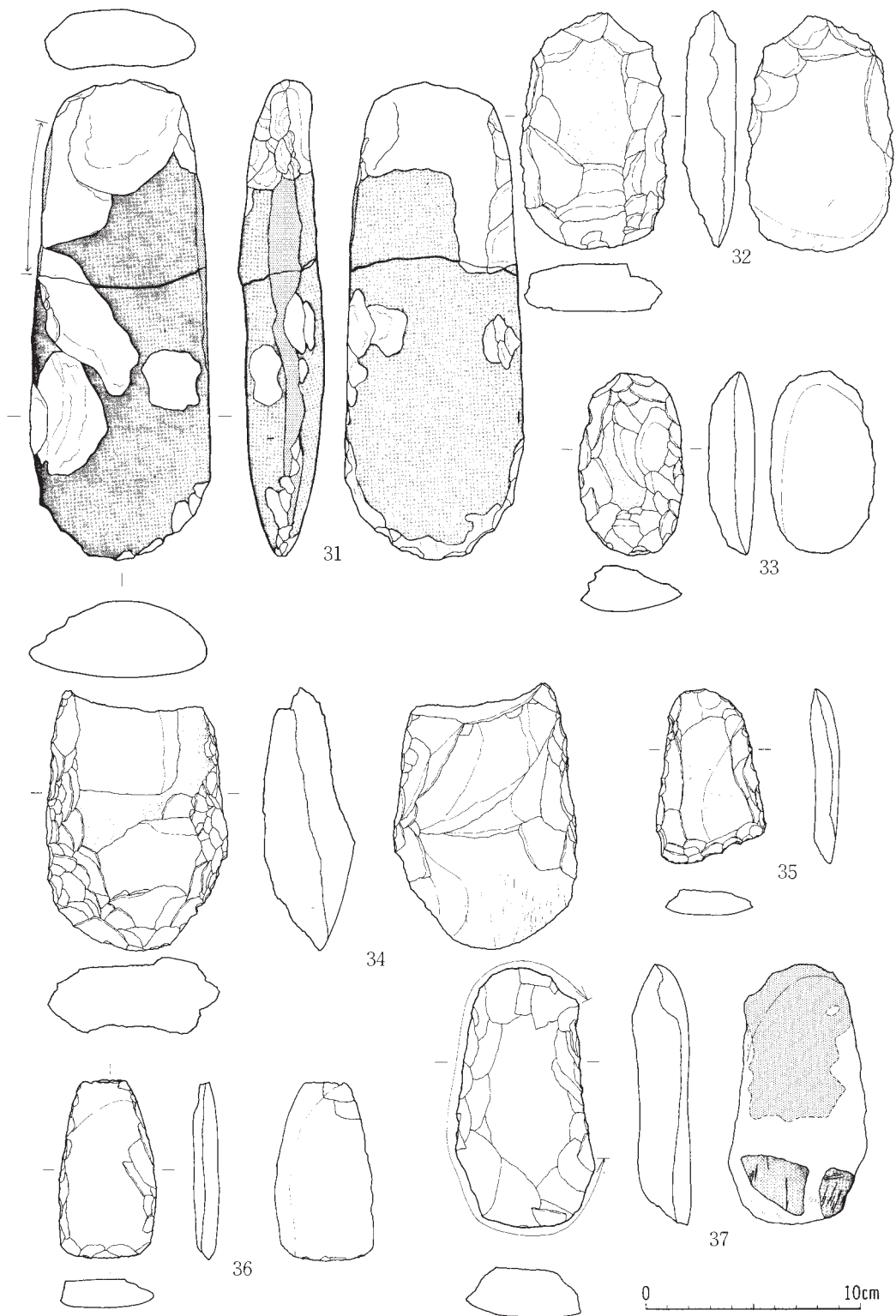


图223 遺構外出土石器(23) 打製石斧 5



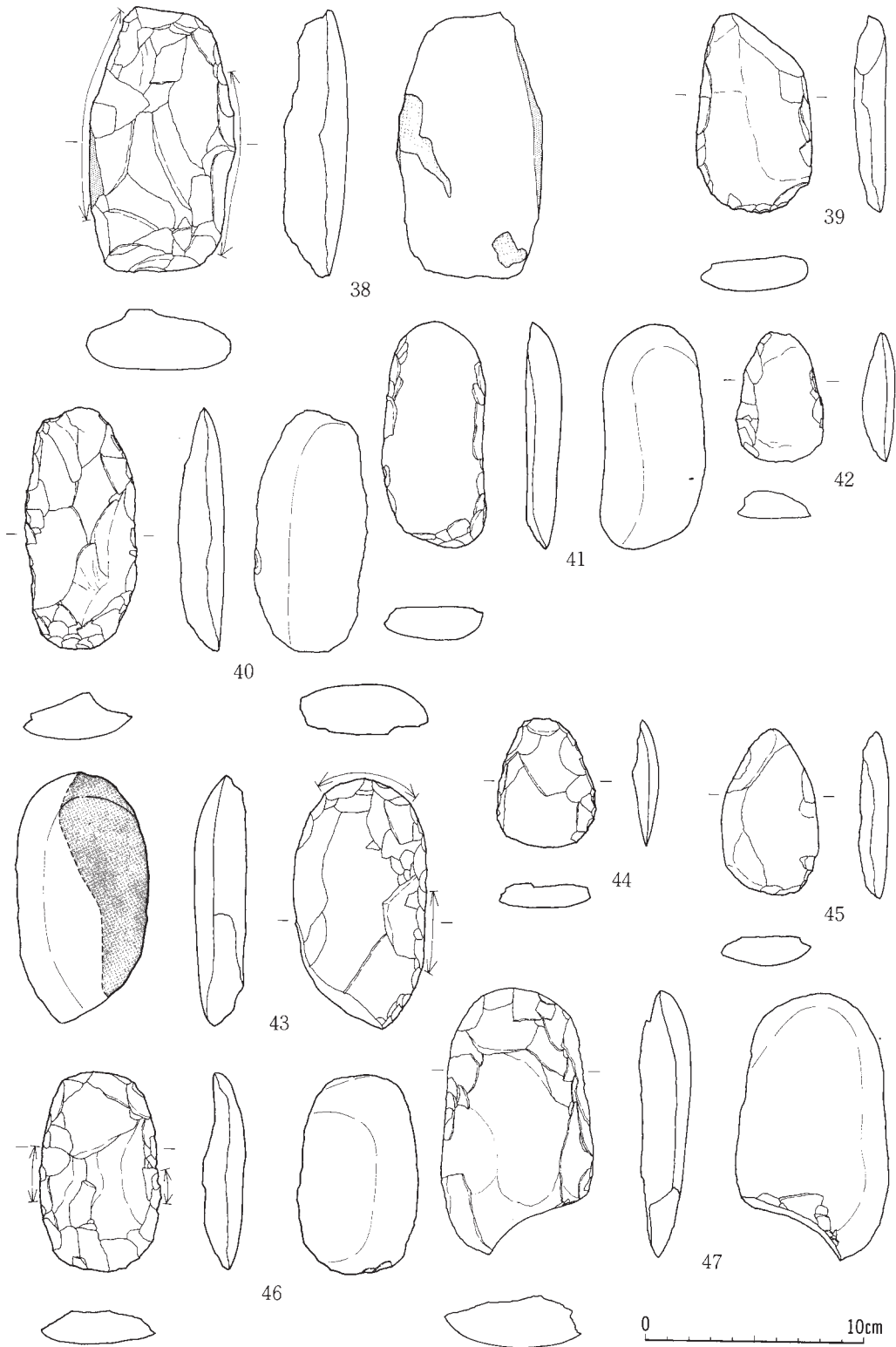


图224 遺構外出土石器(24) 打製石斧 6



图225 遺構外出土石器(25) 打製石斧 7

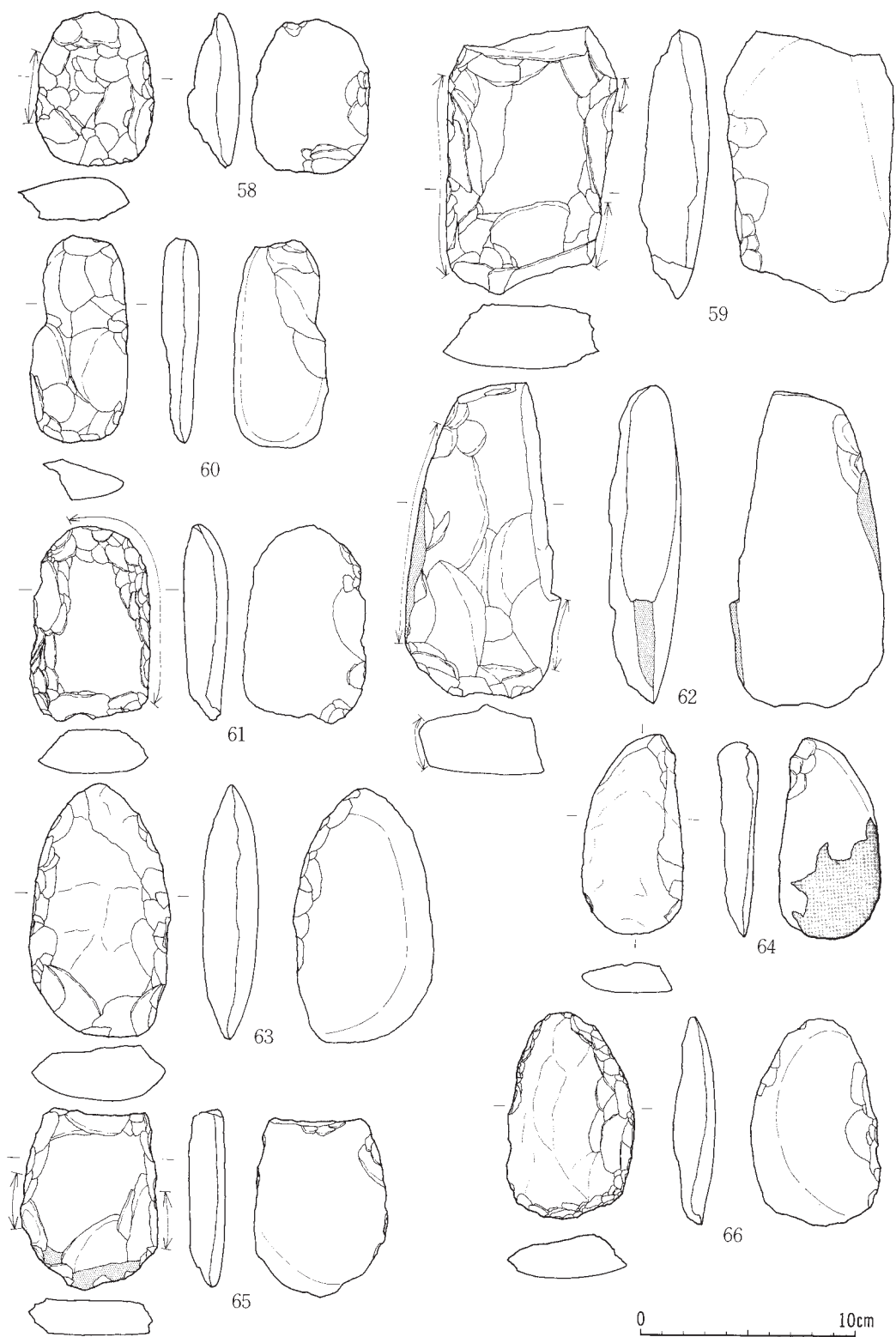


图226 遺構外出土石器(26) 打製石斧 8

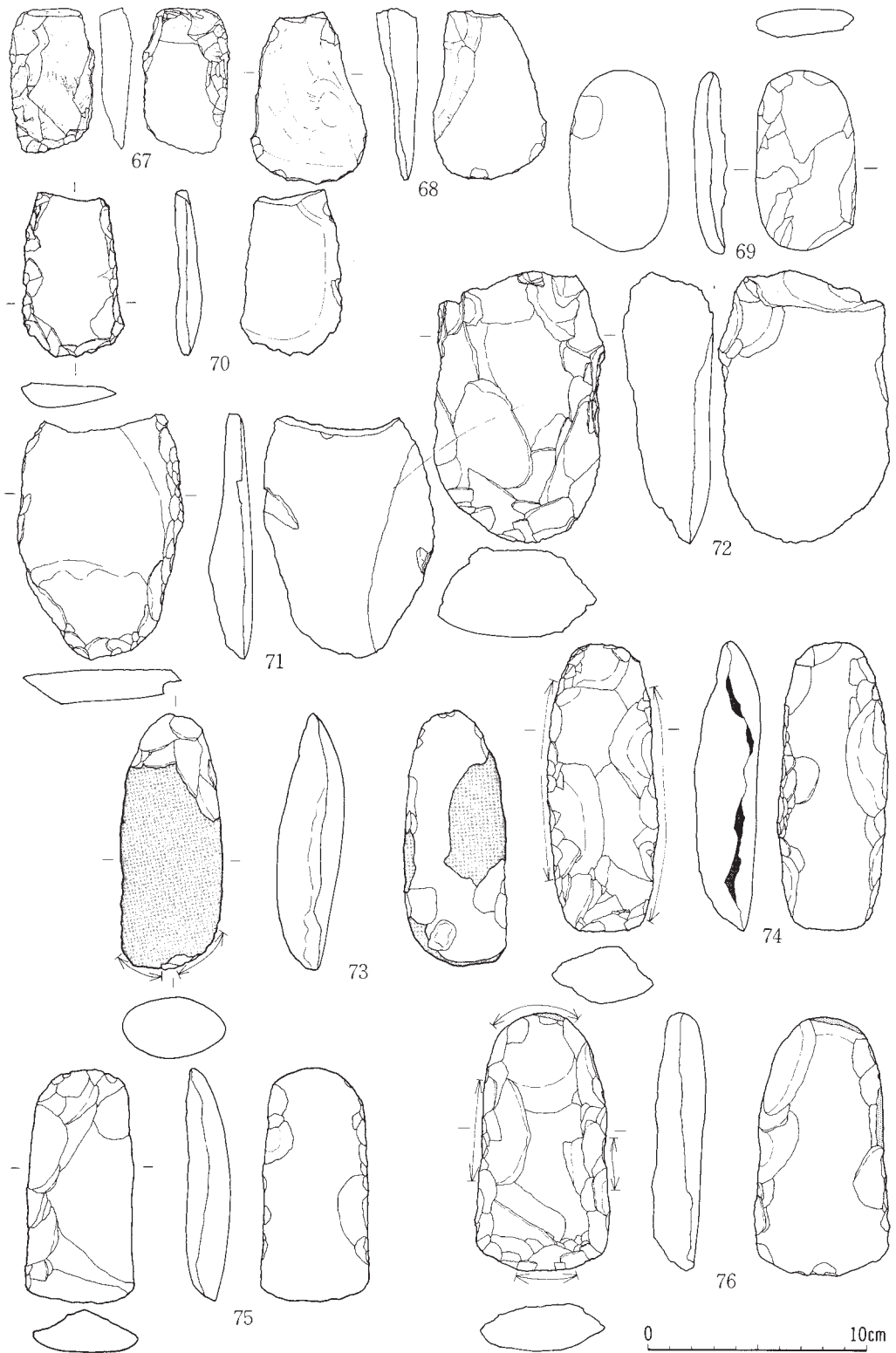


图227 遺構外出土石器(27) 打製石斧 9



图228 遺構外出土石器(28) 打製石斧10

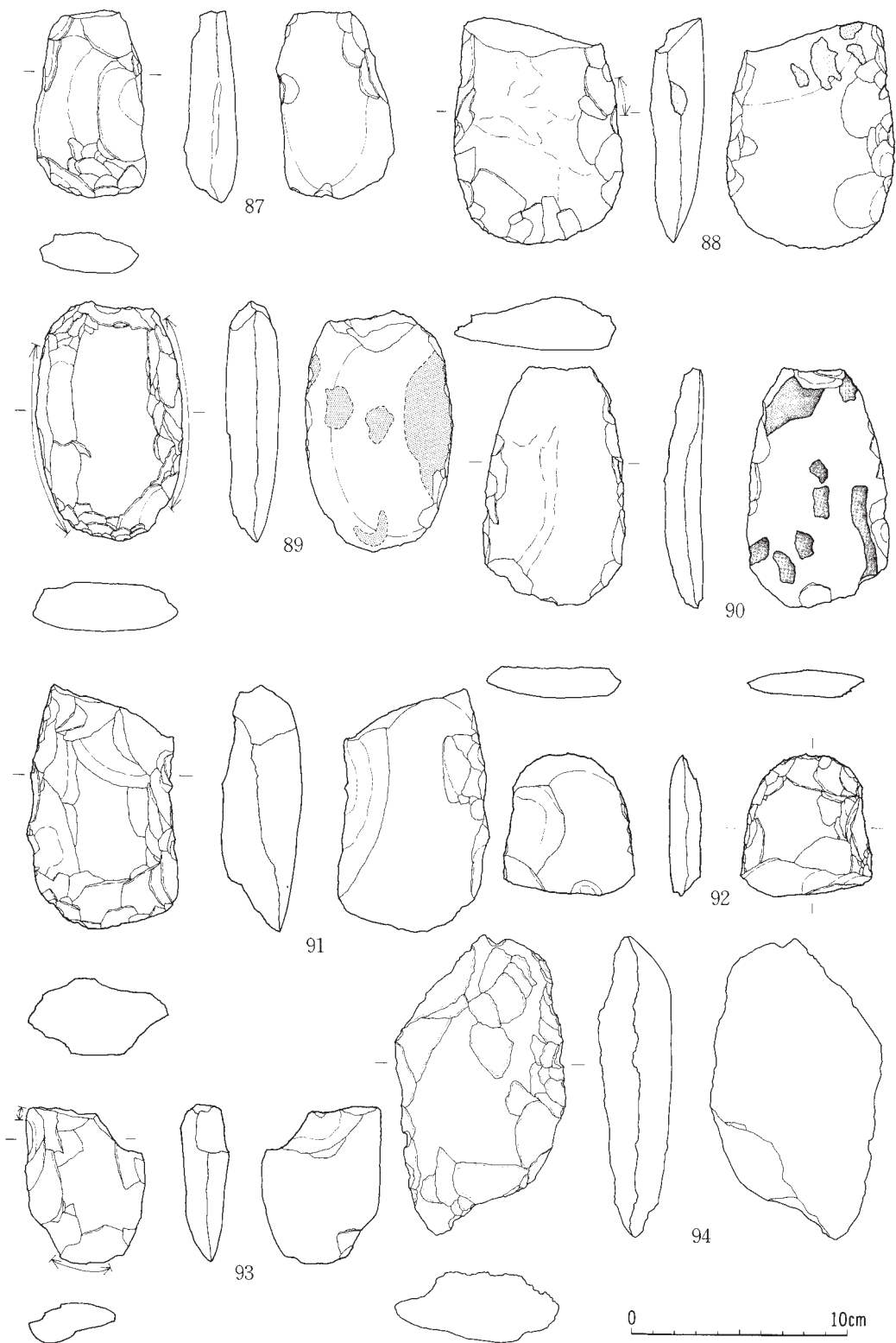


图229 遺構外出土石器(29) 打製石斧11



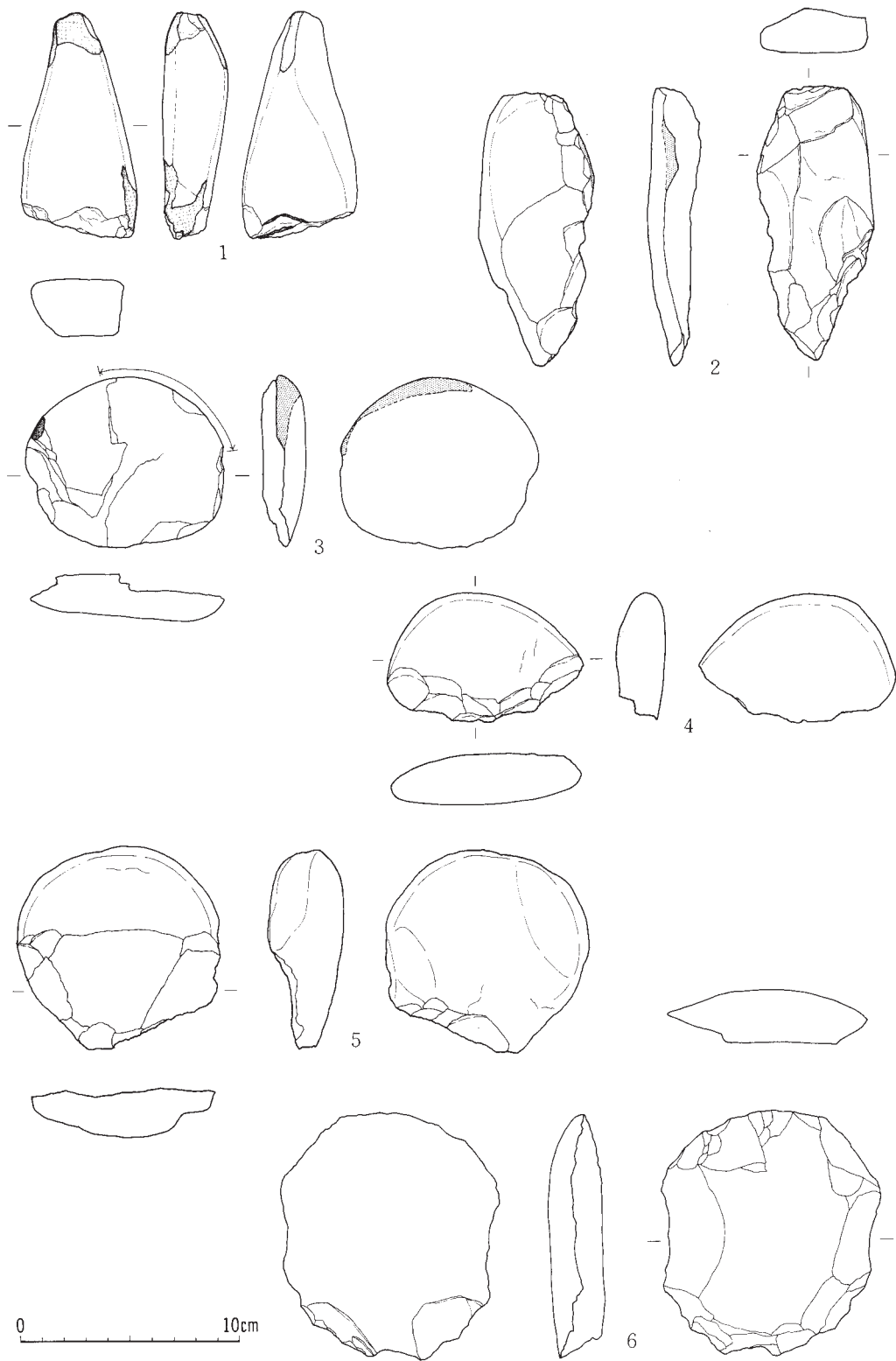


图230 遺構外出土石器(30) 礫器 1

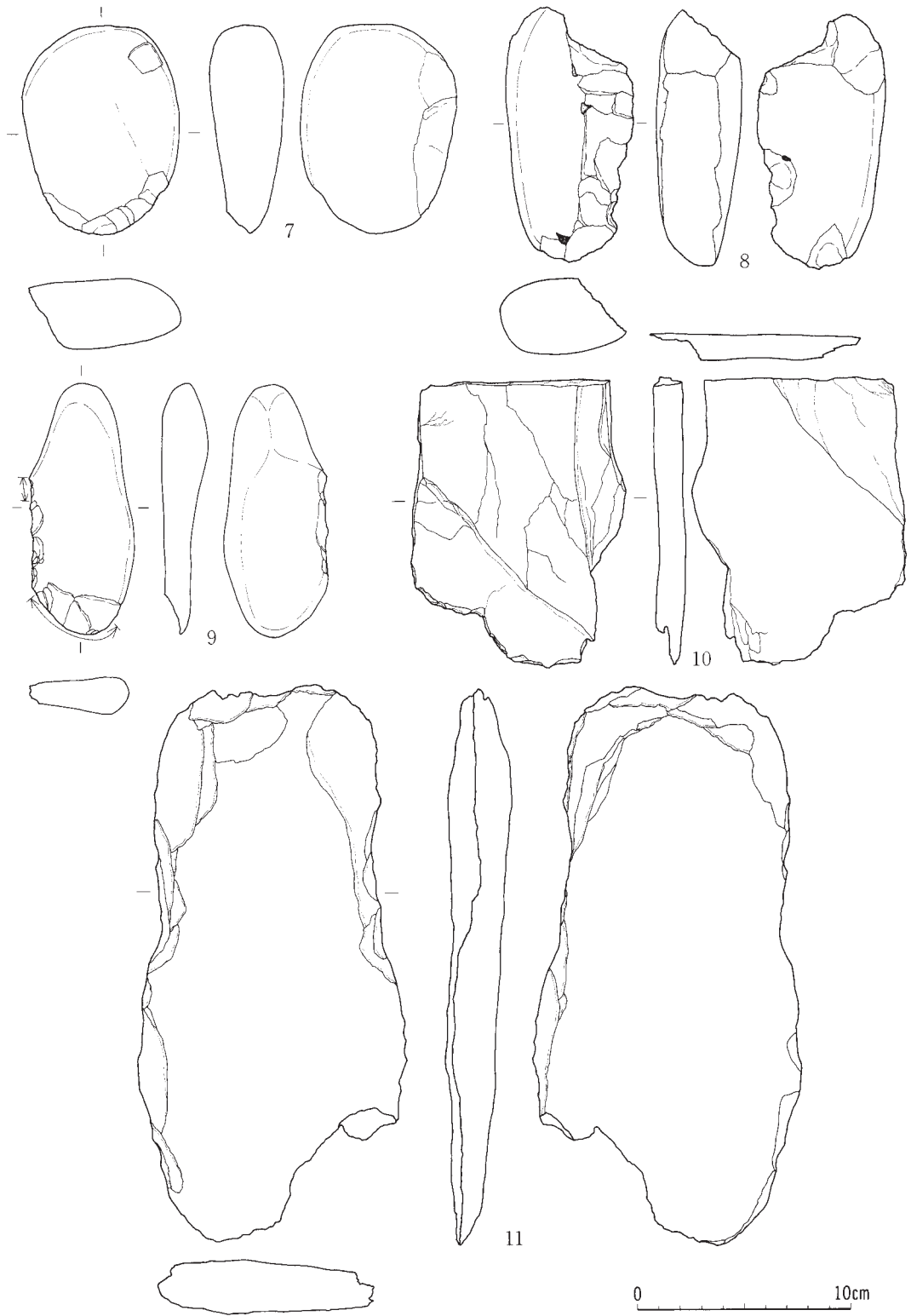


图231 遺構外出土石器(31) 礫器 2

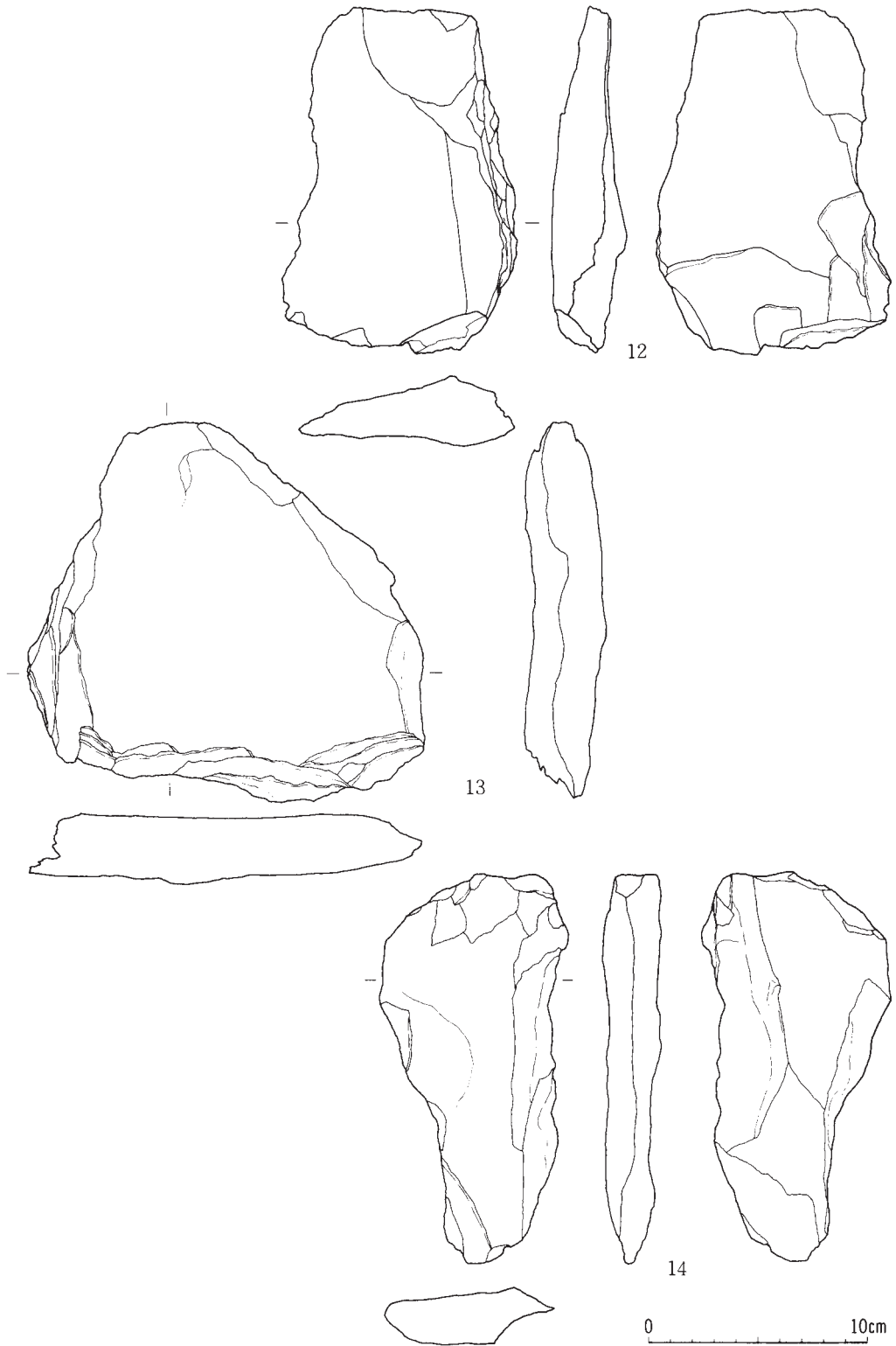


图232 遺構外出土石器(32) 礫器 3



图233 遺構外出土石器(33) 石錘1

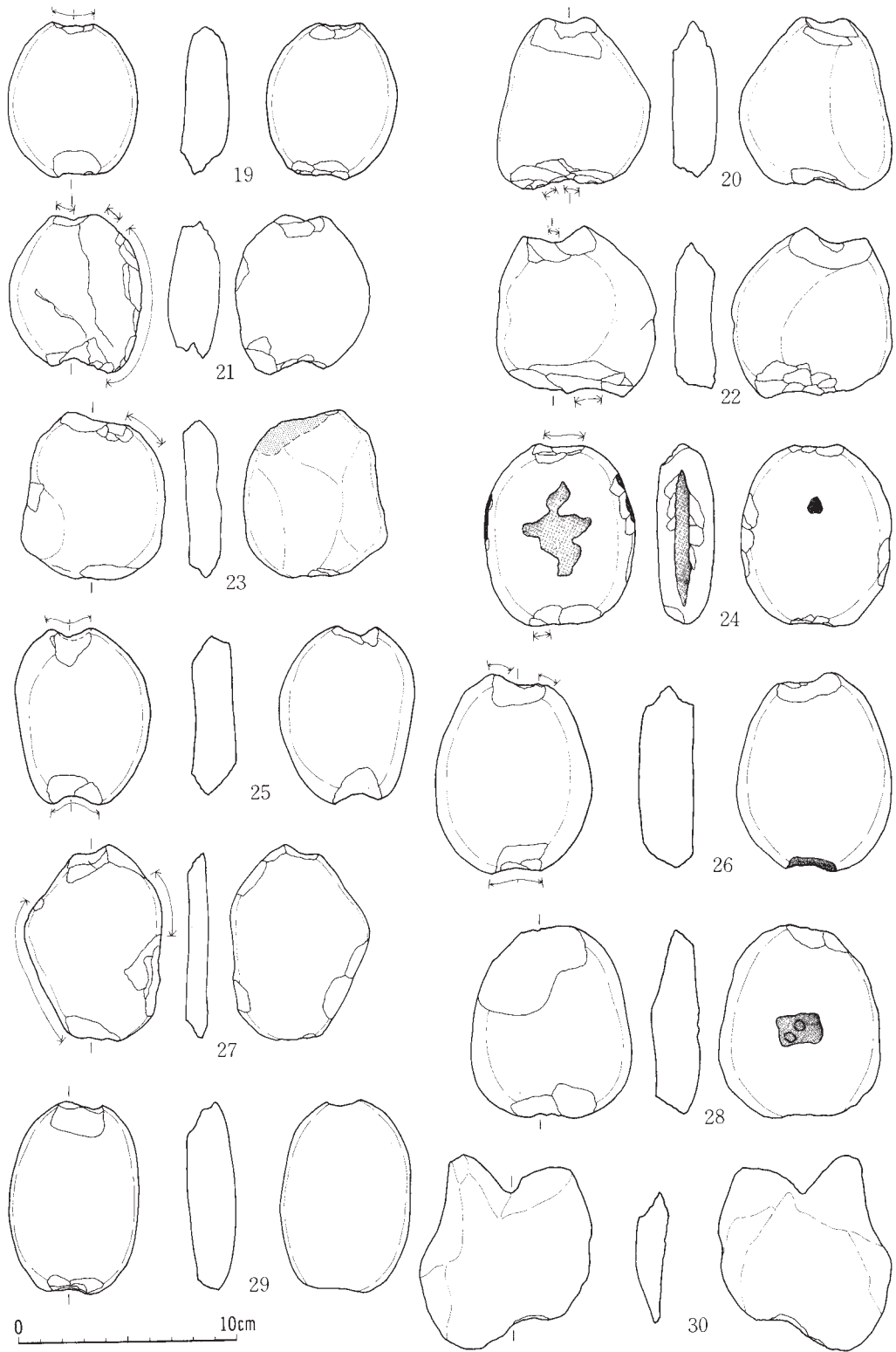


图234 遺構外出土石器(34) 石錘2

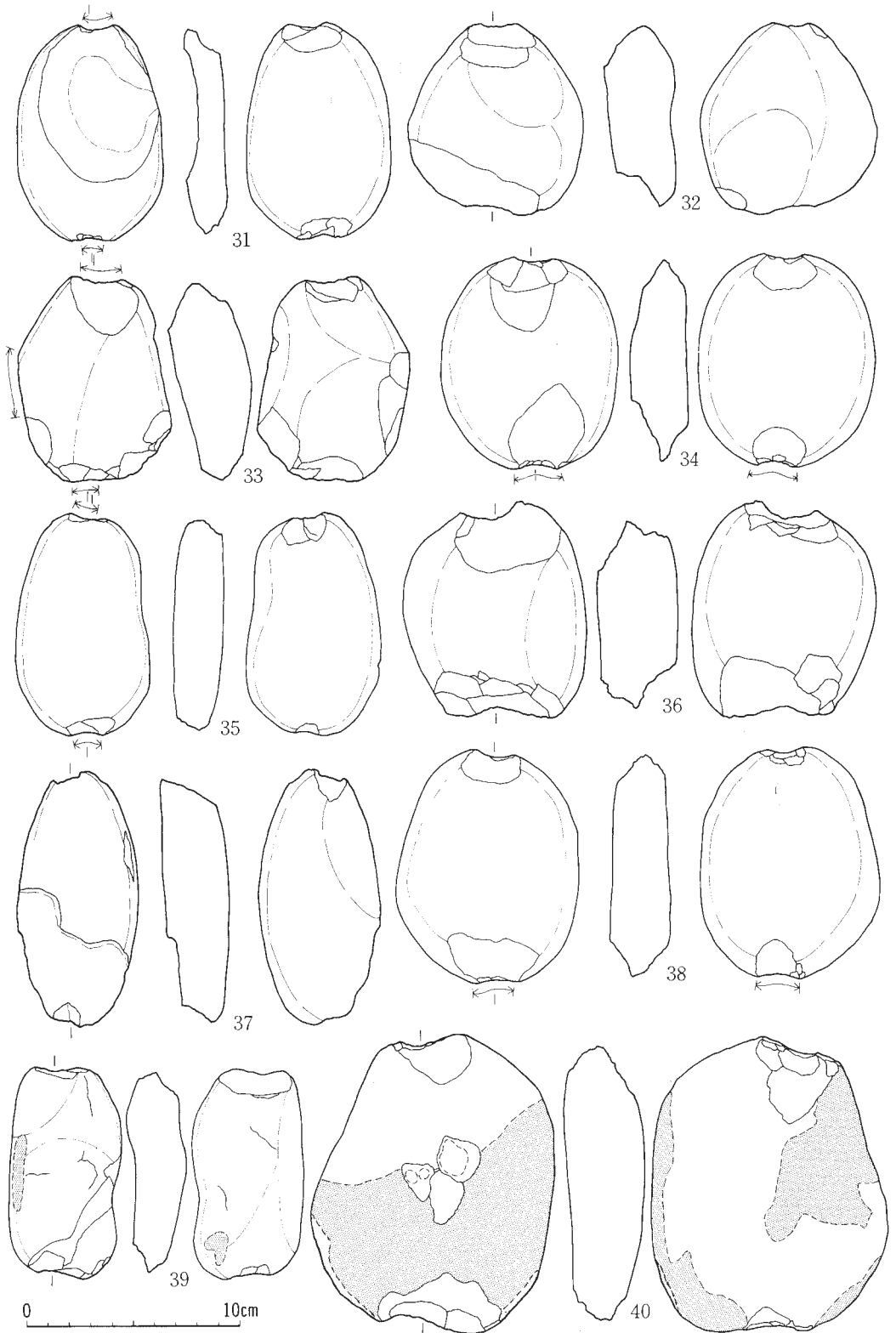


图235 遺構外出土石器(35) 石錘 3



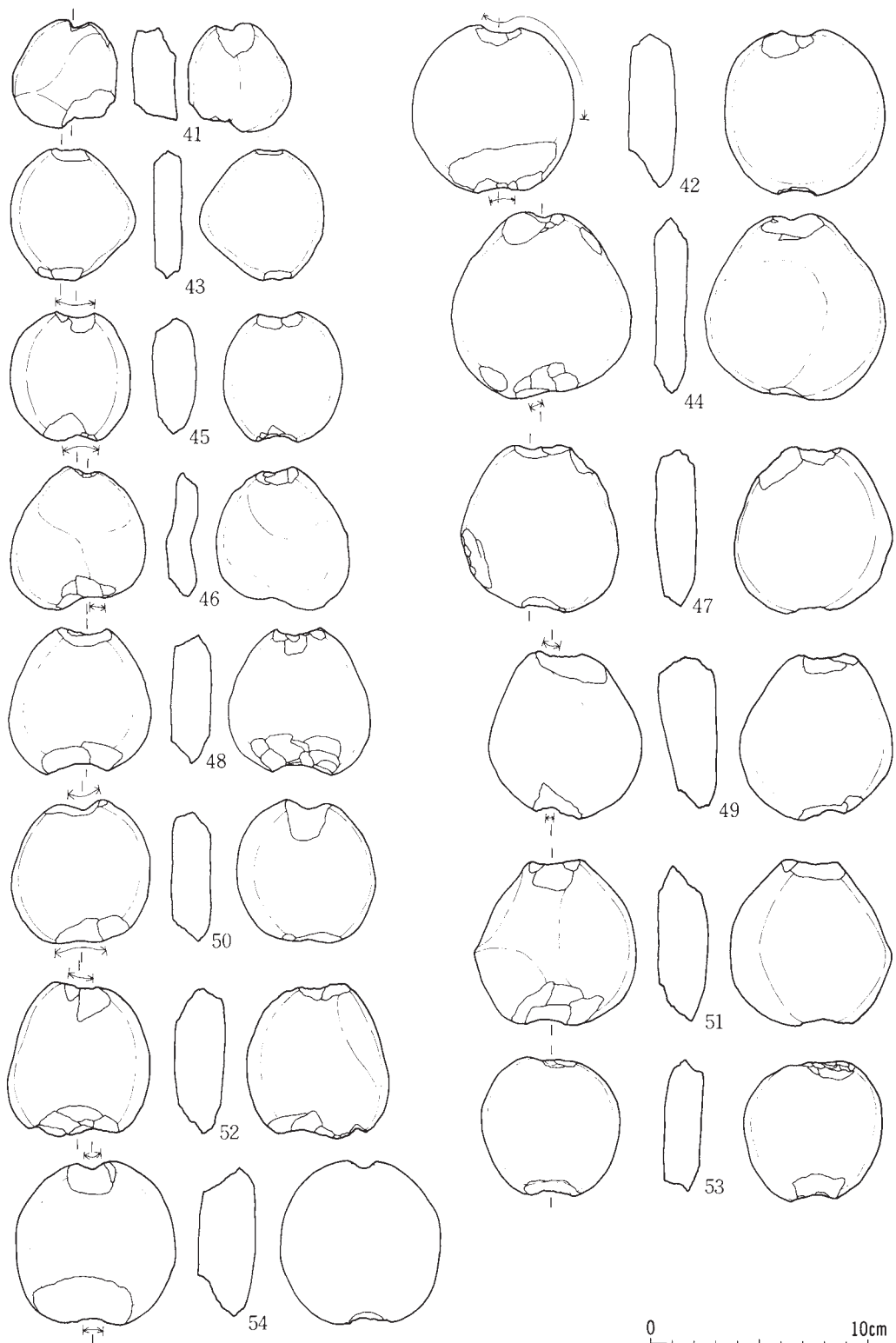


图236 遺構外出土石器(36) 石錘 4

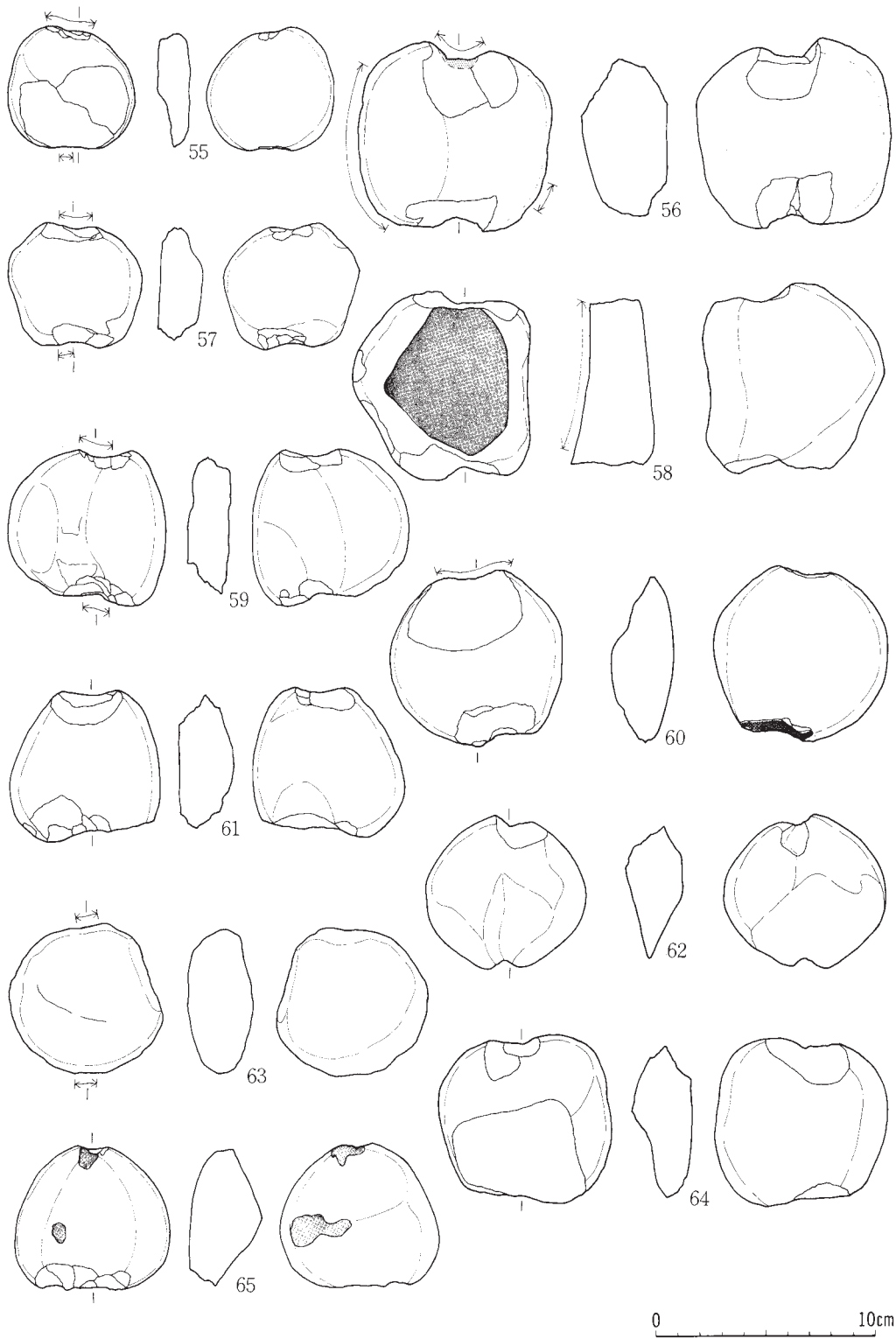


图237 遺構外出土石器(37) 石錘 5

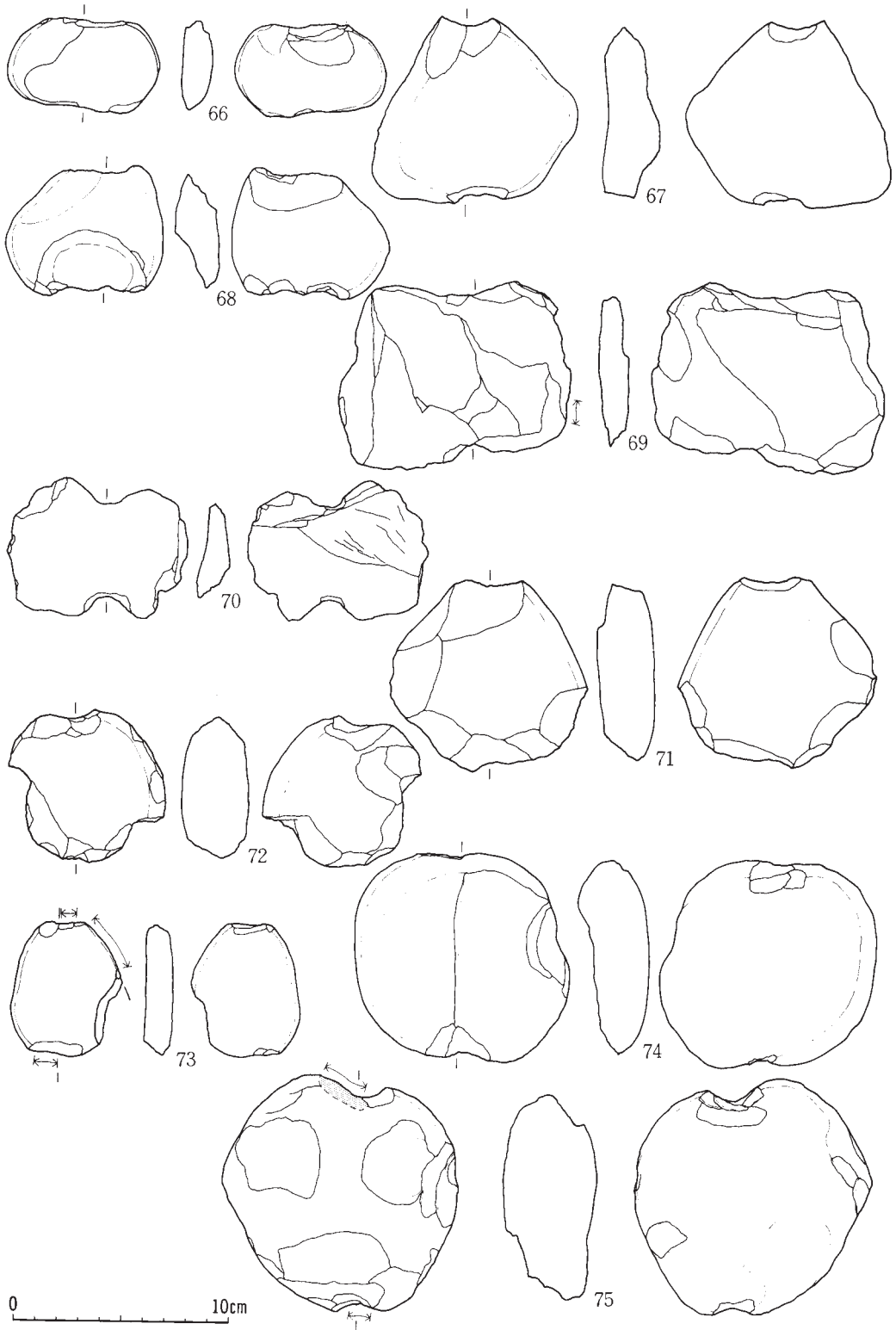


图238 遺構外出土石器(38) 石锤6

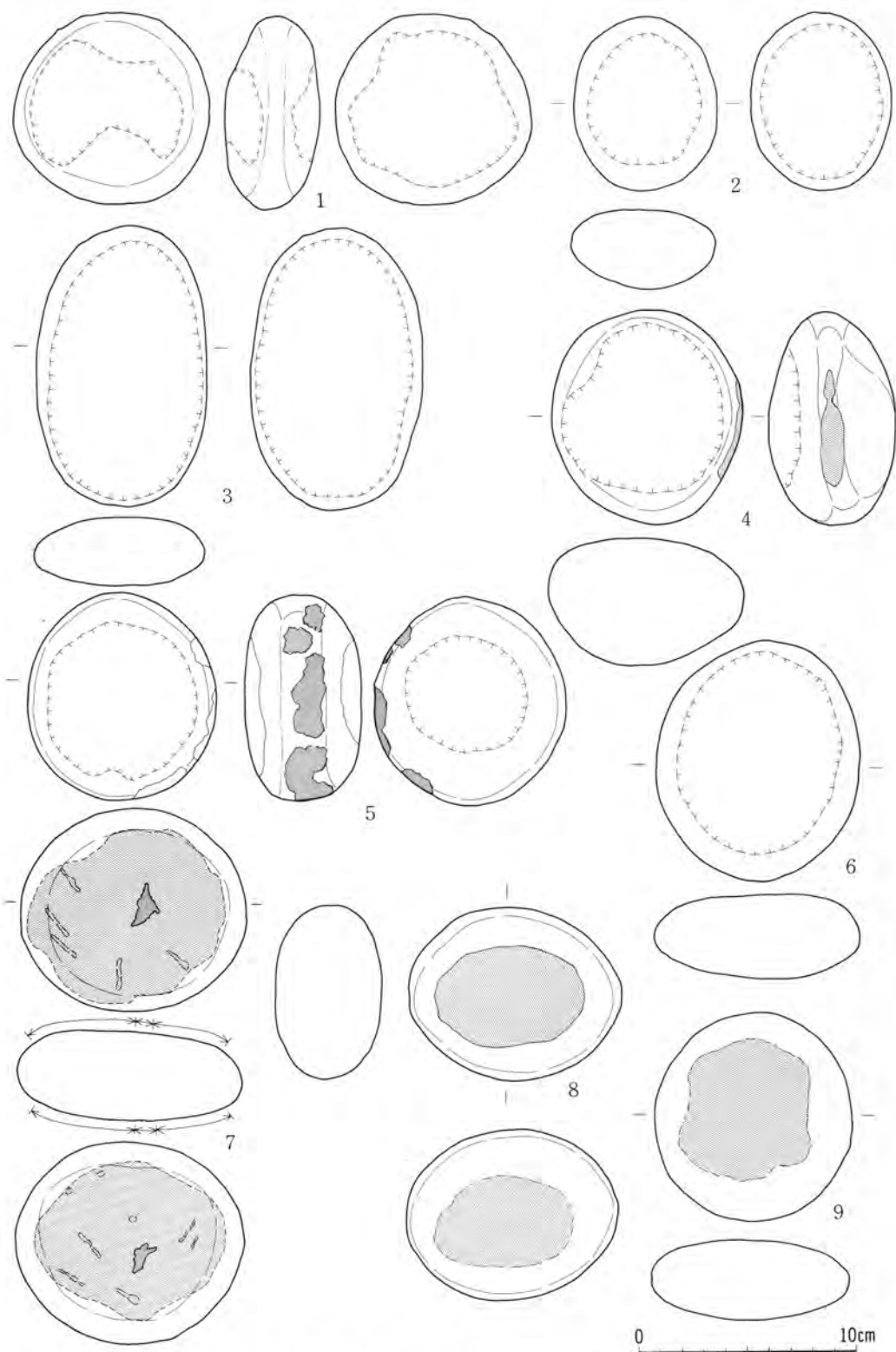


图239 遺構外出土石器(39) 磨鼓凹石類 1 (I類)

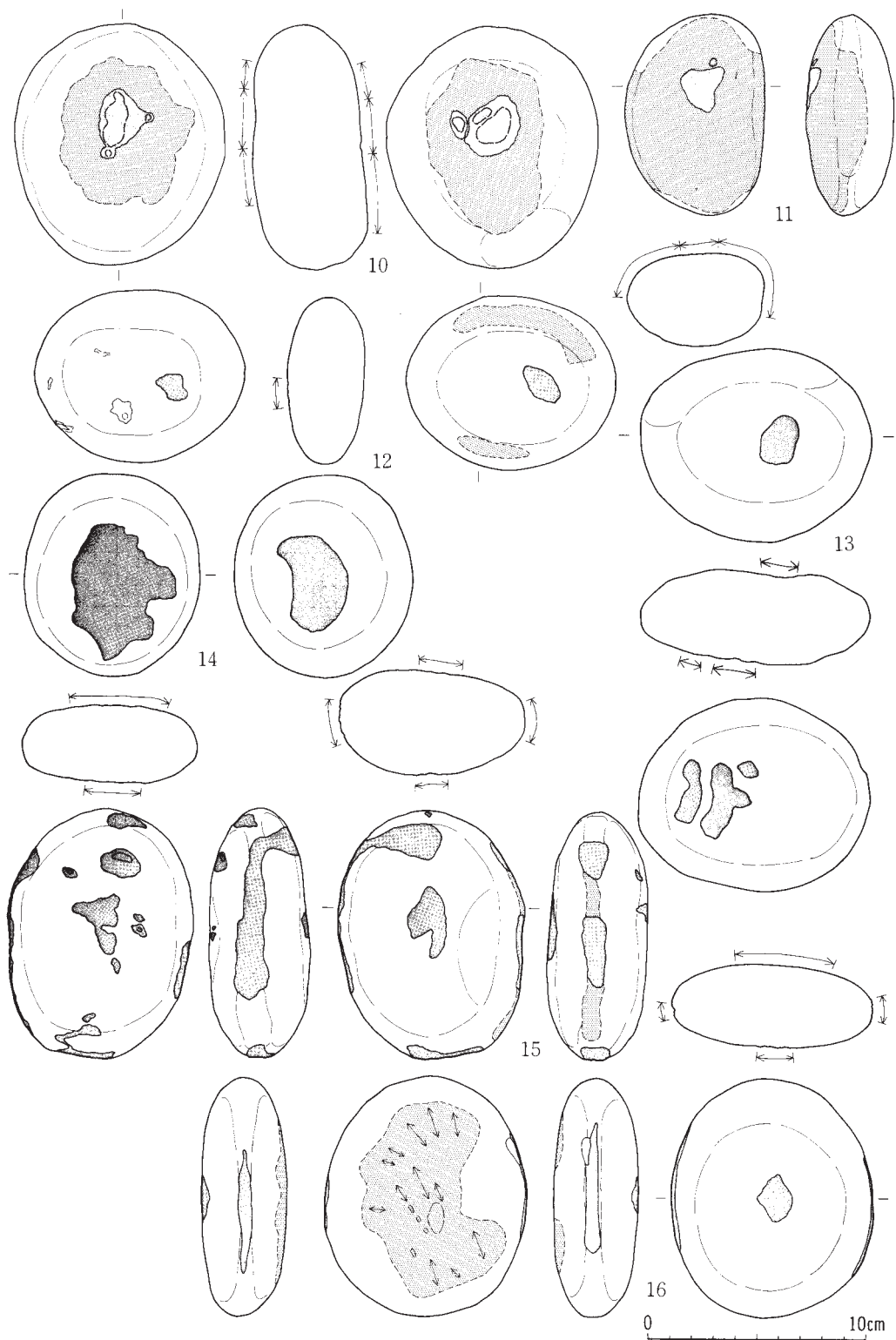


图240 遺構外出土石器(40) 磨敲凹石類2 (I類)

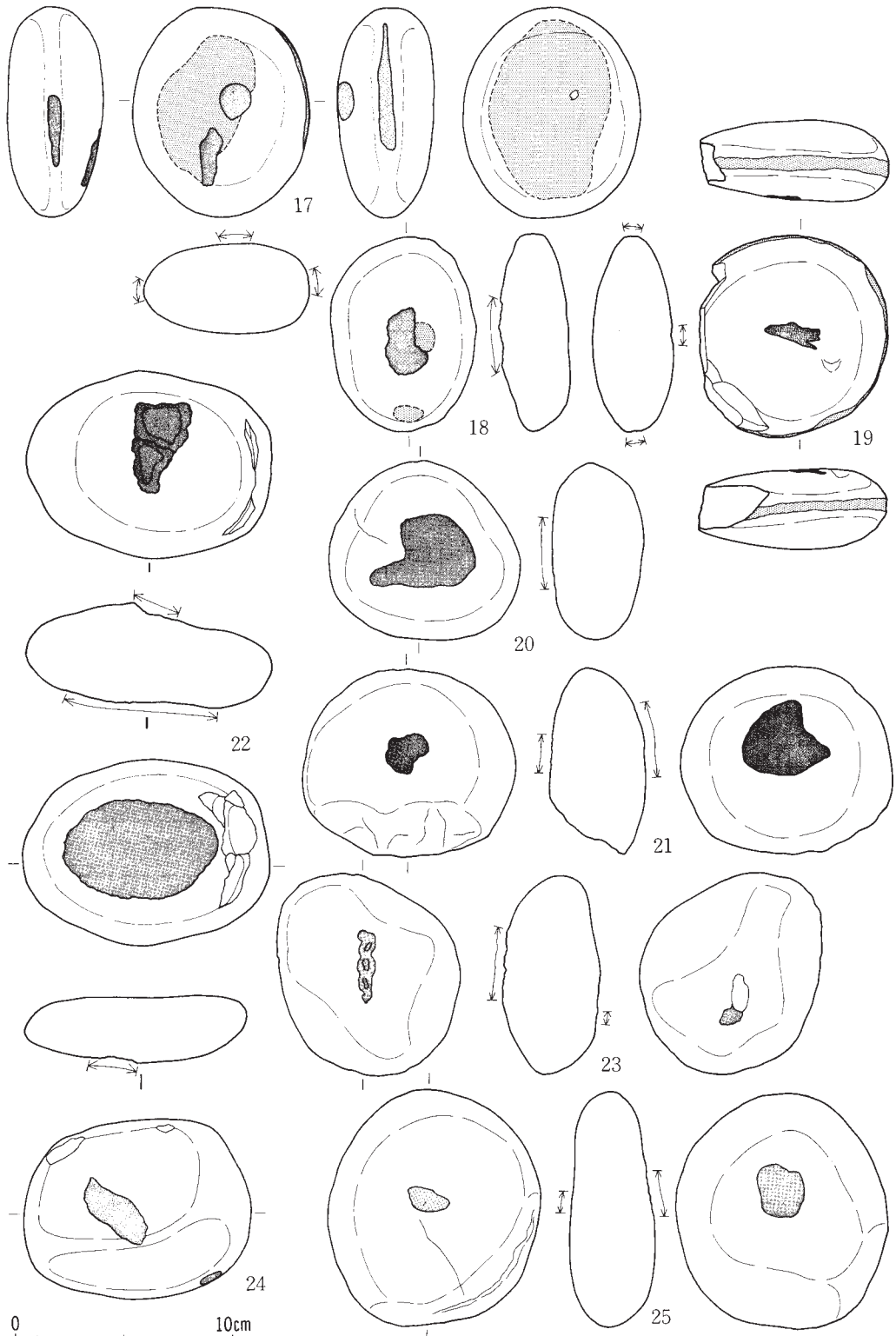


图241 遺構外出土石器(41) 磨敲凹石類 3 (I類)



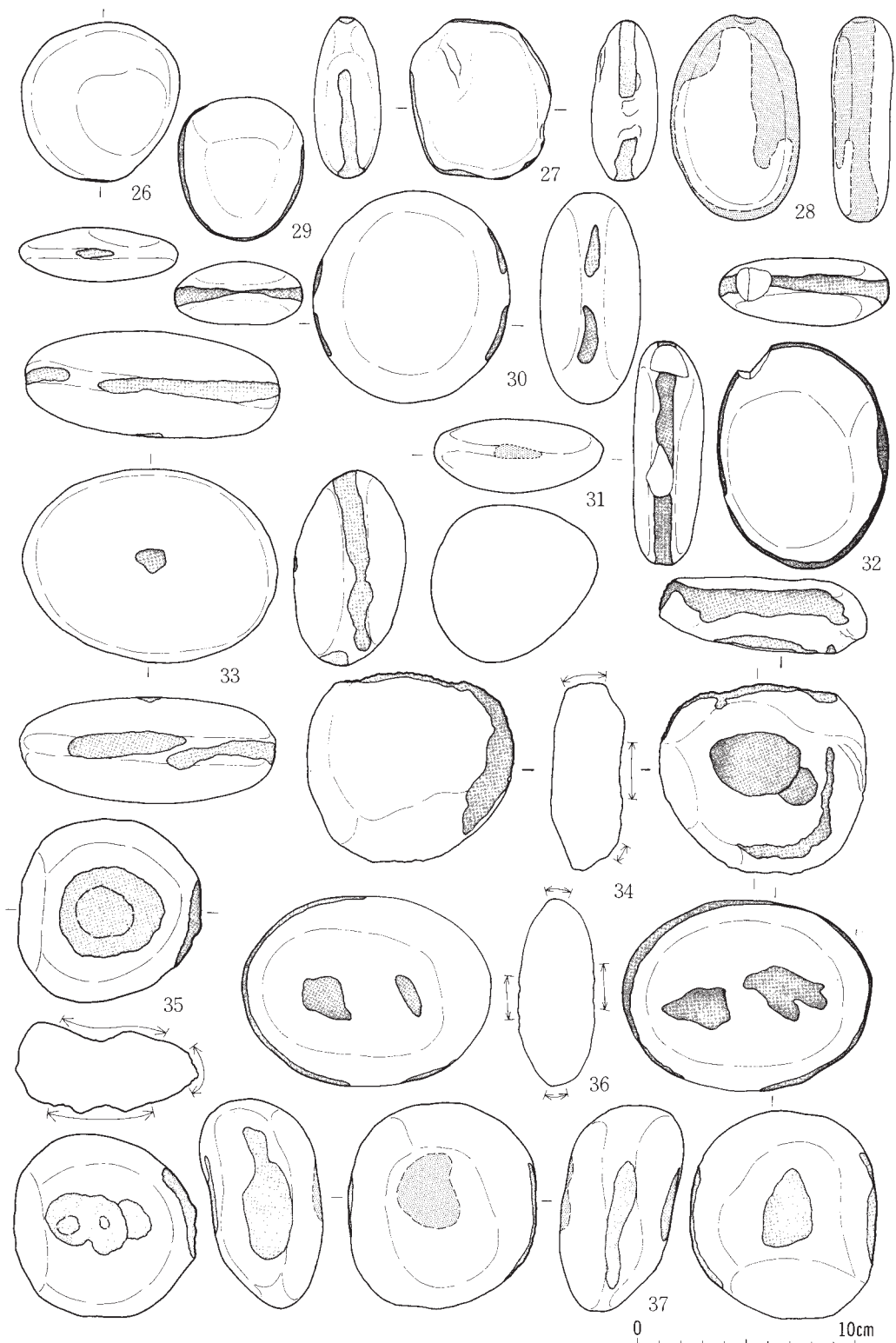


图242 遺構外出土石器(42) 磨敲凹石類4 (I類)

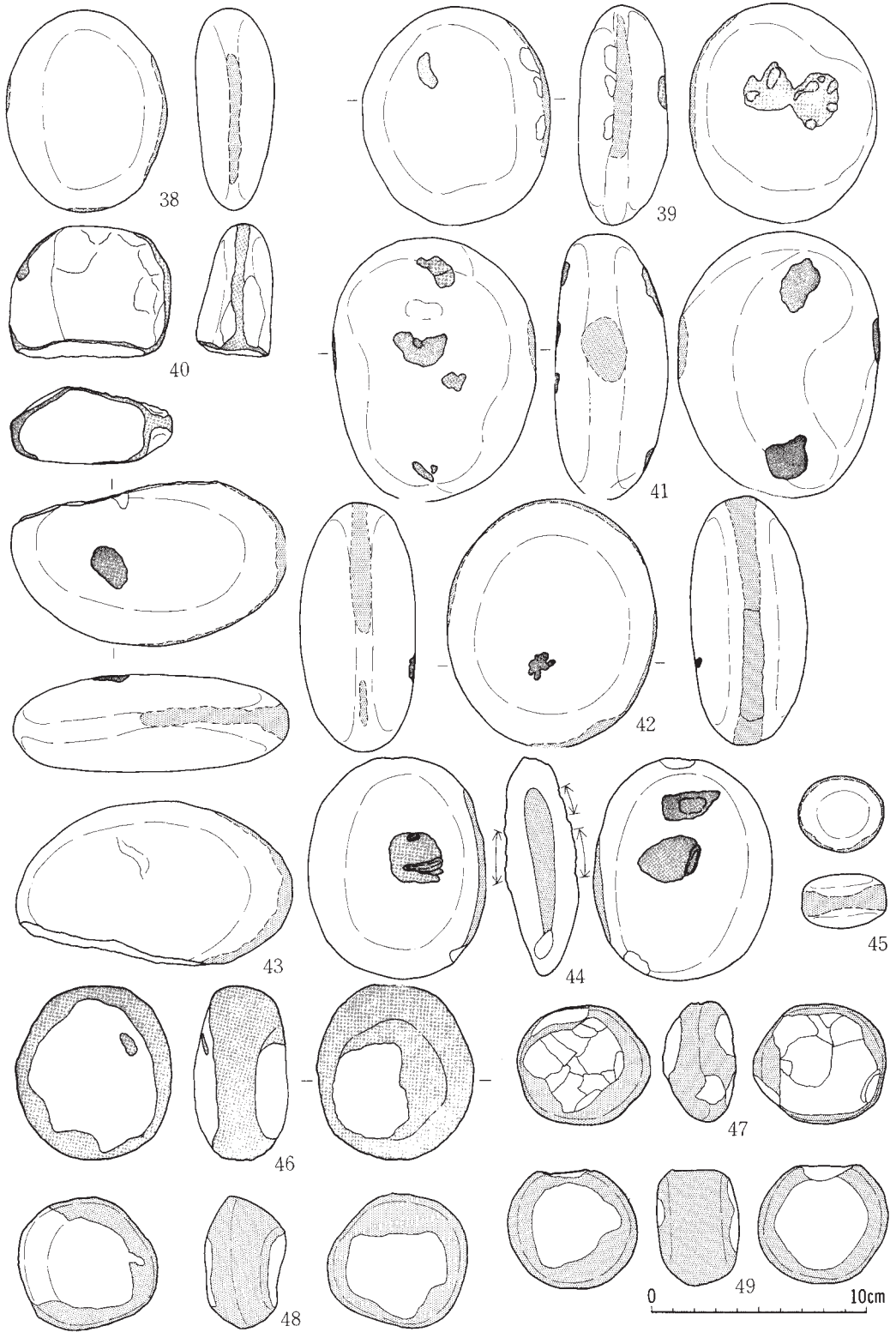


图243 遺構外出土石器(43) 磨敲凹石類 5 (I類)



图244 遺構外出土石器(44) 磨敲凹石類6 (Ⅱ類)

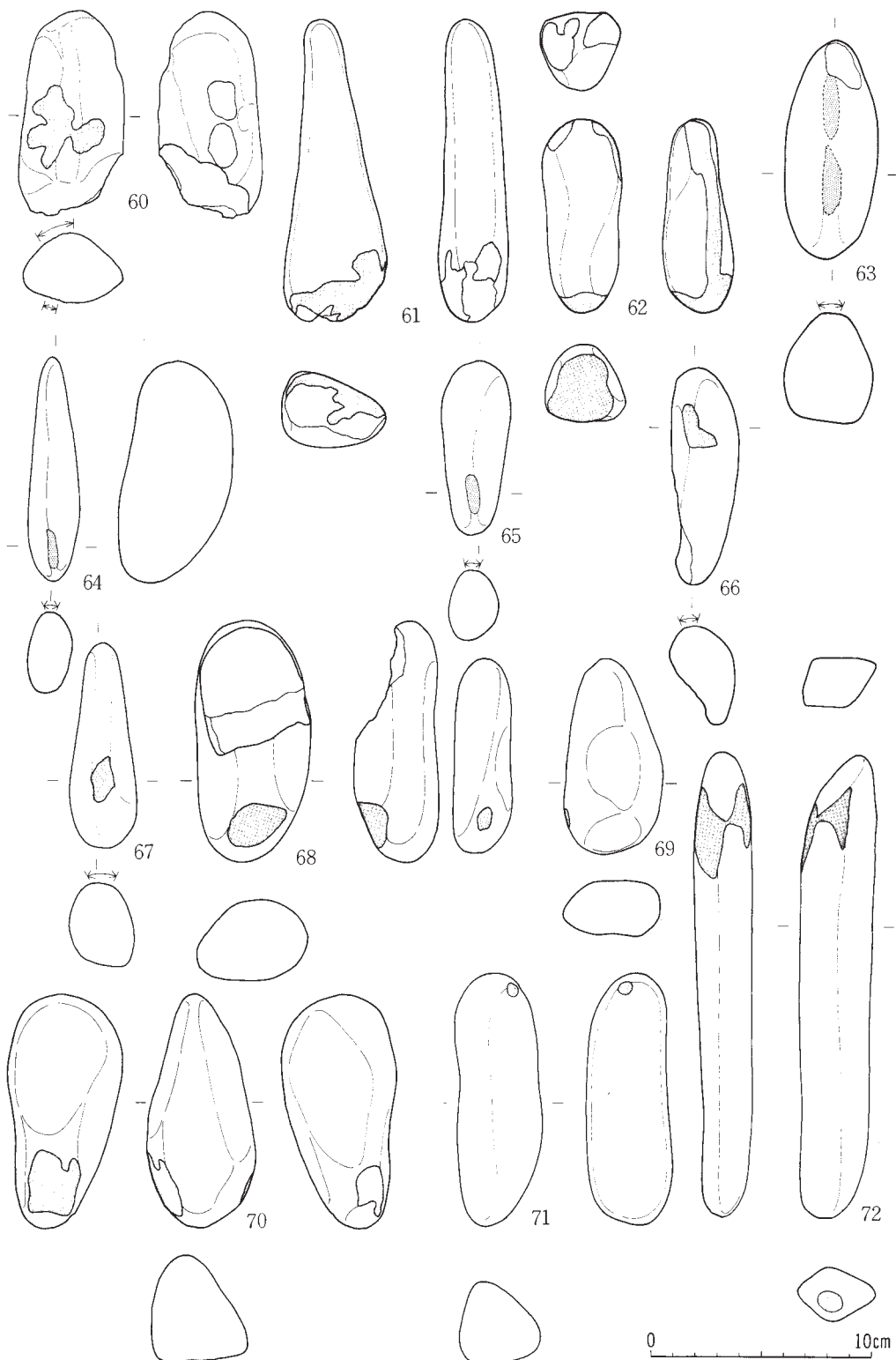


图245 遺構外出土石器(45) 磨敲凹石類7 (Ⅱ類)

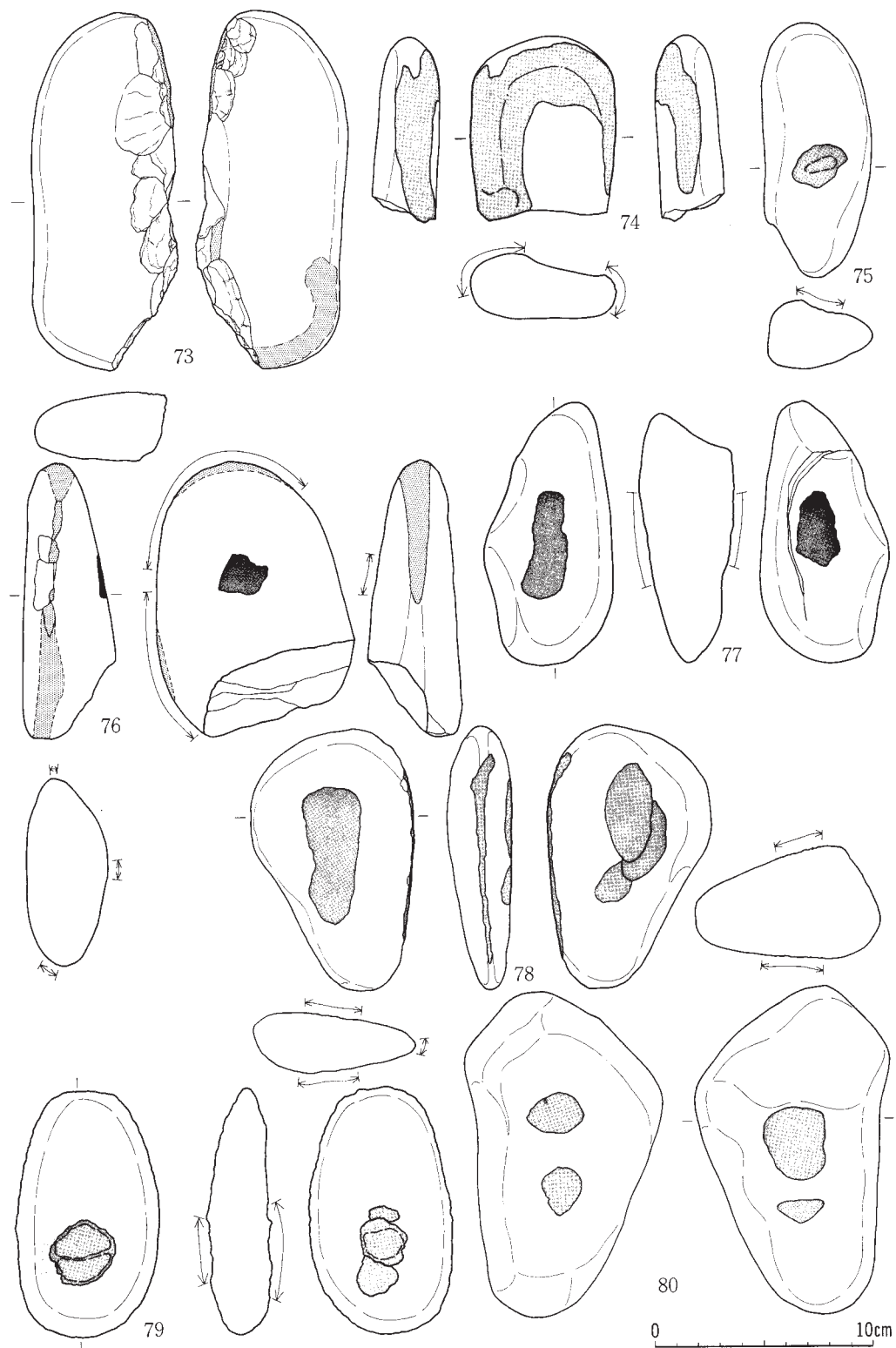


图246 遺構外出土石器(46) 磨敲凹石類 8 (Ⅲ類)

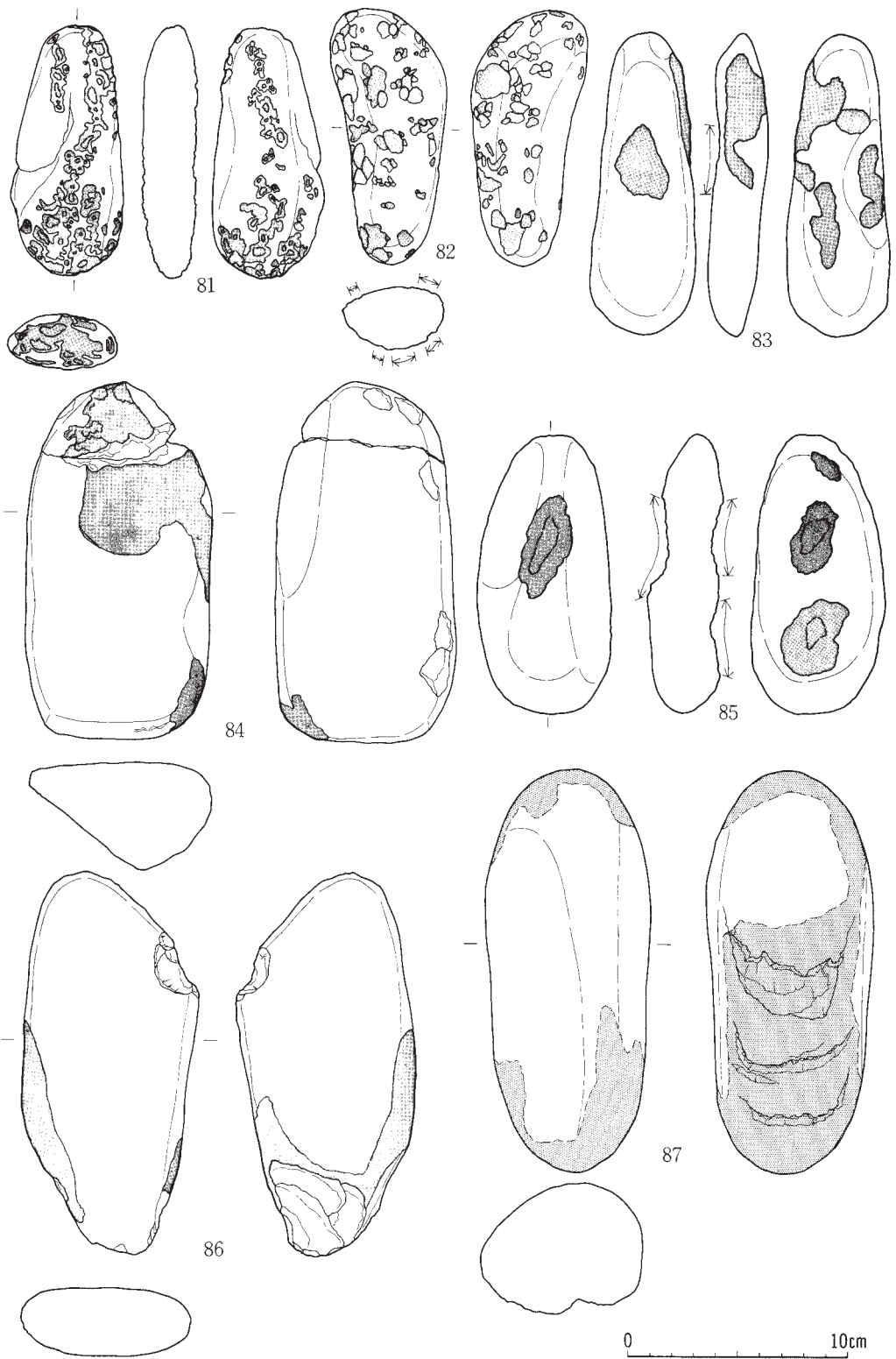


图247 遺構外出土石器(47) 磨敲凹石類9 (Ⅲ類)



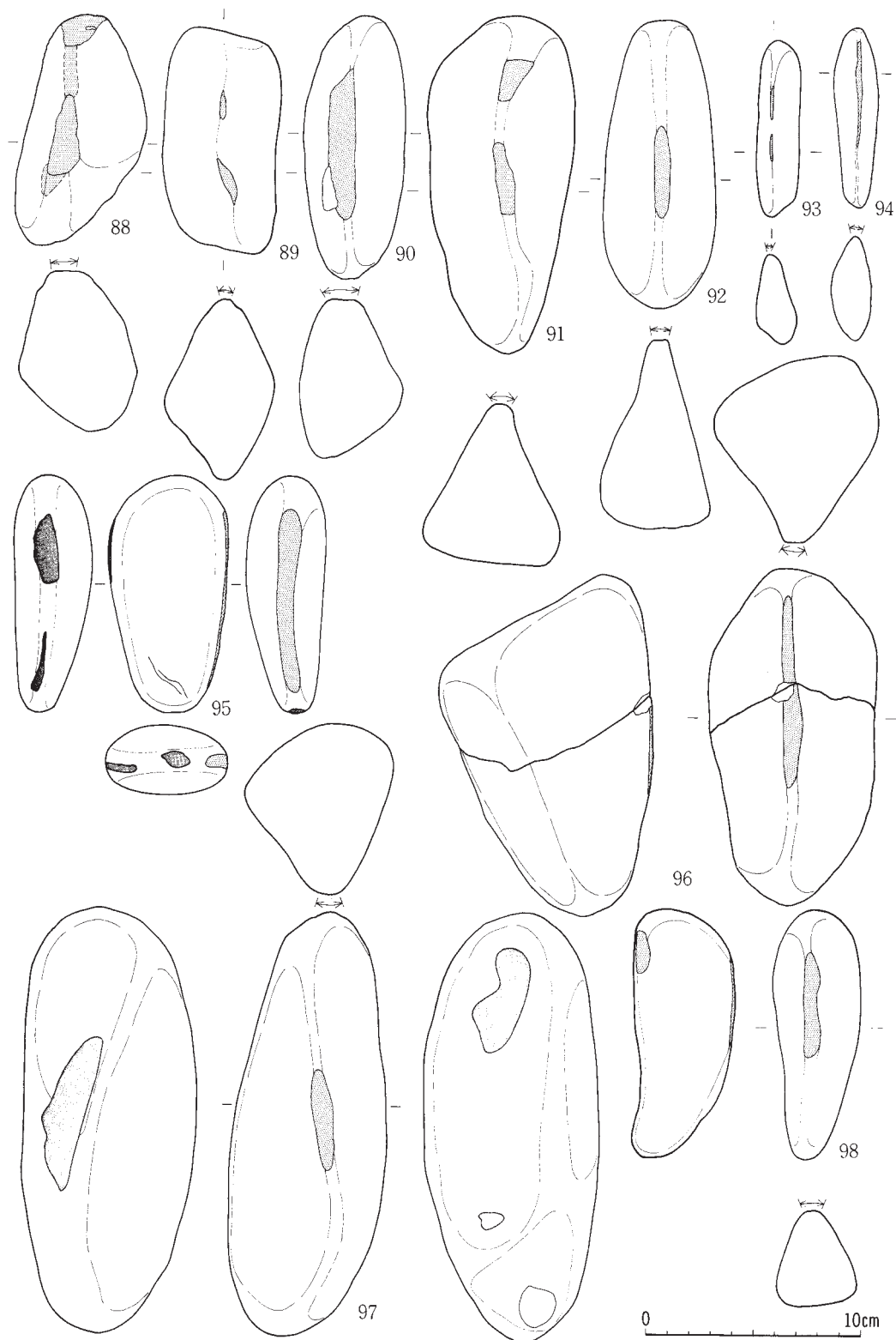


图248 遺構外出土石器(48) 磨敲凹石類10 (Ⅲ類)

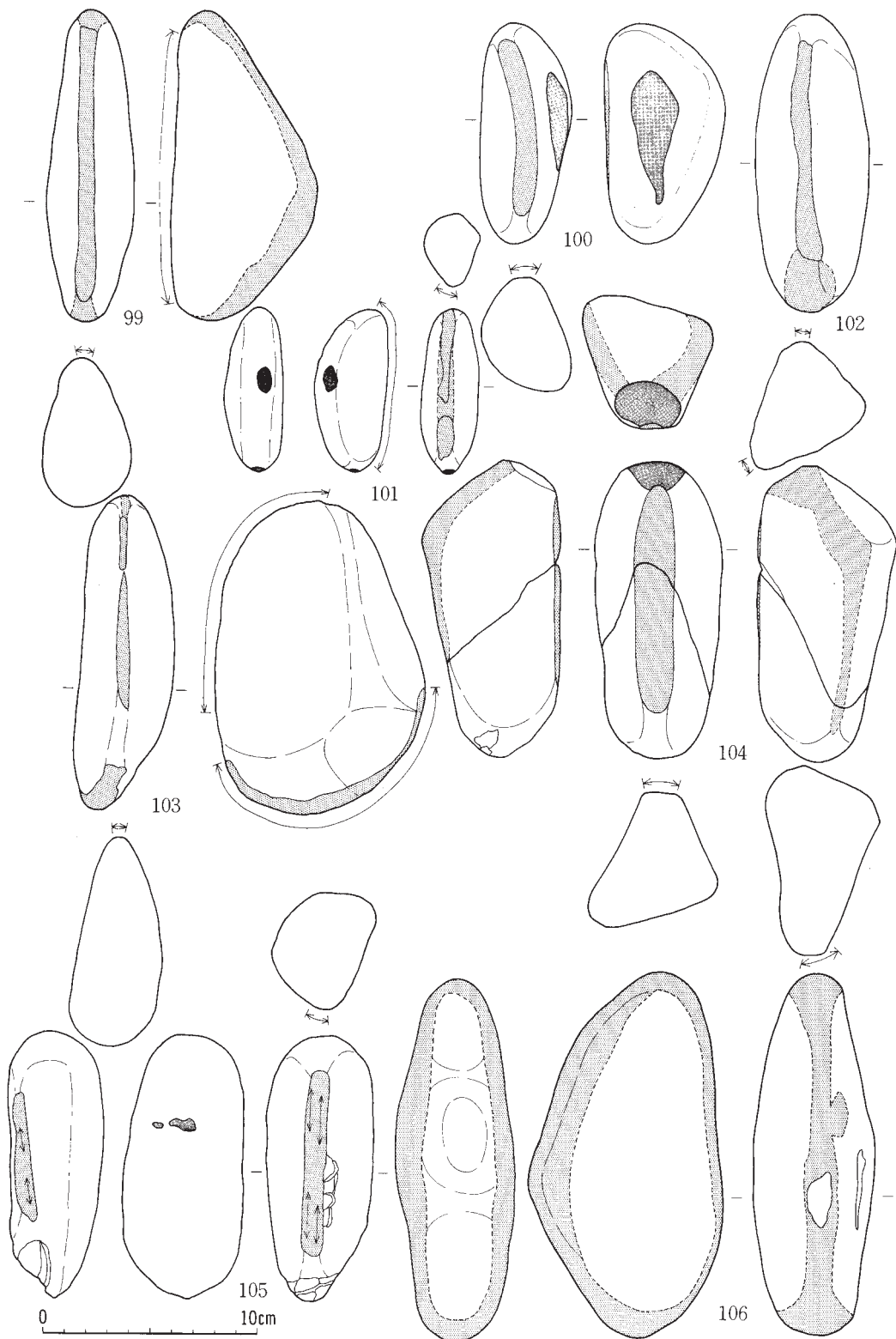


图249 遺構外出土石器(49) 磨敲凹石類11 (Ⅲ類)

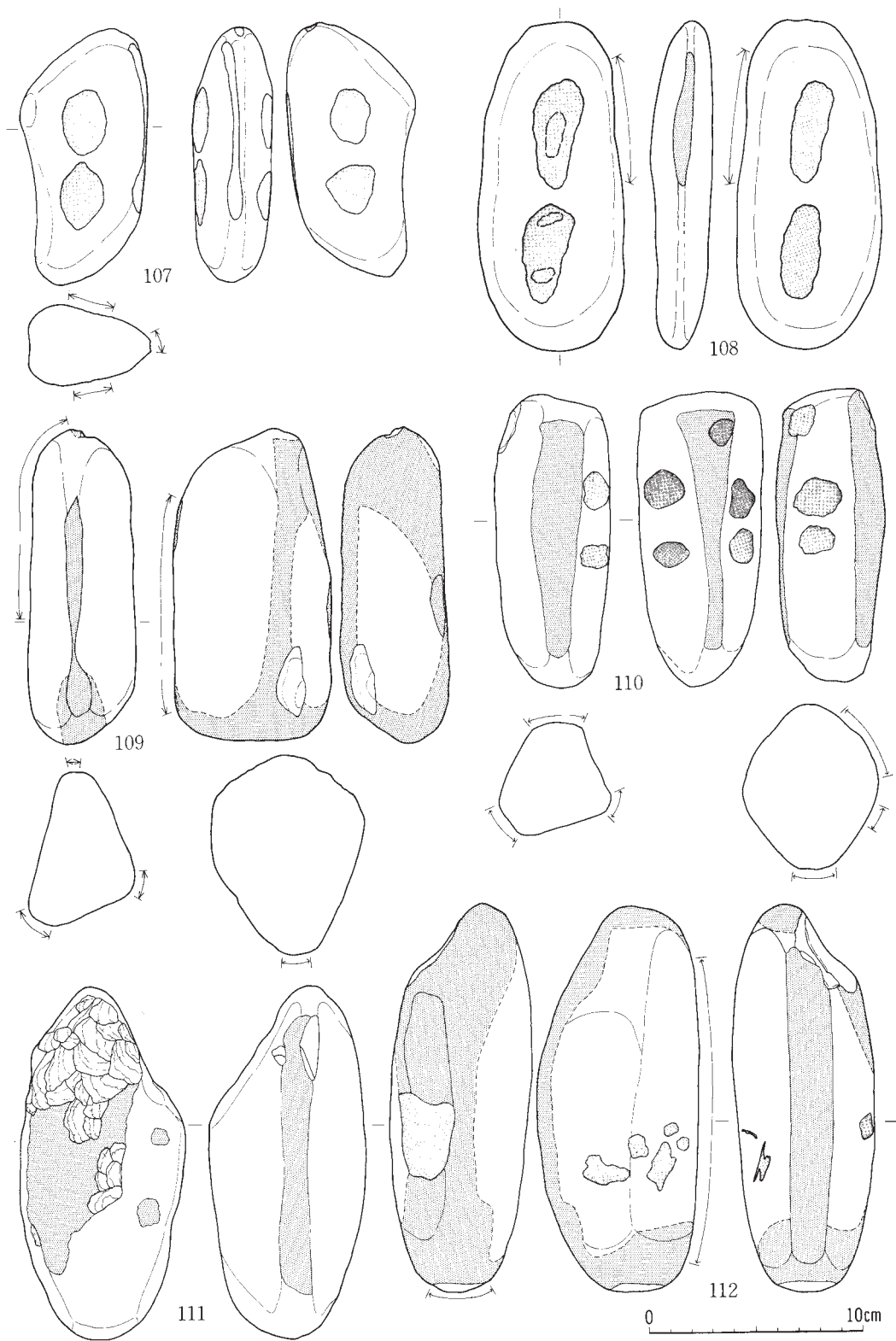


图250 遺構外出土石器(50) 磨敲凹石類12(Ⅲ類)

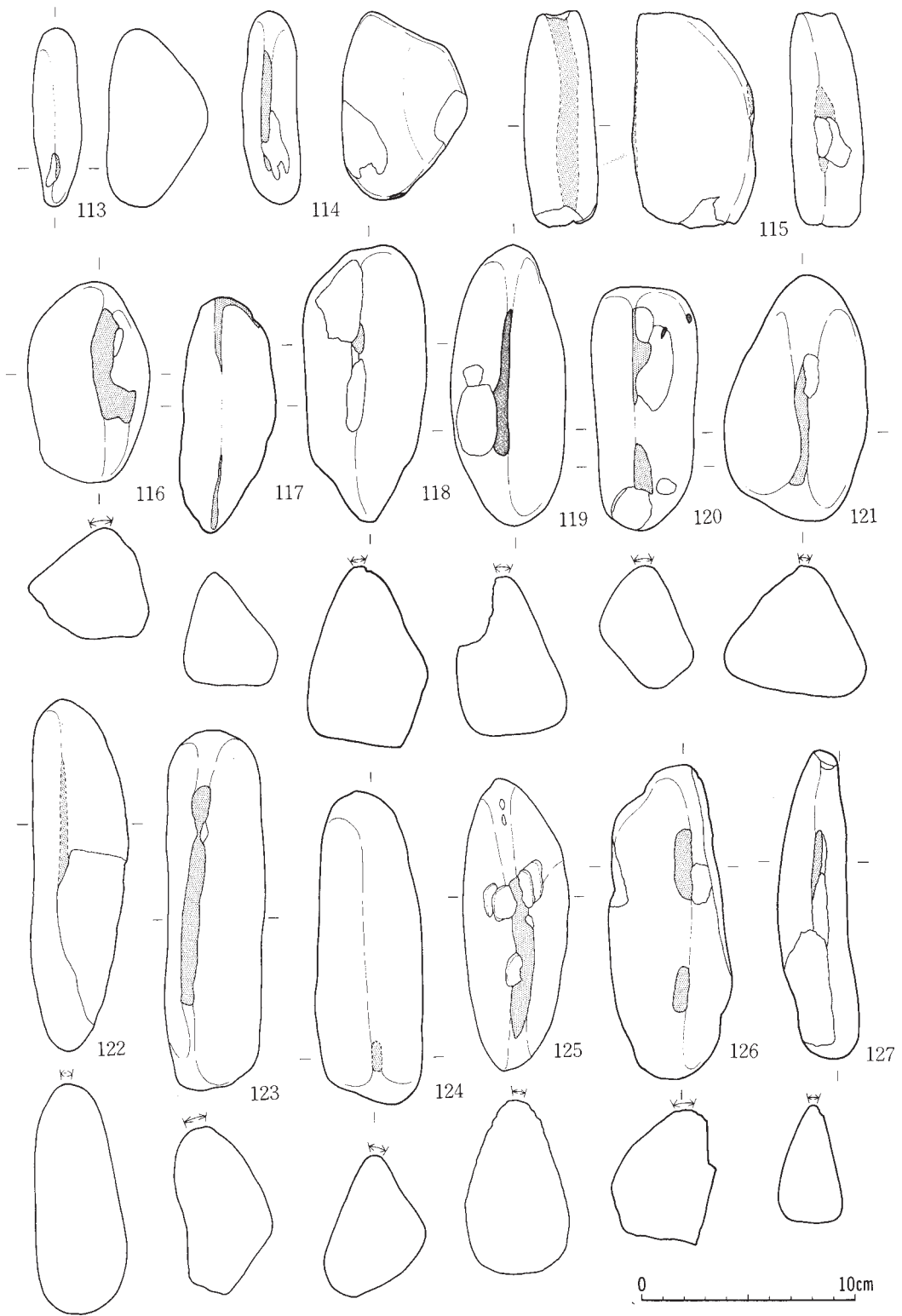


图251 遺構外出土石器(51) 磨敲凹石類13 (Ⅲ類)

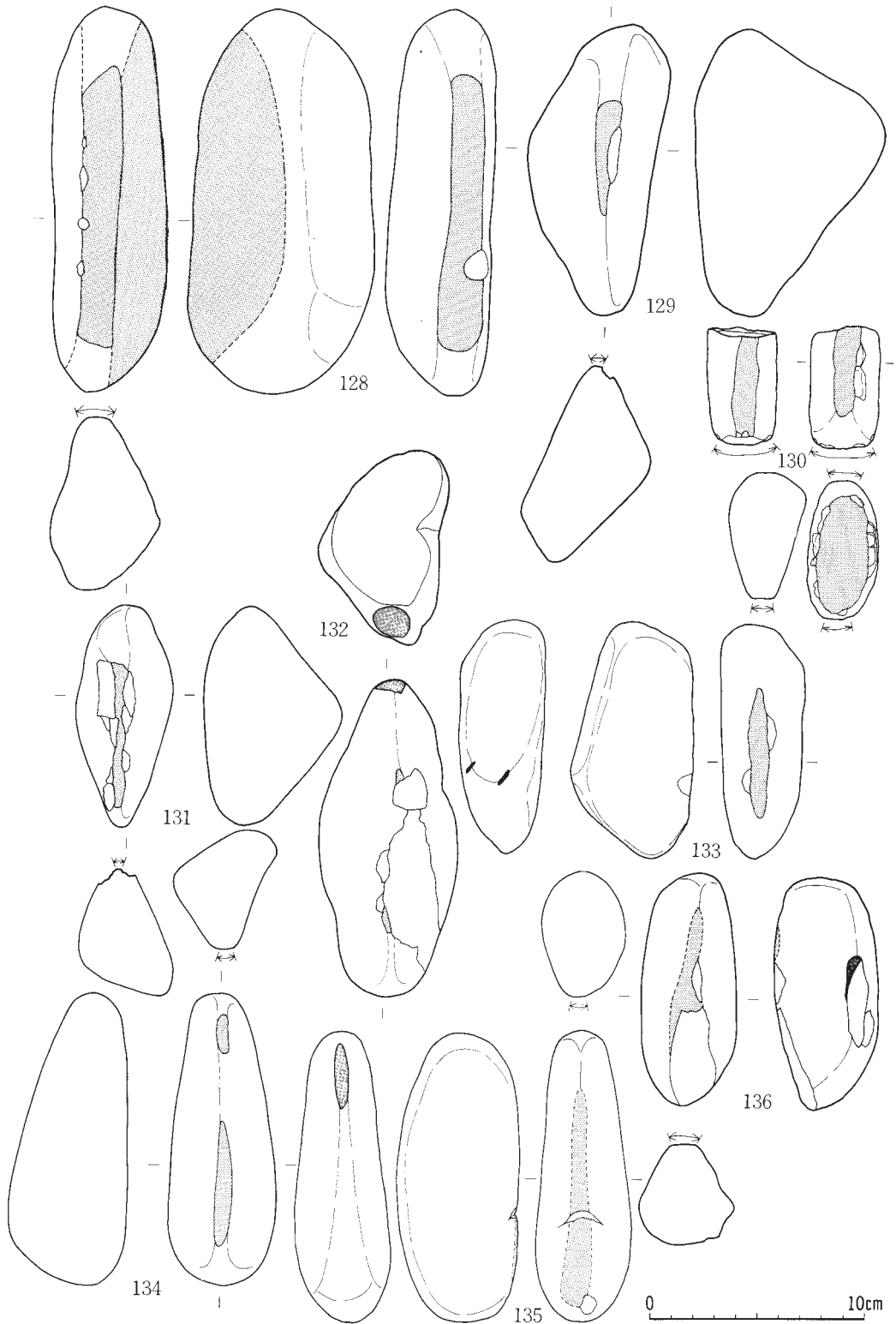


图252 遺構外出土石器(52) 磨敲凹石類14 (Ⅲ類)

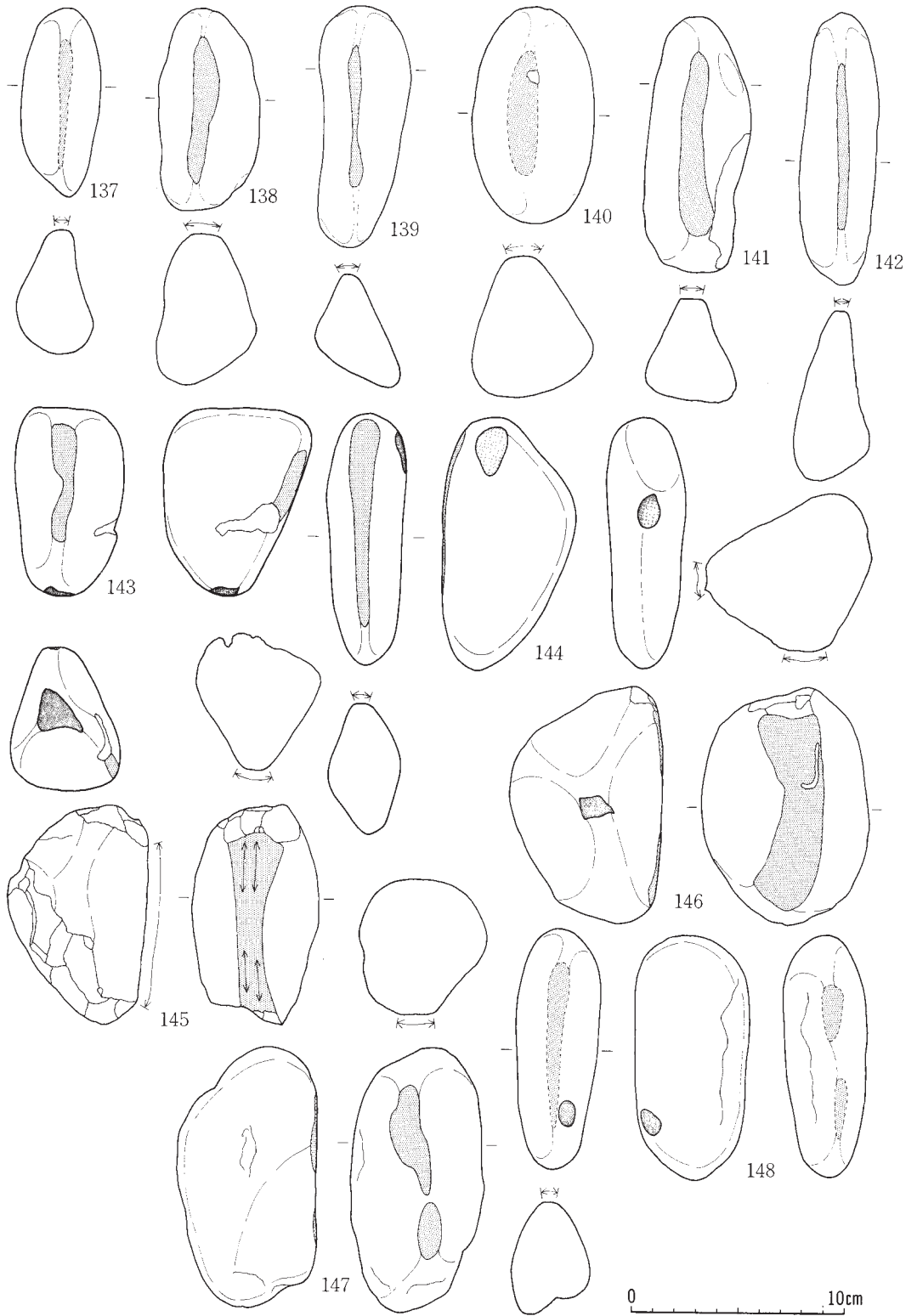


図253 遺構外出土石器(53) 磨敲凹石類15 (Ⅲ類)



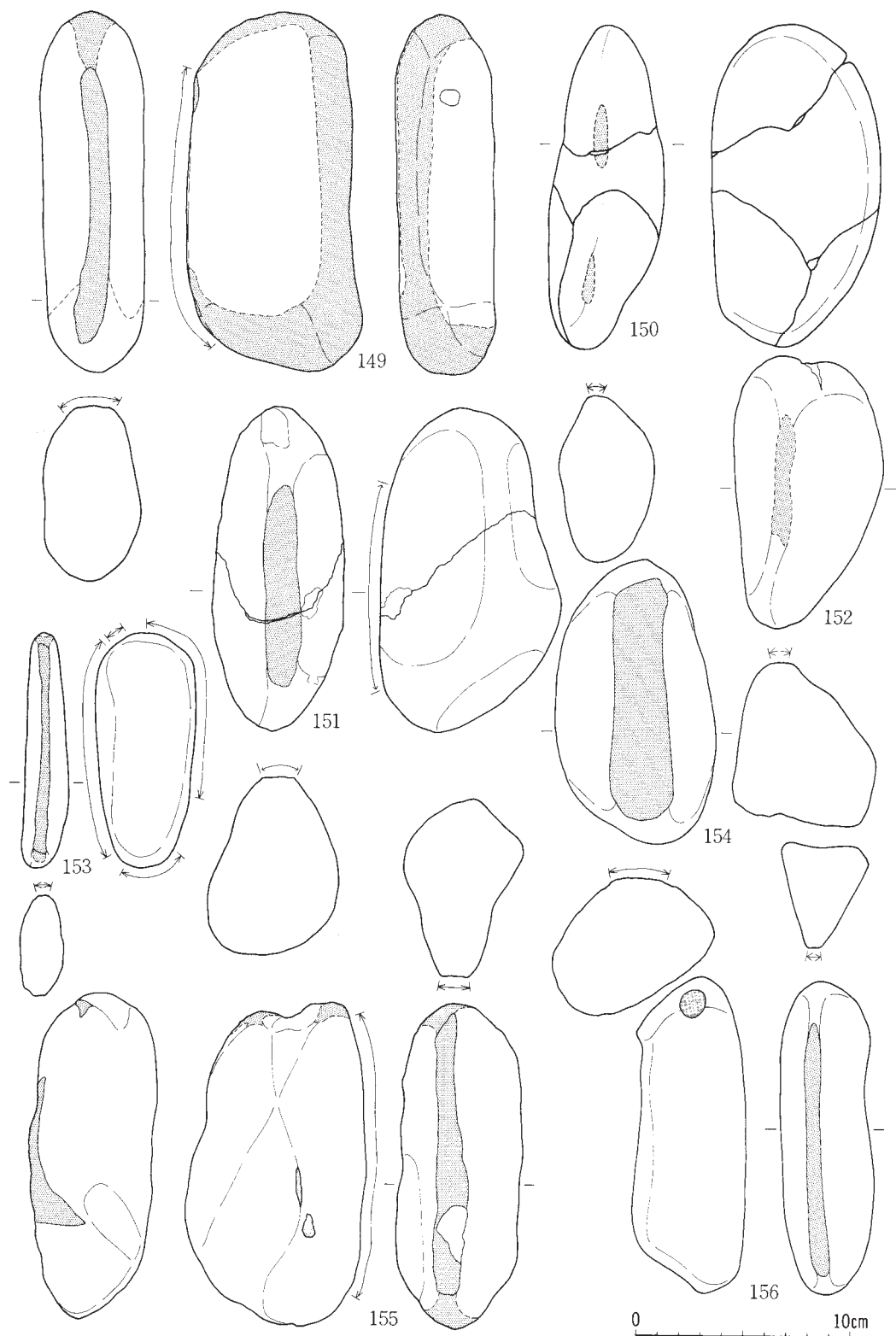


图254 遺構外出土石器(54) 磨敲凹石類16 (Ⅲ類)

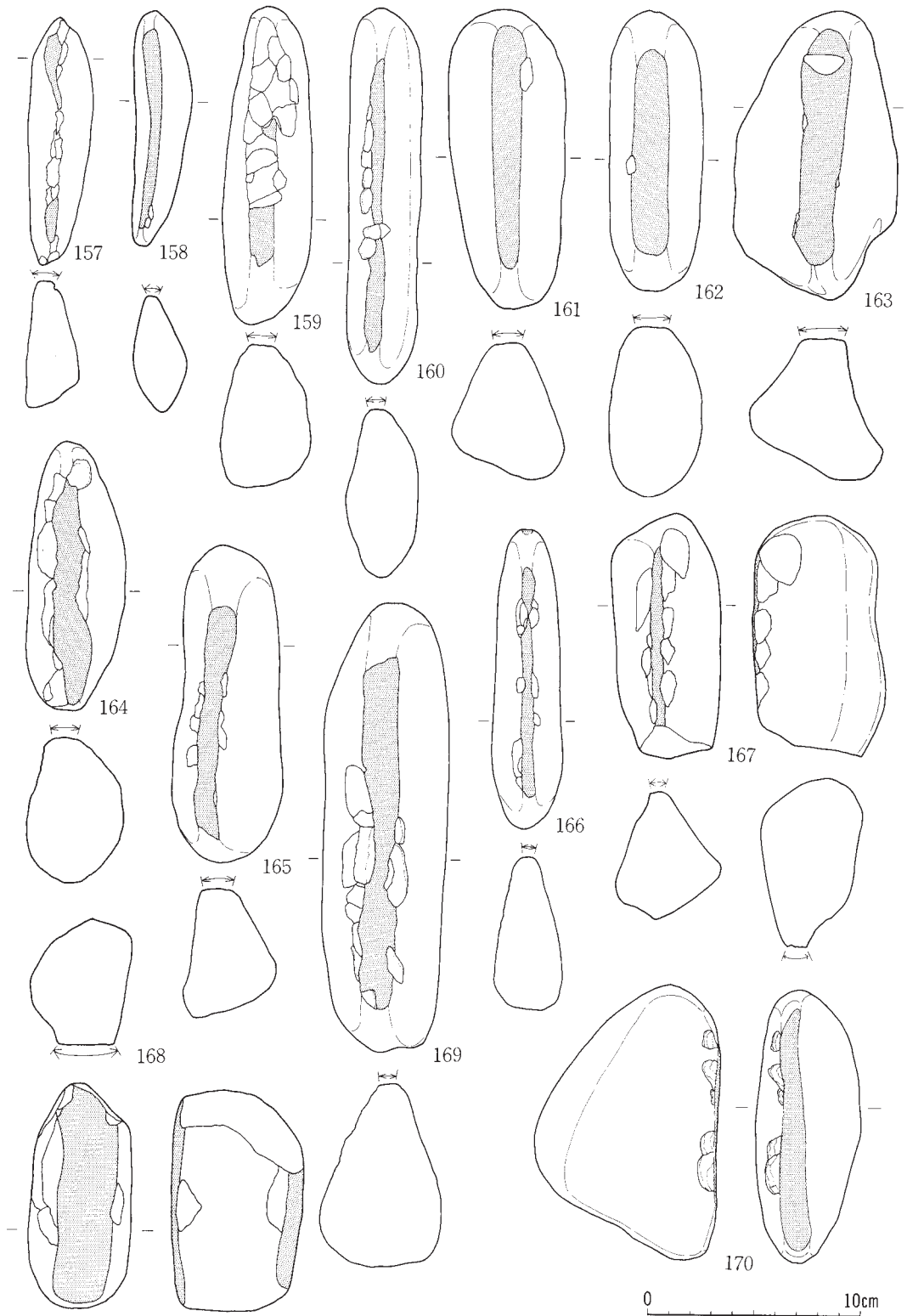


图255 遺構外出土石器(55) 磨敲凹石類17 (Ⅲ類)

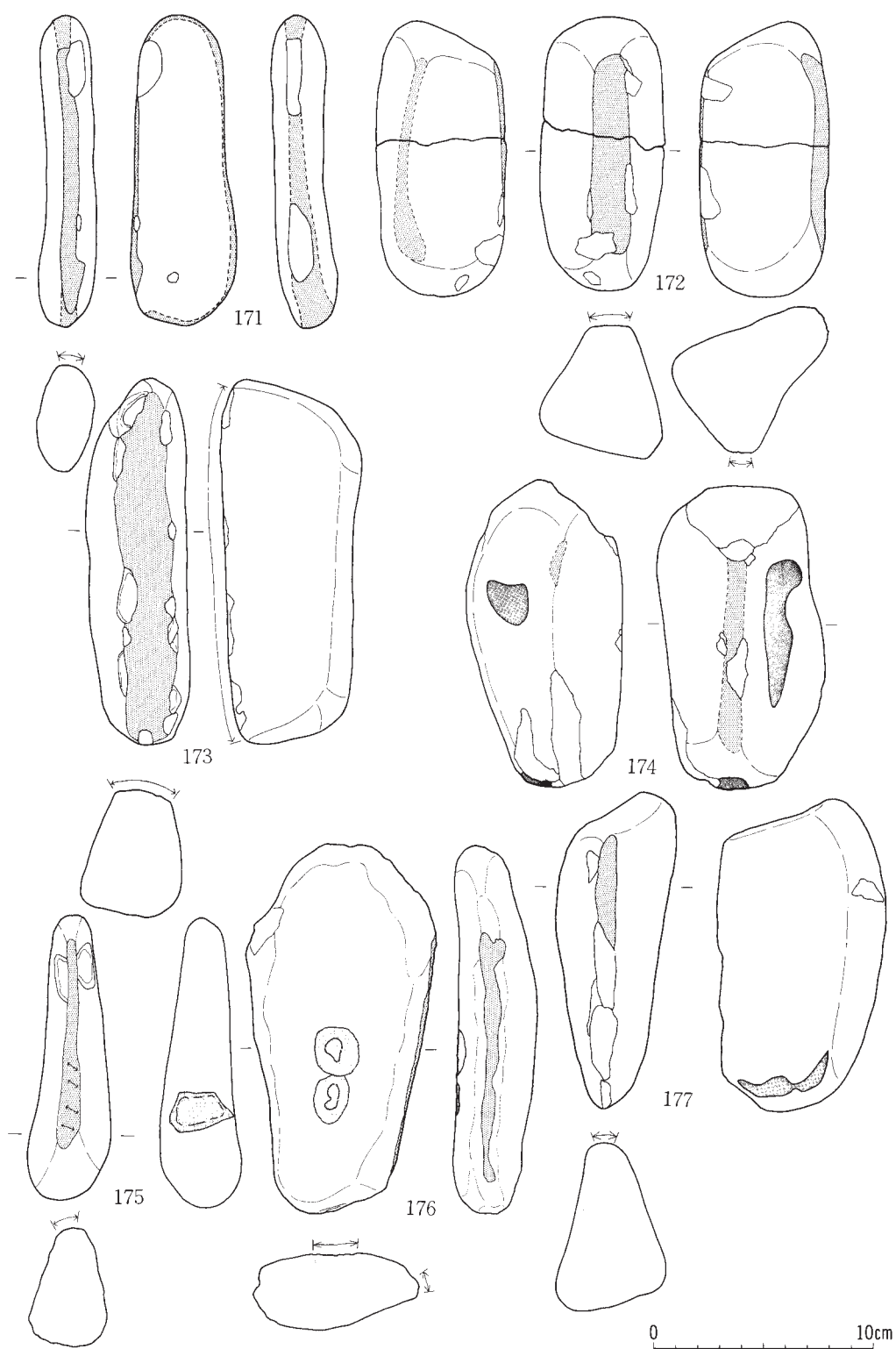


図256 遺構外出土石器(56) 磨敲凹石類18 (Ⅲ類)

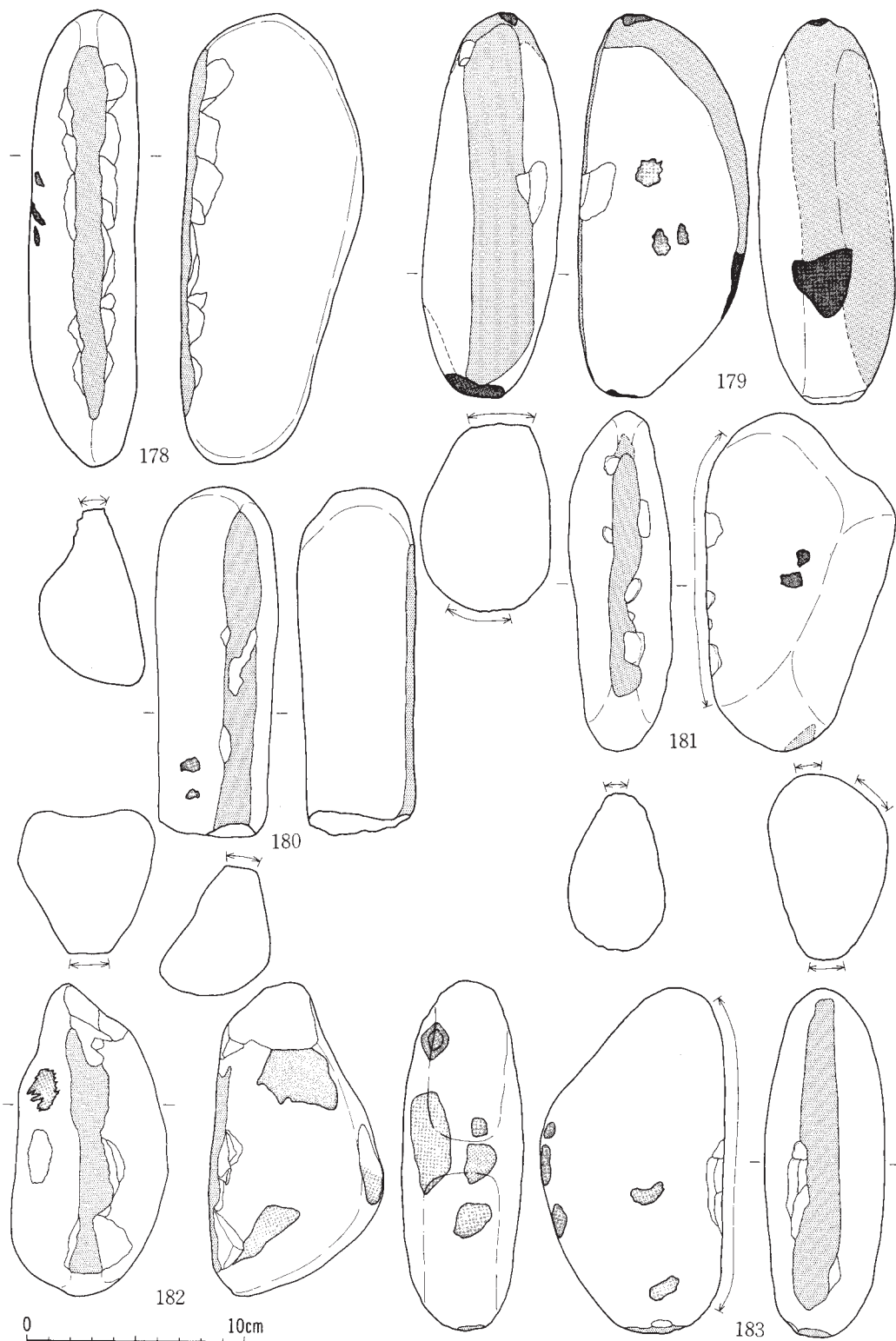


图257 遺構外出土石器(57) 磨敲凹石類19(Ⅲ類)

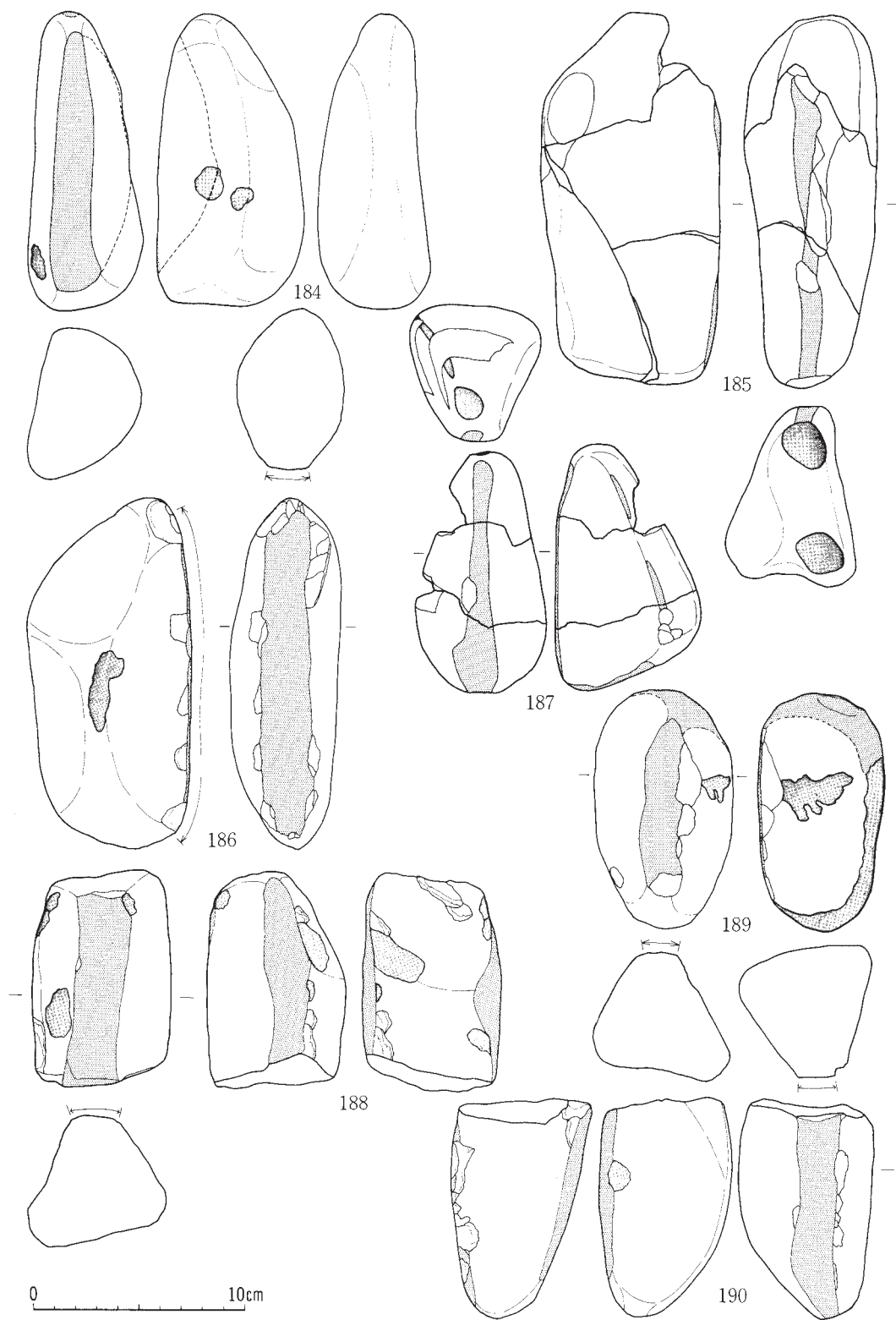


图258 遺構外出土石器(58) 磨敲凹石類20 (Ⅲ類)

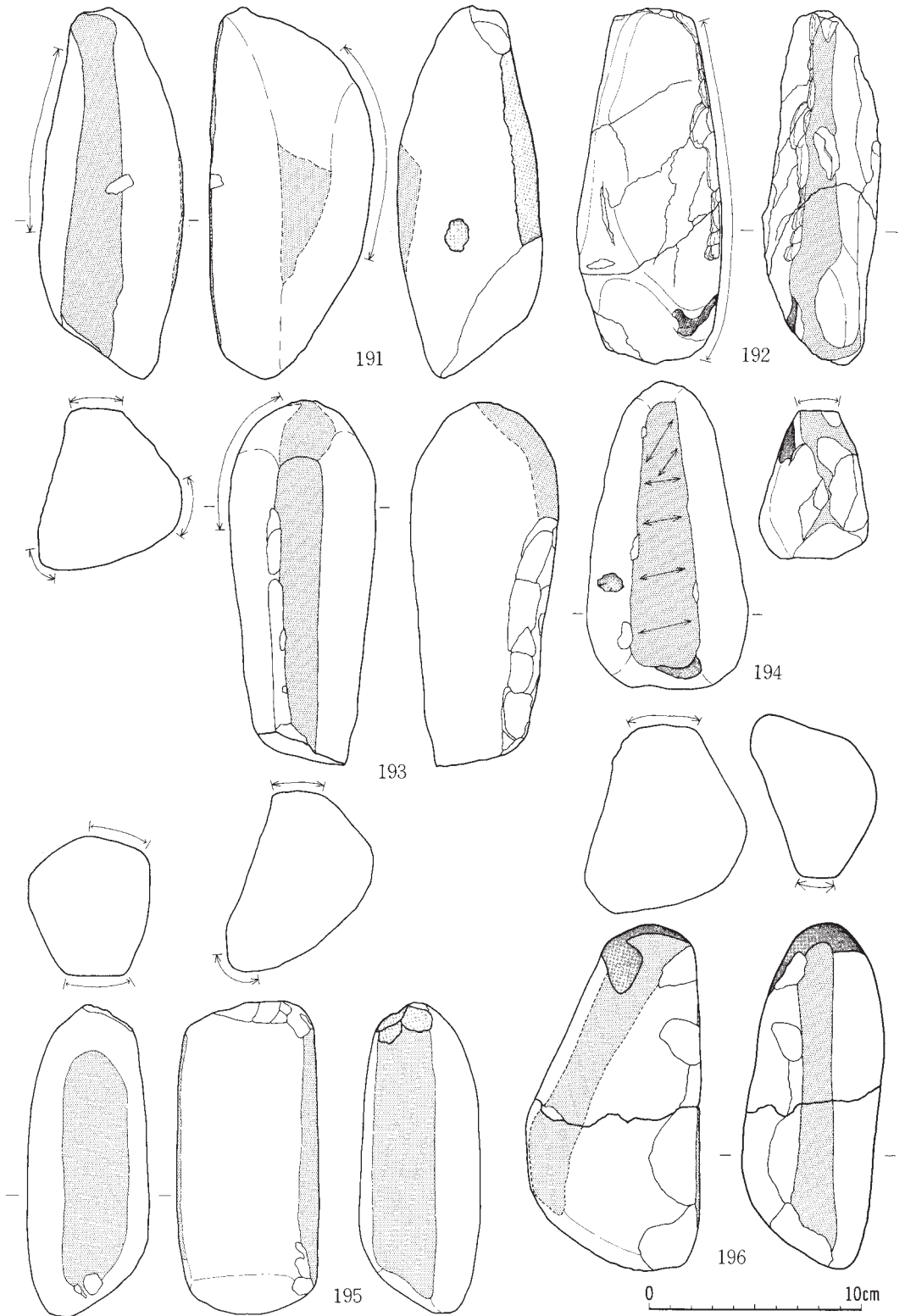


图259 遺構外出土石器(59) 磨敲凹石類21 (Ⅲ類)



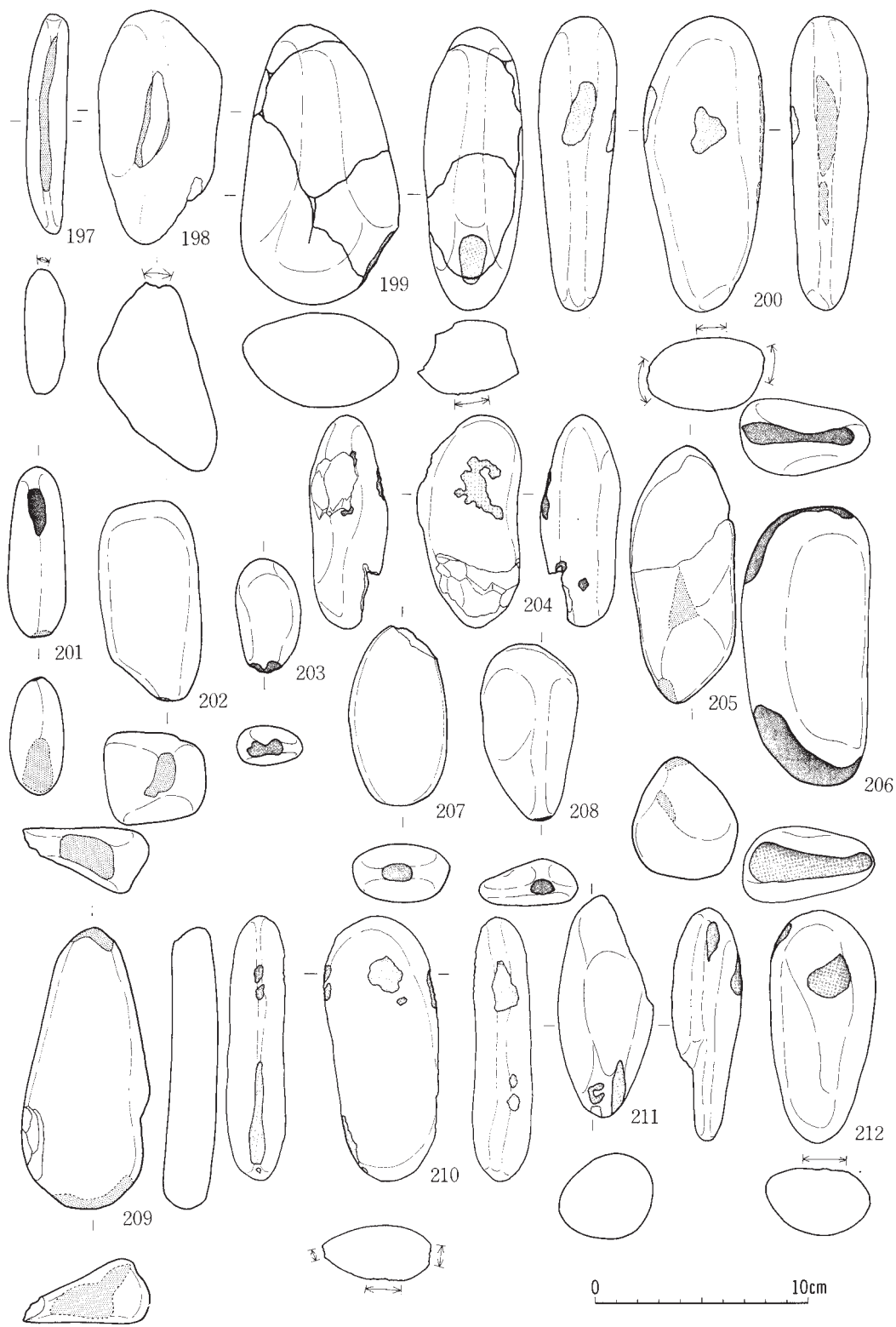


图260 遺構外出土石器(60) 磨鼓凹石類22 (Ⅲ類)

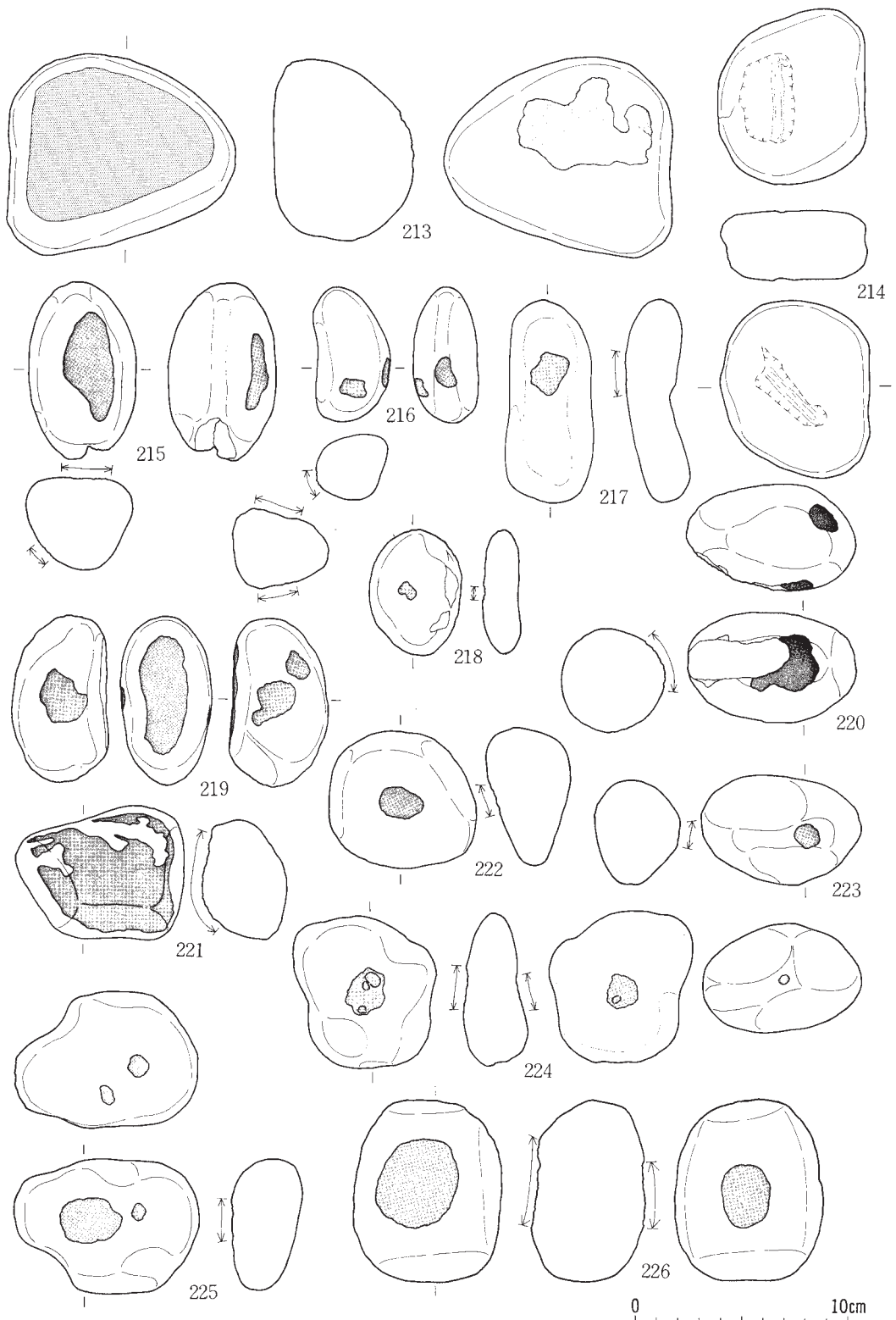


图261 遺構外出土石器(61) 磨敲凹石類23 (IV類)

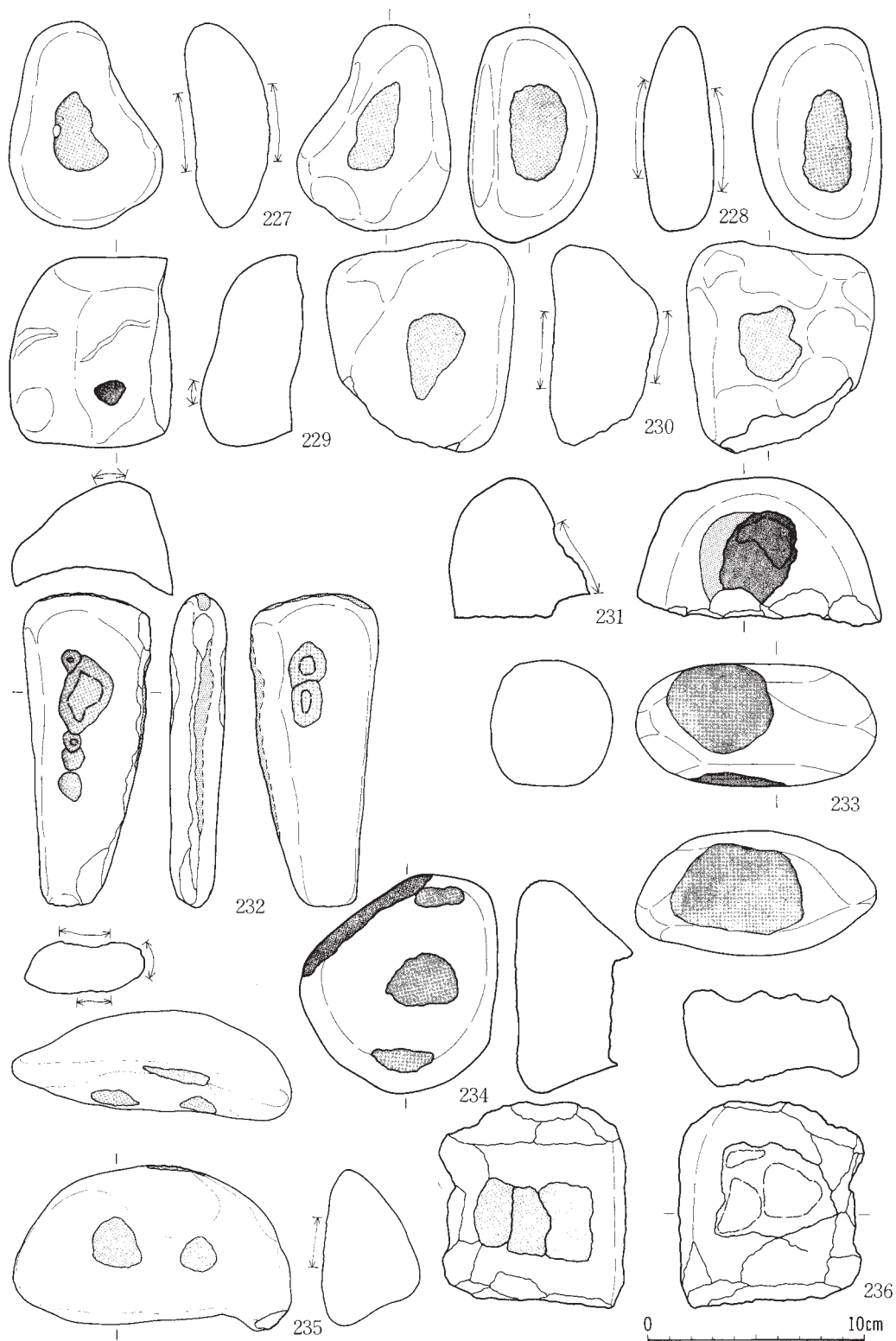


图262 遺構外出土石器(62) 磨敲凹石類24 (IV類)



图263 遺構外出土石器(63) 磨敲凹石類25 (IV類)

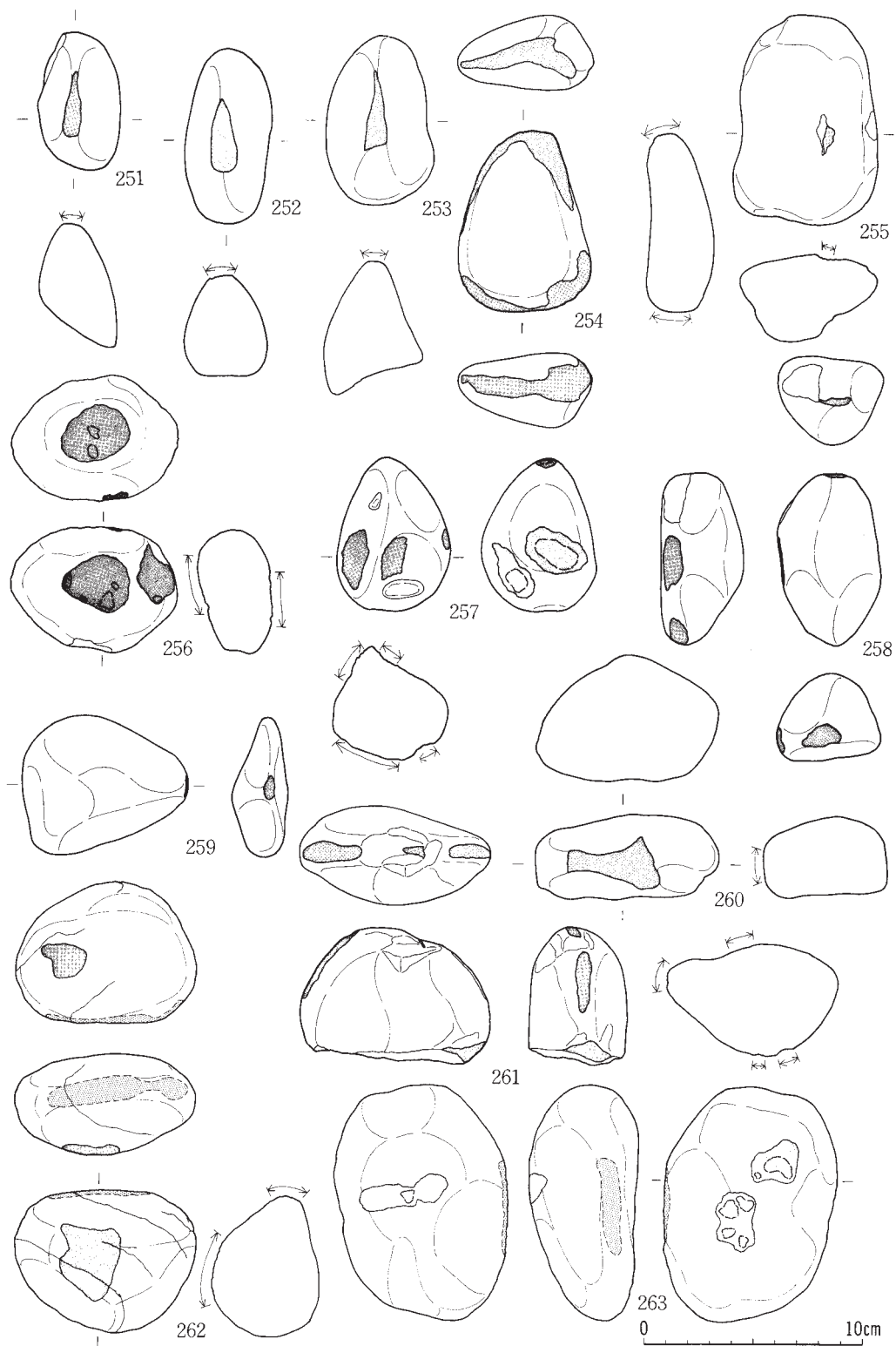


图264 遺構外出土石器(64) 磨敲凹石類26 (IV類)

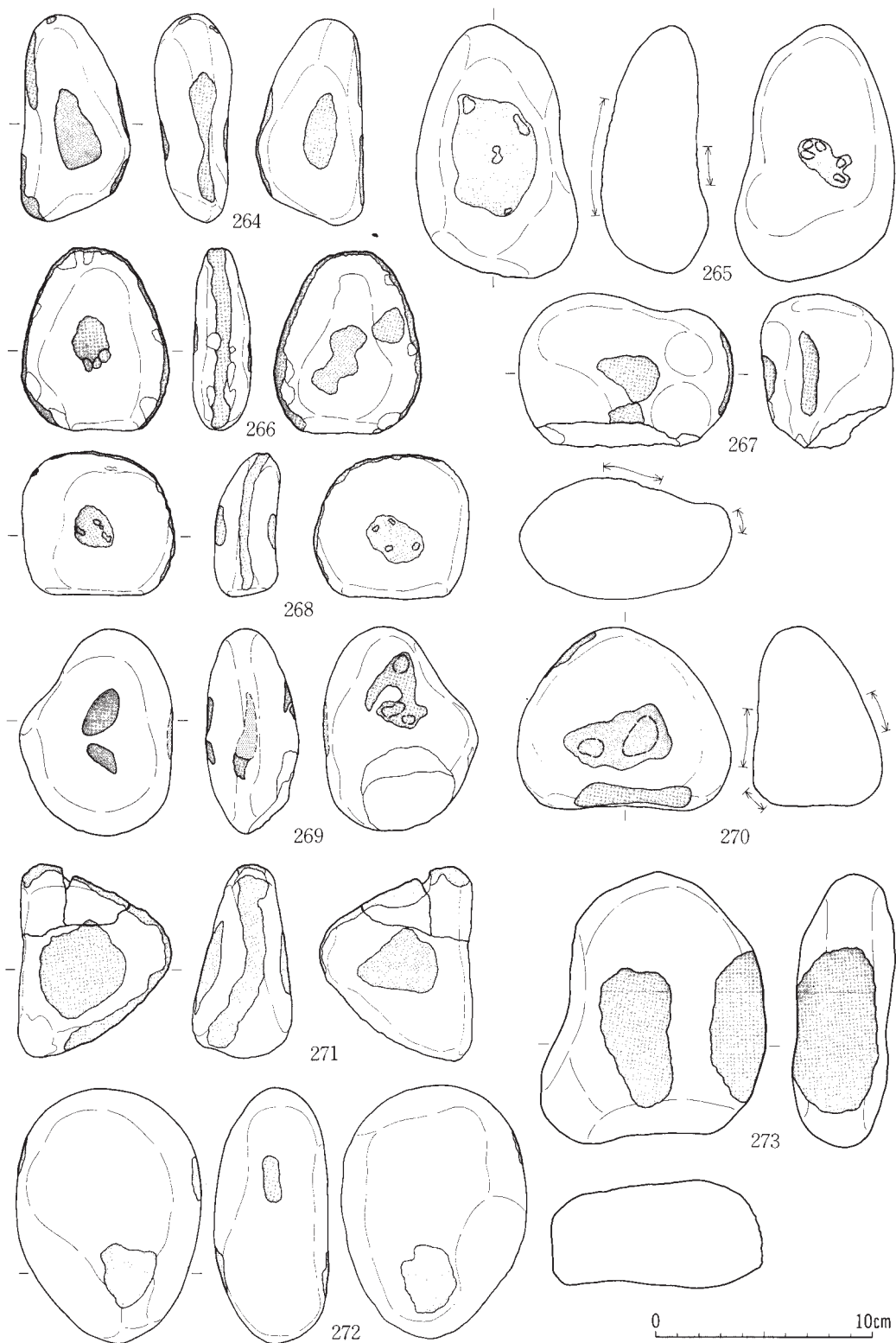


图265 遺構外出土石器(65) 磨鼓凹石類27 (IV類)





图266 遺構外出土石器(66) 磨敲凹石類28 (IV類)

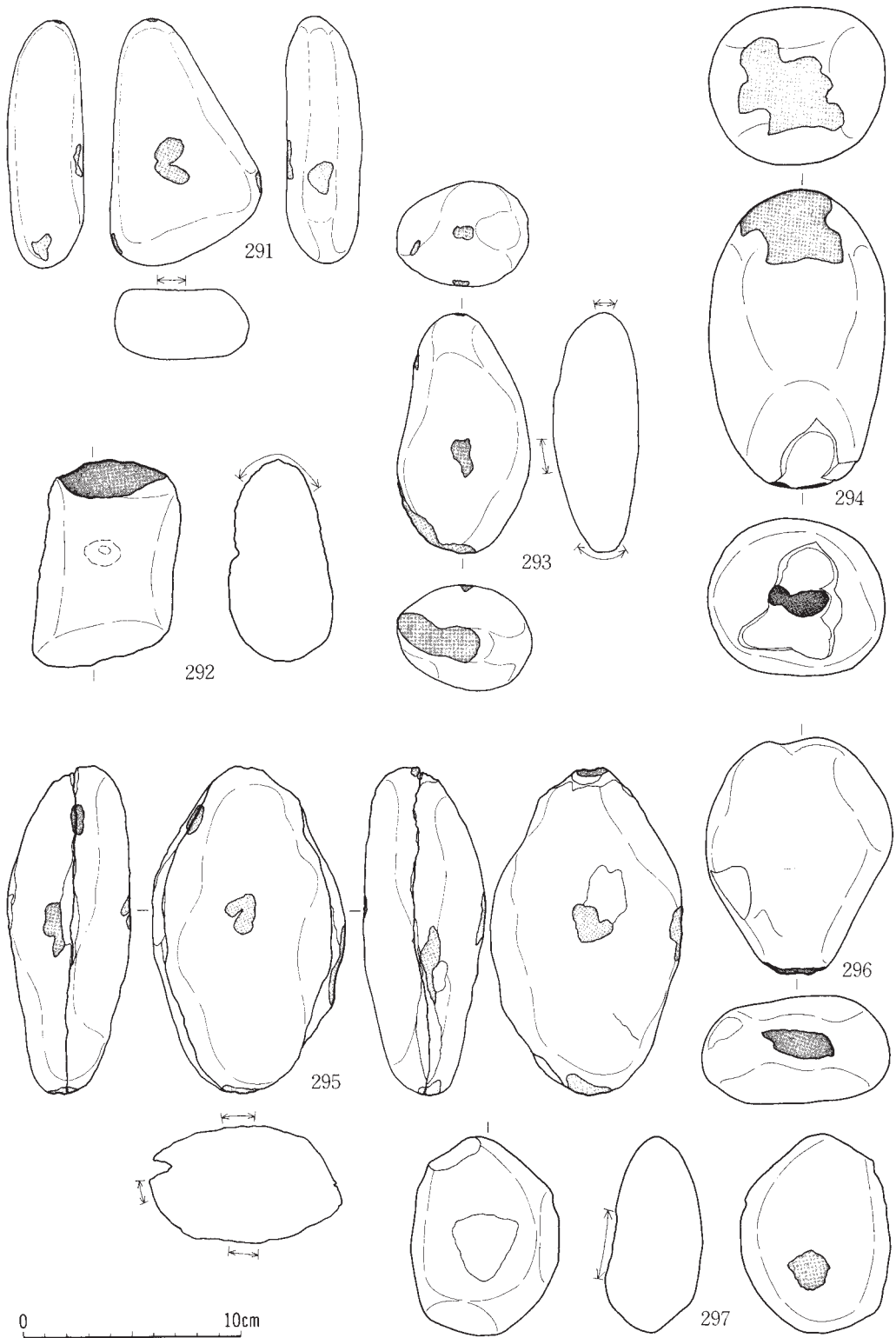


图267 遺構外出土石器(67) 磨鼓凹石類29 (IV類)



图268 遺構外出土石器(68) 石皿類 1

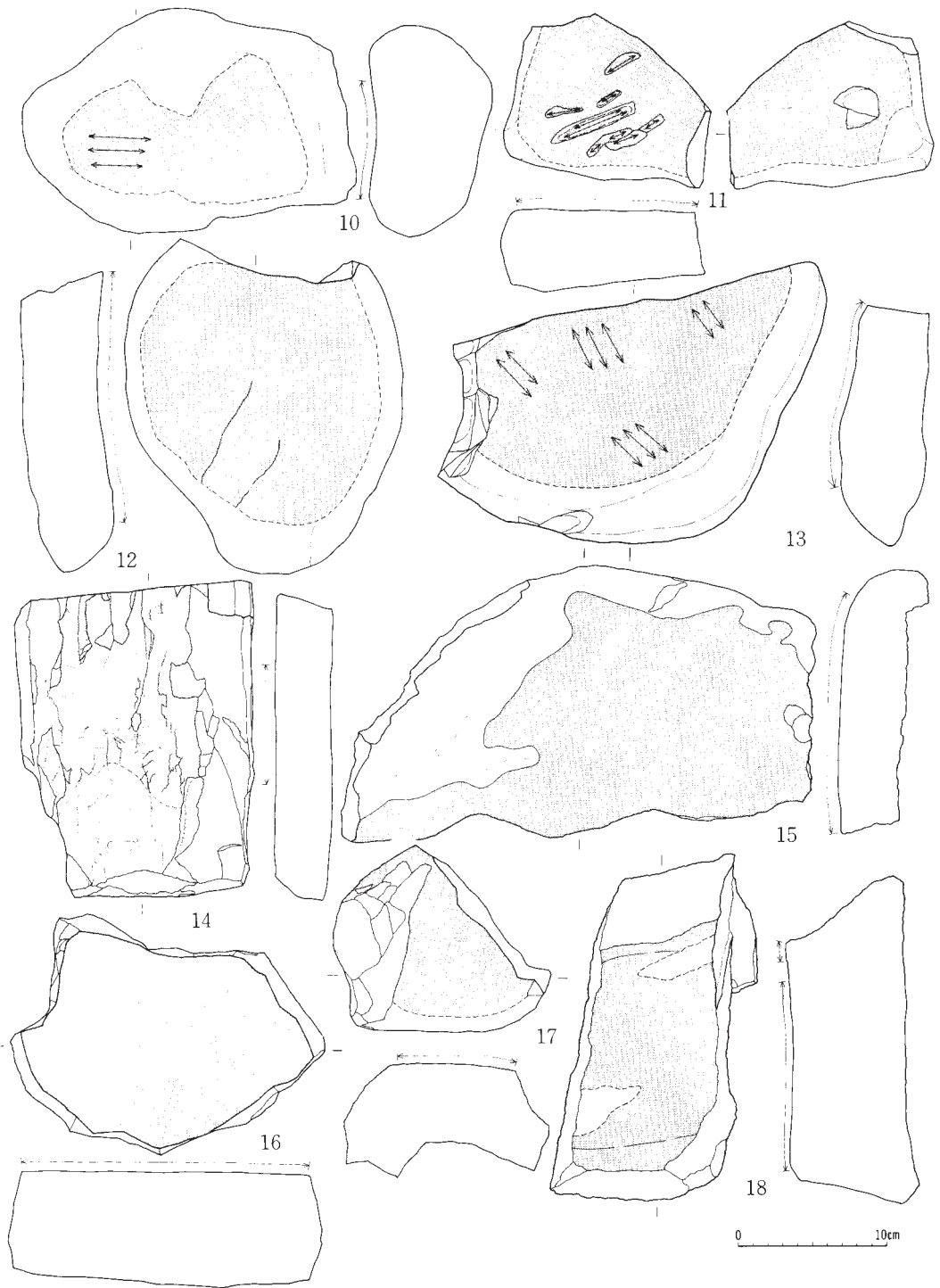


图269 遺構外出土石器(69) 石皿類 2

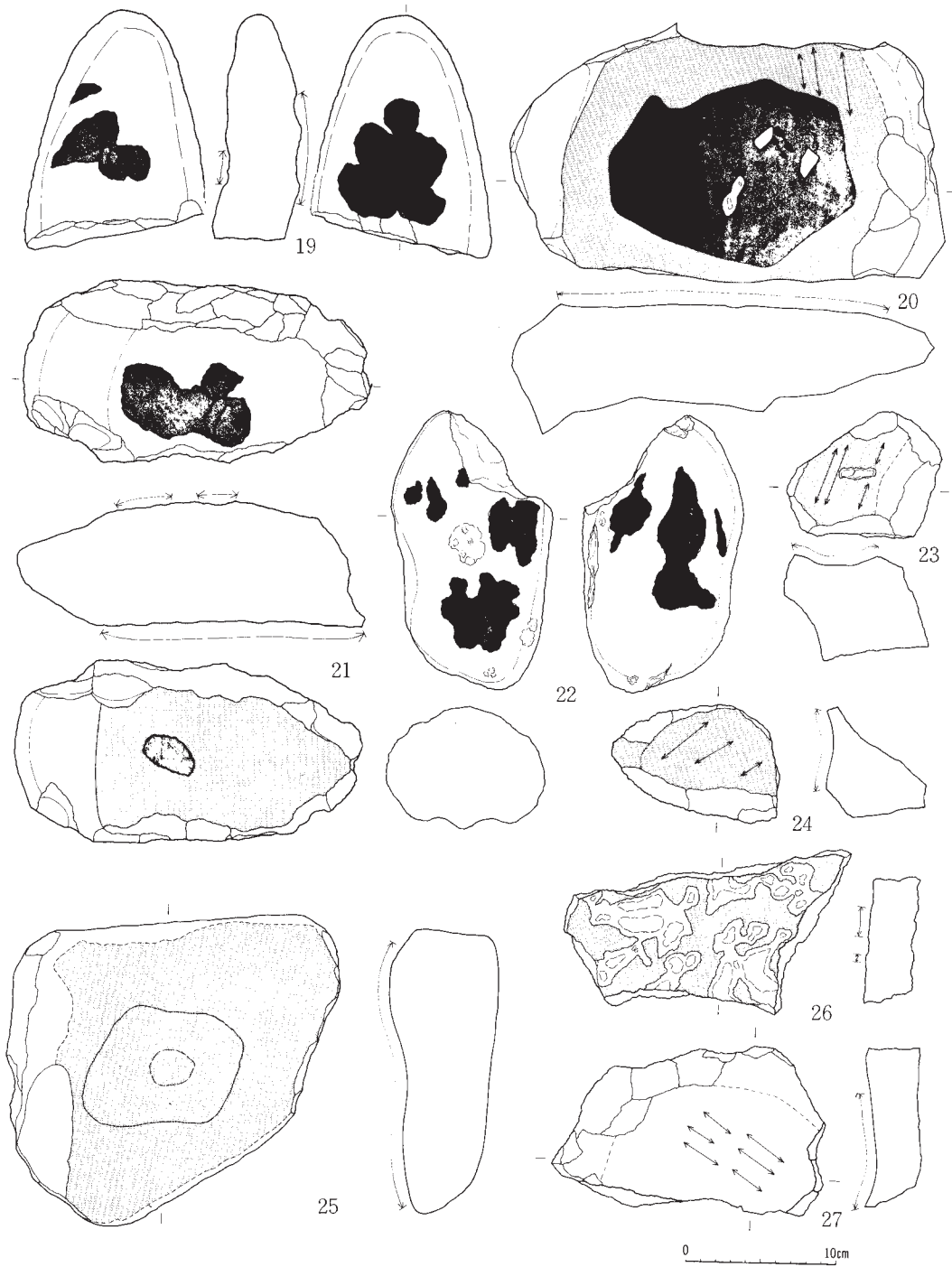


图270 遺構外出土石器(70) 石皿類 3

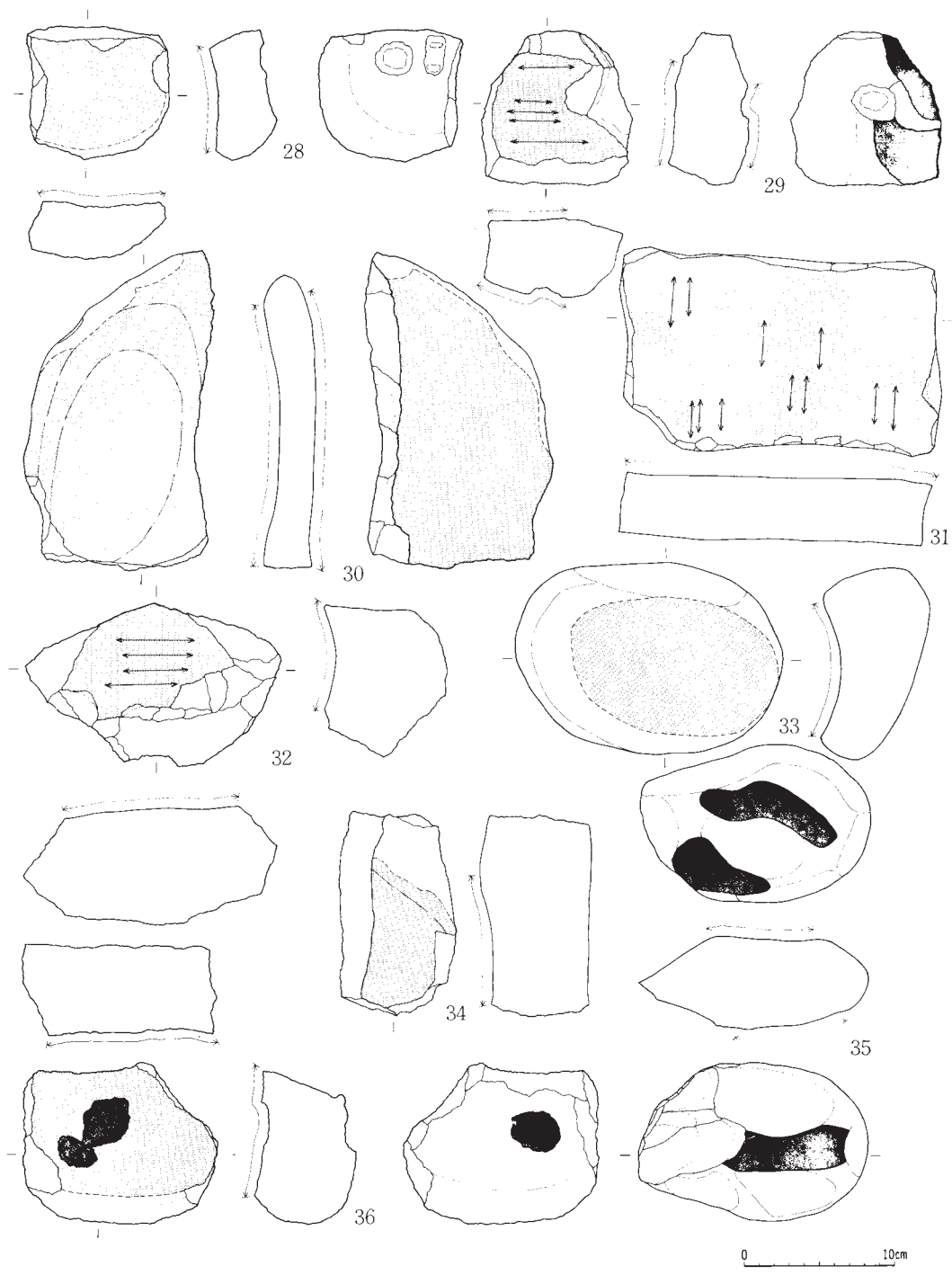


图271 遺構外出土石器(71) 石皿類4



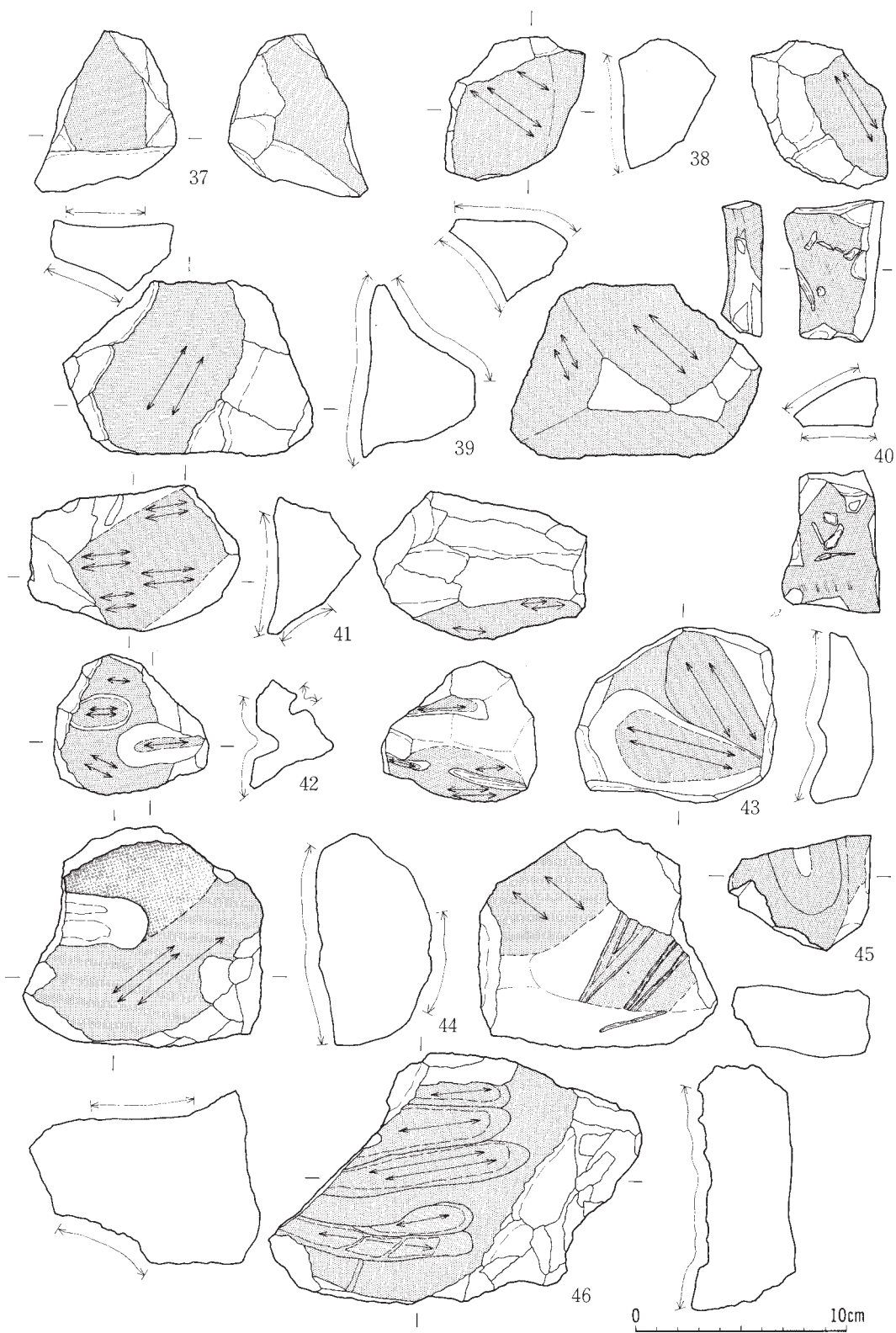


图272 遺構外出土石器(72) 石皿類 5

表25 遺構外出土石器計測表

1. 石 鏃									( ) は残存値
番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類	長幅比	
1	DO-12Ⅳ	(49.0)	19.0	5.0	( 3.7)	珪 頁	I		
2	EK-16Ⅳ上	43.0	16.0	3.0	1.7	珪 頁	I	Ⅱ	
3	EK-21Ⅳ	20.0	15.0	6.0	1.0	珪 頁	ⅡA1	I	
5	JK-25Ⅱ	27.0	16.0	3.0	0.8	珪 頁	ⅡA1	I	
6	EJ-24Ⅱ	22.0	14.0	2.0	0.5	珪 頁	ⅡA1	I	
4	DN-16Ⅳ	19.0	15.0	4.0	0.7	珪 頁	ⅡA2	I	
7	包A-VⅣ	41.0	14.0	4.0	2.1	珪 頁	ⅡA2	Ⅱ	
8	DO-12Ⅳ	24.0	13.0	4.0	0.6	珪 頁	ⅡA2	I	
10	DN-20Ⅳ上	36.0	17.0	7.0	3.4	珪 頁	ⅡA2	Ⅱ	
11	DL-16Ⅳ	23.0	13.0	5.0	1.2	珪 頁	ⅡA2	I	
	EK-20Ⅳ下	20.0	18.0	7.0	2.2	珪 頁	ⅡA2	I	
9	DM-17Ⅳ	(28.0)	16.0	4.0	( 1.9)	頁	ⅡA3		
12	EH-18Ⅳ上	26.0	20.0	8.0	3.4	珪 頁	ⅡA3	I	
13	DL-15Ⅳ	42.0	18.0	6.0	3.9	珪 頁	ⅡA3	Ⅱ	
14	DI-23Ⅳ	35.0	19.0	10.0	4.8	珪 頁	ⅡA3	I	
15	EL-20Ⅳ上	35.0	28.0	7.0	5.9	珪 頁	ⅡA4	I	
16	EK-19~20Ⅳ	29.0	15.0	5.0	1.5	珪 頁	ⅡA4	I	
	EG-18Ⅳ上	37.0	11.0	4.0	1.3	珪 頁	ⅡB1	Ⅲ	
19	DJ-19Ⅱ	32.0	10.0	4.0	1.0	珪 頁	ⅡB2	Ⅲ	
20	DL-16フク上	38.0	10.0	4.0	1.5	珪 頁	ⅡB2	Ⅲ	
21	DM-18	36.0	10.0	4.0	1.2	珪 頁	ⅡB2	Ⅲ	
22	DK-15Ⅲ	45.0	15.0	6.0	3.2	珪 頁	ⅡB2	Ⅲ	
23	遺 構 外 2	29.0	12.0	4.0	1.0	珪 頁	ⅡB2	Ⅱ	
24	DM-14Ⅳ	31.0	12.0	3.0	1.1	珪 頁	ⅡB2	Ⅱ	
27	DL-15Ⅳ	26.0	11.0	4.0	1.0	珪 頁	ⅡB2	Ⅱ	
17	DP-16表上	32.0	15.0	3.0	1.3	珪 頁	ⅡB3	Ⅱ	
18	DN-13Ⅰ	24.0	15.0	6.0	0.9	珪 頁	ⅡB5	I	
	EF-19Ⅳ下	35.0	17.0	5.0	1.8	珪 頁	ⅡB5	Ⅱ	
	EE-23Ⅳ上	29.0	12.0	7.0	2.3	玉	ⅡC2	Ⅱ	
	EJ-20Ⅳ下	(29.0)	(15.0)	( 5.0)	( 1.9)	珪 頁	ⅡC3		
	EF-24Ⅳ下	35.0	13.0	6.0	2.0	珪 頁	ⅡC4	Ⅱ	
	表 採	28.0	11.0	7.0	1.9	珪 頁	ⅡC4	Ⅱ	
25	EJ-19Ⅳ	31.0	27.0	5.0	3.8	珪 頁	ⅡD	I	
26	EI-24Ⅱ	35.0	18.0	8.0	3.7	珪 頁	ⅡD	I	
28	DM-17フク上	23.0	9.0	3.0	0.6	珪 頁	ⅡD	Ⅱ	
	EL-19Ⅳ下	(32.0)	(21.0)	6.0	( 3.2)	珪 頁	ⅡD		
	EC-20Ⅳ上	(16.0)	(14.0)	3.0	( 0.7)	珪 頁	ⅡD		
	EI-23Ⅳ	(24.0)	(14.0)	2.0	( 0.6)	碧 玉			
	DL-17Ⅳ	21.0	9.0	4.0	0.6	珪 頁		Ⅱ	
	DK-16フク上	25.0	15.0	3.0	0.9	珪 頁		Ⅱ	
	EM-23	24.0	12.0	4.0	1.1	珪 頁		Ⅱ	
	DK-21	22.0	16.0	6.0	1.8	珪 頁		I	
	201号 風倒木痕	(27.0)	(13.0)	5.0	( 1.4)	珪 頁			
	EI-19Ⅳa	(19.0)	15.0	5.0	( 1.3)	珪 頁			
	EJ-19Ⅳ下	(21.0)	20.0	6.0	( 2.3)	珪 頁			

## 2. 石 槍

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類	長幅比
1	EB-26Ⅱ	(91.0)	21.0	10.0	(14.7)	珪 頁	A	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	長幅比
2	E K-26Ⅳ	103.0	20.0	8.0	14.4	珪頁	A	V
3	E J-21Ⅳ上	122.0	27.0	8.0	20.9	珪頁	A	Ⅳ
4	E J-21Ⅳ	64.0	27.0	12.0	14.9	珪頁	B	Ⅱ
6	E B-23Ⅳ下	(45.0)	(18.0)	8.0	(5.7)	珪頁	B	
7	D J-24Ⅰ	46.0	20.0	8.0	6.7	珪頁	B	Ⅱ
8	D O-15Ⅱ	42.0	24.0	13.0	8.9	珪頁	B	Ⅰ
9	包A-ⅦⅣ	39.0	23.0	11.0	8.5	珪頁	B	Ⅰ
10	E I-25Ⅳ	41.0	28.0	9.0	9.3	珪頁	B	Ⅰ
	E M-19Ⅳ下	45.0	22.0	7.0	8.2	頁	B	Ⅱ
5	E K-16Ⅳ	(32.0)	(34.5)	6.5	(4.72)			
11	E K-16Ⅳ	(57.0)	(44.0)	7.0	(29.3)			
	D N-19Ⅳ	(32.0)	17.0	6.0	(2.9)	珪頁		
	E K-22Ⅰ	(37.0)	(22.0)	6.0	(6.1)	珪頁		
	E L-22Ⅳ	(41.5)	(37.5)	(14.5)	(13.4)			
	E N-20Ⅱ	(47.0)	(40.0)	17.0	(23.3)			
	E F-19Ⅳ上	(48.0)	(31.0)	(14.0)	(17.9)			
	E M-23Ⅳ	(4.1)	(2.6)	9.0	(9.0)			
	D N-16Ⅳ	62.0	42.0	14.0	28.6	珪頁		Ⅰ
	E K-23Ⅳ	47.0	25.0	8.0	8.7	珪頁		Ⅰ

### 3. 石 七

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	1	2	3	4	5
1	D M-23Ⅳ	62.0	16.0	6.0	5.5	珪頁	AⅠa1	L	R	R	L	
2	E K-22Ⅳ	59.0	15.0	5.0	3.4	珪頁	AⅠa1	L		R	L	
3	D Q-19Ⅳ	61.0	22.0	9.0	8.7	珪頁	AⅠa1	R	L	L	R	
4	201風倒木床面	73.0	16.0	7.0	7.1	珪頁	AⅠa1	L	RL	R	L	
5	E J-23Ⅳ	66.0	22.0	8.0	7.4	珪頁	AⅠa1	L	R	R	L	
6	D J-24Ⅰ	(66.0)	20.0	8.0	(8.3)	珪頁	AⅠa1	L		R	R	
7	D S-9Ⅱ	67.0	21.0	9.0	8.9	珪頁	AⅠa1	L		LR	L	
8	D Q-24Ⅳ	90.0	23.0	6.0	8.4	珪頁	AⅠa1	L	R	R	L	
9	E K-15Ⅳ下	81.0	22.0	9.0	14.5	珪頁	AⅠb	L		R	R	
11	E M-19Ⅳ	(54.0)	(26.0)	7.0	(7.4)	珪頁	AⅠb			R	L	
10	D O-17Ⅰ	58.0	19.0	6.0	5.8	珪頁	AⅠb1	L		R	L	
12	D M-15Ⅳ	60.0	24.0	5.0	5.7	珪頁	AⅠb2	L		R	L	R
16	D M-17Ⅳ	69.0	24.0	8.0	12.7	珪頁	AⅠb2	L		R	L	R
15	D K-22Ⅳ	(64.0)	21.0	9.0	(12.3)	珪頁	AⅡa			L	L	
13	E J-24Ⅳ	91.0	24.0	16.0	26.8	珪頁	AⅡa1		RL	M	L	
14	D O-16Ⅳ	76.0	20.0	9.0	11.6	珪頁	AⅡa1		R	L	L	
17	D P-15Ⅳ	(63.0)	33.0	13.0	(20.5)	珪頁	AⅡa2			R		L
18	D N-16Ⅳ	52.0	24.0	9.0	8.9	珪頁	AⅡa2	L	R	R	L	R
19	E M-19Ⅳ	52.0	16.0	6.0	3.5	珪頁	AⅡa2			R	L	R
20	D O-18Ⅳ	68.0	27.0	11.0	14.1	珪頁	AⅡa2		R	R	L	R
22	包A-ⅥⅥ	(50.0)	(23.0)	6.0	(5.7)	珪頁	AⅡb			R	L	
24	D L-22Ⅳ	(74.0)	23.0	8.0	(12.5)	珪頁	AⅡb	L		R	L	
21	D L-21Ⅳ	60.0	21.0	8.0	7.8	珪頁	AⅡb1	L		R	L	
23	E J-25Ⅳ	61.0	22.0	8.0	8.1	珪頁	AⅡb1	L	R	M	L	
25	D M-20Ⅳ	57.0	25.0	9.0	8.4	珪頁	AⅡb2		R	R	L	R
26	D O-17Ⅳ	98.0	27.0	7.0	19.8	珪頁	AⅡb2	L			R	R
27	E J-25Ⅱ	57.0	26.0	9.0	10.8	珪頁	AⅡb2	L	R		L	R
28	D N-17Ⅳ	53.0	20.0	6.0	7.5	珪頁	AⅡb2			R	R	R
29	D M-19Ⅳ	54.0	24.0	7.0	8.3	珪頁	AⅡb2			L	L	R
30	D N-20Ⅰ	25.0	47.0	7.0	7.7	珪頁	AⅡb2	L		R	L	R

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	1	2	3	4	5
31	EF-15N	44.0	15.0	6.0	4.0	珪頁	AⅡb2			R	L	R
32	DO-18N	55.0	29.0	7.0	9.5	珪頁	AⅡb2	R		L	R	L
33	包A-Ⅶ	70.0	25.0	9.0	9.9	珪頁	AⅡb2			L	R	R
	DL-16Ⅳ	(43.0)	29.0	6.0	(10.7)	珪頁	AⅡb2		L	R	L	R
34	DQ-17Ⅳ	57.0	29.0	9.0	12.9	珪頁	AⅡb3	L		R	L	
37	DN-15Ⅳ	78.0	30.0	9.0	16.9	珪	AⅡb3	RL		R	L	
43	EJ-24Ⅳ	63.0	28.0	7.0	13.2	珪頁	AⅡb3	L		R	L	
44	DN-18Ⅳ	64.0	32.0	8.0	15.9	珪頁	AⅡb3	L	R	R	L	
46	DN-16Ⅳ	59.0	28.0	8.0	9.7	珪頁	AⅡb3	L		R	L	
	DO-19Ⅰ	65.0	21.0	8.0	10.5	珪頁	AⅡb3	L		R	R	
35	EJ-24Ⅱ	75.0	13.0	6.0	4.7	珪頁	AⅢa1	L		R		
36	EB-25Ⅱ	112.0	18.0	8.0	17.2	珪頁	AⅢa1		RL	R		
38	EⅠ-19Ⅳ上	64.0	17.0	7.0	7.2	珪頁	AⅢb	R	R	L		
39	DM-13Ⅰ	(85.0)	(32.0)	8.0	(16.2)	珪頁	AⅢb	R		R		
40	DM-18Ⅳ	58.0	21.0	7.0	7.9	珪頁	AⅢb2		R	R		R
41	DN-17Ⅳ	(55.0)	29.0	(9.0)	(13.1)	珪頁	AⅢb2			L		L
42	DP-20Ⅳ	63.0	24.0	7.0	9.3	珪頁	AⅢb3					
45	EL-21Ⅳ	79.0	25.0	9.0	16.6	珪頁	AⅢb3	L		L		
47	包A-ⅣⅣb	84.0	24.0	8.0	14.4	珪頁	AⅢb3	R	L	R		
49	包A-ⅣⅣ	(45.0)	(31.0)	7.0	(8.5)	珪頁	AⅣb	L		M		
50	DM-14Ⅳ	51.0	25.0	7.0	6.2	珪頁	AⅣb2			LR		L
48	包A-ⅦⅣ	54.0	28.0	9.0	12.5	珪頁	AⅣb3					
51	包A-ⅦⅣ	60.0	29.0	9.0	13.2	珪頁	AⅣb3	L		R		
52	包A-ⅡⅣ	22.0	35.0	5.0	3.4	珪頁	B					
53	DN-19Ⅳ	40.0	46.0	7.0	8.0	珪頁	B			L		
	DL-23Ⅰ	57.0	21.0	7.0	7.5	珪頁						
	DS-13Ⅳ	54.0	26.0	7.0	9.5	珪頁						
	DK-16Ⅳ	(41.0)	(26.0)	(7.0)	(8.2)	珪頁						
	DL-16Ⅱ	(44.0)	33.0	7.0	(8.7)	珪頁						
	DL-17Ⅳ	47.0	36.0	11.0	16.8	珪頁						
	EM-23Ⅳ	(46.0)	(23.0)	6.0	(6.9)	珪頁						
	DL-16フク土	43.0	29.0	9.0	8.9	珪頁						
	DK-20Ⅰ	(30.0)	(28.0)	5.0	(3.4)	珪頁						
	DL-17Ⅳ	(28.0)	15.0	5.0	(2.8)	珪頁						
	EL-24Ⅳ	(31.0)	17.0	4.0	(2.4)	珪頁						
	EF-15Ⅰ	(29.0)	(23.0)	(5.0)	(4.4)	珪頁						
	EJ-24Ⅱ	(25.0)	(17.0)	7.0	(2.9)	珪頁						
	DI-22Ⅳ	(25.0)	(21.0)	(7.0)	(2.6)	珪頁						
	DQ-21Ⅳ	(24.0)	(26.0)	(4.0)	(2.3)	珪頁						
	DN-20Ⅳ	(64.0)	23.0	6.0	9.8	珪頁						
	E F <sup>20</sup> ベルト Ⅳ F	(60.5)	18.5	6.0	4.8							
	E F <sup>27.5</sup> ・E K <sup>15</sup> Ⅳ	(53.0)	16.0	5.5	4.85							
	包A-ⅦⅥ	(49.0)	34.0	1.0	11.8	珪頁						
	EF-9Ⅳ F	(30.0)	(25.0)	(6.0)	(6.5)	珪頁						
	E F <sup>15、27</sup> ・E K <sup>15</sup> Ⅳ	(43.0)	14.0	4.5	(3.3)							
	EK-20Ⅳ	(41.0)	23.0	(9.5)	(5.9)							

#### 4. 直刃斧・石籠類

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類
1	包A-ⅧⅣ	51.0	38.0	16.0	24.8	珪頁	I
2	EG-18Ⅳ上	60.0	37.0	13.0	30.8	頁	I
3	EF-20Ⅳ	49.0	34.0	11.0	16.2	珪頁	I

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
4	E I-20Ⅳ	71.0	40.0	15.0	34.6	珪 頁	I
5	包A-Ⅳ4	52.0	33.0	8.0	14.5	頁	I
6	DL-20Ⅰ	77.0	50.0	18.0	40.8	珪 頁	I
7	EE-26Ⅳ下	57.0	34.0	12.0	21.9	珪 頁	I
9	EG-23Ⅳ	69.0	45.0	18.0	52.2	珪 頁	I
10	包A-Ⅳ4	96.0	50.0	18.0	93.5	頁	I
	E K-20Ⅳ	53.0	36.0	15.0	26.4	珪 頁	I
12	EH-26Ⅳ	56.0	38.0	12.0	22.0	珪 頁	Ⅱ a
13	E J-26Ⅳ	54.0	32.0	14.0	18.4	珪 頁	Ⅱ a
14	DK-17Ⅳ	(40.0)	(26.0)	( 5.0)	( 6.3)	珪 頁	Ⅱ a
15	包A-ⅦⅣ	64.0	35.0	16.0	28.8	碧 玉	Ⅱ a
16	E I-23Ⅳ	87.0	42.0	26.0	81.0	頁	Ⅱ a
17	包A-ⅢⅣ b	63.0	41.0	12.0	28.2	珪 頁	Ⅱ a
18	DL-19Ⅳ	76.0	46.0	15.0	48.9	玉	Ⅱ a
19	EL-22Ⅳ	64.0	39.0	14.0	28.4	珪 頁	Ⅱ a
20	E J-24Ⅳ	65.0	43.0	10.0	35.6	頁	Ⅱ a
21	包A-ⅣⅣ	85.0	54.0	19.0	60.0	頁	Ⅱ a
22	DN-13Ⅰ	70.0	48.0	12.0	43.2	珪 頁	Ⅱ a
23	EN-22Ⅳ	88.0	54.0	21.0	95.5	頁	Ⅱ a
	E K-23Ⅳ	67.0	45.0	17.0	46.2	珪 頁	Ⅱ a
	DR-57Ⅳ	77.0	39.0	25.0	66.0		Ⅱ a
	EC-27Ⅳ	60.0	36.0	21.0	37.7		Ⅱ a
	DT-33Ⅲ	44.0	37.0	12.0	35.0		Ⅱ a
	ED-29Ⅳ	44.0	28.0	14.0	17.4		Ⅱ a
	DS-26Ⅳ	56.0	39.0	17.0	34.5		Ⅱ a
	EA-28Ⅳ	(45.0)	36.0	12.0	(21.1)		Ⅱ a
	DT-23Ⅳ	73.0	40.0	14.0	35.0		Ⅱ a
	EG-27Ⅳ	62.0	46.0	15.0	41.1		Ⅱ a
	EG-30Ⅴ	61.0	44.0	19.0	58.0		Ⅱ a
	E-9	(51.0)	(42.0)	(14.0)	(37.7)	珪 頁	Ⅱ a
	EF-25Ⅳ下	(51.0)	(39.0)	(15.0)	(37.0)		Ⅱ a
	E F <sup>25</sup> ベル下 Ⅳ下	(54.0)	(39.0)	11.0	(11.0)		Ⅱ a
24	EF-21Ⅳ	29.0	29.0	6.0	4.1	珪 頁	Ⅱ b
25	E I-24Ⅱ	56.0	40.0	11.0	28.9	珪 頁	Ⅱ b
26	DL-14Ⅳ	37.0	24.0	9.0	7.0	珪 頁	Ⅱ b
27	DM-25Ⅳ	50.0	34.0	12.0	22.1	珪 頁	Ⅱ b
28	DN-15Ⅳ	62.0	35.0	9.0	20.9	珪 頁	Ⅱ b
29	包A-Ⅳ4	47.0	34.0	11.0	16.3	珪 頁	Ⅱ b
30	DO-21Ⅰ	67.0	42.0	14.0	38.7	珪 頁	Ⅱ b
31	DK-18Ⅰ	76.0	33.0	12.0	26.8	珪 頁	Ⅱ b
32	包A-ⅦⅣ	64.0	37.0	10.0	33.5	頁	Ⅱ b
33	E K-24Ⅰ	63.0	36.0	11.0	19.8	珪 頁	Ⅱ b
34	EH-23Ⅳ	(48.0)	44.0	10.0	(31.1)	珪 頁	Ⅱ b
	EE-23Ⅳ上	69.0	38.0	14.0	(36.3)	珪 頁	Ⅱ b
	EF-28Ⅳ	(58.0)	39.0	11.0	(27.8)		Ⅱ b
	DS-59Ⅳ	(53.0)	38.0	12.0	(29.4)		Ⅱ b
	EF-28Ⅳ	58.0	18.0	7.0	6.7		Ⅱ b
	ED-24Ⅳ下	(46.0)	50.0	13.0	(32.0)		Ⅱ b
11	包A-Ⅵ	(60.0)	(40.0)	10.0	(25.0)		

### 5. 石 錐

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
1	DO-16IV	62.0	14.0	8.0	5.7	珪 頁	I
2	包A-VIIV	53.0	15.0	10.0	9.3	珪 頁	I
3	包A-IIIIV	50.0	14.0	7.0	4.4	珪 頁	I
4	包A-IIIIV	38.0	13.0	4.0	1.6	珪 頁	I
5	EM-23フク土I	31.0	17.0	6.0	2.8	珪 頁	II
6	GL-13II	30.0	26.0	3.0	2.4	珪 頁	II
7	DN-17IV	57.0	29.0	7.0	11.8	珪 頁	II
8	DM-16 I	52.0	22.0	10.0	9.5	珪 頁	II
9	DO-16IV	56.0	21.0	7.0	6.8	珪 頁	II
10	包A-IIIIV	59.0	20.0	14.0	17.3	珪 頁	II
11	EE-20IV下	58.0	17.0	13.0	7.6	珪 頁	II
12	201号 風倒木痕	53.0	26.0	7.0	7.7	珪 頁	II
13	包A-VIIV	50.0	45.0	20.0	31.5	珪 頁	II

### 6. 異形石器

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
1	DP-?III	73.0	67.0	25.0	90.0	珪 頁	
2	DQ-21 I	88.0	60.0	20.0	65.5	珪 頁	
3	包A-VIIV	56.0	43.0	13.0	26.8	珪 頁	

### 7. 不定形石器

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
1	EB-23IV	30.0	16.0	5.0	2.3	珪 頁	
2	EJ-25IV	34.0	25.0	7.0	7.3	珪 頁	
3	DM-17 I	37.0	32.0	5.0	7.8	珪 頁	
4	DM-19IV	40.0	27.0	5.0	5.6	珪 頁	
5	DL-24IV	43.0	25.0	6.0	8.1	珪 頁	
6	EI-23IV	56.0	34.0	10.0	21.1	珪 頁	
7	包A-I-IV	50.0	44.0	14.0	51.0	珪 頁	
8	包A-III-IV	41.0	36.0	9.0	15.7	珪 頁	
9	包A-IV <sub>B</sub>	47.0	38.0	12.0	19.6	玉 髓	
10	EG-20IV	101.0	33.0	7.0	28.6	珪 頁	
11	EI-23IV	80.0	38.0	9.0	24.9	珪 頁	
12	EL-21II	69.0	41.0	10.0	33.0	珪 頁	
13	EI-19I	74.0	39.0	9.0	18.1	珪 頁	
14	DQ-10 I	70.0	37.0	11.0	27.9	珪 頁	
15	EH-19	74.0	36.0	7.0	26.7	珪 頁	
16	ER-24IV	64.0	51.0	14.0	41.8	珪 頁	
17	EG-21IV	76.0	41.0	15.0	37.7	珪 頁	
18	EJ-19IV下	67.0	34.0	9.0	21.7	珪 頁	
19	EI-19IV	56.0	42.0	14.0	37.4	頁	
20	DN-16IV	50.0	34.0	8.0	14.8	珪 頁	
23	EF-20IV	51.0	32.0	13.0	18.9	珪 頁	
24	EM-21IV	39.0	40.0	12.5	18.0		
25	DM-17IV	44.0	40.0	15.0	26.8	珪 頁	
26	EG-26IV	62.0	53.0	14.0	38.8	珪 頁	
27	DK-21	54.0	39.0	31.0	45.6	珪 頁	
28	包A-IV-IV	69.0	59.0	23.0	79.0	珪 頁	
30	EJ-21IV	103.0	57.0	15.0	102.0	珪 頁	
31	DR-9 II	44.0	39.0	15.0	22.0	珪 頁	
32	DN-17IV	50.0	41.0	15.0	42.3	珪 頁	
33	DR-12IV	53.0	35.0	17.0	30.8	珪 頁	



番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
34	E L-24Ⅳ	89.0	29.0	11.0	23.0	珪 頁	
35	E J-26Ⅳ	45.0	34.0	9.0	18.0		
36	D L-14Ⅳ	62.0	33.0	8.0	16.0	珪 頁	
37	包A-Ⅱ-Ⅳ	100.0	39.0	14.0	60.5	珪 頁	
38	E I-21Ⅳ上	118.0	40.0	13.0	55.5	珪 頁	
39	E F-18Ⅳ上	57.0	40.0	9.0	14.5	珪 頁	
40	D P-21 I	76.0	46.0	14.0	47.1	珪 頁	
41	D M-23Ⅳ	55.0	25.0	7.0	8.4	珪 頁	
42	D M-17Ⅳ	73.0	54.0	21.0	64.0	珪 頁	
43	E G-18						
	包A-Ⅵ-Ⅳ	52.0	28.0	6.0	8.8	珪 頁	
	E N-22Ⅳ	69.0	37.0	7.0	21.0	珪 頁	
	包A-Ⅶ-Ⅳ	66.0	40.0	15.0	54.5	頁	
	E K-16Ⅳ	66.0	40.0	10.0	21.0	珪 頁	
	E M-19Ⅳ上	82.0	43.0	14.0	46.3	珪 頁	
	E M-18Ⅳ	46.0	32.0	8.0	11.8	珪 頁	
	D O-17 I	53.0	30.0	9.0	18.1	珪 頁	
	E E-20Ⅳ下	59.0	35.0	10.0	26.2	珪 頁	
	D O-16Ⅳ	59.0	33.0	13.0	21.2	玉 髓	
	E K-22Ⅳ	45.0	25.0	4.0	5.7	珪 頁	
	包A-Ⅳ-Ⅳ	43.0	17.0	7.0	3.7	珪 頁	
	D P-12 I	32.0	14.0	3.0	1.8	珪 頁	
	E J-24Ⅳ	34.0	22.0	8.0	4.7	珪 頁	
	包A-Ⅱ-Ⅳ	85.0	54.0	13.0	60.5	珪 頁	
	E J-19Ⅳ	82.0	53.0	20.0	81.5	珪 頁	
	包A-Ⅲ-Ⅳ	96.0	65.0	15.0	94.0	珪 頁	
	E G-23Ⅳ	93.0	57.0	7.0	42.1	珪 頁	
	E L-19Ⅳ上	69.0	61.0	13.0	59.9	珪 頁	
	E D-26Ⅳ下	42.0	30.0	11.0	13.1	珪 頁	
	E I-20Ⅳ	28.0	22.0	9.0	6.7	珪 頁	
	E E-22Ⅳ下a	20.0	24.0	7.0	4.7	頁	
	E L-21Ⅱ	35.0	36.0	9.0	13.2	碧 玉	
	D N-20Ⅳ	31.0	23.0	8.0	5.5	珪 頁	
	E I-23Ⅳ	43.0	31.0	12.0	20.8	珪 頁	
	E D-21Ⅳ上	42.0	36.0	8.0	13.5	珪 頁	
	包A-Ⅳ <sub>上</sub> Ⅳ <sub>下</sub> C	33.0	32.0	8.0	10.7	珪 頁	
	E K-15Ⅳ	37.0	39.0	7.0	9.2	碧 玉	
	E L-24Ⅱ	55.0	29.0	11.0	15.7	珪 頁	
	D O-18Ⅳ	55.0	48.0	24.0	59.2	珪 頁	
	包A-Ⅱ-Ⅳ	69.0	63.0	13.0	54.4	子 ャ	
	E I-20Ⅳ	46.0	35.0	11.0	17.5	珪 頁	
	D K-17Ⅳ	42.0	36.0	13.0	17.2	珪 頁	
	D N-14 I	41.0	26.0	11.0	9.7	珪 頁	
	E L-24	44.0	30.0	8.0	12.2	珪 頁	
	O J-19Ⅱ	31.0	34.0	7.0	9.1	珪 頁	
	包A-Ⅱ-Ⅳ	37.0	36.0	6.0	13.1	珪 頁	
	E L-22Ⅳ	57.0	28.0	12.0	18.4	珪 頁	
	E H-18Ⅳ上	45.0	44.0	16.0	34.3	頁	
	D N-16 I	55.0	67.0	25.0	57.3	珪 頁	
	包A-Ⅳ	70.0	47.0	17.0	52.1	碧 玉	
	包A-Ⅳ <sub>上</sub> Ⅳ <sub>下</sub> A	41.0	24.0	7.0	4.9	珪 頁	

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類
	E L-19Ⅳ上	45.0	14.0	3.0	2.0	珪 頁	
	E L-19Ⅳ上	28.0	18.0	5.0	2.3	珪 頁	
	DN-14Ⅱ	6.8	4.0	1.5	38.3	碧 玉	
	DF-17Ⅳ	36.5	47.5	16.0	30.8		
	EG-18Ⅰ	3.2	1.85	6.0	3.6		
		48.0	36.0	14.0	20.8		
	E F-21 ペルトⅣ下	35.0	42.5	7.0	19.2		
	包A-4Ⅳ	90.5	62.0	22.5	115.0		

### 8. 磨製石斧

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	残存部位
1	包A-ⅣⅣ	75.0	32.0	11.0	38.0	ホ	I	
2	包A-ⅥⅣ	86.0	37.0	16.0	75.0	ホ	I	
3	包A-ⅦⅣ	( 73.0)	( 47.0)	( 17.0)	( 94.0)	頁	I	
4	包AⅦⅣ	83.0	53.0	19.0	132.0	輝	I	
5	E A-ⅥⅣ	134.0	68.0	32.0	402.0	頁	I	
	DN-15 (上H)フク土	62.0	29.0	12.0	31.0	頁	I	
7	DK-23Ⅰ	(150.0)	( 49.0)	( 38.0)	(471.0)	砂	Ⅱ	Ⅲ上
8	包A-Ⅳ	(109.0)	( 40.0)	( 33.0)	(278.0)	輝	Ⅱ	Ⅲ上
9	DM-17Ⅳ	(117.0)	( 40.0)	( 34.0)	(249.0)	凝	Ⅱ	Ⅲ上
10	DQ-13Ⅳ	(144.0)	( 41.0)	40.0	(435.0)	安	Ⅱ	
11	DK-17Ⅳ	132.0	47.0	35.0	329.0	砂	Ⅱ	Ⅲ上
	DN-14Ⅳ	(122.0)	( 52.0)	48.0	(355.0)	凝	Ⅱ	Ⅲ上
18	DR-20Ⅳ	( 92.0)	64.0	22.0	(200.0)	安	Ⅱ	I下
12	E L-23Ⅰ	129.0	54.0	32.0	316.0	輝 凝	Ⅲ	
13	E K-19Ⅳ	88.0	45.0	33.0	178.0	緑 頁	Ⅲ	
14	包A-ⅤⅣ	170.0	54.0	41.0	392.0	緑 頁	Ⅲ	
	E F-26 ペルトⅢ	( 45.0)	( 30.0)	( 11.0)	( 18.0)	輝 凝	Ⅲ	
15	E D-21Ⅳ上	55.0	16.0	9.0	14.0	緑 頁	Ⅳ	
16	E F-17Ⅳ	112.0	24.0	16.0	62.0	頁	Ⅳ	
17	包A-ⅥⅣ	( 85.0)	( 25.0)	( 20.0)	( 65.0)	輝 凝	Ⅳ	
19								
20	E C-23Ⅳ上	50.0	39.0	11.0	31.0	頁	V	
21	E L-24	101.0	40.0	13.0	73.0	輝	V	
22	E E-21Ⅳ下	122.0	51.0	24.0	245.0	輝 凝	V	
	DR-20Ⅲ	( 92.0)	64.0	22.0	(200.0)		V	I下
23	E F-19Ⅳ	( 52.0)	( 42.0)	( 17.0)	( 64.0)	チ ャ		Ⅱ上
24	包A-4 ペルトⅣC	( 59.0)	( 43.0)	( 28.0)	(115.0)	輝		Ⅱ上
25	EG-27Ⅳ	( 68.0)	( 49.0)	( 22.0)	( 84.0)	緑 頁		Ⅱ上
26	E F-18Ⅳ上	( 61.0)	( 47.0)	( 27.0)	(110.0)	頁		Ⅱ上
27	E C-26Ⅳ上	( 52.0)	( 57.0)	( 21.0)	( 98.0)	緑 頁		Ⅱ上
28	E H-24Ⅳ	( 83.0)	( 55.0)	( 18.0)	(199.0)	頁		Ⅱ上
29	E C-22Ⅳ	( 41.0)	( 49.0)	( 14.0)	( 34.0)	緑 頁		Ⅲ下
30	E C-22Ⅳ	( 60.0)	52.0	( 23.0)	(117.0)	頁		Ⅱ下
31	E L-17Ⅰ	( 68.0)	( 58.0)	( 30.0)	(155.0)	頁		Ⅱ中
32	DN-20Ⅰ	( 73.0)	( 45.0)	( 33.0)	(163.0)	安		Ⅱ下
33	E L-26Ⅳ	( 49.0)	( 69.0)	( 29.0)	(117.0)	玢		Ⅲ下
34	DM-21Ⅳ	( 85.0)	( 63.0)	( 31.0)	(168.0)	安		Ⅱ下
35	DR-18Ⅳ	( 53.0)	( 65.0)	( 16.0)	( 85.0)	砂		I下
36	包A-ⅦⅣ	( 46.0)	( 55.0)	( 21.0)	( 61.0)	頁		Ⅲ下
37	EG-26Ⅳ	( 61.0)	( 64.0)	( 28.0)	(154.0)	緑 頁		Ⅲ下
38	包A-4 ペルトⅣA	( 64.0)	( 54.0)	( 13.0)	( 54.0)	緑 頁		Ⅱ

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	残存部位
39	DL-14 I	( 73.0)	( 42.0)	( 29.0)	(141.0)	閃		Ⅱ下
40	包A-V IV	( 85.0)	( 34.0)	( 22.0)	( 69.0)	凝		Ⅲ下右
	EH-15 Ⅱ	( 61.0)	48.0	22.0	( 87.0)	頁		Ⅱ下
	EL-26 IV下	( 48.0)	( 43.0)	( 13.0)	( 36.0)	緑頁		Ⅱ中
	EF-25 IV	( 50.0)	( 64.0)	( 29.0)	(121.0)	玢		I下
	DN <sup>15</sup> (IH) ラッテ	( 74.0)	( 65.0)	( 20.0)	(121.0)	緑頁		Ⅱ下
	E I-23 IV	( 48.0)	( 41.0)	( 10.0)	( 17.0)	頁		Ⅲ下

### 9. 打製石斧

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	残存部位	磨滅・敲打痕
1	包A-VI IV	139.0	36.0	22.0	175.0	砂	I		1bマ、2bマ
2	EG-23 IV下	132.0	51.0	25.0	243.0	頁	I		1bマ、3aタ
3	包AAH-IVb	95.0	36.0	17.0	85.0	凝	I		2iJタ、3iタ
4	EL-25 Ⅱ	109.0	40.0	22.0	161.0	安	I		
5	E I-25 IV	153.0	39.0	47.0	407.0	安	I		
6	DN-15 I	155.0	99.0	41.0	1,078.0	砂	I		1aタ、1fghマ
7	EH-18 IV	121.0	47.0	20.0	166.0	流	I		
8	DR-12 Ⅱ	106.0	69.0	38.0	425.0	緑頁	I		1aタ
9	DK-14 Ⅱ	133.0	63.0	37.0	470.0	安	I		1bス
10	DK-14 Ⅱ	148.0	63.0	30.0	402.0	安	I		1bス
11	包A IV-IV	88.0	58.0	15.0	105.0	チャ	I		
12	DT-9 Ⅱ	82.0	39.0	10.0	43.0	頁	I		2bハ
13	E J-25 IV	144.0	62.0	28.0	360.0	輝	Ⅱ		1c~hタ、2hハ、2d、cハ 3d、cハ、3hハ
14	EG-20 IV上	139.0	72.0	30.0	342.0	頁	Ⅱ		3aタ
15	DO-26	141.0	53.0	33.0	337.0	玢	Ⅱ		1abcfタ 2i線条痕
16		127.0	55.0	24.0	214.0	砂	Ⅱ		1bマ・1c~fタ
17	包A-VI IV	114.0	54.0	24.0	231.0	砂	Ⅱ		
18	E I-26 Ⅱ	103.0	61.0	24.0	219.0	輝	Ⅱ		1c~hマ
19	EB-25 IV上	( 73.0)	53.0	( 18.0)	(113.0)	輝	Ⅱ	1下	2・3全タ
20	E K-24	113.0	71.0	29.0	340.0	安	Ⅱ		
21	包A-4 ベルト IV B	108.0	66.0	30.0	265.0	頁	Ⅱ		1acdタ、1bマ
22	DL-14 IV	101.0	54.0	26.0	203.0	頁	Ⅱ		
23	I H-フク土	140.0	60.0	( 37.0)	(345.0)	砂	Ⅱ	2接	1a~hマ、2kマ3iタ
24	DL-20 I	(118.0)	59.0	28.0	(311.0)	輝	Ⅱ	1下	1全マ、1fスはつるつる
25	EG-24 IV下	78.0	29.0	12.0	46.0	砂	Ⅱ		1a・b・タ
26	DP-17 IV	118.0	48.0	20.0	155.0	安	Ⅱ		1c~hマ
27	EL-22 IV	( 86.0)	( 47.0)	( 32.0)	(172.0)	輝	Ⅱ	2下	
28	DO-13 I	115.0	43.0	25.0	171.0	頁	Ⅱ		1c~hマ、2bijkマ 2ijk自然面
29	包A-VI IV	98.0	55.0	16.0	125.0	頁	Ⅱ		1c~gマ
30	包A-7 IV	112.0	44.0	14.0	87.0	頁	Ⅱ		
31		(222.0)	( 82.5)	3.65	(1,300.0)	安	Ⅱ	2接	1c~hマ、2bijkハタ 3bcghタ
32	DM-17	111.0	68.0	23.0	251.0	輝	Ⅱ		
33	E J-25 IV	85.0	49.0	21.0	119.0	輝	Ⅱ		
34	包A-IV IV	(120.0)	84.0	52.0	(485.0)	安	Ⅱ	1下	1cdeマ、3bkサ
	EG-20 IV上	122.0	58.0	38.0	357.0	砂	Ⅱ		1c~hマ 2i線条痕の剥離の稜マ
35	DN-16 IV	81.0	51.0	12.0	58.0	頁	Ⅲ		1aタ、3iタ
36	EH-18 IV	83.0	45.0	13.0	73.0	ホ	Ⅲ		1c~hマ
37	D J-24 I	121.0	66.0	28.0	288.0	輝	Ⅲ		1a~c、hマ 3上半、下半一部タ
38	DN-19 IV	121.0	67.0	29.0	334.0	玄	Ⅲ		1cdghマ
39	包A-3 IV b	( 91.0)	53.0	15.0	( 99.0)	安	Ⅲ	1下	1cdeマ
40	包A-IV IV	111.0	52.0	21.0	128.0	頁	Ⅲ		
41	包A-VI IV	104.0	48.0	16.0	112.0	砂	Ⅲ		1cdfghマ

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	残存部位	磨 減・敲打痕
42	E J-24Ⅳ	60.0	40.0	15.0	42.0	砂	Ⅲ		
43	DN-21Ⅰ	115.0	63.0	24.0	248.0	砂	Ⅲ		3c~hタ
44	包A-ⅥⅣ	60.0	45.0	11.0	32.0	頁	Ⅲ		3aハ
45	DM-23Ⅳ	76.0	44.0	13.0	53.0	砂	Ⅲ		ldgマ
46	DN-20Ⅳ	92.0	55.0	19.0	123.0	輝	Ⅲ		1c1マ、1gマ
47	包A-ⅦⅣ	(120.0)	71.0	24.0	(256.0)	輝	Ⅲ	3上	1全マ
48	DP-16Ⅰ	118.0	73.0	27.0	324.0	安	Ⅲ		1deghマ
49	包A-ⅣⅣ	90.0	49.0	14.0	87.0	輝	Ⅲ		3j凹、3e凹
50	包A-ⅡⅣ	80.0	50.0	14.0	70.0	安	Ⅲ		1gマ、3g~kマ
51	DM-17Ⅳ	90.0	55.0	19.0	139.0	輝	Ⅲ		1aマ
52	DO-15Ⅳ	90.0	51.0	21.0	127.0	輝	Ⅲ		ldgマ
53	DN-19Ⅳ	76.0	60.0	11.0	61.0	砂	Ⅲ		1bマ、3全ケ
54	DO-20Ⅰ	97.0	59.0	21.0	162.0	安	Ⅲ		3ijタ
55	DM-18Ⅰ	85.0	59.0	15.0	98.0	輝	Ⅲ		1fgマ
56	DN-19Ⅳ	108.0	61.0	22.0	151.0	輝	Ⅲ		1aマ、1c~hマ
57	E I-24Ⅱ	147.0	( 38.0)	( 24.0)	(151.0)	砂	Ⅳ	左	
58	EN-22Ⅳ	71.0	54.0	23.0	105.0	安	Ⅳ		1dマ
59	DL-23Ⅳ	128.0	80.0	29.0	442.0	砂	Ⅳ	3上	1cdefhマ
60	DR-9Ⅱ	96.0	44.0	28.0	82.0	砂	Ⅳ		1cdeマ、2c自然面
61	DL-14Ⅰ	92.0	56.0	20.0	150.0	頁	Ⅳ		1aス・1afghマ・3gマ
62		149.0	( 72.0)	34.0	(477.0)	輝	Ⅳ	1、2左下	1acdehマ
63	E J-15Ⅳ	118.0	65.0	25.0	254.0	安	Ⅳ		1全マ
64	DM-18Ⅳ	95.0	48.0	18.0	90.0	安	Ⅳ		1全マ、3bghタ
65	DF-17Ⅳ	85.0	63.0	16.0	151.0	輝	Ⅳ		1ehマ
66	DP-14Ⅳ	96.0	59.0	20.0	140.0	輝	Ⅳ		1全マ、2aマ
67									
68	20Ⅳ	79.0	52.0	20.0	56.0	頁	Ⅳ		
69	DM-24Ⅳ	83.0	46.0	14.0	79.0	輝	Ⅳ		
70	包A-ⅦⅣ	( 75.0)	46.0	11.0	( 47.0)	頁	Ⅳ	1下	1cdfghマ
71	D J-18Ⅰ	(112.0)	78.0	18.0	(197.0)	輝	Ⅳ	1下	1adマ
72	DN-18Ⅰ	(124.0)	77.0	41.0	(534.0)	砂	Ⅳ	1下	1c~hマ
73	包A-ⅤⅣ	117.0	49.0	29.0	223.0	安	Ⅴ		1全マ2全タ3fghタ
74	DO-10Ⅱ	131.0	50.0	29.0	257.0	輝	Ⅴ		1c~hマ
75	DM-25	108.0	50.0	20.0	136.0	砂	Ⅴ		1c~hマ
76	DL-15Ⅱ	118.0	63.0	21.0	257.0	輝	Ⅴ		1abdgmマ
77	DM-17Ⅳ	176.0	78.0	33.0	576.0	砂	Ⅴ		1cdefgマ
78		109.0	66.0	27.0	234.0	砂	Ⅴ		1cdghマ
79	DN-16Ⅳ	55.0	34.0	8.0	21.0	安	Ⅴ		
80	包A-ⅦⅣ	64.0	38.0	18.0	45.0	砂	Ⅴ		
81	D J-9Ⅱ	70.0	46.0	22.0	72.0	輝	Ⅴ		1c~hマ、3fghマ 3cdeマ
82	包A-ⅦⅣ	63.0	36.0	10.0	36.0	安	Ⅴ		
83	DP-15Ⅳ	90.0	59.0	17.0	123.0	砂	Ⅴ		3全ケ
84	DM-13Ⅳ	129.0	65.0	26.0	275.0	砂	Ⅴ		1cdfgマ
85	DN-21Ⅰ	118.0	68.0	24.0	293.0	輝	Ⅴ		ldgマ
86	DL-18Ⅳ	99.0	58.0	21.0	185.0	砂	Ⅴ		1c~gマ
87	DL-20Ⅰ	87.0	53.0	21.0	138.0	玄	Ⅴ		1b~hマ
88	E B-25Ⅳ下	(107.0)	77.0	24.0	(271.0)	砂	Ⅴ	1下	1gタ、3fタ
89	E C-23Ⅳ上	110.0	67.0	22.0	280.0	頁	Ⅴ		1c~hマ・3aハ
90	DK-20Ⅳ	111.0	66.0	16.0	179.0	輝	Ⅴ		3全体にとりどころタ
91	包A-ⅡⅣ	(111.0)	( 71.0)	( 36.0)	(370.0)	砂	Ⅴ	1下	
92	EH-18Ⅳ	( 66.0)	( 61.0)	( 14.0)	( 66.0)	頁		2下	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	残存部位	磨滅・敲打痕
93	DP-14Ⅳ	71.0	55.0	22.0	95.0	砂		(2下)	1b・dマ
94	DJ-20Ⅳ	141.0	83.0	33.0	448.0	砂		(1上)	
	DM-22Ⅳ					頁		2上	
	EF-26Ⅳ					砂		3下	
	DL-22Ⅰ					輝		2上	
	DL-22Ⅰ					砂		1上	
	DL-24Ⅰ					砂		3上	
	DK-19フク土					安		2下	
	DK-16Ⅳ					砂		1、2中	
	包A-ⅢⅣ					輝			
	D-21Ⅳ					砂		1、3中	
	DK-15Ⅳ					輝		2下右	
	DP-14Ⅳ					凝		2下	
	包A-Ⅵ <sup>6</sup> ベルトⅣB					頁		2上	
	DL-17Ⅳ					砂		1、2中	
	EL-23Ⅳ	62.0	36.0	11.0	31.0	頁			1cdeハ
	DK-14Ⅰ					頁		2上	
	DN-23Ⅳ					輝		2上	
	包A-ⅢⅣ					安		1上	
	DN-16Ⅳ					安		3下	
	DK-20Ⅳ					砂			
	DJ-19Ⅰ					砂		2上	
	SX	(73.0)	(70.0)	34.0	(171.0)	頁		2下	
	包A-Ⅳ <sup>4</sup> ベルトⅣB	(82.0)	(68.0)	(27.0)	(187.0)	輝		2下右 左接合	
						砂		2下	
	DR-17Ⅰ	113.0	54.0	21.0	128.0	砂			31に横方向のハンチ による1回の剝離
	包A-7Ⅳ					安		2上	
	DK-15Ⅱ					砂		2上	
	DO-18Ⅰ					安		2下中 (左右交互)	
	DM-21Ⅳ	(53.0)	(63.0)	(22.0)	(81.0)	砂		2下	
	包A-ⅦⅣ	62.0	46.0	16.0	59.0	砂			
	DK-15Ⅰ					安		2上	
	DP-17Ⅳ					輝		2上	
	DM-19					砂		2下	
	包A-ⅡⅣ	(68.0)	66.0	23.0	(157.0)	砂		2下	
						頁		右(1上) <sup>3</sup>	
	包A-ⅤⅣ					安		2下	
	EG-26Ⅳ	134.0	38.0	21.0	164.0	チャ			
	EF-22Ⅳ	90.0	76.0	30.0	221.0	砂			3eタ
	表採SX	131.0	60.0	19.0	226.0	斑糲			
	EF-20Ⅳ	111.0	65.0	22.0	211.0	砂			2aタ
	DK-19Ⅰ	98.0	(52.0)	15.0	(87.0)	砂			3cdeタ
	EH-18Ⅳ	91.0	56.0	24.0	150.0	チャ			1aマ
	EG-18Ⅳ	83.0	48.0	13.0	36.0	千輝			
								3下	
								2上右	
								2上	
								2中右	
								1上	

10. 礫 器

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
	DP-14Ⅳ	117.0	76.0	27.0	210.0	砂	
9	DR-14Ⅱ	118.0	49.0	22.0	156.0	安	
		105.0	52.0	29.0	198.0	砂	
	EL-19Ⅳ上	125.0	54.0	23.0	162.0	頁	
6	包A-ⅢⅣ					砂	
7	DL-18Ⅳ	98.0	73.0	36.0	367.0	凝	
4	EK- <sup>E</sup> ○- <sub>15-17</sub>	59.0	88.0	23.0	155.0	砂	
5	DN-15Ⅰ	89.0	89.0	35.0	359.0	チ ヤ	
	EH-18Ⅳ上	91.0	89.0	20.0	166.0	粘	
8	EL-23Ⅳ	121.0	87.0	39.0	349.0	砂	
10	EF- <sup>21</sup> <sub>ベル下</sub> Ⅳ下	134.0	99.0	13.0	221.0	粘	
12	EC-22Ⅳ上	161.0	111.0	33.0	416.0	千 輝	
	EH-20Ⅳ上	262.0	128.0	30.0	863.0	千 輝	
	包A-Ⅱ	173.0	183.0	36.0	1,173.0	緑 千	
	DQ-13Ⅳ	178.0	87.0	26.0	372.0	千 輝	

11. 石 錘

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
1	EF-23Ⅳ上	68.0	27.0	16.0	36.0	チ ヤ	I
2	EL-23Ⅳ下	54.0	41.0	( 13.0)	( 34.0)	頁	I
3	EC-21	58.0	47.0	12.0	38.0	安	I
4	EK-15Ⅳ	55.0	45.0	19.0	72.0	凝	I
5	EK-20Ⅳ上	59.0	51.0	12.0	49.0	砂	I
6	EN-20Ⅳ上	63.0	48.0	23.0	90.0	安	I
7	EK-26Ⅳ	67.0	46.0	22.0	92.0	安	I
8	EG-26Ⅳ	59.0	52.0	18.0	72.0	安	I
9		( 57.0)	( 54.0)	16.0	( 73.0)	砂	I
10	EG-26Ⅳ	62.0	54.0	16.0	76.0	砂	I
11	DJ-19Ⅰ	60.0	50.0	21.0	( 90.0)	頁	I
12	EF-23Ⅳ上	75.0	49.0	16.0	90.0	砂	I
13	EK-20Ⅳ下	61.0	55.0	17.0	78.0	安	I
14	EI-20Ⅳ下	70.0	59.0	22.0	121.0	砂	I
15		68.0	58.0	18.0	113.0	安	I
16	EF-26Ⅳ	71.0	55.0	21.0	109.0	砂	I
17	EN-22Ⅳ	87.0	57.0	16.0	119.0	砂	I
18	EC-20Ⅳ上	73.0	58.0	31.0	153.0	安	I
19	ET-22Ⅳ	71.0	61.0	22.0	129.0	砂	I
20	EJ-21Ⅳ	79.0	70.0	18.0	152.0	砂	I
21	EG-26Ⅳ	73.0	61.0	21.0	125.0	頁	I
22	EG-23Ⅳ	79.0	73.0	23.0	176.0	ホ	I
23	EJ-20Ⅳ	77.0	66.0	16.0	114.0	安	I
24	EJ-21Ⅳ	84.0	69.0	25.0	219.0	砂	I
25	EL-22Ⅳ	81.0	62.0	18.0	140.0	砂	I
26	DJ-21Ⅳ	91.0	71.0	27.0	238.0	砂	I
27	EN-22Ⅳ	90.0	63.0	11.0	84.0	砂	I
28	EE-25Ⅳ下	88.0	74.0	22.0	208.0	砂	I
29	EK-17~20Ⅳ	88.0	59.0	21.0	176.0	砂	I
30	EC-25Ⅳ上	( 89.0)	80.0	22.0	95.0	粘	I
31	包A-Ⅲ、Ⅳ	102.0	69.0	23.0	(178.0)	砂	I
32	EH-19Ⅳ	91.0	83.0	38.0	286.0	安	I
33	EF-20Ⅳ下	97.0	73.0	36.0	302.0	砂	I



番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類
34	E I-17 I	100.0	84.0	27.0	331.0	砂	I
35	DM-13 IV	105.0	63.0	22.0	237.0	砂	I
36	E E-20 IV下	102.0	87.0	34.0	466.0	頁	I
37	E F-21 IV上	120.0	57.0	32.0	309.0	頁	I
38	E K-15 IV	110.0	87.0	28.0	401.0	砂	I
39	E F-22 IV	99.0	53.0	28.0	184.0	砂	I
40	DM-23 IV	142.0	115.0	38.0	794.0	安	I
41	$\frac{E F-20}{E L-21} IV上$	50.0	48.0	22.0	59.0	安	I
42	E K-24 IV	79.0	75.0	19.0	173.0	砂	I
43	E G-26 IV	61.0	57.0	13.0	63.0	砂	I
44	E M-19 II	86.0	83.0	18.0	164.0	砂	I
45	E G-25 IV	70.0	56.0	18.0	86.0	安	I
46	E F-26 IV	66.0	62.0	13.0	68.0	安	I
47	E L-18 IV	76.0	73.0	18.0	141.0	砂	I
48		68.0	66.0	17.0	130.0	安	I
49	E G-18 IV	77.0	70.0	26.0	183.0	砂	I
50	E I-24 IV	66.0	64.0	19.0	122.0	安	I
51	E D-25 IV下	76.0	75.0	25.0	189.0	頁	I
52	E G-26 IV	71.0	65.0	21.0	154.0	砂	I
53	E H-21 IV	64.0	64.0	16.0	104.0	砂	I
54	E D-25 IV下	75.0	73.0	24.0	209.0	砂	I
	E F-22 IV上	( 74.0 )	( 65.0 )	19.0	(119.0)	頁	I
	E N-20 IV上	74.0	56.0	21.0	113.0	砂	I
	E H-19 IV下	90.0	57.0	28.0	186.0	砂	I
	E F-19 IV上	82.0	69.0	22.0	196.0	頁	I
	$\frac{E M-15}{E S-25} \frac{E 4}{S X}$	112.0	( 86.0 )	24.0	307.0	安	I
	E K-20 IV上	76.0	65.0	37.0	242.0	安	I
	E L-25 IV上	67.0	60.0	26.0	145.0	安	I
	E M-19 IV上	90.0	58.0	19.0	145.0	チ ヤ	I
		88.0	71.0	22.0	198.0	チ ヤ	I
	E M-21 IV上	86.0	76.0	22.0	189.0	安	I
	E I-23 IV下	74.0	53.0	20.0	124.0	砂	I
	E F-18 IV上	68.0	58.0	18.0	99.0	頁	I
	E B-22 IV下	89.0	76.0	36.0	275.0	砂	I
	E V-20 IV上	82.0	64.0	24.0	178.0	砂	I
	E K-20 IV上	88.0	64.0	22.0	180.0	砂	I
	E D-26 IV下	71.0	66.0	17.0	124.0	安	I
	$\frac{E G-25}{S 括}$	73.0	61.0	18.0	113.0	砂	I
	E T-21 IV	78.0	67.0	21.0	131.0	凝	I
	E K-25 II	77.0	49.0	21.0	78.0	砂	I
	E D-28 IV	84.0	71.0	24.0	210.0	砂	I
	E L-23 S-24	81.0	65.0	21.0	155.0	凝	I
	E K-17 IV	98.0	85.0	28.0	340.0	砂	I
	E L-21 II	88.0	67.0	23.0	215.0	砂	I
	E F-26 IV	77.0	68.0	17.0	125.0	安	I
	E F-26 IV	81.0	61.0	23.0	152.0	安	I
	E N-22 IV	69.0	53.0	15.0	73.0	砂	I
	E L-22 IV	84.0	72.0	20.0	174.0	砂	I
	E G-26 IV	79.0	63.0	17.0	125.0	砂	I
	E G-21 IV	94.0	64.0	14.0	125.0	砂	I
	E F-21 IV	68.0	59.0	18.0	109.0	安	I

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
	E J-19Ⅳ	77.0	58.0	16.0	107.0	砂	I
	E K-26Ⅳ	72.0	52.0	21.0	121.0	安	I
	DK-17Ⅳ	106.0	82.0	26.0	288.0	安	I
	E L-23Ⅳ	96.0	78.0	21.0	221.0	安	I
	E N-21Ⅳ	70.0	65.0	14.0	81.0	安	I
	E G-26Ⅳ	68.0	53.0	15.0	66.0	安	I
	E K-25Ⅳ	71.0	56.0	21.0	128.0	砂	I
	E F-26Ⅳ	95.0	74.0	33.0	277.0	凝	I
	DL-15Ⅱ	90.0	69.0	24.0	217.0	砂	I
	E K-25Ⅱ	78.0	62.0	18.0	129.0	砂	I
	E F-26Ⅳ	( 63.0)	53.0	18.0	( 89.0)	安	I
	E F-26Ⅳ	77.0	65.0	26.0	177.0	砂	I
	包A-Ⅲ	97.0	94.0	28.0	374.0	砂	I
	E K-22Ⅳ	67.0	63.0	20.0	131.0	砂	I
	E H-26Ⅳ	70.0	55.0	16.0	72.0	頁	I
	E F-22Ⅳ	87.0	55.0	21.0	(103.0)	砂	I
	E F-26Ⅳ	76.0	64.0	26.0	(150.0)	頁	I
	E M-21Ⅳ	68.0	60.0	22.0	128.0	チ ヤ	I
	E J-19Ⅳ	76.0	61.0	17.0	(116.0)	チ ヤ	I
	E J-15Ⅳ	76.0	63.0	( 20.0)	( 97.0)	砂	I
	包A-Ⅲ、Ⅳ	( 81.0)	76.0	23.0	(188.0)	チ ヤ	I
	E H-24Ⅳ下	79.0	69.0	20.0	161.0	凝	I
	E F-25Ⅳ下	77.0	68.0	23.0	73.0	砂	I
	E R-23Ⅳ上	89.0	63.0	24.0	160.0	砂	I
	E D-23Ⅳ下	69.0	53.0	14.0	75.0	頁	I
	E D-23Ⅳ下	80.0	60.0	19.0	135.0	チ ヤ	I
	E F-22Ⅳ	( 63.0)	( 53.0)	( 20.0)	( 66.0)	安	I
55	E M-21Ⅳ	56.0	58.0	16.0	67.0	頁	Ⅱ
56	E B-21Ⅳ上	87.0	89.0	41.0	431.0	安	Ⅱ
57	E K-25Ⅱ	57.0	62.0	18.0	94.0	チ ヤ	Ⅱ
58	<sup>E F-21</sup> <sub>ベルトⅣ下</sub>	86.0	82.0	37.0	312.0	安	Ⅱ
59	包A-Ⅲ、Ⅳ	72.0	72.0	19.0	146.0	粘	Ⅱ
60	E L-19Ⅳ上	80.0	79.0	27.0	223.0	安	Ⅱ
61	E L-26Ⅳ	69.0	69.0	26.0	158.0	砂	Ⅱ
62	<sup>E F-22</sup> <sub>ベルトⅣ下</sub>	71.0	73.0	27.0	163.0	砂	Ⅱ
63	D J-19Ⅰ	66.0	68.0	30.0	199.0	安	Ⅱ
64	E H-20Ⅳ	77.0	78.0	25.0	198.0	頁	Ⅱ
65	包A-Ⅲ、Ⅳ	66.0	72.0	34.0	216.0	安	Ⅱ
66	E C-21Ⅳ上	44.0	71.0	12.0	55.0	頁	Ⅲ
67	DL-15Ⅳ	87.0	96.0	33.0	241.0	石 ホ	Ⅲ
68	E F-26Ⅳ	61.0	73.0	20.0	( 96.0)	凝	Ⅲ
69	E I-20Ⅳ	88.0	108.0	14.0	147.0	千 輝	Ⅲ
70	E I-20Ⅳ	65.0	84.0	13.0	61.0	千 輝	Ⅲ
71	E K-19Ⅳ上	89.0	92.0	29.0	282.0	砂	Ⅳ
72	E K-17Ⅳ	61.0	73.0	31.0	(208.0)	安	Ⅳ
73	E G-26Ⅳ	63.0	52.0	13.0	160.0	安	Ⅳ
74	DS-13Ⅳ	97.0	101.0	31.0	(419.0)	安	Ⅳ
75	E K-17Ⅳ	110.0	110.0	41.0	560.0	礫 岩	Ⅳ
	E C-22Ⅳ下	( 63.0)	79.0	( 29.0)	(169.0)	砂	
	E G-18Ⅳ上	( 57.0)	53.0	26.0	97.0	安	
		( 78.0)	( 66.0)	23.0	(141.0)	砂	

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類
	E H-19Ⅳ上	( 77.0)	86.0	14.0	(140.0)	砂	
	E H-18Ⅳ上	( 63.0)	( 65.0)	22.0	106.0	砂	
		( 66.0)	( 51.0)	16.0	( 50.0)	安	
	E K-25Ⅱ	( 67.0)	60.0	14.0	( 90.0)	安	
	D L-14Ⅰ	( 73.0)	83.0	19.0	(163.0)	安	
	E I-20Ⅳ	( 74.0)	( 67.0)	18.0	(115.0)	安	
	E I-20Ⅳ	( 56.0)	69.0	( 26.0)	(149.0)	安	
	E G-26Ⅳ	( 51.0)	( 68.0)	21.0	( 78.0)	安	
	E F-26Ⅳ	( 72.0)	66.0	26.0	(161.0)	安	
	E J-23Ⅳ	( 68.0)	( 78.0)	( 18.0)	( 89.0)	砂	
	E F-23Ⅳ上	( 47.0)	( 79.0)	( 23.0)	(102.0)	砂	
	E M-23 P-14	( 42.0)	( 51.0)	( 23.0)	( 38.0)	凝	

## 12. 磨敲凹石類

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
1	E G-21Ⅳ	90.0	87.0	43.0	479.0		I a	ケ	2	—		
2	E J-26Ⅳ	81.0	66.0	36.0	286.0		I a	ケ	2	—		
	D P-17Ⅳ						I a	ケ	2	—		
9	E L-22Ⅳ	96.0	91.0	35.0	494.0		I a	ケ	2	—		
	包A-Ⅳ、Ⅳ	98.0	87.0	50.0	666.0		I a	ケ	2	—		
3	E T-23Ⅳ	130.0	79.0	31.0	557.0		I a	ケ	2	—		
6	E I-26Ⅱ	110.0	93.0	37.0	611.0		I a	ケ	2	—		
8	包A-7Ⅳ	97.0	78.0	43.0	567.0		I a	ケ	2	—		
4	E K-22Ⅳ	97.0	87.0	59.0	634.0		I a	ケ	2	—	bス1	
5	E H-24Ⅳ	93.0	86.0	52.0	652.0		I a	ケ	2	—	bタ2	
	E L-22Ⅱ	( 94.0)	( 70.0)	( 22.0)	( 204.0)	砂	I a	ケース	2	—	aタ1	
14	E L-22Ⅳ	93.0	81.0	36.0	392.0	安	I a	ケース	2	—	aタ1	
11	E D-22Ⅳ上	93.0	64.0	41.0	367.0	凝	I a	ケース	2	—	aタ1	
7	E L-23Ⅴ	104.0	94.0	42.0	629.0	安	I a	ケース	2	—	aタ1	
12	D P-17Ⅳ	97.0	80.0	35.0	414.0	安	I a	ケース	2	—	aタ1	
13	D M-16Ⅳ	107.0	89.0	44.0	631.0	安	I a	ケース	2	—	aタ1	
10	E E-20Ⅳ	111.0	97.0	53.0	769.0	安	I a	ケース	2	—	aタ1	
15	包A-3ⅣB	115.0	86.0	46.0	678.0	安	I a	ケース	2	—	bタ+ハ1,aタ1	
16	E M-18Ⅳ上	110.0	93.0	39.0	576.0	安	I a	ケース	2	—	bタ+ハ1,aタ1	
19	E K-25Ⅳ上	( 88.0)	93.0	37.0	433.0	安	I a	ケース	2	—	bタ+ハ1,aタ1	
17	A区	97.0	81.0	44.0	518.0	輝	I a	ケース	2	—	bタ1,aタ1	
21	包A-Ⅵ、Ⅳ	( 86.0)	98.0	44.0	( 498.0)	安	I a	タ	1	—		
20	D M-16 フク土	88.0	82.0	42.0	455.0	安	I a	タ	1	—		
	E O-22Ⅱ	93.0	85.0	42.0	483.0	安	I a	タ	1	—		
25	E I-23Ⅴ	109.0	98.0	40.0	610.0	砂	I a	タ	1	—		
23	D R-10Ⅱ	93.0	84.0	45.0	494.0	安	I a	タ	1	—		
18	E M-21Ⅳ	89.0	67.0	33.0	280.0	砂	I a	タ	1	—		
22	E F-21Ⅳ	113.0	86.0	49.0	491.0	安	I a	タ	1	—		
	包A-5 べⅣA				207.0	安	I a	タ	1	—		
24	D O-24Ⅳ	104.0	83.0	31.0	420.0	砂	I a	タ	1	—		
	E H-26Ⅳ	103.0	83.0	38.0	475.0	砂	I b	スタ	1	—	aタ1	
	E K-23Ⅰ	( 89.0)	80.0	48.0	( 524.0)	安	I b	スタ	1	—	aタ1	
	E J-15Ⅳ	107.0	76.0	38.0	455.0	安	I b	スタ	1	—	aタ1	
43	E F-24Ⅳ	129.0	( 77.0)	46.0	( 649.0)	砂	I b	スタ	1	—	aタ1	
37	包A-Ⅳ	95.0	86.0	57.0	589.0	安	I b	スタ	1	—	aタ1	
	E F-20Ⅳ	99.0	85.0	37.0	433.0	安	I b	スタ	1	—	aタ1	
	E B-24Ⅳ上	131.0	118.0	57.0	1,280.0	安	I b	スタ	1	—	aタ1	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
	包A-4 ベNC	91.0	90.0	50.0	( 594.0)	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
42	E J-25Ⅳ	116.0	97.0	54.0	829.0	砂	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
33	E J-20Ⅳ下	117.0	90.0	49.0	704.0	砂	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
34	E I-19Ⅳ下	87.0	95.0	35.0	434.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
39	E N-22Ⅳ	102.0	88.0	42.0	517.0	砂	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
36	E L-24	114.0	88.0	35.0	577.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
	包A-Ⅶ、Ⅵ	100.0	102.0	50.0	693.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
	E E-21Ⅳ上	110.0	88.0	40.0	580.0	礫	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
41	E L-22Ⅳ	113.0	94.0	53.0	870.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
	E I-26Ⅳ						I b	ス-タ	1	—	aタ1	
35	E M-18Ⅱ	84.0	85.0	42.0	381.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
44	E F-26Ⅳ	104.0	83.0	35.0	389.0	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
	E M-17Ⅱ	(101.0)	84.0	39.0	( 421.0)	安	I b	ス-タ	1	—	aタ1	
	E K-26Ⅳ	100.0	92.0	45.0	558.0	チャ	I b	ス-タ	1	—		
	$\frac{3}{13} \frac{A}{P} \frac{3}{13} \text{IV}$	74.0	64.0	31.0	200.0	チャ	I b	ス-タ	1	—		
27		74.0	65.0	31.0	202.0	安	I b	ス-タ	1	—		
	E F-15~27	115.0	100.0	43.0	669.0	砂	I b	ス-タ	1	—		
	E L-19Ⅳ上	110.0	64.0	44.0	464.0	砂	I b	ス-タ	1	—		
	E L-25Ⅱ				160.0	安	I b	ス-タ	1	—		
	E F-24Ⅳ上	121.0	(105.0)	34.0	( 666.0)	砂	I b	ス-タ	1	—		
32	E I-26Ⅳ	104.0	32.0	79.0	374.0	砂	I b	ス-タ	1	—		
	E M-20Ⅳ上				( 246.0)	チャ	I b	ス-タ	1	—		
38	E C-26Ⅳ下	94.0	74.0	36.0	324.0	玢	I b	ス-タ	1	—		
40	DK-22Ⅳ	( 61.0)	( 75.0)	( 36.0)	( 247.0)	安	I b	ス-タ	1	—		
28	DR-20Ⅳ	95.0	59.0	28.0	247.0	砂	I b	ス-タ	1	—		
29	E L-25Ⅱ	67.0	59.0	29.0	574.0	安	I b	ス-タ	1	—		
30	E E-20Ⅳ下	98.0	90.0	46.0	549.0	砂	I b	ス-タ	1	—		
26	包A-Ⅵ	73.0	73.0	25.0	148.0	安	I b	ス-タ	1	—		
31	E K-22Ⅳ	78.0	73.0	34.0	250.0	安	I b	ス-タ	1	—		
						安	I b	ス-タ	1	—		
46	E F-21Ⅳ	81.0	73.0	43.0	321.0	砂	I b	ス-タ	2	—		
47	E J-26Ⅳ	55.0	61.0	34.0	162.0	チャ	I b	ス-タ	2	—		
49	E K-25Ⅱ	56.0	61.0	38.0	206.0	チャ	I b	ス-タ	2	—		
45	E I-18Ⅰ	40.0	36.0	25.0	50.0	砂	I b	ス-タ	2	—		
48	E J-25Ⅱ	62.0	65.0	( 38.0)			I b	ス-タ	2	—		
	DR-20Ⅳ						I b	ス-タ	2	—		
52	DR-14Ⅱ	104.0	40.0	39.0	192.0	砂	Ⅱ b	ス	1	—		
						砂	Ⅱ b	ス	1	—		
						砂	Ⅱ b	ス	1	—		
53	E J-21Ⅳ	100.0	37.0	21.0	212.0	玢	Ⅱ b	ス	1	—		
51	E I-25Ⅳ	118.0	54.0	34.0	( 278.0)	砂	Ⅱ b	ス	1	—		
55	E J-22Ⅳ	144.0	42.0	32.0	( 242.0)	砂	Ⅱ b	タ	1	—	s+付近、タ+ハ	
						流	Ⅱ b	タ	1	—	cタ	
	DP-21Ⅳ				( 235.0)	砂	Ⅱ b	タ	1	—	cハ	
54	包A-Ⅲ、Ⅳ	( 96.0)	47.0	43.0	( 260.0)	砂	Ⅱ b	タ	1	—	cス+ハ	
56	DP-19Ⅰ	132.0	65.0	48.0	449.0	安	Ⅱ b	タ	1	○	cタ、aタ1	
57	ED-25Ⅳ下						Ⅱ b	タ	2	○		
59	包A-Ⅶ、Ⅳ					チャ	Ⅱ c	ス		—		
58	包A-Ⅶ、Ⅳ	147.0	54.0	25.0	256.0	砂	Ⅱ c	ス-タ		○	aタ1	
60	DL-17Ⅳ	( 93.0)	48.0	40.0	( 205.0)	凝	Ⅱ c	ス-タ		○	aタ1	
50	E K-19Ⅳ上	(114.0)	43.0	41.0	( 238.0)	頁	Ⅱ c	タ	1	—	aタ1	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	類	度	h	複合
61	包A-Ⅲ、Ⅳ	139.0	47.0	31.0	261.0	安	Ⅱc	タ		—	
62	EJ-26Ⅳ	88.0	36.0	32.0	128.0	安	Ⅱc	タ		—	
	EI-25Ⅳ	106.0	44.0	17.0	86.0	砂	Ⅱc	タ		—	
	EG-26Ⅳ					凝	Ⅱc	タ		○	
	DN-14Ⅳ					砂	Ⅱc	ハ		—	
72	EG-26Ⅳ	210.0	34.0	28.0	256.0	砂	Ⅱd	スー	1	—	
69	EL-21Ⅱ	88.0	44.0	27.0	150.0	砂	Ⅱd	スー	1	—	
66	包A-7Ⅳ	97.0	48.0	31.0	(188.0)	安	Ⅱd	スー	1	—	
64	DM-17Ⅰ	101.0	52.0	24.0	180.0	輝	Ⅱd	スー	1	—	
70	ED-21Ⅳ下	106.0	50.0	52.0	292.0	安	Ⅱd	スー	1	—	
68	ED-23Ⅳ下	109.0	53.0	39.0	244.0	安	Ⅱd	スー	1	—	
65	EH-20Ⅳ	80.0	44.0	31.0	128.0	凝	Ⅱd	スー	1	—	
63	EI-23Ⅴ	99.0	42.0	54.0	330.0	安	Ⅱd	スー	1	—	
67	EJ-23Ⅳ	93.0	37.0	31.0	156.0	眞	Ⅱd	スー	1	—	
71	A区	115.0	40.0	40.0	258.0	チャ	Ⅱd	スー	1	—	
	包A-3ベⅣ						Ⅱd	スー	1	—	
	包A-2ベⅣ						Ⅱd	スー	1	—	
212	EE-25Ⅳ下	109.0	50.0	33.0	207.0	眞	Ⅱd	タ	1	—	aタ1
							Ⅲa	ケ	1	—	bス1
74	A地区表採	(85.0)	(67.0)	(27.0)	(261.0)	輝	Ⅲa	ス	1	—	bス1
73	包A-4、Ⅳ	164.0	73.0	28.0	571.0	斑糲	Ⅲa	ス	1	—	bス+ハ
	A地区表採					斑糲	Ⅲa	ス	1	—	bス+ハ1、cハ
78	包A-4 BP-14Ⅳ	121.0	75.0	30.0	310.0	砂	Ⅲa	タ	1	—	
75	EJ-24Ⅳ	118.0	50.0	33.0	259.0	安	Ⅲa	タ	1	—	
80	包A-Ⅶ、Ⅳ	150.0	90.0	52.0	956.0	チャ	Ⅲa	タ	1	—	
79	EL-24Ⅳ下	114.0	66.0	31.0	250.0	安	Ⅲa	タ	1	—	
77	DO-16Ⅳ	120.0	60.0	44.0	381.0	安	Ⅲa	タ	1	—	
81	包A-7Ⅳ	115.0	51.0	25.0	225.0	安	Ⅲa	タ	2	—	
82	EG-19Ⅳ	117.0	53.0	28.0	212.0	安	Ⅲa	タ	2	—	
83	包A-V、Ⅳ	138.0	48.0	27.0	249.0	輝	Ⅲa	タ	2	—	
87	包A-5Ⅳ	184.0	75.0	57.0	1,114.0		Ⅲa	タ	2	—	bス2、cス
86	ED-24Ⅳ下	174.0	79.0	34.0	715.0		Ⅲa	タ	2	—	bス2、cス
84	包A-5ベⅣ	164.0	83.0	50.0	1,082.0		Ⅲa	タ	2	—	bス2、cス
	EN-21Ⅳ	175.0	88.0	54.0	1,131.0		Ⅲa	タ	2	—	cハ
106	ED-24Ⅳ上	169.0	91.0	57.0	994.0	安	Ⅲb	ス	1	—	
102	DK-16Ⅳ	139.0	61.0	53.0	564.0	眞	Ⅲb	ス	1	—	
						安	Ⅲb	ス	1	—	
90	DM-23Ⅳ	124.0		48.0	641.0	安	Ⅲb	ス	1	—	
109	EM-21Ⅳ	148.0	74.0	51.0	775.0	チャ	Ⅲb	ス	1	—	
99	DN-23Ⅳ	146.0	68.0	41.0	481.0	凝	Ⅲb	ス	1	—	
94	DO-18Ⅳ	84.0		21.0	129.0	安	Ⅲb	ス	1	—	
	EI-19					安	Ⅲb	ス	1	—	
91	包A-1ベⅣB	159.0	79.0	69.0	1,061.0	眞	Ⅲb	ス	1	—	
	DM-15Ⅳ	113.0	69.0	47.0	476.0	安	Ⅲb	ス	1	—	
105	EC-21Ⅳ上	124.0	57.0	49.0	260.0		Ⅲb	ス	1	—	
	DQ-18Ⅳ					安	Ⅲb	ス	1	—	
	EH-18Ⅳ上	117.0	81.0	52.0	524.0	砂	Ⅲb	ス	1	—	
96	包A-Ⅲ、Ⅳ R-14Ⅱ	157.0	100.0	78.0	1,220.0	安	Ⅲb	ス	1	—	
	3焼Ⅰ					流	Ⅲb	ス	1	—	
	EH-18Ⅳ上					安	Ⅲb	ス	1	—	
	EM-26Ⅳ上						Ⅲb	ス	1	—	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	類	度	h	複合
88	E L-2 IV	108.0		60.0	535.0	玲	Ⅲ b	ス	1	—	
	D P-24 IV	135.0	80.0	68.0			Ⅲ b	ス	1	—	
92	D K-12	135.0		52.0	747.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	
89	包 A-IV b	106.0	85.0	55.0	641.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	
	E H-IV	105.0	53.0	35.0	240.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	
	E C-21 IV 上	169.0	86.0	64.0	1,031.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	
	E I-25 IV				166.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	
	E J-15 IV	115.0	75.0	41.0	480.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	
	E K-26 IV	116.0	75.0	71.0	664.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	
95	包 A-V、IV	111.0	56.0	37.0	296.0		Ⅲ b	ス	1	—	
	E G-20 IV 上	122.0	59.0	52.0	479.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	
	E F-25 IV 下					砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
101	E I-24 II	77.0	35.0	27.0	91.0	頁	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E H-18 IV	150.0		74.0	1,114.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
						頁	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
97	E L-22 IV	199.0	81.0	74.0	1,440.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	D L-147					安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
103	E M-17 IV	147.0	99.0	46.0	804.0	頁	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E F-20 IV 上	(106.0)		27.0	( 275.0)	輝	Ⅲ b	ス	1	—	cハ、他のcス、 aタ1
		92.0	65.0	50.0	405.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
98	E F-23 IV	116.0	48.0	41.0	260.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E F-18 IV 上	141.0	58.0	35.0	422.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E N-19 IV 上	104.0	75.0	( 37.0)	( 297.0)	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	D M-15 IV	119.0	78.0	35.0	376.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
107	D P-25 IV	120.0	59.0	37.0	360.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E D-24 IV 下	99.0	53.0	33.0	244.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E L-25 II	154.0	69.0	30.0	424.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
85	E M-19 II	127.0	62.0	34.0	350.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aボ、aタ1
		77.0	44.0	17.0	100.0	頁	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
93	E L-24 II	82.0	45.0	22.0	108.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E N-22 IV 上	120.0	79.0	47.0	515.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
143	D K-16 I	89.0	70.0	54.0	407.0	安	Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E K-24 へ III						Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	E I-22						Ⅲ b	ス	1	—	aタ1
	<sup>3</sup> <sub>13</sub> D P-15 IV	136.0	71.0	64.0	( 578.0)	安	Ⅲ b	ス	1	—	cハ、aタ1
	D P-15 IV	96.0	51.0	42.0	282.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	cハ、aタ1
	E L-21 II	123.0	( 55.0)	57.0	( 454.0)	チャ	Ⅲ b	ス	1	—	cハ、aタ1
	包 A-I、IV	85.0	44.0	40.0	170.0	砂	Ⅲ b	ス	1	—	cハ、aタ1
	D M-23 IV	124.0		48.0	641.0	安	Ⅲ b	ス	1	○	
128	E M-18 IV 上					砂	Ⅲ b	ス	1	○	
	E M-20 IV 上	113.0		64.0	709.0		Ⅲ b	ス	1	○	
	E G-20 IV 上					安	Ⅲ b	ス	1	○	
136	D K-15 I	109.0	50.0	45.0	( 314.0)	輝	Ⅲ b	ス	1	○	
125	E M-19 II	137.0		50.0	726.0	安	Ⅲ b	ス	1	○	
133	E H-18 IV	110.0	62.0	40.0	314.0	安	Ⅲ b	ス	1	○	
	201風						Ⅲ b	ス	1	○	
	E L-18 IV						Ⅲ b	ス	1	○	
	E G-24 IV					安	Ⅲ b	ス	1	○	
119	E E-22 IV 下	131.0	79.0	54.0	746.0	安	Ⅲ b	ス	1	○	
	E G-21 IV 下	118.0	68.0	41.0	426.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○	
113	<sup>24</sup> <sub>26</sub> E K-24 へ ルト内	84.0	48.0	23.0	111.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○	



番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
	E E-22Ⅳ下	186.0	85.0	51.0	1,077.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
	E J-25Ⅳ				( 183.0)	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
131	E <sup>上</sup> ラ <sup>23</sup> 上 <sup>I</sup>	103.0	64.0	45.0	287.0	凝	Ⅲ b	ス	1	○		
134	D N-19Ⅰ	137.0	55.0	50.0	456.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○		
116	E L-19Ⅳ上	94.0	56.0	57.0	367.0	安	Ⅲ b	ス	1	○		
114		91.0	59.0	28.0	( 174.0)	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
	E <sup>上</sup> ケ <sup>21</sup> 内 <sup>23</sup> ル <sup>ト</sup>	(135.0)	77.0	48.0	( 554.0)	安	Ⅲ b	ス	1	○		
	E K-21Ⅳ	147.0	69.0	50.0	733.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
117	包 <sup>上</sup> A <sup>5</sup> 上 <sup>ベ</sup>	110.0	60.0	45.0	296.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○		
126	E G-19Ⅳ上	148.0	68.0	( 59.0)	( 688.0)	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
	E N-20Ⅳ上	103.0	( 50.0)	40.0	296.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
129	E F-24Ⅳ上	136.0	89.0	70.0	666.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○		
121	E H-18Ⅳ上	116.0	65.0	68.0	605.0	安	Ⅲ b	ス	1	○		
120	E H-19Ⅳ	114.0	61.0	50.0	474.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
132	D L-22Ⅳ	148.0	91.0	64.0	759.0	砂	Ⅲ b	ス	1	○		
	D L-17Ⅳ	(136.0)	( 61.0)	( 72.0)	( 633.0)	砂	Ⅲ b	ス	1	○		
	E C-22Ⅳ上	105.0	54.0	37.0	262.0	安	Ⅲ b	ス	1	○		
122	E I-23Ⅳ上	165.0	108.0	( 46.0)	( 947.0)	玢	Ⅲ b	ス	1	○		
	E K-24Ⅳ					砂	Ⅲ b	ス	1	○		cハ、cス
130	包A-Ⅶ、Ⅳ	58.0		33.0	226.0	輝	Ⅲ b	ス	1	○		cス+ハ
127	E <sup>上</sup> F <sup>15</sup> - <sup>上</sup> E <sup>上</sup> K <sup>27</sup>	145.0	48.0	39.0	355.0	玢	Ⅲ b	ス	1	○		cタ+ハ
118	E N-20Ⅳ上	130.0	82.0	58.0	792.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		cハ
		165.0		49.0	1,098.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
123		169.0		48.0	1,012.0	チャ	Ⅲ b	ス	1	○		
						安	Ⅲ b	ス	1	○		
	E H-26Ⅳ下	147.0	81.0	47.0	734.0	安	Ⅲ b	ス	1	○		
76	E M-23Ⅳ	127.0	91.0	43.0	( 573.0)	凝	Ⅲ b	ス	1	○		cタ+ハ、aタ1
154	E H-24Ⅳ	132.0		76.0	703.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
	包A-Ⅲ、Ⅳ					砂	Ⅲ b	ス	2	—		
	E C-25Ⅳ上	(151.0)		60.0	645.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
151	E <sup>上</sup> H <sup>19</sup> 上 <sup>上</sup> E <sup>上</sup> H <sup>20</sup>					安	Ⅲ b	ス	2	—		
155	E J-20Ⅳ	152.0	85.0	60.0	884.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
149	E K-22Ⅳ	169.0	96.0	50.0	1,060.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
138	E N-20Ⅳ上	96.0		48.0	433.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
153	E K-15Ⅳ	110.0	47.0	22.0	162.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
145	E K-21Ⅳ上	(104.0)	67.0	61.0	( 417.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—		
146	E L-25Ⅳ	112.0	72.0	79.0	758.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
	D <sup>上</sup> A <sup>Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ</sup> 上 <sup>上</sup> Q <sup>Ⅳ</sup> 包 <sup>上</sup> A <sup>Ⅱ、Ⅳ</sup>					砂	Ⅲ b	ス	2	—		
142	D N-16Ⅳ	138.0		36.0	474.0		Ⅲ b	ス	2	—		
139	E J-25Ⅳ	115.0		48.0	293.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
141	E J-17Ⅳ	121.0		( 50.0)	( 492.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—		
	A 4区					頁	Ⅲ b	ス	2	—		
150	E <sup>上</sup> E <sup>上</sup> 22Ⅳ <sup>上</sup> 217 <sup>上</sup> 、E <sup>上</sup> L <sup>上</sup> 23Ⅳ、E <sup>上</sup> N20Ⅳ上	156.0	79.0	55.0	( 856.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—		
156	E B-23Ⅳ上	147.0	54.0	45.0	473.0	閃	Ⅲ b	ス	2	—		
152	E H-26Ⅳ	128.0	83.0	71.0	933.0	チャ	Ⅲ b	ス	2	—		
148	D M-16	113.0	54.0	39.0	( 334.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—		
147	E F-26Ⅳ	125.0	67.0	63.0	654.0	チャ	Ⅲ b	ス	2	—		
140	E F-17Ⅳ	102.0	66.0	57.0	490.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
137	包A-Ⅶ、Ⅳ	89.0	58.0	38.0	234.0	安	Ⅲ b	ス	2	—		
144	E F-21Ⅳ下	118.0	63.0	38.0	346.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		bタ1
		147.0	62.0	67.0	890.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
104	E <sup>F</sup> -24Ⅳ E <sup>I</sup> -26Ⅳ	139.0	64.0	59.0	676.0	斑糲	Ⅲ b	ス	2	—		
	E K-20Ⅳ	108.0		56.0	476.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
110		138.0	64.0	55.0	( 564.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	—		
100	E E-25Ⅳ上	103.0	57.0	43.0	343.0	玢	Ⅲ b	ス	2	—		
	E P-23Ⅳ	137.0	72.0	84.0	( 900.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—		
	E K-19Ⅳ	121.0		54.0	413.0		Ⅲ b	ス	2	—	aタ1	
	E I-23Ⅴ	121.0	71.0	72.0	( 758.0)	安	Ⅲ b	ス	2	—	aタ1	
	E L-25Ⅱ	165.0		74.0	1,400.0	安	Ⅲ b	ス	2	—	aタ1	
	包A-4 ⅮⅣ c	182.0	76.0	67.0	1,220.0	砂	Ⅲ b	ス	2	—	aタ1	
	E K-22Ⅳ下	( 99.0)	62.0	62.0	( 407.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	—	aタ1	
	E M-20Ⅳ上	113.0		64.0	709.0		Ⅲ b	ス	2	○		
						砂	Ⅲ b	ス	2	○		
165	D L-17Ⅳ	150.0		52.0	756.0		Ⅲ b	ス	2	○		
		110.0		36.0	285.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
		129.0		43.0	389.0	チャ	Ⅲ b	ス	2	○		
163	E K-23Ⅰ	136.0		77.0	706.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
166	E J-23Ⅳ	141.0		33.0	416.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	E L-23Ⅵ	185.0		64.0	1,173.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	包A-Ⅰ、Ⅳ	149.0		59.0	( 641.0)		Ⅲ b	ス	2	○		
	包A-Ⅲ、Ⅳ	149.0	59.0	61.0	744.0	閃	Ⅲ b	ス	2	○		
	E M-21Ⅳ	113.0		45.0	389.0	礫	Ⅲ b	ス	2	○		
187	E <sup>L</sup> -25Ⅳ E <sup>F</sup> -22Ⅳ	115.0	70.0	62.0	( 400.0)	眞	Ⅲ b	ス	2	○		
195		147.0	68.0	57.0	726.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
194	E G-24Ⅳ上	146.0		77.0	1,260.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
192	E H-23Ⅳ	167.0	69.0	55.0	756.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
							Ⅲ b	ス	2	○		
157	E F-24Ⅳ	117.0		30.0	233.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
	包A-Ⅳ、Ⅳ	(107.0)	84.0	52.0	( 685.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	E K-22Ⅰ	111.0	73.0	62.0	660.0	チャ	Ⅲ b	ス	2	○		
	D O-19Ⅰ	148.0		47.0	673.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
164	包A-6 ⅮⅣ B	127.0		47.0	473.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
193	包A-Ⅲ	(172.0)	84.0	70.0	(1,133.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	E J-19Ⅳ	110.0	57.0	28.0	246.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
160	E A-Ⅳ	117.0		35.0	744.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
159	E J-22Ⅳ	150.0		43.0	604.0		Ⅲ b	ス	2	○		
	D K-17	114.0		47.0	421.0	安	Ⅲ b	ス	2	○		
170	E F-26Ⅳ	128.0	87.0	50.0	635.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	E I-Ⅳ B					安	Ⅲ b	ス	2	○		
162	E K-25Ⅱ	133.0		44.0	707.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
	E H-21Ⅳ上	181.0	88.0	55.0	1,130.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○		
186	E H-23Ⅱ	166.0	79.0	53.0	915.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
171	D Q-14Ⅳ	143.0	48.0	27.0	271.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
179	包A-4 ⅮⅣ c	177.0	78.0	64.0	1,187.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
	E J-19Ⅳ上					砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
189	D N-15Ⅰ	113.0	61.0	66.0	618.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
	A 4区	156.0	79.0	48.0			Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
174	E J-23Ⅳ上	139.0	72.0	77.0	( 823.0)	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
	E F-26Ⅳ	131.0	85.0	64.0	857.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
	包A-Ⅶ、Ⅳ					安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
180	D L-17Ⅳ	(162.0)	62.0	57.0	( 917.0)		Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	
169	E J-23Ⅳ	(211.0)		58.0	(1,580.0)	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複合
178		211.0	84.0	51.0	1,131.0	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	包A-Ⅶ、Ⅳ					砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EM-26Ⅳ						Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	DL-17Ⅳ	134.0		59.0	690.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
185	包A-Ⅶ、Ⅳ	176.0	85.0	64.0	(1,157.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
182	DJ-20Ⅳ	(134.0)	81.0	72.0	( 974.0)	チャ	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
184	EH-21Ⅳ上	142.0	70.0	65.0	730.0		Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
181	包V、Ⅳ	157.0	88.0	49.0	690.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
183	EM-19Ⅱ	160.0	85.0	56.0	1,118.0		Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EC-21Ⅳ上					砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
191	包A-Ⅲ	(175.0)	77.0	68.0	(1,039.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
175	EM-18Ⅳ上	130.0	57.0	38.0	316.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
173	EL-16Ⅱ	168.0	65.0	49.0	776.0	輝	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
177	EF-23Ⅳ上	144.0	78.0	55.0	725.0	輝	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
176	EH-18Ⅳ	168.0	86.0	39.0	711.0	眞	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
158	DN-16Ⅳ					安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EF-25Ⅳ上	(101.0)	58.0	35.0	( 307.0)	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
168	EF-24Ⅳ下	106.0	62.0	48.0	( 471.0)	砂	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
135	EH-18Ⅳ上					砂	Ⅲ b	ス	2	○	bタ、aケ2、aタ1
188	包A-5ベ	104.0	66.0	66.0	601.0	玢	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
190		104.0	63.0	64.0	526.0	閃	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
161	包AV、Ⅳ	142.0	64.0	61.0	655.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	DN-19Ⅰ	155.0	77.0	58.0	895.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
172	EH-26,18Ⅳ	125.0	59.0	57.0	628.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	包AⅣ、Ⅳ					安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
196	表探Ⅳ 包AⅢ、Ⅳ	164.0	73.0	67.0	(1,069.0)	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EH-19Ⅳ上	94.0	65.0	53.0	372.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EJ-22Ⅳ						Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
	EL-25Ⅱ	104.0	54.0	47.0	336.0	安	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
167	DN-14Ⅰ	(115.0)	63.0	51.0	( 464.0)	玄	Ⅲ b	ス	2	○	aタ1
199	DP-17Ⅳ	131.0	47.0	75.0	536.0	安	Ⅲ b	タ	1	—	
197	EL-24Ⅱ	104.0		20.0	161.0	安	Ⅲ b	タ	1	—	cタ
198	EK-19Ⅳ上	110.0	88.0	58.0	( 619.0)	チャ	Ⅲ b	タ	1	○	
203	EM-20Ⅳ上	92.0	56.0	41.0	242.0	チャ	Ⅲ b	タ	1	○	
	包AⅣ、Ⅳ						Ⅲ b	タ	1	○	
	ED-25Ⅳ						Ⅲ b	タ	1	○	
	包Ⅶ、Ⅳ						Ⅲ b	タ	1	○	
209	EG-18Ⅳ上	132.0	70.0	30.0	280.0	安	Ⅲ b	タ	1	○	c2
	EM-21Ⅳ	108.0	( 72.0)	46.0	( 477.0)	砂	Ⅲ b	タ	1	○	cタ+ハ
						安	Ⅲ b	タ	1	○	
	包AV、Ⅳ					安	Ⅲ b	タ	1	○	
	包A7Ⅳ	107.0	52.0	37.0	222.0	砂	Ⅲ b	タ	1	○	cタ、aタ1
	EF-19Ⅳ					砂	Ⅲ b	タ	1	○	cハ、aタ1
	ED-21Ⅳ上	100.0	49.0	38.0	223.0	眞	Ⅲ b	タ	2	○	aタ1
210	EJ-23Ⅳ	125.0	54.0	28.0	266.0	砂	Ⅲ b	タ	2	○	aタ1
200	EH-23Ⅳ	138.0	56.0	36.0	361.0	砂	Ⅲ b	タ	2	○	aタ1
		170.0	78.0	42.0	854.0		Ⅲ b	タ	2	—	aタ1
202	EG-21Ⅳ	94.0	48.0	44.0	285.0	眞	Ⅲ c	ス		○	
207	DM-20Ⅱ	( 84.0)	46.0	28.0	( 144.0)	砂	Ⅲ c	タ		—	
	EH-20Ⅳ下				( 130.0)	砂	Ⅲ c	タ		—	
208	EL-23Ⅳ	82.0	46.0	22.0	100.0	安	Ⅲ c	タ		—	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
206	E E-20Ⅳ下	131.0	61.0	36.0	379.0	砂	Ⅲc	タ		—		
201	E K-21、22	80.0	55.0	27.0	145.0	砂	Ⅲc	タ		—		
205	E C-21Ⅳ上	119.0	49.0	58.0	( 344.0)	安	Ⅲc	タ		—		
	E F-22Ⅳ						Ⅲc	タ		—		
	E D-21Ⅳ下						Ⅲc	タ		—		
	D O-18Ⅳ	171.0	56.0	31.0	517.0		Ⅲc	タ+ス		—	d1、タ	
211	包A-Ⅱ、Ⅳ					輝	Ⅲc	タ		○	dタ1	
	包A-Ⅶ、Ⅳ						Ⅲc	タ		○		
	DM-20Ⅱ	( 84.0)	46.0	28.0	( 144.0)	砂	Ⅲc	ハ		—		
	包A-Ⅶ、Ⅳ						Ⅲc	ハ		—		
	E K-21、3ベ						Ⅲc	ハ		—		
	E F-21ベⅣ 下の上						Ⅲc	ハ		—		
	D-14Ⅱ						Ⅲc	ハ		—		
	E L-15Ⅳ下	(179.0)	52.0	22.0	( 337.0)	粘	Ⅲc	ハ		—		
	E D-21Ⅳ下						Ⅲc	ハ		—		
	D-14Ⅱ						Ⅲc	ハ		—		
	E F-20ベ Ⅳ下の上						Ⅲc	ハ		—		
	E K-21-23 ベルト内						Ⅲc	ハ		—		
214	E D-26Ⅳ						Ⅳa	ケ	1	—		
	E L-22Ⅳ						Ⅳa	ス	2	—	aタ1	
	D L-17Ⅳ						Ⅳa	ス		—	bタ、aタ1	
233	E H-18Ⅱ上	112.0	59.0	56.0	521.0		Ⅳa	ター	1	—		
225	包A-7Ⅳ	87.0	64.0	33.0	236.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
222	D P-16Ⅰ	70.0	65.0	40.0	231.0	凝	Ⅳa	タ	1	—		
	D N-14Ⅳ	47.0	79.0	38.0	192.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	包A-Ⅷ、Ⅳ	77.0	58.0	56.0	218.0	ホ	Ⅳa	タ	1	—		
	E F-22ベⅣ下	68.0	66.0	36.0	218.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	包A-Ⅶ、Ⅳ	109.0	64.0	55.0	434.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	D O-26	(125.0)	( 41.0)	( 29.0)	( 187.0)	砂	Ⅳa	タ	1	—		
218	D P-20Ⅳ	60.0	44.0	18.0	55.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
223	D L-13Ⅰ	75.0	52.0	41.0	174.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
230	E J-15Ⅳ	( 98.0)	87.0	49.0	( 542.0)	安	Ⅳa	タ	1	—		
	E G-Ⅳ上	100.0	110.0	76.0	1,012.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
227	包A-7Ⅳ	95.0	71.0	39.0	296.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
224		72.0	67.0	31.0	180.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	E H-20Ⅳ	74.0	77.0	41.0	329.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
235	E H-21Ⅳ上	129.0	77.0	51.0	578.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
216	包A-Ⅶ、Ⅵ	64.0	36.0	31.0	90.0	凝	Ⅳa	タ	1	—		
	E G-18Ⅳ	125.0	83.0	65.0	932.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	包A-4 Ⅳ上	71.0	( 60.0)	41.0	( 225.0)	凝	Ⅳa	タ	1	—		
215	D S-9Ⅱ	( 83.0)	51.0	51.0	( 241.0)	凝	Ⅳa	タ	1	—		
	E L-22Ⅳ	73.0	88.0	44.0	313.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	表採	88.0	70.0	43.0	372.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
	E K-19、20Ⅳ	80.0	52.0	51.0	( 267.0)	砂	Ⅳa	タ	1	—		
217	E L-19Ⅳ上	96.0	41.0	30.0	164.0	チャ	Ⅳa	タ	1	—		
	D M-23Ⅳ	118.0	66.0	47.0	517.0	チャ	Ⅳa	タ	1	—		
234	E H-21Ⅳ	91.0	102.0	69.0	( 672.0)	安	Ⅳa	タ	1	—		
226	D R-20Ⅳ	86.0	70.0	54.0	520.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
228	包A-Ⅳ、Ⅳ	99.0	59.0	32.0	273.0	安	Ⅳa	タ	1	—		
231	包A-3Ⅳc	( 69.0)	(113.0)	( 65.0)	( 445.0)	安	Ⅳa	タ	1	—		
236	包A-Ⅲ、Ⅳ	( 96.0)	( 86.0)	45.0	( 266.0)	スコ	Ⅳa	タ	1	—		

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複 合
	DO-21Ⅳ	91.0	( 59.0)	53.0	( 419.0)	安	Ⅳ a	タ	1	—	
							Ⅳ a	タ	1	—	
	DL-17Ⅳ	134.0	59.0		690.0	安	Ⅳ a	タ	1	—	
	包A-Ⅶ、Ⅳ S-287						Ⅳ a	タ	1	—	
	包A-Ⅴ、Ⅳ S-10						Ⅳ a	タ	1	—	
	包A-617 S-						Ⅳ a	タ	1	—	
	包A-Ⅶ、Ⅳ S-410						Ⅳ a	タ	1	—	
221	包A-Ⅶ、Ⅳ	80.0	63.0	40.0	257.0	凝	Ⅳ a	タ	2	—	
242	包A-Ⅳ	82.0	69.0	30.0	226.0	安	Ⅳ b	ス	1	—	cタ+ハ
232	EE-25Ⅳ下	145.0	59.0	26.0	292.0	砂	Ⅳ b	ス	1	○	cス+ハ、aタ1
263	EN-18Ⅱ	108.0	79.0	50.0	529.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EL-21Ⅱ	90.0	60.0	( 40.0)	( 244.0)	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
246		103.0	73.0	52.0	527.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
264	A 区	95.0	51.0	36.0	226.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
271	包A-Ⅳ	90.0	71.0	46.0	343.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EF-20Ⅳ	71.0	66.0	33.0	191.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	DP-25Ⅳ	88.0	55.0	33.0	215.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
270	EG-18Ⅳ上	84.0	98.0	60.0	586.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
256	包A-Ⅶ	76.0	58.0	35.0	219.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
272	包A-Ⅵ、Ⅳ	118.0	86.0	53.0	738.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EJ-17Ⅳ	103.0	62.0	41.0	320.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	A 区	83.0	92.0	42.0	( 399.0)	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
266	EF-18Ⅳ	( 85.0)	( 68.0)	27.0	( 212.0)	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
262	包A-Ⅶ、Ⅳ	83.0	65.0	47.0	( 322.0)	凝	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
255	EL-22Ⅳ	97.0	67.0	40.0	340.0	チャ	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
245	EE-20Ⅳ下	96.0	54.0	41.0	323.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
265	包A-Ⅳ	118.0	75.0	49.0	572.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EF-19Ⅳ上	113.0	101.0	57.0	922.0	チャ	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EI-20Ⅳ上	146.0	108.0	67.0	(1,074.0)	砂	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
244	EL-18Ⅳ上	106.0	63.0	43.0	355.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
	EM-18Ⅱ	124.0	111.0	72.0	1,210.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	aタ1
267	EH-26Ⅳ	100.0	( 71.0)	56.0	( 592.0)	安	Ⅳ b	スー	1	—	
257	DP-17Ⅰ	71.0	52.0	47.0	240.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	
273	包A-Ⅳ、Ⅳ	126.0	104.0	47.0	818.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	
	EJ-9Ⅳ						Ⅳ b	スー	1	—	
	包A-Ⅶ、Ⅳ						Ⅳ b	スー	1	—	
	包A-Ⅳ、Ⅳ						Ⅳ b	スー	1	—	
240	EK-24、26 ベルト内	58.0	68.0	50.0	263.0	チャ	Ⅳ b	スー	1	—	
	EJ-21Ⅳ	82.0	43.0	53.0	226.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	
252	EL-18Ⅳ上	80.0	48.0	39.0	222.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	
243	A地区表採	85.0	66.0	53.0	415.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	
253	DM-19	77.0	70.0	50.0	292.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	
251	包A-7Ⅳ	63.0	57.0	38.0	179.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	
254	DR-13Ⅳ	84.0	61.0	31.0	185.0	安	Ⅳ b	スー	1	—	
237	EK-15Ⅳ	59.0	45.0	27.0	87.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	
260	EF-18Ⅳ上	85.0	58.0	40.0	279.0	チャ	Ⅳ b	スー	1	—	
238	EH-18Ⅳ	59.0	39.0	34.0	96.0	凝	Ⅳ b	スー	1	—	
259	EJ-15Ⅳ	76.0	64.0	26.0	128.0	砂	Ⅳ b	スー	1	—	
241	EG-21Ⅳ下					チャ	Ⅳ b	スー	1	—	
	EJ-20Ⅳ						Ⅳ b	スー	1	—	
247		60.0	62.0	50.0			Ⅳ b	スー	1	—	

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重 (g)	石質	分類	類	度	h	複	合
	EM-19IV上		477.0			チャ	IVb	スー	1	○		
	包A-IV、IV	( 97.0)	60.0	( 58.0)	( 404.0)	チャ	IVb	スー	1	○		
	EE-20IV下	72.0	68.0	40.0	215.0	チャ	IVb	スー	1	○		
	EF-20IV	( 66.0)	54.0	38.0	( 183.0)	砂	IVb	スー	1	○		
249	EK-22IV	84.0	( 75.0)	( 68.0)	( 509.0)	チャ	IVb	スー	1	○		
	DO-21IV				418.0	チャ	IVb	スー	1	○		
	DQ-15IV	(107.0)	( 64.0)	( 52.0)	( 464.0)	チャ	IVb	スー	1	○		
239	EK-24 <sup>24</sup> ・ <sup>26</sup> ボルト内	70.0	66.0	54.0	306.0	チャ	IVb	スー	1	○		
		63.0	39.0	29.0	83.0	鉄石	IVb	スー	1	○		
	EG-21IV下	63.0	70.0	42.0	235.0	チャ	IVb	スー	1	○		
	DN-19				( 145.0)	鉄石	IVb	スー	1	○		
	包A-VI、IV				270.0	チャ	IVb	スー	1	○		
250	包A-VI、IV	( 79.0)	( 66.0)	44.0	( 283.0)	チャ	IVb	スー	1	○		
248	ED-21IV上	83.0	64.0	43.0	285.0	ホ	IVb	スー	1	○		
	EG-21IV	( 54.0)	( 52.0)	( 36.0)		チャ	IVb	スー	1	○		
	EH-26N			(563.0)		チャ	IVb	スー	1	○		
	EL-24N			(283.0)	283.0	チャ	IVb	スー	1	○		
261	EH-22N	87.0	( 62.0)	46.0		チャ	IVb	スー	1	○		
258	DP-17IV	79.0	48.0	38.0	182.0	安	IVb	スー	1	○		
	EF	73.0	62.0	36.0	216.0	砂	IVb	スー	1	○		
	包A-VII、IV				( 658.0)	チャ	IVb	スー	1	○		
	EL-24IV下					チャ	IVb	スー	1	○		
	EH-20N						IVb	スー	1	○		
		83.0	75.0	33.0	291.0	砂	IVb	スー	1	○		
269	EE-20IV上	95.0	71.0	47.0	( 402.0)	輝	IVb	スー	1	○		
	包A-3IVb	102.0	( 76.0)	28.0	( 253.0)	輝	IVb	スー	1	—		
	EH-20IV	68.0	54.0	34.0	198.0	チャ	IVb	タ	1	—		
229	DL-21IV	88.0	( 75.0)	( 52.0)	( 449.0)	貞	IVb	タ	1	—	cタ、aタ1	
293	DD-26	110.0	61.0	40.0	391.0	砂	IVb	タ	1	—	cタ、aタ1	
	EF	73.0	62.0	36.0	216.0	砂	IVb	タ	2	○	cタ+ハ	
	EJ-15IV						IVc	スー		○		
	DM-11I						IVc	スー		○		
	EM-21IV						IVc	スー		○		
	EG-25IV						IVc	スー		○		
	DP-13I				( 320.0)	安	IVc	スー		○		
	包A-S53						IVc	スー		○		
	包A-V、III	78.0	57.0	54.0	648.0	砂	IVc	スー		○		
	ED-25IV下	58.0	58.0	45.0	168.0	チャ	IVc	スー		—		
287	包A-V、IV	85.0	68.0	44.0	304.0	チャ	IVc	スー		—		
	DQ-11IV	78.0	71.0	66.0	480.0	チャ	IVc	スー		—		
294	EM-23IV	138.0	81.0	73.0	1,114.0		IVc	スー	ハ	—	他cタ	
	包A-IV、IV						IVc			—	aボ	
	EF-21IV	98.0	87.0	55.0	477.0	チャ	IVc	ター	ス	—		
	EL-20IV	(112.0)	91.0	56.0	( 577.0)	安	IVc	ター	ス	—		
283	包A-V、IV	66.0	43.0	29.0	( 89.0)	凝	IVc	ター	ス	—		
277	包A-7IV	62.0	59.0	38.0	( 182.0)	チャ	IVc	ター	ス	—		
296	包A	109.0	86.0	50.0	602.0	チャ	IVc	ター	ス	—		
	EH-21IV上	108.0	73.0	46.0	429.0	貞	IVc	ター	ス	—		
278	EM-18IV上	67.0	54.0	37.0	164.0	チャ	IVc	ター	ス	—		
286	EA-18I	65.0	54.0	44.0	244.0	安	IVc	ター	ス	—		
	EH-21IV	( 74.0)	65.0	51.0	( 300.0)	安	IVc	ター	ス	—		



番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	類	度	h	複	合
	E J-24Ⅳ	62.0	49.0	23.0	87.0	安	Ⅳc	タース		—		
276	D Q-20Ⅰ	82.0	60.0	40.0	286.0	安	Ⅳc	タース		—		
280	E C-20Ⅳ上	81.0	54.0	35.0	164.0	安	Ⅳc	タース		—		
279	E H-26Ⅳ	63.0	38.0	31.0	81.0	安	Ⅳc	タース		—		
	D P-16Ⅰ	74.0	63.0	46.0	322.0	安	Ⅳc	タース		—		
274	包A-Ⅱ、Ⅳ	(96.0)	59.0	55.0	(450.0)	安	Ⅳc	タース		—		
	包A-Ⅳ D P-14Ⅳ				(230.0)	安	Ⅳc	タース		—		
281	D R-14Ⅱ	82.0	65.0	52.0	456.0	安	Ⅳc	タース		—		
	E N-21Ⅳ						Ⅳc	タース		—		
	E J-22Ⅳ						Ⅳc	タース		—		
	D T-15						Ⅳc	タース		—		
	D Q-24Ⅳ						Ⅳc	タース		—		
	包A-Ⅶ、Ⅳ						Ⅳc	タース		—		
289	E H-21Ⅳ下	73.0	86.0	59.0	456.0	チャ	Ⅳc	タース		—		
	包A-Ⅶ、Ⅳ	79.0	64.0	59.0	(323.0)	凝	Ⅳc	タース		—		
275	E K-19、20Ⅳ	77.0	40.0	39.0	191.0	チャ	Ⅳc	タース		—		
	包A-17Ⅳ	54.0	30.0	19.0	38.0	安	Ⅳc	タース		—		
	包A-Ⅲ、Ⅳ	(76.0)	(88.0)	44.0	(327.0)	チャ	Ⅳc	タース		○		
	D K-15Ⅱ	(61.0)	(91.0)	(47.0)	(251.0)	チャ	Ⅳc	タース		○		
	包A-Ⅳ E F-21 D N-17	88.0	67.0	43.0	271.0	チャ	Ⅳc	タース		○		
	E D-24Ⅳ下	85.0	76.0	50.0	392.0	凝	Ⅳc	タース		—	aタ1	
282	E N-22Ⅳ	60.0	42.0	29.0	112.0	凝	Ⅳc	タース		—	aタ1	
288	包A-Ⅴ、Ⅳ	86.0	71.0	49.0	375.0	安	Ⅳc	タース		—	aタ1	
284	包A-Ⅶ、Ⅳ	75.0	71.0	35.0	228.0	安	Ⅳc	タース		—	aタ1	
285	包A-Ⅵ、Ⅳ	71.0	75.0	38.0	285.0	安	Ⅳc	タース		—	aタ1	
290	D N-22Ⅳ	84.0	85.0	46.0	449.0	安	Ⅳc	タース		—	aタ1	
291	包A-Ⅵ、Ⅳ	114.0	70.0	35.0	385.0	砂	Ⅳc	タース		—	aタ1	
292	E K-21Ⅳ					安	Ⅳc	タース		—	aタ1	
297	D L-25Ⅳ	92.0	68.0	45.0	353.0	安	Ⅳc	ハ		—	aタ1	
295	E E-23Ⅳ上	150.0	88.0	57.0	891.0	チャ	Ⅳc	ハ		—	aタ1	
	E J-26Ⅳ						Ⅳc	ハ		—	aタ1	

### 13. 石 皿

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類
1	包A-Ⅳ E K-24 D N-17上	(114.0)	(105.0)	(86.0)	(1,158.0)	安	I a
2	E L-25Ⅳ上	(224.0)	(118.0)	(98.0)	(2,630.0)	安	I a
3	E L-20Ⅳ上	(142.0)	(106.0)	(73.0)	(1,480.0)	砂	I a
4	E L-24	(194.0)	(165.0)	89.0	2,820.0	安	I a
5	E J-22Ⅳ上	(216.0)	159.0	(81.0)	(3,160.0)	安	I a
7	E H-24Ⅳ上	304.0	160.0	83.0	4,170.0	安	I a
19	E L-19Ⅳ上				(1,470.0)	安	I a
	E F-19Ⅳ上				(2,190.0)	閃	I a
					(7,560.0)	安	I a
6	E L-19Ⅳ上	(138.0)	(106.0)	78.0	(751.0)	安	I b
8	E F-19Ⅳ上	(177.0)	(103.0)	(142.0)	(3,130.0)	安	I b
9	包A-Ⅳ、Ⅳ	171.0	105.0	90.0			I b
					2,510.0	閃	I b
					(4,840.0)	安	I b
11	E E-20Ⅳ下	(141.0)	(117.0)	(56.0)	(1,390.0)	安	II a
13	E M-21Ⅳ上	(260.9)	(187.0)	(60.0)	3,830.0	砂	II a
14	E B-25Ⅳ下	(260.0)	164.0	(40.0)	(2,390.0)	粘	II a
15	E C-22Ⅳ上	(318.0)	(189.0)	(62.0)	(4,680.0)		II a

番号	出土位置	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 質	分 類
					(6,280.0)	輝	Ⅱ a
	E K-25 ベルトIV下	( 57.0)	( 57.0)	( 36.0)	( 185.0)	頁	Ⅱ a
	I 層	(164.0)	(150.0)	( 33.0)	(1,240.0)	安	Ⅱ a
	DO-26	(138.0)	( 82.0)	( 58.0)	( 669.0)	砂	Ⅱ a
					(3,600.0)		Ⅱ a
10	E A S-X	226.0	152.0	83.0	3,680.0	チ ヤ	Ⅱ' a
16	E M-21IV上	(212.0)	(162.0)	( 78.0)	(3,840.0)	安	Ⅱ' a
17	E L-16IV上	(148.0)	(126.0)	( 76.0)	(1,590.0)	安	Ⅱ' a
18	D J-24IV	(235.0)	(138.0)	( 92.0)	(3,810.0)	安	Ⅱ' a
	E F-19IV上	(123.0)	( 67.0)	( 48.0)	( 271.0)	砂	Ⅱ' a
	E L-16IV上	(170.0)	(156.0)	( 78.0)	2,810.0	安	Ⅱ' a
	E M-18IV上	(209.0)	(127.0)	118.0	(4,300.0)	安	Ⅱ' a
	DO-11	(120.0)	(117.0)	( 74.0)	(1,370.0)	安	Ⅱ' a
20	D K-14Ⅱ	292.0	173.0	88.0			Ⅱ b
21	包A-Ⅳ、Ⅳ	231.0	122.0	85.0	266.0	凝	Ⅱ b
22	E I-20IV	(184.0)	(103.0)	( 79.0)	(1,014.0)		Ⅱ b
	包A ベルト ⅣB	(175.0)	155.0	51.0	(1,690.0)	砂	Ⅱ b
	E B-25IV上				(4,900.0)		Ⅱ' b
	包A-V~Ⅳ	(146.0)	121.0	( 92.0)	2,250.0	砂	Ⅱ' b
					(3,340.0)	安	Ⅱ' b
23	包A-Ⅳ ベルトⅣC	(103.0)	( 85.0)	( 70.0)	334.0	多 安	Ⅲ a
24	E C-26IV上	(112.0)	( 79.0)	( 51.0)	( 316.0)		Ⅲ a
25	D L-22Ⅱ	226.0	210.0	73.0	4,070.0	砂	Ⅲ a
26		(190.0)	(111.0)	41.0	( 828.0)	安	Ⅲ a
27	E G-20IV上	(182.0)	(112.0)	42.0	(1,062.0)	安	Ⅲ a
28	D N-21IV	( 96.0)	( 90.0)	( 45.0)	( 314.0)	多 安	Ⅲ a
29	E G-21IV	(104.0)	(101.0)	( 68.0)	( 383.0)	多 安	Ⅲ a
30	E E-26IV上	(214.0)	(127.0)	( 35.0)	(1,100.0)	安	Ⅲ a
31	E N-19IV上	(217.0)	139.0	47.0	(1,250.0)		Ⅲ a
32	E J-25IV	(171.0)	(109.0)	( 87.0)	( 766.0)	多 安	Ⅲ a
33	E D-21Ⅰ	179.0	129.0	81.0	1,310.0	多 安	Ⅲ a
34	包A-Ⅳ	(137.0)	( 79.0)	( 75.0)	1,136.0	安	Ⅲ a
35	201号風倒木痕	(154.0)	107.0	62.0	(1,210.0)	安	Ⅲ a
	E M-18IV上				1,320.0	安	Ⅲ a
	D P-14IV 包A-V、Ⅳ	(114.0)	( 87.0)	24.0	( 246.0)	砂	Ⅲ a
36	包A-Ⅰ、Ⅳ	(131.0)	(109.0)	( 62.0)	( 914.0)	多 安	Ⅲ b
37	D L-13Ⅰ	( 77.0)	( 67.0)	( 33.0)	( 119.0)	砂	Ⅳ
38	包A-Ⅶ、Ⅳ	( 70.0)	( 66.0)	( 46.0)	145.0	砂	Ⅳ
39	包A-Ⅳ、Ⅳ	(119.0)	( 83.0)	54.0	( 446.0)	砂	Ⅳ
40	E A-24Ⅱ	( 68.0)	( 47.0)	24.0	( 80.0)	凝	Ⅳ
41	包A-Ⅳ、Ⅵ	(101.0)	( 70.0)	( 43.0)	( 209.0)		Ⅳ
42	E J-26IV	( 74.0)	( 67.0)	( 36.0)	( 160.0)	凝	V
43	包A-Ⅳ、Ⅳ	( 95.0)	( 88.0)	( 30.0)	( 266.0)	砂	V
44	包A-Ⅳ、Ⅳ	(114.0)	(105.0)	( 83.0)	( 507.0)	多 安	V
46	D R-14Ⅱ	(117.0)	(119.0)	( 49.0)	( 856.0)	凝	V
45	E K-19IV上	( 65.0)	( 63.0)	( 31.0)	( 111.0)	砂	

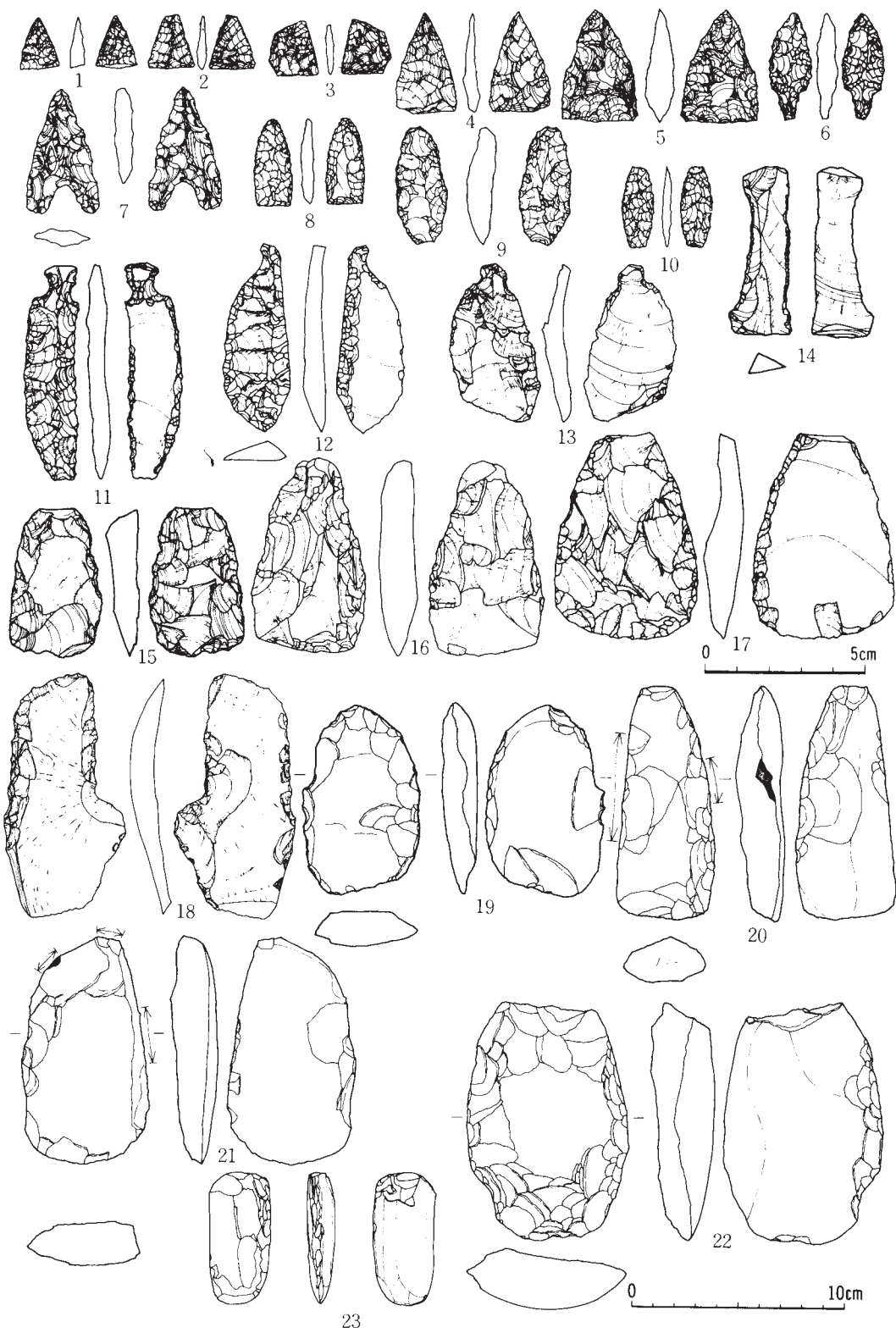


図273 土師器を伴う遺構内出土石器

表26 土師器を伴う遺構内出土石器計測表

石 鏃

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	世 質	分 類	長幅比
1	1 H 1	16	13	5	0.6	珪 頁	欠	I
2	<sup>1</sup> H Pit <sup>2</sup> フラ土	(17)	14	3	(0.4)	珪 頁	A 2	
3	<sup>1</sup> H Pit <sup>2</sup> フラ土	(17)	(16)	3	(0.7)	黒	A 2	
4	12号竪穴 (5 H)	31	19	4	1.9	珪 頁	A 2	I
5	1 H 1	35	24	9	6.2	珪 頁	A 2	I
6	1 H 1	34	13	7	2.4	珪 頁	有形鏃	II
7	1 H 1	39	23	6	3.8	珪 頁	B 5	I
8	1 H 1	27	12	4	1.3	珪 頁	B 2	II
9	<sup>14</sup> 床 H 直	37	17	8	4.7	珪 頁	C 4	II
10	<sup>14</sup> 床 H 直	25	10	3	0.8	珪 頁	B 3	II

石 匕

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類	1	2	3	4	5
11	1 H 9	68	17	7	7.6	珪 頁	A I a 1	L	R	M	L	
12	12号竪穴 (5 H)	59	22	7	8.2	珪 頁	A II b 2	R	L	R	L	R
13	<sup>2</sup> 床 H 面	49	28	7	7.7	珪 頁	A IV b 2			L		R

直刃斧・石鏃類

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類
15	<sup>1</sup> Pit内 H	47	29	10	15.8	K	I a
16	1 H	16	34	15	32.4	珪 頁	I a
17	12号竪穴	65	12	12	33.3	珪 頁	I b

不定形石器

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類
14	1 H	53	20	6	6.4	珪 頁	
18	<sup>1</sup> H Pit <sup>1</sup> フラ土	115	57	11	80.5	珪 頁	

磨製石斧

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類	残存部位	磨 滅 ・ 敲 打 痕
23	<sup>1</sup> フラ土 H	69	29	12	31	頁	I	—	

打製石斧

番号	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石 質	分 類	残存部位	磨 滅 ・ 敲 打 痕	刃部裏 の剝離
19	1 H 1	89	55	16	103	安	V		1 dマ	○
20	<sup>2</sup> 床 H 直	110	46	21	142	輝	V		1 a b d gマ	—
21	<sup>1</sup> フラ土 H	107	59	20	191	砂	V		1 a cマ 3g/ハは歯つぶし?	—
22	<sup>1</sup> H Pit <sup>2</sup> フラ土	(113)	75	29	(312)	輝	IV	1下	1 b dマ	○

#### (4) 有孔土製品と円盤状土製品

孔の有無を問わず、土器片を利用して円盤状に加工した土製品は23点出土した。この内訳は、中央部に直径3.2cm～5.3cmの孔を有したものが18点、孔を開ける途中のものが1点、孔をもたないものが4点である。

孔を有するもの及び孔を開ける途中段階のものを有孔土製品、孔をもたないものを円盤状土製品として以下にそれぞれ述べる。

出土分布及び出土層位は 群土器と重複する。

有孔土製品：(図274、図275 - 1～6、9～11、12)

いずれも深鉢形土器の体部片を加工したものである。加工は、側縁の打ち欠きによって行われたもので、その後に研磨はされていない。

中央部の孔は、主に縄文の施された表面から開けられ、後に裏面の方向から調整されている。

表面の文様、胎土、裏面の調整痕はすべて 群土器と一致し、それ以外の土器で加工されたものは無い。

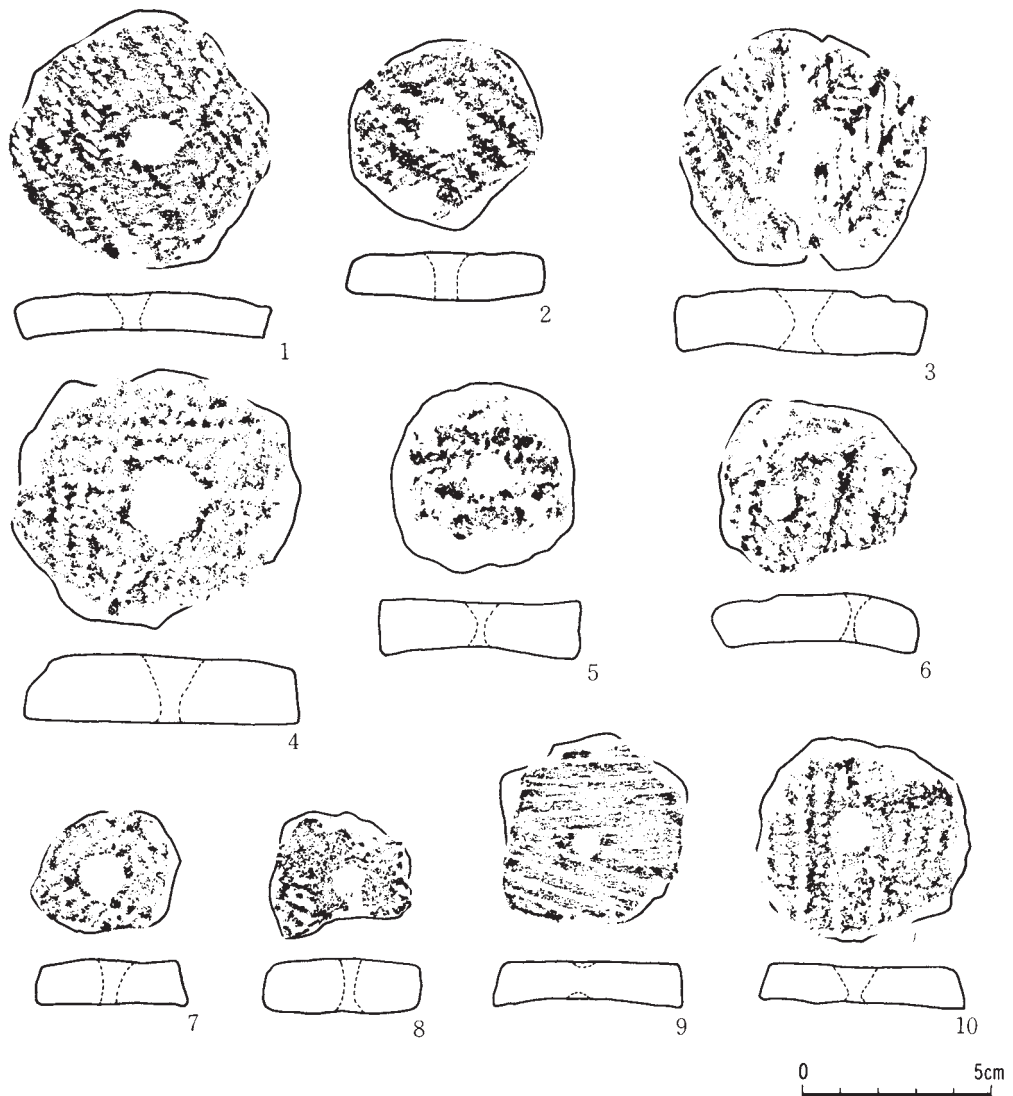
図274 - 9は、両面穿孔段階の浅いくぼみがある。

円盤状土製品：(図275 - 7、8、10、13)

有孔土製品と類似する大きさで、しかも側縁を打ち欠くことによって成形したものであるが孔が開けられていないものである。これも、深鉢型土器の体部片を利用している。

表面の文様、胎土、裏面の調整痕は、有孔土製品と同様、 群土器と一致する。

(三浦 圭介)

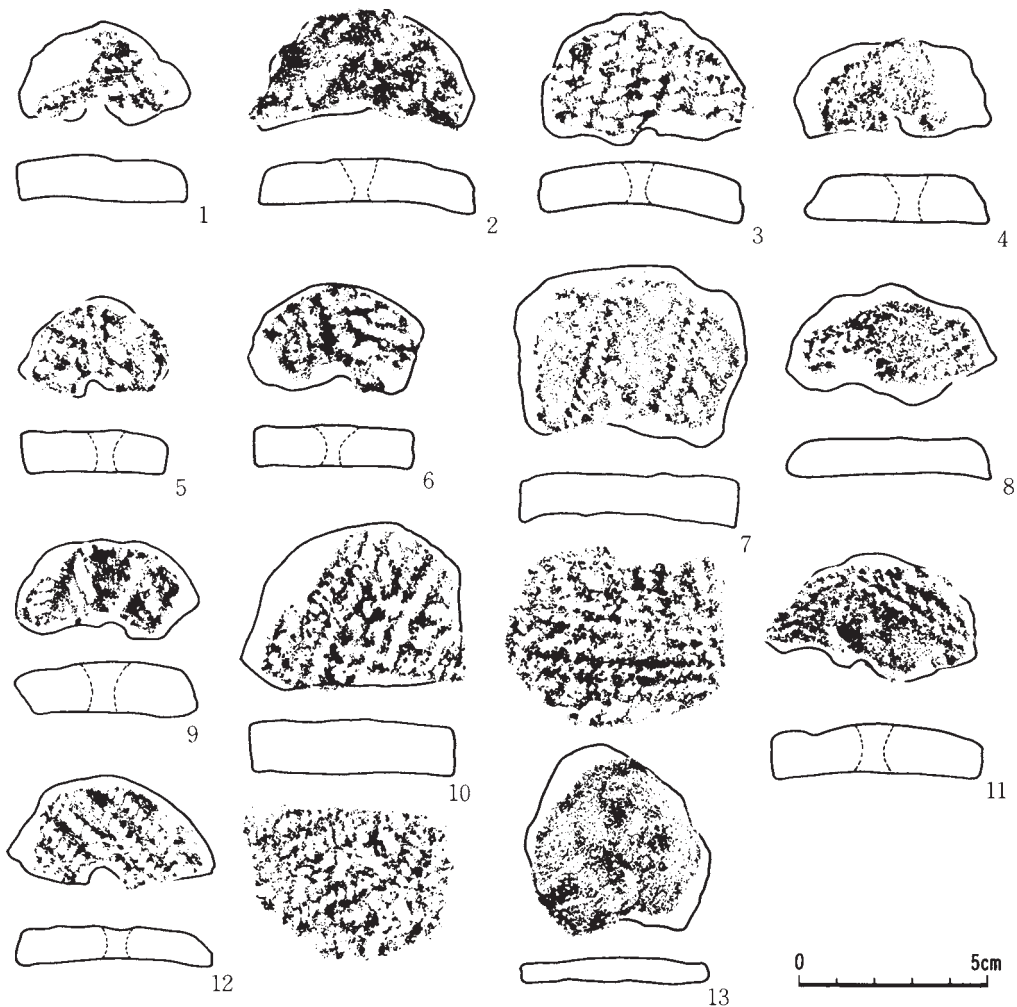


有孔土製品観察表

土器	地区・層位	大きさ(cm)	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	205H II層	6.8×6.7	L R 縄文	指頭押痕	P 262
2	ED-24 IV下層	5.2×5.0	L R 縄文	指頭押痕	P 2451
3	EL-22 IV層	6.5×6.2	直前段合燃	指頭押痕	P 1501
4	EL-20 II層	6.9×7.4	直前段合燃	指頭押痕	P 1502
5	EL-24 IV上層	4.9×4.8	直前段合燃	指頭押痕	P 1503
6	DP-20 I層	4.2×5.3	直前段合燃	指頭押痕	P 1504
7	EJ-18 IV下層	3.2×3.9	縄文	指頭押痕	P 1506
8	EL-23 I層	(2.8)×3.6	縄文	指頭押痕	P 4
9	EE-26 IV下層	4.9×4.7	絡条体回転文	指頭押痕	P 2416
10	4H II層	5.3×5.7	R L 縄文	指頭押痕	P 11

図274 有孔土製品(1)





有孔土製品及び円盤状土製品観察表

土器	地区・層位	大きさ(cm)	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	EL-22 IV層	(2.7)×4.6	○段多条RL縄文	指頭押痕	P 1513
2	205H II層	(2.6)×5.6	直前段合燃	指頭押痕	P 93
3	不明 IV層	(3.2)×5.3	RL縄文	指頭押痕	P一括
4	ED-24 IV下層	(2.3)×5.1	縄文	指頭押痕	P 2303
5	EK-22 I層	(2.5)×4.1	LR縄文	指頭押痕	P 1507
6	EK-24 I層	(2.5)×4.4	LR縄文	指頭押痕	P 1508
7	EM-19 II層	4.3 × 6.0	直前段合燃	縄文	P 1509
8	205H II層	(3.0)×5.6	直前段合燃	指頭押痕	P 93
9	EL-25 IV層	(2.5)×5.0	直前段合燃	指頭押痕	P 1510
10	EL-19 IV層	4.3 × 5.4	直前段合燃	縄文	P 1511
11	EF-24 IV層	(3.2)×5.5	直前段合燃	指頭押痕	P 1512
12	205H I層	(2.4)×5.6	RL縄文	指頭押痕	P 236
13	EB-25 IV下層	4.8 × 4.7	無文	指頭押痕	P 2599

図275 有孔土製品及び円盤状土製品(2)

## 第 章 平安時代の遺構と出土遺物

### 第 1 節 住居跡と出土遺物

平安時代の住居跡は、3軒(1・2・14号)検出した。これらは、すべて第一次調査の際検出したものである。第二次調査は縄文時代早期から前期初頭の遺物を包含する標準土層 層からであり、歴史時代の遺構はなかった。

遺構からの出土遺物は土師器がほとんどであり、須恵器が若干混じる程度である。覆土中には縄文時代の遺物も含まれているが、これは住居廃棄後落ち込んだものである。

住居跡の構築時期は、出土した土師器の製作上の諸特徴から10世紀から11世紀にかけての時期と推定される。

#### 1号住居跡

位置と確認 DM・DN-13、DM・DN・DO-14、DM・DN-15グリット 層上面で、方形の落ち込みを確認した。

平面形 長径5.5m、短径4.9mの隅丸方形を呈する。

重複 多くの遺構と重複関係にある。10、11、13号住居跡、8号土壇、更に20、23、24、28号溝状ピット等を切っている。これらの遺構群の中で最も新しい時期のものである。

壁・床面 壁の残存状態は良好で、壁高は東壁12~20cm、西壁40~50cm、南壁28~40cm、北壁19~38cmである。床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は比較的平坦でかたくしまり、特にかまど周辺がかたい。

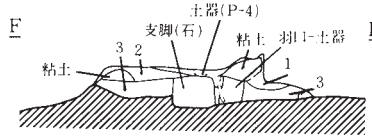
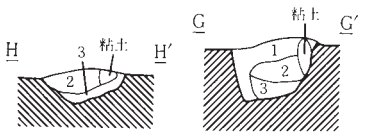
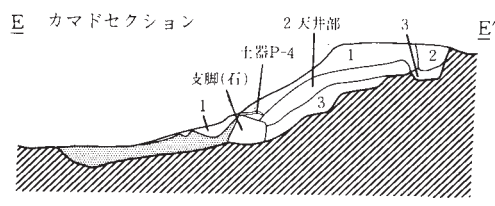
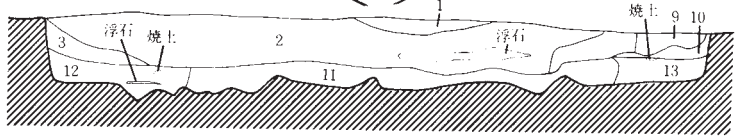
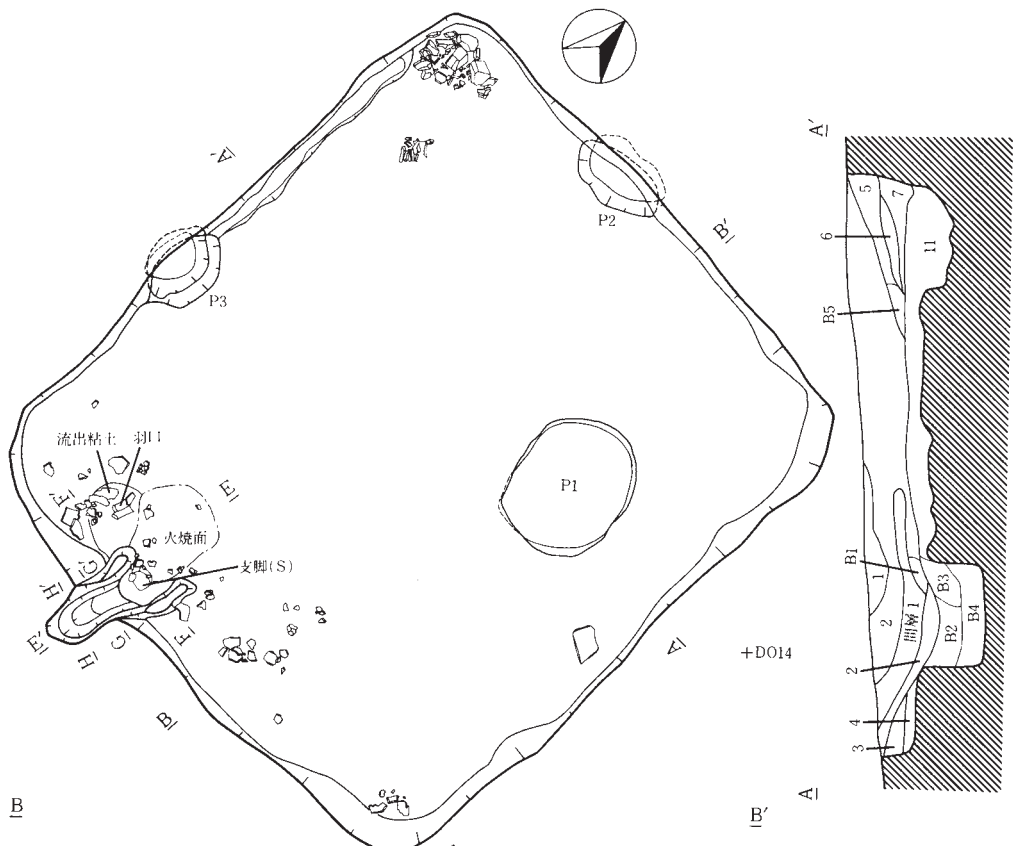
壁溝 西壁直下の一部で確認した。幅9~16cm、深さ7~9cmである。

ピット 床面上で確認できたピットは3基である。検出状況からいずれも本住居跡に伴うものと考えられる。貯蔵穴として使用された可能性もある。

表27 1号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	115	92	55	
2	81	47	35	
3	78	56	34.5	

かまど 南壁中央部からやや南西コーナー寄りの所に作られている。残存状態は比較的良好である。袖部は粘土で作られ、内面は赤く焼けている。右袖部からは羽口の破片が出土した。原位置を保っているのか、あるいはかまど崩落の際に移動したものが定かでない。燃烧部の中



**1号住居跡セクション**

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1層…黒色土(2.5YR 3/1)     | 11層…暗褐色土(10YR 3/4)  |
| 2層…黒褐色土(10YR 3/2)     | 12層…黒褐色土(7.5YR 3/2) |
| 3層…黒褐色土(7.5YR 3/2)    | 13層…褐色土(7.5YR 3/4)  |
| 4層…暗褐色土(7.5YR 3/2)    | 間層1…黒褐色土(10YR 3/2)  |
| 5層…黒褐色土(10YR 3/2)     | B1…暗褐色土(7.5YR 3/2)  |
| 6層…黒色土(10YR 3/2)      | B2…黒褐色土(7.5YR 3/2)  |
| 7層…黒色土(10YR 3/2)      | B3…黒褐色土(7.5YR 3/2)  |
| 8層…黒褐色土(10YR 3/2)     | B4…褐色土(10YR 3/4)    |
| 9層…オリーブ褐色土(2.5YR 3/4) | B5…浅黄褐色土(10YR 3/4)  |
| 10層…黒褐色土(10YR 3/2)    |                     |

**1号住居跡内カマドセクション**

- 1層…黒褐色土(5YR 3/2)  
 粒子は粗いがやや粘土質である。
- 2層…褐色土(10YR 3/4)  
 粘土質で、草木根が若干含まれている。
- 3層…黒褐色土(7.5YR 3/2)  
 粒子はやや細かく、草木根を含む。

図276 1号住居跡

中央には一辺20cm大の角礫が置かれていた。支脚に代用されたとされる。この前面には焼きしまった厚さ5~10cmの焼土の広がりが見られる。煙道部は竪穴外へ70cmほど延び、燃焼部から30度位の角度で立ち上がる。燃焼部の角礫から煙出し口にかけて、天井部が崩落したと思われる粘土質土がみられた。

出土遺物 甕形土師器が大部分であり、ほかに須恵器片・羽口がある。図277の土師器3点は口縁部指ナデ、胴部ヘラケズリ、内面口縁指ナデによる調整である。1はカマドの袖部分、2はカマド内、3は覆土1層から出土したものである。

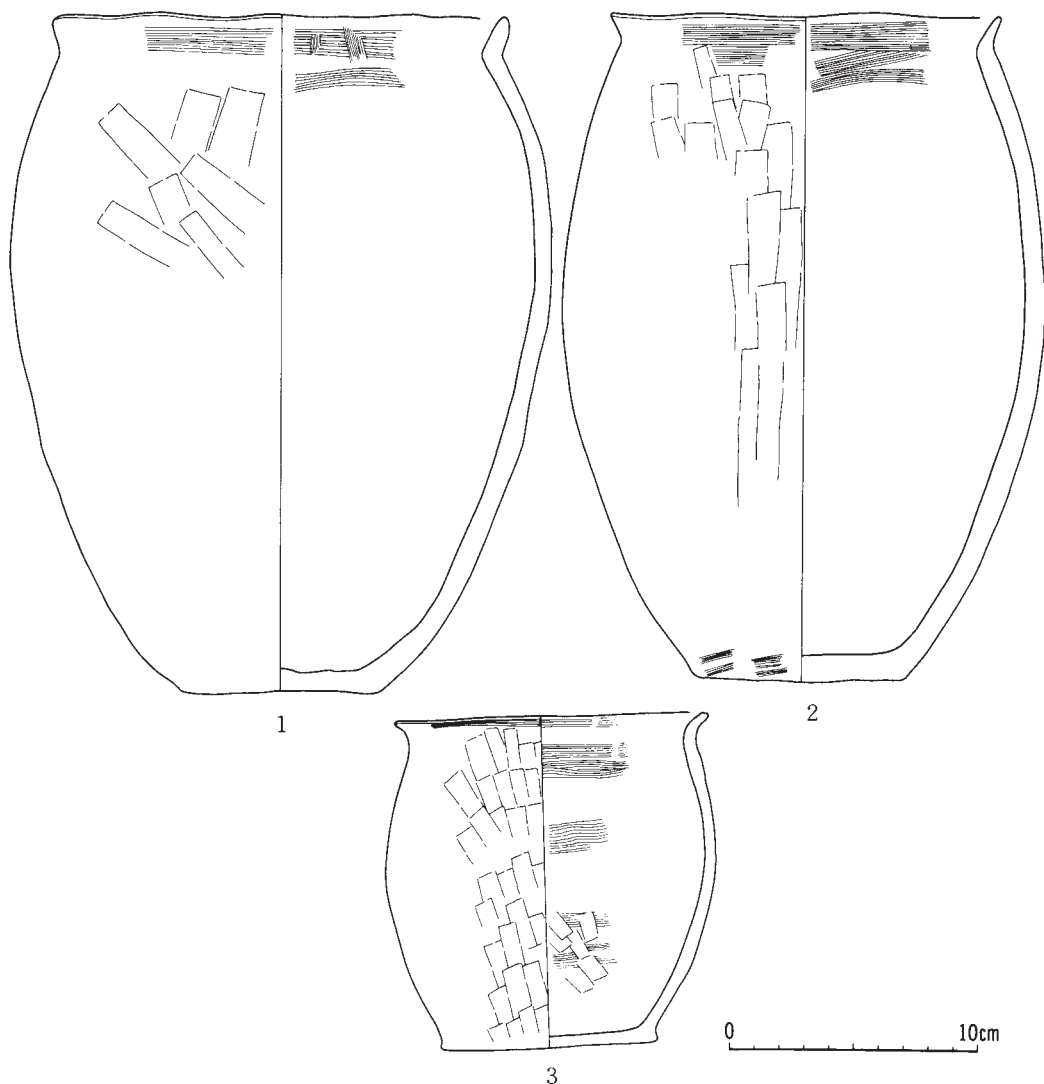


図277 1号住居跡出土遺物

## 2号住居跡

位置と確認 D K - 18 ~ 20、D L - 18 ~ 20グリッド 層上面で方形の落ち込みを確認した。

平面形 長径4.5m、短径4.1mの隅丸方形を呈する。

重複 1号土壌に一部が切られ、26号溝状ピットを切っている。

覆土 14層に区分できた。これらを大別すると、黒色系のグループと黄褐色系のグループに分けることができる。黒色系のグループは混入物が少なく、自然堆積の様相が強い。一方、黄褐色系のグループはローム・ブロック、焼土、炭化物などの混入物を含み、人為的堆積の様相が強い。

壁・床面 壁は1号土壌に破壊されている部分を除いて、残存状態は良好である。壁高は東壁10~13cm、西壁42~56cm、南壁13~20cm、北壁18~40cmで、床面から垂直に立ち上がる。床面は一部を除いて厚さ4~10cmの黒褐色土で貼り床されている。一般的に平坦であるが、壁際が若干高くなっていた。

壁溝 北壁中央部直下で一部を確認した。長さ130cm、幅10~27cm、深さ6~10cmである。

ピット 床面上で確認したピットは3基である。柱痕を確認できたものはない。ピット1は1号住居跡でも同様なピットを確認し、貯蔵穴の可能性がある。ピット4は貼り床下で確認したもので、本住居跡より古い時期のものである。

表28 2号住居跡ピット一覧表

ピット 番号	掘り方の規模			備考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	97	78	45	
2	25	25	—	
3	28	24	14	
4	83	67	33	貼り床下

かまど 南壁中央部からやや南東コーナー寄りの所に作られ、部分的に1号土壌に切られているが、比較的残存状態は良好である。袖部は粘土で作られているが、右袖部の一部しか残っていない。燃烧部の底面は火熱で赤変している。支脚などはみられない。煙道部は竪穴外へ1mほど延び、燃烧部から約20度の角度で緩やかに立ち上がる。

出土遺物 1号住居跡同様、甕形土師器が大部分である。ほかに須恵器が1点ある。図279~図281とも口縁部指ナデ、胴部ヘラケズリ、内面指ナデ調整による甕である。図279の2・4、図281は床面から、図279の3、図280の5はカマド内から出土した。

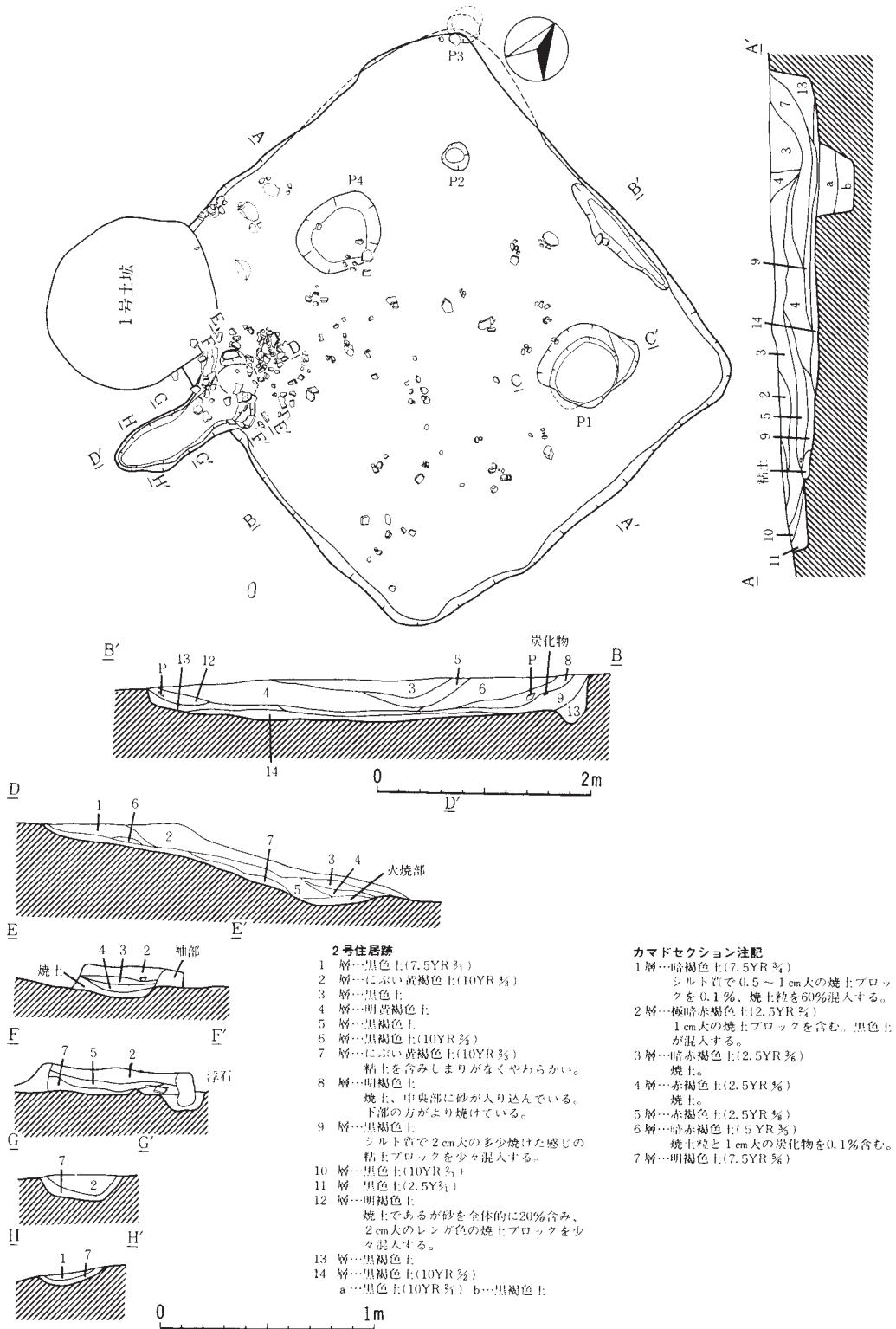


図278 2号住居跡



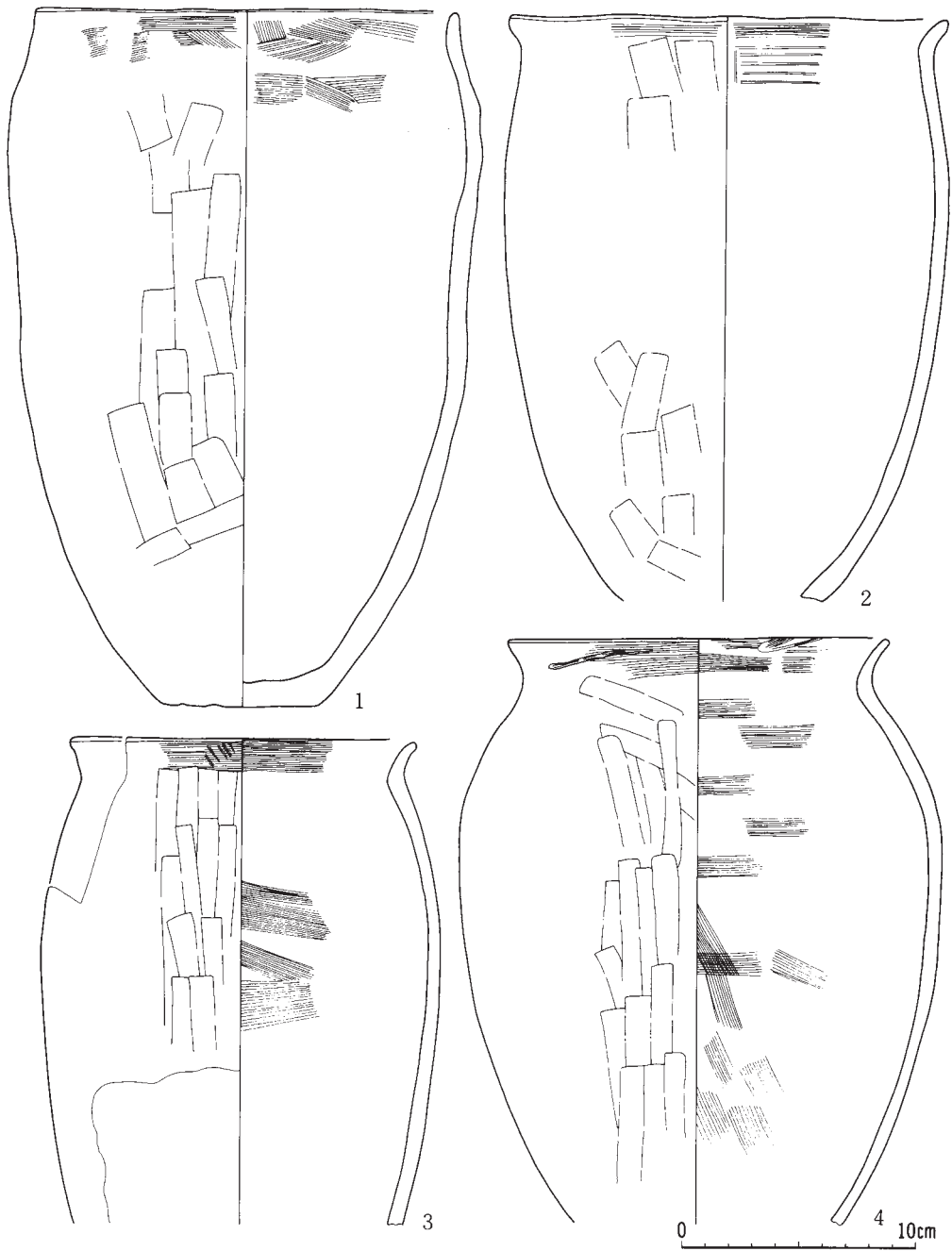


图279 2号住居跡出土遺物(1)

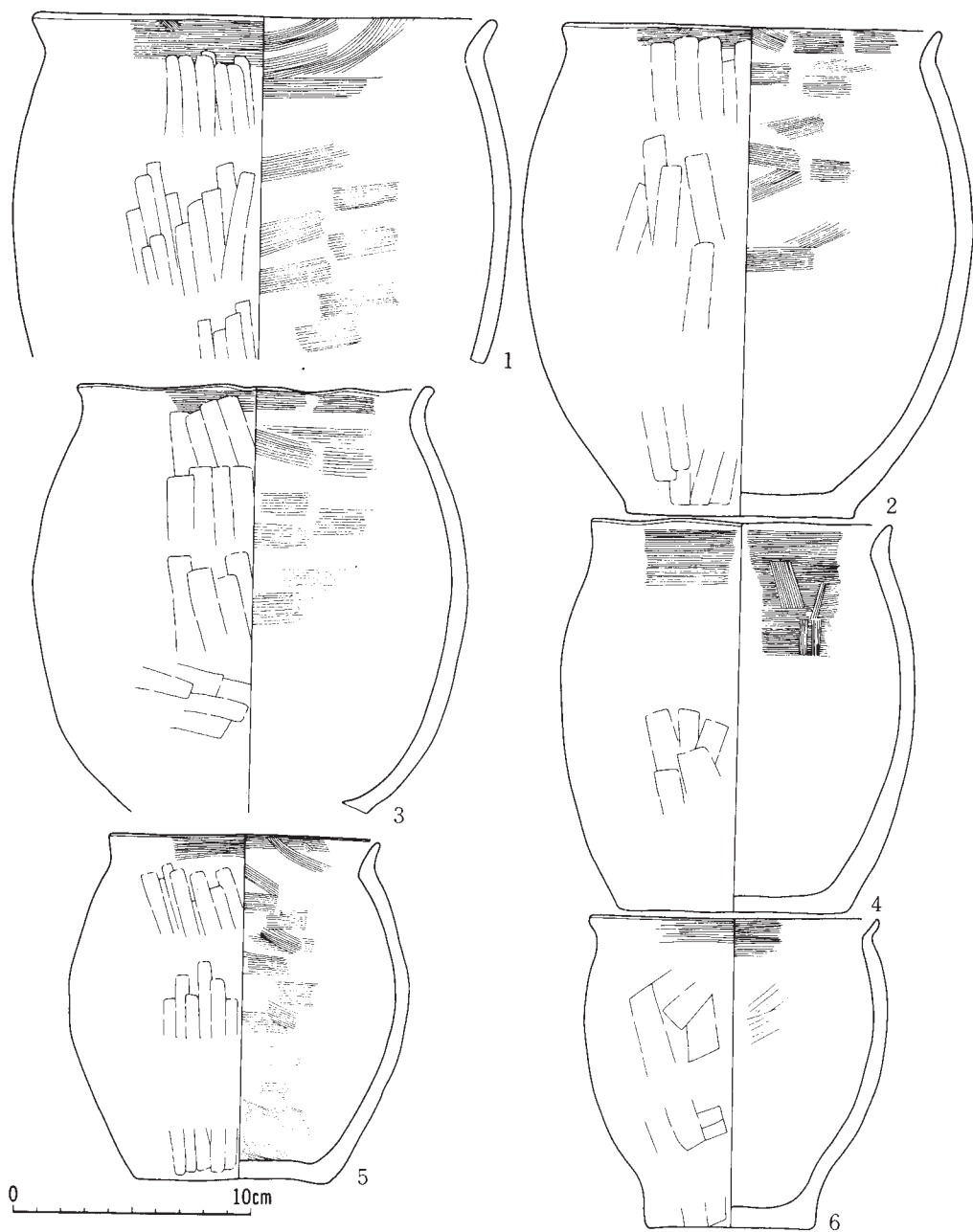


图280 2号住居跡出土遺物(2)

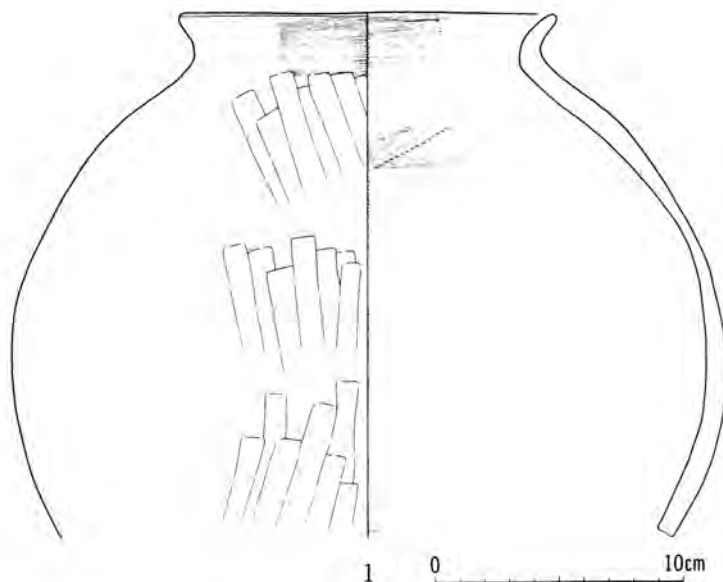


図281 2号住居跡出土遺物(3)

#### 14号住居跡

位置と確認 DR - 27、DS - 27グリッド 層で確認した。

平面形 残存している部分から推定すると、東西3.5m、南北3 mくらいの隅丸方形を呈するものと思われる。

覆土 山手側の最も厚いところで20cmである。土色は黒色(10YR<sup>1/1</sup>)を呈し、浮石を若干含んでいる。

壁・床面 壁、床とも山側にあたる北西部の半分しか残っていない。住居跡は 層に掘り込まれていたため、壁はもろくてくずれやすい。立ち上がりは急角度である。床面は谷側に向かって傾斜し、その比高は残存部分だけでも20cmほど認められる。

ピット 西側付近で2基確認した、ピット1は長径45cm、短径43cmの円形で、深さは22.3cm、ピット2は長径27cm、短径23cmの円形で、深さは7cmと浅い。その位置から柱穴とも考えられる。

表29 14号住居跡ピット一覧表

ピット号	掘り方の規模			備考
	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
1	45	43	22.3	
2	27	23	7.0	

焼土 焼土の広がりが見られた。厚さは1～2cmで、炭化物を含んでいる。カマドの位置の確認はできなかった。

出土遺物 土師器だけ出土した。復元できたのは図282の小形の甕1点だけである。ヘラケズリ調整によるもので、覆土1層から出土した。

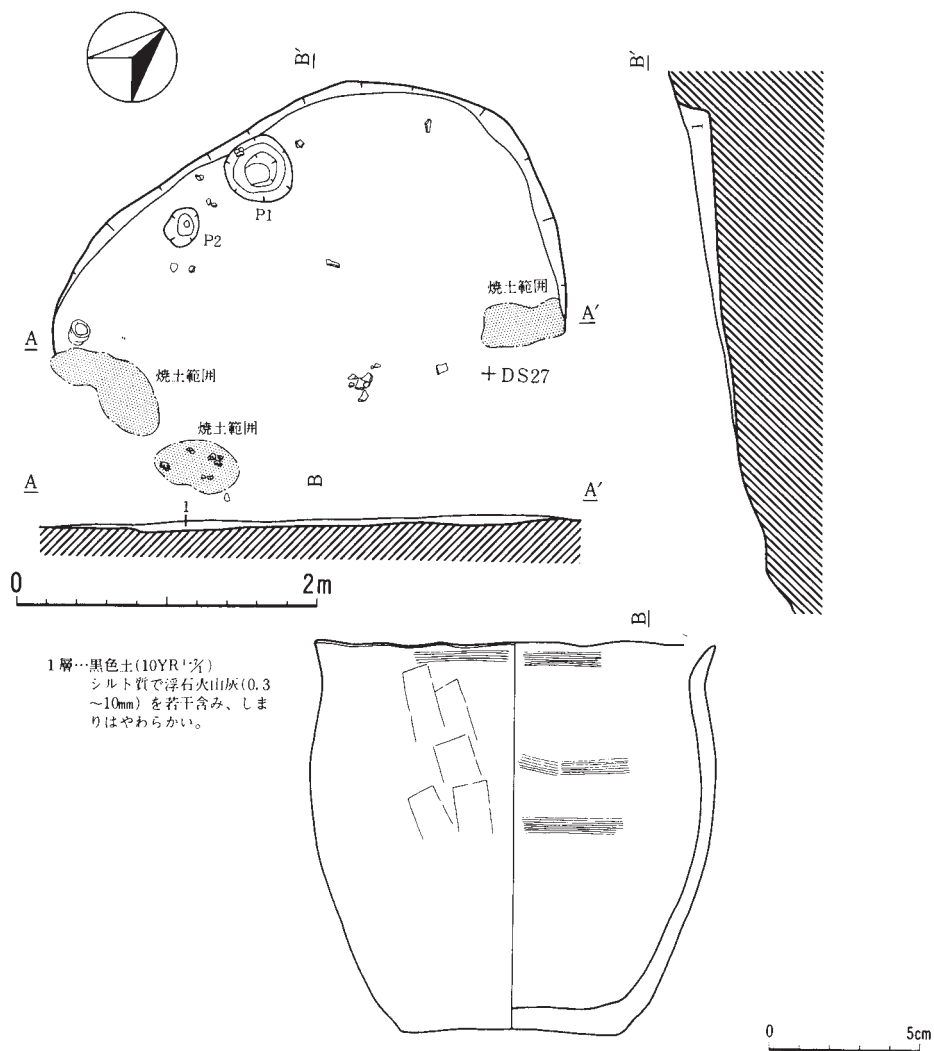


図282 14号住居跡、14号住居跡出土遺物

## 第2節 土壌と出土遺物

平安時代の土壌は15基（1～10号、12～16号）検出した。すべて第一次調査によるものであり、調査区西側の平安時代の住居跡周辺からである。

### 1号土壌

位置と確認 DJ - 19、DK - 19グリッド 層上面で円形の落ち込みを確認した。

平面形 上端は直径160cmの円形で、中ほどは北西側が20cmほどふくらんだ袋状となっている。

重複 本遺構が2号住居跡の西隅及び8号、9号住居跡、9号土壌を切っている。新旧関係は、8号、9号住居跡が最も古く、次いで2号住居跡が作られ、この土壌は最も新しい。

壁・底面 壁は地山を掘り込んでいるため堅緻である。壁高は約100cm、断面の形状は一部に袋状を呈する所もあるがほぼ垂直に掘られている。底面は、長径120cm、短径110cmの円形を呈し、平坦で柱穴等はみられない。

覆土 9層に区分できた。いずれも自然堆積と思われる。2層から遺物（縄文土器）が出土したが、堆積時に落ち込んだものであろう。なお、7層は壁の崩落土である。

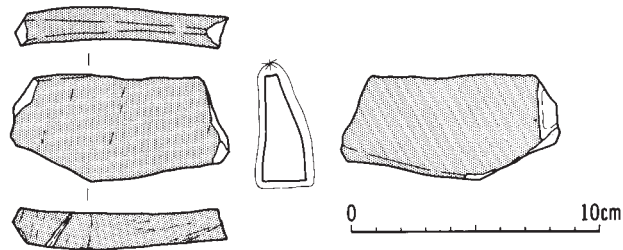
### 2号土壌

位置と確認 DM - 20、21グリッド 層上面で黒色土の落ち込みを確認した。調査の結果、一部DN - 20、21グリッドにもかかっていた。

平面形 長径224cm、短径216cmのほぼ円形を呈する。

壁・底面 壁高は北壁が80cmで最も高く、南壁は65cmである。立ち上がりはほとんど垂直である。床面は北側に少し凹凸がみられるもののほぼ平坦で、傾きもみられない。柱穴等の施設は認められなかった。

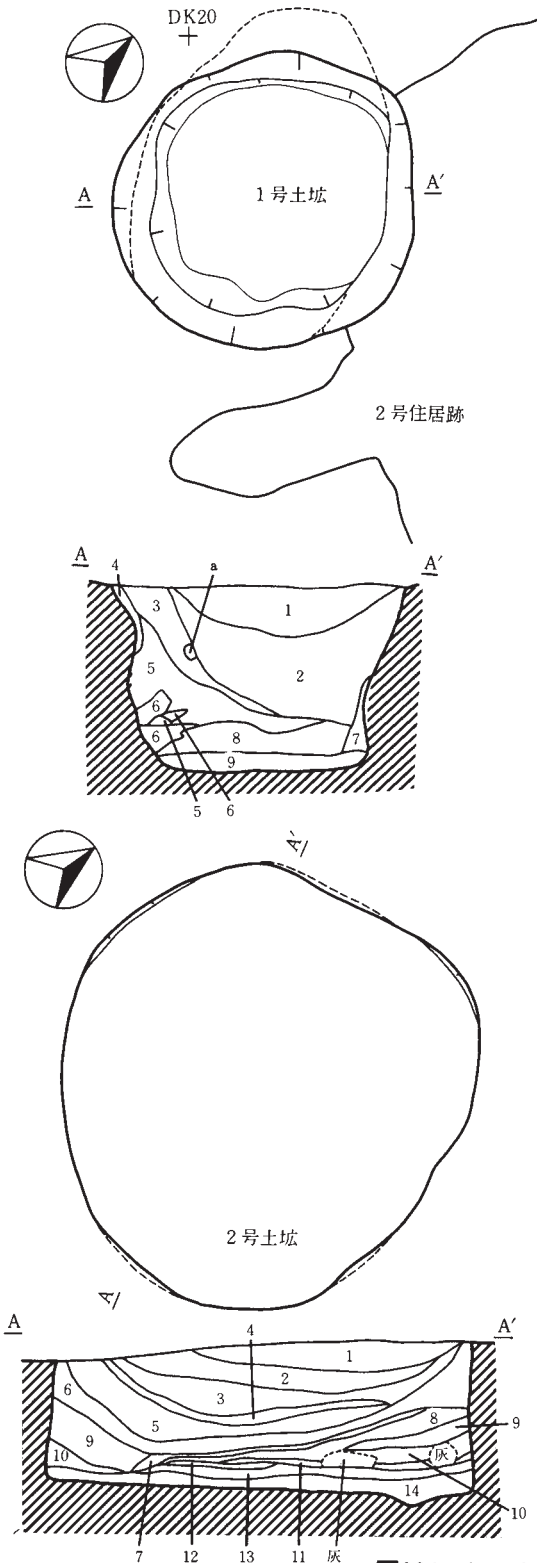
覆土 14層に区分できた。8、11、12、13層は焼土層で、北壁の付近から中央部にかけて



石皿観察表

番号	地区	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	残存部位
36	2号土壌	88	43	17	79	凝	IV	

図283 2号土壌出土遺物



**1号土坑セクション**

- 1層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/2)
- シルト質で草木根の混入がみられた。
- 2層…黒褐色土(5YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でロームが混じる。遺物が10数点出土。
- 3層…暗褐色土(7.5YR<sup>3</sup>/2)
- シルト質でロームが混じる。
- 4層…黒色土(7.5YR<sup>4</sup>/2)
- 壁が崩壊したもの。
- 5層…黒褐色土(7.5YR<sup>5</sup>/2)
- シルト質で浮石が微量混入し、草木根がみられる。
- 6層…黒褐色土(10YR<sup>6</sup>/2)
- 非常にしまりがあり、浮石が若干混入する。
- 7層…黒色土(崩壊土)(10YR<sup>7</sup>/2)
- ローム土と8層の混合土。
- 8層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/2)
- シルト質土でこの壁内覆土で一番しまりが悪くもろい。
- 9層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/2)
- 若干しまりがある。
- 間層a…暗褐色土(7.5YR<sup>3</sup>/2)
- シルト質でロームが混じる。

**2号土坑セクション**

- 1層…黒色土(10YR<sup>1</sup>/2)
- 2層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。
- 3層…黒褐色土(10YR<sup>3</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。
- 4層…黒色土(10YR<sup>4</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。第1層の土色とほぼ同じだが浮石の混入が少ない。
- 5層…黒褐色土(10YR<sup>5</sup>/2)
- 第3層と同色同質。
- 6層…黒色土(5YR<sup>1</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。
- 7層…黒褐色土(10YR<sup>7</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。
- 8層…黒色土(10YR<sup>1</sup>/2)
- シルト質でしまりがなく浮石はほとんどみられない。
- 9層…褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。
- 10層…いはい黄褐色土(10YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。焼土層である。
- 11層…明黄褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。焼土層である。
- 12層…いはい黄褐色土(10YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。焼土層である。
- 13層…明黄褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。焼土層である。
- 14層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/2)
- シルト質でしまりがない。0.1～0.4cmの浮石が少量混入している。

図284 1・2号土坑



10～30cmくらいの厚さで堆積していた。これは、人為的に捨てられたか、竪穴を覆っていた屋根が焼け落ちたとも考えられる。

### 3号土壌

位置と確認 DM - 22、23、DN - 22、23グリッド 層で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径324cm、短径314cmのほぼ円形を呈する。本調査では最大の規模である。

壁・底面 西側の壁高は60cm、東側は43cmである。また、底面も地山の傾斜に沿って20cmほど東に傾いている。壁面は垂直に掘られているが、一部袋状に入り込む所もある。床面は堅くしまっており、柱穴等の施設は認められなかった。

覆土 4層に区分できた。いずれにも草木根の混入がみられる。北西部に焼土が認められたが、流れ込んだ可能性が強い。復元できた出土遺物に土師器3点(図291の1～3)がある。

### 4号土壌

位置と確認 DK - 23、24グリッド 層上面で、暗褐色の落ち込みを確認した。

平面形 長径200cm、短径190cmの円形を呈する。

壁・底面 確認面が北側に傾斜しているにもかかわらず、底面がほぼ水平であるため、北西壁が75cm、南東壁は50cmである。他の遺構との重複もなく壁、底面とも良好に残っている。柱穴等の施設は認められなかった。

覆土 6層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。2層に1点、3層に6点の縄文土器が包含されていたが、この遺構に伴うものではなく、落ち込んだものと思われる。

### 5号土壌

位置と確認 DO - 20、21グリッド 層上面で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径225cm、短径205cmの隅丸形状を呈する。

重複 北側壁が38号溝状ピットを切っている。したがって本遺構が溝状ピットより新しい。

壁・底面 西側の壁高は70～80cm、東壁は65～75cmで、床面に近づくにつれフラスコ状に広がる箇所もある。床面はほぼ平坦で、柱穴等の施設は認められなかった。

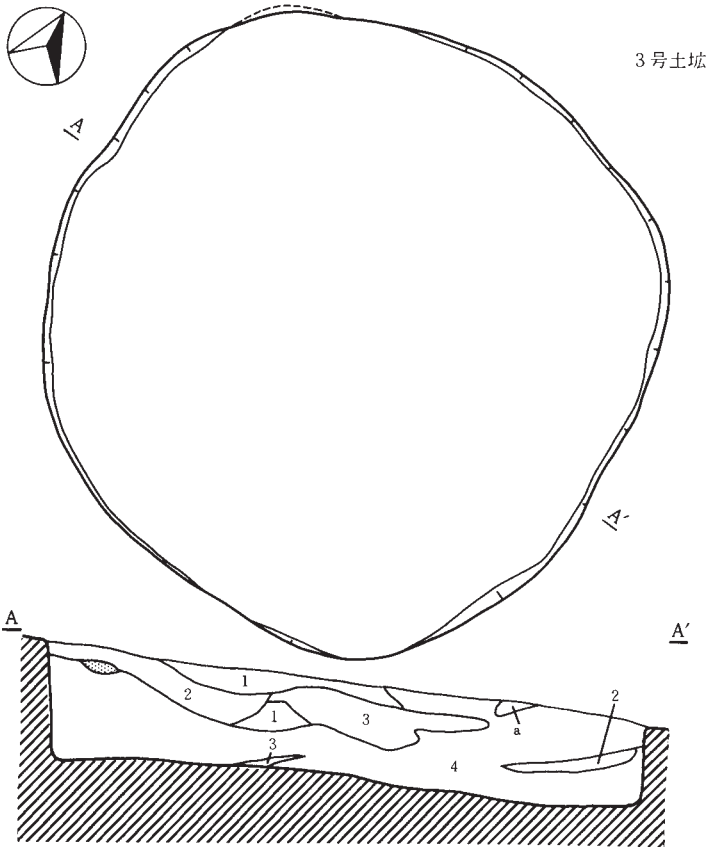
覆土 12層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。いずれもシルト質であるが、浮石を含む層と含まない層がある。北壁の3層と8層の間に焼土がブロック状にみられた。

### 6号土壌

位置と確認 DN - 21グリッドからDO - 21グリッドにかけて、南北に長い落ち込みを確認した。

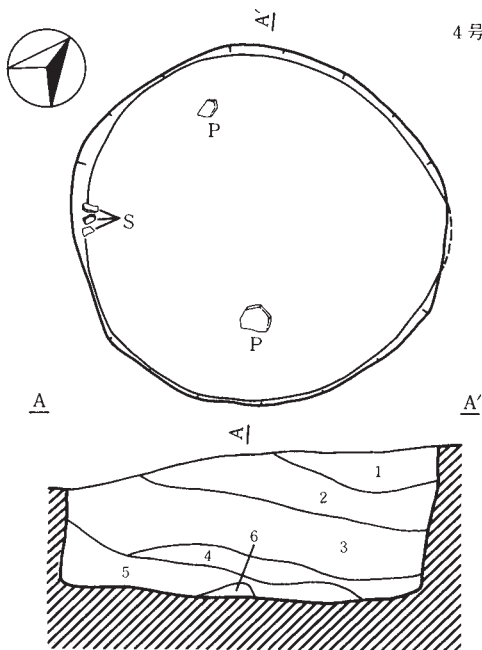
平面形 長径180cm、短径135cmの隅丸長方形を呈する。

壁・底面 西壁の高さ60cm、東壁は50cmである。壁面は一部で袋状になる箇所もあるが、ほぼ垂直に掘り込まれている。底面は南側で凹凸がみられるもののほぼ平坦で固い。柱穴等の



3号土坑

- 1層…黒褐色土(5YR 2/1)  
しまり、粘性とも少ない。以下4層までいずれも草木根がみられる。
- 2層…黒色土(10YR 2/1)  
0.3cm位の浮石を若干含む。
- 3層…黒色土(5YR 2/1)  
1層に似ているが、0.5cm位の浮石を含む。
- 4層…黒褐色土(10YR 2/1)  
黒色土とロームの混合土。
- a…黒褐色土(10YR 2/1)  
3層とよく似るが浮石の混入がみられない。

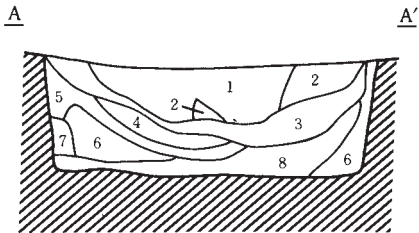
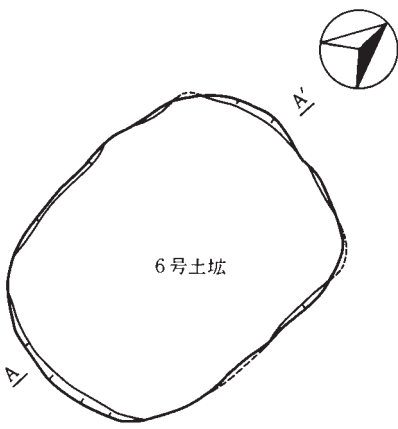
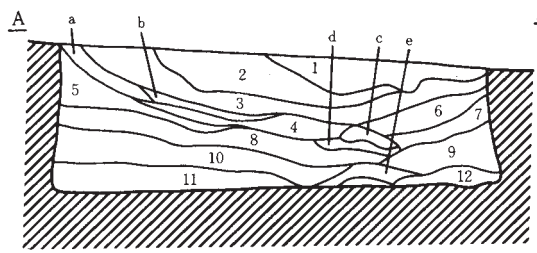
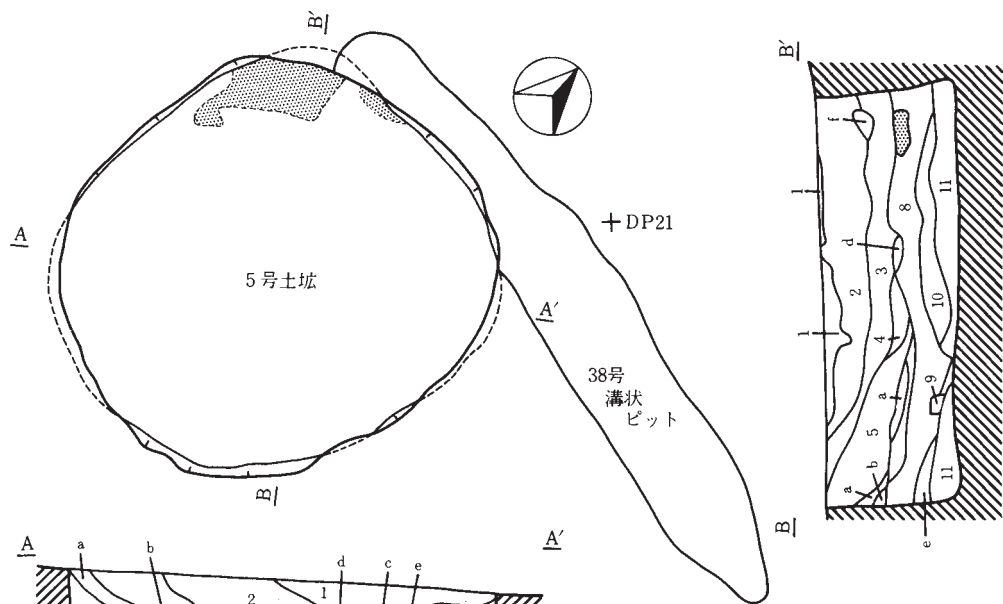


4号土坑

- 1層…暗褐色土(10YR 2/1)  
シルト質でしまりが無い。0.2～2cmぐらいの浮石が7%混入している。
- 2層…黒色土(5YR 2/1)  
シルト質でしまりが無い。浮石がほとんど見られない。
- 3層…暗褐色土(10YR 2/1)  
シルト質でしまりが無い。0.2～3cmの浮石が5%混入している。  
土器が出土。
- 4層…黒色土(7.5YR 2/1)  
シルト質でしまりが無い。
- 5層…褐色土(10YR 4/1)  
シルト質でしまりが無い。浮石が底面の部分に集中している。
- 6層…黒褐色土(10YR 2/1)  
シルト質でしまりが無い。0.2cmぐらいの浮石が3～3.5%混入されている。

0 1 m

図285 3・4号土坑



- 1層…明黄褐色土(10YR 7/6)  
シルト質でしまりがある。0.2～0.8cmの浮石が3%混入。
- 2層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。
- 3層…黒褐色土(5YR 3/1)  
シルト質でややしまりがある。浮石はほとんど見られない。
- 4層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。
- 5層…黒色土(7.5YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。0.2～0.7cmの浮石が1%混入。
- 6層…黒褐色土(10YR 3/1)  
シルト質でしまりがない。0.2～0.8cmの浮石が2%混入。
- 7層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。0.3～1.5cmの浮石が2%混入。
- 8層…黒褐色土(10YR 3/1)  
シルト質で全体的にはしまりがない。0.2～0.7cmの浮石が1%混入。
- 9層…暗オリーブ褐色土(2.5YR 3/1)  
シルト質でしまりがない。0.2～1.5cmの浮石が5%混入。
- 10層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。
- 11層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でややしまりがある。浮石はほとんど見られない。
- 12層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。
- a…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。
- b…黒褐色土(10YR 3/1)  
シルト質で全体的にはしまりがない。0.2～0.8cmの浮石が3%混入。
- c…明褐色土(7.5YR 3/1)  
シルト質でしまりがない。
- d…黒色土(7.5YR 1/1)  
シルト質でしまりがある。浮石はほとんど見られない。
- e…黒褐色土(10YR 3/1)  
シルト質でしまりがない。0.2～0.8cmの浮石が5%混入。
- f…黒褐色土(7.5YR 3/1)  
シルト質でしまりがない。浮石はほとんど見られない。

- 1層…暗褐色土(7.5YR 3/1)  
シルト質で粘性がややある。0.5～1cmの浮石が全体的に25～30%位みられる。
- 2層…暗褐色土(7.5YR 3/1)  
シルト質で火山灰層、浮石も少量ではあるが0.5cm位のものが、バラバラみられる。製品( )が1点出土している。
- 3層…極暗褐色土(7.5YR 1/1)  
シルト質で微量の炭火材と0.5～1cm位の浮石が全体的に3%ほどみられる。
- 4層…黒褐色土(10YR 3/1)  
シルト質で0.2～1cm位の浮石が15%位みられる。
- 5層…黒色土(10YR 1/1)  
黒土と粘土の混合層。0.5cm前後の浮石が少量みられる。
- 6層…黒色土(10YR 1/1)  
シルト質でしまりが弱い。0.2～0.5cm位の浮石が1%ほどみられる。
- 7層…褐色土(ローム土)(10YR 3/1)
- 8層…灰褐色土(7.5YR 3/1) 灰(焼土)層

図286 5・6号土城



施設は認められなかった。

覆土 8層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。4層と5層の間に炭化材が認められ、その中から撚糸らしい遺物が出土した。また、3層にも少量の炭化材が含まれていた。8層は灰(焼土)層である。2号土壌と同様人為的に捨てられたか、遺構を覆っていた屋根が焼け落ちたとも考えられる。

#### 7号土壌

位置と確認 DP-11、12グリッド ~ 層で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径255cm、短径235cmの隅丸方形を呈する。

重複 南西隅で27号溝状ピットと重複している。新旧関係は覆土の堆積状況から本遺構が新しい。

壁・底面 北西の高さが65cm、南東壁が45cm、他の壁高は55~60cmである。掘り込みは底面に近づくほど狭くなり、底面の長径は240cm、短径は220cmとなる。類似した土壌の底面の状態から推測して12層を貼り床として利用したものと思われる。

覆土 12層に区分できた。覆土中から縄文土器及び土師器(図291の4)が出土している。縄文土器はこの遺構に伴うものではなく、覆土にまぎれ込んだものである。

#### 8号土壌

位置と確認 1号住居跡を精査した後、更に床面を掘り下げたところ、DN-13グリッドで確認したものである。南西部がわずかにDM-13グリッドにかかっている。

平面形 長径190cm、短径150cmの不整円形を呈する。

重複 北東側で13号住居跡と重複する。切り合いの状況から本土壌が13号住居跡より新しい。なお、本土壌が埋まった後、上面に1号住居跡が掘り込まれているが、掘り込み面が浅かったため本土壌まで達していない。

壁・底面 壁高は北壁で40cm、南壁は43cmといくぶん深くなる。しかし、立ち上がりは北壁が約60度と急角度であるのに対して、南壁は約40度と逆にゆるくなる。底面は平坦で柱穴等は認められなかった。

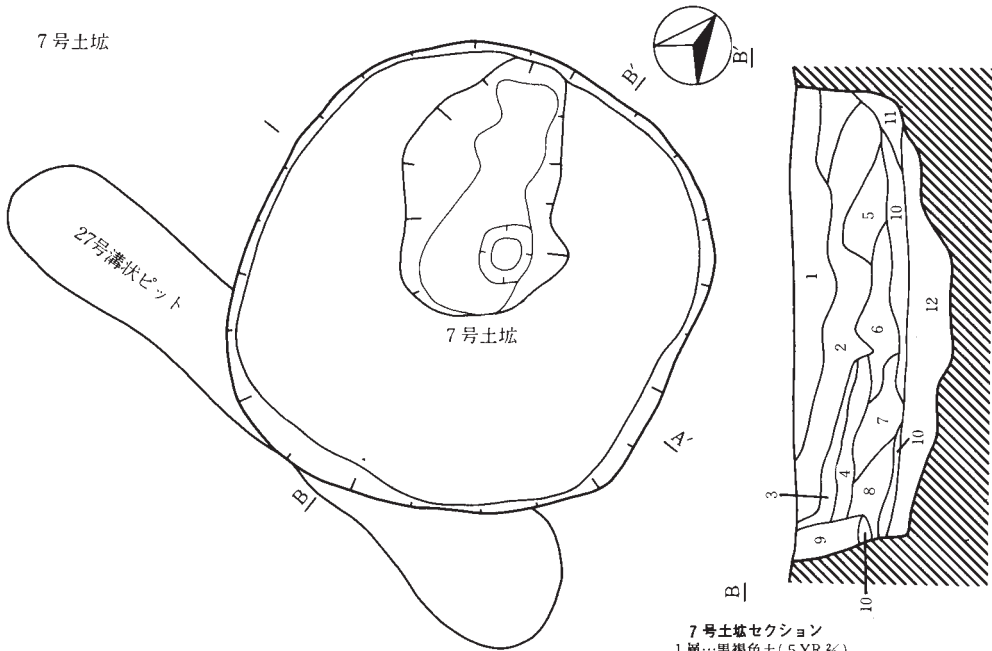
覆土 間層aが2箇所のみられたが、大部分は暗褐色土の層である。また、シルト質でしまりがあり、0.3~0.5cmの浮石が全体に混入している。2箇所の間層はロームが混じって明褐色を呈するものである。

#### 9号土壌 (図40)

位置の確認 DJ-19、20グリッド 層上面で極暗褐色の落ち込みを確認した。

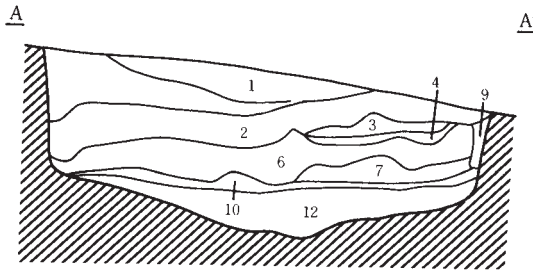
平面形 一部を1号土壌と46号溝状ピットに破壊されているが、残存部から推定すると、長径220cm、短径190cmの不整円形を呈していたと考えられる。

7号土坑

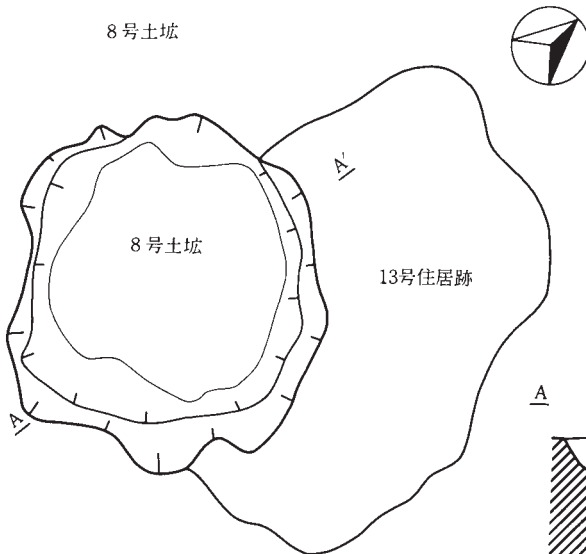


7号土坑セクション

- 1層…黒褐色土(5 YR 5/2)  
シルト質で0.1~1cmの浮石と、焼土粒子炭化物を若干含む。
- 2層…黒褐色土(5 YR 5/2)  
シルト質でカーボンを15%含み、ローム粒子がブロック状に混入する。
- 3層…黒褐色土(5 YR 5/2)  
シルト質で0.2~0.5cmのローム粒子を多量に含む。縄文土器が出土。
- 4層…黒色土(7.5 YR 1/1)  
シルト質でローム粒子、浮石の混合土。炭化物を多量に含む。
- 5層…褐色土(7.5 YR 5/1)  
ローム粒子、浮石、黒褐土の混合土。
- 6層…暗褐色土(7.5 YR 3/1)  
5層に似るが、黒褐土、カーボンを多量に含む。
- 7層…極暗褐色土(7.5 YR 1/1)  
土質は3層に似る。
- 8層…黒褐色土(7.5 YR 5/2)  
3層に似るが、カーボンを若干含む。
- 9層…黒褐色土(7.5 YR 5/2)  
シルト質で0.2~0.5cmの浮石を若干含む。
- 10層…黒色土(5 YR 1/1)  
土質は2層に似る。
- 11層…黒色土(5 YR 1/1)  
土質は1層に似る。
- 12層…暗色土(7.5 YR 3/1)  
土質は3層に似る。



8号土坑



8号土坑セクション

- 1層…暗褐色土(7.5 YR 3/1)  
シルト質でしまりがある。0.3~1.5cmの浮石が全体的に20%みられる。
- 間 a…明黄褐色土(10 YR 5/1)  
ロームが混入したものでしまりがある。0.1~0.7cm位の浮石が全体的に15%位みられる。

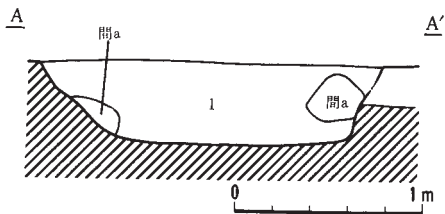


図287 7・8号土坑

重複 1号土壌と46号溝状ピットに切られている。また、8、9号住居跡を切っている。

覆土 3層に区分できた。いずれも褐色系のシルト質土で、自然堆積と思われる。

壁・底面 壁の残存状態は良好で、壁高は40cmほどである。また、底面は鍋底状を呈し、その立ち上がりは、緩やかである。

ピット 北東壁の直下に小ピットを1個確認した。

焼土 遺構確認面上で焼土を確認したが、本遺構に伴うものではなく、時期的に新しいものと考えられる。

#### 10号土壌

位置と確認 DP - 14、15、DQ - 14、15グリッド ~ 層で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径310cm、短径280cmの楕円形を呈する。

壁・底面 西壁の高さが57cmと最も深く、東壁は35cmで最も浅い。壁面はほぼ垂直であるが、北壁と南西壁はいくぶん袋状に掘り込まれている。底面の中央に15~25cmの掘り込みが認められるが、柱穴かどうかは不明である。12層又は13層の上面が床面に利用されたと考えられる。

覆土 13層に区分できた。11層まで自然堆積の様相を呈している。覆土から縄文土器と土師器(図291の5)が出土した。いずれも覆土にまぎれ込んだものと思われる。12~13層はしまりがあり、かたいところから、貼り床であった可能性が強い。

#### 12号土壌

位置と確認 DN - 23、24、DO - 23、24グリッド 層で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径238cm、短径235cmの不整形円形を呈する。

壁・底面 北西壁の高さ90cm、南東壁は68cmである。壁面の掘り込みは、どの面も底面に近くなるほど広く、フラスコ状になり、確認面の平面形より10~20cm広がっている。この遺構の底面には、これまでの土壌にはみられなかった施設(袋状掘り込み)が北壁と西壁にみられた。北壁の掘り込みは長径80cm、短径60cmの楕円形を呈し、壁面から20cm奥に達している。また西壁の掘り込みは長径100cm、短径55cmで、壁面から60cm掘られている。

覆土 8層に区分できた。自然堆積の様相を呈する。北壁の掘り込みには6層が、また、西壁の掘り込みには6、7層の覆土が入り込んでいる。どの層にも遺物は含まれていなかった。

#### 13号土壌

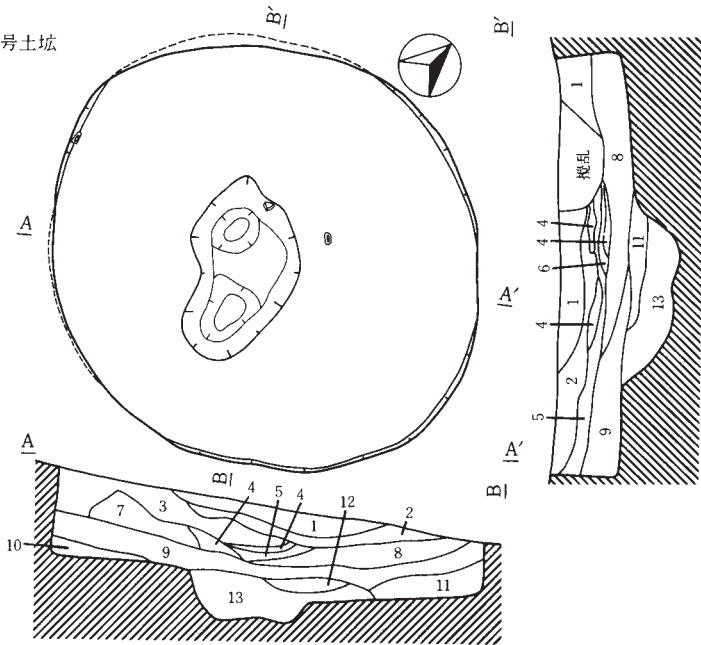
位置と確認 DM - 25、26、DN - 25、26グリッド 層上面で円形の落ち込みを確認した。

平面形 長径140cm、短径130cmのほぼ円形を呈する。

壁・底面 壁面の高さは平均して50cmくらいで、壁の立ち上がりはほとんど垂直である。底面は上面よりわずかに狭くなり、長径140cm、短径130cmである。底面、壁面ともに柱穴等

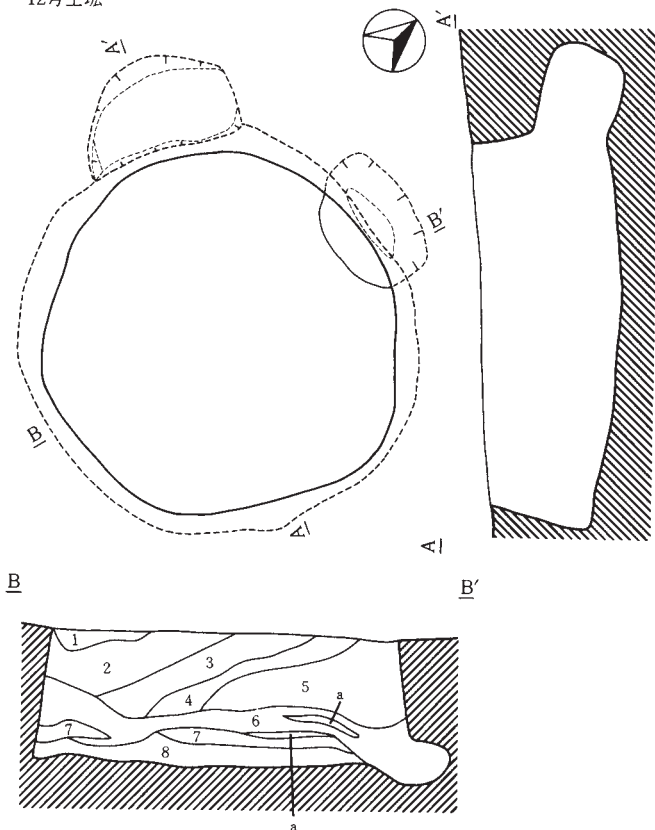


10号土坑



- 10号土坑セクション**
- 1層…黒色土(7.5YR 3/1)  
シルト質で0.5~1cmの浮石を若干含む。しまりはなく、やわらかい。
  - 2層…黒色土(5YR 1/1)  
シルト質で粗砂及び浮石を1%含む。しまりはなく、やわらかい。  
縄文土層が出土。
  - 3層…黒褐色土(5YR 3/1)  
シルト質で0.2cm位の浮石を5%含む。しまりはやややわらかい。  
炭化粒もみられる。
  - 4層…黒褐色土(5YR 3/1)  
シルト質で焼土、灰、カーボンを多量に含むほか、0.5~1.5cmの浮石も若干含む。しまりはなく、非常にやわらかい。
  - 5層…黒色土(5YR 1/1)  
しまりはかたく、焼土及びカーボンを若干含む。
  - 6層…黒褐色土(5YR 3/1)  
0.8~1cmの浮石を多量に含む。炭化粒も少量みられる。しまりがあり、かたい。
  - 7層…黒色土(5YR 1/1)  
シルト質で0.5~1cmの浮石を5%含む。しまりはあって、やわらかい。
  - 8層…黒褐色土(5YR 3/1)  
シルト質で0.5~1cmの浮石を多量に含む。しまりはなく、やわらかい。  
焼土、炭化粒が若干含まれている。
  - 9層…黒褐色土(7.5YR 3/1)  
0.2~1cmの浮石を多量に含む。しまりがあるかたい。
  - 10層…黒褐色土(5YR 3/1)  
浮石を3%含む。しまりはなく、やわらかい。
  - 11層…黒褐色土(5YR 3/1)  
シルト質でローム粒を多量に含む。しまりがあるかたい。
  - 12層…黒褐色土(5YR 3/1)  
0.2cm位の浮石を7%含むほか、炭化粒も若干含む。しまりがあるかたい。
  - 13層…黒褐色土(7.5YR 3/1)  
0.1~0.5cmの浮石を3%含む。ローム粒子もブロック状に含まれる。しまりがあるかたい。

12号土坑



- 12号土坑セクション**
- 1層…黒色土(7.5YR 3/1)  
粒子は細かく粘性がある。草木根を若干含んでいる。
  - 2層…黒褐色土(10YR 3/1)  
粒子は細かいが、粘性は1層よりも少ない。0.5cm位の浮石が10%均等に散在している。草木根を若干含んでいる。
  - 3層…黒色土(7.5YR 1/1)  
粒子は細かいが粘性はない。草木根を若干含んでいる。
  - 4層…黒褐色土(10YR 3/1)  
黒色土に5cm前後のロームブロックが50%位散在している。粒子は細かいがしまりはあまりない。
  - 5層…黒褐色土(7.5YR 3/1)  
粒子は細かいが湿性に欠けしまりが少ない。1cm位の浮石、ロームブロックが点在している。草木根を若干含む。
  - 6層…黒褐色土(10YR 3/1)  
粒子は細かいがしまりはあまりない。  
1cm前後のロームブロックが10%位混入する。
  - 7層…暗褐色土(10YR 3/1)  
黒色土とロームの混合土。ロームがいくぶん多い。2cm位の浮石を40%層中間部に含む。
  - 8層…暗褐色土(10YR 3/1)  
黒色土とロームの混合土、黒色土がいくぶん多い。0.5cm位の浮石を80%均等に含む。  
a…黒色土(10YR 1/1)  
粘土質で粒子は細かい。黒一色で混合物を含まない。



図288 10・12号土坑

の施設は認められなかった。

覆土 浮石、ローム、草木根等が黒色土と混合したもので黒褐色を呈する。人為的に埋め戻したものと思われる。

#### 14号土壌

位置と確認 D P - 14グリッドのほぼ中央 層で確認した。

平面形 長径115cm、短径95cmの隅丸長方形を呈する。底面は長径90cm、短径70cmで同様隅丸長方形である。

重複 西側<sup>1</sup>ほどが28号溝状ピットと切り合っている。しかし、溝状ピット内に本遺構の壁面を確認できたので、本遺構が新しいと判断した。

壁・底面 確認面が西から東に傾いているにもかかわらず、遺構底面が水平であるため、西壁が55cm、東壁は35cmである。底面は凹凸がなく、柱穴等の施設も認められなかった。

覆土 全体が黒色土で、区分することができなかった。シルト質でしまりがなく、0.2～1.8cmの浮石がまばらに混入している。

#### 15号土壌

位置と確認 D R - 15グリッド 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

平面形 長径120cm、短径95cmで、底面では長径100cm、短径75cmの隅丸長方形を呈する。

覆土 厚さが50cmにも及ぶが、黒褐色シルト質土で区分はできず1層とした。0.5～2cmの浮石が若干混入し、しまりが弱い。縄文土器片21点、石器が6点出土したが、埋まる時に紛れ込んだものであろう。

壁・底面 西壁の高さは50cm、東壁は45cmで、いずれもほぼ垂直に立ち上がる。底面はいくぶん凹凸がみられるものの、ほぼ平坦である。柱穴等の施設は底面、壁面ともに認められなかった。

#### 16号土壌

位置と確認 D R - 24、25グリッド 層で黒褐色の落ち込みを確認した。

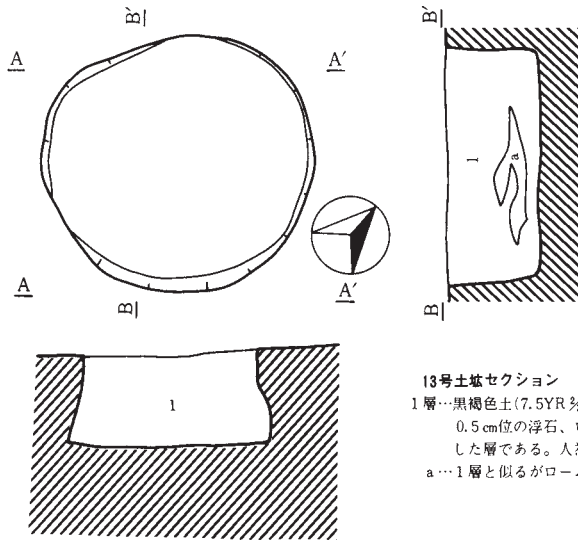
平面形 長径（推定値）145cm、短径85cmで、底面は長径（推定値）130cm、短径65cmの隅丸長方形を呈する。

重複 南端の一部は50号溝状ピットと重複している。新旧関係では本遺構が新しい。

覆土 黒褐色シルト質で浮石が若干混入するが、ほぼ均一化しているため区分できなかった。

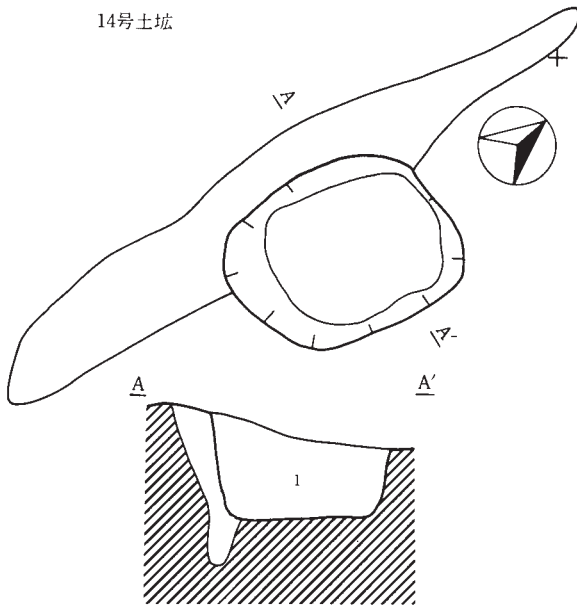
壁・底面 北壁の高さは25cm、南壁は16cm、他は17～22cmで、立ち上がりはほぼ垂直である。底面は中央部がいくぶん落ち込む。柱穴等は認められなかった。

13号土坑



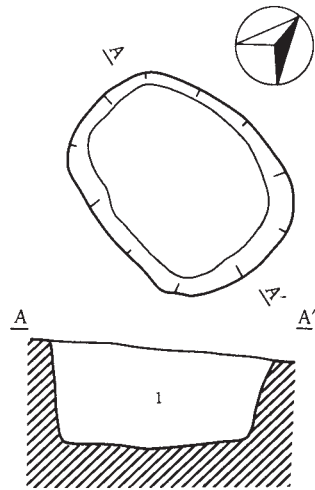
13号土坑セクション  
 1層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
 0.5cm位の浮石、ローム、草木根が黒色土と混合した層である。人為的に埋め戻されたと思われる。  
 a…1層と似るがロームが1層より多く含まれている。

14号土坑



14号土坑セクション  
 1層…黒色土(10YR 3/1)  
 シルト質で粒子が細く、しまりは無い。  
 0.2~1.8cmの浮石がまばらにみられる。

15号土坑



15号土坑セクション  
 1層…黒褐色土(7.5YR 5/2)  
 シルト質で全体的にやわらかい。0.5~2cm位の浮石が全体の3%程度含まれる。

0 12m

図289 13・14・15号土坑

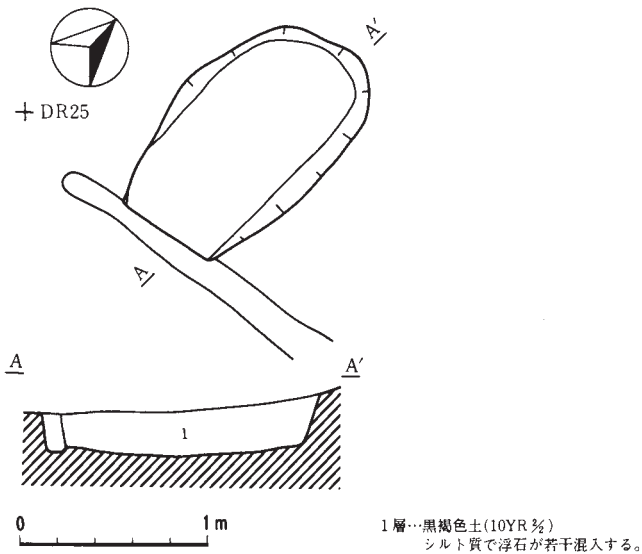


図290 16号土坑

### まとめ

土坑は第1次調査で、調査区域西側で15基（1～16号、11は欠番）検出されたが、第2次調査では1基も検出されなかった。平面形は円形が主体をなし（1～4号、12～13号）楕円形（10号）隅丸方形（14、15号）及び隅丸長方形を呈するもの（5～7、16号）もみられる。壁はほとんど垂直に近い角度で立ち上がる。まれにフラスコ状に底面ほど広くなるもの（12号）もある。壁の高さは確認面からの計測値で100cmに達するものもあることから、構築時にはほとんどが100cmを越えていたものと思われる。底面は9・10・12号を除き平坦で、内部施設を伴わない。12号は壁の2ヶ所に袋状の掘り込みを持つもので、本調査で検出された15基のうち特異なものである。

土坑覆土は大部分自然堆積と思われる様相を呈するが、焼土層あるいは炭化物が多量に混じる層も認められる。焼土層の場合は人為的に投げ込まれたとも考えられる。6号の覆土3層、及び4層と5層間から炭化材が出土したが、これは土坑を覆っていた屋根材が焼け落ちたものとみることできる。

土坑内から出土した遺物には縄文時代早期～前期にかけての土器と平安時代の土師器がある。縄文土器はすべて破片であって復元できたものはない。土師器では復元できたものが3号土坑から3点（図291の1～3）、7号土坑から1点（図291の4）、10号土坑から1点（図291の5）

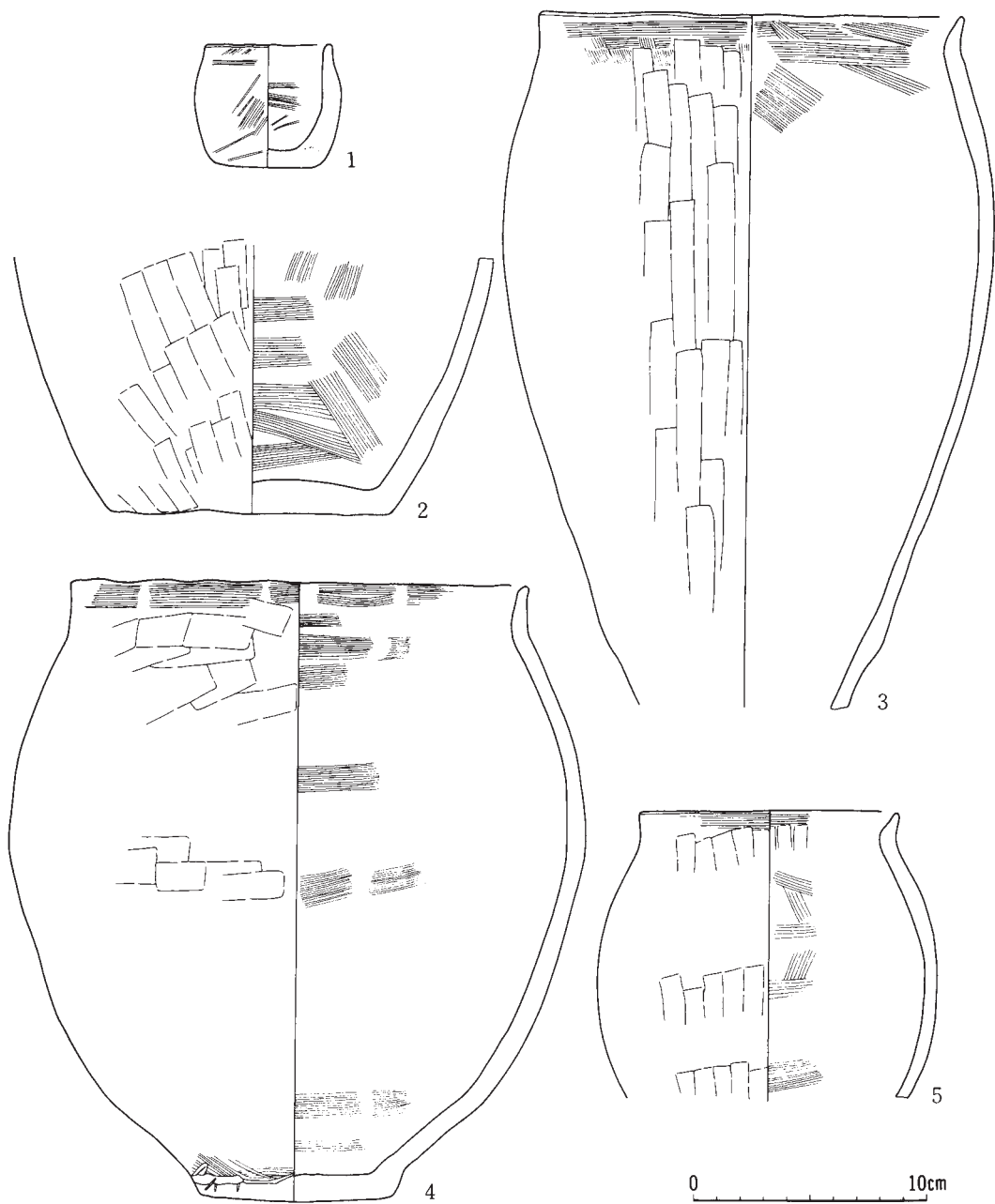


图291 3·7·10号土坛出土遗物

表30 土壇一覧表

No.	平面形	長径	短径	底面		壁高	内部施設	出土遺物	検出グリッド	備考
				長径	短径					
1	円形	160	160	120	110	100	なし	縄文土器	DJ-19、DK-19	
2	〃	224	216	234	216	65~80	〃	〃、土師器	DM-20、21	焼土層あり
3	〃	324	314	318	310	43~60	〃	〃	DM-22・23、DN-22・32	〃
4	〃	200	190	190	186	50~75	〃	〃	DK-23・24	
5	隅丸長方形	225	205	220	200	65~80	〃	〃	DO-20・21	焼土層あり
6	〃	180	135	165	130	50~60	〃	〃	DN-21、DO-21	〃
7	〃	255	230	240	220	45~65	〃	〃	DP-11・12	底面にみだれあり
8	不整円形	190	150	120	80	40~43	〃	〃	DM-13、DN-13	
9	〃	(220)	(190)	—	—	(40)	底面に小ピット	〃	DJ-19・20	
10	楕円形	310	280	305	275	35~57	底面にピット	〃	DP-14・15、DQ-14・15	
12	円形	238	235	254	248	68~90	壁面2ヶ所に袋状掘り込み	〃	DN-23・24、DO-23・24	フラスコ状
13	〃	145	135	138	127	50	なし	〃	DM-25・26、DN-25・26	
14	隅丸方形	115	95	90	70	35~55	〃	〃	DP-14	
15	〃	120	95	100	75	45~50	〃	〃	DR-15	
16	隅丸長方形	135	90	125	65	16~25	〃	〃	DR-24・25	

あった。このことは、これらの土壇の構築時期を考えるうえで重要な鍵となる。すなわち、土師器を使用していた人々が、壊れた土師器あるいは不用となった土師器を、まだ埋まりきらない土壇に捨てたと推測されるからである。そのため、これらの土壇は出土した土師器より古く位置づけられることは当然としても、それほどの年代差があるとは思われない。土師器の製作年代が平安時代10世紀から11世紀と推定されるので、土壇の時期もその時期とみてよいであろう。なお、2号竪穴住居跡が1号土壇に切り込まれていることと、7号土壇出土の土師器と10号土壇出土の土師器が接合していることを記しておく。



## 第 章 溝状ピットと出土遺物

第1次調査で64基、第2次調査で47基検出した。

形状は、幅が広いもの、極めて狭いもの、両者の中間的なもの等多様である。構築場所は、傾斜方向に対して斜めになるような所に構築される傾向がみられる。

### 1. 長 軸 方 向

同一のものが極めて少なく一定ではない。図 - 292のグラフでみると、5°~10°E、25°~30°E、40°~48°E、55°~62°E、72°~75°Eにあるていど密な部分がみられる。この逆方向に構築されるものは、同一のものがさらに少ない。

### 2. 長 さ

上端最長が435cm、最短が236cmで、310~370cmが最も多い。下端最長が461cm、最短が220cmで、275~370cmが最も多い。ほとんどが上端が下端より長い。17号、18号、20号、27号、36号、38号、54号、55号、63号、208号、209号、213号、218号、225号、230号、231号、234号のように下端が上端より長いものもある。

### 3. 幅

上端は最大が140cm、最小が17cmで20~60cmが多い。下端は最大が39cm、最小が4cmで8~22cmぐらいに集中している。

### 4. 深 さ

最も深いものは、198cmで、最も浅いものが、55cmである。70~135cmが最も多くみられる。

### 5. ピットとの重複

(1) 幅の広いものが切られる例 — 246号が228号・229号・231号に切られている。

(2) 中間タイプが広いタイプを切る例 - 247号が236号(広いタイプ)を切っている。

(3) 同タイプどうしの重複

ア. 中間タイプどうし - 232号が233号を、20号が17号を切っている。

イ. 狭いタイプどうし - 220号が221号を、24号が23号を、33号が32号を、16号が4号を、59号が58号を、40号が41号を切っている。

(4) 中間タイプと狭いタイプの重複

- ア．中間タイプが切る例　－　30号が31号（狭いタイプ）を切っている。
- イ．中間タイプが切られる例　－　36号（狭いタイプ）が35号を切っている。

6．住居跡との重複

おおむね、土師器を伴う住居跡には切られ、縄文時代早期の物見台式・ムシリ式・赤御堂式・早稲田5類の土器を伴う住居跡を切っているということがいえる。ただ、1例ではあるが、下部から土師器の破片が出土した第47号（広いタイプ）を第33号（狭いタイプ）が切るといふ例外的なものもみられる。

7．溝状ピット内出土の土器

縄文時代 群土器から 群土器及び土師器で、1種類の土器だけの場合と2種類以上出土する場合がある。出土土器は、第31表のとおりである。

(1) 重複と出土土器

重複する溝状ピットから土器が出土する例は、3例みられる。

- ア．幅の広いものが切られる例　246号は、第 群・第 群・第 群土器が出土し、228号が第 群・第 群・第 群土器、231号が第 群土器が出土している。
- イ．中間タイプが広いタイプを切る例　247号は第 群土器だけ、236号が第 群土器だけ出土している。
- ウ．中間タイプどうしの重複　232号は第 群・第 群・第 群・第 群・第 群～第 群が出土し、233号は第 群だけ出土している。

(2) 形状と出土土器

ア．1種類の土器出土のもの

(ア) 第 群土器

〔広いタイプ〕 236号

〔狭いタイプ〕 212号

(イ) 第 群土器

〔中間タイプ〕 35号、233号、238号、231号、243号

〔狭いタイプ〕 206号、213号、214号

(ウ) 第 群土器

〔狭いタイプ〕 41号、201号、220号、247号

- (エ) 第 群土器
  - 〔狭いタイプ〕 244号
- イ．多種類の土器出土のもの
  - (ア) 第 群～第 群土器
    - 〔狭いタイプ〕 226号
  - (イ) 第 群～第 群土器
    - 〔広いタイプ〕 246号
  - (ウ) 第 群～第 群土器
    - 〔中間タイプ〕 217号、225号、240号
    - 〔狭いタイプ〕 203号、204号、209号、210号
  - (エ) 第 群～第 群土器
    - 〔中間タイプ〕 224号
    - 〔狭いタイプ〕 211号、216号
  - (オ) 第 群～第 群土器
    - 〔狭いタイプ〕 208号、215号、218号
  - (カ) 第 群～第 群
    - 〔中間タイプ〕 227号、232号、230号
    - 〔狭いタイプ〕 16号、49号、228号、234号
  - (キ) 第 群～第 群土器
    - 〔中間タイプ〕 15号、229号
    - 〔狭いタイプ〕 10号、18号、21号、237号

以上、溝状ピットと出土土器との関係についてみてきたが、本遺跡の場合出土遺物と構築時期とは、次のような理由で一致し難い。

(ア) 溝状ピットは、崩れやすい第 ～ 層を掘り込んでいるため、構築後これらの層に包み込まれている土器が落ち込む可能性が強い。

(イ) 遺構内の出土遺物は、ほとんどが覆土内から出土したものである。

しかし、遺構の時期推定には、切合い関係と出土遺物によることが不可欠なことには変わりなく、今後覆土内出土といえども層位ごとに集計するなど出土遺物との関係を解明する必要がある。

(成田 誠治)

表31 売場遺跡、溝状ピット一覧表

No.	グリッド	長			幅			深	長軸方向	備考
		上	中	下	上	中	下			
1	DL-24・25	320	338	333	88	18	10	(47~53)	46° W	
2	DM-22・23 DL — 23	346	380	369	60	36	20	82~86	68° E	3号土壇に切られる。
3	DN — 22	312		310	31		10	51~73	3° E	
4	DP — 22 DQ — 22	305		283	30		10	46~70	72° E	
6	DM — 25	310		270	32		11	80~87	55° W	14号土壇を切る。
8	DL-17・18 DM — 17	334		321	76		17	70~89	48.5° E	6号住居跡を切る。
10	DN — 18	293		276	50		13	116~136	53.5° E	IX群・X群土器
11	DN-16・17	335		330	57		12	115~136	66° W	
12	DL-16・17	338		322	33		13	60~80	54° W	6号住居跡を切る。
13	DK DL — 17	332		337	42		9	84~109	26° E	石鏃
14	DK-17・18	290	301	256	76	32	12	88~120	55° W	
15	DM — 16	335		337	58		20	107~125	41° E	IX群・X群・XI群土器、石斧（4層）
16	DP-21・22	341		336	28		11	(46~62)	72° W	VI群・IX群土器
17	DJ DK — 17	283	324	353	68	42	18	107~115	61° E	20号に切られる。
18	DO DP — 9	406		444	49		16	(32~88)	32.5° E	IX群・X群土器、すり石
20	DJ DK — 17	333		409	56		10	115~132	25.5° E	17号を切る。
21	OP DO — 23	344		345	39		18	(67~78)	81° E	IX群・X群土器、くぼみ石（1層）
22	DM DN — 15	310		301	80		9	74~104	27° E	くぼみ石（1層）
23	DM-13・14	337		330	38		10	(21~40)	53.5° W	
24	DM — 14	326		332	36		12	(32~50)	29.5° E	
25	DL DM — 13	312		289	27		8	59~82	49° E	
26	DL DM — 20	(293)		(296)	28		8	(40~64)	24.5° E	4号住居跡を切り、2号住居跡に切られる。
27	DO-11・12 DP — 11	363		434	57		22	93~99	84.5° E	7号土壇に切られる。石鏃
28	DO-14・15	366		337	47		9	38~74	11.5° E	
29	DO DP — 15	271		266	20		13	14~74	18.5° E	
30	DM DN — 12	309	331	328	69	32	22	97~102	75° E	15号住居跡を切り、31号に切られる。
31	DM DN — 12	336		340	24		9	53~73	32.5° E	15号住居跡・30号を切る。
32	DN・DO-25 DO — 26	(291)		(283)	20		8	(40~48)	11.5° W	33号に切られる。
33	CO — 25	(266)		(262)	20		12	(35~37)	88.5° W	32号を切る。
35	DQ-15・16	312		337	70		39	67~97	44.5° W	VI群土器
36	DQ-16・17	329		366	43		8	75~86	32° W	
37	DS-15・16 DT — 16	358		384	50		16	63~142	33° W	
38	DO・DP-20 DO — 21	370		426	56		13	70~102	81.5° W	5号土壇を切る。
40	DS-16・17	381		406	29		17	(40~48)	61.5° W	41号に切られる。
41	DS-17・18	285		273	33		16	(19~36)	4.5° E	40号を切る。IX群土器
42	DU-15・16	323		349	40		13	81~100	55° W	
43	DT-15・16	269		258	37		14	81~94	24° W	
44	DT-14・15	316		333	36		15	83~99	39° E	45号を切る。
45	DT — 14	(120)		(120)	57		16	130~137	57.5° E	44号に切られる。
47	DN・DO-25・26	435	488	360	136	143	24	134~198	6° W	33号を切る。土師器出土
48	DR-19・20	298		284	17		4	(49~61)	34° E	
49	DP-13・14	286		265	36		9	56~78	14° E	VI群・IX群・X群・XI群土器
50	DR — 24	331		315	19		8	(10~21)	81° E	6号土壇を切る。
51	DR DS — 23	312		328	26		15	(32~43)	33.5° E	
52	DS・DF-23 DS — 24	367		368	25		12	31~68	73.5° W	
53	DR DS — 22	358		366	28		14	67~82	59° E	
54	DE EA — 17	413	466	442	96	56	22	109~153	52° E	
55	DR-10・11	311		397	24		8	51~67	7.5° E	
56	DR-10・11	236		220	22		9	30~54	37° W	
57	DR-10・11	324		334	30		17	24~97	20° W	
58	DS DT — 21	(348)		343	45		15	69~95	31° E	59号に切られる。
59	DS-20・21	339		308	20		7	54~64	74.5° W	58号を切る。

No.	グリッド	長		幅		深	長軸方向	備考		
		上	下	上	下					
60	DN-24・25 DO-24	(259)		21		13	86~90	83.5°E		
61	DS-10・11	288		284	40	9	59~70	49.5°W		
62	DS-13・14	278		285	44	21	50~71	39°W		
63	DS-11・12	396		434	61	22	64~86	45°W		
64	DT-10・11	284		278	33	22	69~86	44°W		
201	EEF-26	365		361	28	16	(27~36)	4°E	IX群土器、石ヒ	
202	EEF-25	299		289	22	13	(26~40)	18°E		
203	EEF-25	367		365	27	18	(36~49)	5.5°E	V群・VI群土器	
204	EEG-25	312		323	19	18	(30~33)	9.5°E	204号住居跡を切る。V群・VI群土器、石ヒ	
205	EEG-24	415		415	35	28	(10~20)	32°E	205号住居跡を切る。	
206	EEEF-24 EE-23	319		309	17	11	14~58	26°E	205号住居跡を切る。VI群土器	
207	EEG-24	364		356	20	14	18~87	25°E	205号住居跡・208号住居跡を切る。	
208	EHT-23	305		344	39	13	(34~45)	43.5°E	V群・VI群・X群・XI群・IX群土器、たたき石	
209	EHT-22	322		359	39	16	51~65	31°E	V群・VI群土器	
210	EEG-21 EG-22	317		333	30	10	40~57	6.5°W	V群・VI群土器	
211	EG-20・21	345		344	28	13	49~58	27°W	V群・X群土器	
212	EEH-19	319		304	22	7	(18~30)	29.5°E	V群土器	
213	EEH-19	297		325	(18)	(8)	55~63	61.5°E	VI群土器	
214	EJ-19・20	344	333	338	27	16	(36~48)	7°W	206号住居跡を切る。VI群土器	
215	EIJ-20 EJ-21	279		281	41	17	94~112	16°E	204号竪穴遺構を切る。V群・VI群・X群・XII群土器	
216	EI-21・22	328		340	(9)	(5)	(39~48)	55°W	V群・VI群・IX群・X群土器	
217	EJK-24	344		356	41	10	73~124	45°E	V群・VI群土器	
218	EJK-24	281		305	29	14	(33~40)	62.5°E	203号住居跡を切る。V群・IX群・XII群土器	
219	EJK-26	410		427	31	14	34~147	46.5°E	202号住居跡を切る。	
220	EK-25・26	314		312	16	10	(20~42)	4.5°E	221号を切る。IX群土器	
221	EKL-26	(284)		(280)	14	11	(32~45)	38°E	220号に切られる。	
222	EKL-25	356		360	16	10	(25~32)	63°E		
223	EM-23・24	(198)		(280)	21	10	14~111	34°W	201号住居跡を切る。	
224	EKJ-23 EJ-23	278	308	290	43	22	26	70~89	7°E	V群・IX群土器 石ヒ
225	EKL-21	383	382	432	60	38	10	68~91	43°E	V群・VI群土器、スクレーパー、たたき石、すり石
226	EM-19・20	(376)		(371)	39	13	80~96	67°W	II群・V群・VI群・IX群・XII群土器	
227	EIJ-16	331	298	310	83	15	11	74~84	82°E	VI群・XI群・XIV群土器、石錘・たたき石
228	EIJ-17 EJ-17	409	394	406	40	25	19	60~94	26°E	229号に切られる。VI群・IX群・XII群土器
229	EIJ-17	358	320	336	69	18	22	86~101	24°E	228号・246号を切る。IX群・XII群・XIV群土器、すり石
230	EJK-17	291		327	59	16	94~105	36°E	VI群・IX群・X群土器	
231	EIJ-17 EJ-18	290	304	318	52	28	15	84~102	18°E	246号を切る。VI群土器
232	EJ-18	309		285	59	14	92~120	12°E	233号・246号を切る。VI・VII・IX・X・XII・XIII・XIV群土器	
233	EJ-18	320	350	321	57	32	20	86~91	33°E	VI群土器
234	EHI-17 EI-18	411		461	32	12	53~77	26°E	VI群・IX群土器	
235	EN-21	(60)		(60)	79	92	41	82~118	44°E	
236	EDE-26	259		247	27	12	48~58	35.5°E	V群土器	
237	EDE-25 EE-26	312		320	25	15	(32~52)	10°W	IX群・X群土器	
238	EDE-24	325		337	23	19	50~66	17°E	205号住居跡を切る。VI群土器	
239	EB-23	268		273	13	12	(43~56)	31°E		
240	EBC-22	371		370	52	18	(30~58)	17°E	V群・VI群土器、スクレーパー	
241	EB-21・22	344	402	308	81	29	21	45~80	47°W	
242	EB-20	(65)	313	325	39	20	16	35~98	77°W	
243	EK-18	289	295	285	25	14	8	58~73	17.5°E	VI群土器
244	EAE-24 EA-25	(312)		334	59	15	27~124	66.5°W	X群土器	
246	EJ-17	(383)	(386)	(406)	140	83	27	106~145	10°W	IV群・VI群・IX群土器、スクレーパー
247	EDE-26	308	332	324	74	25	16	84~97	36°E	236号を切る。IX群土器

表32 溝状ピット内出土石器一覧表

図版番号	遺構番号 層	種 別	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	重 量 (g)	石 質	分 類	残存部位	その他
324-1	13 号	石 鍬	12	10	2	0.2	黒			長幅比 I
ク-2	27 号	ク	(23)	14	3	(0.6)	珉頁	A <sub>2</sub>		
ク-3	201 3 号上	スクレーパー	29	48	6		珉頁			
ク-4	215 号	石 鍬	28	21	4	2.5	チャ	A <sub>3</sub>		長幅比 I
ク-5	201 3 号上	石 ヒ	(23)	(23)	(9)	(5.0)	珉頁			
ク-6	204 号	石 ヒ	77	23	9	14.9	珉頁	I b <sub>1</sub>		
ク-7	231 号	石 篋	69	34	15	32.4	珉頁	II a		
ク-8	225 号	スクレーパー	45	35	9	17.0	珉頁			
ク-9	2 号	石 槍	54	26	8	11.4	珉頁			長幅比 I
ク-10	240 号	スクレーパー	54	29	11	16.0	珉頁			
ク-11	246 号	ク	50	40	6	13.7	珉頁			
ク-12	18 号	打製石斧					輝		2 下	
ク-13	227 号	石 錘	48	37	11	26	安	I		
325-1	15 4 層	打製石斧	109	61	30	231	安	III		磨滅敲打 I 全マ

表33 溝状ピット内出土磨敲凹石類一覧表

図版番号	遺構番号 層	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	重 量 (g)	石 質	分 類	類	度	h	複 合
325-2	21 1 層	77	56	44	273	凝	IV b	スータ凹	1		
ク-3	18 号						III b	2	2		
ク-4	22 1 層	106	85	48	623	砂	I b	スータ凹	1		
ク-5	224 号	(80)	60	28	197	チャ	IV a	タ	1		
ク-6		(64)	37	17					1		
ク-7	225 号	129	56	30	277	頁	III b	ス	1	○	
326-1	225 号					砂	IV b	スータ凹	1	○	
ク-2	227 号	93	91	44	527	古安	I b	スータ	1		
ク-3	229 号					安	III b	ス	2	○	
ク-4	231 号				266	鉄石	IV b	スータ	1	○	



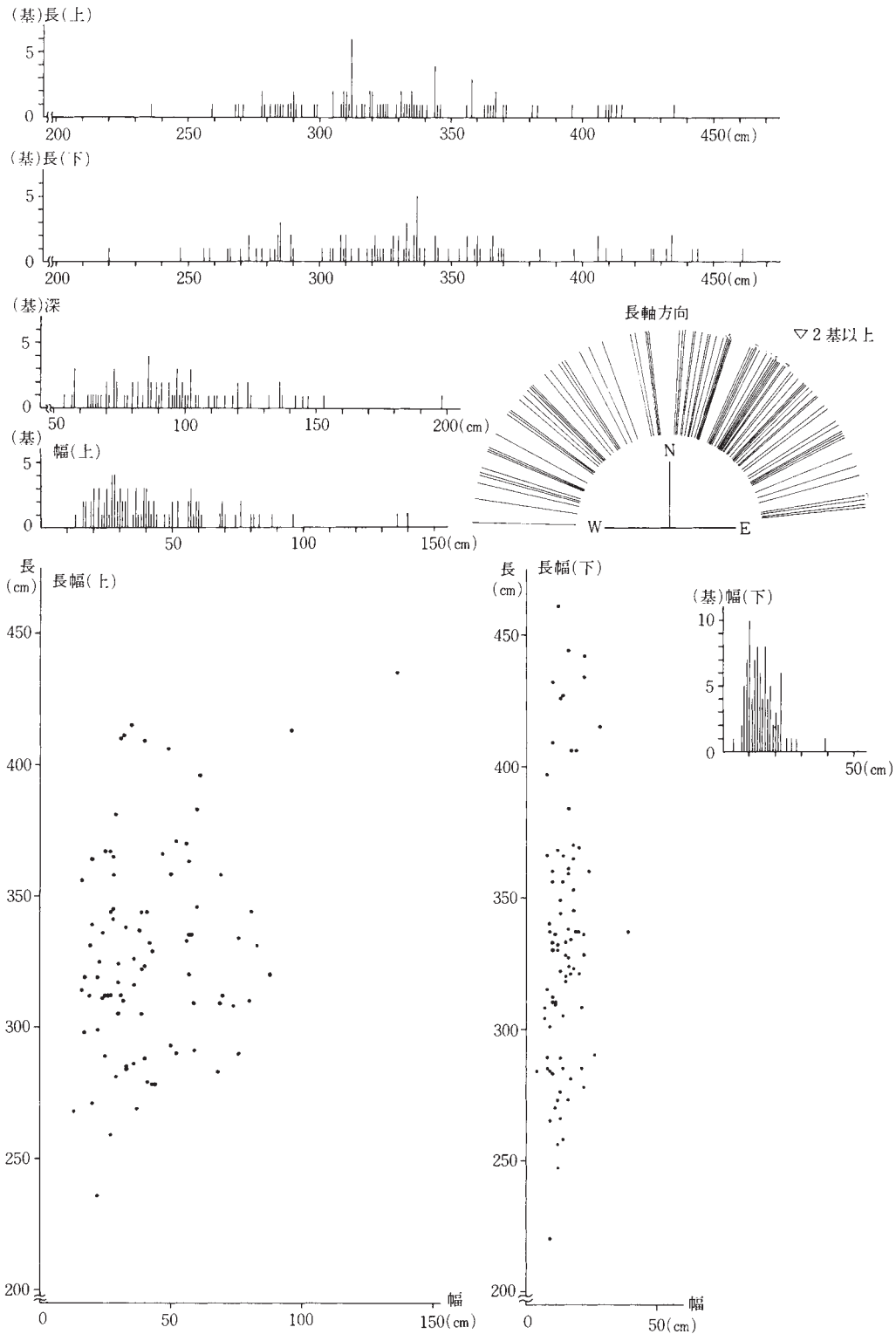
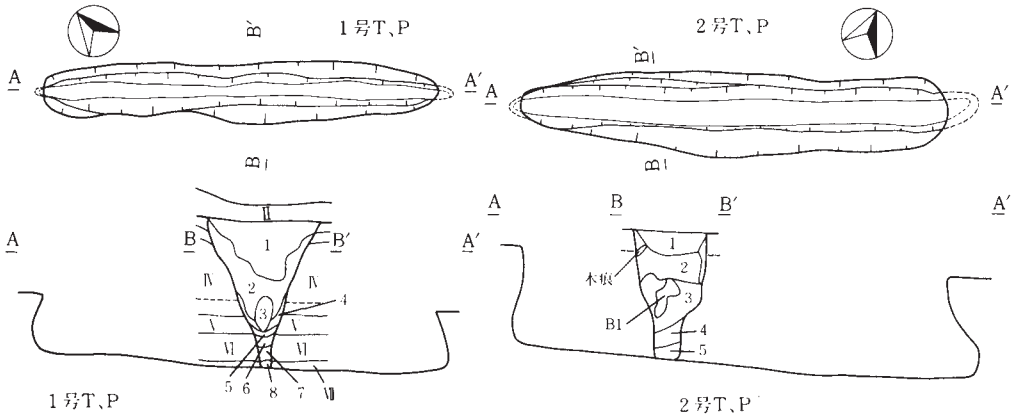
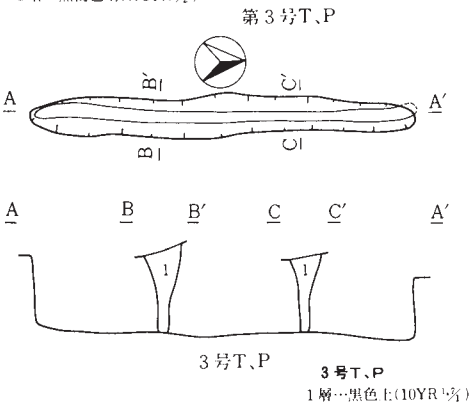


図292 溝状ピット計測グラフ



- 1号T,P**
- 1層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/5)
  - 2層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/5)
  - 3層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/5)
  - 4層…黒褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/5)
  - 5層…褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - 6層…黒褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/5)
  - 7層…暗褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - 8層…黒褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/5)

- 2号T,P**
- 1層…黒色土(10YR<sup>1</sup>/5)
  - 2層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/5)
  - 3層…褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - B1層…暗褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - 4層…黄褐色土(10YR<sup>4</sup>/5)
  - 5層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/5)



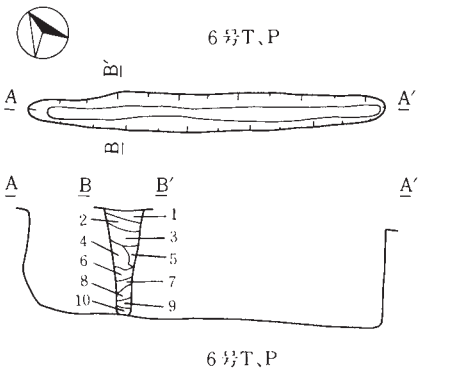
第3号T,P

第4号T,P

3号T,P  
1層…黒色土(10YR<sup>1</sup>/5)

- 4号T,P**
- 1層…黒色土 (10YR<sup>1</sup>/5)
  - 2層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/5)
  - 3層…暗褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - 4層…黒色土(10YR<sup>1</sup>/5)
  - 5層…暗褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/5)

- 8号T,P**
- I層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/5)
  - II層…黒褐色土(7.5YR<sup>2</sup>/5)
  - 1層…黒色土(5YR<sup>1</sup>/5)
  - 2層…黒褐色土(5YR<sup>2</sup>/5)
  - 3層…暗褐色土(10YR<sup>3</sup>/5)
  - 4層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/5)
  - 5層…黒褐色土(10YR<sup>2</sup>/5)
  - 6層…浅黄棕色土(10YR<sup>4</sup>/5)
  - 7層…黒色土(7.5YR<sup>1</sup>/5)

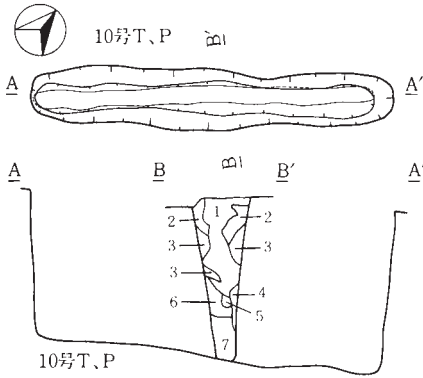


6号T,P

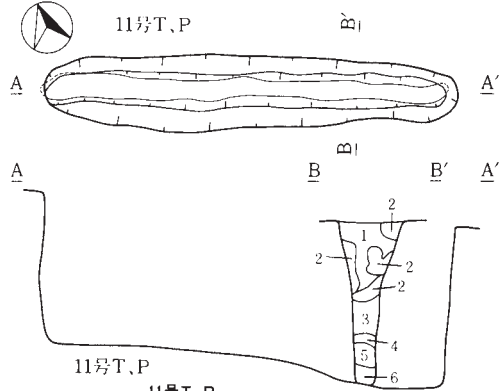
第8号T,P

0 2m

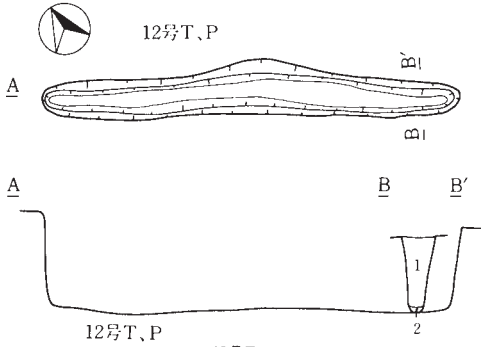
図293 溝状ピット実測図



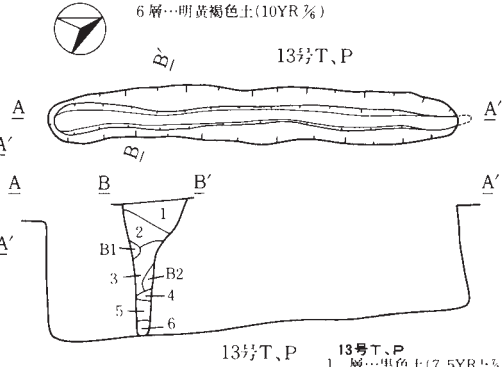
- 10号T、P
- 1層…黒色土(7.5YR 5/5)
  - 2層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 3層…黄褐色土(10YR 5/6)
  - 4層…黒色土(7.5YR 3/1)
  - 5層…黒褐色土(7.5YR 3/1)
  - 6層…明黄褐色土(10YR 5/6)
  - 7層…黒褐色土(7.5YR 3/1)
  - 8層…暗褐色土(10YR 3/2)



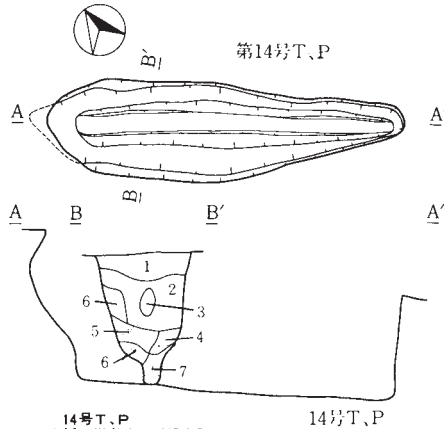
- 11号T、P
- 1層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 2層…褐色土(7.5YR 3/4)
  - 3層…黒褐色土(10YR 3/2)
  - 4層…明黄褐色土(10YR 5/6)
  - 5層…黒褐色土(10YR 3/2)
  - 6層…明黄褐色土(10YR 5/6)



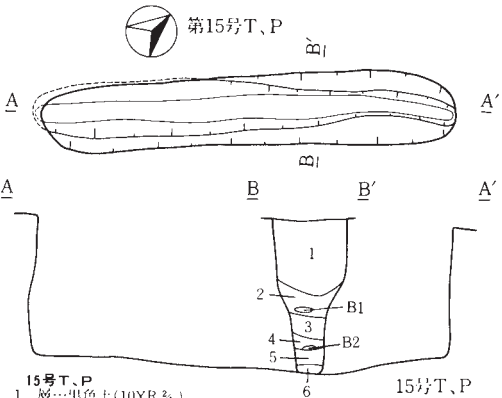
- 12号T、P
- 1層…黒色土(7.5YR 3/1)
  - 2層…暗褐色(10YR 3/2)



- 13号T、P
- 1層…黒色土(7.5YR 3/1)
  - 2層…黒色土(10YR 3/1)
  - 3層…黒褐色土(5YR 3/1)
  - 4層…黒褐色土(7.5YR 3/1)
  - 5層…黄褐色土(10YR 5/6)
  - 6層…暗褐色土(7.5YR 3/2)
  - B1層…黒褐色土(10YR 3/2)
  - B2層…黒褐色土(10YR 3/2)



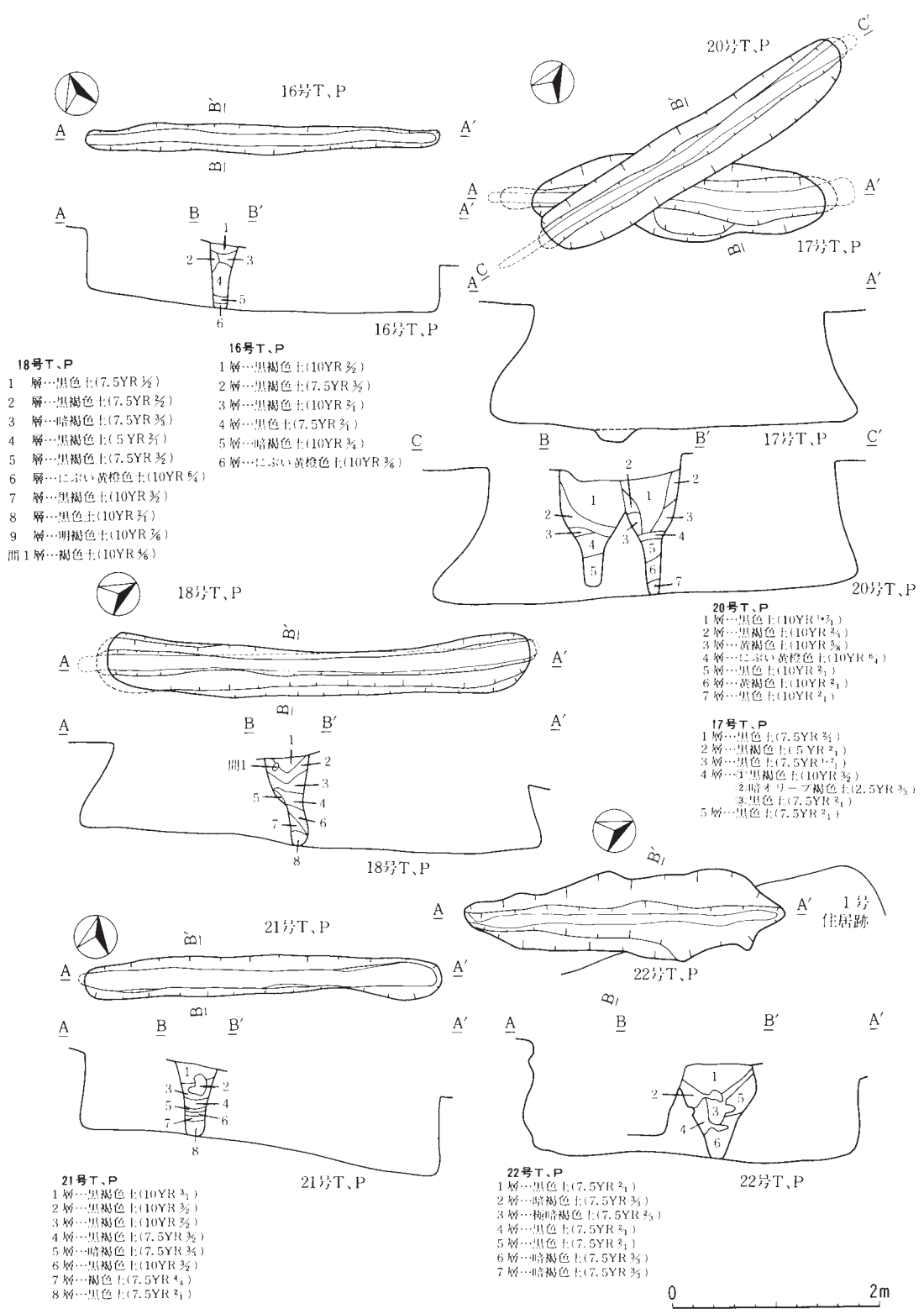
- 14号T、P
- 1層…黒色土(10YR 3/1)
  - 2層…黒色土(7.5YR 3/1)
  - 3層…黒色土(10YR 3/1)
  - 4層…黒褐色土(7.5YR 3/2)
  - 5層…明黄褐色土(10YR 5/6)
  - 6層…明黄褐色土(10YR 5/6)
  - 7層…黒色土(7.5YR 3/1)



- 15号T、P
- 1層…黒色土(10YR 3/1)
  - 2層…褐色土(7.5YR 3/4)
  - 3層…黒色土(7.5YR 3/1)
  - 4層…褐色土(10YR 5/6)
  - 5層…明黄褐色土(10YR 5/6)
  - 6層…に茶・黄褐色土(10YR 5/6)
  - B1層…黒褐色土(10YR 3/2)
  - B2層…暗褐色土(10YR 3/2)

0 2m

図294 溝状ピット実測図



- 18号T、P**
- 1層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 2層…黒褐色土(7.5YR 5/2)
  - 3層…暗褐色土(7.5YR 5/2)
  - 4層…黒褐色土(5YR 5/2)
  - 5層…黒褐色土(7.5YR 5/2)
  - 6層…にぶい黄棕色土(10YR 5/2)
  - 7層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 8層…黒色土(10YR 5/2)
  - 9層…明褐色土(10YR 5/2)
  - 間1層…褐色土(10YR 5/2)

- 16号T、P**
- 1層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 2層…黒褐色土(7.5YR 5/2)
  - 3層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 4層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 5層…暗褐色土(10YR 5/2)
  - 6層…にぶい黄棕色土(10YR 5/2)

- 20号T、P**
- 1層…黒色土(10YR 5/2)
  - 2層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 3層…黄棕色土(10YR 5/2)
  - 4層…にぶい黄棕色土(10YR 5/2)
  - 5層…黒色土(10YR 5/2)
  - 6層…黄棕色土(10YR 5/2)
  - 7層…黒色土(10YR 5/2)

- 17号T、P**
- 1層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 2層…黒褐色土(5YR 5/2)
  - 3層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 4層…1. 黒褐色土(10YR 5/2)  
2. 暗オリーブ褐色土(2.5YR 5/2)  
3. 黒色土(7.5YR 5/2)
  - 5層…黒色土(7.5YR 5/2)

- 21号T、P**
- 1層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 2層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 3層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 4層…黒褐色土(7.5YR 5/2)
  - 5層…暗褐色土(7.5YR 5/2)
  - 6層…黒褐色土(10YR 5/2)
  - 7層…褐色土(7.5YR 5/2)
  - 8層…黒色土(7.5YR 5/2)

- 22号T、P**
- 1層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 2層…暗褐色土(7.5YR 5/2)
  - 3層…極暗褐色土(7.5YR 5/2)
  - 4層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 5層…黒色土(7.5YR 5/2)
  - 6層…暗褐色土(7.5YR 5/2)
  - 7層…暗褐色土(7.5YR 5/2)

図295 溝状ピット実測図

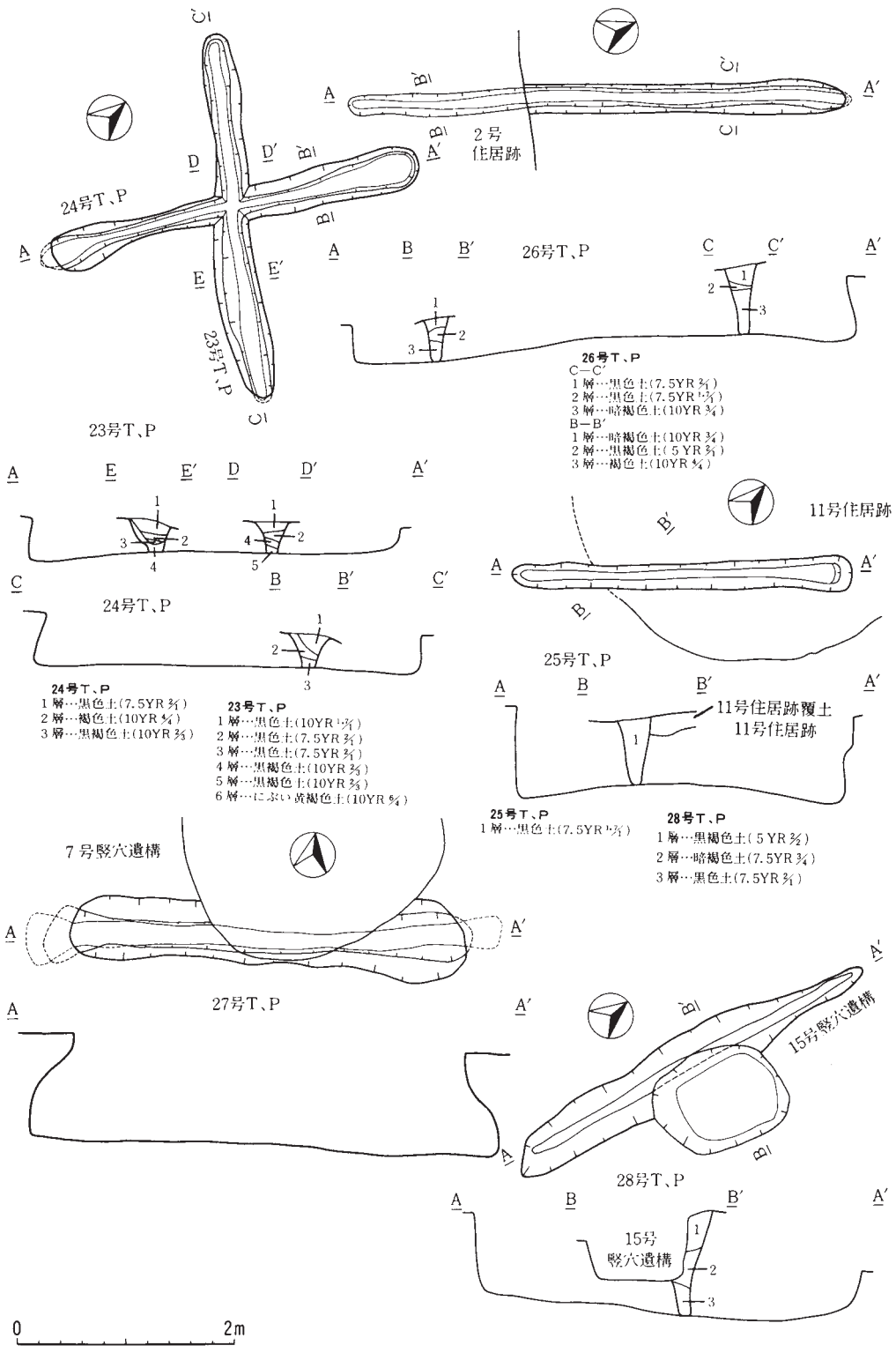


図296 溝状ピット実測図

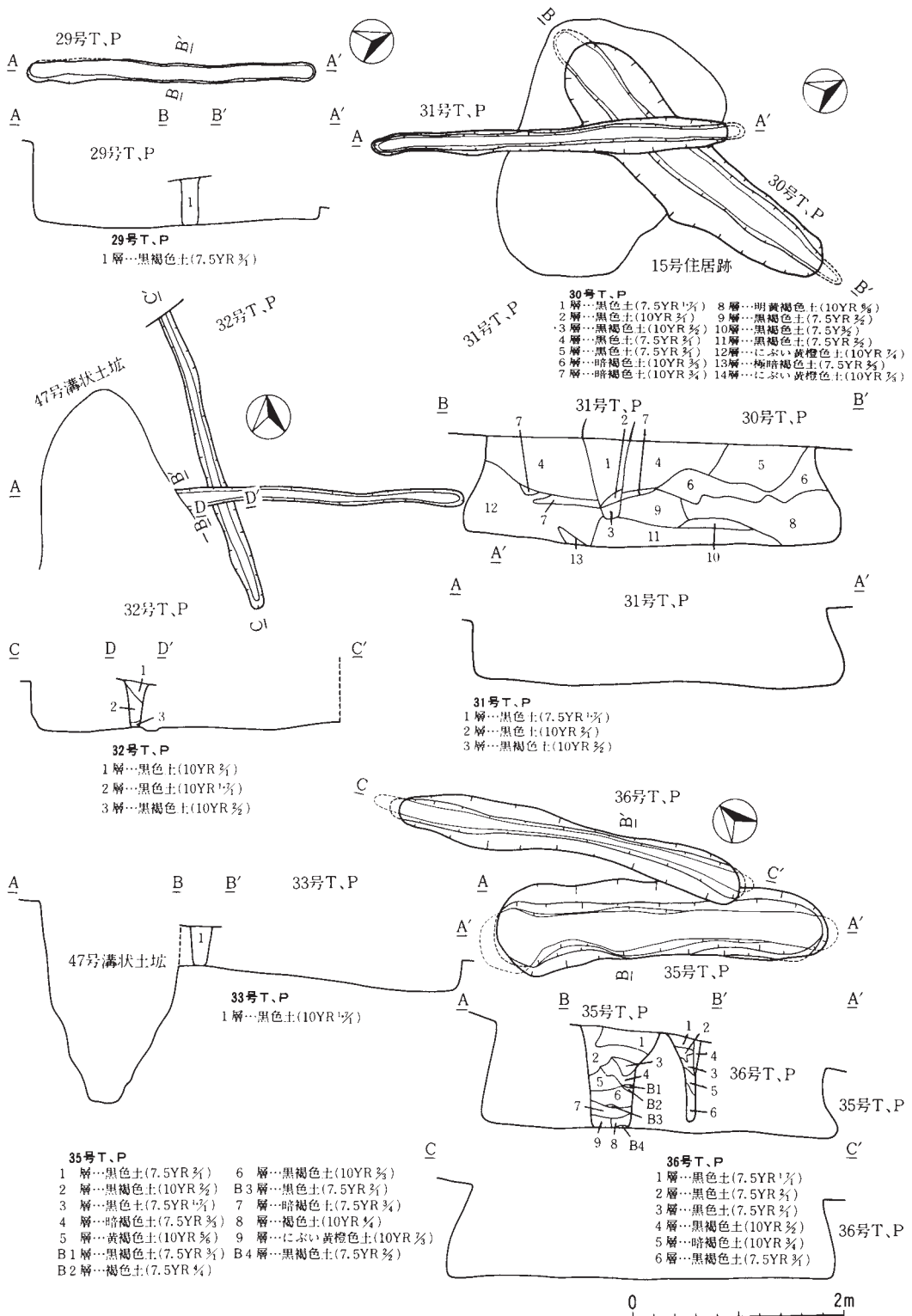


図297 溝状ピット実測図



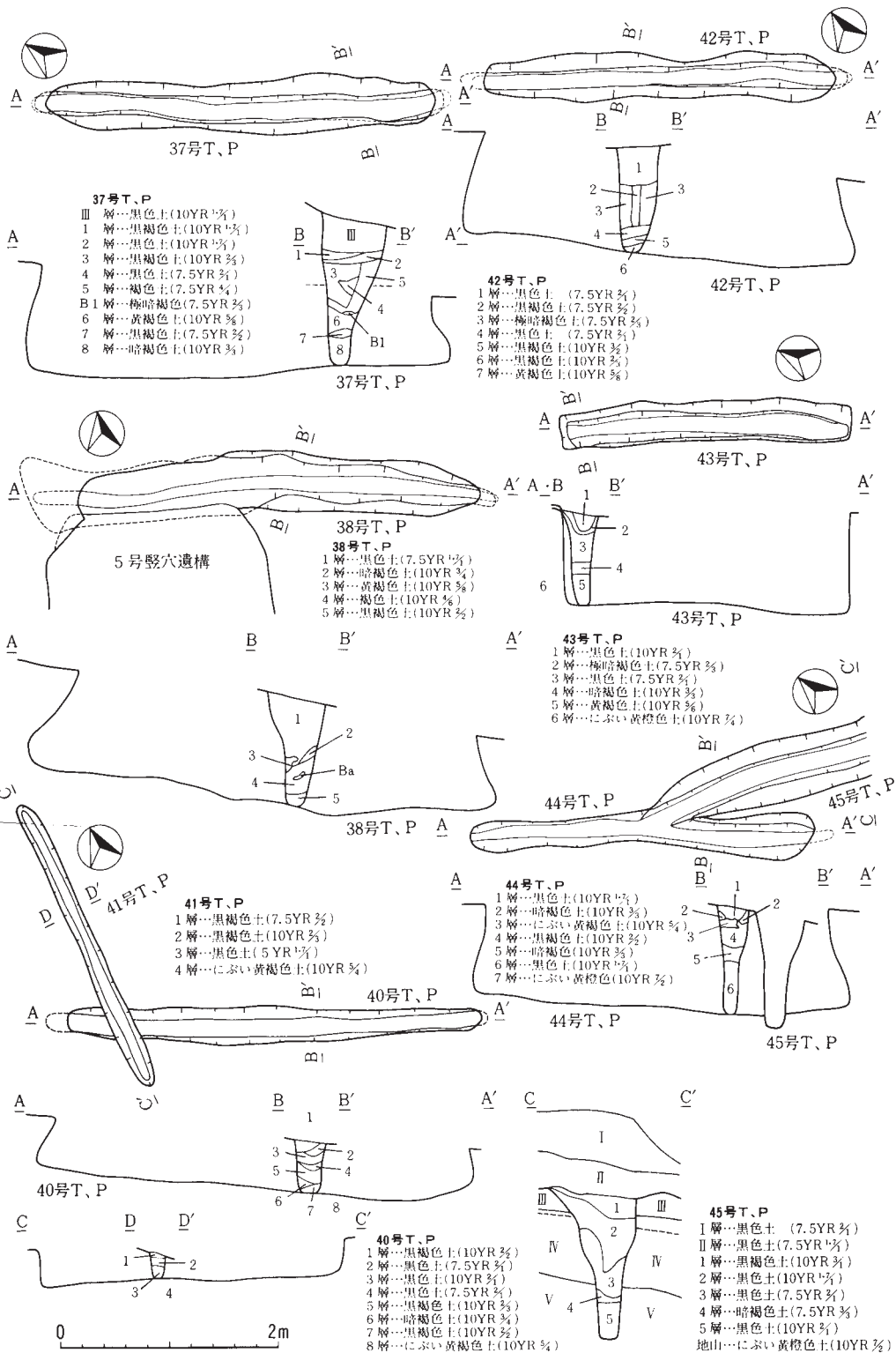


図298 溝状ピット実測図



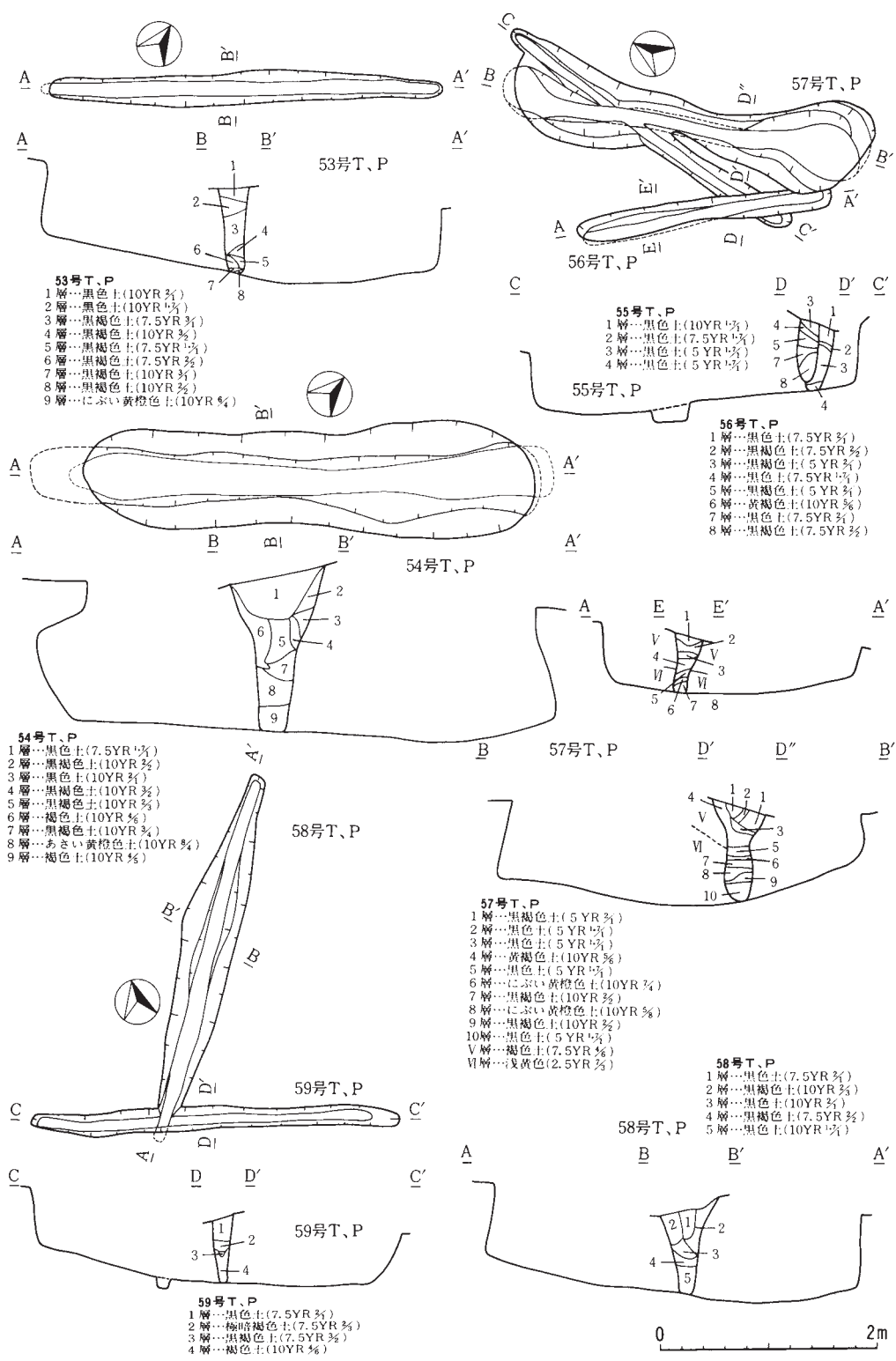


図300 溝状ピット実測図

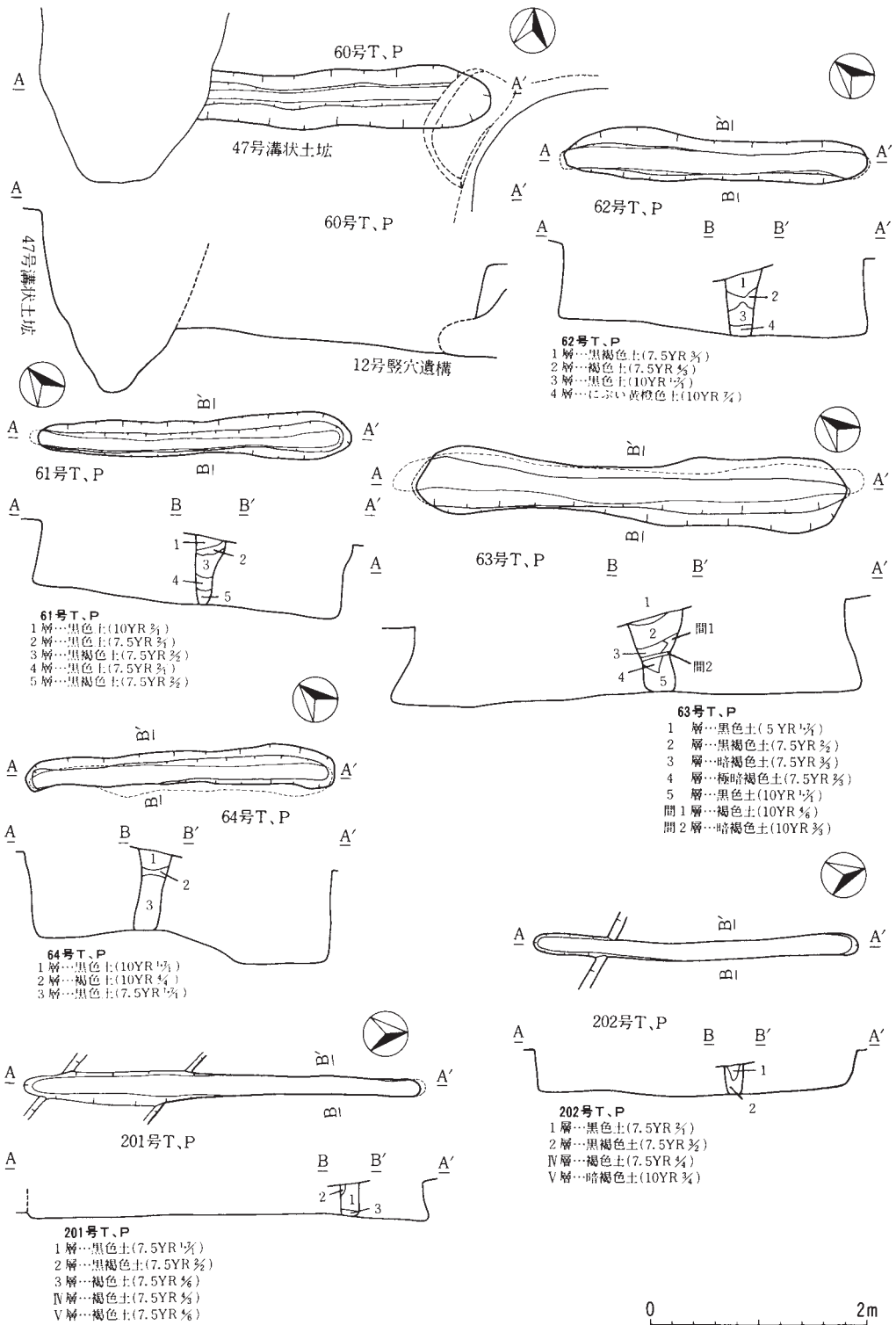


図301 溝状ピット実測図

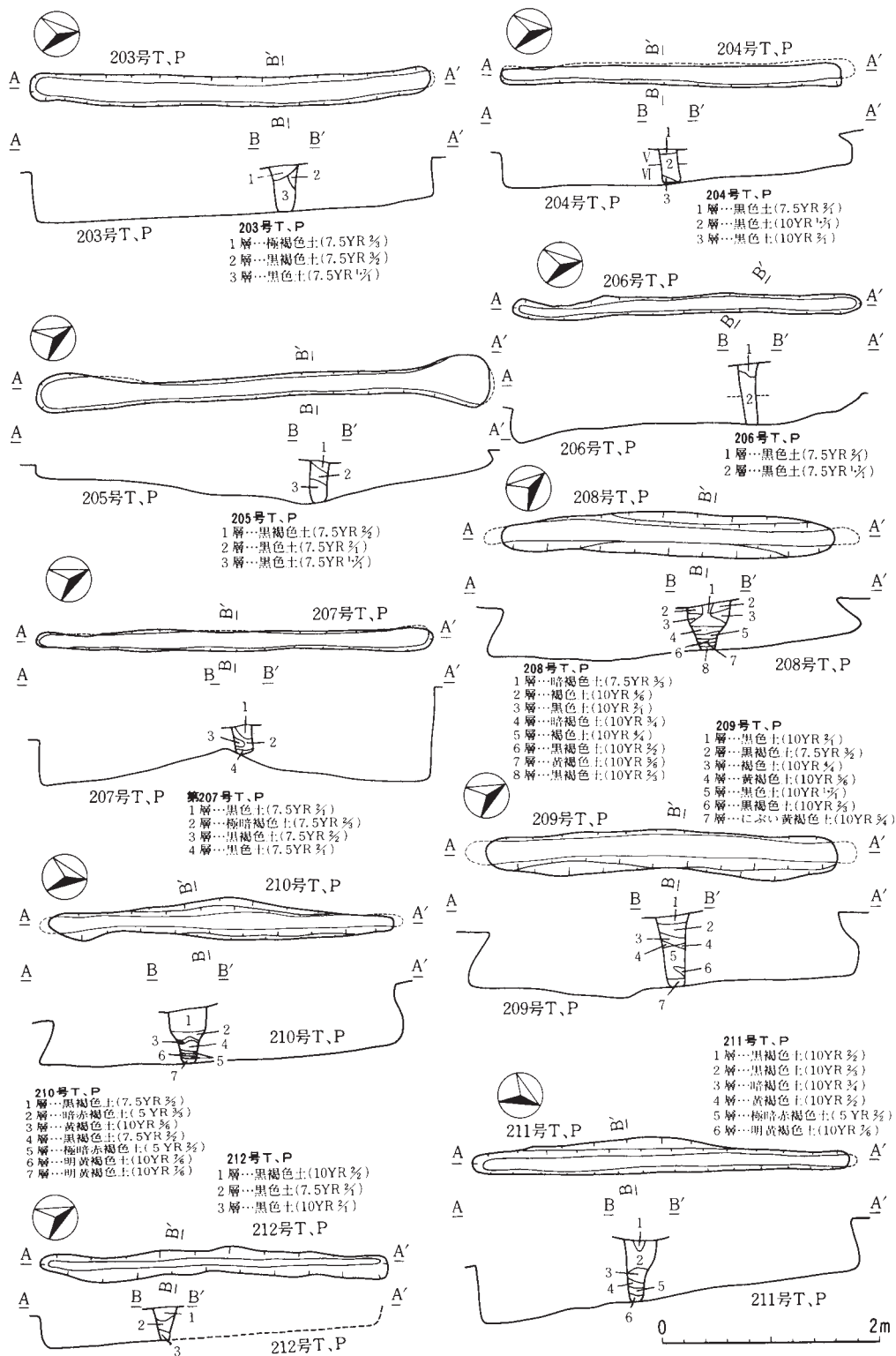


図302 溝状ピット実測図

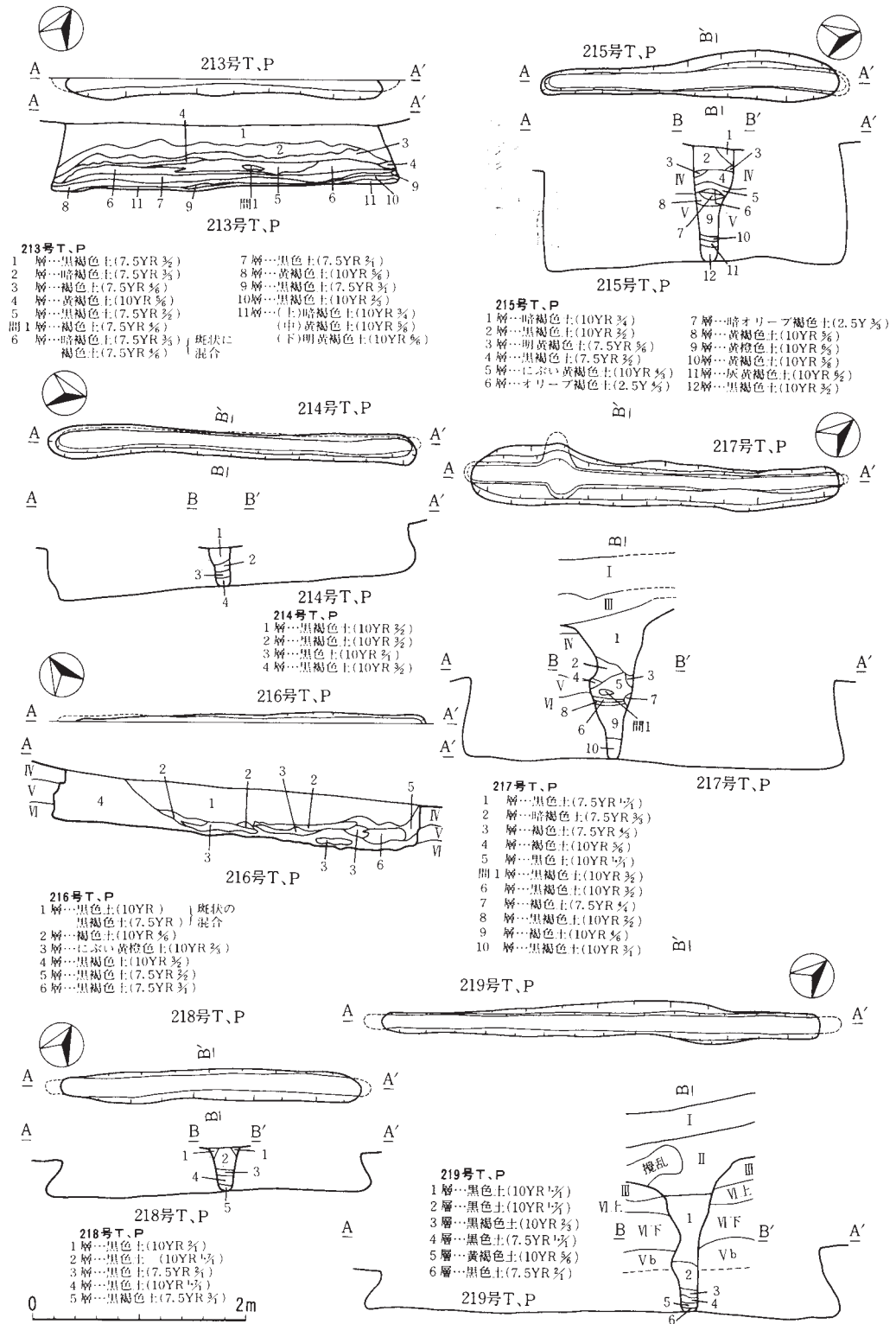


図303 溝状ピット実測図



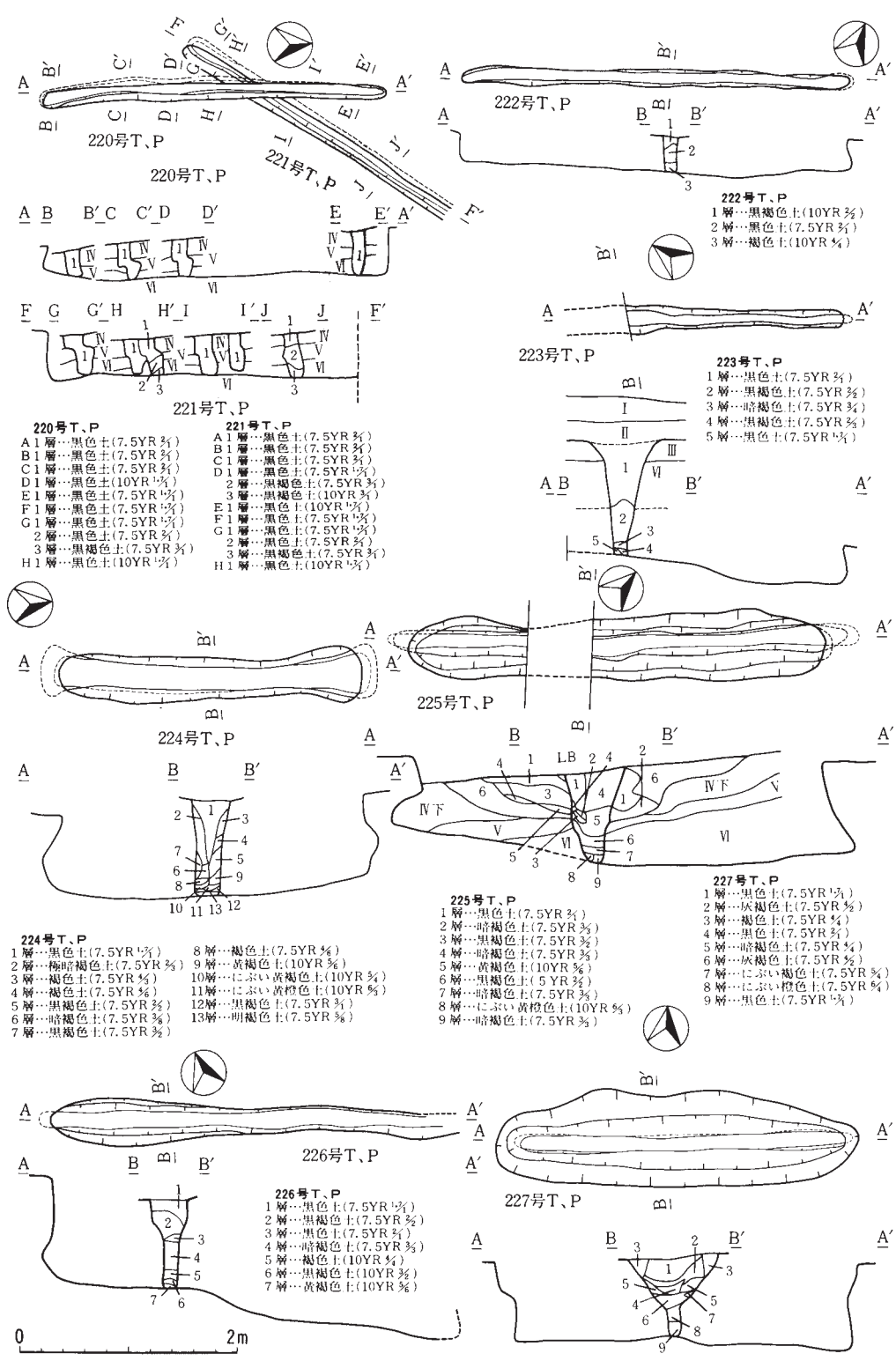


図304 溝状ピット実測図

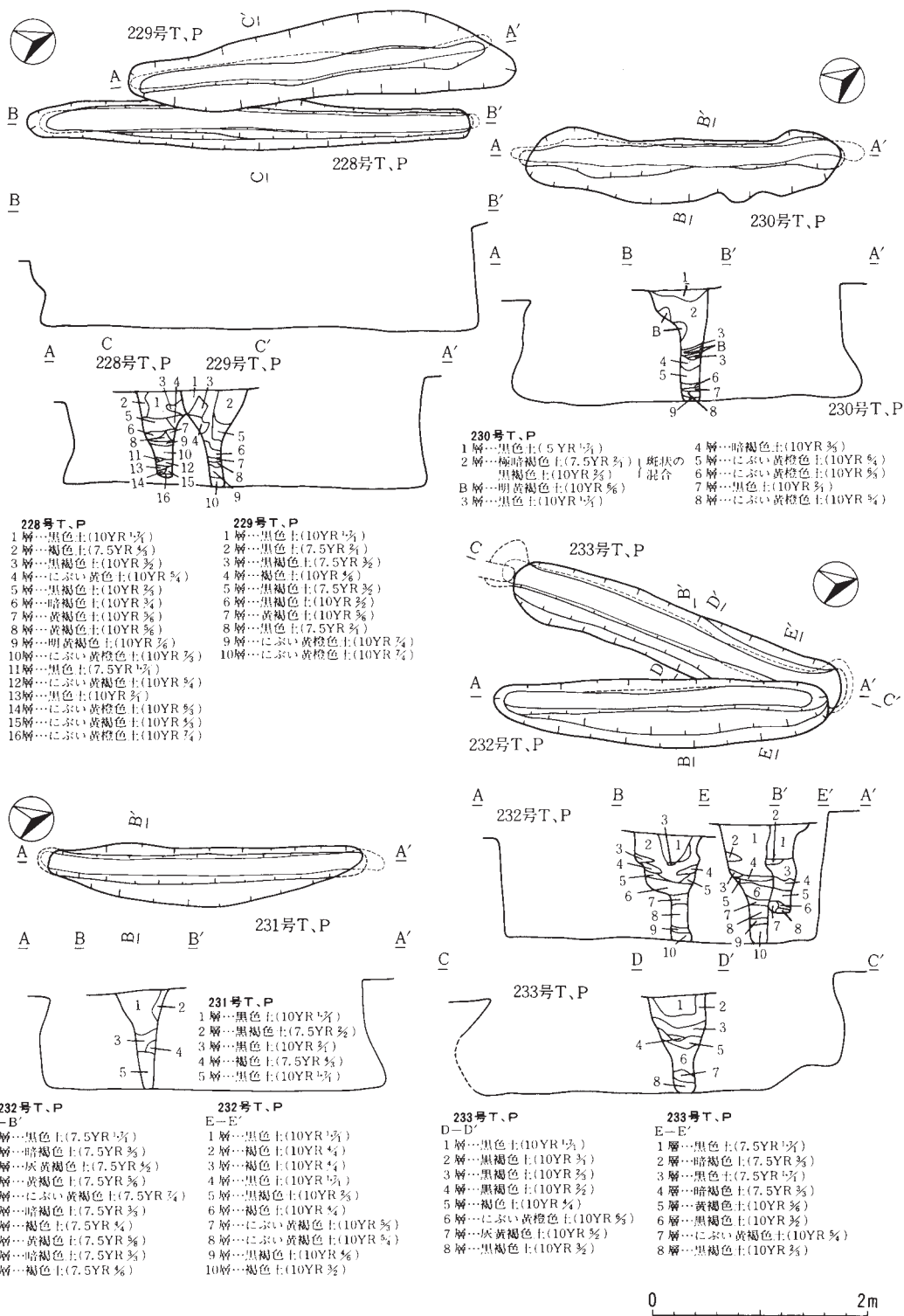


図305 溝状ピット実測図

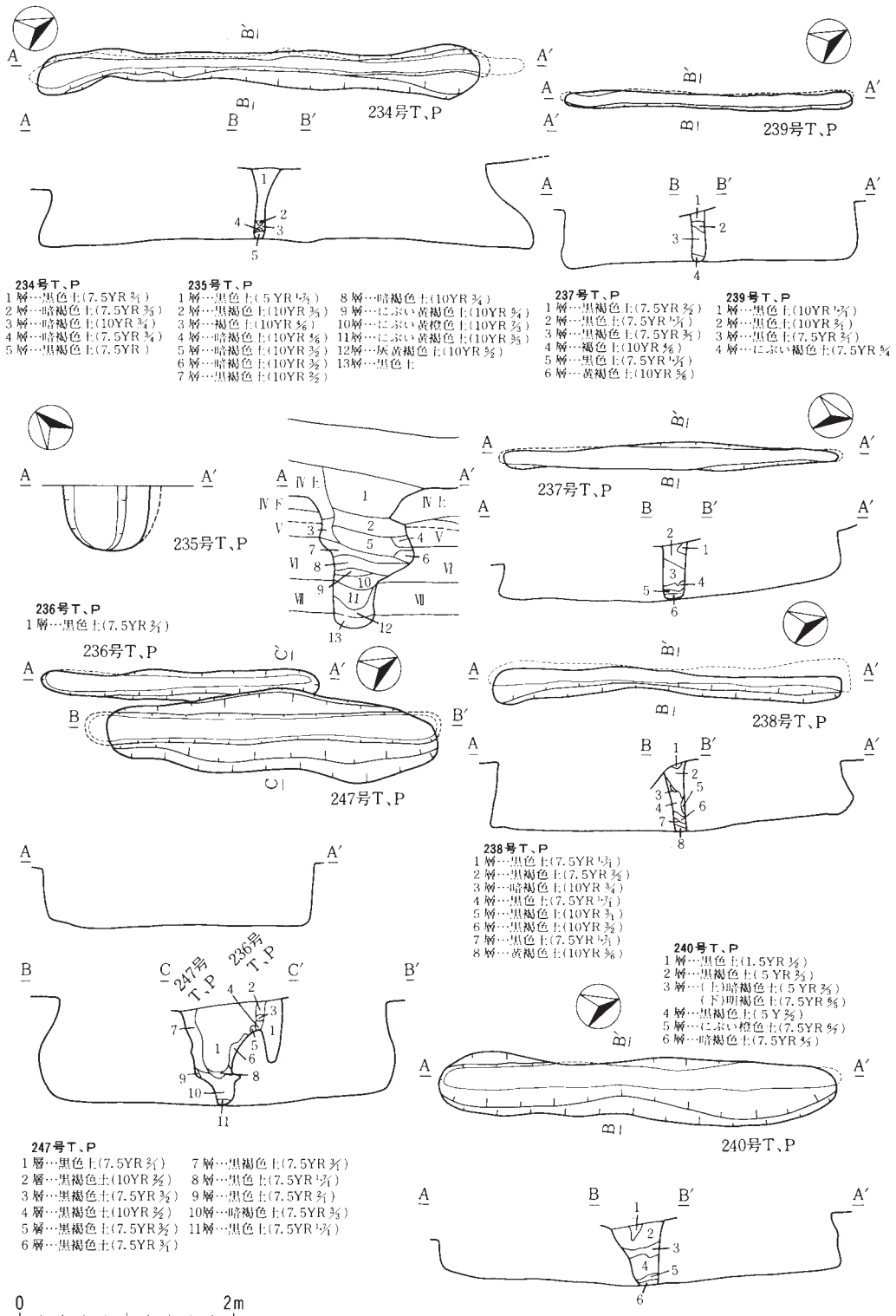


図306 溝状ピット実測図

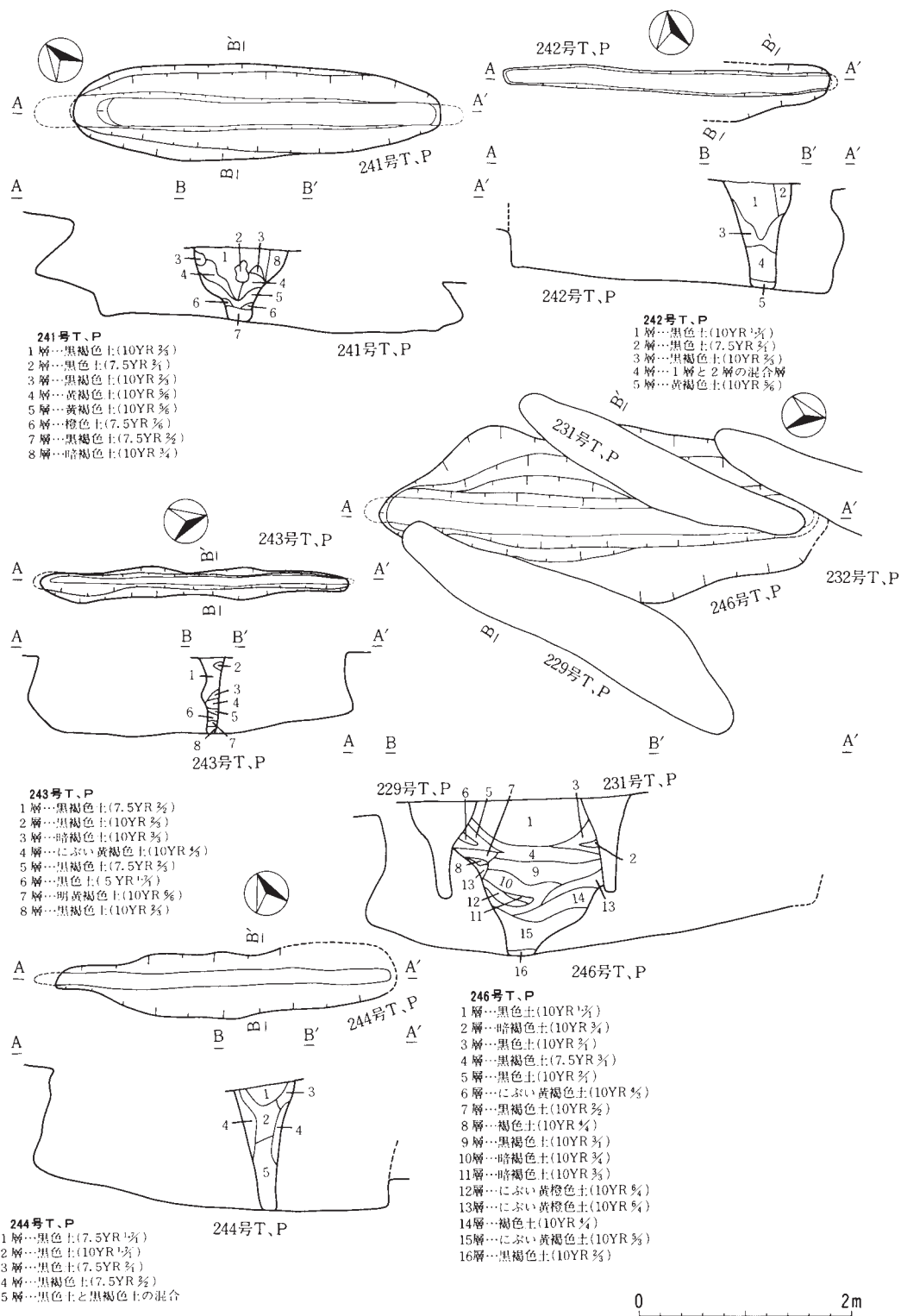
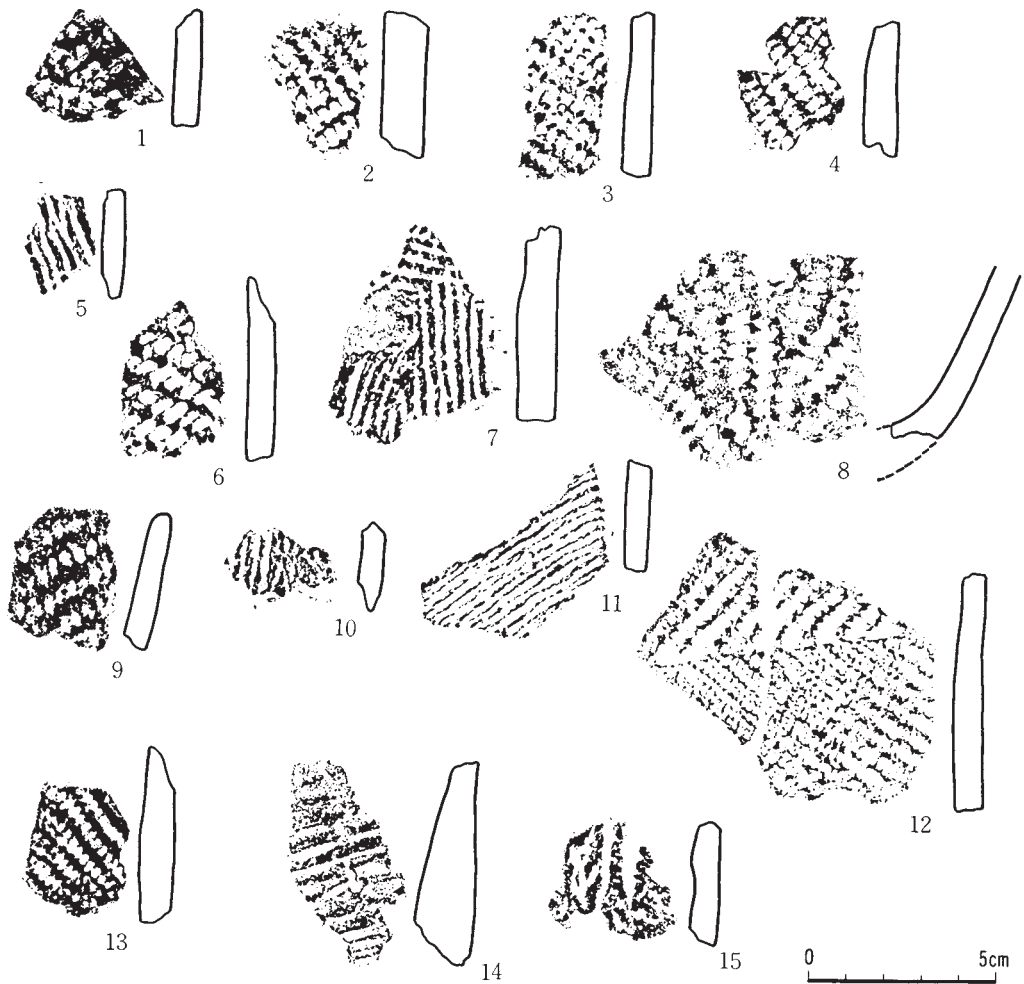


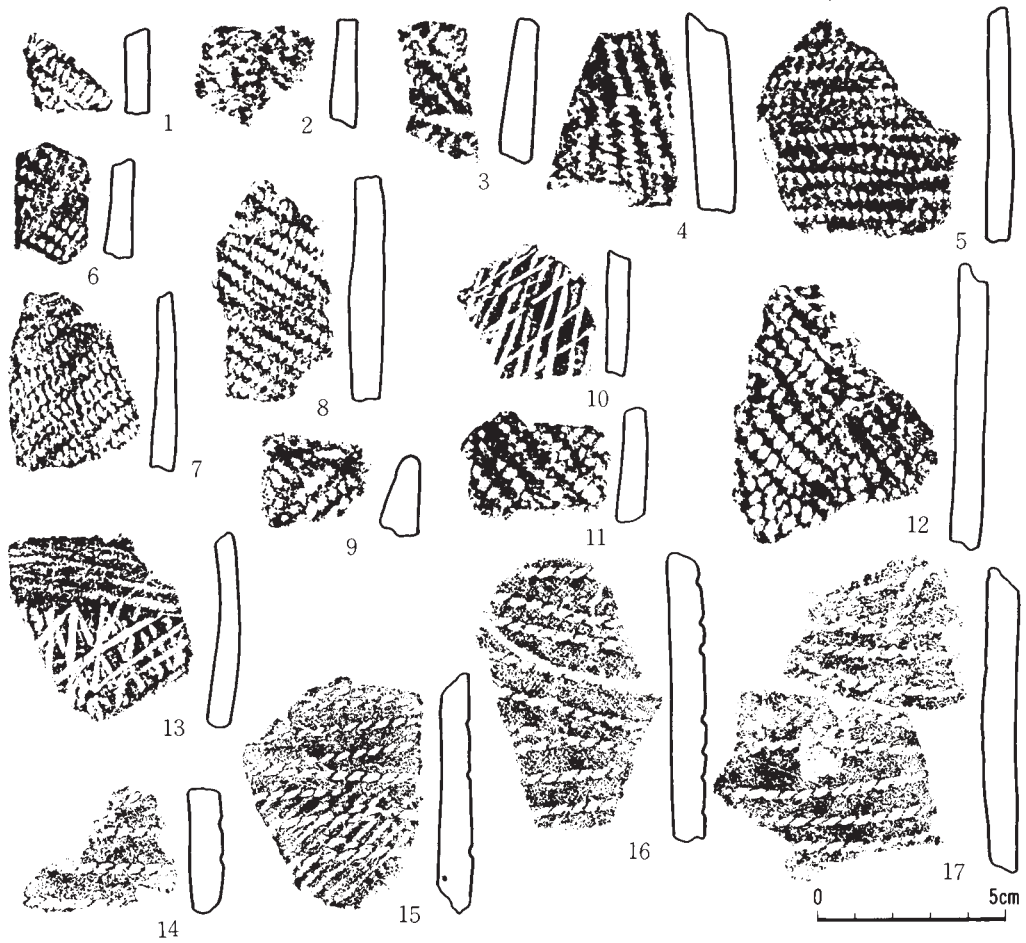
図307 溝状ピット実測図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	Ⅸ 群	胴 部	L R 縄文			10 T P
2	覆土	Ⅸ 群	胴 部	L R 縄文			10 T P
3	覆土	Ⅸ 群	胴 部	R L 縄文			10 T P
4	覆土	Ⅸ 群	胴 部	R L 縄文			10 T P
5	覆土	Ⅸ 群	胴 部	単軸絡条体回転文			10 T P
6	覆土	X 群	胴 部	L R 縄文			10 T P
7	覆土	X 群	胴 部	単軸絡条体回転文			10 T P
8	覆土	Ⅸ 群	底 部	R L 縄文			15 T P
9	Ⅳ層	X 群	胴 部	L R 縄文			15 T P
10	Ⅳ層	X 群	胴 部	単軸絡条体回転文			15 T P
11	Ⅳ層	X 群	胴 部	単軸絡条体回転文			15 T P
12	Ⅳ層	Ⅻ 群	胴 部	○段多条L R 縄文・R L 縄文			15 T P
13	Ⅱ層	Ⅸ 群	胴 部	R L 縄文			16 T P
14	覆土	X 群	胴 部	単軸絡条体回転文			18 T P
15	覆土	X 群	胴 部	単軸絡条体回転文			18 T P

図308 溝状ピット出土土器拓影図

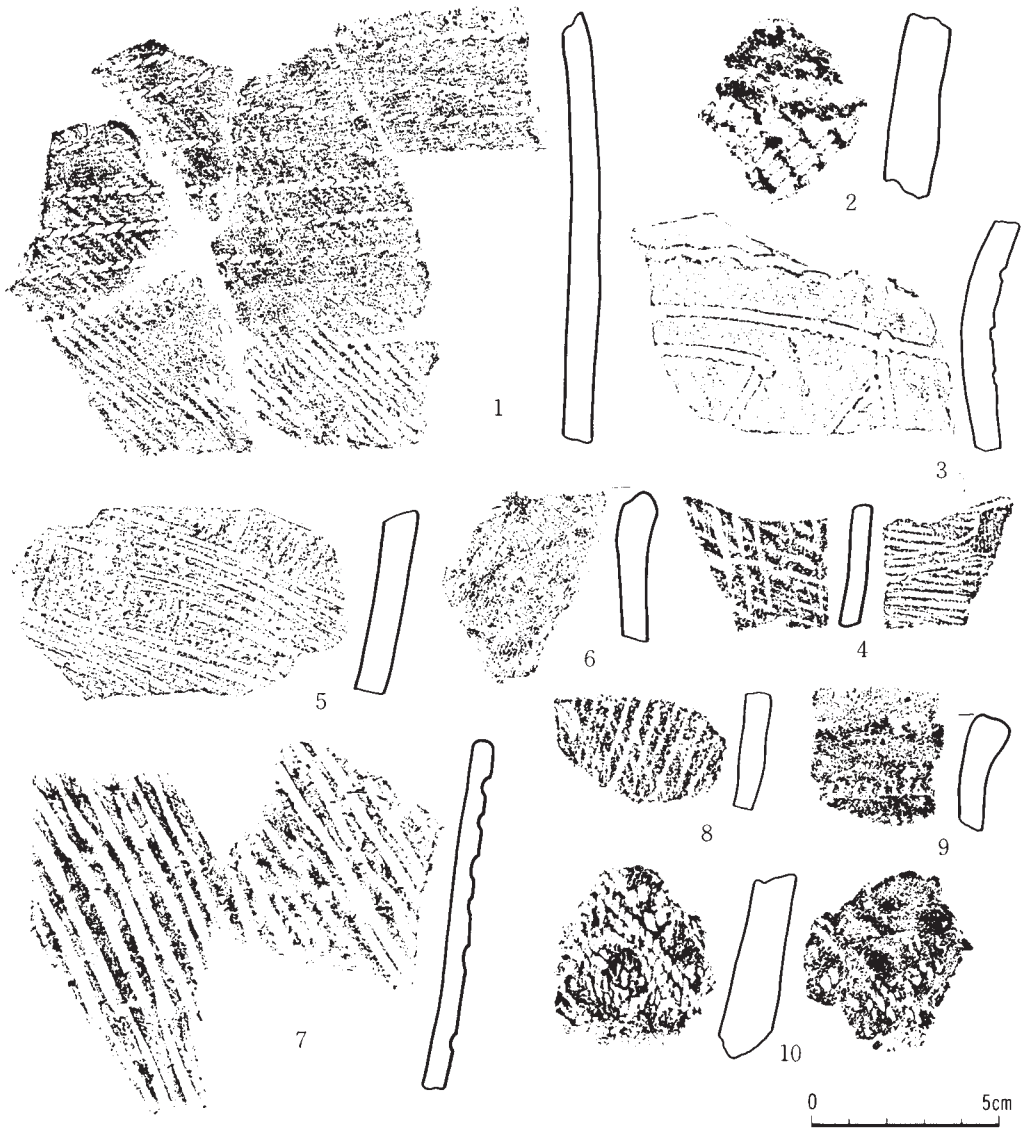


繩文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	IX 群	胴部	RL 縄文			18T P
2	覆土	IX 群	胴部	RL 縄文			18T P
3	覆土	IX 群	胴部	縄文			18T P
4	覆土	IX 群	胴部	LR 縄文			18T P
5	覆土	IX 群	胴部	RL 縄文			18T P
6	覆土	IX 群	胴部	RL 縄文			21T P
7	II 層	IX 群	胴部	O 段多条 LR 縄文			21T P
8	I 層	IX 群	胴部	O 段多条 RL 縄文			21T P
9	I 層	X 群	胴部	LR 縄文			21T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	35T P
11	I 層	IX 群	胴部	RL 縄文			41T P
12	I 層	IX 群	胴部	RL 縄文			41T P
13	I 層		胴部	沈線文		条痕	49T P
14	I 層	XII 群	胴部	撚系側面圧痕文			49T P
15	I 層	XII 群	胴部	撚系側面圧痕文			49T P
16	I 層	XII 群	胴部	撚系側面圧痕文			49T P
17	I 層	XII 群	胴部	撚系側面圧痕文			49T P

図309 溝状ピット出土土器拓影図





縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	XII 群	胴部	撚糸側面圧痕文・RL縄文		49TP
2	覆土	IX 群	胴部	O段多条RL縄文		201TP
3	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文・刺突文		203TP
4	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	203TP
5	覆土	?	胴部	条痕文		204TP
6	覆土	?	口縁部	無文		204TP
7	覆土	VI 群	胴部	沈線文	多痕	206TP
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文	多痕	208TP
9	覆土	XI 群	口縁部	単軸絡条体圧痕文		208TP
10	覆土	XI 群	胴部	直前段合燃		208TP

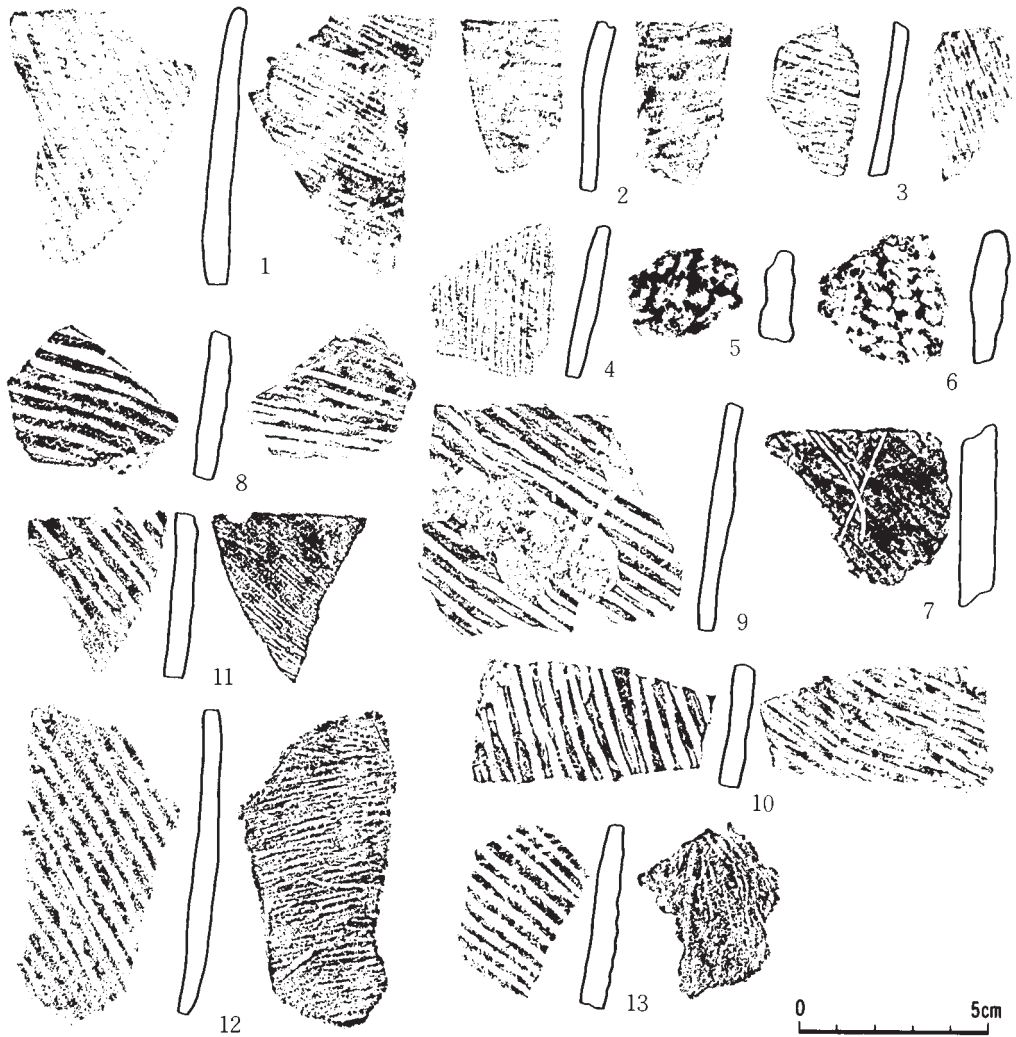
図310 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面	文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	V 群	胴部	沈線文					209T P
2	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文				みがき	209T P
3	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	209T P
4	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	209T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	209T P
6	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	209T P
7	覆土	V 群	I 縁部	沈線文・貝殻腹縁文					210T P
8	覆土	V 群	口縁部	沈線文・貝殻腹縁文					210T P
9	覆土	VI 群	口縁部	沈線文				条痕	210T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	210T P
11	覆土	VI 群	胴部	沈線文				条痕	210T P
12	覆土	XV 群	胴部	沈線文				条痕	210T P

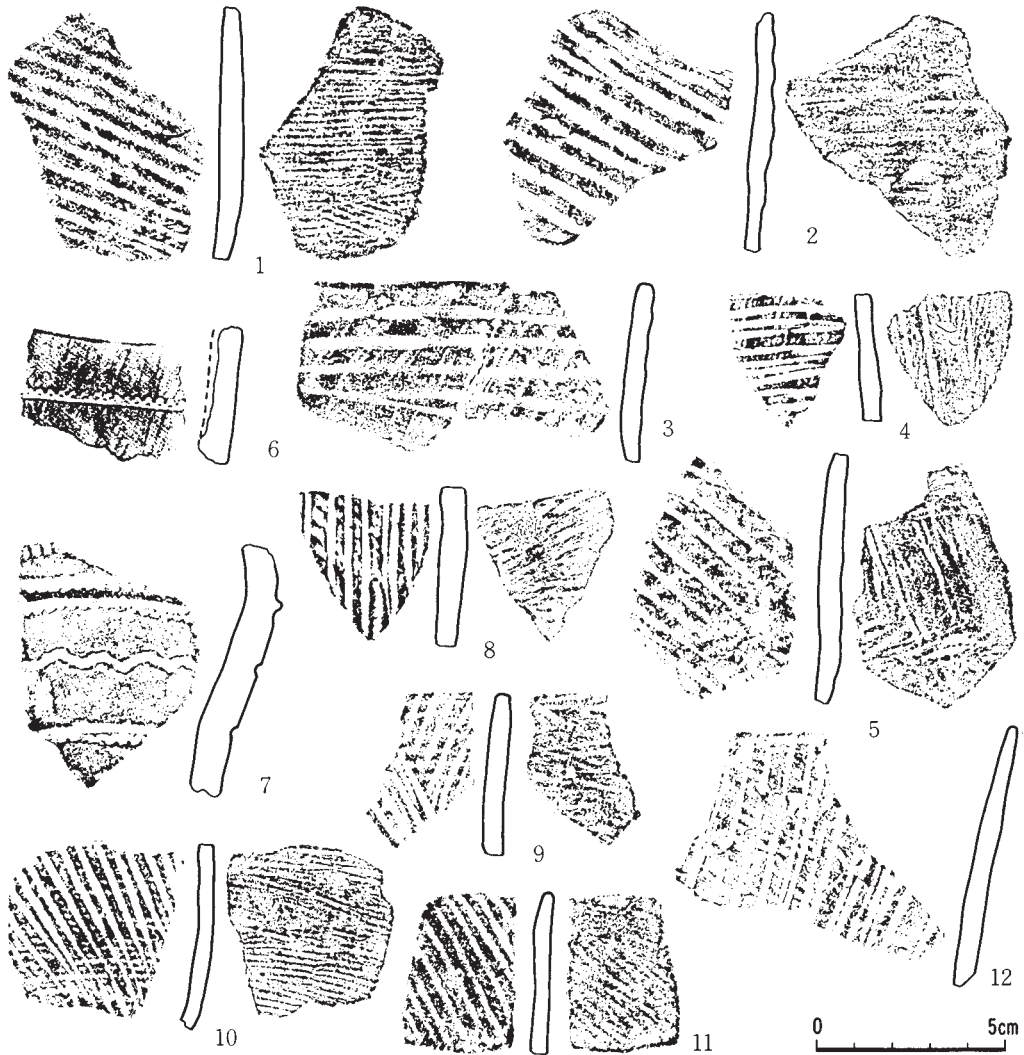
図311 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	210T P
2	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	210T P
3	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	210T P
4	覆土	V 群	胴部	沈線文	条痕	211T P
5	覆土	X 群	胴部	縄文		211T P
6	覆土	X 群	胴部	○段多条		211T P
7	覆土	V 群	胴部	無文		212T P
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	213T P
9	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	213T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	213T P
11	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
12	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
13	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P

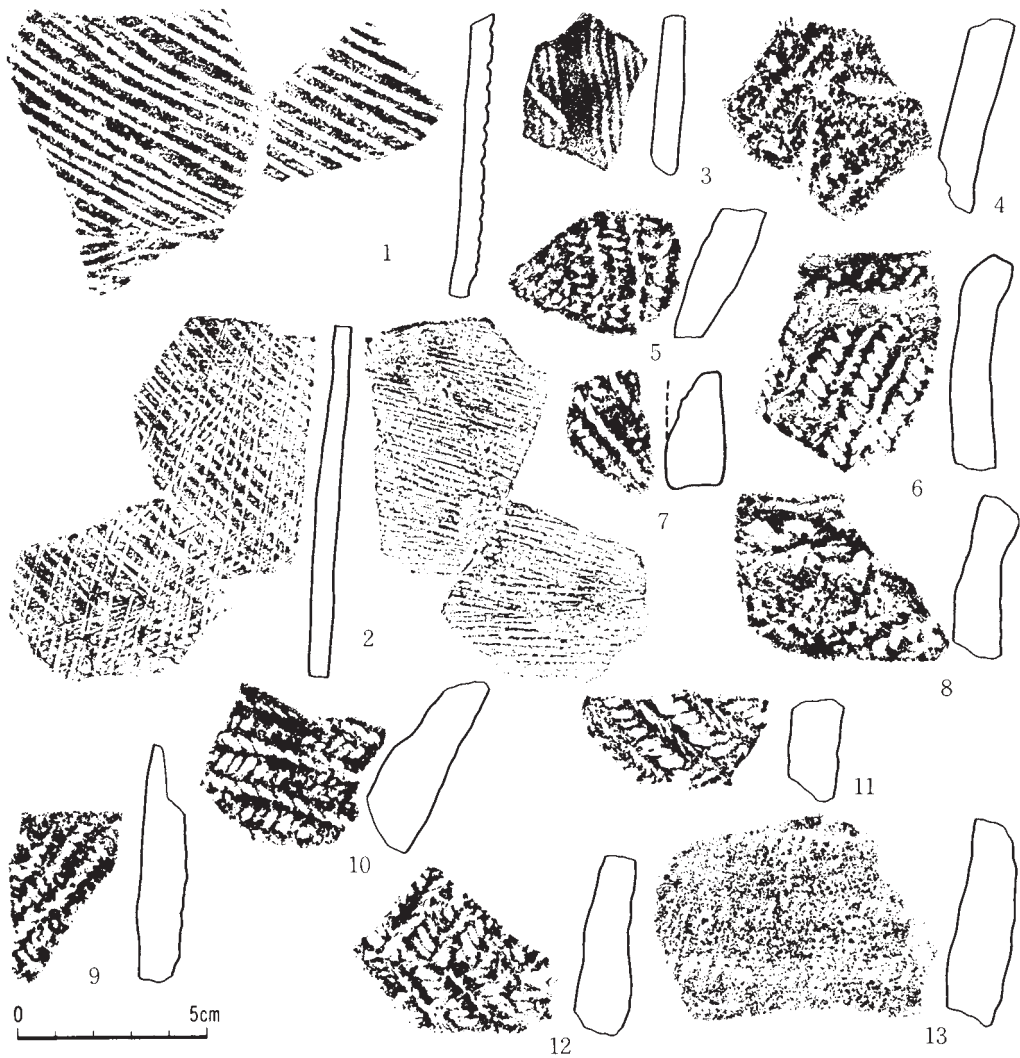
図312 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
2	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
3	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	214T P
4	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	214T P
6	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		215T P
7	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		215T P
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	215T P
9	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	215T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	215T P
11	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	215T P
12	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	215T P

図313 溝状ピット出土土器拓影図

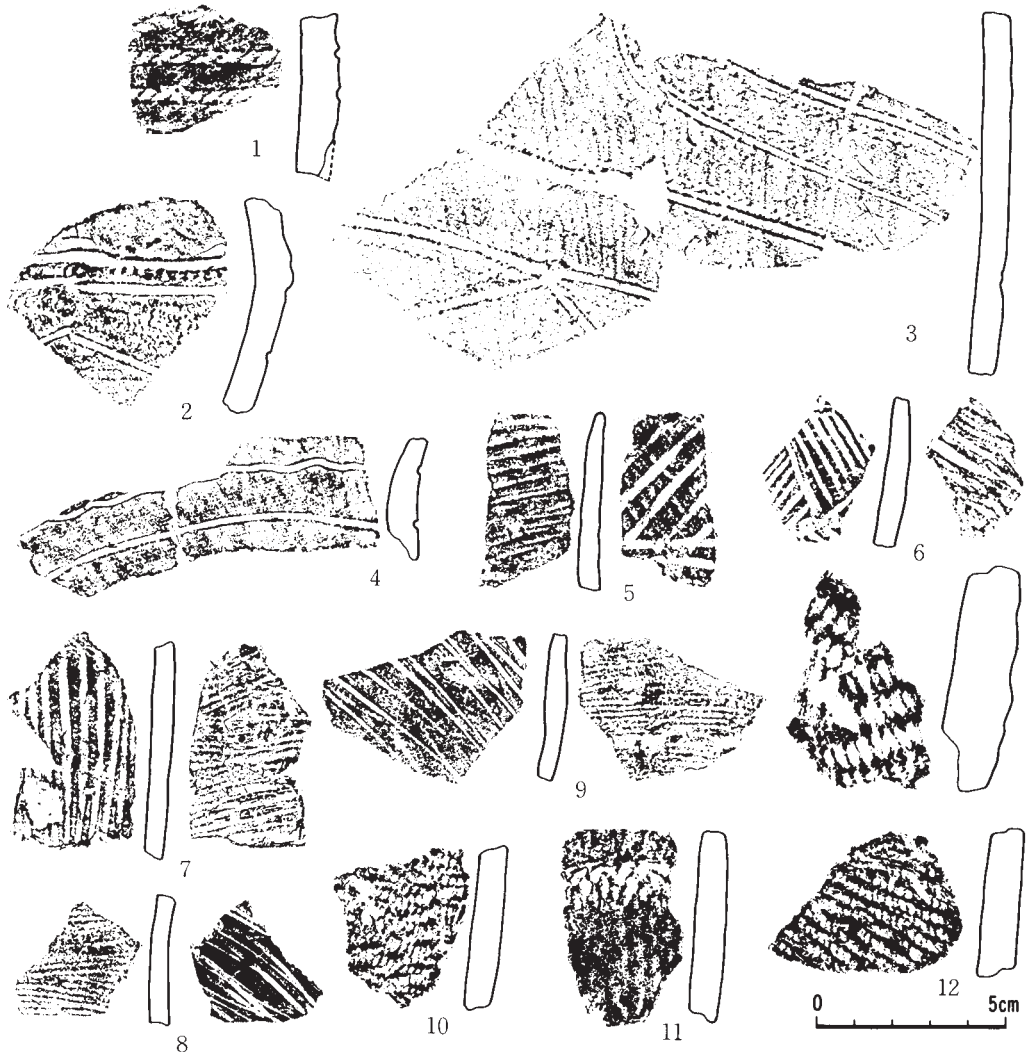


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法	(地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文			条痕	215T P
2	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文			条痕	215T P
3	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文			条痕	215T P
4	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
5	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
6	覆土	X群	口縁部	直前段合擦				215T P
7	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
8	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
9	覆土	X群	胴部	○段多条LR縄文				215T P
10	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
11	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
12	覆土	X群	胴部	直前段合擦				215T P
13	覆土	Ⅺ群	胴部	○段多条LR縄文				215T P

図314 溝状ピット出土土器拓影図



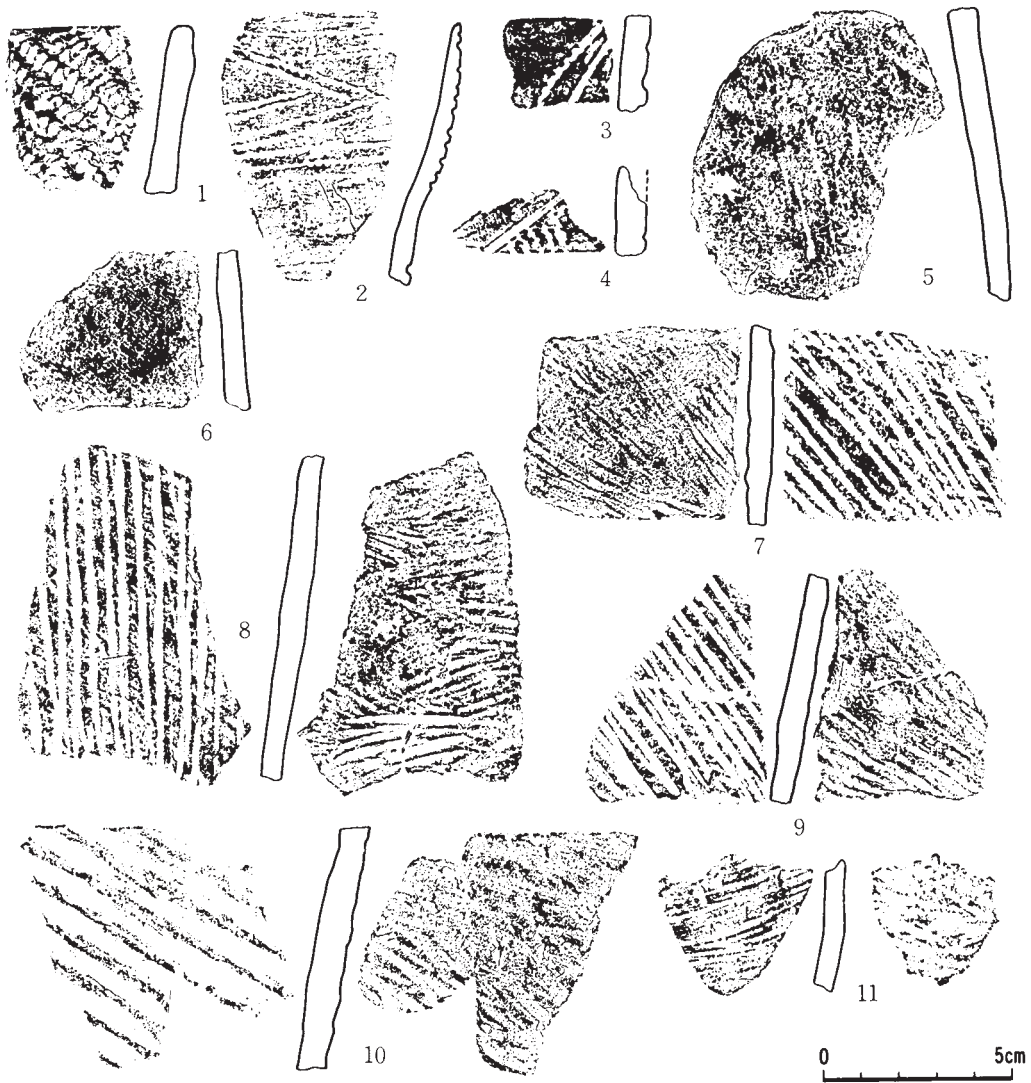


繩文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	XII 群	胴部	擦系側面	斥痕文		215T P
2	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		みがき	216T P
3	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		みがき	216T P
4	III b 層	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		みがき	216T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文		沈線文	216T P
6	覆土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	216T P
7	覆土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	216T P
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	216T P
9	覆土	VI 群	胴部	沈線文		条痕	216T P
10	覆土	IX 群	胴部	L R 縄文			216T P
11	覆土	IX 群	胴部	縄文			216T P
12	覆土	IX 群	胴部	R L 縄文			216T P
13	覆土	X 群	胴部	O 段多条 R L 縄文			216T P

図315 溝状ピット出土土器拓影図

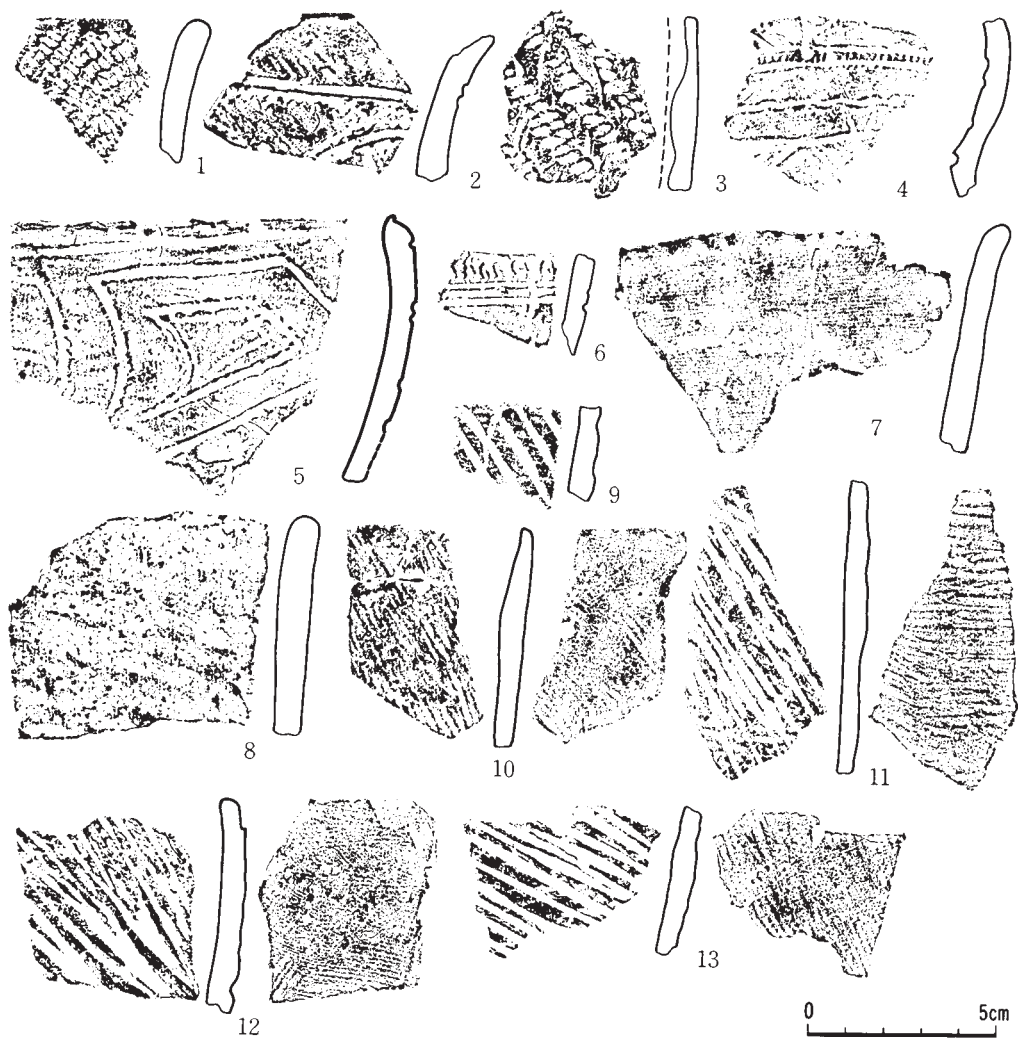




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	IX 群	口縁部	○段多条R.L縄文		216T P
2	覆土	V 群	胴部	貝殻腹縁文		217T P
3	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		217T P
4	覆土	V 群	胴部	沈線文・貝殻腹縁文		217T P
5	覆土	V 群	胴部	無文		217T P
6	覆土	V 群	胴部	無文		217T P
7	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	217T P
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	217T P
9	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	217T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	218T P
11	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	218T P

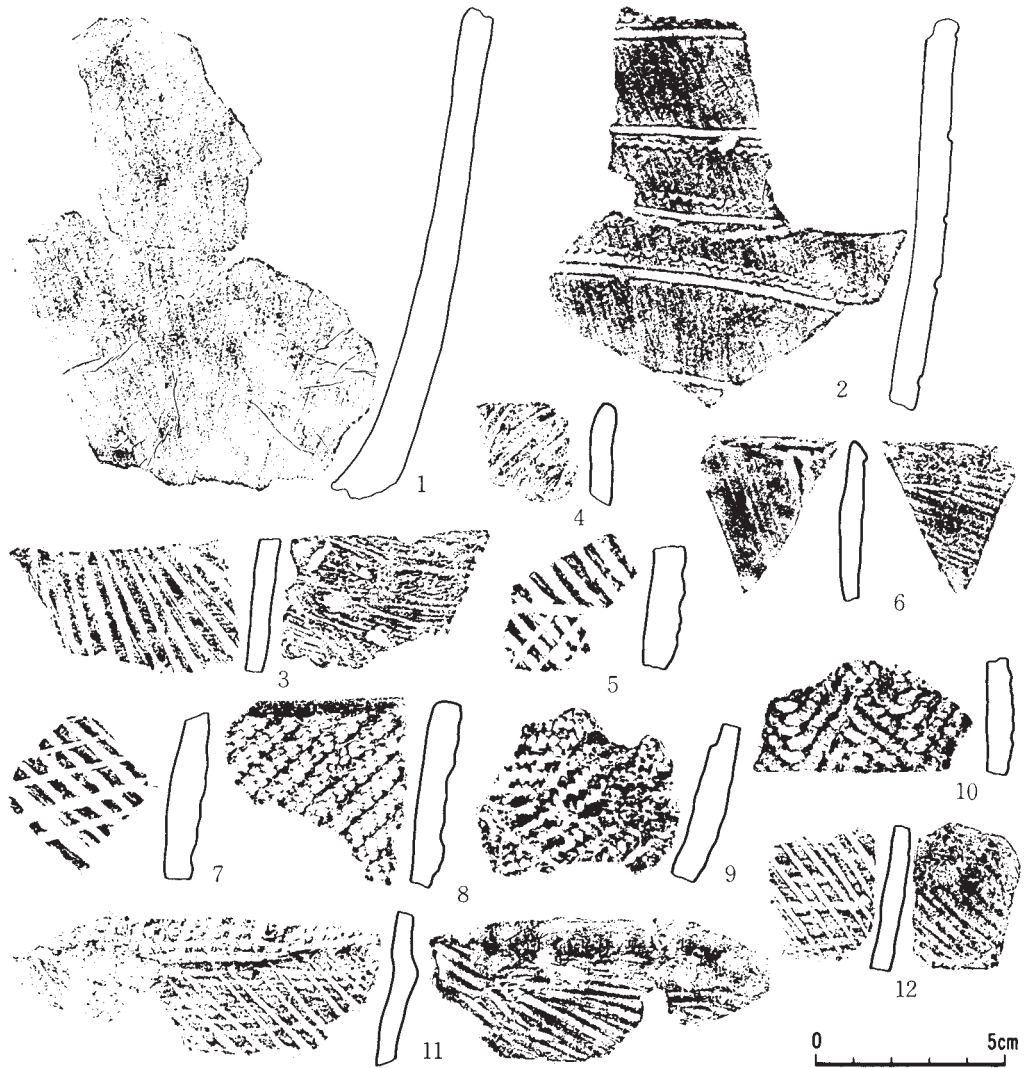
図316 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	IX群	口縁部	LR縄文			220TP
2	覆土	V群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文		みがき	224TP
3	覆土	IX群	胴部	直前段合捺			224TP
4	覆土	V群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			225TP
5	IV上層	V群	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文			225TP
6	覆土	V群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文			225TP
7	覆土	V群	口縁部	無文			225TP
8	覆土	V群	口縁部	条痕			225TP
9	覆土	VI群	口縁部	沈線文		条痕	225TP
10	覆土	VI群	口縁部	沈線文		条痕	225TP
11	覆土	VI群	胴部	沈線文		条痕	225TP
12	覆土	VI群	胴部	沈線文		条痕	225TP
13	覆土	VI群	胴部	沈線文		条痕	225TP

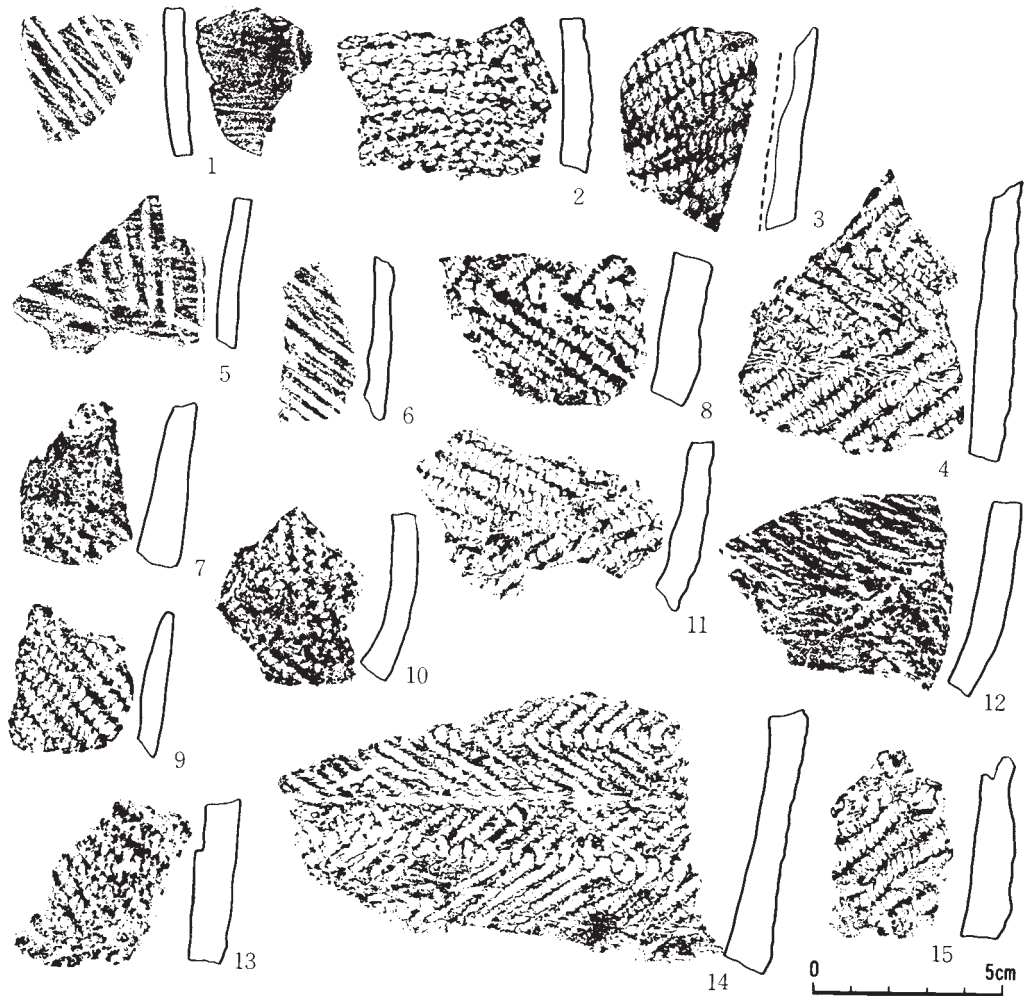
図317 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	II 群	胴部	無文	みがき	226 T P
2	覆土	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文		226 T P
3	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	226 T P
4	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	226 T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	226 T P
6	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	226 T P
7	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	226 T P
8	覆土	IX 群	口縁部	O段多条LR縄文		226 T P
9	覆土	IX 群	胴部	縄文		226 T P
10	覆土	XIV 群	胴部	結束第一種縄文		226 T P
11	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	227 T P
12	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	227 T P

図318 溝状ピット出土土器拓影図

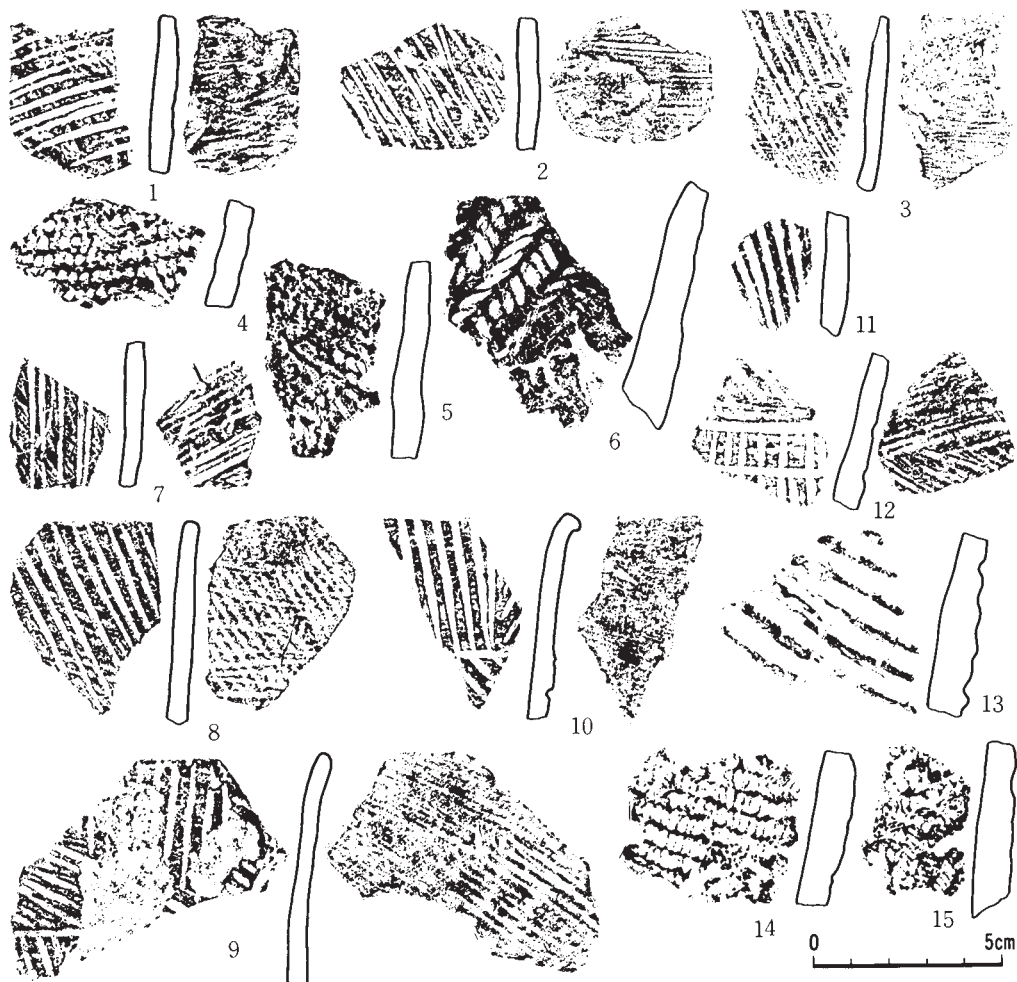


繩文土器觀察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	227T P
2	覆土	IX 群	胴部	縄文		227T P
3	覆土	IX 群	胴部	〇段多条LR縄文		227T P
4	覆土	XV 群	胴部	〇段多条LR縄文・RL縄文		227T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	228T P
6	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	228T P
7	覆土	IX 群	胴部	縄文		228T P
8	覆土	XII 群	胴部	結束第一種縄文		228T P
9	覆土	IX 群	胴部	RL縄文		229T P
10	覆土	IX 群	胴部	LR縄文		229T P
11	覆土	IX 群	胴部	〇段多条RL縄文・LR縄文		229T P
12	覆土	IX 群	胴部	縄文		229T P
13	覆土	XII 群	胴部	〇段多条RL縄文		229T P
14	覆土	XIV 群	胴部	結束第一種縄文		229T P
15	覆土	XIV 群	胴部	〇段多条LR縄文		229T P

図319 溝状ピット出土土器拓影圖

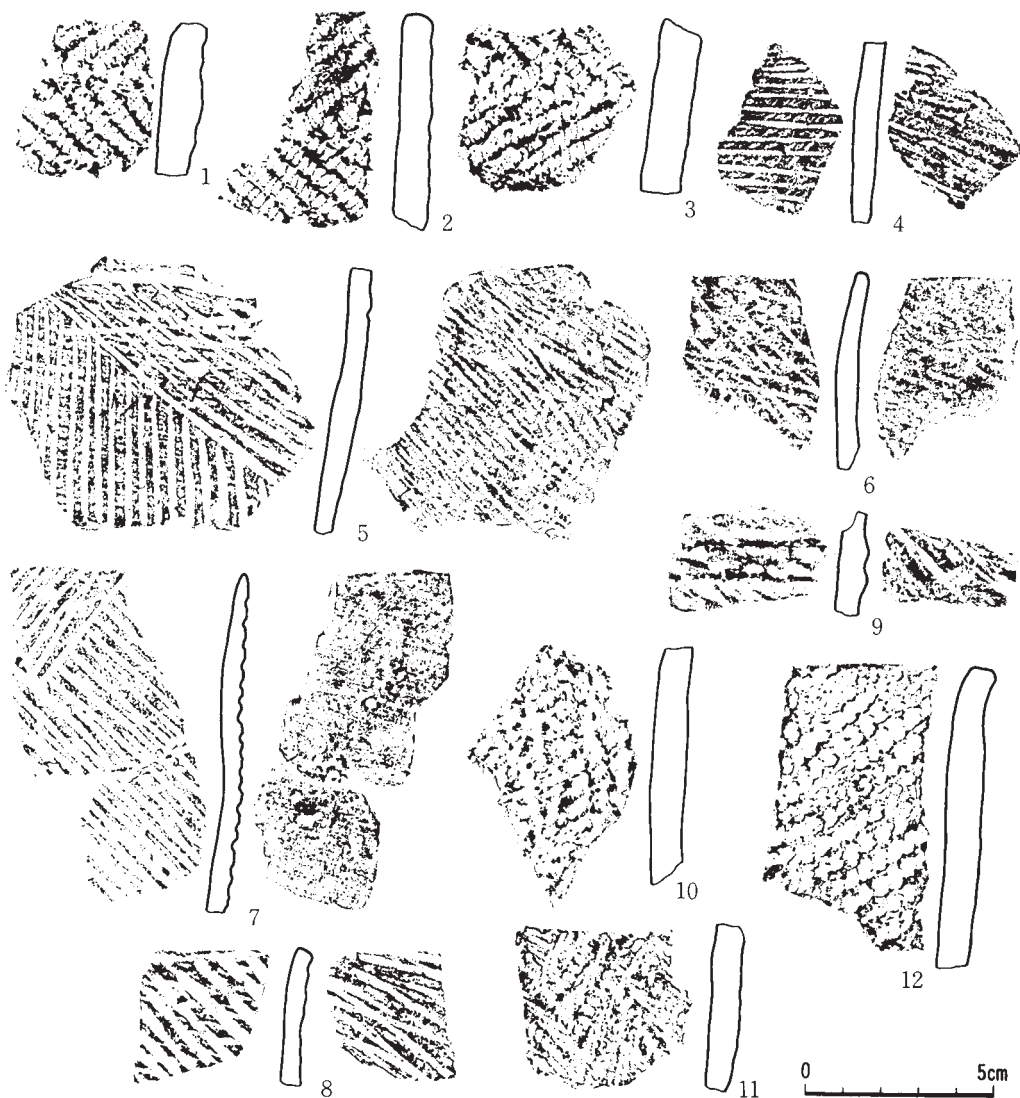




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	230T P
2	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	230T P
3	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	230T P
4	覆土	Ⅸ群	胴部	L R縄文			230T P
5	覆土	Ⅸ群	胴部	直前段合燃			230T P
6	覆土	X群	胴部	直前段合燃			230T P
7	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	231T P
8	覆土	Ⅵ群	口縁部	沈線文		条痕	231T P
9	覆土	Ⅵ群	口縁部	沈線文		条痕	231T P
10	覆土	Ⅵ群	口縁部	沈線文		条痕	231T P
11	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	232T P
12	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	232T P
13	覆土	Ⅶ群	胴部	沈線文			232T P
14	覆土	Ⅸ群	胴部	○段多条L R縄文			232T P
15	覆土	X群	胴部	○段多条L R縄文			232T P

図320 溝状ピット出土土器拓影図

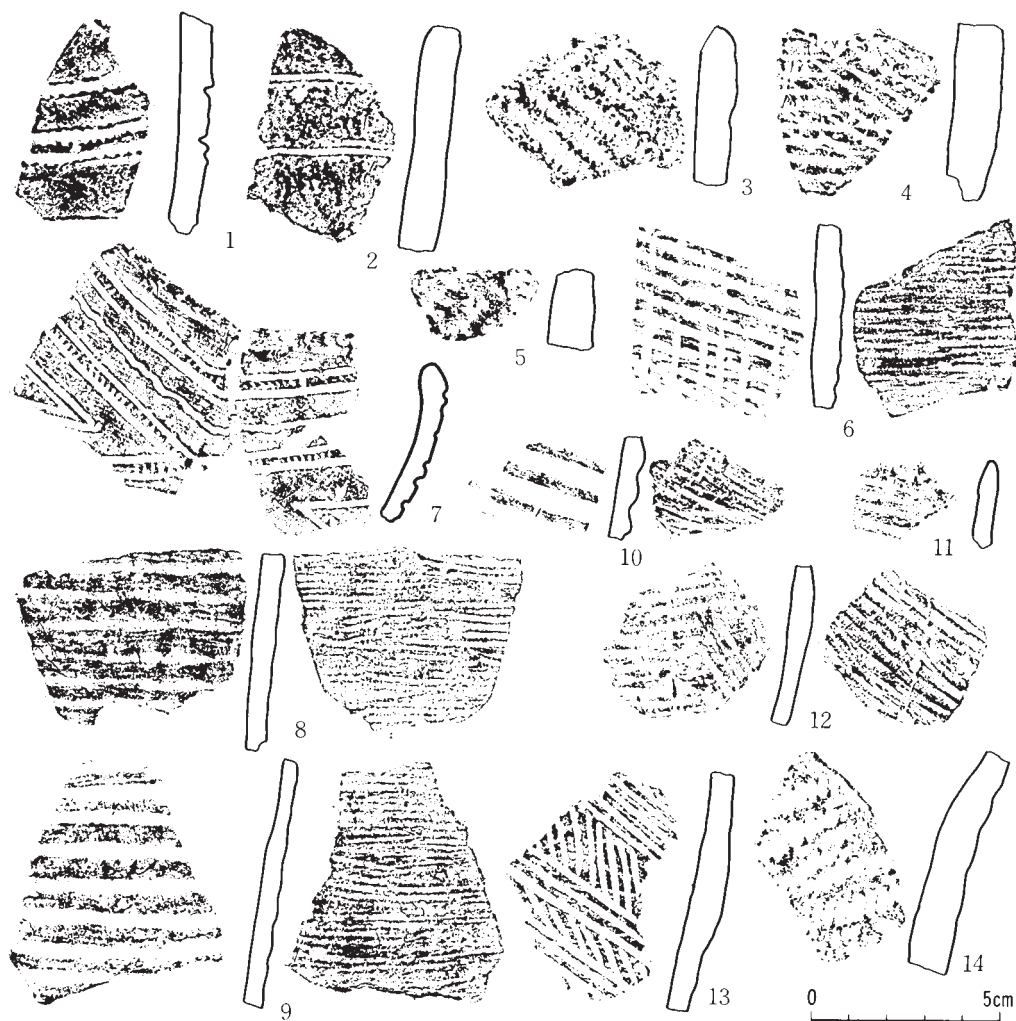


縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	VI 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文		232T P
2	覆土	XII 群	口縁部	○段多条LR縄文・RL縄文		232T P
3	覆土	XII 群	胴部	結束第一種縄文		232T P
4	覆土	XIV 群	胴部	沈線文	条痕	233T P
5	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	233T P
6	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	234T P
7	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	234T P
8	覆土	VI 群	口縁部	沈線文	条痕	234T P
9	覆土	VI 群	胴部	細隆起線文	条痕	234T P
10	覆土	IX 群	胴部	直前段合捺		234T P
11	覆土	IX 群	胴部	直前段合捺		234T P
12	覆土	IX 群	胴部	LR縄文		234T P

図321 溝状ピット出土土器拓影図

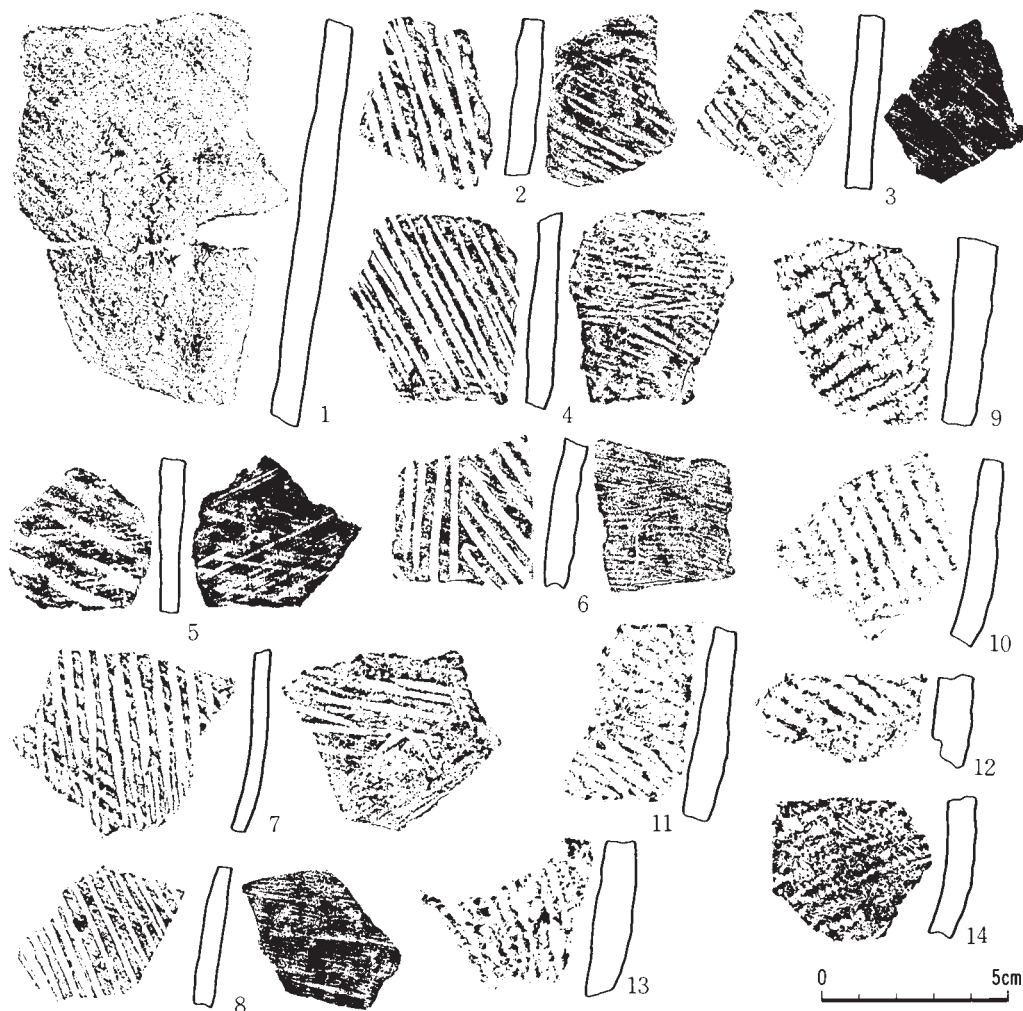




縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文		236T P
2	覆土	V 群	胴部	沈線文、貝殻腹縁文		236T P
3	覆土	IX 群	胴部	○段多条LR縄文・RL縄文		237T P
4	覆土	X 群	胴部	単軸絡条体回転文		237T P
5	覆土	IX 群	胴部	○段多条RL縄文		238T P
6	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	238T P
7	IV上層	V 群	口縁部	沈線文、貝殻腹縁文		240T P
8	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	240T P
9	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	240T P
10	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	243T P
11	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	243T P
12	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	243T P
13	覆土	VI 群	胴部	沈線文	条痕	243T P
14	覆土	X 群	胴部	○段多条LR縄文		244T P

図322 溝状ピット出土土器拓影図



縄文土器観察表

土器	地区・層位	分類	部位	外面文様	施文法 (地文)	内面調整	登録番号
1	覆土	Ⅳ群	胴部	条痕文			246T P
2	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	246T P
3	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	246T P
4	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	246T P
5	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		沈線	246T P
6	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	246T P
7	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文、条痕文			246T P
8	覆土	Ⅵ群	胴部	沈線文		条痕	246T P
9	覆土	Ⅸ群	胴部	○段多条R L 縄文・L R 縄文			246T P
10	覆土	Ⅸ群	胴部	○段多条R L 縄文			246T P
11	覆土	Ⅸ群	胴部	単軸絡条体回転文			246T P
12	覆土	Ⅸ群	胴部	○段多条L R 縄文			246T P
13	覆土	Ⅸ群	胴部	直前段合燃			246T P
14	覆土	Ⅸ群	胴部	直前段合燃			247T P

図323 溝状ピット出土土器拓影図

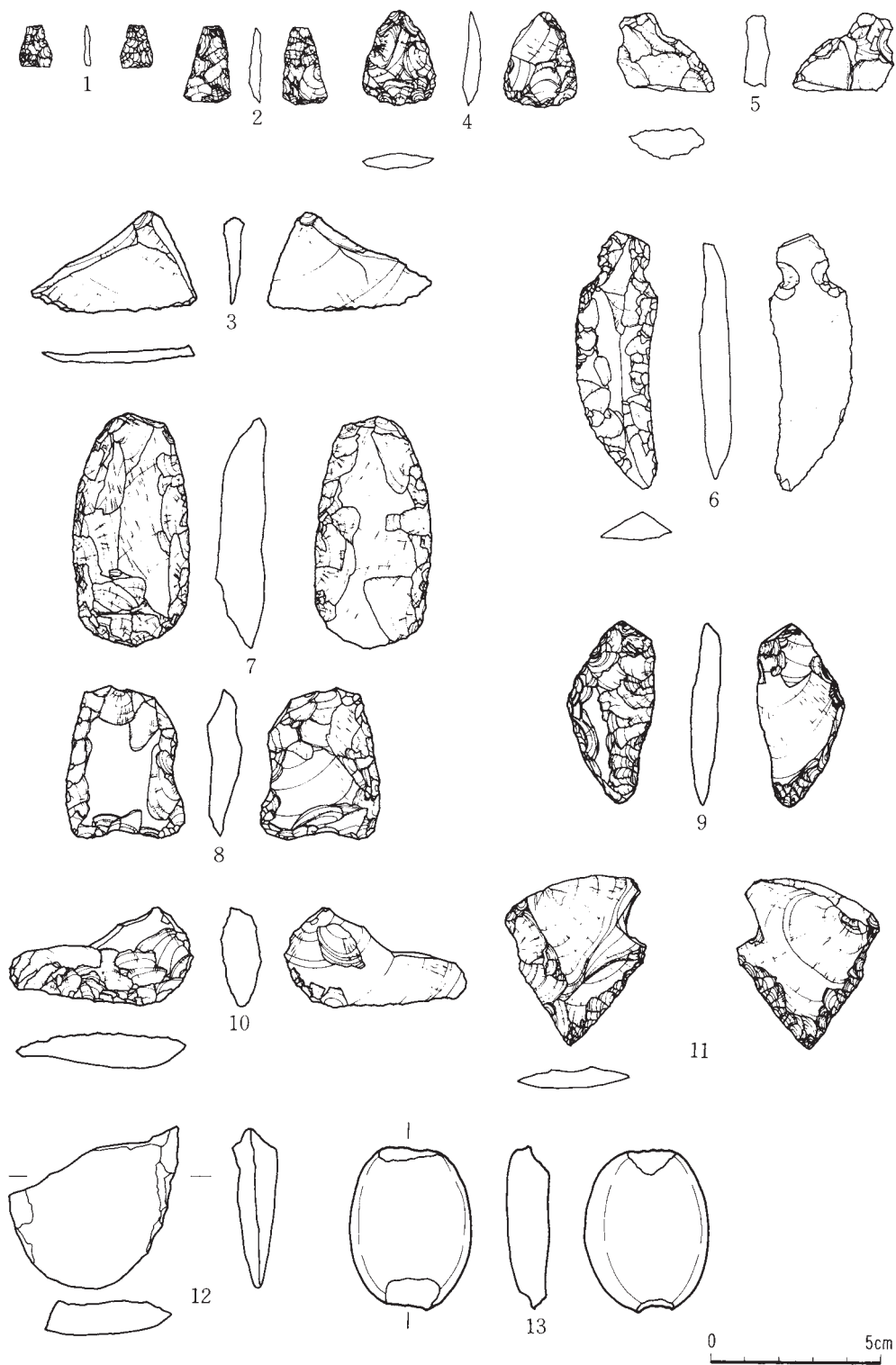


図324 溝状ピット内出土石器

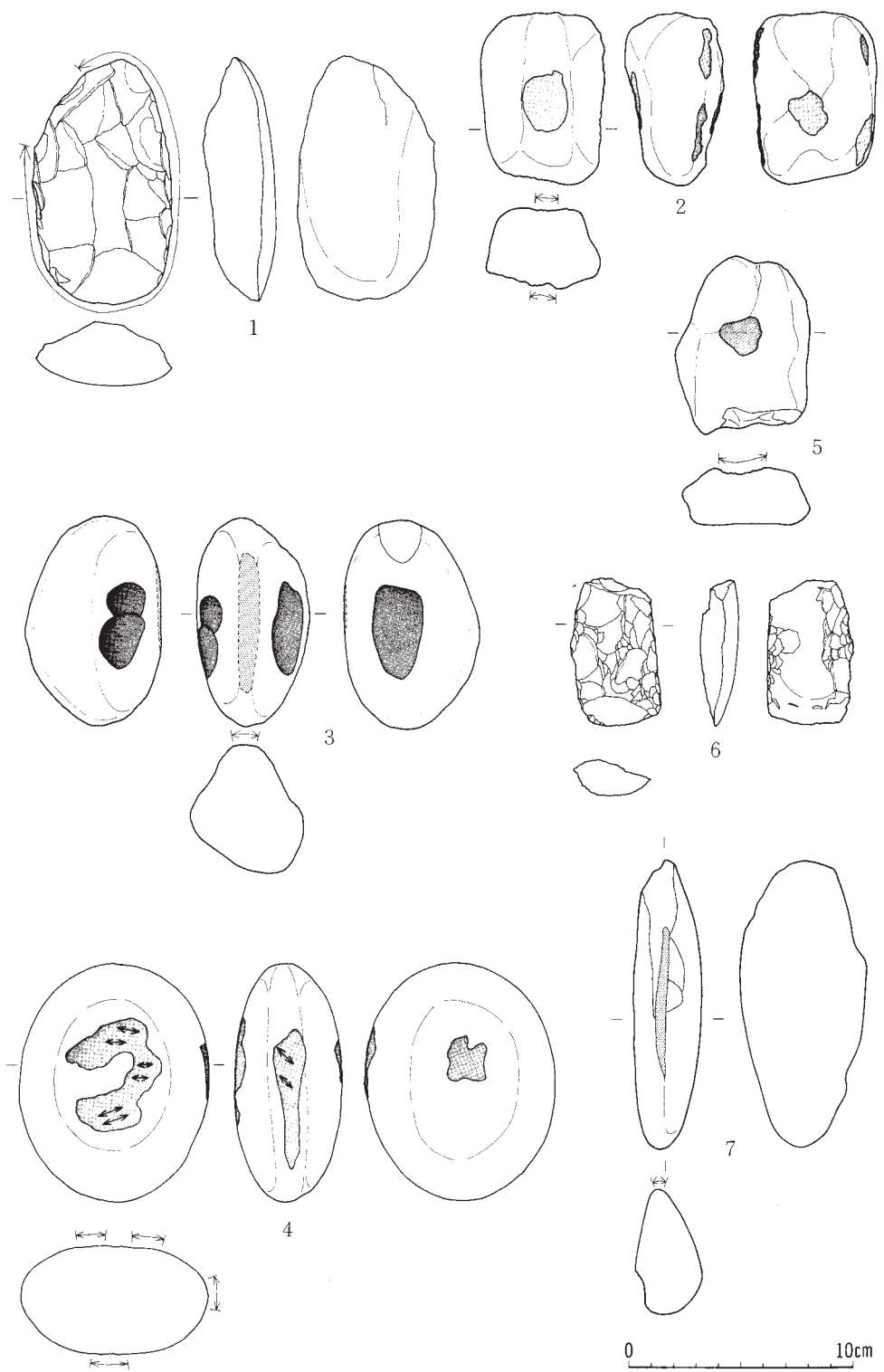


図325 溝状ピット内出土石器

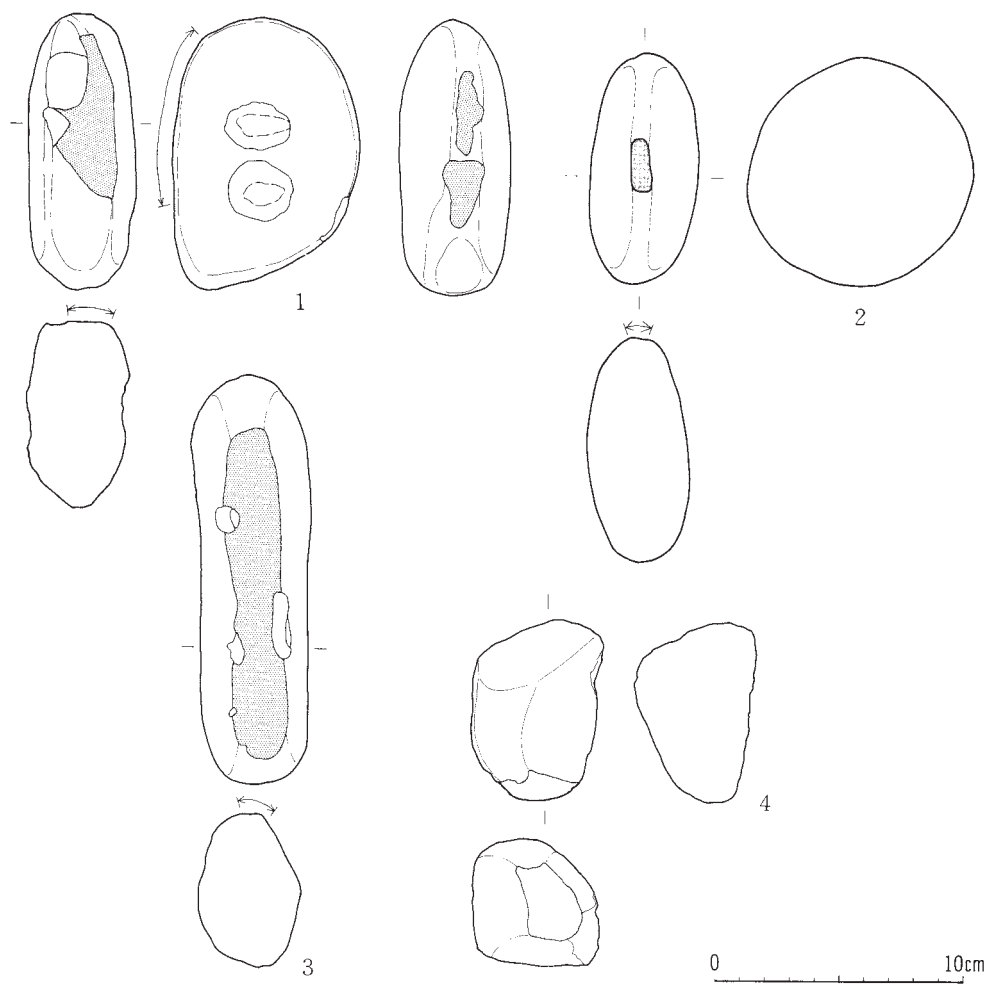


図326 溝状ピット内出土石器

## 第 章 ま と め

本遺跡は、高館段丘の東側に張り出した標高15～22mの狭い緩斜面に立地する。第1次、第2次調査において、縄文時代早期から前期初頭までの各種遺構と、平安時代の遺構を多数検出した。

### 〔縄文時代〕

竪穴住居跡は東方に延びる舌状台地と、小さな埋没谷を挟んだ北側の緩傾斜面で19軒検出した。

その内訳は、物見台式期1軒、ムシリ式期4軒、赤御堂式期5軒、早稲田5類期1軒、早稲田5類と長七谷地群の中間に位置づけられる土器期1軒、長七谷地群期3軒、時期不明（ムシリ式期以前のもの）4軒である。

物見台式期のもは埋没谷の北側緩斜面上に位置し、その周辺からは同式期の多量の遺物が出土していることから、集落の主体は北方の調査区外に存在する可能性が高い。

ムシリ式期のもは、南側の台地平坦面に1軒、北側緩斜面上に3軒検出され、更に、その中間の埋没谷の斜面には、本時期の遺物包含層（捨場）が形成されている。このことと、調査区の外縁ほど本時期の遺物の出土量が少なくなることを考え合わせると、今回の調査区域内に集落の大部分が存在するものと思われる。

ムシリ式は、昭和31年に行われた下北郡東通村ムシリ遺跡の調査（江坂：1957）において、関東地方の野島式や北海道の浦幌式土器との関連で注目された土器型式である。しかし、それ以後、東北地方北部の各遺跡で散発的に少量の破片が出土しただけで、型式の実体や、住居等の構造について不明な点が多かった。今回の調査では、土器の製作技術の一部のみならず、住居の構造についてもある程度の把握ができた。しかも、遺構の新旧関係や、遺物包含層の堆積状態から、本型式の編年的な位置づけの点でも成果を得た。

早稲田5類期のもは2軒だけで、しかも遺物の分布範囲からみると、第3次調査に予定されている地区に集落の中心が存在するものと思われる。

前期初頭の長七谷地群期の3軒の住居跡は、いずれも東方に延びる舌状台地からそれぞれ近接して検出された。本時期の遺物もこの周辺に少量散布するだけで、住居の構造も整然としたものではなく、簡単な小屋掛け程度のものであることからみると、定住を意図したものでなく、キャンプサイト的な集落としてとらえることができる。

その他、縄文時代の竪穴遺構や集石遺構、焼土遺構を数多く検出した。これらは上記の各期の住居跡に伴うもの（同時存在）で、集落構造を知るうえで貴重であろう。

このように本遺跡は、縄文時代早期から前期初頭にかけて、ほとんど連続的に営まれた遺



跡といえる。

〔平安時代〕

平安時代の検出遺構は、竪穴住居跡3軒、土壇15基である。

竪穴住居跡は、1号住居跡、2号住居跡とも1辺が5m前後で、平安時代の各集落にみられるものと類似する規模である。この2軒は構造上でも近似し、同時期のものといえる。床面上の土師器から、10世紀後半から11世紀前半期の年代が与えられよう。

また、住居の周辺で15基の土壇を検出したが、これらは、構造上ム口（貯蔵庫）の機能をもつものと推定される。

平安時代の集落の主体は、地形的にみると、本調査区の西方の平坦面に存在する可能性が高い。

表34 住居跡一覧表（縄文）

番号	グリッド名	平面形	長径	短径	壁高				炉	重複	壁溝	柱穴	時代
					東	西	南	北					
3	DJ DK-20・21	不整形円形	6 <sup>m</sup>	4.5 <sup>m</sup>	— <sup>cm</sup>	20 <sup>cm</sup>	16~20 <sup>cm</sup>	20~30 <sup>cm</sup>	認められず	—	認められず	3	Ⅷ群期
4	DM DN-19・20	卵形	7	5	20~40	50	20~40	20~40	〃	26溝	〃	14	Ⅸ〃
5	DK DL DM-16・17	楕円形	5	4	5	21~24	—	—	〃	12・13溝	〃	3	Ⅷ〃
6	DK DL-17・18	不整形円形?	3.6	—	26~30	10	—	16~20	〃	5住・8溝	〃	不明	Ⅹ〃
8	DJ DK-19・20	不明	—	—	—	10	—	10	〃	1.9土壇	〃	〃	不明
9	DJ DK-19	〃	—	—	—	—	—	—	〃	1.9,11土壇	〃	〃	Ⅷ群期
10	DM-15・16	〃	—	—	—	5~10	20	10	〃	1住・22溝	〃	〃	Ⅸ〃
11	DL DM-13・14	円形?	3.7	—	—	30	—	—	〃	1住 24・25溝	〃	4	Ⅸ〃
13	DN-13	楕円形?	2.7	2	15	—	10	20	〃	1住・8土	〃	不明	Ⅸ〃
15	DM-11・12	不整形	2.6	2	6~9	—	3~5	7~10	中央に焼土 (50×30cm位)	30・31溝	〃	〃	Ⅵ〃
201	EK EL-23・24	楕円形	5.1	4.2	8	—	16~20	—	認められず	—	〃	認められず	Ⅵ〃
202	EI EG-25・26	隅丸方形?	—	—	—	3~30	—	—	〃	219溝	〃	15	V〃
203	EH EI-24・25	不整形円形	4.2	—	—	—	—	—	〃	218溝	〃	22	Ⅶ〃
204	EF EH-25・26	〃	4.2	3.5~3.7	—	32	20	30	〃	203住・204溝	〃	認められず	Ⅵ〃
205	EF EG-24	隅丸長方形	8.5	5.6	—	100	50	20	〃	208住・203・ 205・206・ 207・238溝	〃	85	X〃
206	EI EJ-19・20	不整形円形	3.6	—	—	10~15	15	30	〃	201・204溝	〃	34	Ⅵ〃
207	EC ED-24・25	隅丸長方形	3.5	2.6	—	24	9	15~18	〃	—	〃	21	Ⅸ〃
208	EG EH-23・24	円形?	—	—	—	—	—	—	〃	207溝	〃	2	Ⅶ群期以前
209	EJ EK-20・21	楕円形	2.4	2.1	15	20	10	25	〃	—	〃	認められず	Ⅵ〃

表35 住居跡一覧表（平安）

番号	グリッド名	平面形	長径	短径	壁高				炉	重複	壁溝	柱穴	時代
					東	西	南	北					
1	DM・DN-13 DM・DN・DO-14 DM・DN-15	隅丸方形	5.5	4.9	12~20 <sup>cm</sup>	40~50 <sup>cm</sup>	28~40 <sup>cm</sup>	19~38 <sup>cm</sup>	南壁・カマド	10・11・13住居 8号土壇 20・23・24・28 溝状ピット	西壁にあり	不明	平安時代
2	DK-18~20 DL-18~20	〃	4.5	4.1	10~13	42~56	13~20	18~40	〃	1号土壇 26溝状ピット	北壁にあり	〃	〃
14	DR-27 DS-27	〃(?)	—	—	—	—	—	18	—	—	—	2	〃



# 写 真 图 版





写真1 壳場遺跡全景（第1次、第2次調査）



写真2 上・売場遺跡遠景、下・作業風景





上・第1次調査全景  
写真3 下・第2次調査遺構確認状況



写真4 上・下・3号住居跡





上・4号住居跡遺物出土状況  
写真5 下・4号住居跡完掘状況

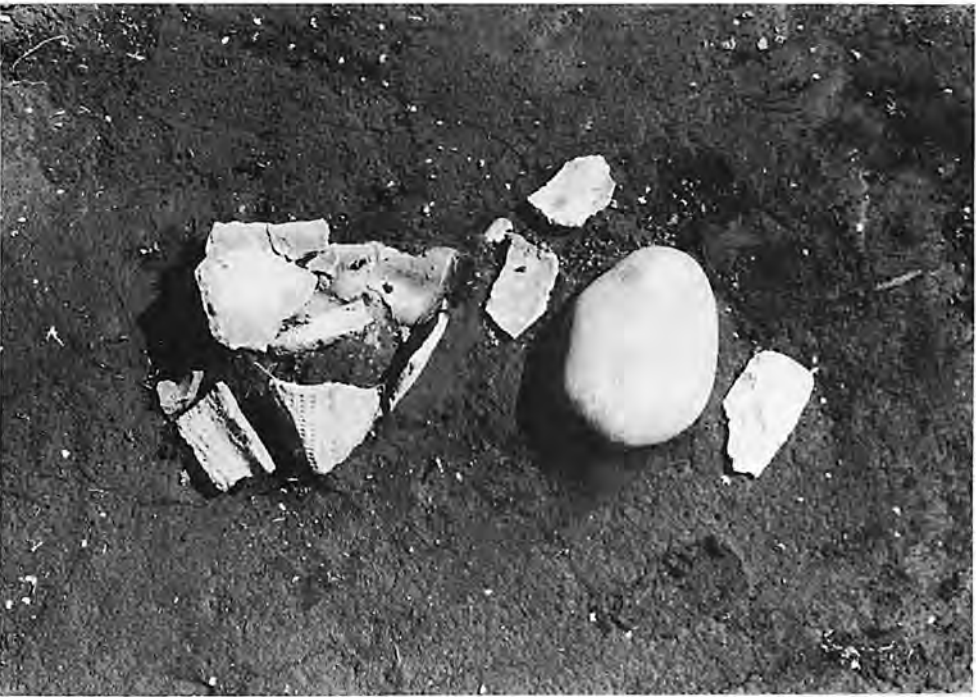
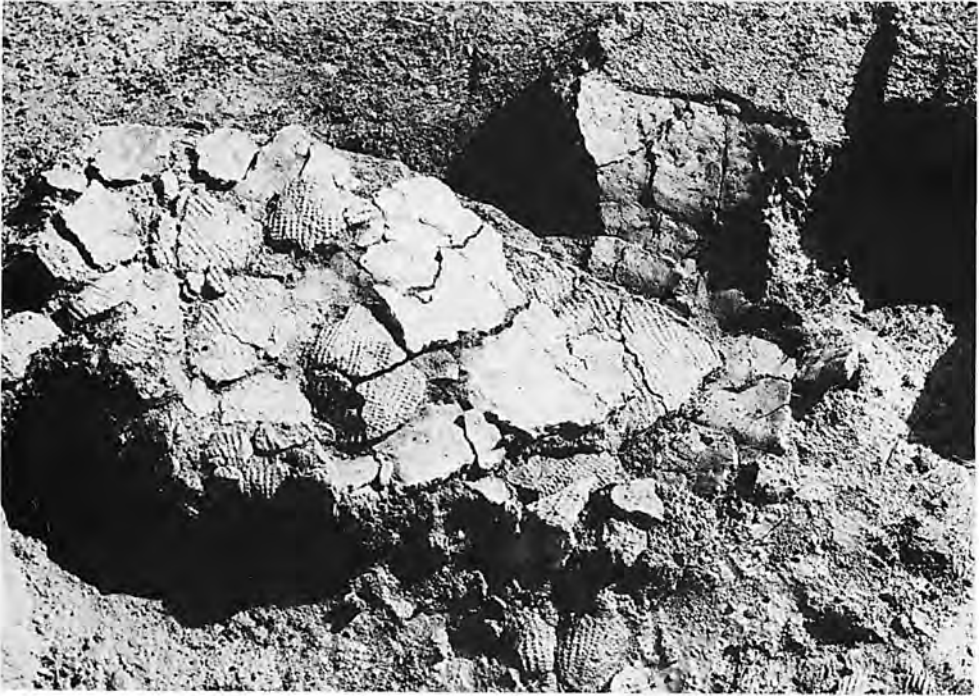
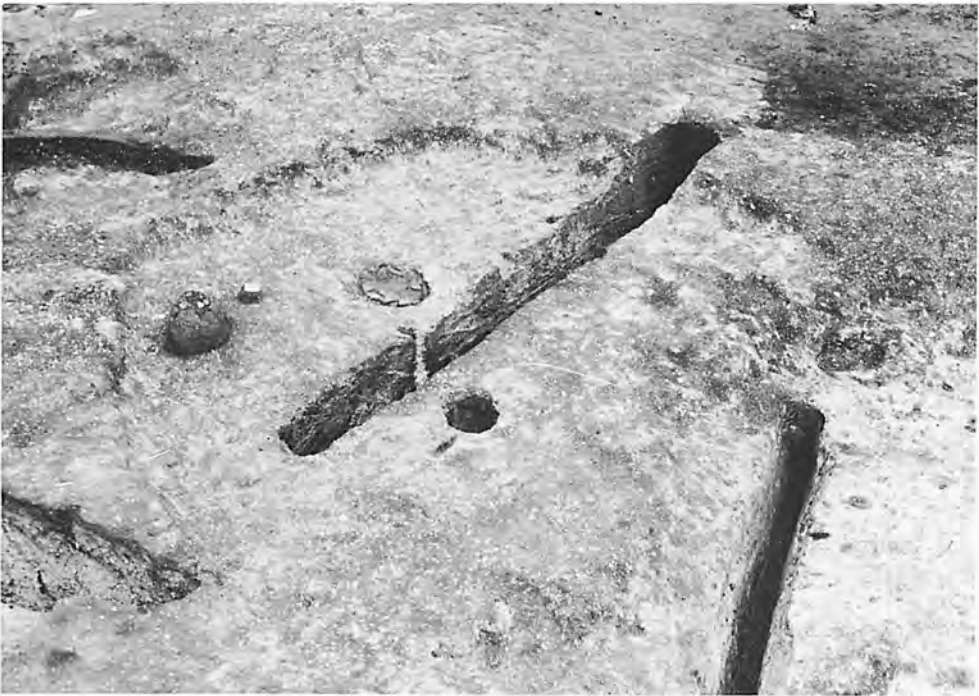


写真6 上・下・4号住居跡遺物出土状況





上・6号住居跡遺物出土状況  
写真7 下・6号住居跡pit内土器出土状況



上・6号住居跡(手前)、5号住居跡(奥)  
写真8 下・6号住居跡(左)、5号住居跡(右)



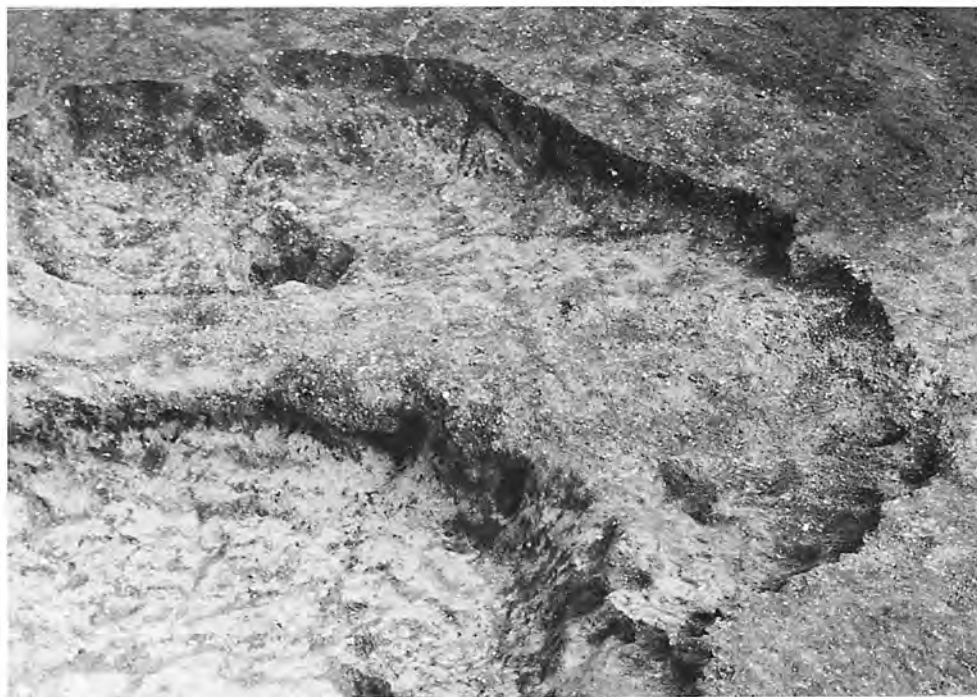


写真9 上・9号住居跡、下・11号住居跡

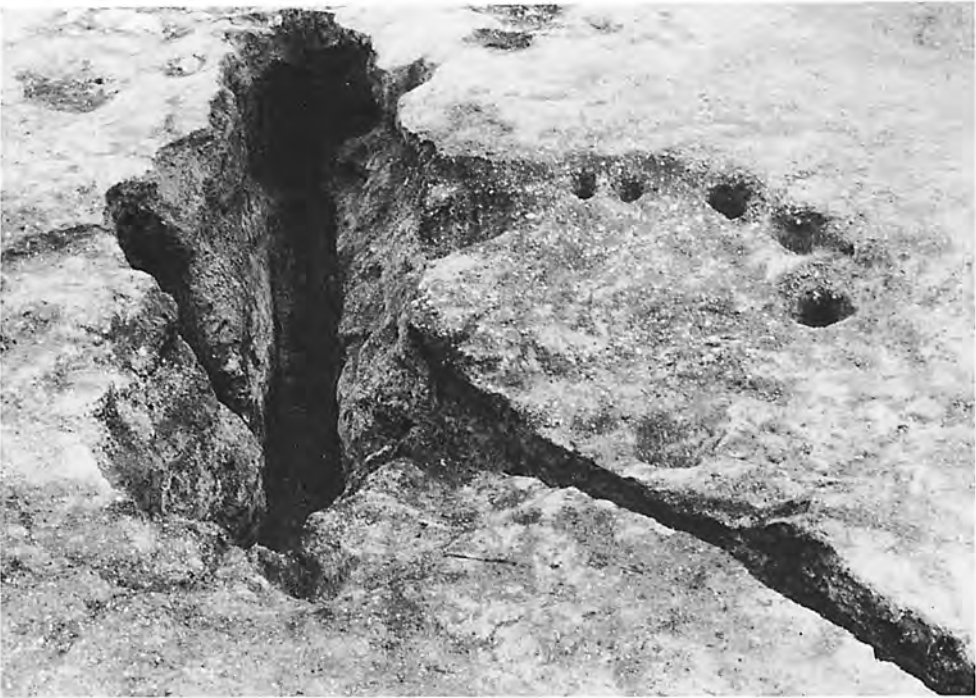
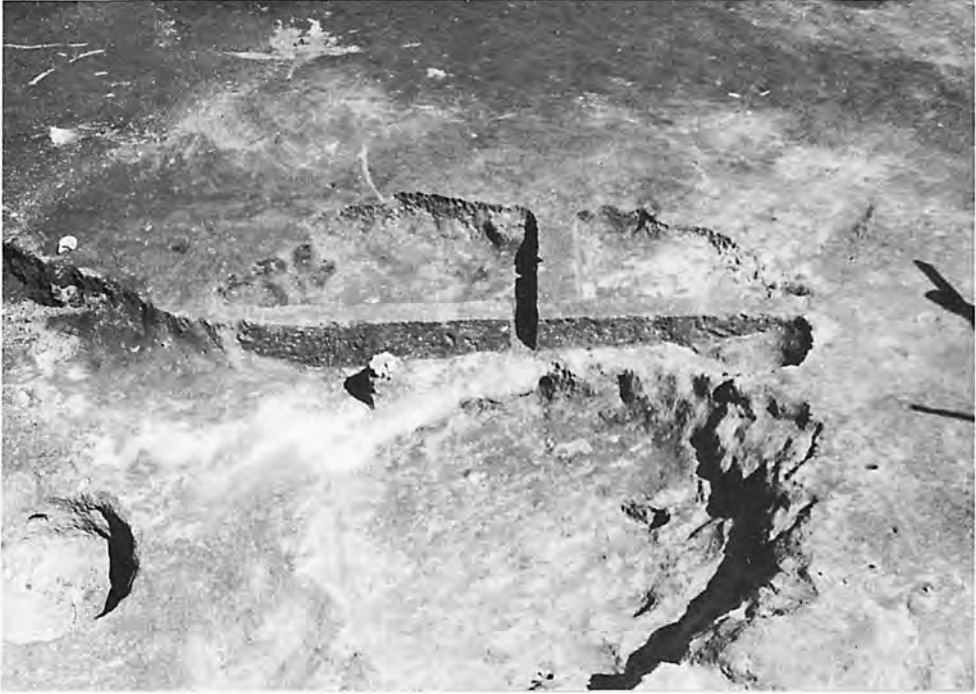


写真10 上・13号住居跡、下・15号住居跡





上・202、203、204、208号住居跡  
写真11 下・201号住居跡

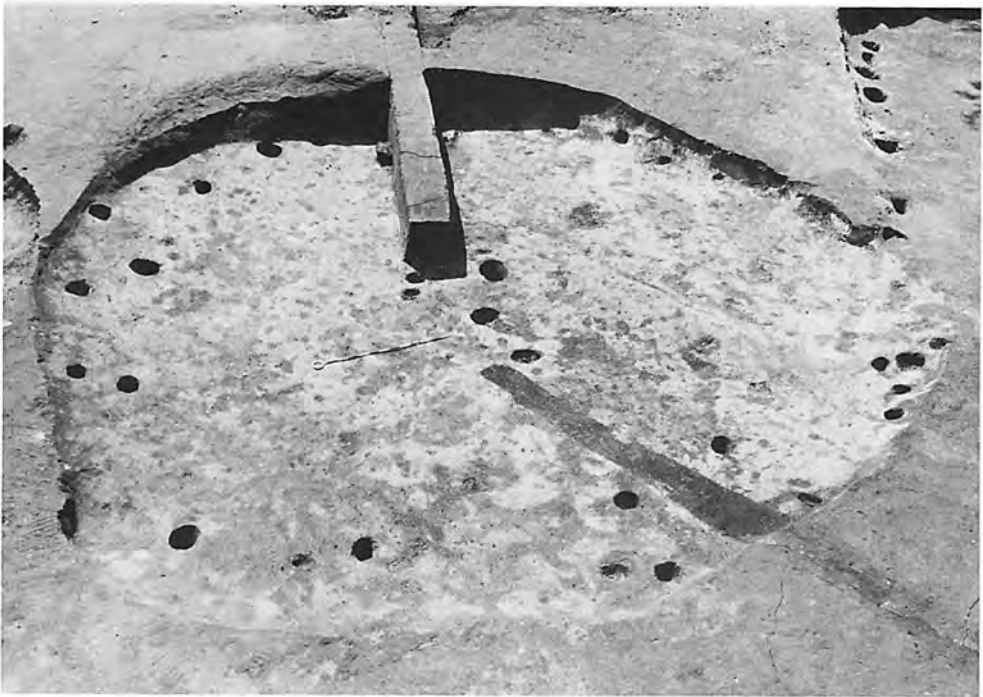
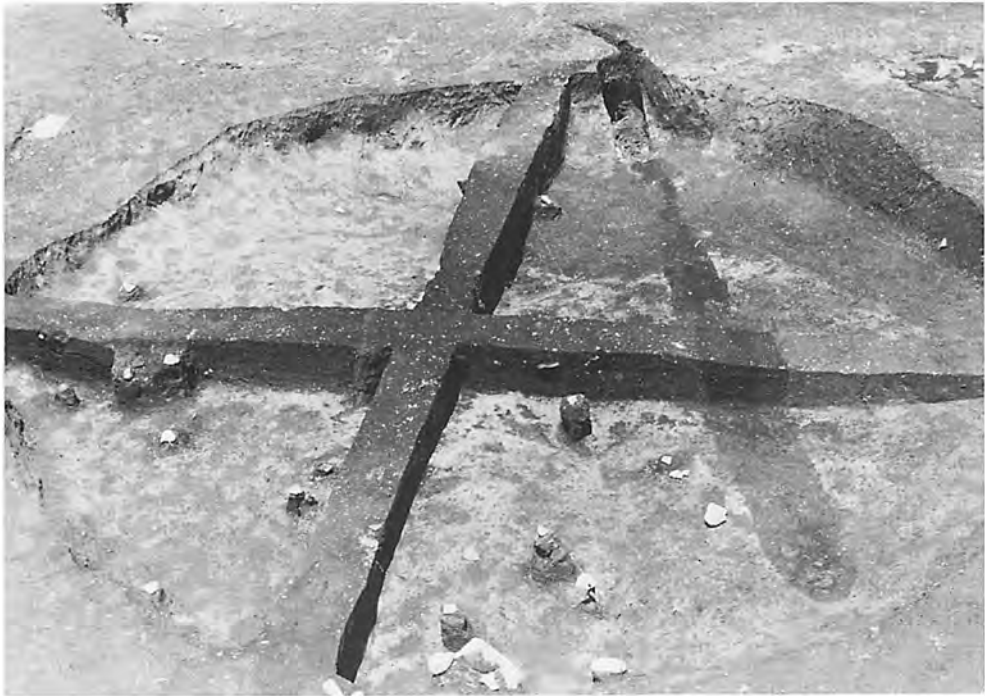


写真12 上・202号住居跡、下・203号住居跡





上・204号住居跡  
写真13 下・203号住居跡(左)、204号住居跡(右)

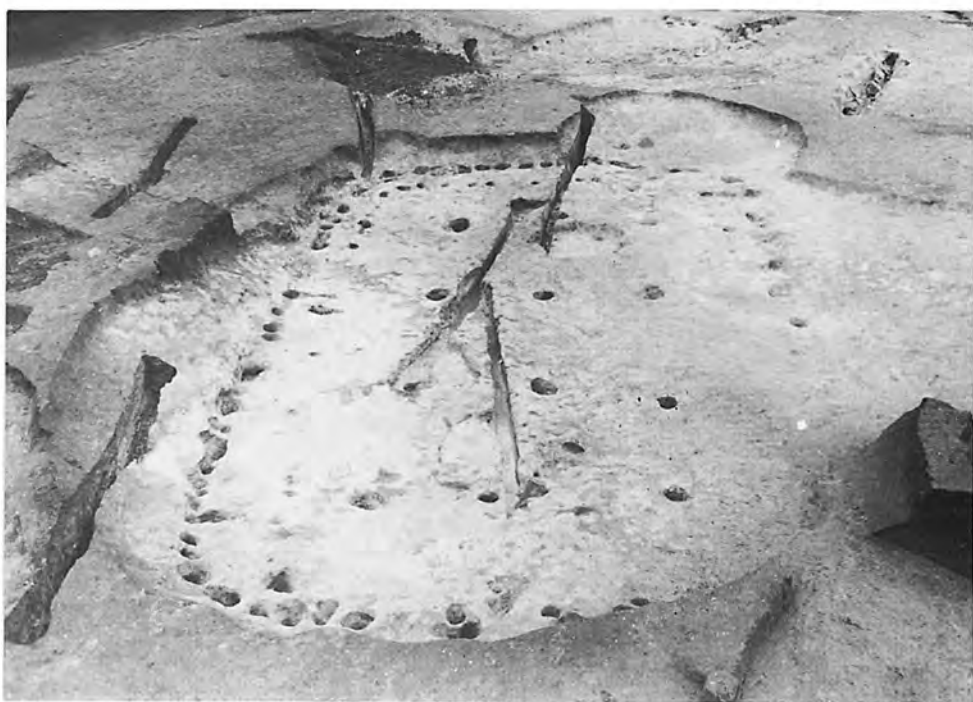


写真14 上・下・205号住居跡



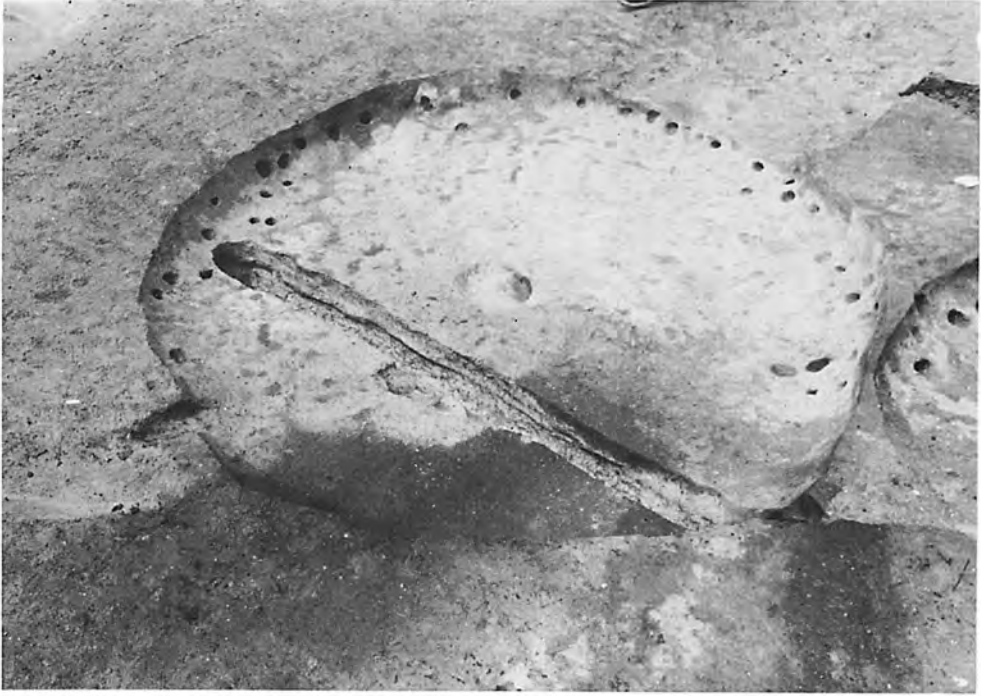


写真15 上・206号住居跡、下・208号住居跡

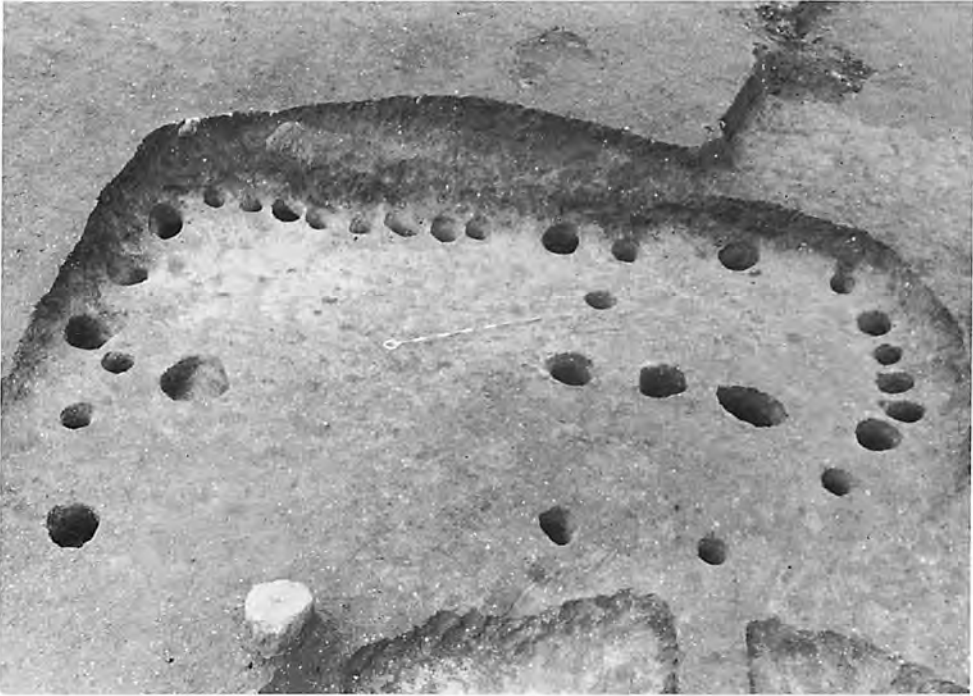


写真16 上・207号住居跡、下・209号住居跡



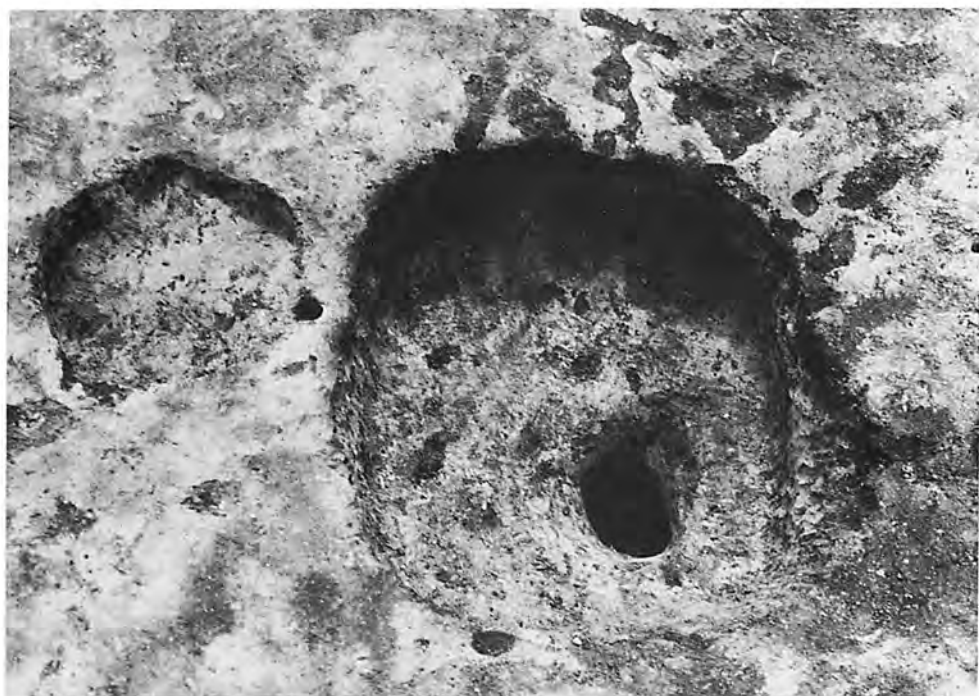


写真17 上・2号豎穴遺構、下・204号豎穴遺構



写真18 上・1号集石遺構、下・2号集石遺構





写真19 上・3号集石遺構、下・4号集石遺構



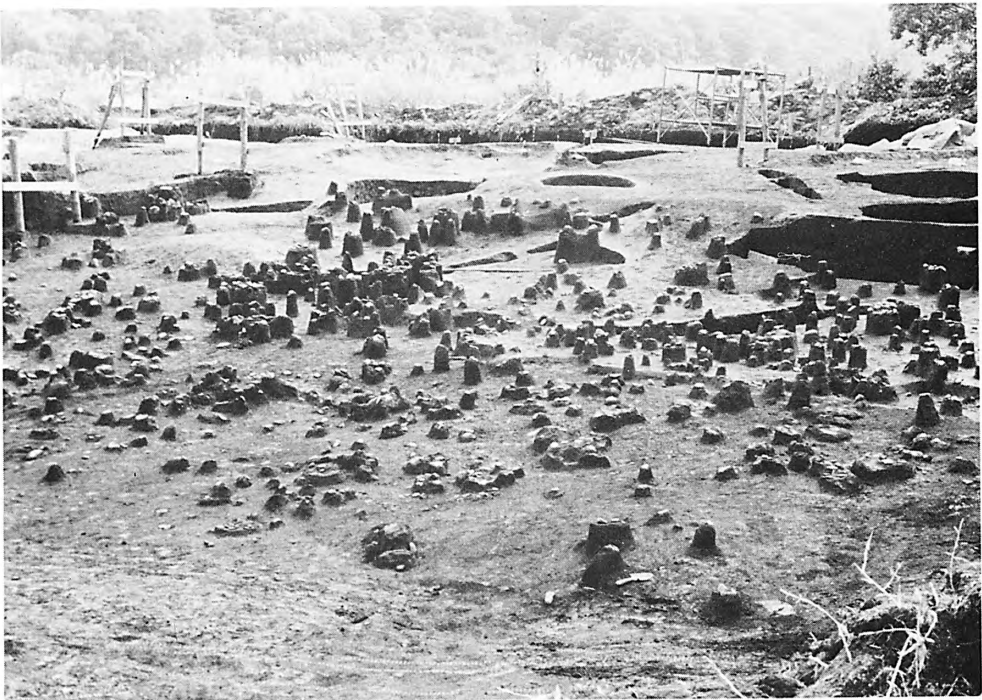


写真20 売場遺跡遺物出土状況





写真21 上・下・遺構外土器出土状況



写真22 上・下・遺構外土器出土状況





写真23 上・下・遺構外土器出土状況



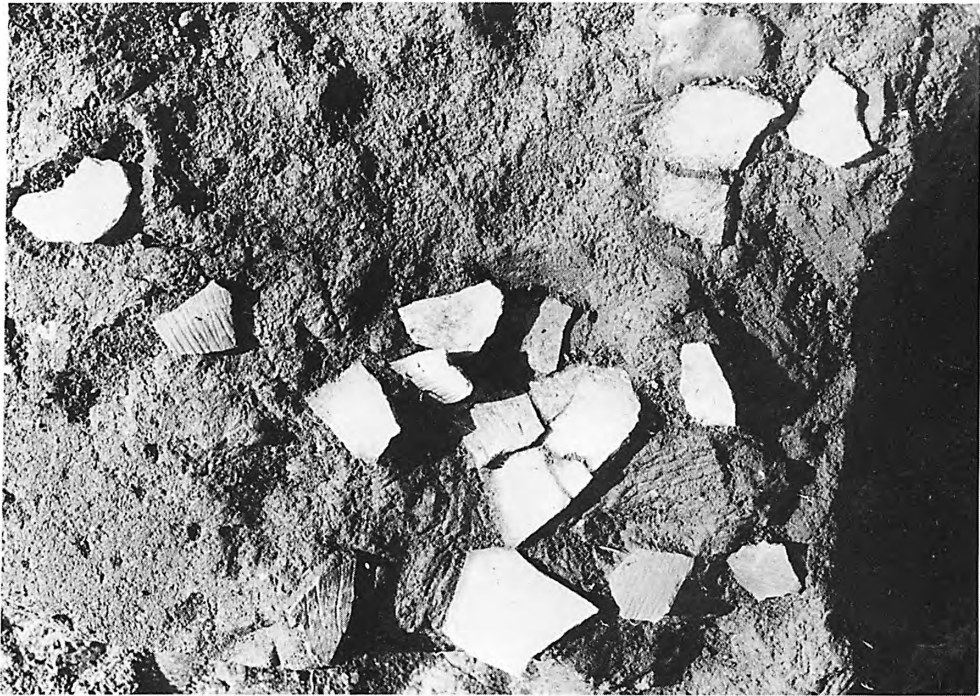
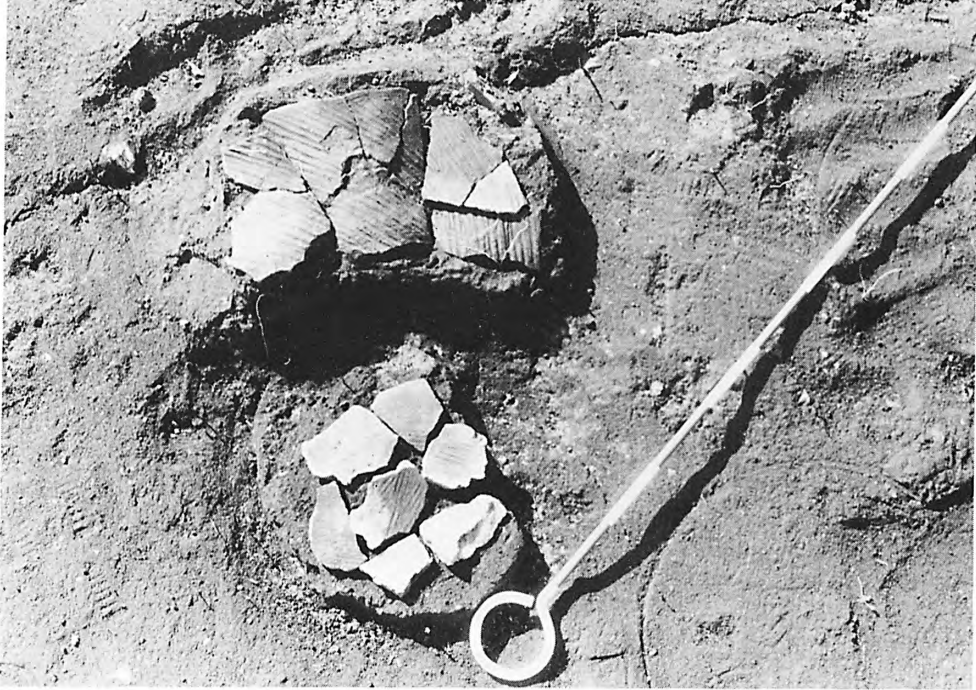
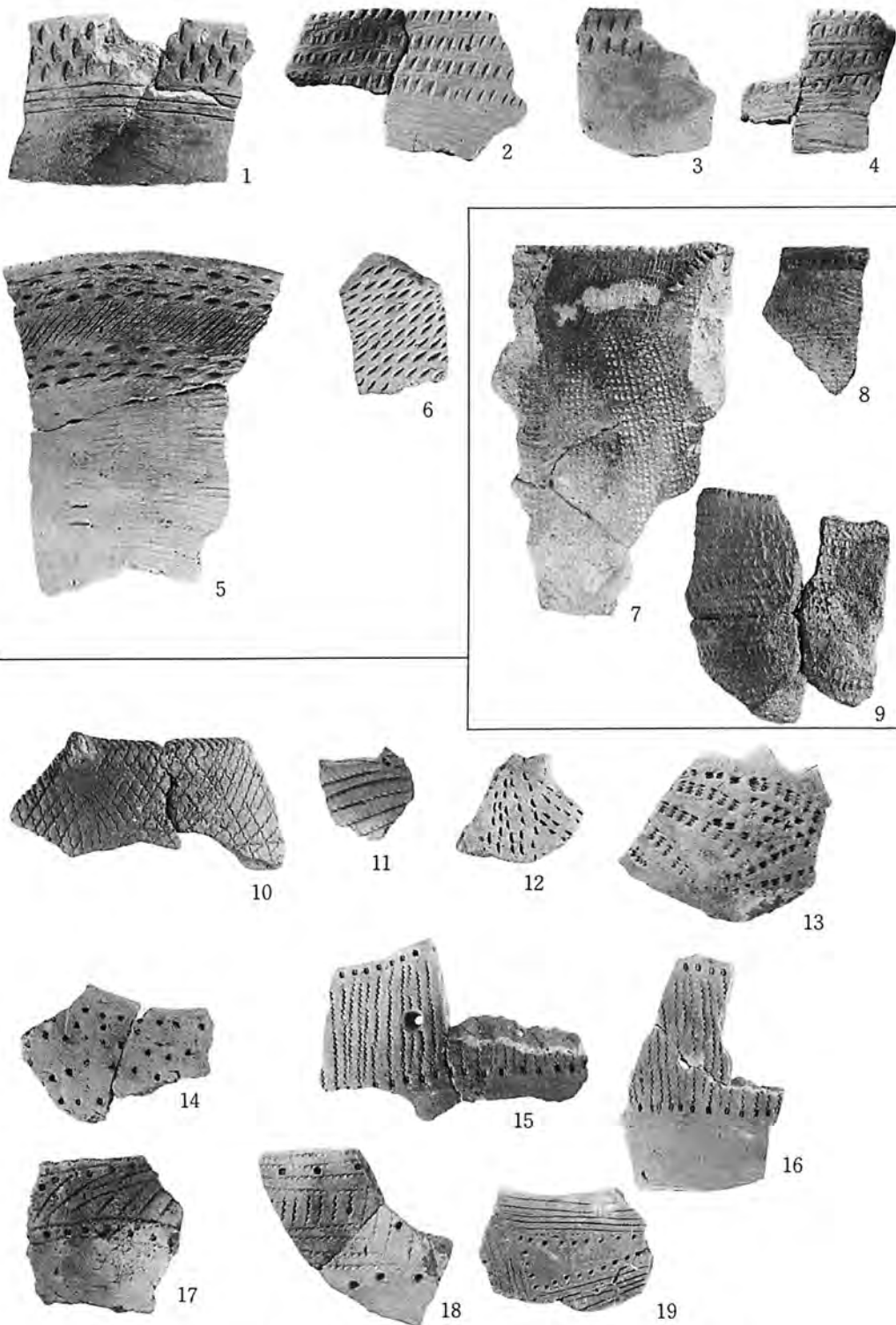


写真24 上・下・遺構外遺物出土状況



上・第Ⅱ群土器(1~6)、右・第Ⅳ群土器(7~9)  
 写真25 下・第Ⅴ群A類土器(14~19)



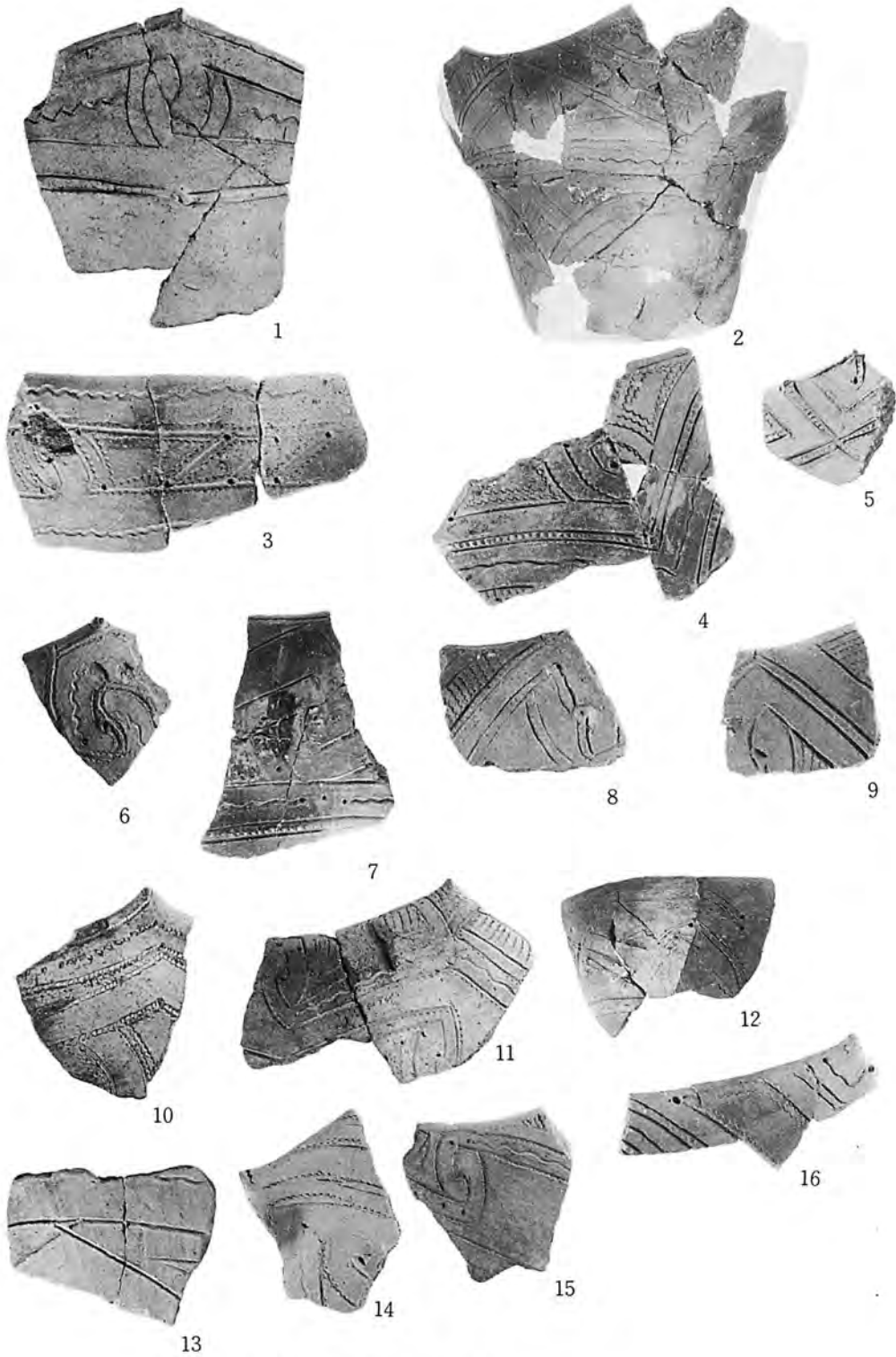
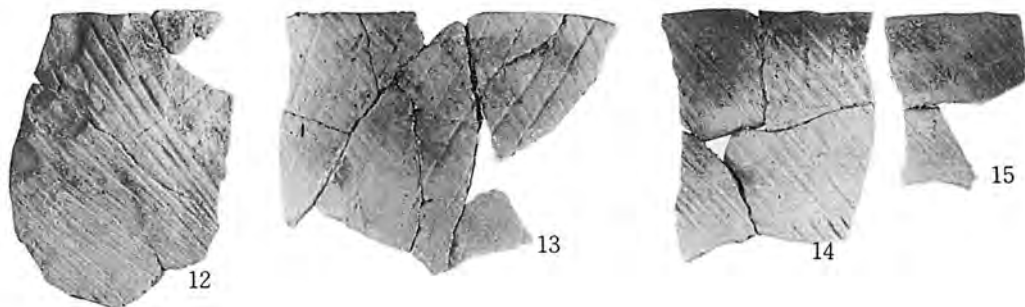
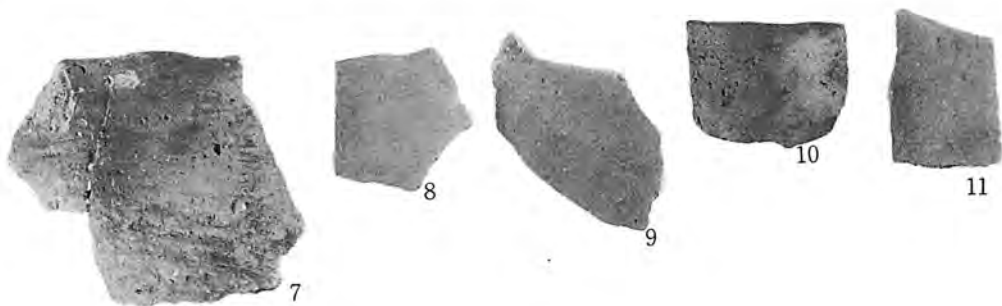
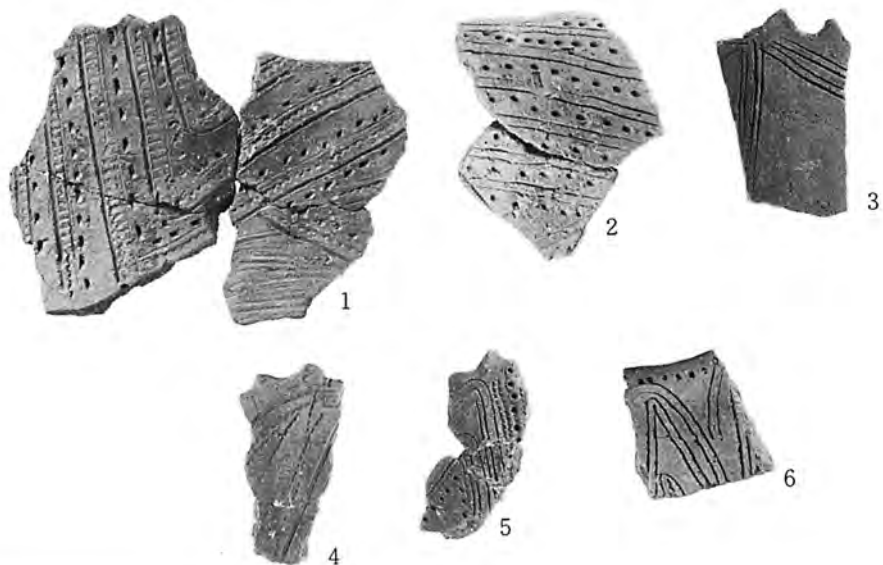


写真26 第V群B類土器 (1~15)





上・第V群C類土器 (1~6)  
 中・第V群D類土器 (7~11)  
 写真27 下・第VI群A類土器 (12~15)

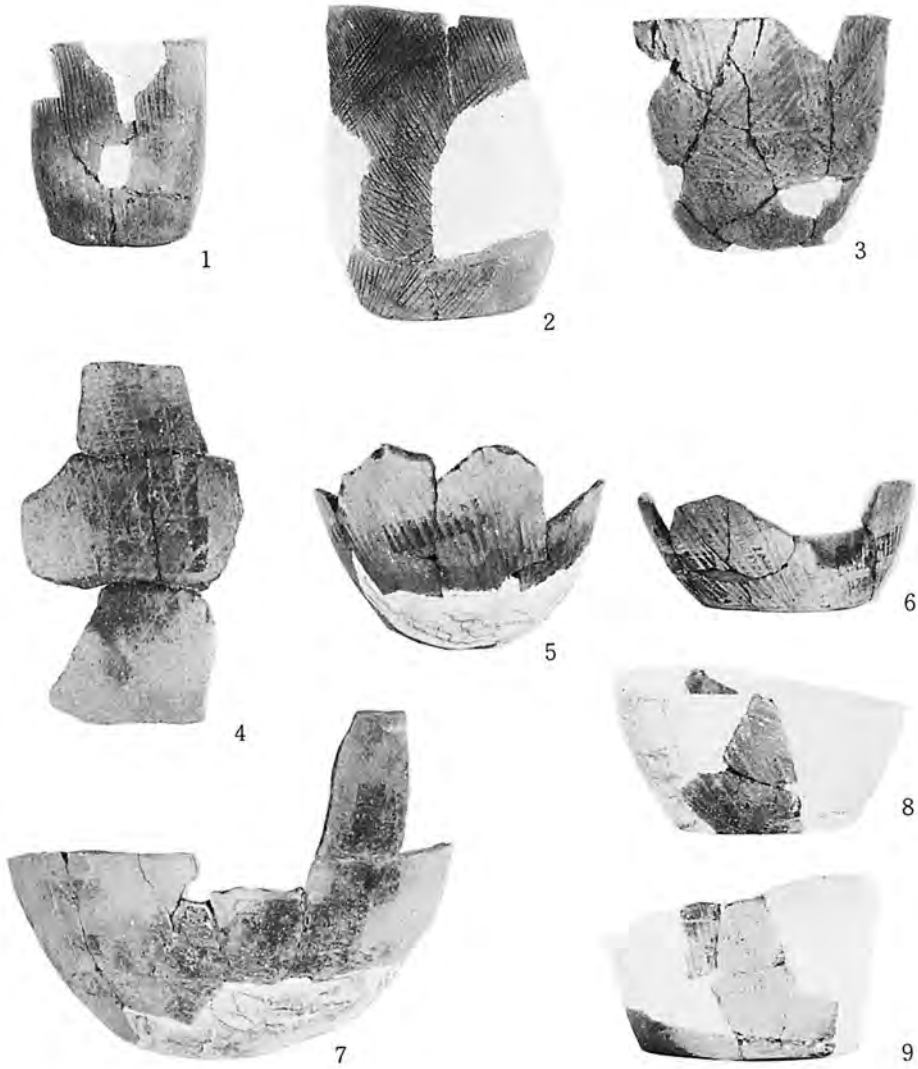


写真28 第VI群土器（1～9）

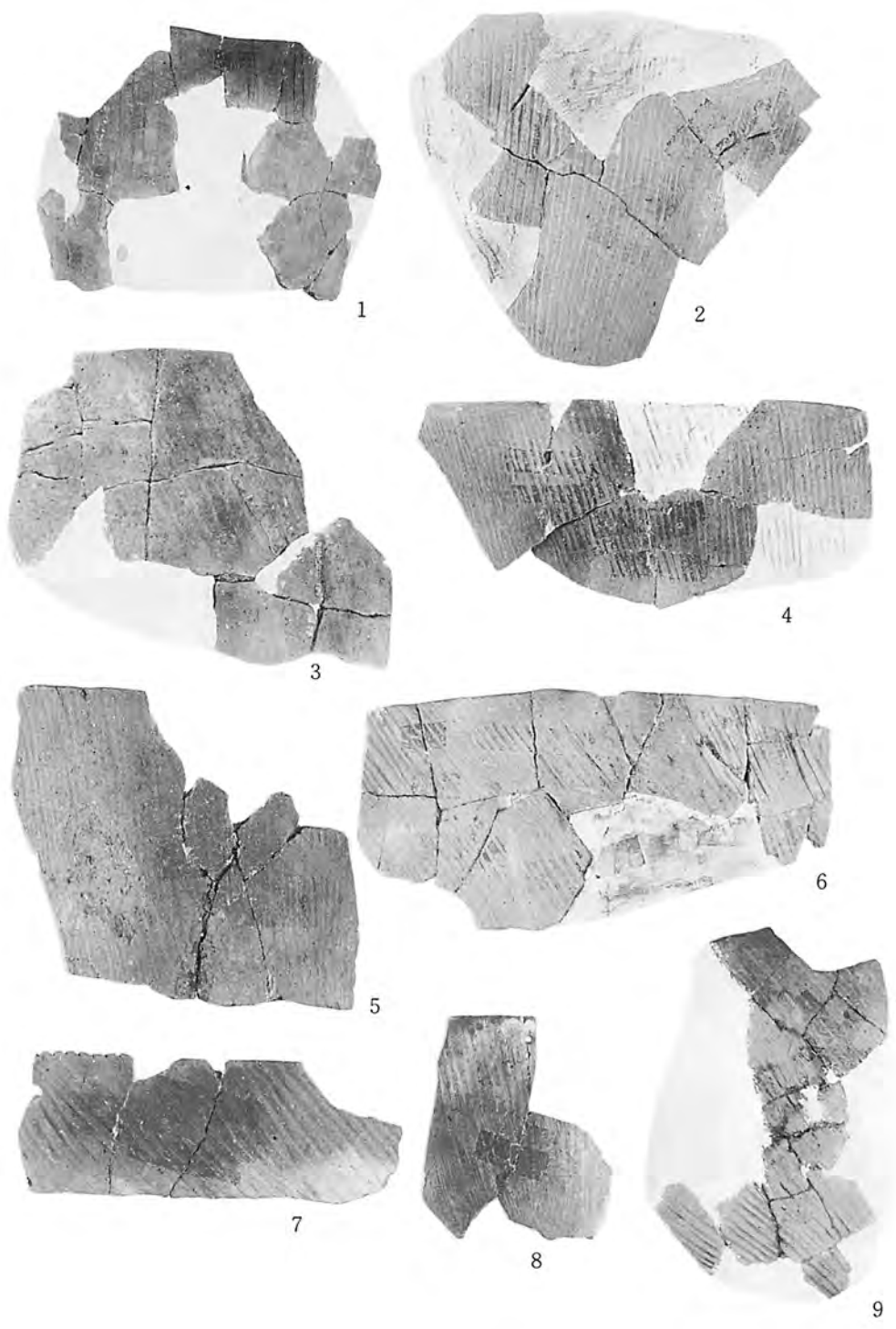


写真29 第Ⅵ群A、類土器（1～9）

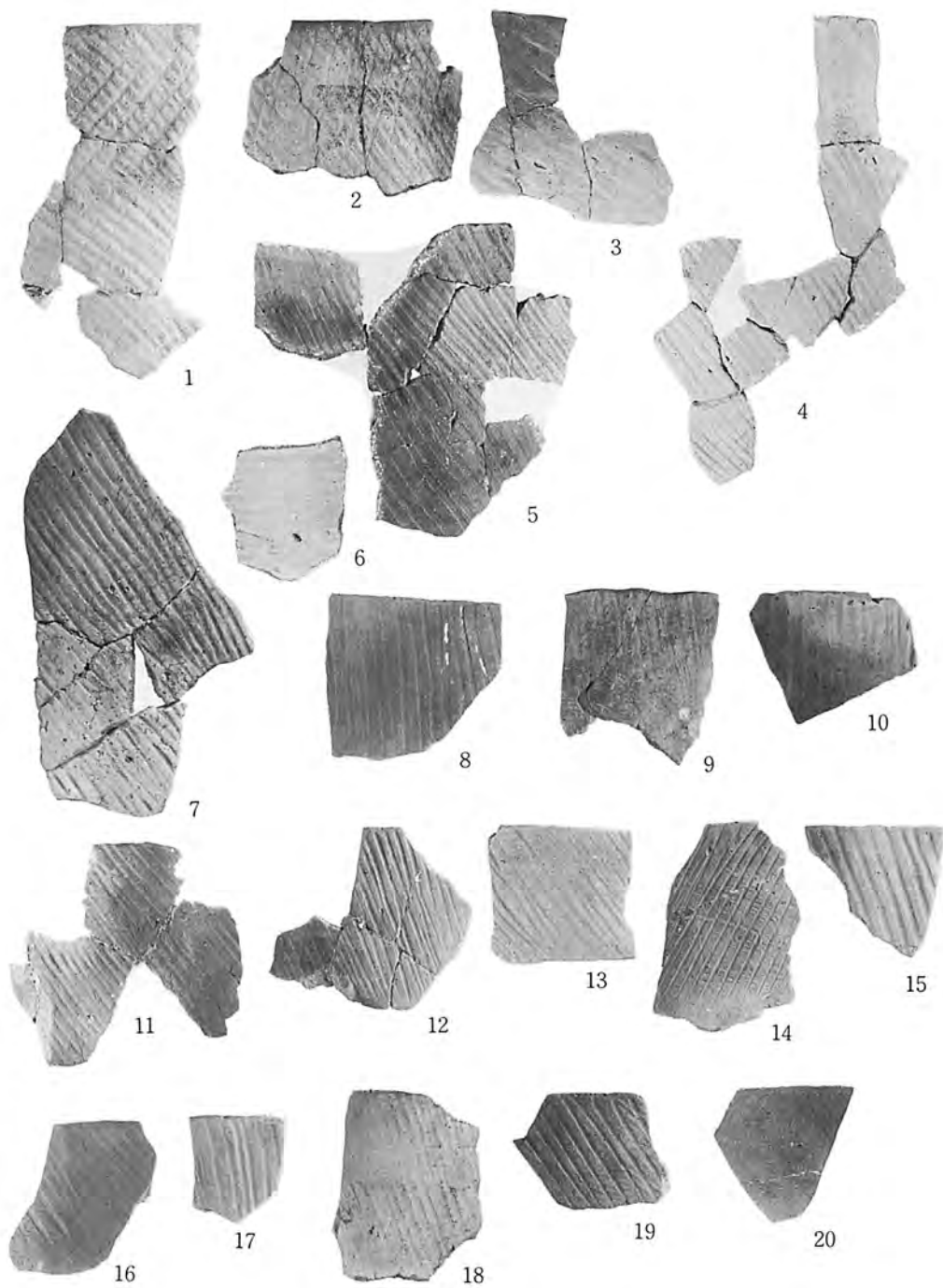


写真30 第VI群A | 類土器 (1~20)



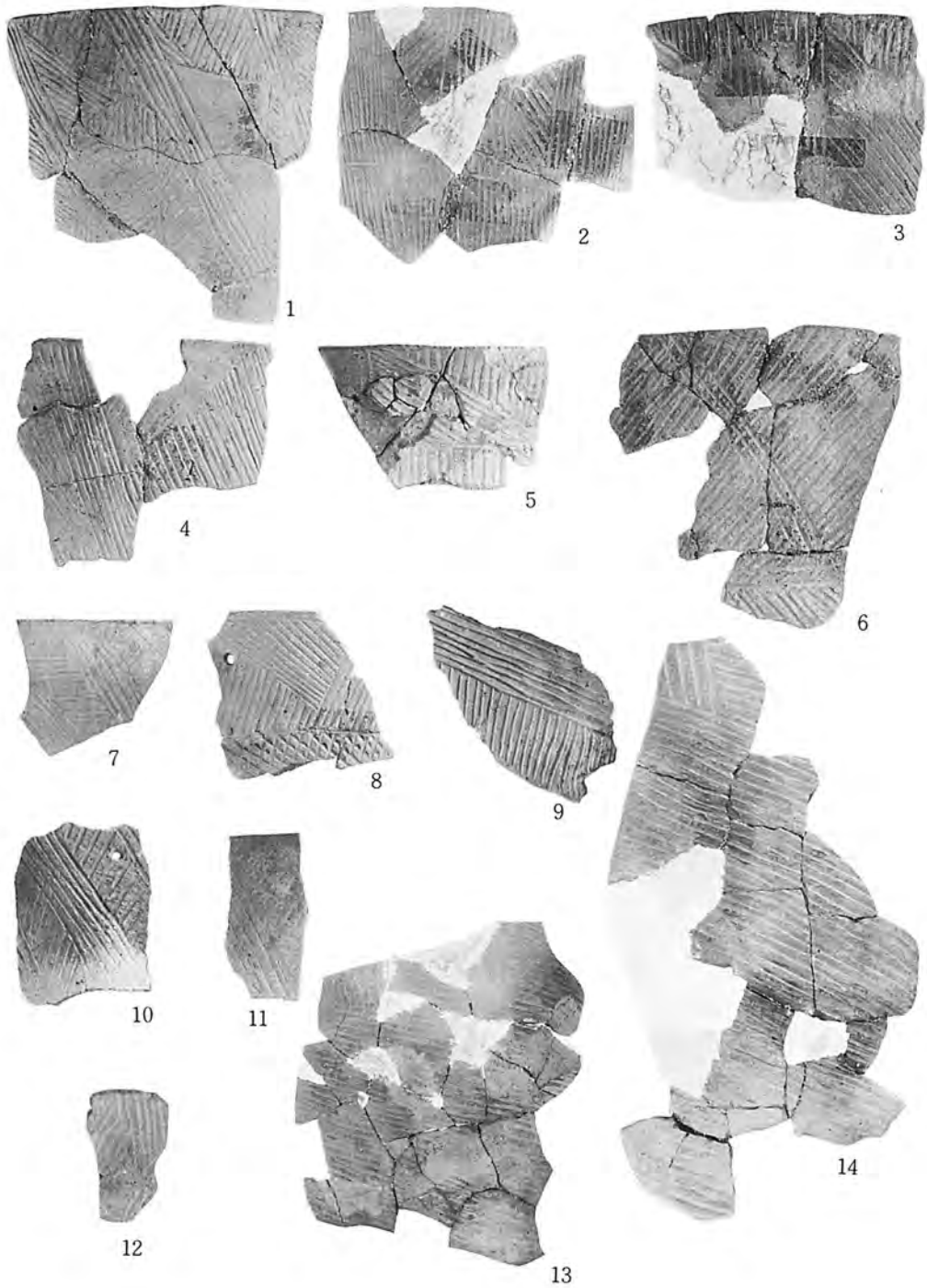
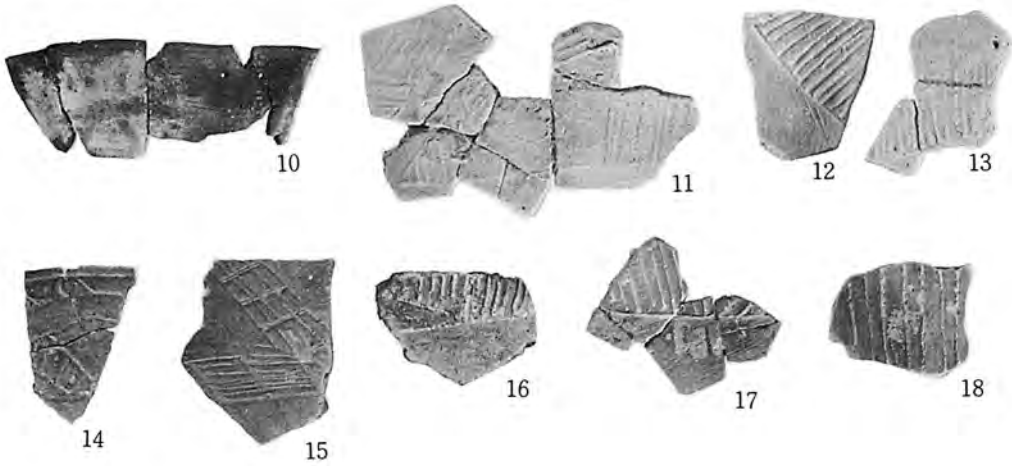
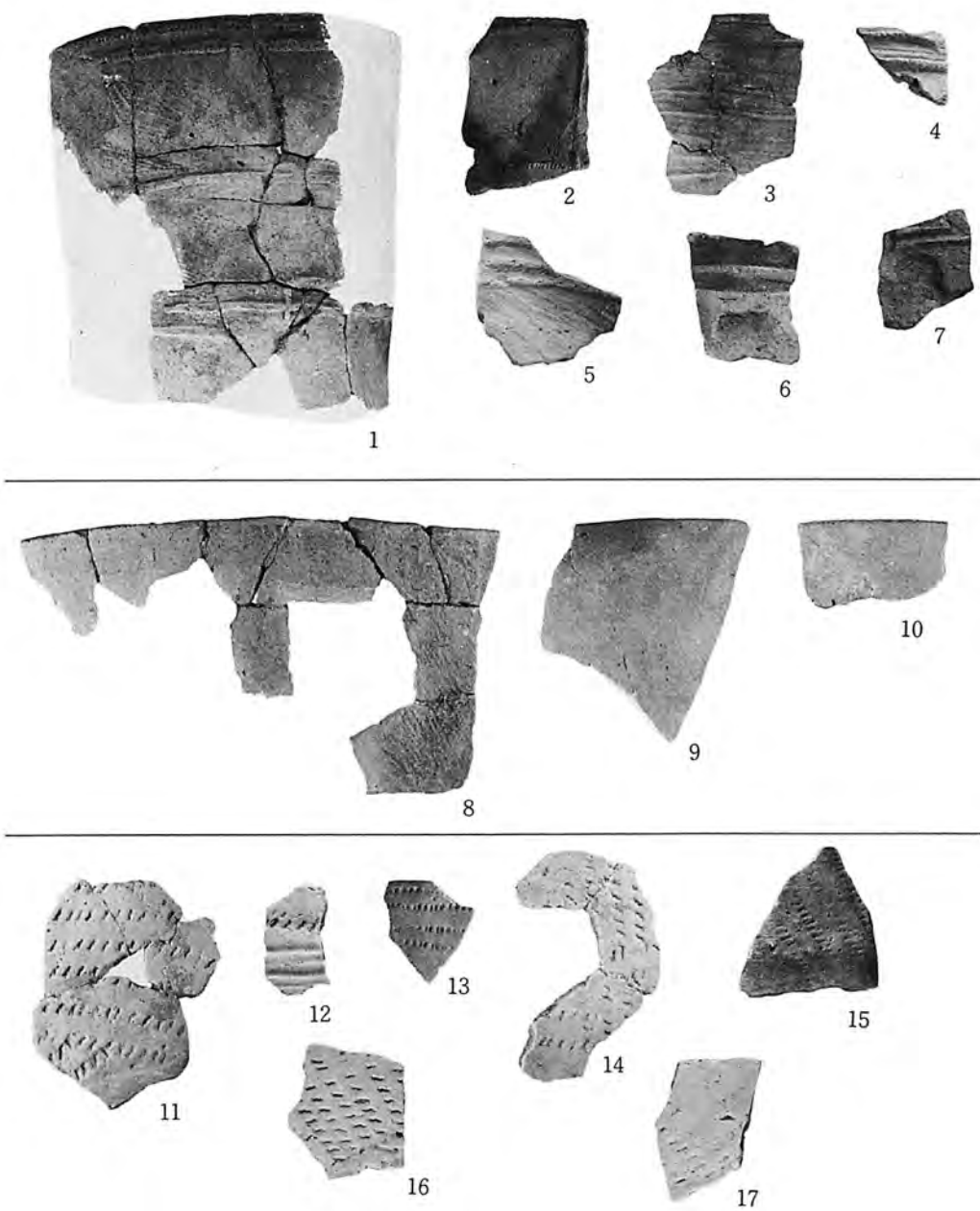


写真31 第VI群A<sub>2</sub>類土器 (1~14)



上・第Ⅵ群A<sub>3</sub>類土器 (1~4)  
 中・第Ⅵ群B類土器 (5~9)  
 写真32 下・第Ⅵ群D<sub>1</sub>類土器 (10~18)





上・第Ⅵ群D<sub>2</sub>類土器（1～7）  
 中・第Ⅵ群C類土器（8～10）  
 写真33 下・第Ⅵ群E類土器（11～17）

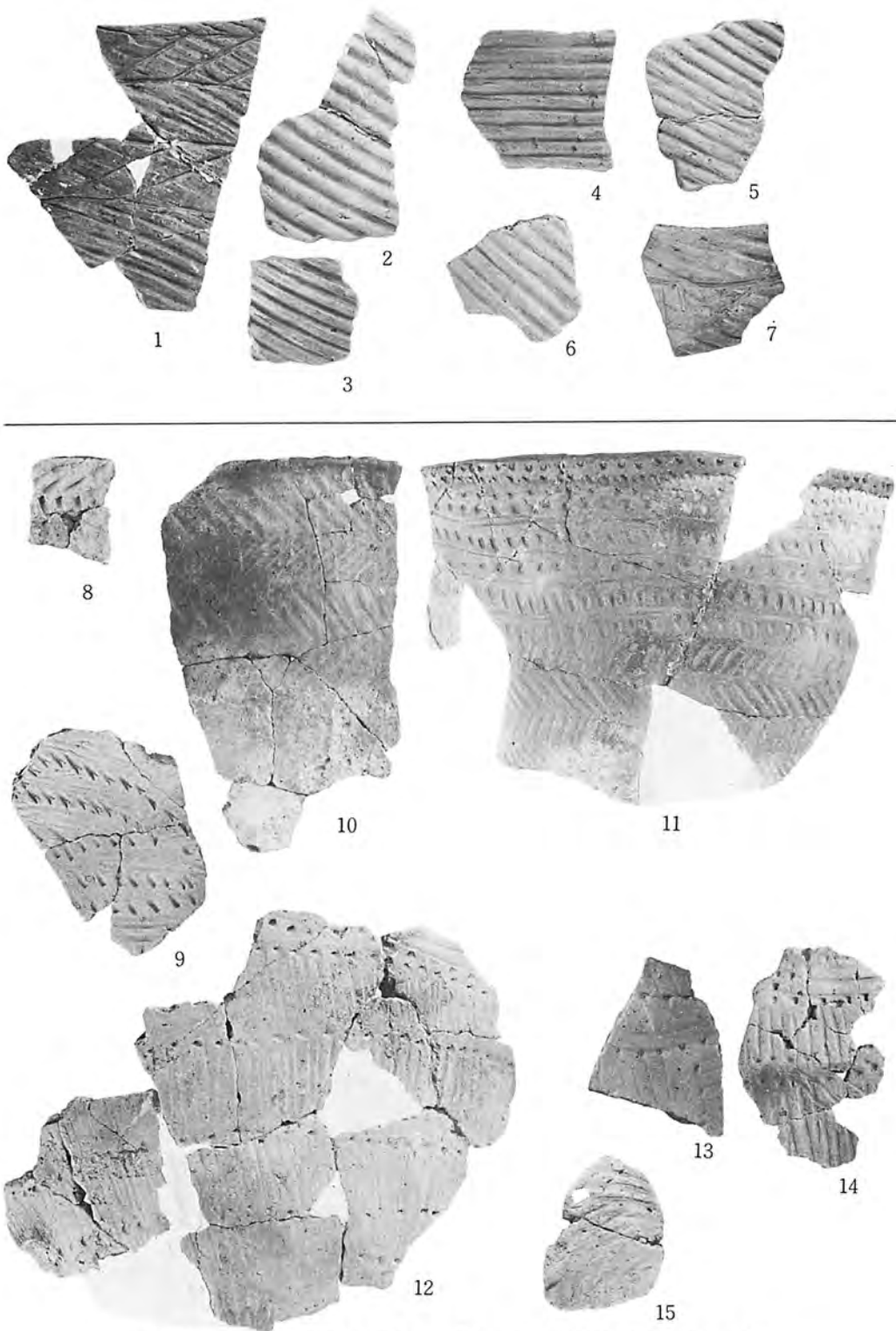
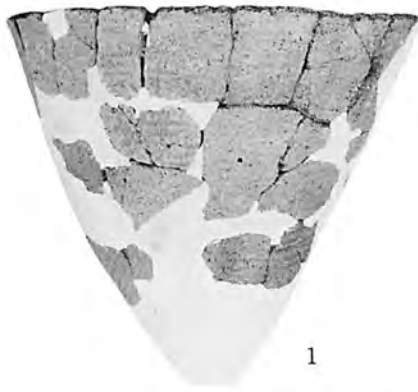


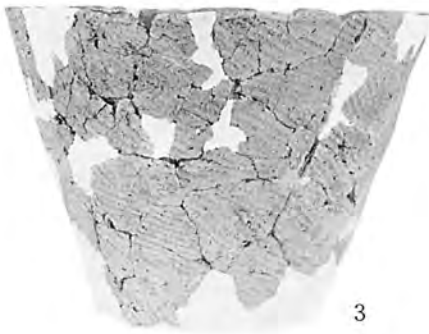
写真34 上・第Ⅶ群土器(1~7)、下・第Ⅷ群土器(8~15)



1



2



3



4



5



6



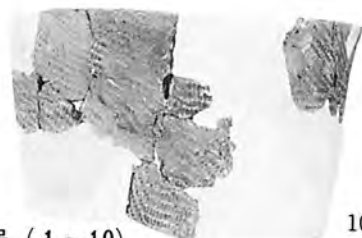
7



8



9



10

写真35 第Ⅸ群A群土器 (1~10)

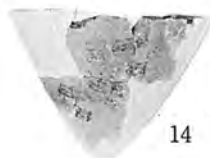
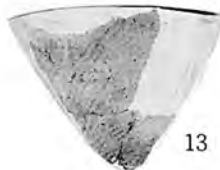
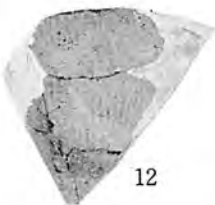


写真36 第Ⅸ群A類土器



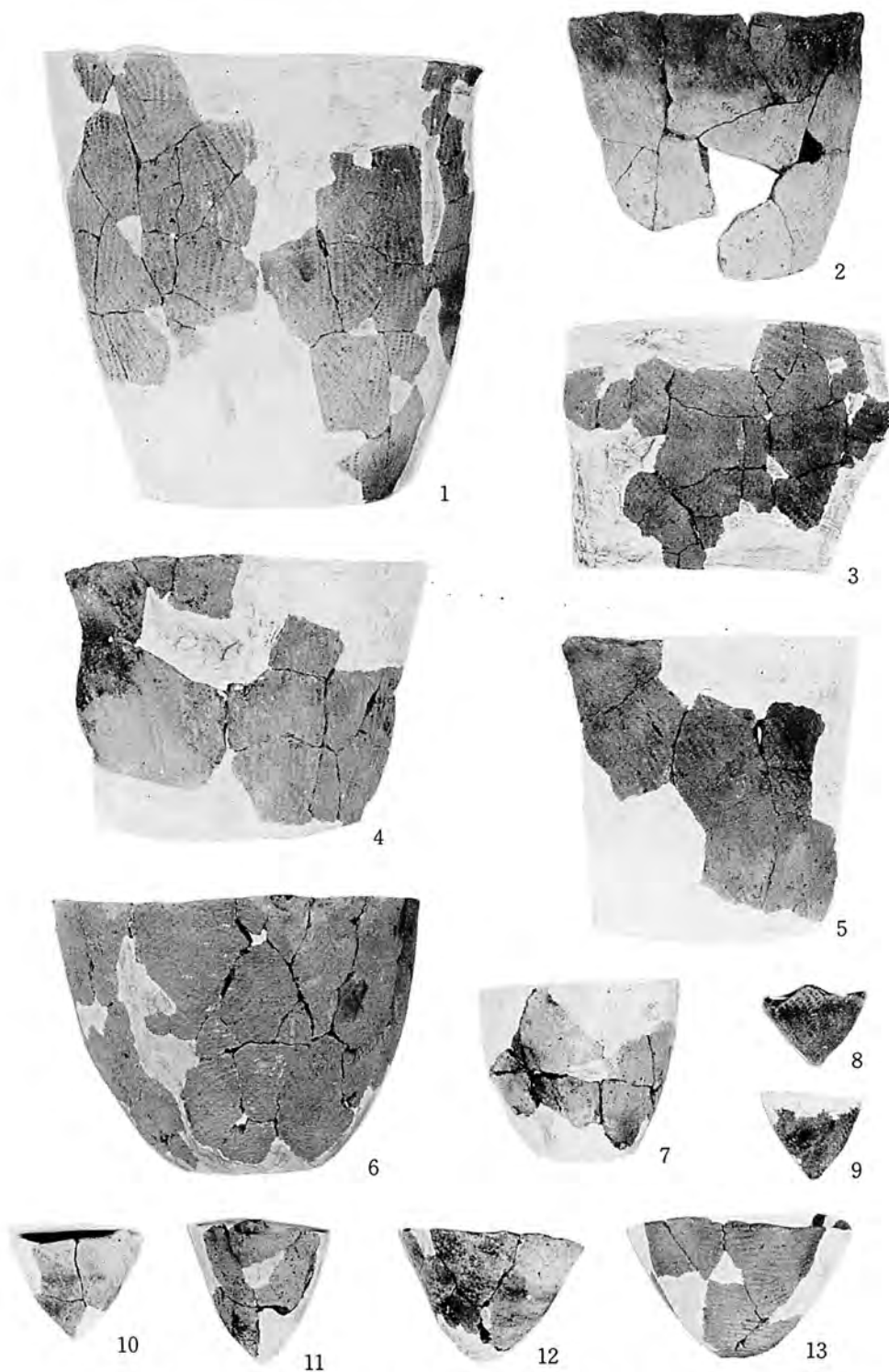


写真37 第Ⅸ群B類土器 (1~13)

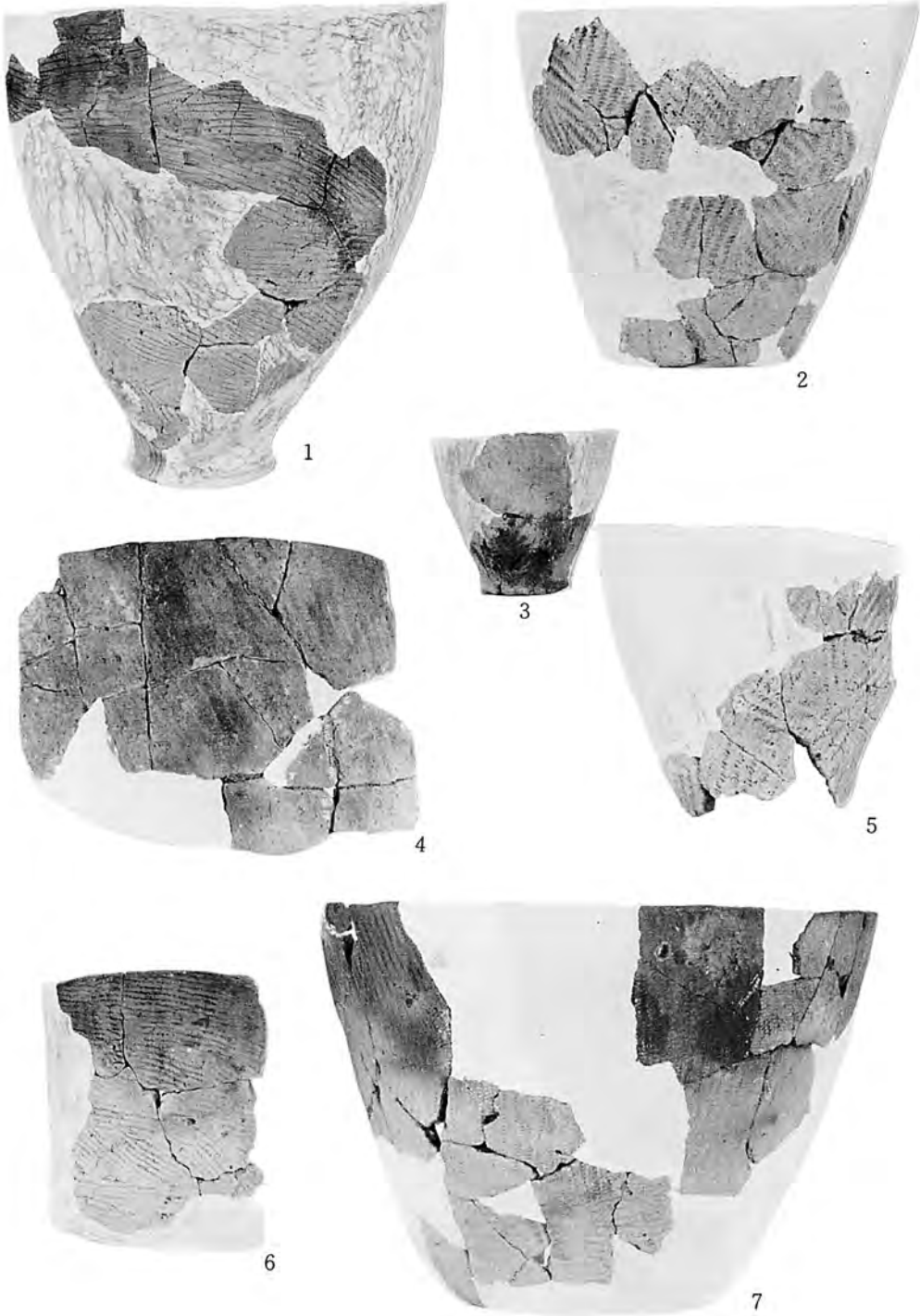
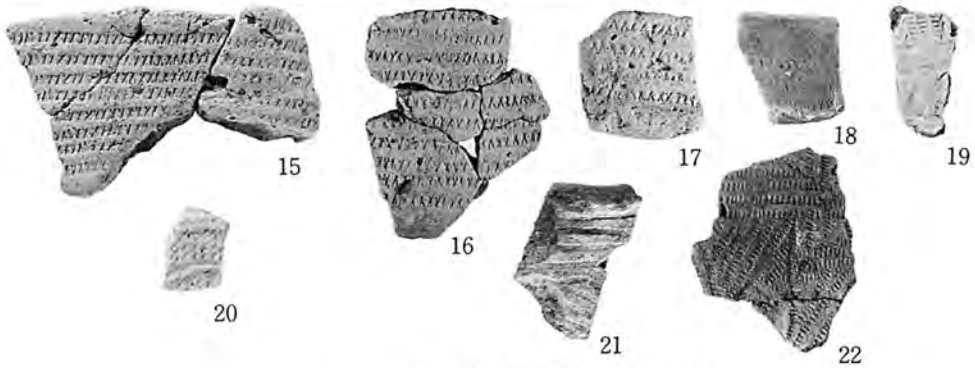
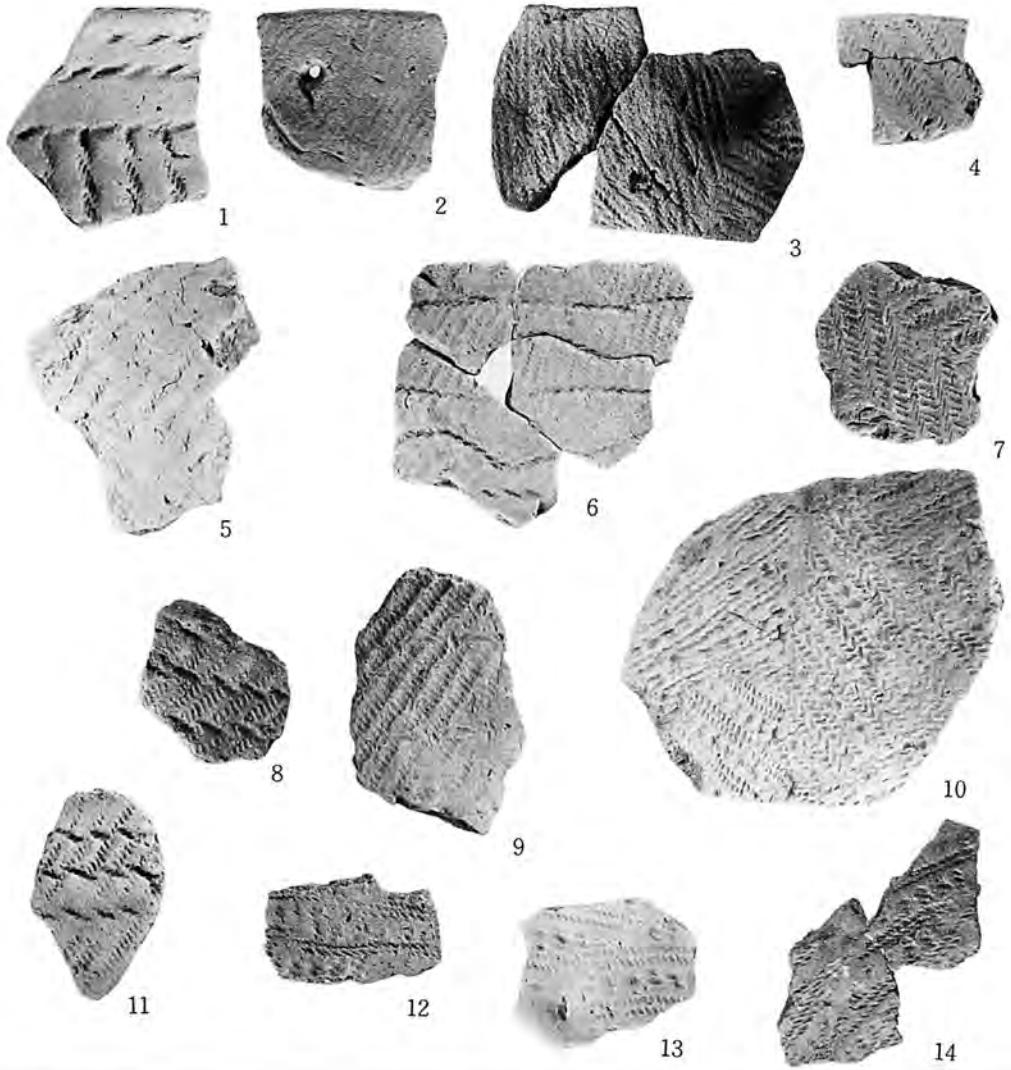


写真38 第X群土器 (1~7)





上・第X群土器 (1~14)  
 写真39 下・第XI群土器 (15~22)

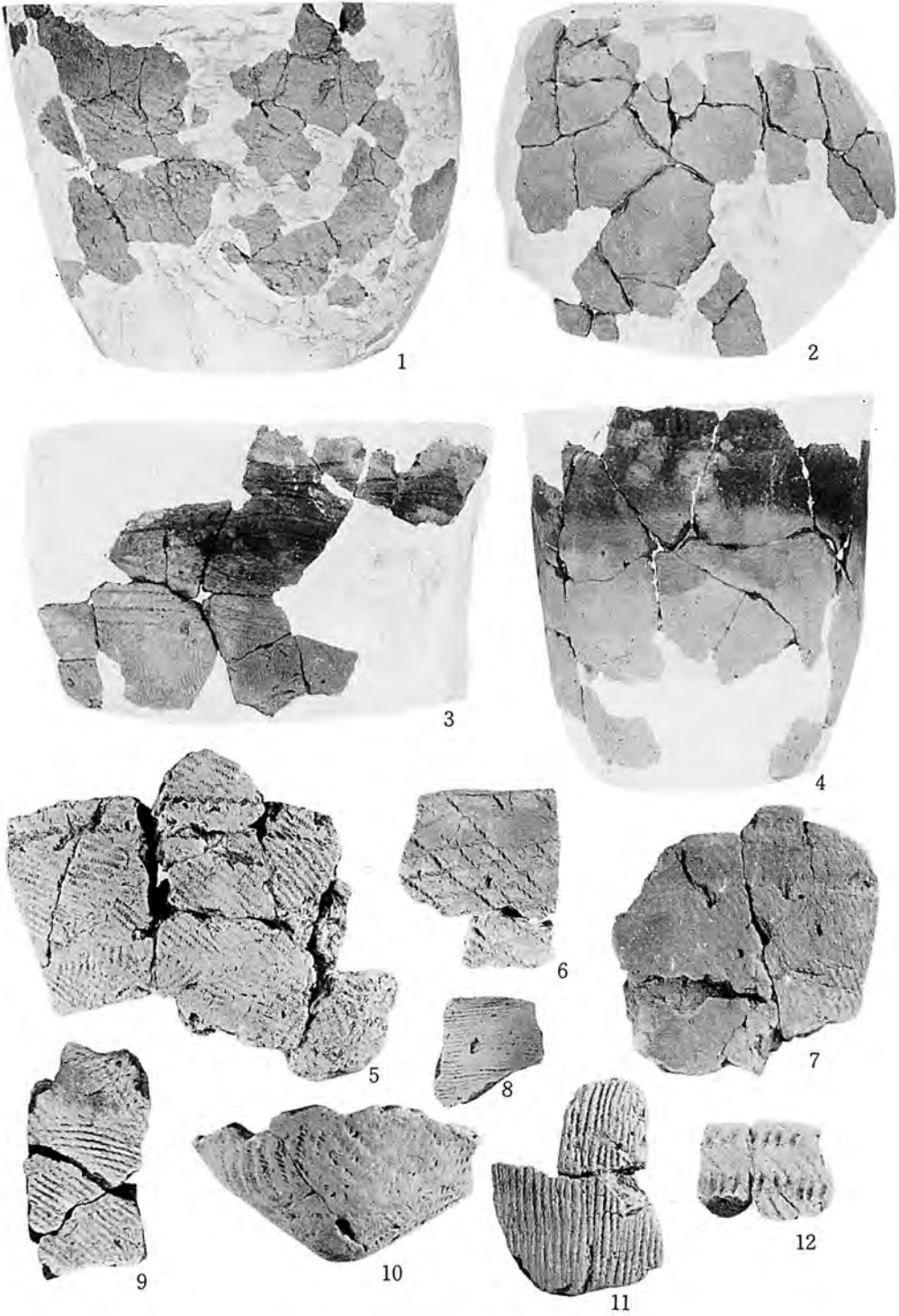


写真40 第Ⅶ群土器 (1~12)

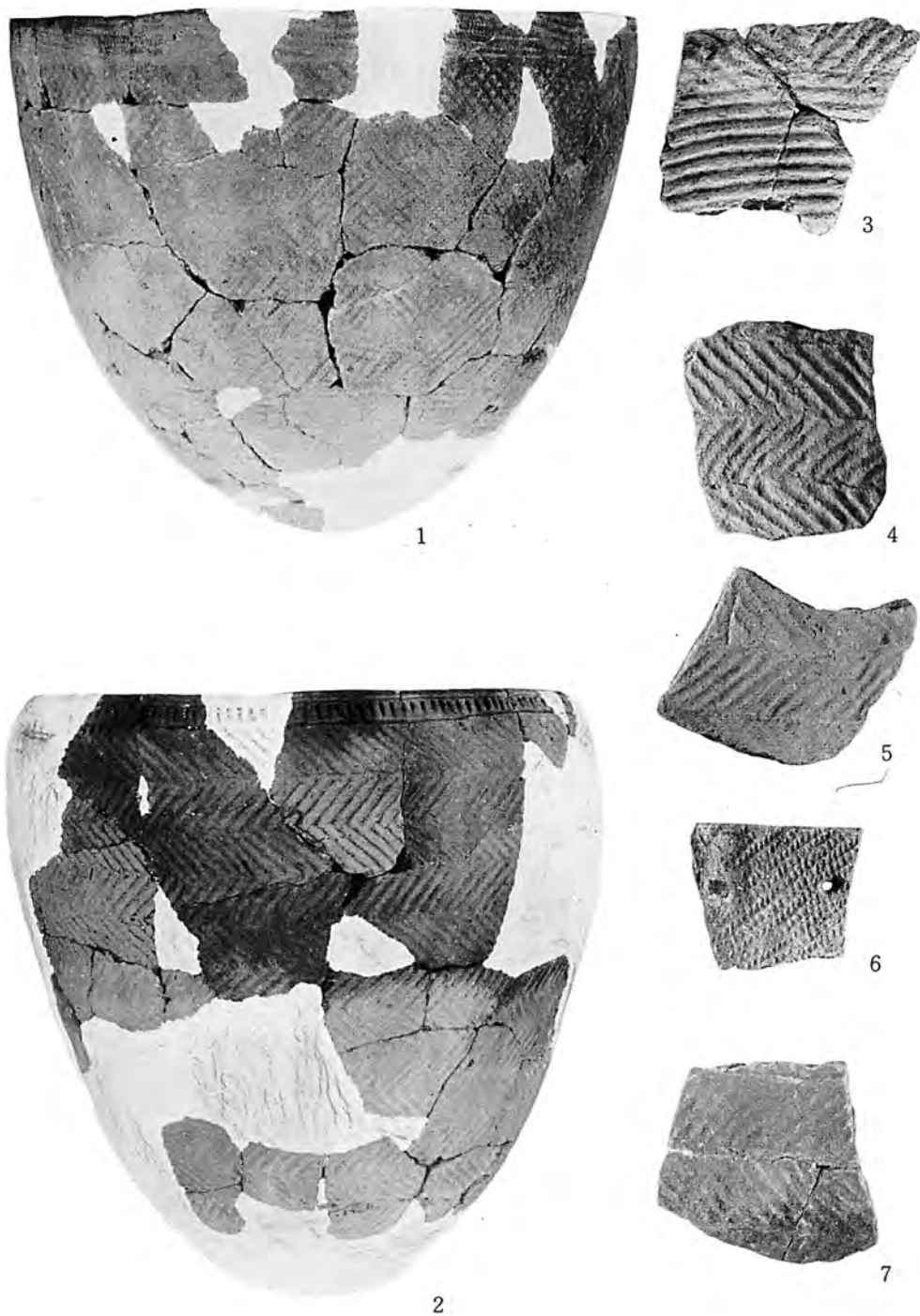


写真41 第Ⅲ群土器(1~7)



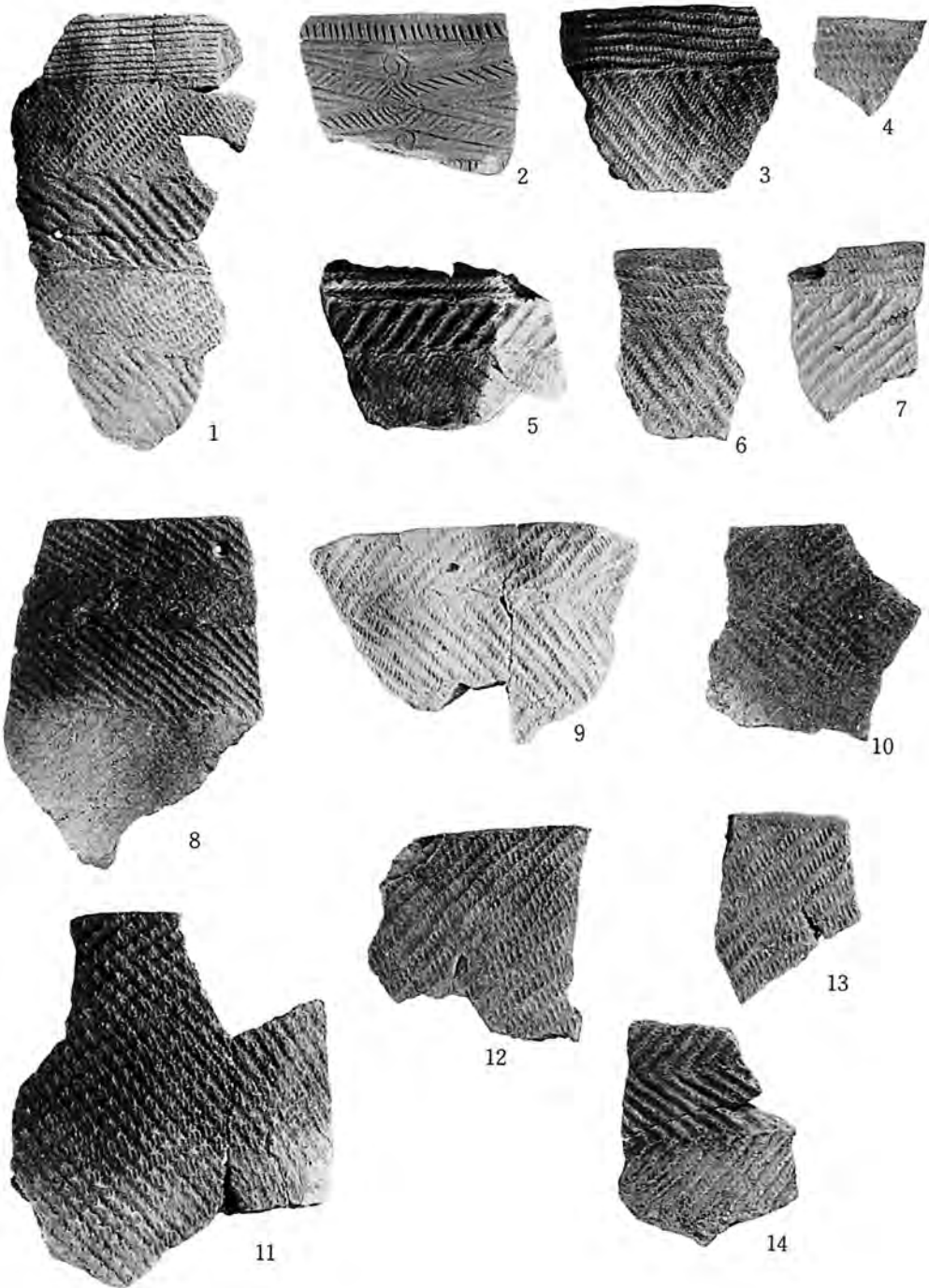
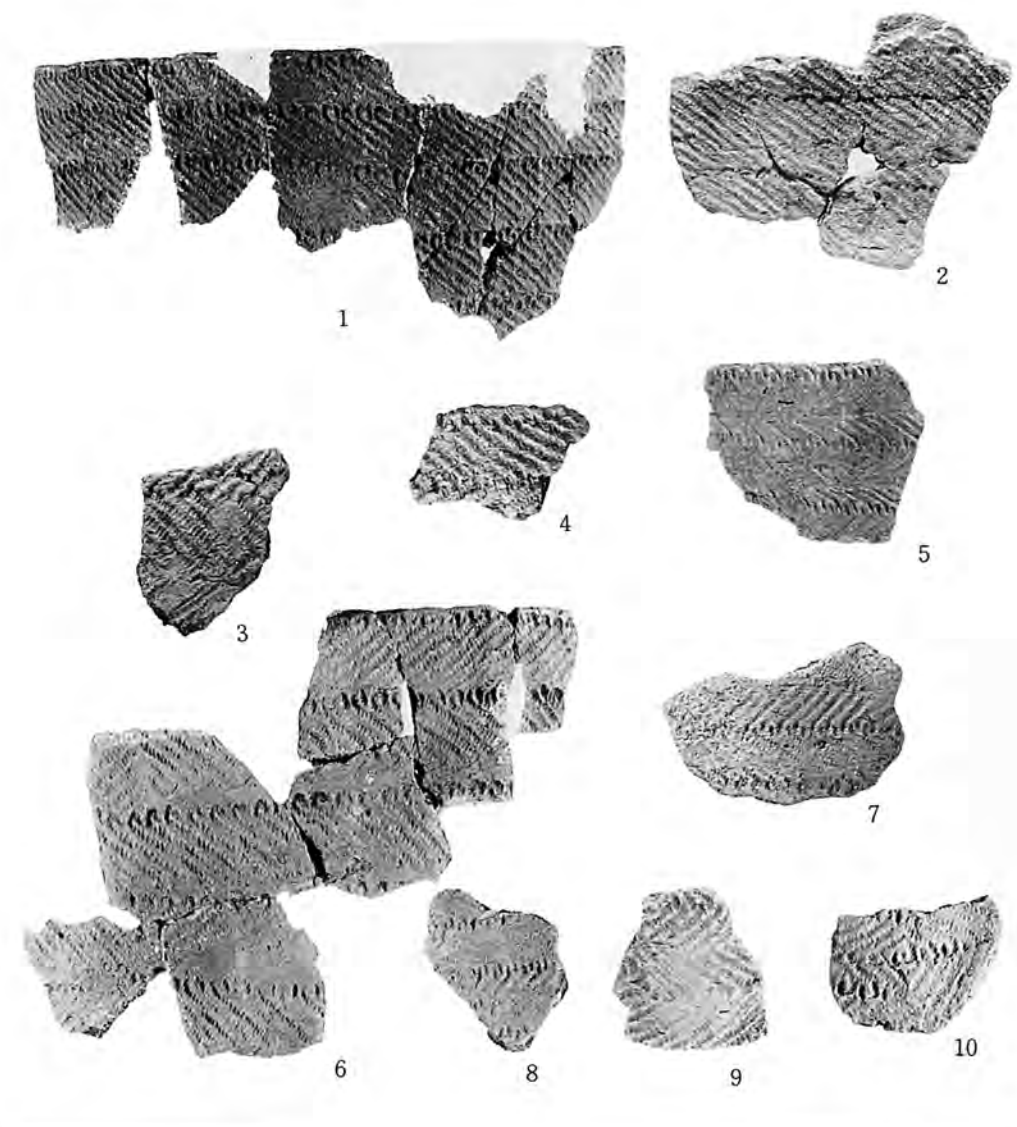
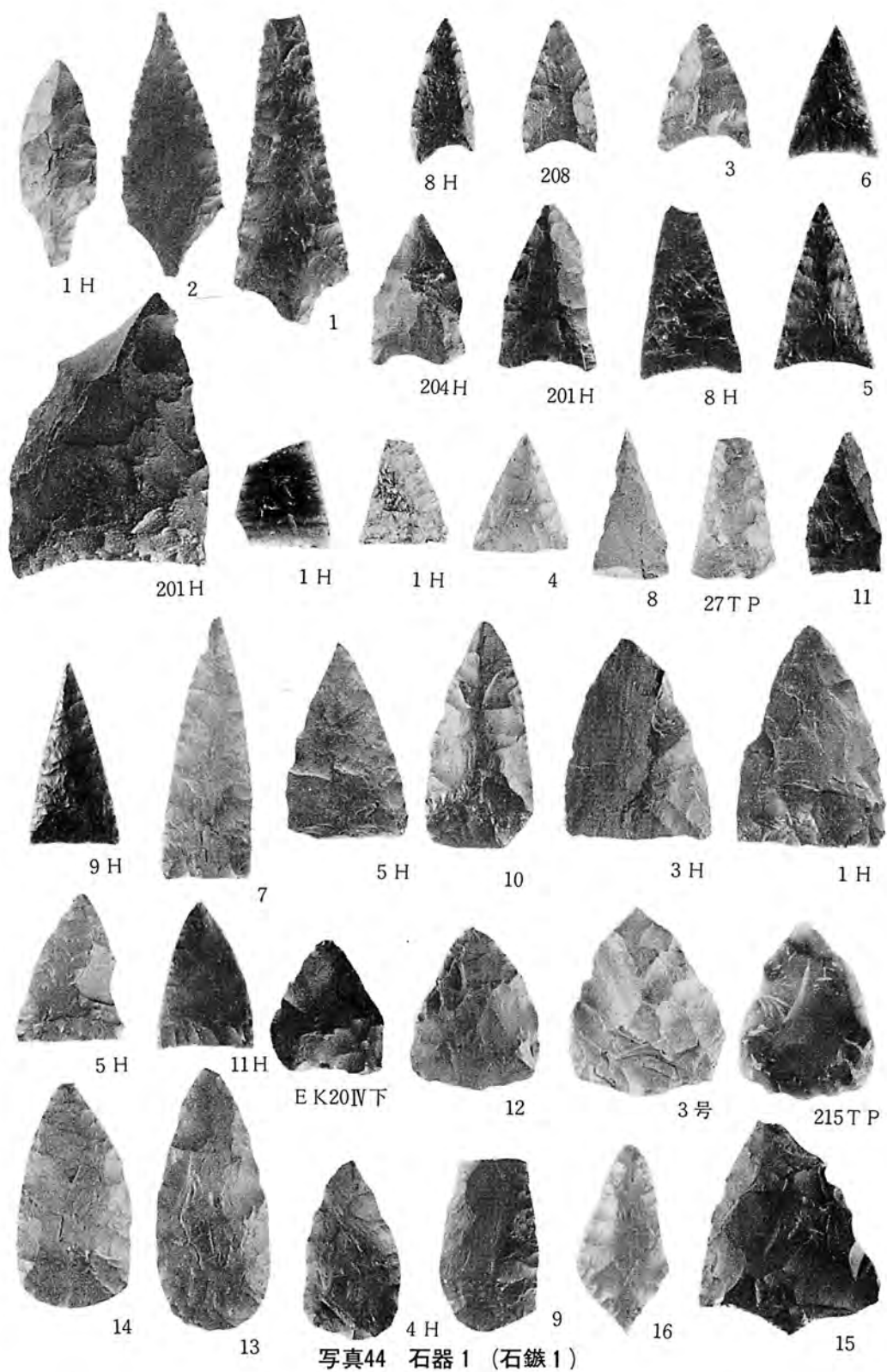


写真42 第Ⅻ群土器 (1~14)



上・第XIV群土器(1~10)  
 写真43 下・第XIV群土器(11~15)





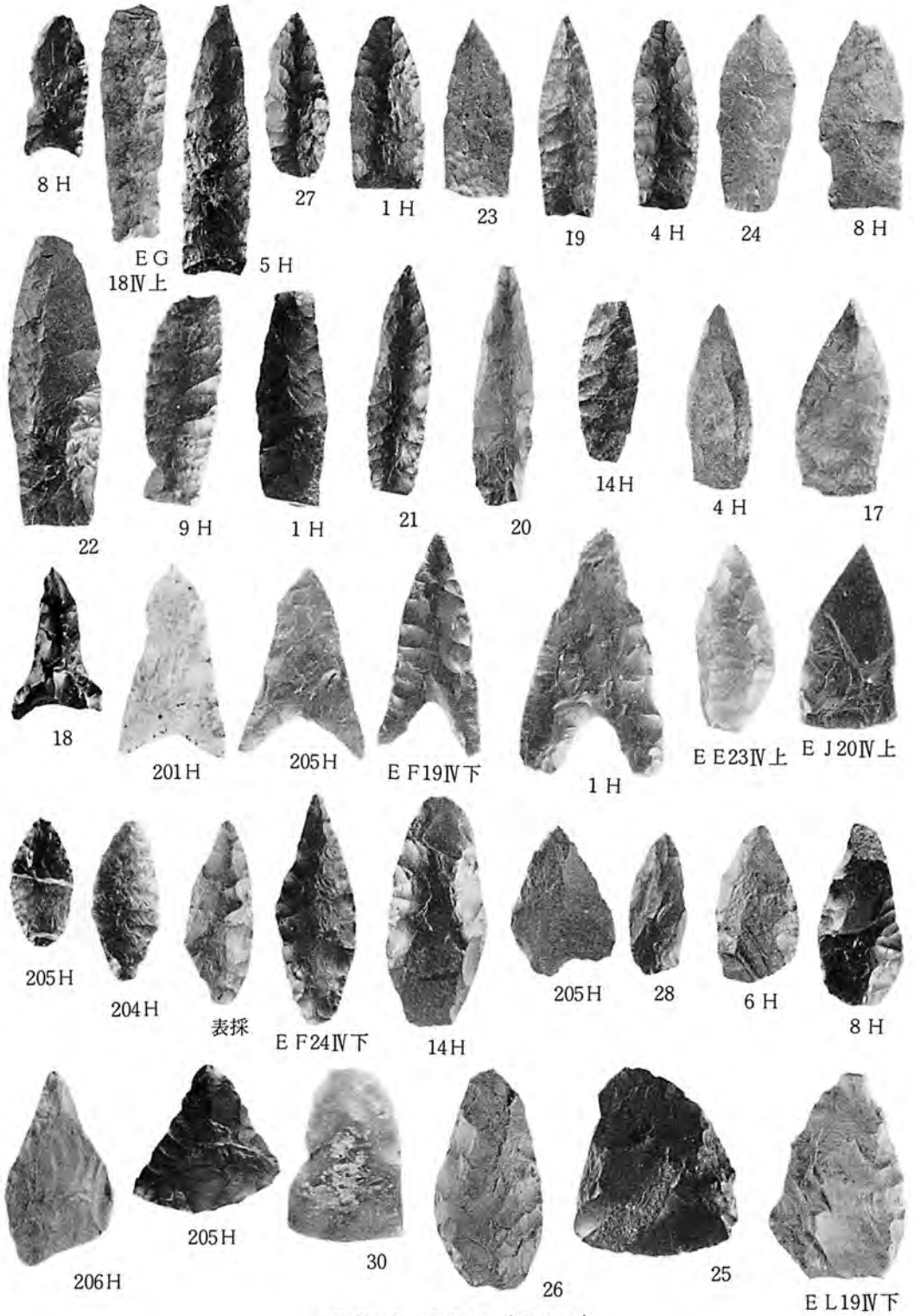


写真45 石器 2 (石鏃 2)

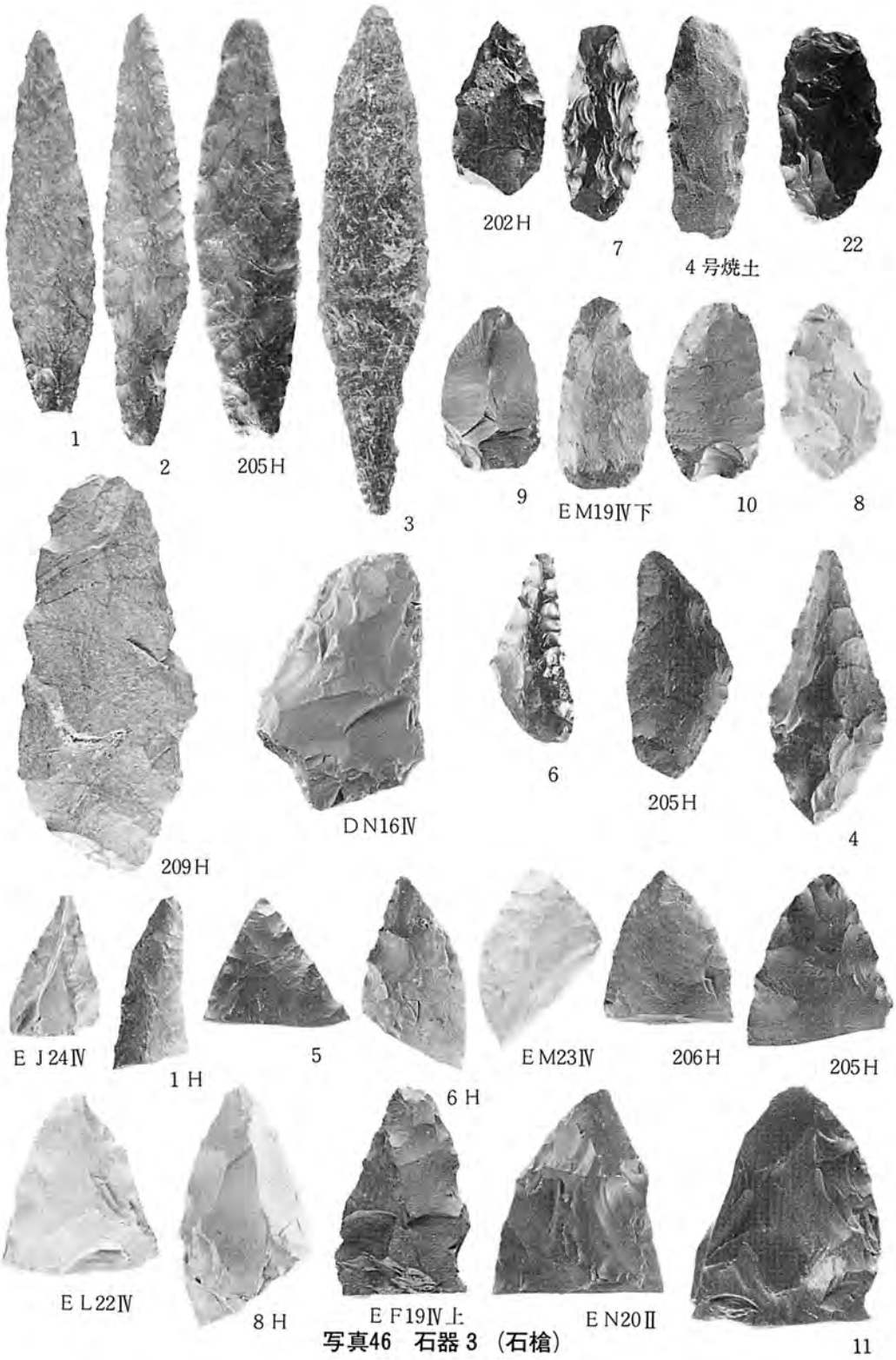


写真46 石器3 (石槍)

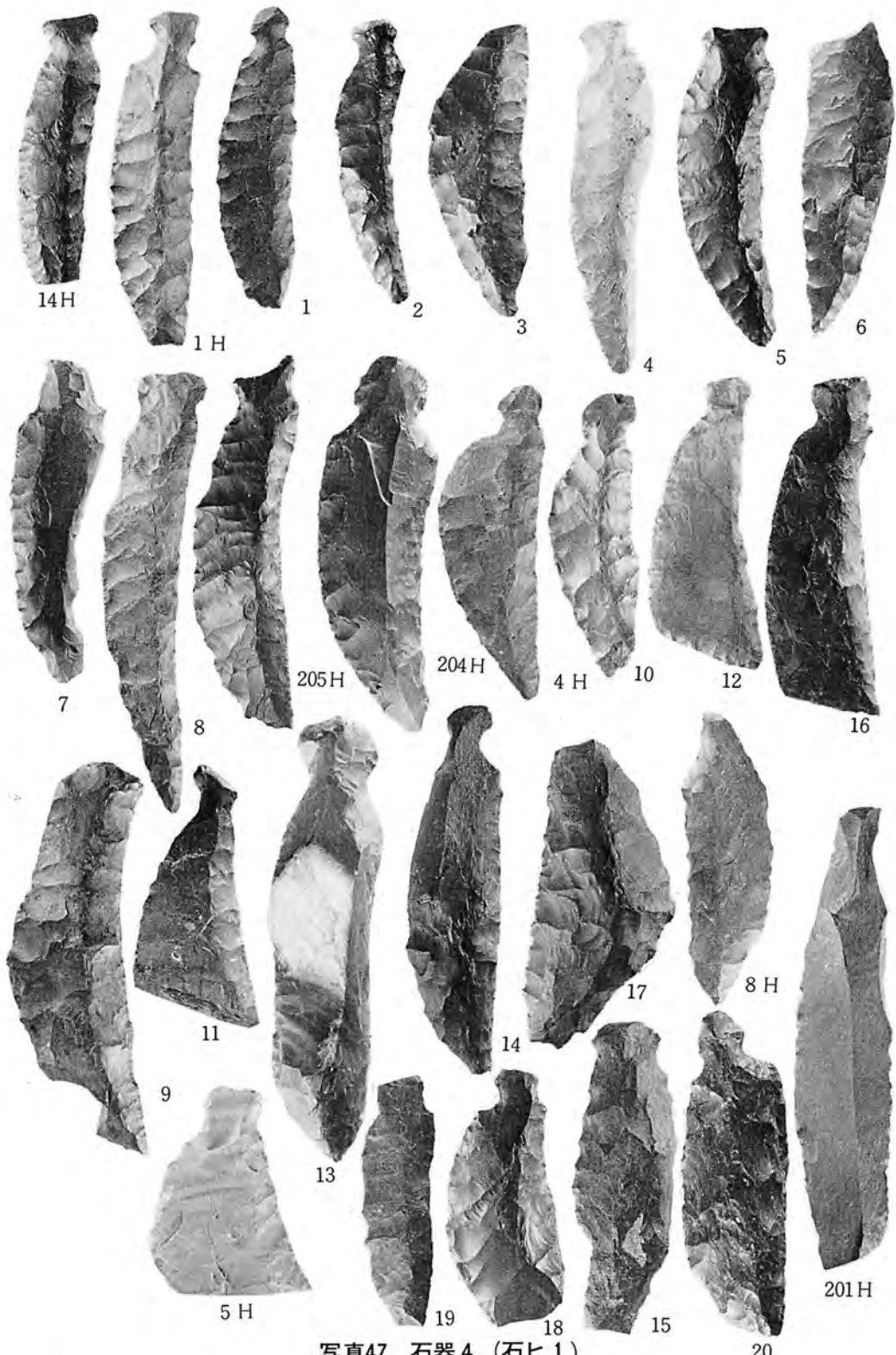


写真47 石器4 (石ヒ1)



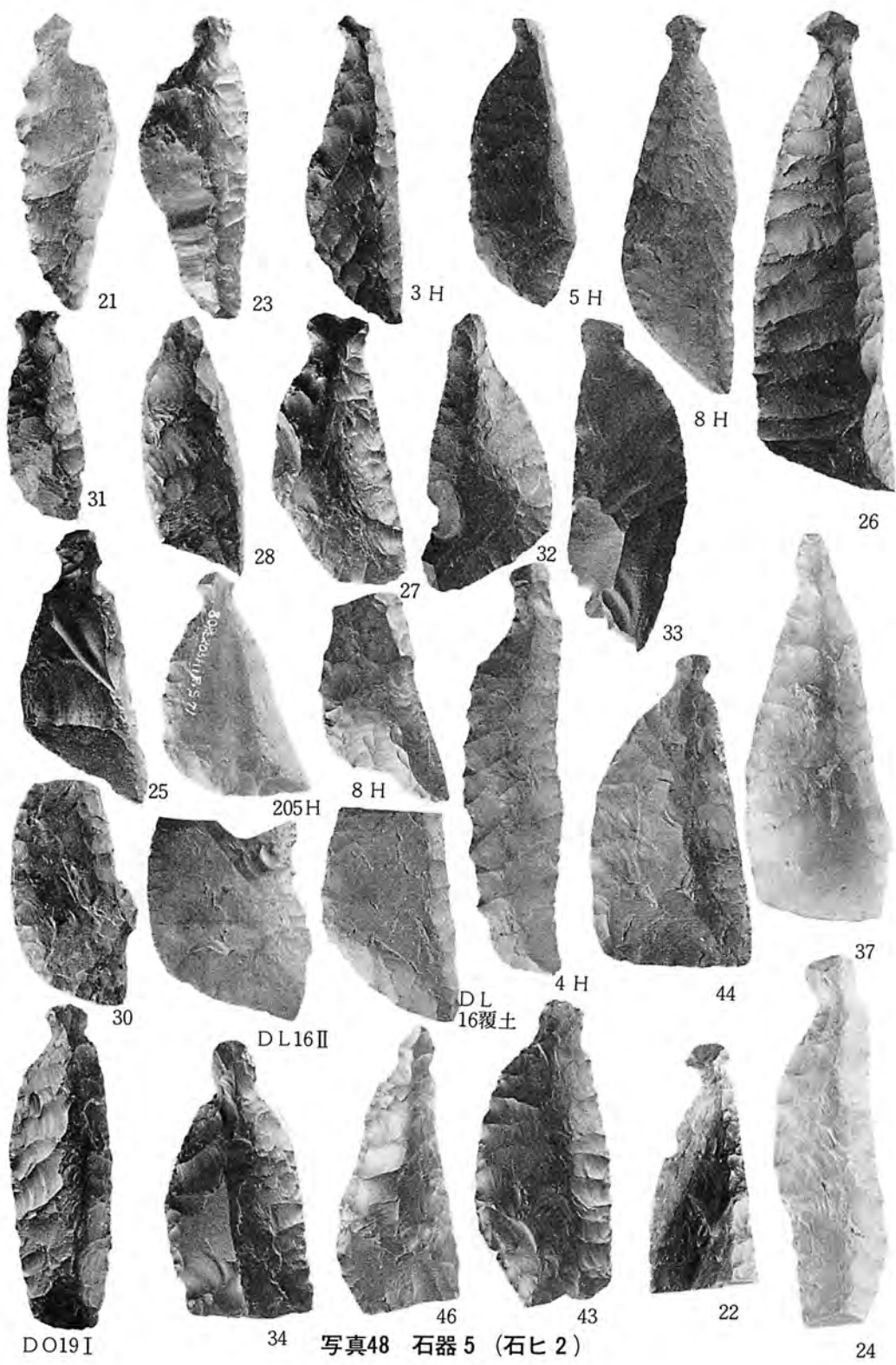
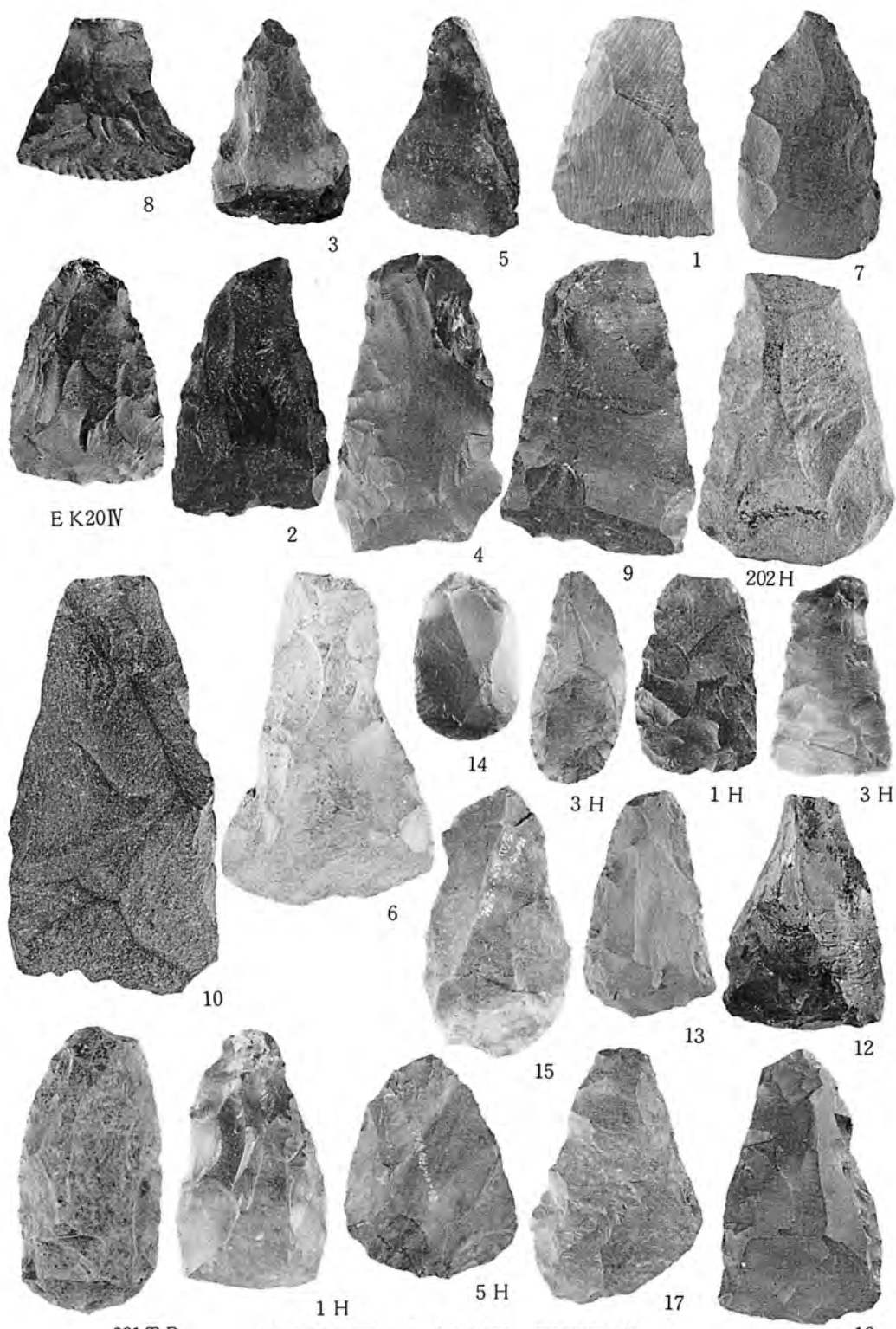


写真48 石器5 (石ヒ2)







231 T P

写真50 石器7 (直刃斧・石籠類1)

19



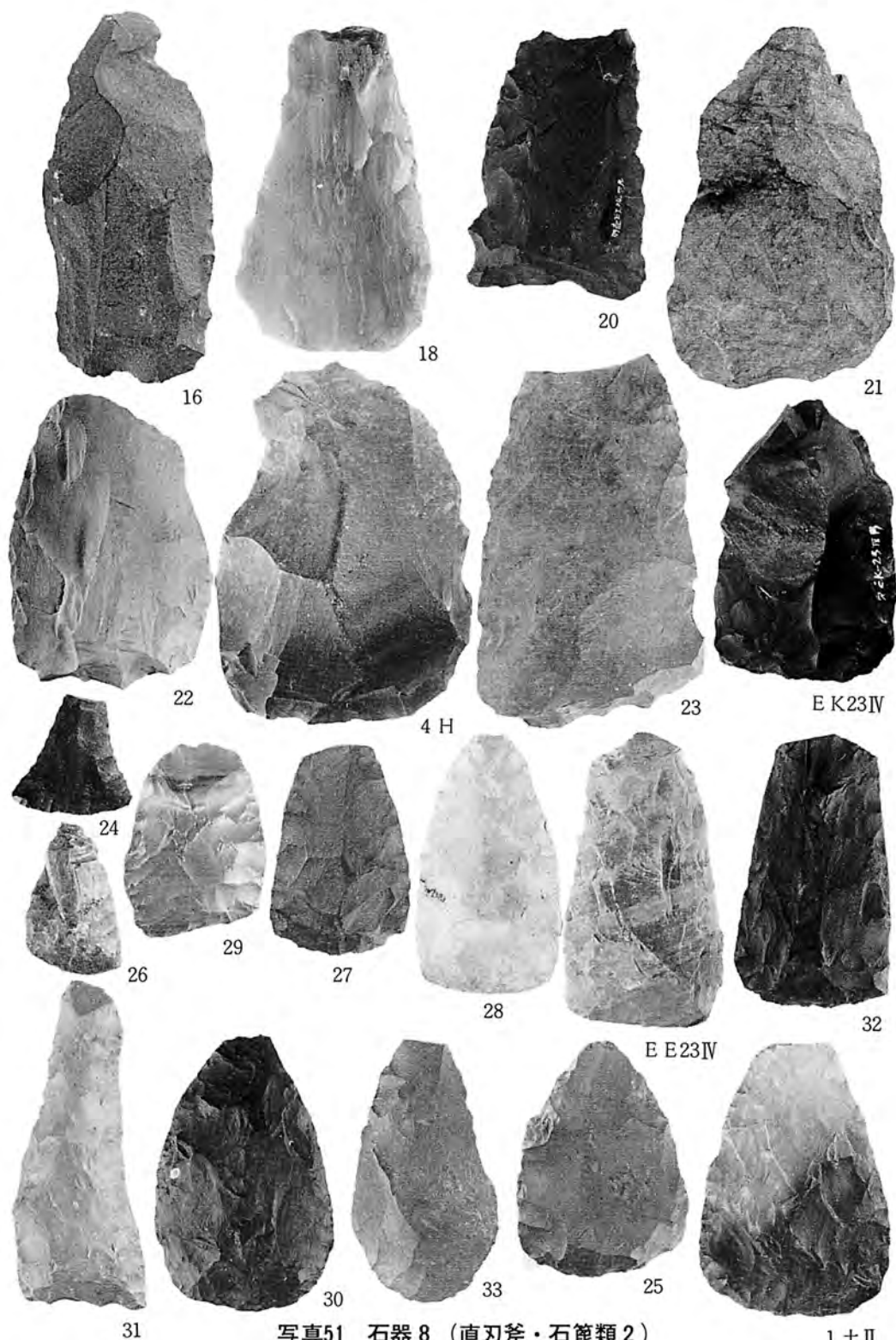


写真51 石器 8 (直刃斧・石籠類 2)

1 ± II

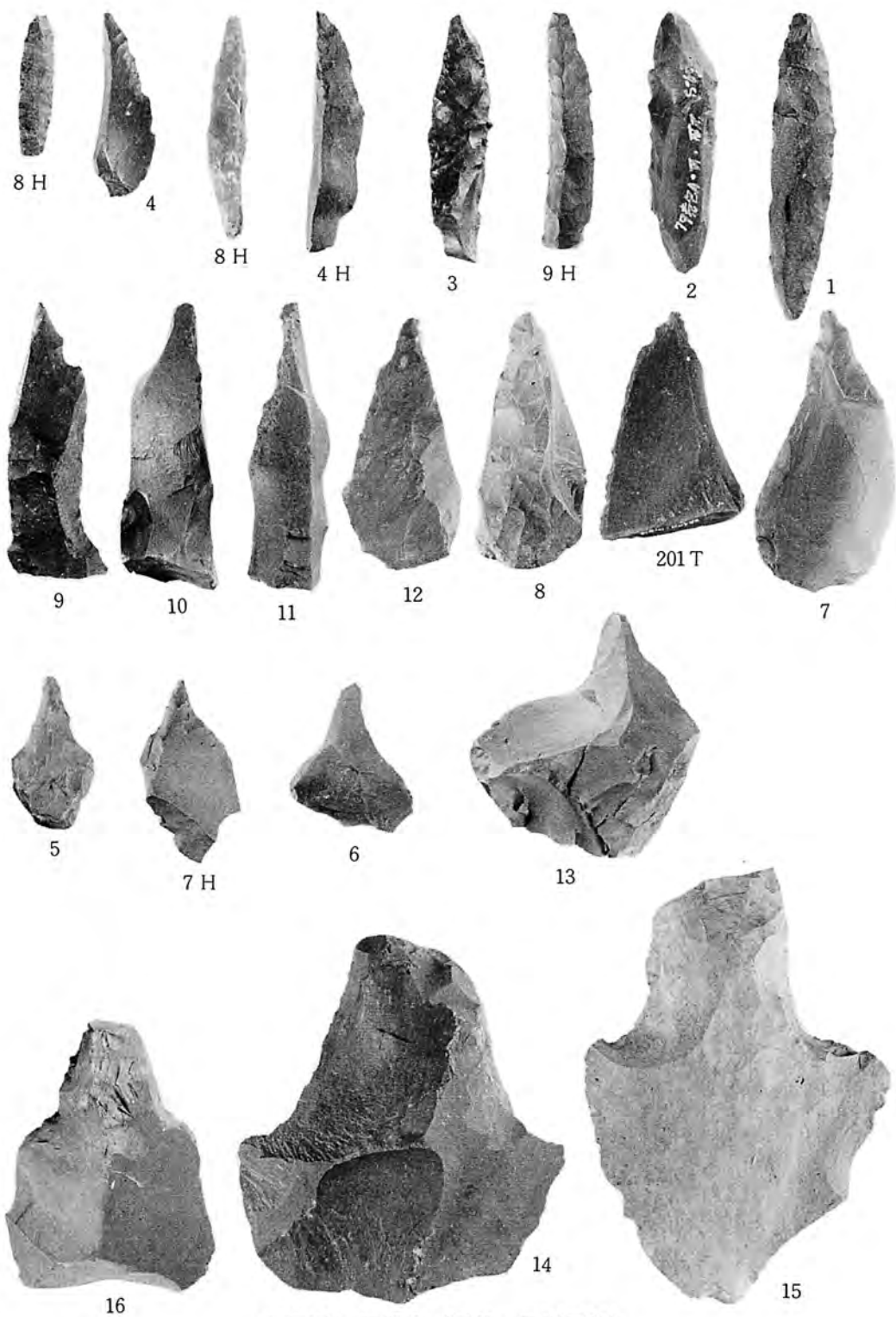


写真52 石器9 (石錐・異形石器)



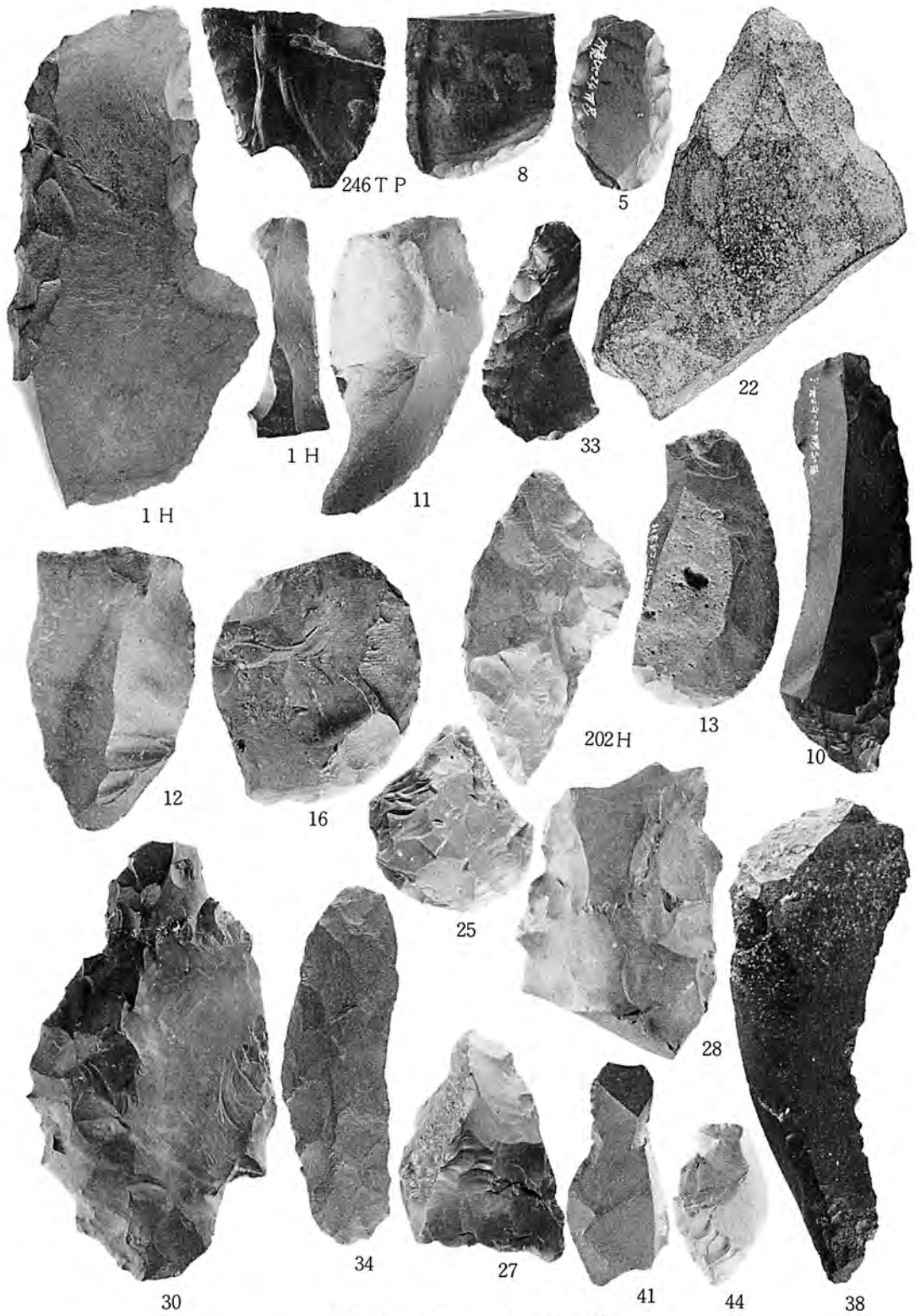


写真53 石器10 (不定形石器)

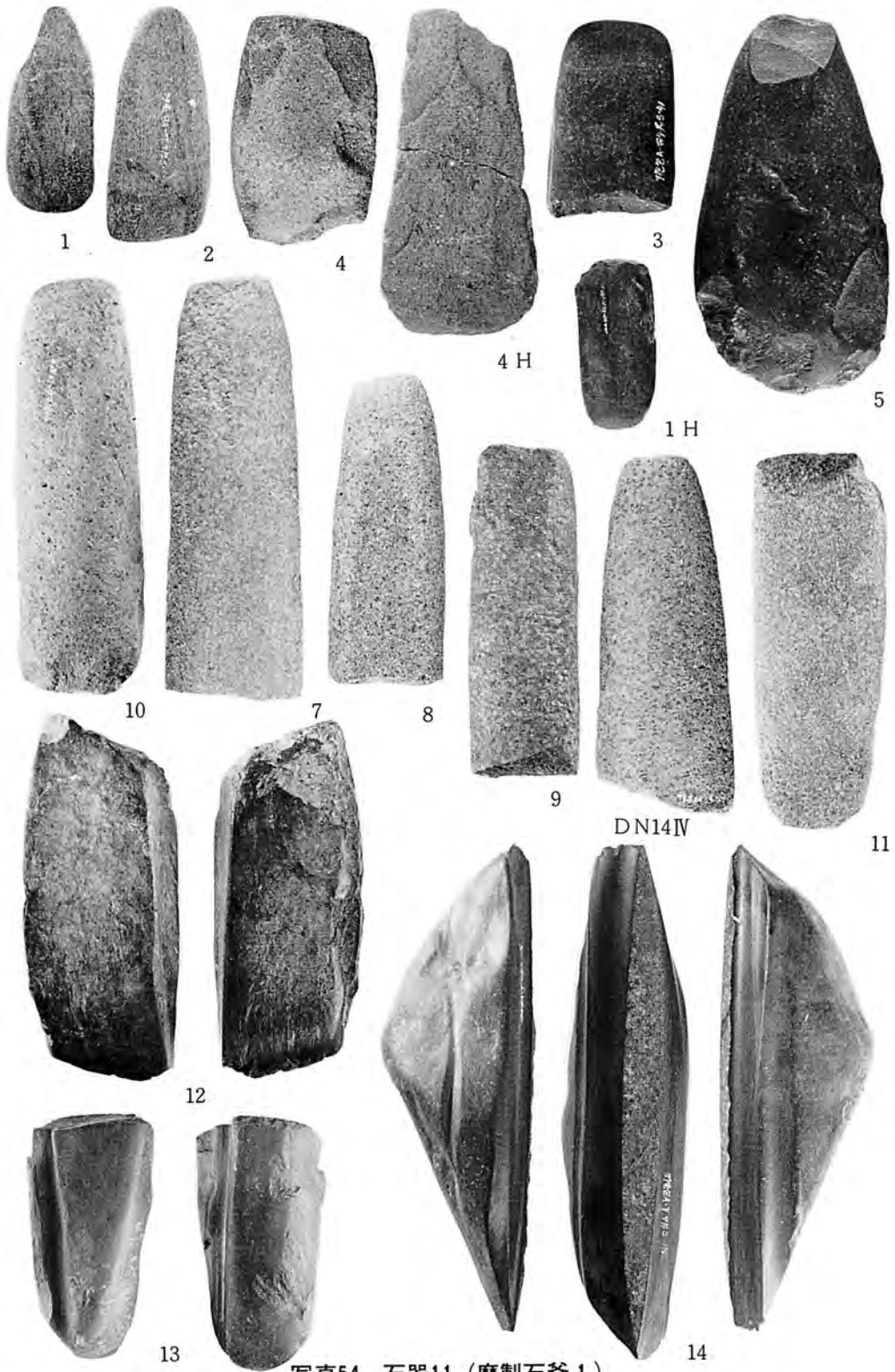


写真54 石器11 (磨製石斧 1)



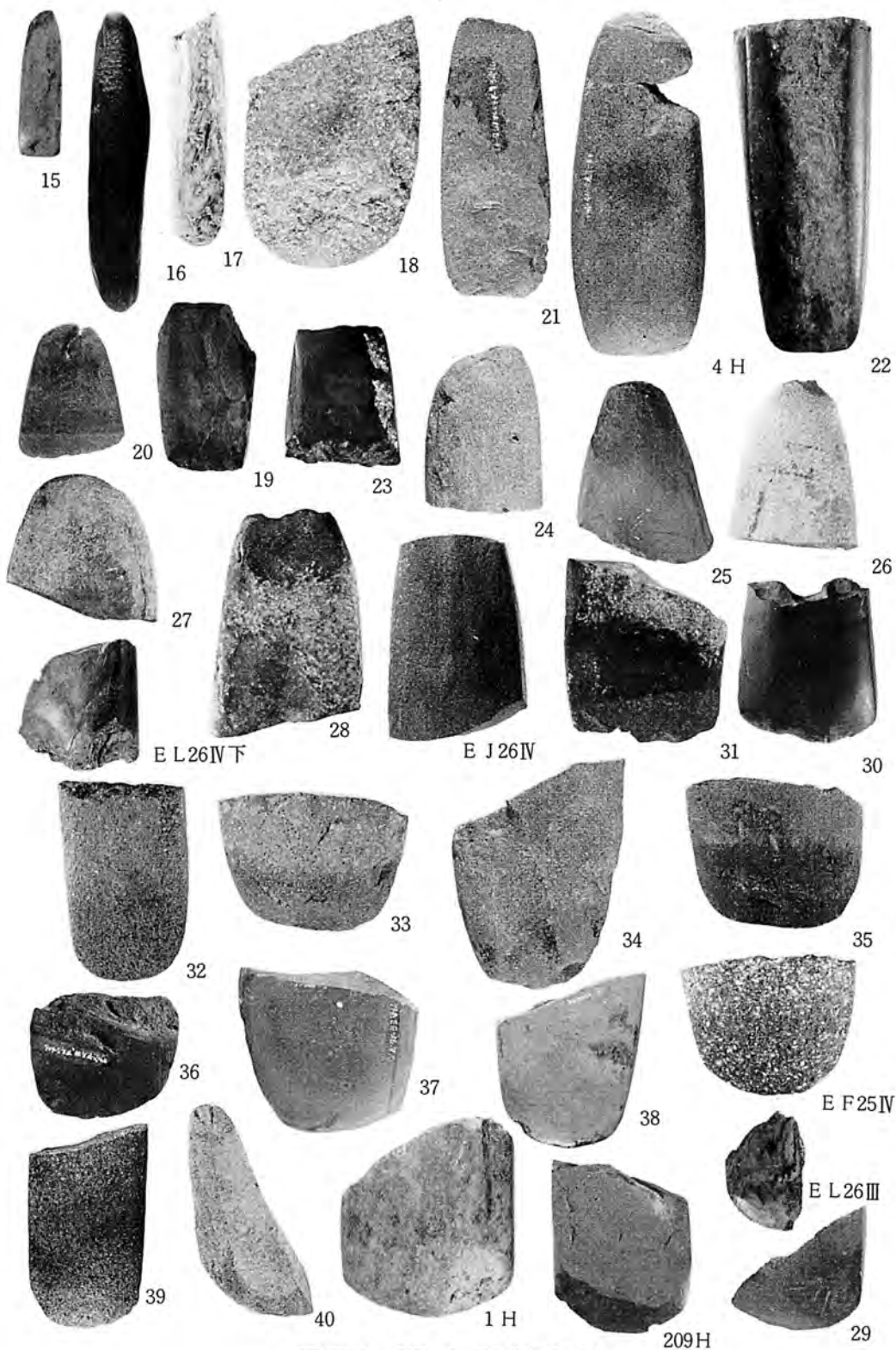


写真55 石器12 (磨製石斧 2)

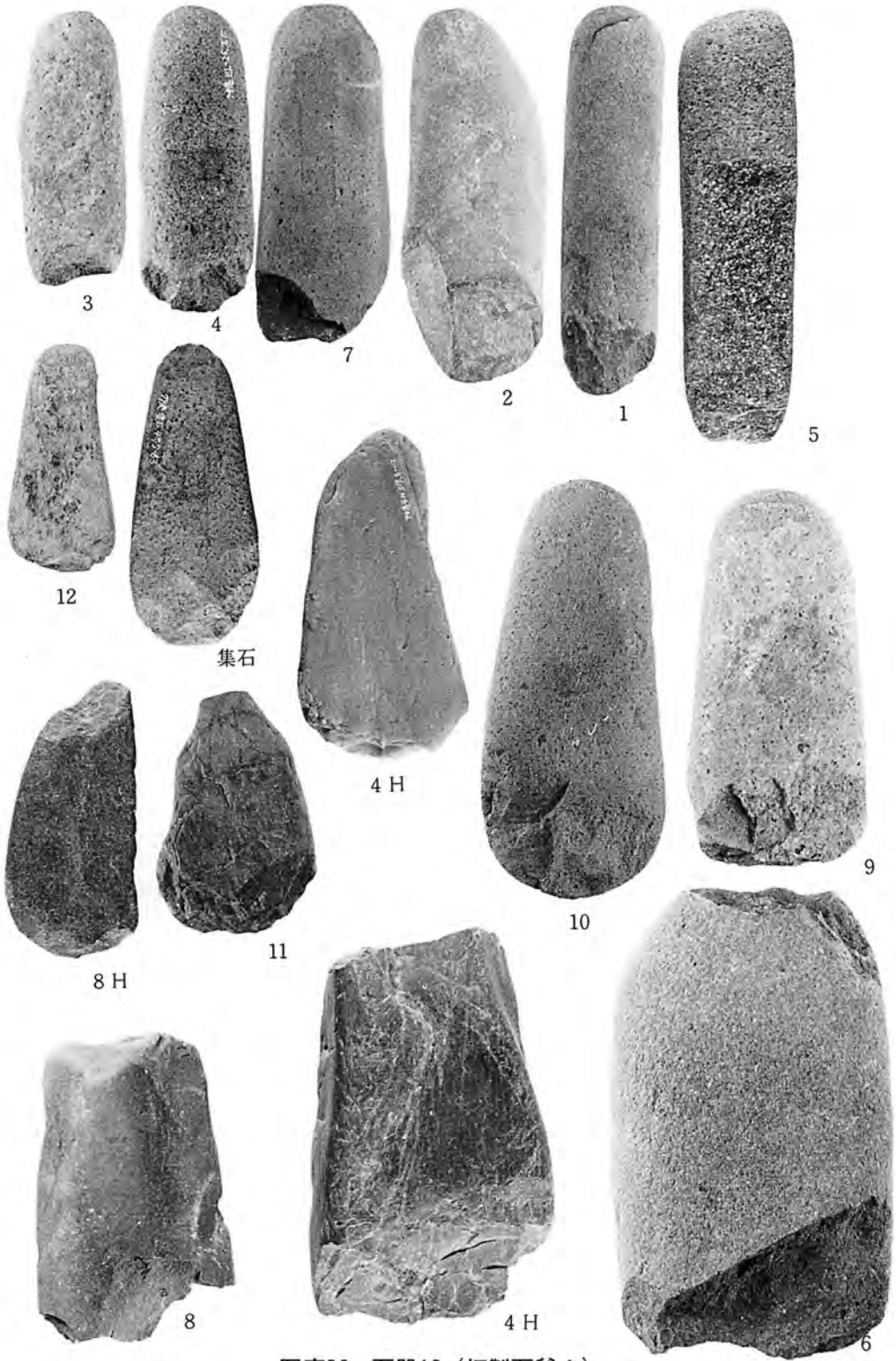


写真56 石器13 (打製石斧 1)



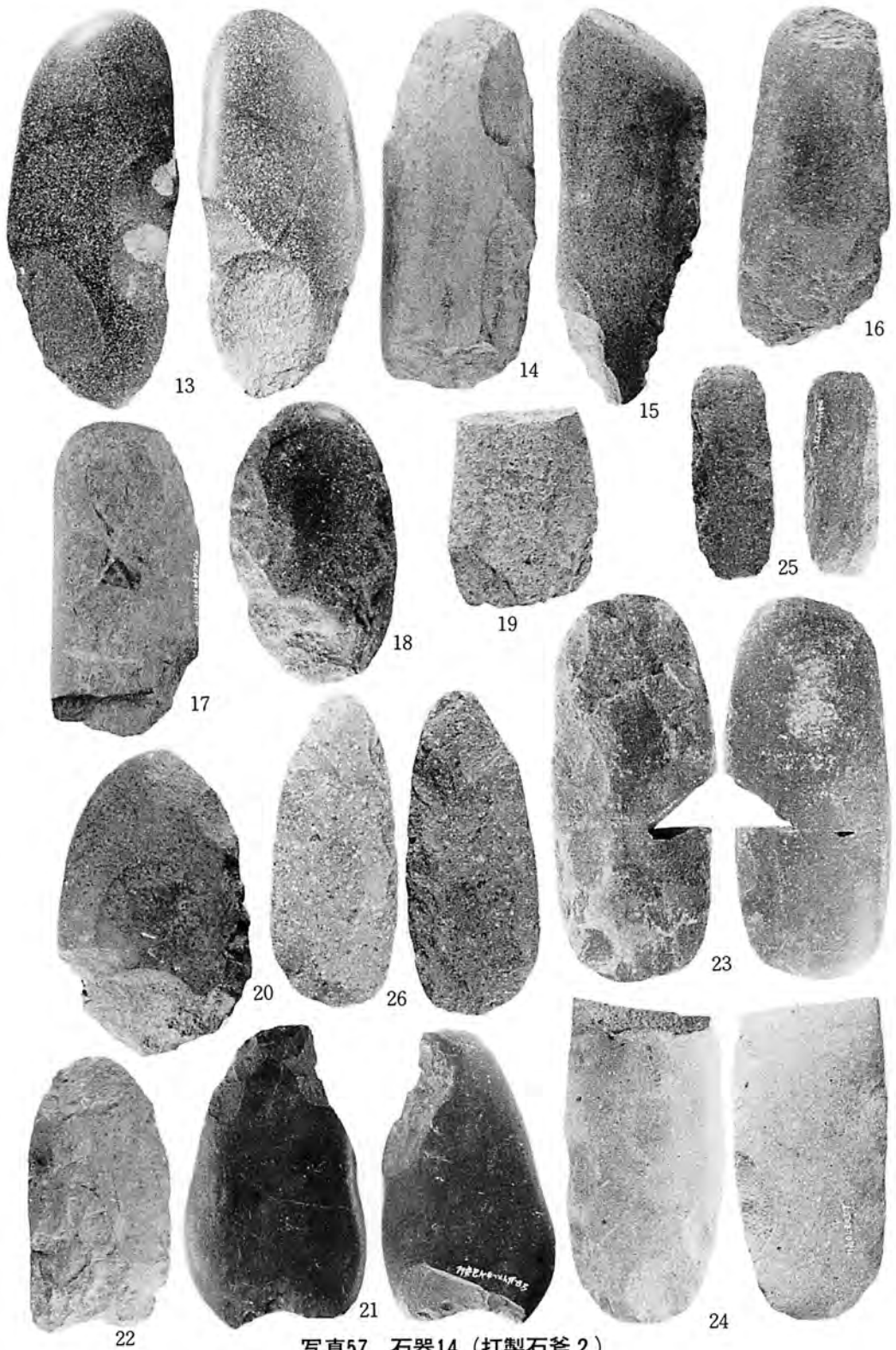


写真57 石器14 (打製石斧2)

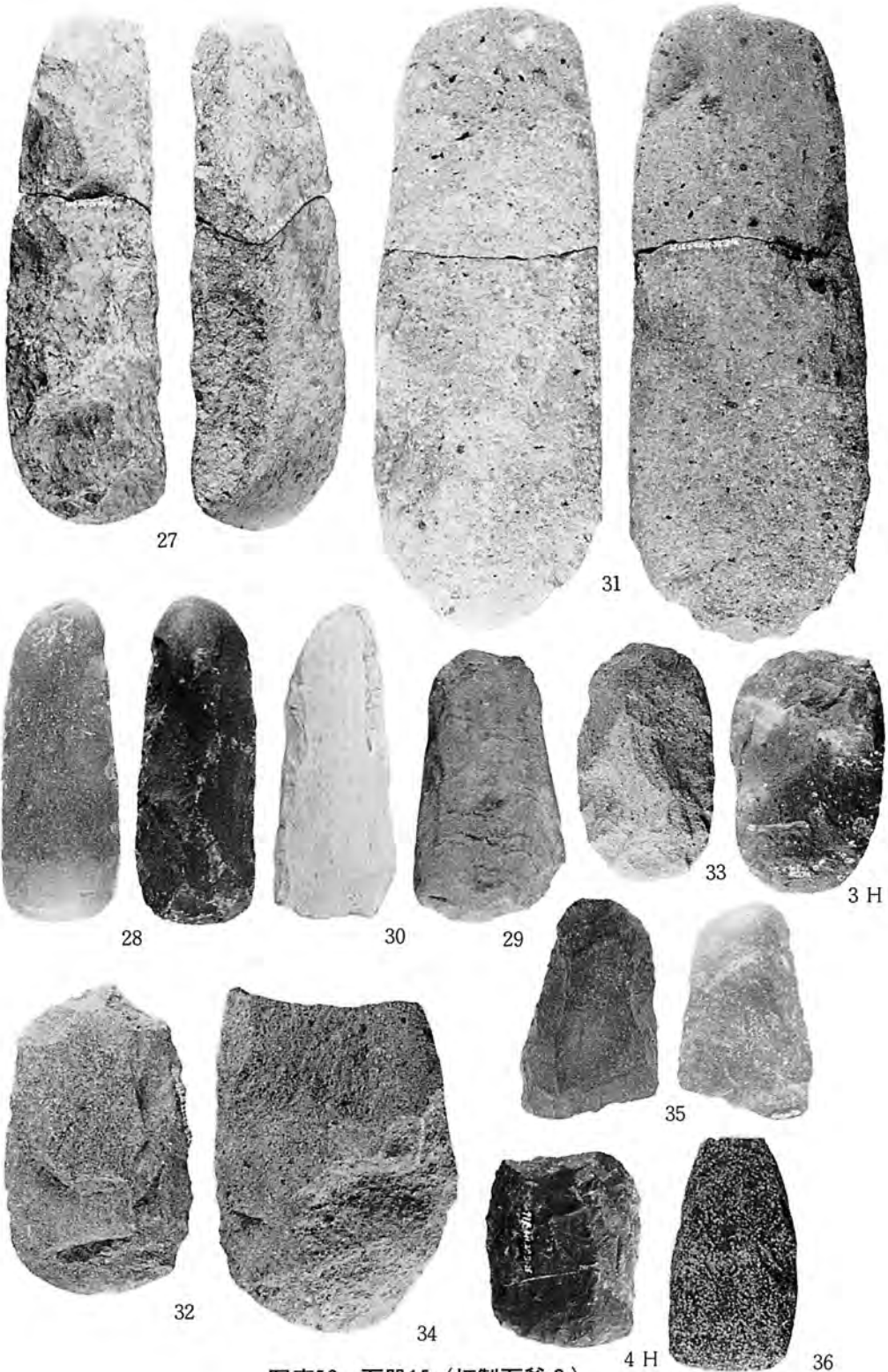


写真58 石器15 (打製石斧 3)



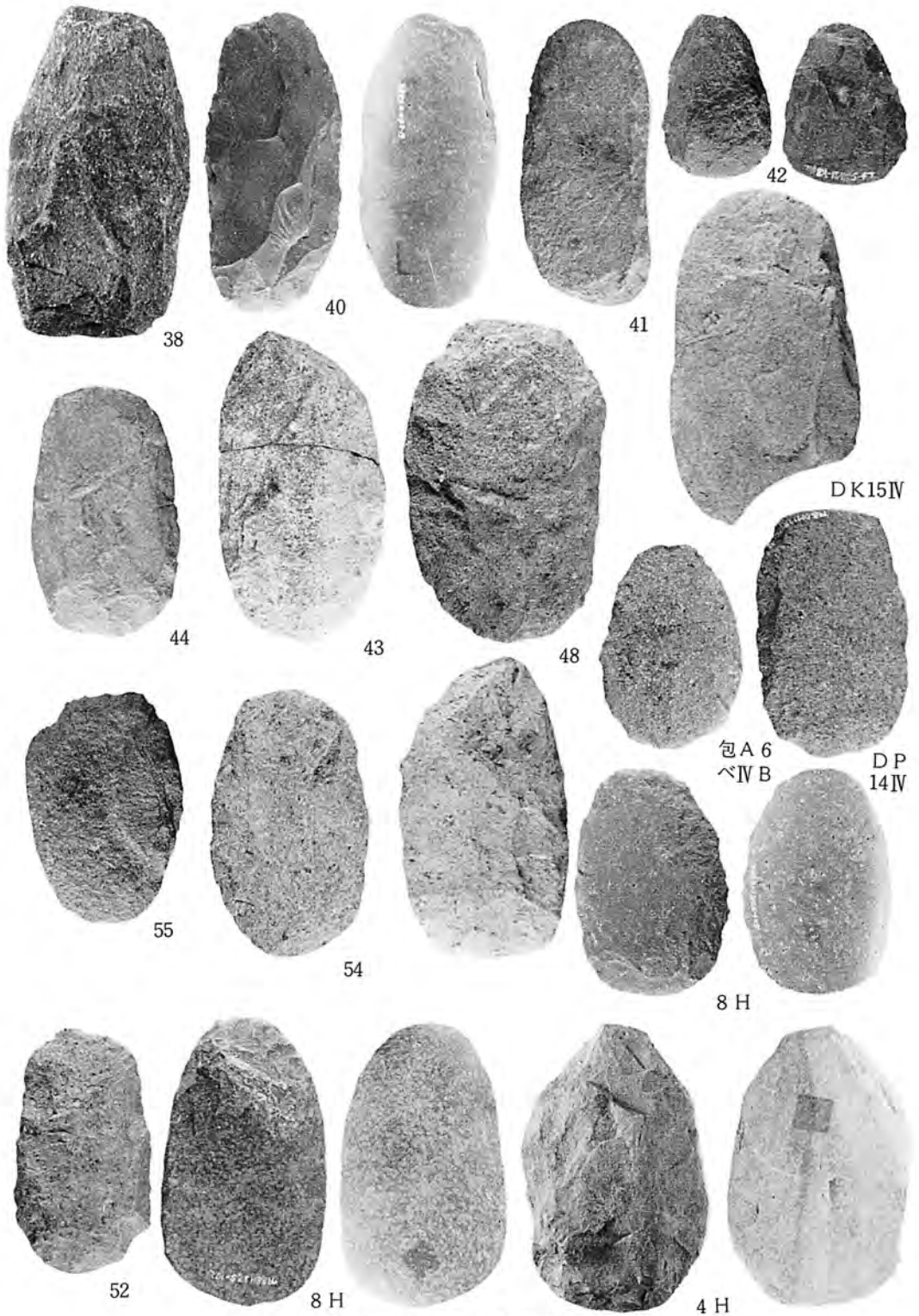


写真59 石器16 (打製石斧4)

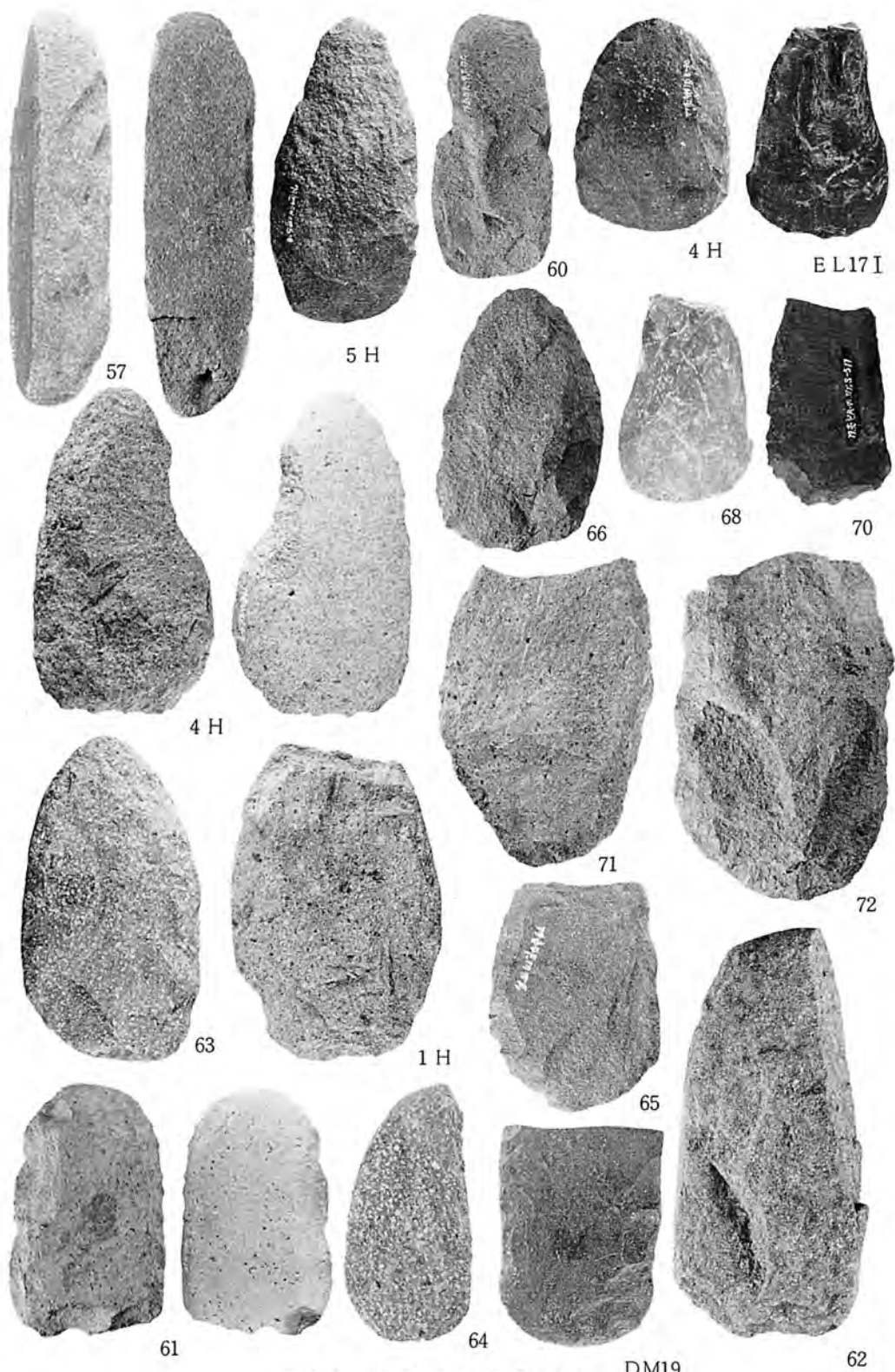


写真60 石器17 (打製石斧 5)



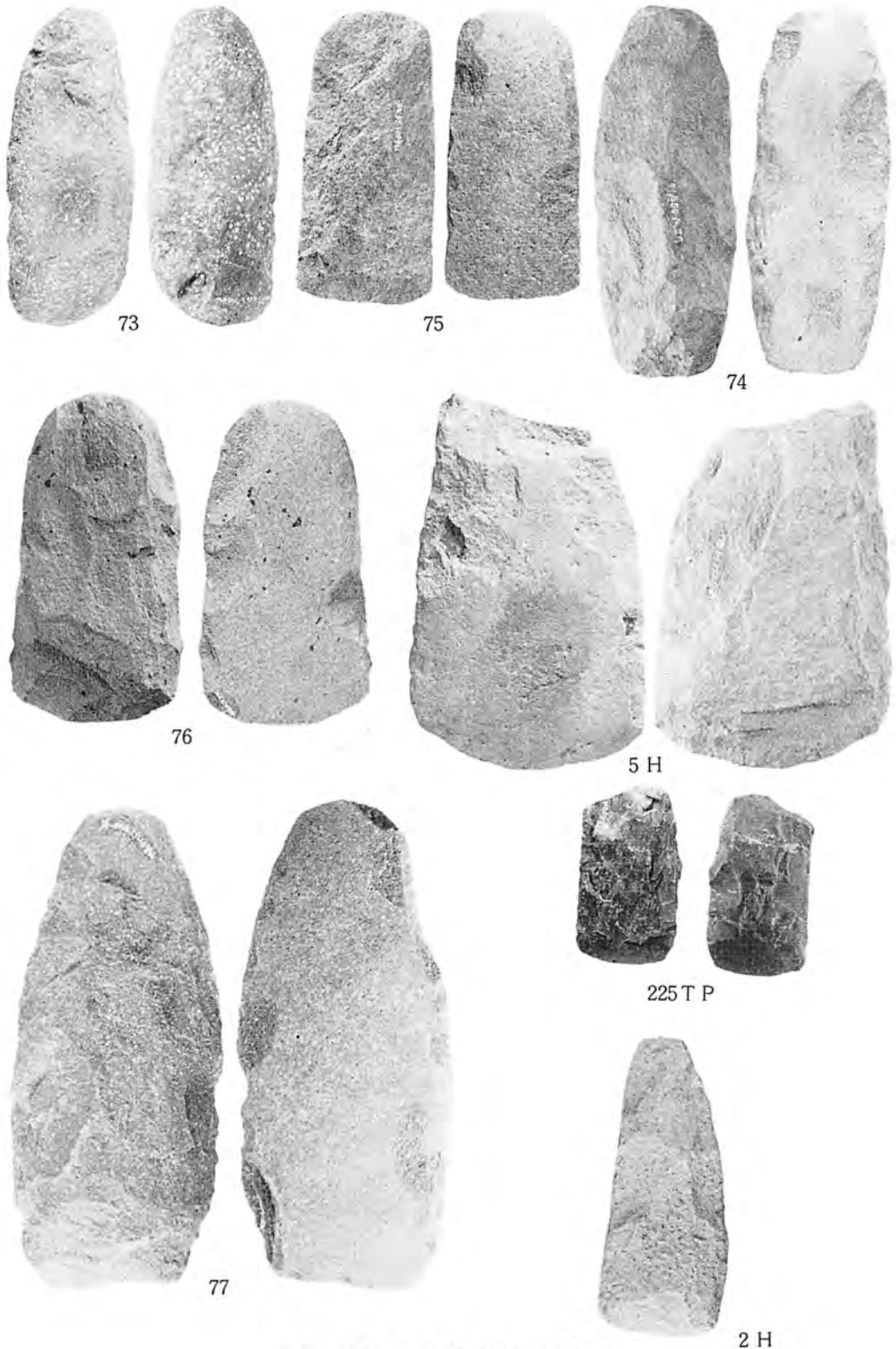


写真61 石器18 (打製石斧 6)

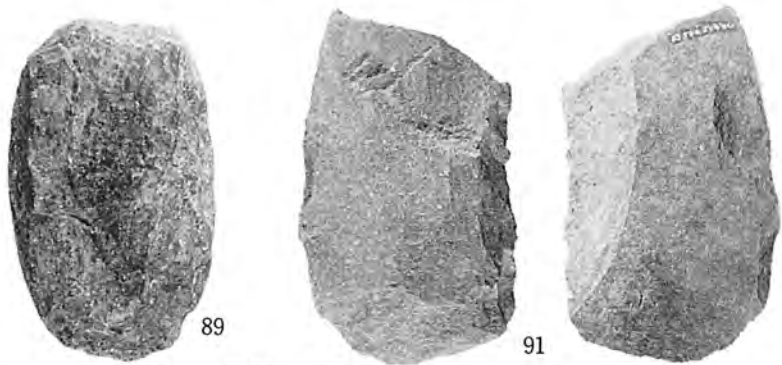
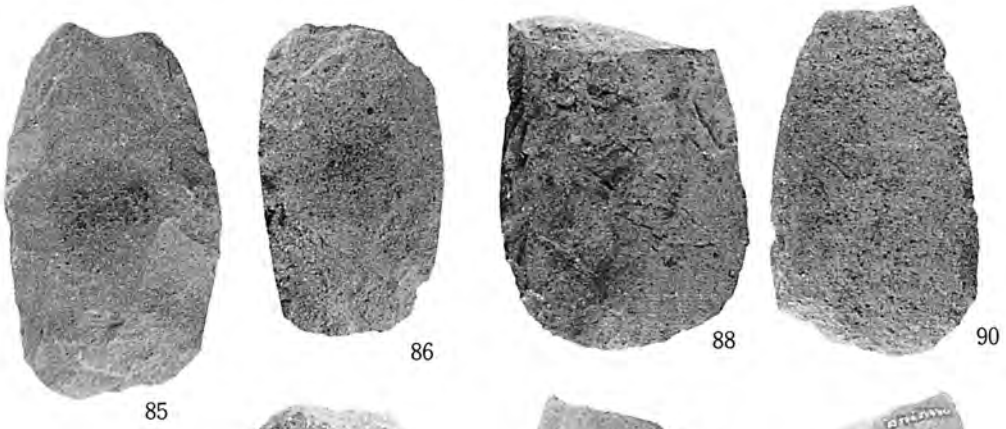
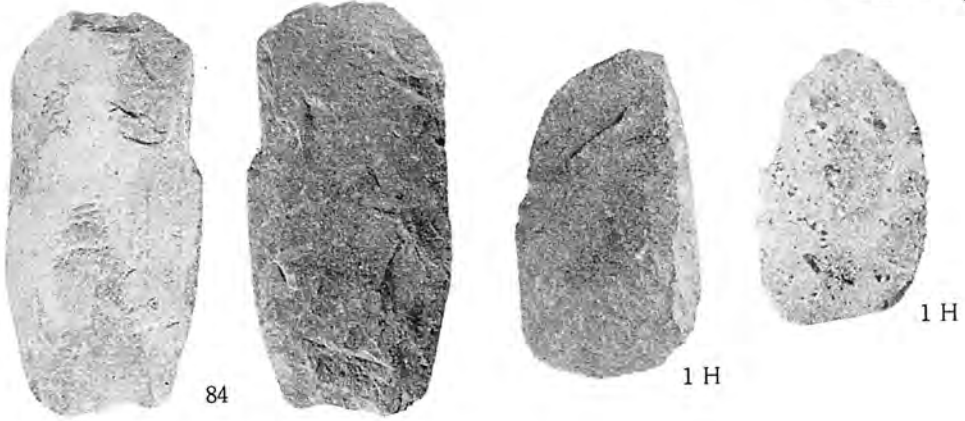


写真62 石器19 (打製石斧7)



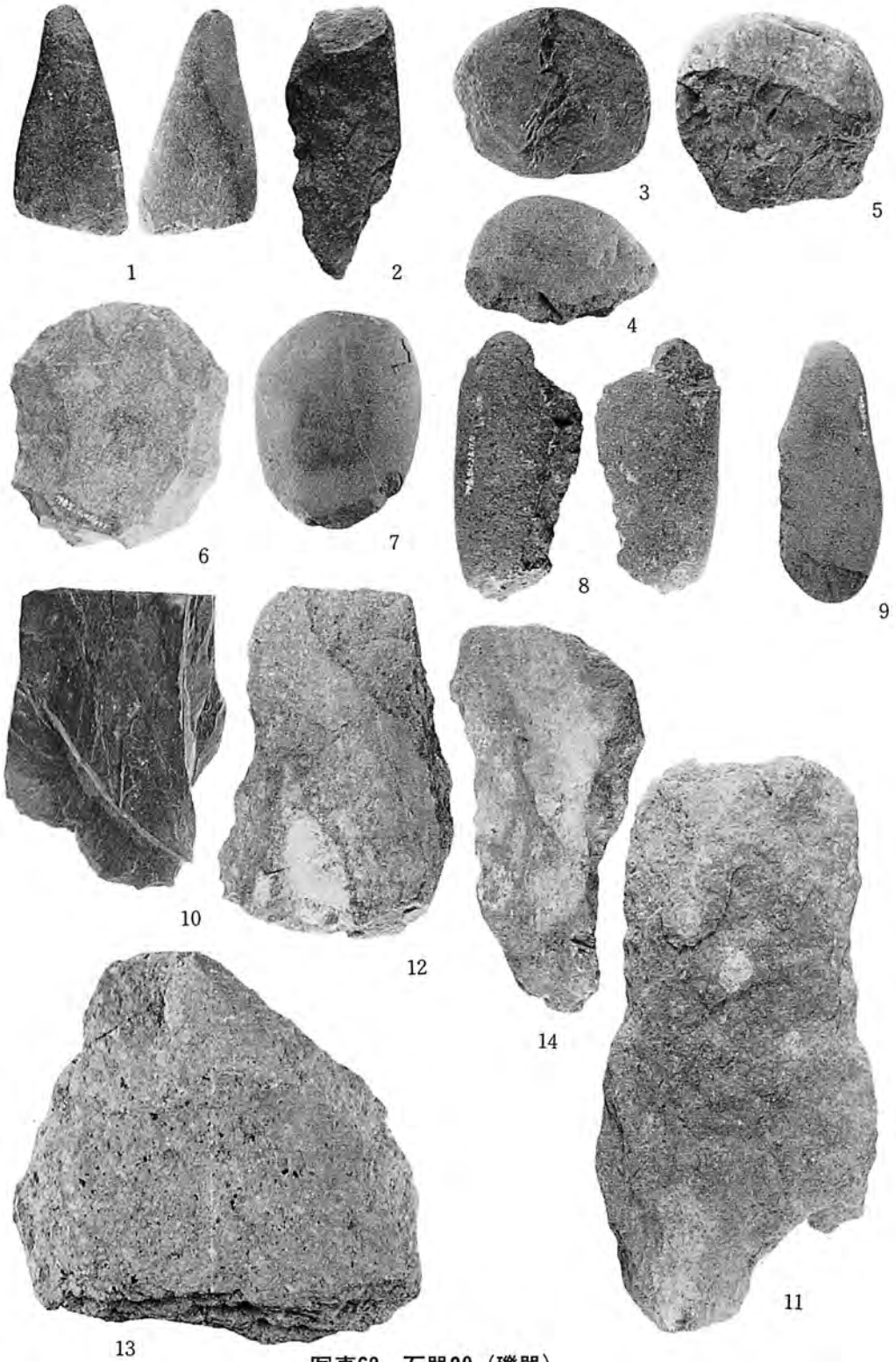


写真63 石器20 (礫器)

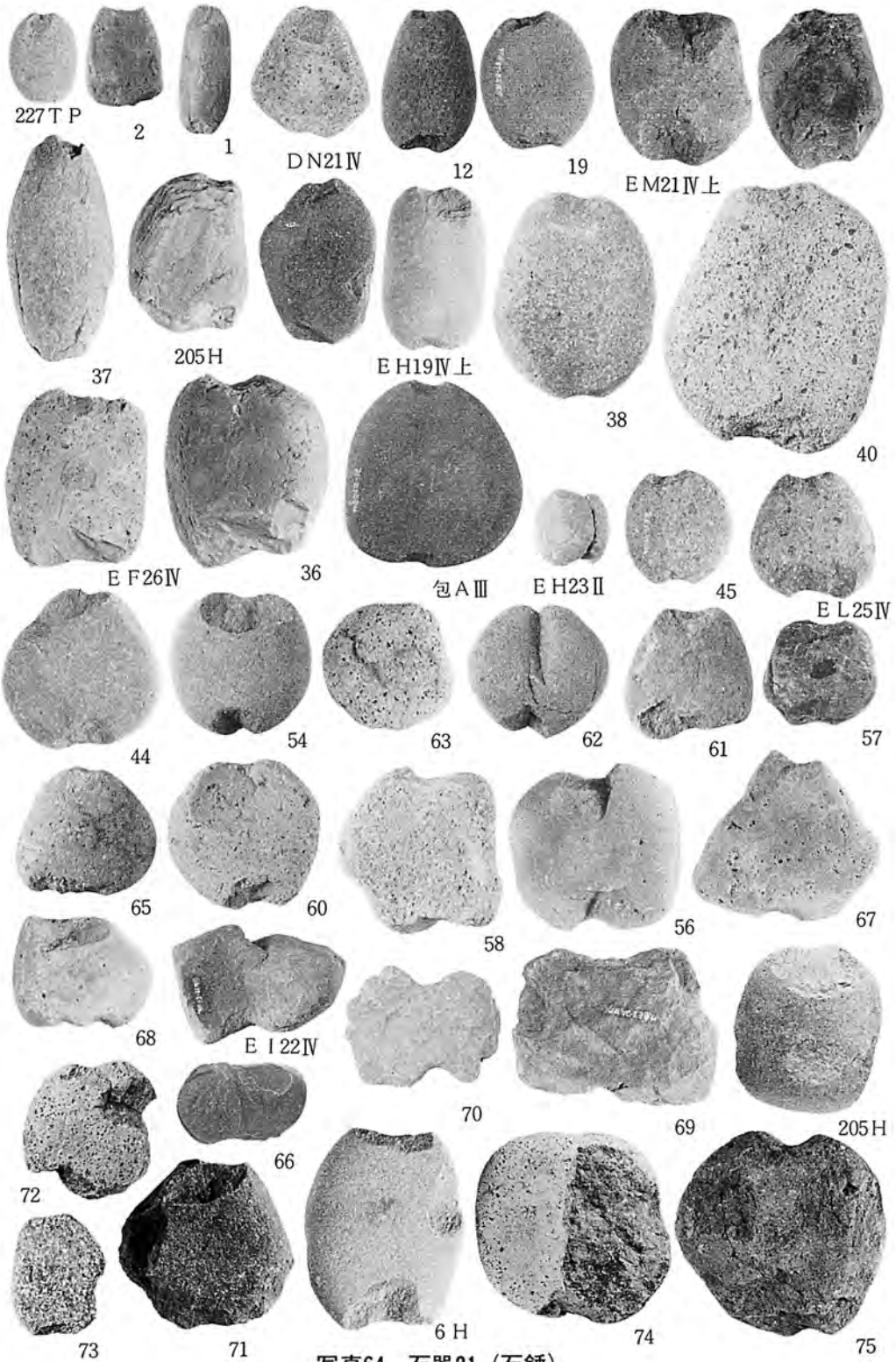


写真64 石器21 (石錘)



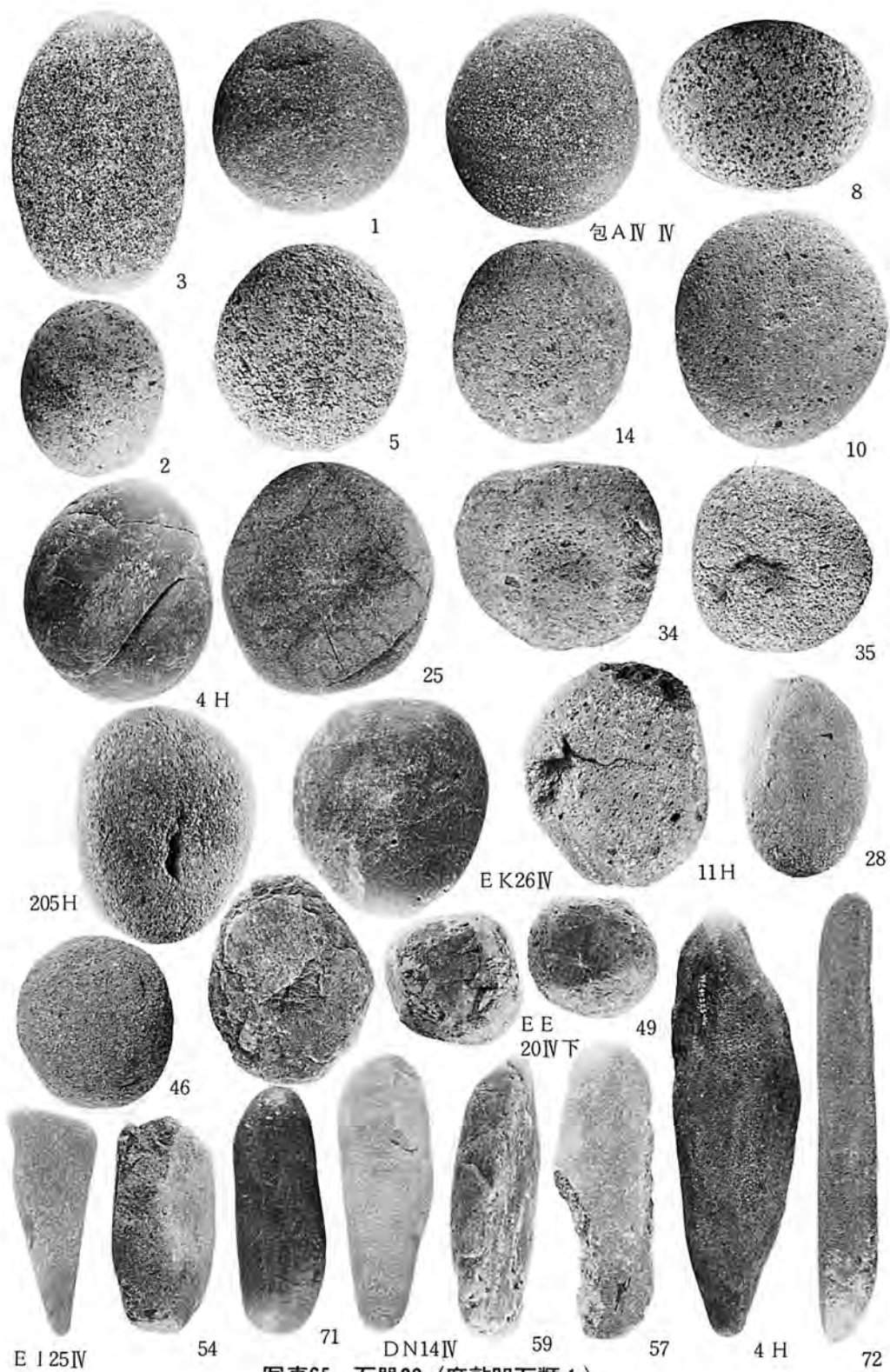


写真65 石器22 (磨敲凹石類 1)

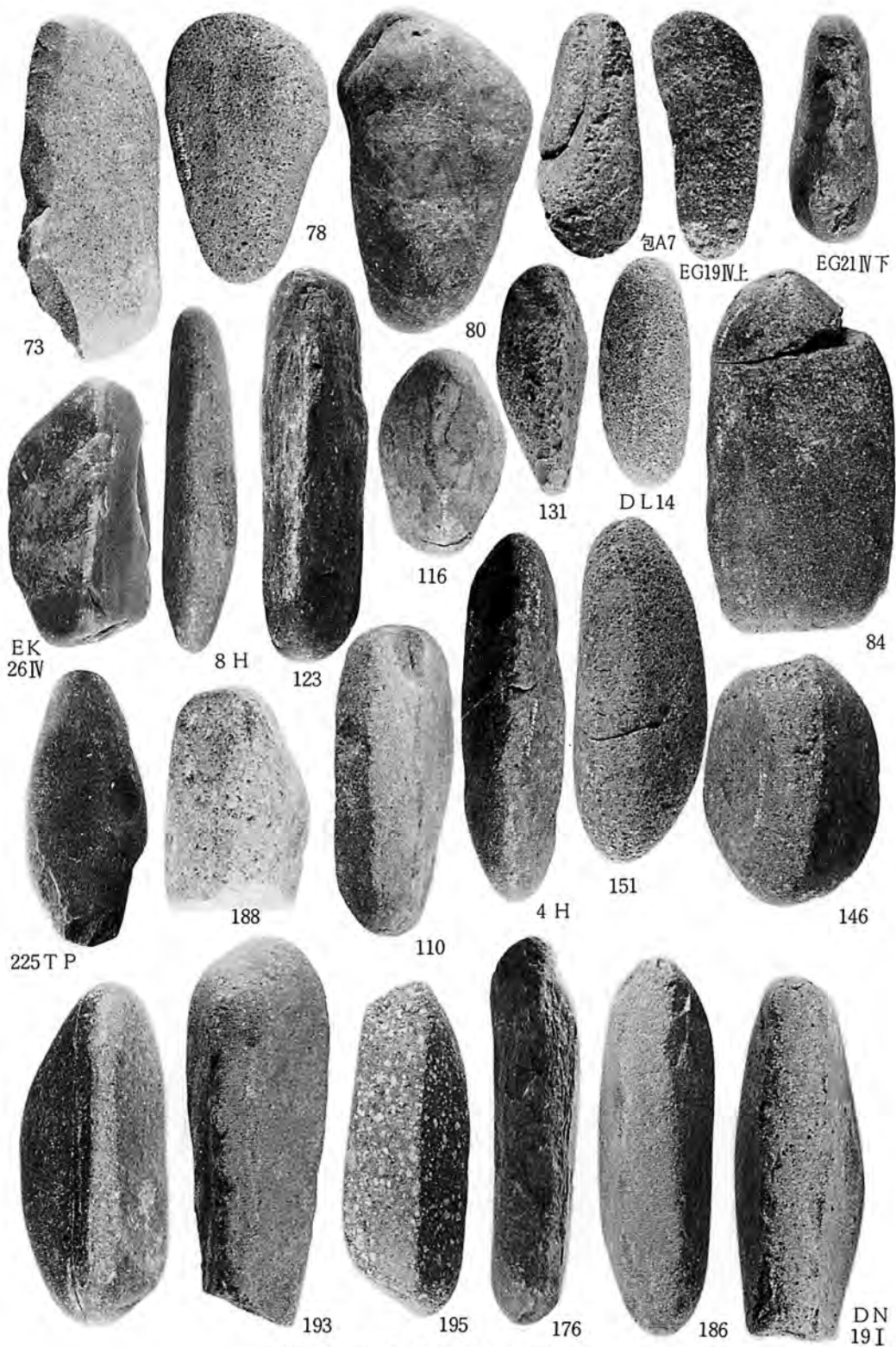


写真66 石器23 (磨敲凹石類 2)



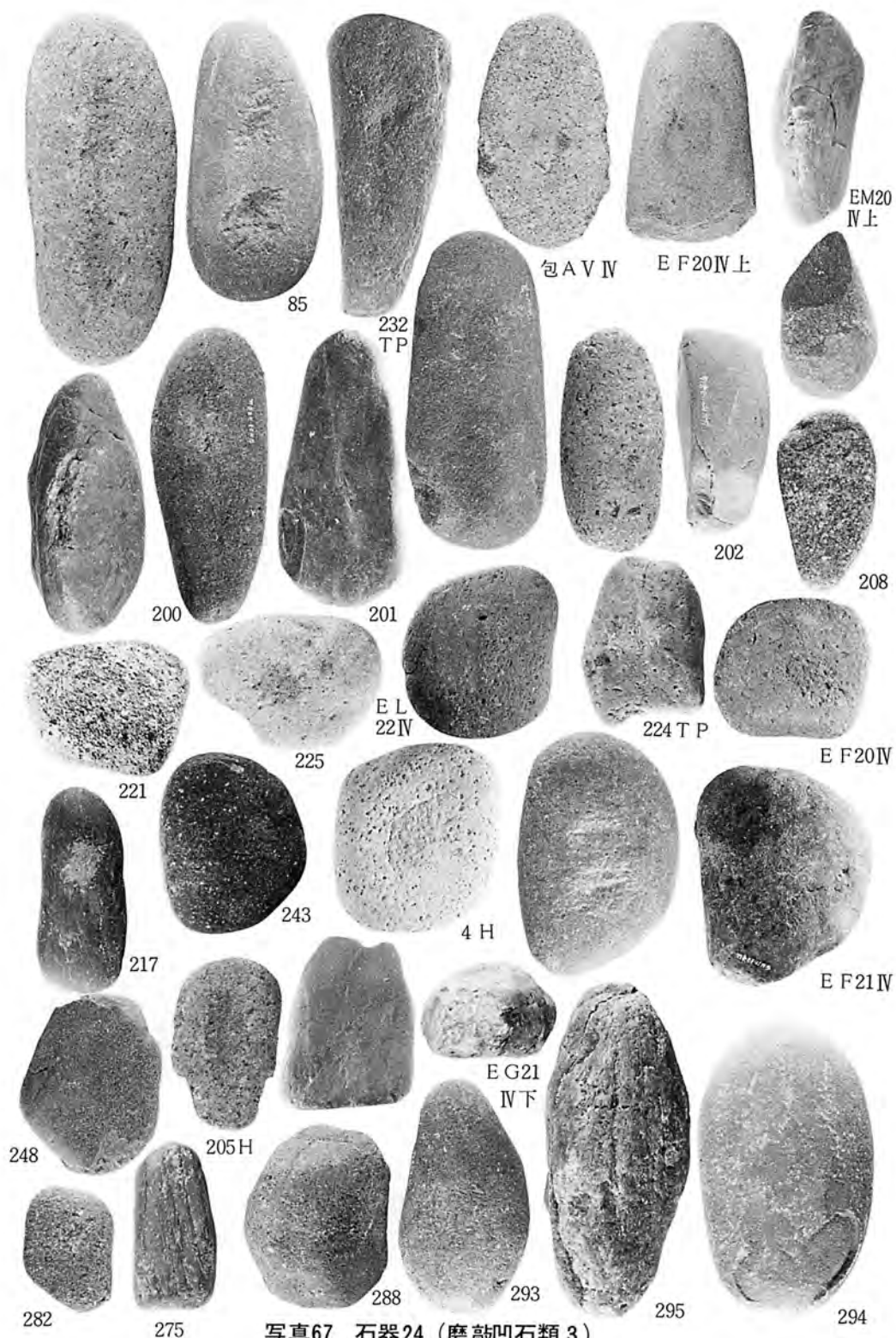


写真67 石器24 (磨敲凹石類 3)

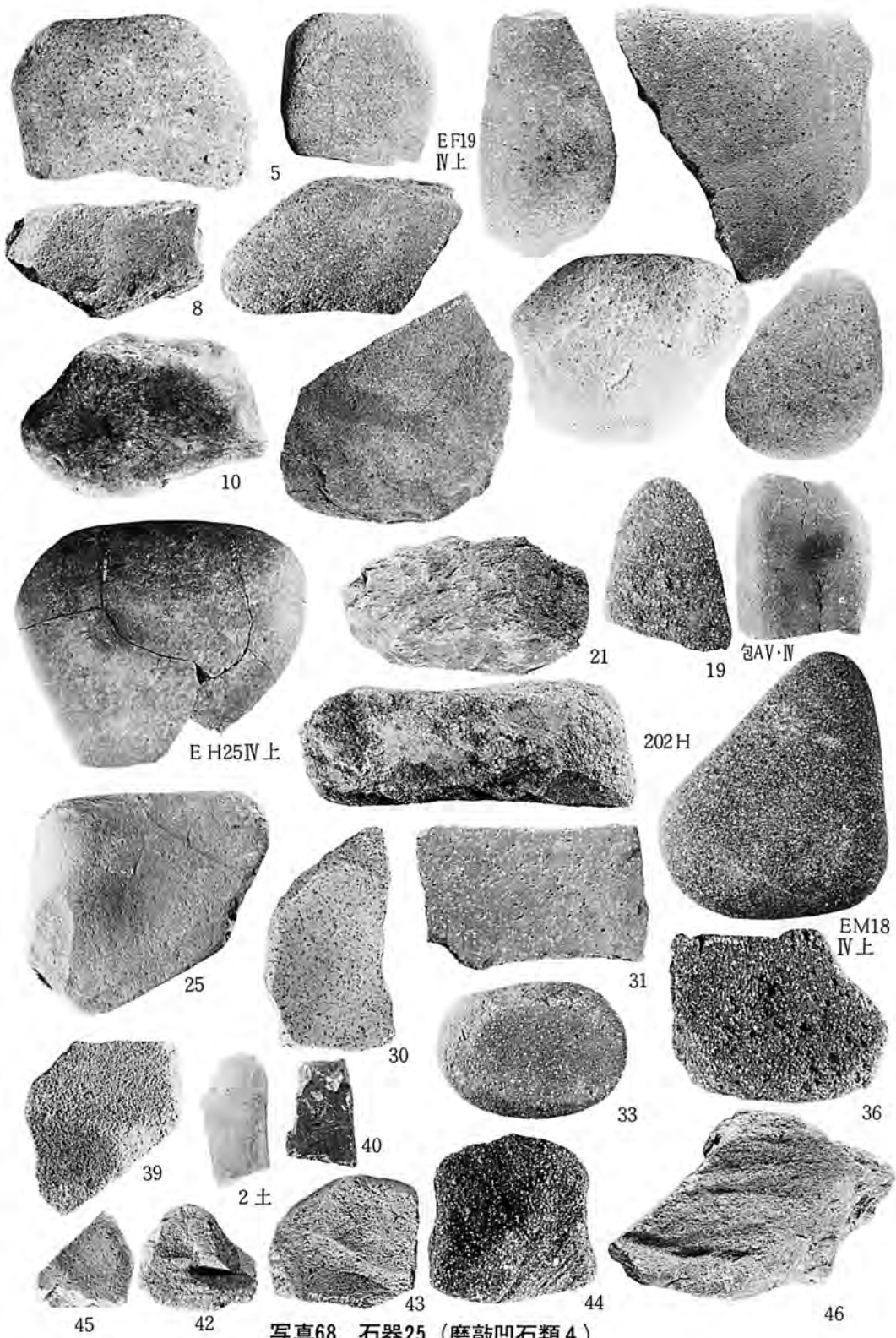


写真68 石器25 (磨敲凹石類 4)



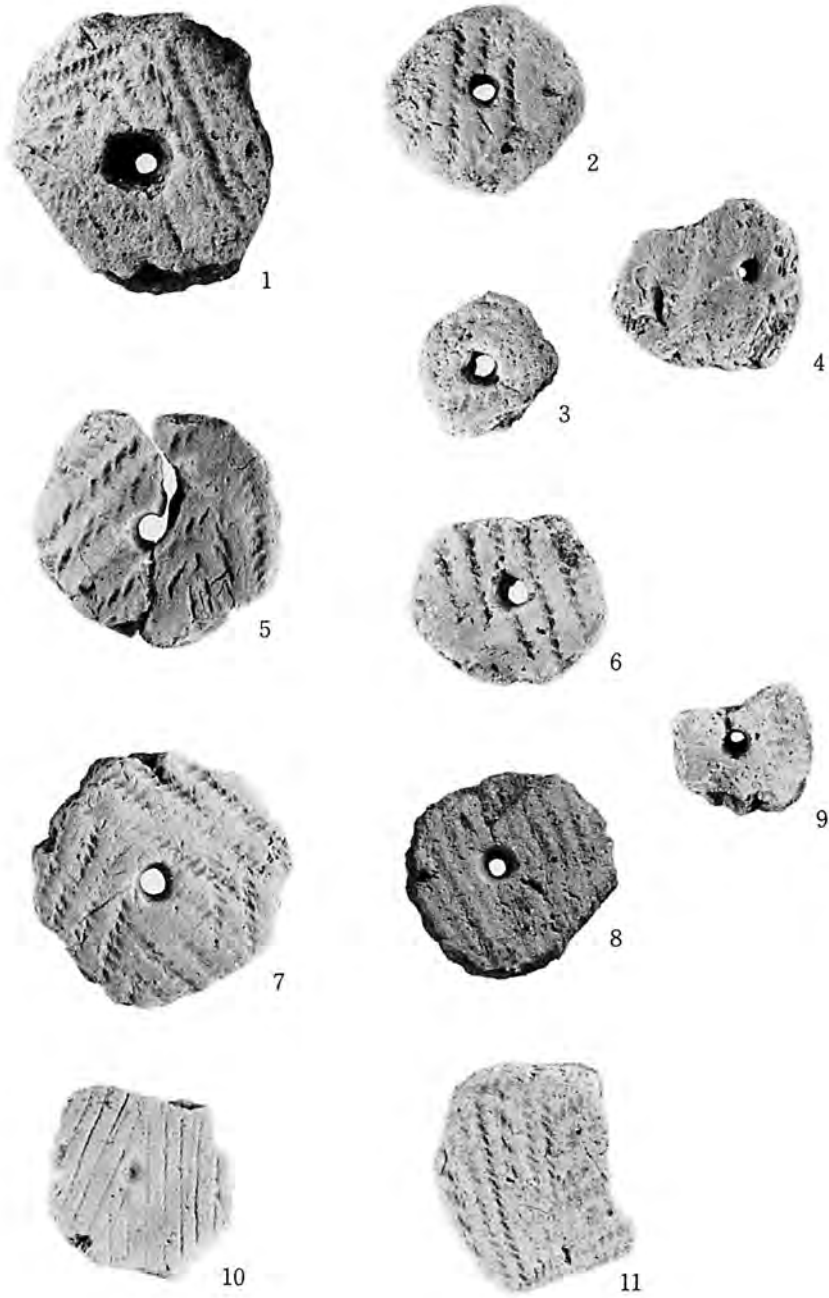


写真69 有孔土製品(1~10)と円盤状土製品(11)

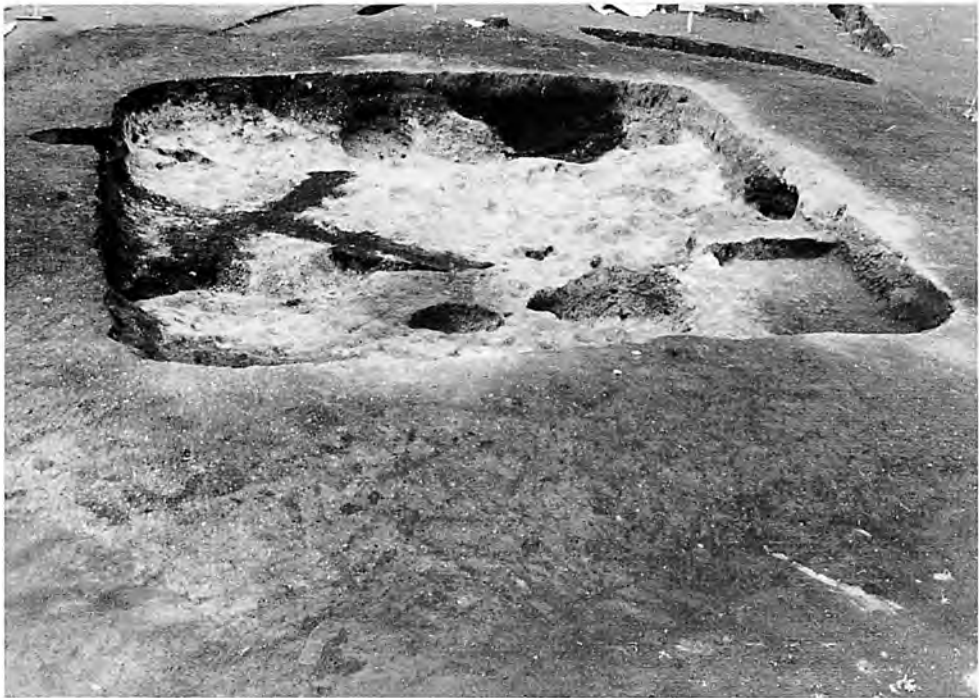


写真70 上・1号住居跡遺物出土状況  
下・同住居跡完掘状況





写真71 上・下・1号住居跡遺物出土状況



写真72 上・下・2号住居跡



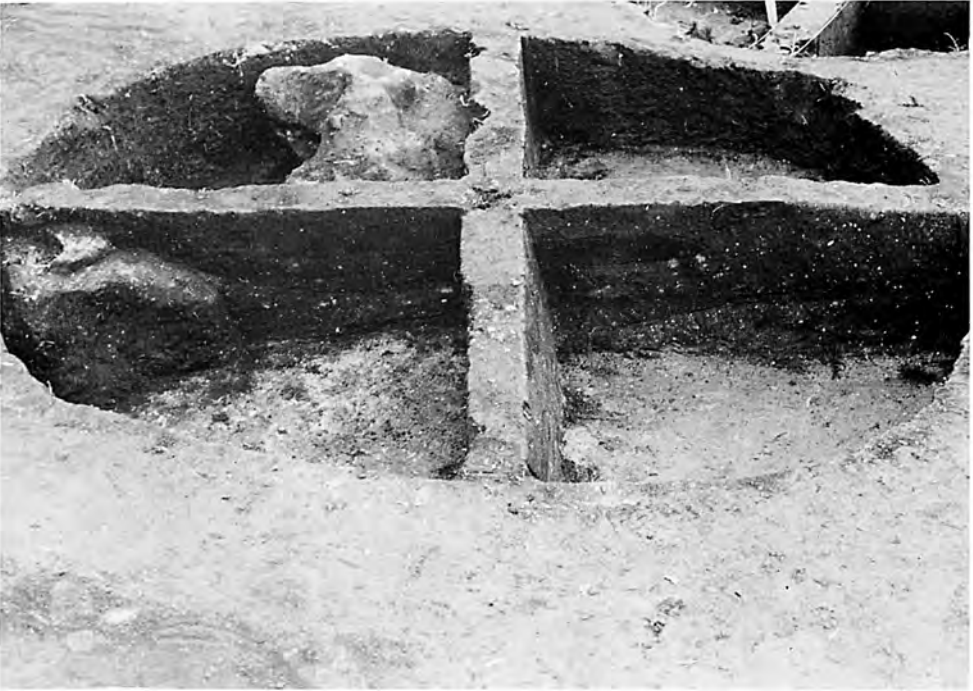


写真73 上・2号土坑、下・3号土坑





写真74 上・4号土塚、下・6号土塚

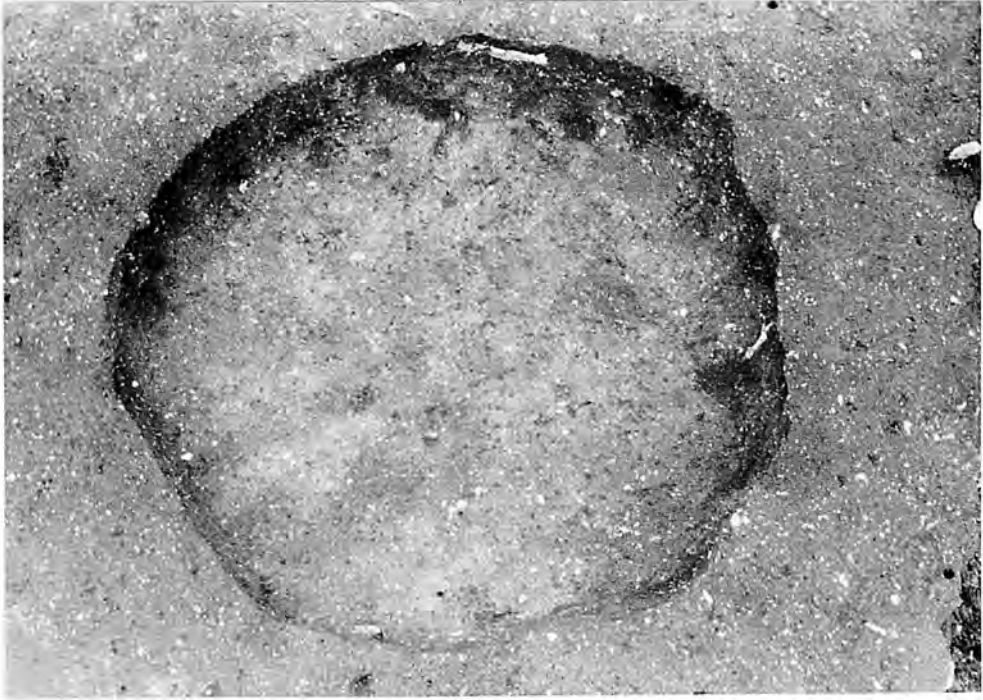


写真75 上・7号土塚、下・8号土塚





写真76 上・10号土坑、下・13号土坑



写真77 上・下・12号土坑



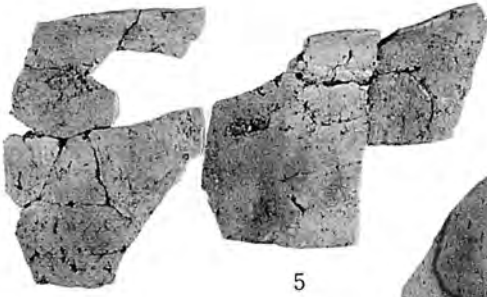


写真78 土師器 (1号住居跡)



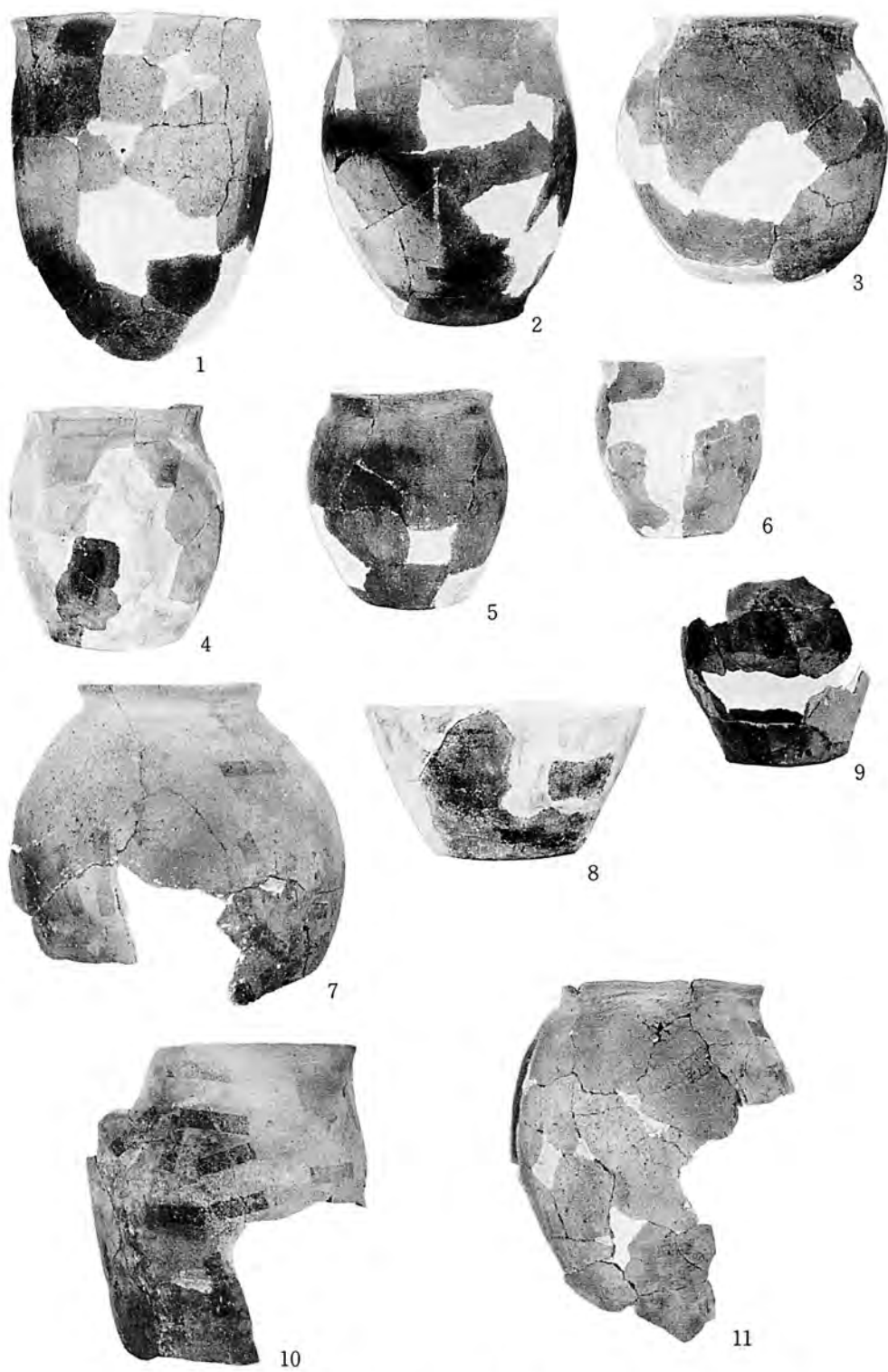


写真79 土師器 (2号住居跡)

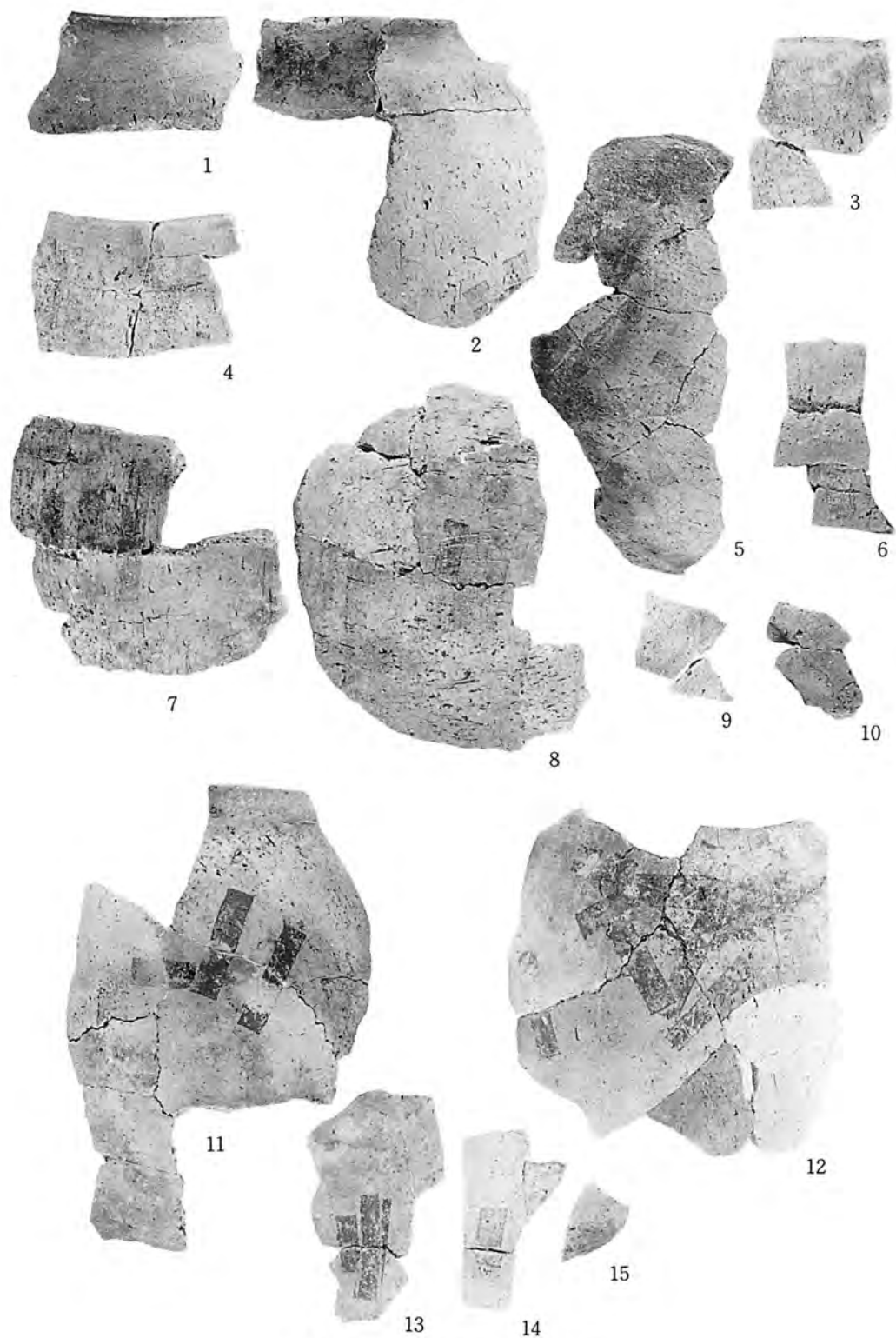
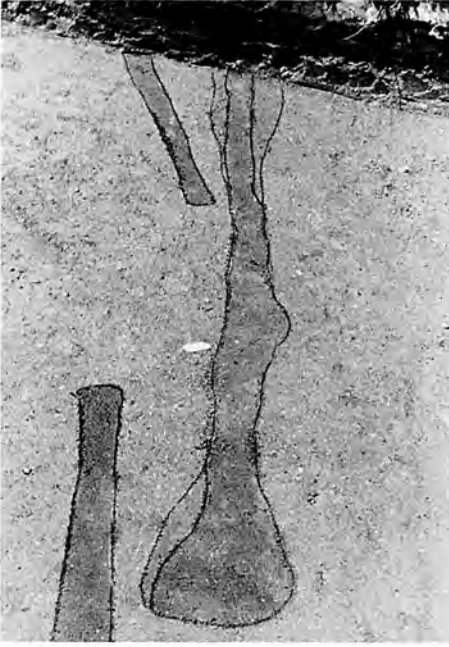


写真80 土師器 (2号住居跡)



上(左)・205号、206号溝状ピット、上(右)・214号溝状ピット  
写真81 下(左)・227号溝状ピット、下(右)・217号溝状ピット

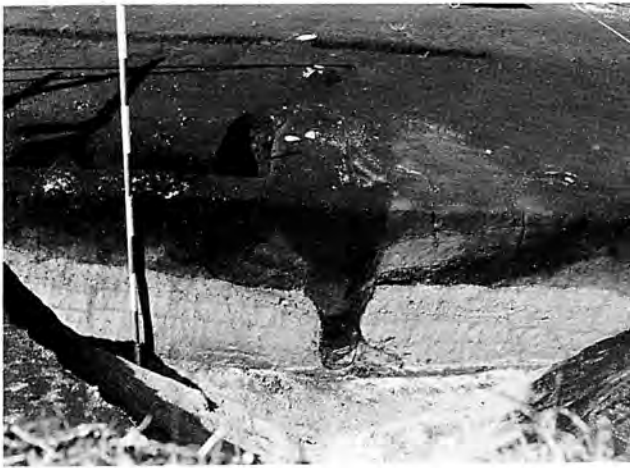




上(左)・215号溝状ピット、上(右)・227号溝状ピット  
写真82 下(左)・230号溝状ピット、下(右)・236号溝状ピット



溝状ピット群検出状況  
(216号、228号、229号、230号)  
(231号、232号、233号)



225号溝状ピット断面



213号溝状ピット断面

写真83 溝状ピット



---

青森県埋蔵文化財調査報告書第93集

売場遺跡発掘調査報告書

(第1次、第2次調査)

—一般国道45号八戸北バイパス建設に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 昭和60年3月31日

発行・編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
青森市大字新城字天田内152-15

印刷 青森市合浦一丁目2番12号  
東北印刷工業株式会社

---